別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画								
事　項	記　入　欄							備　考
計　画　の　区　分	大学の収容定員に係る学則変更							
フ　リ　ガ　ナ 設　置　者	ガッコウホウジン　キンキダイガク 学校法人　近畿大学							
フ　リ　ガ　ナ 大　学　の　名　称	キンキダイガク 近畿大学							
大　学　本　部　の　位　置	大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号							
大　学　の　目　的	教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学、情報学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。							
新設学部等の目的	「地域の医師確保等の観点からの令和６年度医学部入学定員の増加について（通知）」を踏まえ、医師確保等が必要とされる府県と連携し、医学部医学科の入学定員、収容定員の増員を行う。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
		年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
	法学部							大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	法律学科	4	500	－	2,000	学士 （法学）	昭和25年4月 第1年次	
	経済学部							大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
	経済学科	4	420	－	1,680	学士 （経済学）	平成15年4月 第1年次	
	総合経済政策学科	4	170	－	680	学士 （経済政策学）	平成15年4月 第1年次	
	国際経済学科	4	170	－	680	学士 （国際経済学）	平成18年4月 第1年次	
	経営学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
	経営学科							
	昼間主ｺｰｽ	4	425	－	1,700	学士 （経営学）	平成15年4月 第1年次	
	夜間主ｺｰｽ	4	160	－	640	学士 （経営学）	平成15年4月 第1年次	
	商学科	4	405	－	1,620	学士 （商学）	平成15年4月 第1年次	
	会計学科	4	175	－	700	学士 （会計学）	平成18年4月 第1年次	
	ｷｬﾘｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	4	175	－	700	学士 （ｷｬﾘｱ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学）	平成19年4月 第1年次	

新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
		年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
	理工学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	理学科	4	225	－	900	学士 (理学)	平成14年4月 第1年次		
	生命科学科	4	95	－	380	学士 (理学)	平成14年4月 第1年次		
	応用化学科	4	130	－	520	学士 (工学)	平成14年4月 第1年次		
	機械工学科	4	200	－	800	学士 (工学)	平成14年4月 第1年次		
	電気電子通信工学科	4	170	－	680	学士 (工学)	平成14年4月 第1年次		
	社会環境工学科	4	100	－	400	学士 (工学)	平成14年4月 第1年次		
	情報学科	4	－	－	－	学士 (工学)	平成14年4月 第1年次		令和4年度より学生募集停止
	エネルギー物質学科	4	120	－	480	学士 (理工学)	令和4年4月 第1年次		
	建築学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	建築学科	4	280	－	1,120	学士 (建築学)	平成23年4月 第1年次		
	薬学部								
	医療薬学科	6	150	－	900	学士 (薬学)	平成18年4月 第1年次	大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	創薬科学科	4	40	－	160	学士 (薬科学)	平成18年4月 第1年次		
	文芸学部							大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	文学科 日本文学専攻	4	120	－	480	学士 (文学)	平成元年4月 第1年次		
	英語英米文学専攻	4	60	－	240	学士 (文学)	平成元年4月 第1年次		
	芸術学科 舞台芸術専攻	4	50	－	200	学士 (文芸学)	平成元年4月 第1年次		
	造形芸術専攻	4	65	－	260	学士 (文芸学)	平成元年4月 第1年次		
	文化・歴史学科	4	140	－	560	学士 (文学)	平成元年4月 第1年次		
	文化デザイン学科	4	80	－	320	学士 (文芸学)	平成28年4月 第1年次		

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	年	人	年次人	人		年 月 第 年次		
総合社会学部							大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
総合社会学科	4	510	－	2,040	学士（総合社会学）	平成22年4月第1年次		
国際学部							大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
国際学科	4	500	－	2,000	学士（国際学）	平成28年4月第1年次		
情報学部							大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
情報学科	4	330	－	1,320	学士（工学）	令和4年4月第1年次		
農学部							奈良県奈良市中町3327番204	
農業生産科学科	4	120	－	480	学士（農学）	平成17年4月第1年次		
水産学科	4	120	－	480	学士（農学）	昭和33年4月第1年次		
応用生命化学科	4	120	－	480	学士（農学）	平成17年4月第1年次		
食品栄養学科	4	80	－	320	学士（農学）	昭和42年4月第1年次		
環境管理学科	4	120	－	480	学士（農学）	平成17年4月第1年次		
生物機能科学科	4	120	－	480	学士（農学）	平成17年4月第1年次		
医学部							大阪府大阪狭山市大野東377番2	医学部医学科の今回の17名の入学定員の増員は、令和6年度のみの臨時定員増である。 また、医学部医学科の令和5年度における収容定員は673人である。
医学科	6	112 (95)	－	587 (570)	学士（医学）	令和6年4月第1年次		
生物理工学部							和歌山県紀の川市西三谷930	
生物工学科	4	90	－	360	学士（工学）	平成5年4月第1年次		
食品安全工学科	4	90	－	360	学士（工学）	平成22年4月第1年次		
遺伝子工学科	4	90	－	360	学士（工学）	平成9年4月第1年次		
生命情報工学科	4	80	－	320	学士（工学）	平成22年4月第1年次		

(人)	入学定員	収容定員
令和5年度	112	673
令和6年度	112	670
令和7年度	95	650
令和8年度	95	638
令和9年度	95	621
令和10年度	95	604
令和11年度	95	587
令和12年度	95	570

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	年	人	年次 人	人		年 月 第 年次		
生物理工学部							和歌山県紀の川市西三谷930	
人間環境デザイン工学科	4	80	－	320	学士 (工学)	平成22年4月 第1年次		
医用工学科	4	55	－	220	学士 (工学)	平成22年4月 第1年次		
工学部							広島県東広島市高屋うめの辺1番	
化学生命工学科	4	75	－	300	学士 (工学)	昭和34年4月 第1年次		
機械工学科	4	100	－	400	学士 (工学)	昭和34年4月 第1年次		
情報学科	4	100	－	400	学士 (工学)	昭和37年4月 第1年次		
建築学科	4	100	－	400	学士 (工学)	昭和40年4月 第1年次		
電子情報工学科	4	95	－	380	学士 (工学)	平成4年4月 第1年次		
ロボティクス学科	4	75	－	300	学士 (工学)	平成4年4月 第1年次		
産業理工学部							福岡県飯塚市柏の森11番6	
生物環境化学科	4	65	－	260	学士 (工学)	平成16年4月 第1年次		
電気電子工学科	4	65	－	260	学士 (工学)	平成16年4月 第1年次		
建築・デザイン学科	4	95	－	380	学士 (工学)	平成16年4月 第1年次		
情報学科	4	75	－	300	学士 (工学)	平成16年4月 第1年次		
経営ビジネス学科	4	120	－	480	学士 (経営ﾋﾞｼﾞﾈｽ学)	平成16年4月 第1年次		
計		8,207 (8,190)	－	33,267 (33,250)				
通信教育 法学部							大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
法律学科	4	2,000	－	8,000	学士 (法学)	昭和35年4月 第1年次		
計		2,000	－	8,000				
計		10,207 (10,190)	－	41,267 (41,250)				
同一設置者内における変更状況 （定員の移行，名称の変更等）	該当なし							

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数	
		講義	演習	実験・実習	計		
	－	－科目	－科目	－科目	－科目	－単位	

教員組織の概要	学部等の名称		専任教員等						兼任教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計	助手		
			人	人	人	人	人	人	人	
新設分	法学部	法律学科	31 (31)	13 (13)	1 (1)	1 (1)	46 (46)	0 (0)	153 (153)	通信教育 法学部法律学科分を含む
	経済学部	経済学科	11 (11)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	20 (20)	0 (0)	66 (66)	
		総合経済政策学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	34 (34)	
		国際経済学科	7 (7)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	32 (32)	
	経営学部	経営学科	20 (20)	13 (13)	4 (4)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	74 (74)	
		商学科	14 (14)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	55 (55)	
		会計学科	7 (7)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	50 (50)	
		キャリア・マネジメント学科	7 (7)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	45 (45)	
	理工学部	理学科	21 (21)	15 (15)	4 (4)	2 (2)	42 (42)	0 (0)	45 (45)	
		生命科学科	5 (5)	4 (4)	5 (5)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	17 (17)	
		応用化学科	5 (5)	9 (9)	4 (4)	1 (1)	19 (19)	0 (0)	14 (14)	
		機械工学科	12 (12)	8 (8)	4 (4)	2 (2)	26 (26)	0 (0)	19 (19)	
		電気電子通信工学科	8 (8)	9 (9)	2 (2)	3 (3)	22 (22)	0 (0)	18 (18)	
		社会環境工学科	9 (9)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	28 (28)	
		エネルギー物質学科	8 (8)	7 (7)	2 (2)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	2 (2)	
	建築学部	建築学科	17 (17)	12 (12)	4 (4)	1 (1)	34 (34)	0 (0)	53 (53)	
	薬学部	医療薬学科	14 (14)	14 (14)	8 (8)	4 (4)	40 (40)	0 (0)	71 (71)	
		創薬科学科	5 (5)	2 (2)	7 (7)	1 (1)	15 (15)	0 (0)	11 (11)	
	文芸学部	文学科	11 (11)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	33 (33)	
		芸術学科	11 (11)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	49 (49)	
		文化・歴史学科	6 (6)	5 (5)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	39 (39)	
		文化デザイン学科	5 (5)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	25 (25)	
	総合社会学部	総合社会学科	21 (21)	20 (20)	6 (6)	0 (0)	47 (47)	0 (0)	81 (81)	
	国際学部	国際学科	14 (14)	16 (16)	1 (1)	0 (0)	31 (31)	0 (0)	42 (42)	
	情報学部	情報学科	12 (12)	15 (15)	7 (7)	1 (1)	35 (35)	0 (0)	22 (22)	
	農学部	農業生産科学科	9 (9)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	16 (16)	0 (0)	34 (34)	
		水産学科	6 (6)	5 (5)	5 (5)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	23 (23)	
		応用生命化学科	8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	1 (1)	20 (20)	
		食品栄養学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	5 (5)	20 (20)	
		環境管理学科	6 (6)	6 (6)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	25 (25)	
		生物機能科学科	7 (7)	3 (3)	5 (5)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	21 (21)	
	医学部	医学科	62 (62)	31 (31)	165 (165)	141 (141)	399 (399)	0 (0)	107 (107)	
	生物理工学部	生物工学科	8 (8)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	
		食品安全工学科	6 (6)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	15 (15)	
		遺伝子工学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	9 (9)	
		生命情報工学科	4 (4)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	16 (16)	
		人間環境デザイン工学科	4 (4)	4 (4)	3 (3)	3 (3)	14 (14)	0 (0)	17 (17)	

教員組織の概要

	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
新設分	工学部	医用工学科	6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	17 (17)	
		化学生命工学科	6 (6)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	8 (8)	
		機械工学科	9 (9)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	12 (12)	
		情報学科	5 (5)	5 (5)	3 (3)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	15 (15)	
		建築学科	9 (9)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	20 (20)	
		電子情報工学科	7 (7)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	9 (9)	
		ロボティクス学科	5 (5)	4 (4)	4 (4)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	8 (8)	
	産業理工学部	生物環境化学科	8 (8)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	5 (5)	
		電気電子工学科	5 (5)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	5 (5)	
		建築・デザイン学科	7 (7)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	15 (15)	
		情報学科	4 (4)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	10 (10)	
		経営ビジネス学科	7 (7)	4 (4)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	11 (11)	
	計		498 (498)	351 (351)	294 (294)	165 (165)	1,308 (1,308)	6 (6)	(—) (—)	

	学部等の名称		専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
既設分	全学共通教育機構		0 (0)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)	
	ＩＲ・教育支援センター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	教職教育部		12 (12)	4 (4)	2 (2)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	25 (25)	
	計		12 (12)	7 (7)	3 (3)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	— (—)	
合計			510 (510)	358 (358)	297 (297)	165 (165)	1,330 (1,330)	6 (6)	— (—)	

教員以外の職員の概要

職種	専任	兼任	計
事務職員	669人 (669)	504人 (504)	1,173人 (1,173)
技術職員	2,001 (2,001)	210 (210)	2,211 (2,211)
図書館専門職員	18 (18)	13 (13)	31 (31)
その他の職員	16 (16)	15 (15)	31 (31)
計	2,704 (2,704)	742 (742)	3,446 (3,446)

校地等

区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎敷地	630,438㎡	146,434㎡	0㎡	776,872㎡	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積1,600㎡）と共用（通学収容定員：160人、通信収容定員：4,000人）
運動場用地	98,741㎡	321,841㎡	0㎡	420,582㎡	
小計	729,179㎡	468,275㎡	0㎡	1,197,454㎡	
その他	1,760,279㎡	0㎡	0㎡	1,760,279㎡	
合計	2,489,458㎡	468,275㎡	0㎡	2,957,733㎡	

	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
校舎	342,755㎡ (343,031㎡)	76,974㎡ (76,974㎡)	1,900㎡ (1,900㎡)	421,629㎡ (421,905㎡)	近畿大学短期大学部・近畿大学短期大学部通信教育部（必要面積5,500㎡）と共用（通学収容定員：160人、通信収容定員：4,000人）

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	334室	271室	643室	82室 (補助職員34人)	7室 (補助職員2人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	大学全体	1,372 室	

図書・設備

新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
大学全体	2,197,945〔776,684〕 (2,173,854〔775,643〕)	119,286〔89,806〕 (116,109〔86,638〕)	99,611〔80,281〕 (96,455〔77,116〕)	47,429 (47,448)	64,169 (58,897)	578 (618)	
計	2,197,945〔776,684〕 (2,173,854〔775,643〕)	119,286〔89,806〕 (116,109〔86,638〕)	99,611〔80,281〕 (96,455〔77,116〕)	47,429 (47,448)	64,169 (58,897)	578 (618)	

	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
図書館	28,842㎡	5,406	2,374,752	大学全体

	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
体育館	24,350㎡	屋内プール	野球場・武道場	

経費の見積り及び維持方法の概要										
経費の見積り	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	大学全体 大学（水産研究所・農場・病院含む）における図書・電子ジャーナル・データベースの整備費(運用コスト含む)を含む。
	教員１人当り研究費等		2,533千円	2,533千円	2,533千円	2,533千円	2,533千円	2,533千円	
	共同研究費等		48,970千円	48,970千円	48,970千円	48,970千円	48,970千円	48,970千円	
	図書購入費	1,146,061千円	1,146,061千円	1,146,061千円	1,146,061千円	1,146,061千円	1,146,061千円	1,146,061千円	
	設備購入費	5,012,738千円	7,623,928千円	21,070,656千円	5,989,845千円	5,939,294千円	6,713,106千円	6,826,351千円	

学生１人当り納付金		第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
法		1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－ 千円	－ 千円
経済		1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－ 千円	－ 千円
経営		1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－ 千円	－ 千円
理工		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
建築		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
薬	医療薬学科	2,302千円	2,082千円	2,112千円	2,142千円	2,172千円	2,202千円
薬	創薬科学科	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
文芸	文学科 文化・歴史学科 文化ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科	1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－ 千円	－ 千円
文芸	芸術学科	1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
総合社会		1,355千円	1,125千円	1,145千円	1,165千円	－ 千円	－ 千円
国際		1,550千円	1,300千円	1,320千円	1,320千円	－ 千円	－ 千円
情報		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
農		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
医		6,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円	5,800千円
生物理工		1,712千円	1,492千円	1,522千円	1,552千円	－ 千円	－ 千円
工		1,648千円	1,428千円	1,458千円	1,488千円	－ 千円	－ 千円
産業理工	生物環境化学科 電気電子工学科 建築・ﾃﾞｻﾞｲﾝ学科 情報学科	1,514千円	1,294千円	1,324千円	1,354千円	－ 千円	－ 千円
産業理工	経営ﾋﾞｼﾞﾈｽ学科	1,139千円	919千円	949千円	979千円	－ 千円	－ 千円

別途、学生健保共済会費、学部学生部会費、校友会終身会費が必要

学生納付金以外の維持方法の概要：手数料、寄付金、補助金、資産運用事業収入等で維持する。

既設大学等の状況

大学の名称：近畿大学大学院

学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
法学研究科 法律学専攻								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
博士前期課程	2	10	－	20	修士（法学）	0.85	昭和45年度	
博士後期課程	3	5	－	15	博士（法学）	0.40	昭和47年度	
商学研究科 商学専攻								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
博士前期課程	2	20	－	40	修士（商学）	0.62	昭和27年度	
博士後期課程	3	5	－	15	博士（商学）	0.53	昭和45年度	
経済学研究科 経済学専攻								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号
博士前期課程	2	20	－	40	修士（経済学）	0.35	平成元年度	
博士後期課程	3	5	－	15	博士（経済学）	0.00	平成3年度	

既設大学等の状況	大学の名称	近畿大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	総合理工学研究科								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	理学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士(理学)	2.00	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(理学)	0.83	平成11年度		
	物質系工学専攻									
	博士前期課程	2	40	－	80	修士(工学)	1.15	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成11年度		
	メカニックス系工学専攻									
	博士前期課程	2	25	－	50	修士(工学)	1.86	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成11年度		
	エレクトロニクス系工学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士(工学)	2.83	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	1.33	平成11年度		
	環境系工学専攻									
	博士前期課程	2	15	－	30	修士(工学)	1.60	平成11年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	1.00	平成11年度		
	建築デザイン専攻									
	修士課程	2	10	－	20	修士(建築学)	1.80	平成27年度		
	東大阪モノづくり専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(工学)	0.25	平成16年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	0.33	平成20年度		
	薬学研究科								大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号	
	薬科学専攻									
	博士前期課程	2	15	－	30	修士(薬科学)	0.63	平成22年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(薬科学)	0.66	平成24年度		
	薬学専攻									
	博士課程	4	3	－	12	博士(薬学)	1.25	平成24年度		
	総合文化研究科								大阪府東大阪市 新上小阪228番3号	
	日本文学専攻									
	修士課程	2	4	－	8	修士(文学)	0.25	平成26年度		
	英語英米文学専攻									
	修士課程	2	3	－	6	修士(文学)	0.00	平成26年度		
	文化・社会学専攻									
	修士課程	2	8	－	16	修士(文化学)(社会学)	1.25	平成26年度		
	心理学専攻									
	修士課程	2	6	－	12	修士(心理学)	0.83	平成26年度		

既設大学等の状況	大学の名称	近畿大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	農学研究科								奈良県奈良市中町3327番204	
	農業生産科学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.65	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(農学)	0.16	平成17年度		
	水産学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.85	昭和61年度		
	博士後期課程	3	4	－	12	博士(農学)	0.16	平成元年度		
	応用生命化学専攻									
	博士前期課程	2	14	－	28	修士(農学)	1.78	昭和60年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士(農学)	0.13	平成元年度		
	環境管理学専攻									
	博士前期課程	2	10	－	20	修士(農学)	1.80	平成17年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(農学)	0.83	平成17年度		
	バイオサイエンス専攻									
	博士前期課程	2	12	－	24	修士(農学)	1.50	平成17年度		
	博士後期課程	3	4	－	12	博士(農学)	0.08	平成17年度		
	生物理工学研究科								和歌山県紀の川市西三谷930	
	生物工学専攻									
	博士前期課程	2	16	－	32	修士(工学)	1.43	平成9年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(工学)	0.66	平成11年度		
	生体システム工学専攻									
	博士前期課程	2	18	－	36	修士(工学)	1.58	平成26年度		
	博士後期課程	3	2	－	6	博士(工学)	0.83	平成28年度		
	システム工学研究科								広島県東広島市高屋うめの辺1番	
	システム工学専攻									
	博士前期課程	2	45	－	90	修士(工学)	1.27	平成17年度		
	博士後期課程	3	5	－	15	博士(工学)	0.06	平成17年度		
	産業理工学研究科								福岡県飯塚市柏の森11番6	
	産業理工学専攻									
	博士前期課程	2	30	－	60	修士(工学)	0.63	平成25年度		
	博士後期課程	3	3	－	9	博士(工学)	0.66	平成27年度		
	医学研究科								大阪府大阪狭山市大野東377番2	
	医学系専攻									
	博士課程	4	45	－	180	博士(医学)	0.49	平成20年度		

既設大学等の状況

大学の名称	近畿大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
法学部						1.03		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
法律学科	4	500	－	2,000	学士(法学)	1.03	昭和25年度		
経済学部						1.03		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
経済学科	4	420	－	1,680	学士(経済学)	1.06	平成15年度		
総合経済政策学科	4	170	－	680	学士(経済政策学)	1.00	平成15年度		
国際経済学科	4	170	－	680	学士(国際経済学)	1.02	平成18年度		
経営学部						1.03		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
経営学科		585	－	2,340		1.02			
昼間主コース	4	425	－	1,700	学士(経営学)	1.03	平成15年度		
夜間主コース	4	160	－	640	学士(経営学)	0.99	平成15年度		
商学科	4	405	－	1,620	学士(商学)	1.04	平成15年度		
会計学科	4	175	－	700	学士(会計学)	1.03	平成18年度		
キャリア・マネジメント学科	4	175	－	700	学士(キャリア・マネジメント学)	1.02	平成19年度		
理工学部						1.01		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
理学科	4	225	－	900	学士(理学)	1.00	平成14年度		
生命科学科	4	95	－	380	学士(理学)	1.00	平成14年度		
応用化学科	4	130	－	520	学士(工学)	1.02	平成14年度		
機械工学科	4	200	－	800	学士(工学)	1.01	平成14年度		
電気電子通信工学科	4	170	－	720	学士(工学)	1.07	平成14年度		令和4年度入学定員減(△20人)
社会環境工学科	4	100	－	400	学士(工学)	1.02	平成14年度		
情報学科	4	－	－	－	学士(工学)	－	平成14年度		令和4年度より学生募集停止
エネルギー物質学科	4	120	－	240	学士(理工学)	0.94	令和4年度		
建築学部						1.06		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
建築学科	4	280	－	1,120	学士(建築学)	1.06	平成23年度		
薬学部						1.00		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
医療薬学科	6	150	－	900	学士(薬学)	1.00	平成18年度		6年制学科
創薬科学科	4	40	－	160	学士(薬科学)	1.05	平成18年度		4年制学科
文芸学部						1.03		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
文学科		180		720		1.04			
日本文学専攻	4	120	－	480	学士(文学)	1.03	平成元年度		
英語英米文学専攻	4	60	－	240	学士(文学)	1.06	平成元年度		
芸術学科		115		460		1.01			
舞台芸術専攻	4	50	－	200	学士(文芸学)	1.00	平成元年度		
造形芸術専攻	4	65	－	260	学士(文芸学)	1.02	平成元年度		
文化・歴史学科	4	140	－	560	学士(文学)	1.02	平成元年度		
文化デザイン学科	4	80	－	320	学士(文芸学)	1.06	平成28年度		

既設大学等の状況

大学の名称	近畿大学								
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	年	人	年次人	人		倍			
総合社会学部						1.04		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
総合社会学科	4	510	－	2,040	学士(総合社会学)	1.04	平成22年度		
国際学部						1.04		大阪府東大阪市小若江3丁目4番1号	
国際学科	4	500	－	2,000	学士(国際学)	1.04	平成28年度		
情報学部						1.02		大阪府東大阪市新上小阪228番3号	
情報学科	4	330	－	660	学士(工学)	1.02	令和4年度		
農学部						1.03		奈良県奈良市中町3327番204	
農業生産科学科	4	120	－	480	学士(農学)	1.00	平成17年度		
水産学科	4	120	－	480	学士(農学)	1.12	昭和33年度		
応用生命化学科	4	120	－	480	学士(農学)	1.02	平成17年度		
食品栄養学科	4	80	－	320	学士(農学)	1.00	昭和42年度		
環境管理学科	4	120	－	480	学士(農学)	1.06	平成17年度		
生物機能科学科	4	120	－	480	学士(農学)	0.98	平成17年度		
医学部						0.99		大阪府大阪狭山市大野東377番2	平成27～令和元年度のみの臨時定員変更(20) 令和2･3年度のみの臨時定員変更(12) 令和3年度のみの臨時定員変更(5) 令和4年度のみの臨時定員変更(17) 令和5年度のみの臨時定員変更(17)
医学科	6	112	－	673	学士(医学)	0.99	昭和49年度		
生物理工学部						0.98		和歌山県紀の川市西三谷930	
生物工学科	4	90	－	360	学士(工学)	1.00	平成5年度		
食品安全工学科	4	90	－	360	学士(工学)	0.93	平成22年度		
遺伝子工学科	4	90	－	360	学士(工学)	0.99	平成9年度		
生命情報工学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.99	平成22年度		
人間環境デザイン工学科	4	80	－	320	学士(工学)	0.97	平成22年度		
医用工学科	4	55	－	220	学士(工学)	0.97	平成22年度		
工学部						0.99		広島県東広島市高屋うめの辺1番	
化学生命工学科	4	75	－	330	学士(工学)	0.85	昭和34年度		令和5年度入学定員減(△10人)
機械工学科	4	100	－	400	学士(工学)	1.00	昭和34年度		
情報学科	4	100	－	370	学士(工学)	1.10	昭和37年度		令和5年度入学定員増(10人)
建築学科	4	100	－	400	学士(工学)	1.01	昭和40年度		
電子情報工学科	4	95	－	365	学士(工学)	1.05	平成4年度		令和5年度入学定員増(5人)
ロボティクス学科	4	75	－	315	学士(工学)	0.99	平成4年度		令和5年度入学定員減(△5人)
産業理工学部						0.99		福岡県飯塚市柏の森11番6	
生物環境化学科	4	65	－	290	学士(工学)	0.97	平成16年度		令和5年度入学定員減(△10人)
電気電子工学科	4	65	－	260	学士(工学)	0.96	平成16年度		
建築･デザイン学科	4	95	－	365	学士(工学)	0.98	平成16年度		令和5年度入学定員増(5人)
情報学科	4	75	－	285	学士(工学)	1.12	平成16年度		令和5年度入学定員増(5人)
経営ビジネス学科	4	120	－	480	学士(経営ビジネス学)	0.98	平成16年度		

既設大学等の状況

大学の名称	近畿大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
通信教育 法学部						0.19		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
法律学科	4	2,000	－	8,000	学士 (法学)	0.19	昭和35年度	

大学の名称	近畿大学短期大学部							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		大阪府東大阪市 小若江3丁目4番1号
商経科 第2部	2	80	－	160	短期大学士 (経営学)	1.12	昭和25年度	
通信教育部商経科	2	2,000	－	4,000	短期大学士 (経営学)	0.45	昭和32年度	

大学の名称	近畿大学九州短期大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		福岡県飯塚市菰田東1丁目5番30号
生活福祉情報科	2	50	－	100	短期大学士 (生活科学)	0.83	昭和41年度	
保育科	2	70	－	140	短期大学士 (教育・保育学)	0.64	昭和41年度	
通信教育部 生活福祉情報科	2	300	－	600	短期大学士 (生活科学)	0.22	平成9年度	
通信教育部 保育科	2	600	－	1,200	短期大学士 (教育・保育学)	1.46	昭和53年度	

大学の名称	近畿大学工業高等専門学校							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
	年	人	年次人	人		倍		三重県名張市春日丘七番町1番地
総合システム工学科	5	160	－	800	準学士 (工学)	1.01	平成17年度	

附属施設の概要

・名　　称：近畿大学病院
目　　的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また地域に対する高度な医療の提供
所 在 地：大阪府大阪狭山市大野東377-2
設置年月：昭和50年5月
規 模 等：土地 0㎡，建物 87,316㎡
(移転後の概要(令和7年予定))
所 在 地：大阪府堺市南区三原台1丁2番　他
規 模 等：土地：0㎡　建物：104,130㎡

・名　　称：近畿大学奈良病院
目　　的：医学分野における臨床教育、臨床研究、臨床試験の部分を担い、また地域に対する高度な医療の提供
所 在 地：奈良県生駒市乙田町1248-1
設置年月：平成11年10月
規 模 等：土地 164,197㎡，建物 47,245㎡

・名　　称：近畿大学水産研究所
目　　的：水産生物の養殖に関する研究並びに学生の実験実習
所 在 地：和歌山県西牟婁郡白浜町3153
設置年月：昭和35年4月(白浜、大島、奄美、浦神、新宮、富山の6つの実験場を設置)
規 模 等：土地 211,009㎡，建物 19,753㎡

・名　　称：近畿大学附属農場
目　　的：近代的農場経営並びに農学全般に関する教育研究
所 在 地：(湯浅農場)和歌山県有田郡湯浅町湯浅2355番2
(生石農場)和歌山県有田郡清水町楠本1643番21
設置年月：昭和33年4月
規 模 等：土地 414,508㎡，建物 5,278㎡

(注)
1　共同学科等の認可の申請及び届出の場合，「計画の区分」，「新設学部等の目的」，「新設学部等の概要」，「教育課程」及び「教員組織の概要」の「新設分」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
2　「教員組織の概要」の「既設分」については，共同学科等に係る数を除いたものとすること。
3　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科又は高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」及び「体育館」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
4　大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は，「教育課程」，「校地等」，「校舎」，「教室等」，「専任教員研究室」，「図書・設備」，「図書館」，「体育館」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず，斜線を引くこと。
5　「教育課程」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。
6　空欄には，「－」又は「該当なし」と記入すること。

学校法人近畿大学　組織の移行表

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
近畿大学					近畿大学				
法学部					法学部				
法律学科	500	－	2,000	→	法律学科	500	－	2,000	
経済学部					経済学部				
経済学科	420	－	1,680	→	経済学科	420	－	1,680	
総合経済政策学科	170	－	680	→	総合経済政策学科	170	－	680	
国際経済学科	170	－	680	→	国際経済学科	170	－	680	
経営学部					経営学部				
経営学科昼間主ｺｰｽ	425	－	1,700	→	経営学科昼間主ｺｰｽ	425	－	1,700	
経営学科夜間主ｺｰｽ	160	－	640	→	経営学科夜間主ｺｰｽ	160	－	640	
商学科	405	－	1,620	→	商学科	405	－	1,620	
会計学科	175	－	700	→	会計学科	175	－	700	
ｷｬﾘｱ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	175	－	700	→	ｷｬﾘｱ･ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ学科	175	－	700	
理工学部					理工学部				
理学科	225	－	900	→	理学科	225	－	900	
生命科学科	95	－	380	→	生命科学科	95	－	380	
応用化学科	130	－	520	→	応用化学科	130	－	520	
機械工学科	200	－	800	→	機械工学科	200	－	800	
電気電子通信工学科	170	－	680	→	電気電子通信工学科	170	－	680	
社会環境工学科	100	－	400	→	社会環境工学科	100	－	400	
エネルギー物質学科	120	－	480		エネルギー物質学科	120	－	480	
建築学部					建築学部				
建築学科	280	－	1,120	→	建築学科	280	－	1,120	
薬学部					薬学部				
医療薬学科	150	－	900	→	医療薬学科	150	－	900	
創薬科学科	40	－	160	→	創薬科学科	40	－	160	
文芸学部					文芸学部				
文学科					文学科				
日本文学専攻	120	－	480	→	日本文学専攻	120	－	480	
英語英米文学専攻	60	－	240	→	英語英米文学専攻	60	－	240	
芸術学科					芸術学科				
舞台芸術専攻	50	－	200	→	舞台芸術専攻	50	－	200	
造形芸術専攻	65	－	260	→	造形芸術専攻	65	－	260	
文化・歴史学科	140	－	560	→	文化・歴史学科	140	－	560	
文化デザイン学科	80	－	320	→	文化デザイン学科	80	－	320	
総合社会学部					総合社会学部				
総合社会学科	510	－	2,040	→	総合社会学科	510	－	2,040	
国際学部					国際学部				
国際学科	500	－	2,000	→	国際学科	500	－	2,000	
情報学部					情報学部				
情報学科	330	－	1,320		情報学科	330	－	1,320	
農学部					農学部				
農業生産科学科	120	－	480	→	農業生産科学科	120	－	480	
水産学科	120	－	480	→	水産学科	120	－	480	
応用生命化学科	120	－	480	→	応用生命化学科	120	－	480	
食品栄養学科	80	－	320	→	食品栄養学科	80	－	320	
環境管理学科	120	－	480	→	環境管理学科	120	－	480	
生物機能科学科	120	－	480	→	生物機能科学科	120	－	480	
医学部					医学部				
医学科	112	－	587	→	医学科	112	－	587	令和6年度のみの臨時定員変更(17)
生物理工学部					生物理工学部				
生物工学科	90	－	360	→	生物工学科	90	－	360	
食品安全工学科	90	－	360	→	食品安全工学科	90	－	360	
遺伝子工学科	90	－	360	→	遺伝子工学科	90	－	360	
生命情報工学科	80	－	320	→	生命情報工学科	80	－	320	
人間環境デザイン工学科	80	－	320	→	人間環境デザイン工学科	80	－	320	
医用工学科	55	－	220	→	医用工学科	55	－	220	
工学部					工学部				
化学生命工学科	75	－	300	→	化学生命工学科	75	－	300	
機械工学科	100	－	400	→	機械工学科	100	－	400	
情報学科	100	－	400	→	情報学科	100	－	400	
建築学科	100	－	400	→	建築学科	100	－	400	
電子情報工学科	95	－	380	→	電子情報工学科	95	－	380	
ロボティクス学科	75	－	300	→	ロボティクス学科	75	－	300	

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
産業理工学部					産業理工学部				
生物環境化学科	65	－	260	→	生物環境化学科	65	－	260	
電気電子工学科	65	－	260	→	電気電子工学科	65	－	260	
建築・デザイン学科	95	－	380	→	建築・デザイン学科	95	－	380	
情報学科	75	－	300	→	情報学科	75	－	300	
経営ビジネス学科	120	－	480	→	経営ビジネス学科	120	－	480	
通信教育					通信教育				
法学部法律学科	2,000	－	8,000	→	法学部法律学科	2,000	－	8,000	
計	10,207	－	41,267		計	10,207	－	41,267	
近畿大学大学院					近畿大学大学院				
法学研究科					法学研究科				
法律学専攻					法律学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
商学研究科					商学研究科				
商学専攻					商学専攻				
博士前期課程	20	－	40	→	博士前期課程	20	－	40	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
経済学研究科					経済学研究科				
経済学専攻					経済学専攻				
博士前期課程	20	－	40	→	博士前期課程	20	－	40	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
総合理工学研究科					総合理工学研究科				
理学専攻					理学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
物質系工学専攻					物質系工学専攻				
博士前期課程	40	－	80	→	博士前期課程	40	－	80	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
メカニックス系工学専攻					メカニックス系工学専攻				
博士前期課程	25	－	50	→	博士前期課程	25	－	50	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
エレクトロニクス系工学専攻					エレクトロニクス系工学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
環境系工学専攻					環境系工学専攻				
博士前期課程	15	－	30	→	博士前期課程	15	－	30	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
建築デザイン専攻					建築デザイン専攻				
修士課程	10	－	20	→	修士課程	10	－	20	
東大阪モノづくり専攻					東大阪モノづくり専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
薬学研究科					薬学研究科				
薬科学専攻					薬科学専攻				
博士前期課程	15	－	30	→	博士前期課程	15	－	30	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
薬学専攻					薬学専攻				
博士課程	3	－	12	→	博士課程	3	－	12	
総合文化研究科					総合文化研究科				
日本文学専攻					日本文学専攻				
修士課程	4	－	8	→	修士課程	4	－	8	
英語英米文学専攻					英語英米文学専攻				
修士課程	3	－	6	→	修士課程	3	－	6	
文化・社会学専攻					文化・社会学専攻				
修士課程	8	－	16	→	修士課程	8	－	16	
心理学専攻					心理学専攻				
修士課程	6	－	12	→	修士課程	6	－	12	

令和5年度	入学定員	編入学定員	収容定員		令和6年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
農学研究科					農学研究科				
農業生産科学専攻					農業生産科学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
水産学専攻					水産学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	4	－	12	→	博士後期課程	4	－	12	
応用生命化学専攻					応用生命化学専攻				
博士前期課程	14	－	28	→	博士前期課程	14	－	28	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
環境管理学専攻					環境管理学専攻				
博士前期課程	10	－	20	→	博士前期課程	10	－	20	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
バイオサイエンス専攻					バイオサイエンス専攻				
博士前期課程	12	－	24	→	博士前期課程	12	－	24	
博士後期課程	4	－	12	→	博士後期課程	4	－	12	
生物理工学研究科					生物理工学研究科				
生物工学専攻					生物工学専攻				
博士前期課程	16	－	32	→	博士前期課程	16	－	32	
博士後期課程	3	－	9	→	博士後期課程	3	－	9	
生体システム工学専攻					生体システム工学専攻				
博士前期課程	18	－	36	→	博士前期課程	18	－	36	
博士後期課程	2	－	6	→	博士後期課程	2	－	6	
システム工学研究科					システム工学研究科				
システム工学専攻					システム工学専攻				
博士前期課程	45	－	90	→	博士前期課程	45	－	90	
博士後期課程	5	－	15	→	博士後期課程	5	－	15	
産業理工学研究科					産業理工学研究科				
産業理工学専攻					産業理工学専攻				
博士前期課程	30	－	60	→	博士前期課程	30	－	60	
博士後期課程	3	－	9	→	博士後期課程	3	－	9	
医学研究科					医学研究科				
医学系専攻					医学系専攻				
博士課程	45	－	180	→	博士課程	45	－	180	
計	518		1,191		計	518		1,191	
近畿大学短期大学部					近畿大学短期大学部				
商経科 第2部	80	－	160	→	商経科 第2部	80	－	160	
通信教育部商経科	2,000	－	4,000	→	通信教育部商経科	2,000	－	4,000	
計	2,080		4,160		計	2,080		4,160	
近畿大学九州短期大学					近畿大学九州短期大学				
生活福祉情報科	50	－	100	→	生活福祉情報科	50	－	100	
保育科	70	－	140	→	保育科	70	－	140	
通信教育部					通信教育部				
生活福祉情報科	300	－	600	→	生活福祉情報科	300	－	600	
保育科	600	－	1,200	→	保育科	600	－	1,200	
計	1,020	－	2,040		計	1,020	－	2,040	
近畿大学工業高等専門学校					近畿大学工業高等専門学校				
総合システム工学科	160	－	800	→	総合システム工学科	160	－	800	
計	160	－	800		計	160	－	800	
近畿大学看護専門学校					近畿大学看護専門学校				
看護学科	80		240		看護学科	80		240	
計	80	－	240		計	80	－	240	

都道府県内における位置関係の図面



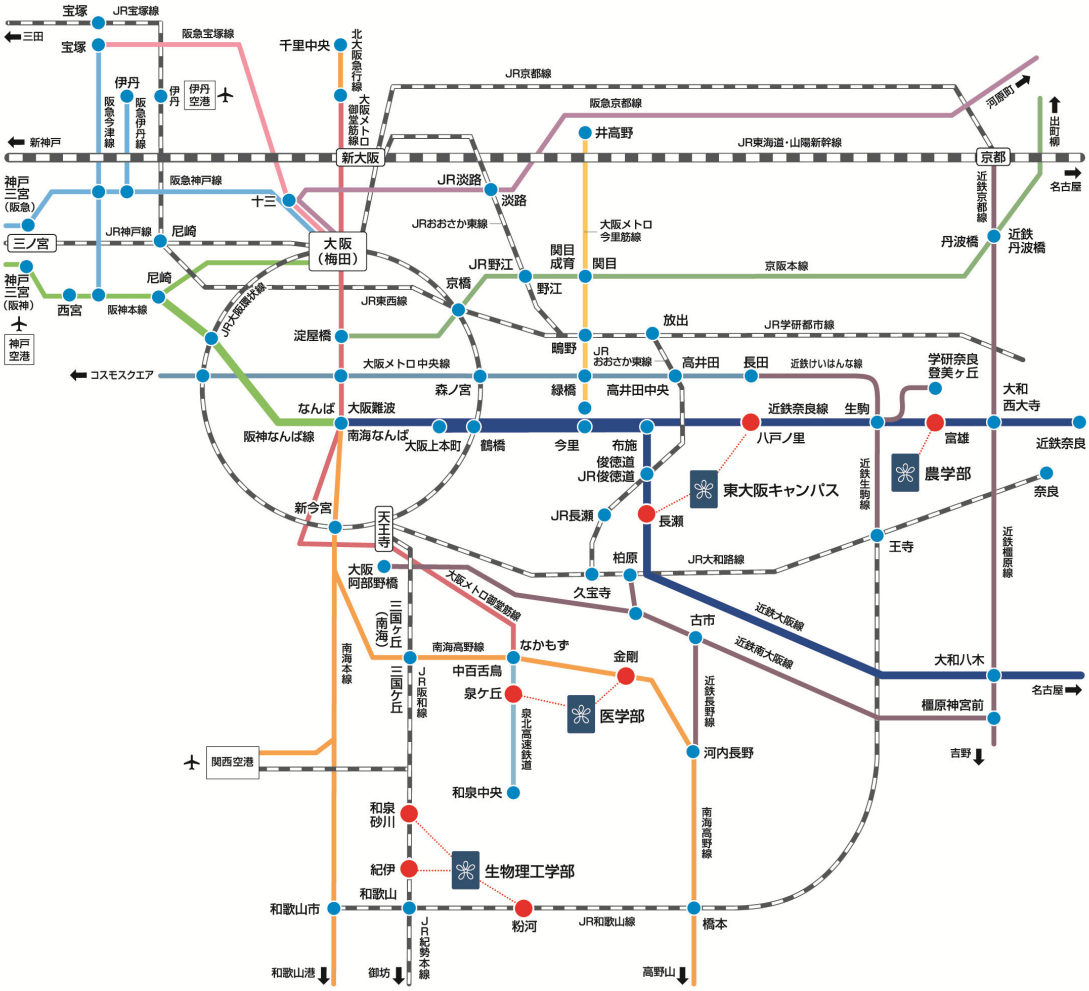
最寄り駅からの距離、交通機関及び所要時間がわかる図面

1　近畿圏鉄道路線図

大阪狭山キャンパス（医学部）

■交通アクセス

路線図



■各主要駅からの経路・所要時間（目安）

※乗り換え時間を含みません。



※1:南海コミュニティバス1番乗場「狭山ニュータウン・金剛」行
※2:南海コミュニティバス4番乗場「狭山ニュータウン・泉ヶ丘」行

校舎、運動場等の配置図



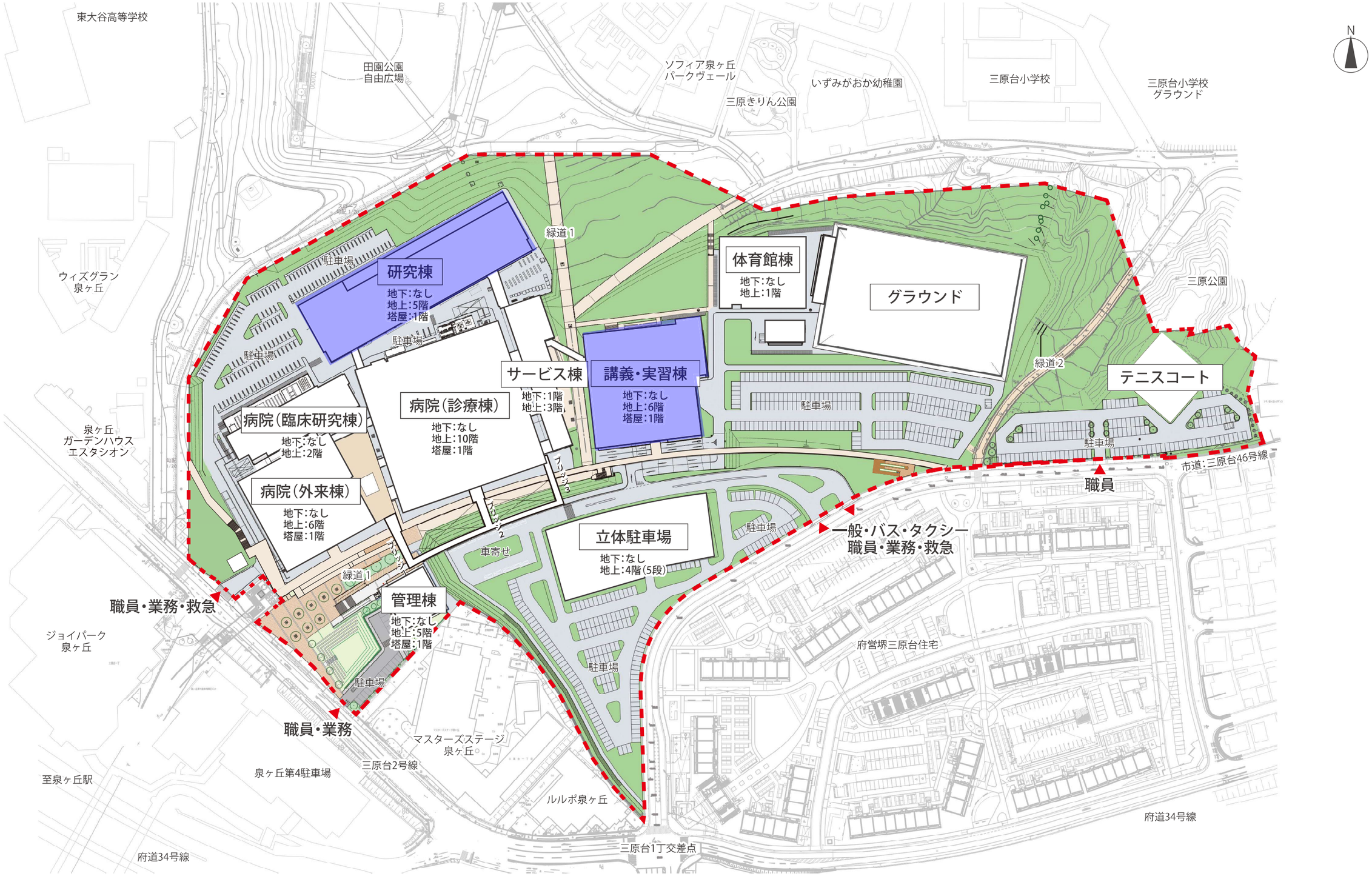
校地面積　240,402㎡　校舎面積　37,934㎡



	建物名
	医学部
①	進学棟
②	図書館棟
④	研究棟Ⅰ・専門棟
④-2	研究棟Ⅰ 増築
⑤	ガバナー棟
⑦	道場（武道館）
⑧	危険物倉庫
⑬	研究棟Ⅱ（新研究棟）
⑲	群星ハウス
㉙	クラブ棟
㉚	クラブ棟更衣室
㉛	薬学研究室
	病院
③	看護宿舎Ａ・Ｂ棟
⑥	病院棟
⑥-2	病院棟 増築
⑪	円形棟（一般病棟・食堂）
⑫	看護宿舎Ｃ・Ｄ棟
⑭	廃棄物保管庫・機械室
⑮	病院 増築棟
⑯	看護宿舎Ｅ棟
⑰	手術棟
⑱	ＭＲⅠ棟-１
⑳	ＭＲⅠ棟-２
㉑	ＭＲⅠ棟-３
㉒	高度先端総合医療センター
㉕	駐輪場・屋外通路上屋
㉗	医学資料倉庫１
㉘	医学資料倉庫２
㉜	カルテ庫
㉝	救急災害センター（附属舎含む）

近畿大学医学部　近畿大学病院　狭山キャンパス		現況配置図		

大阪府堺市へ移転後

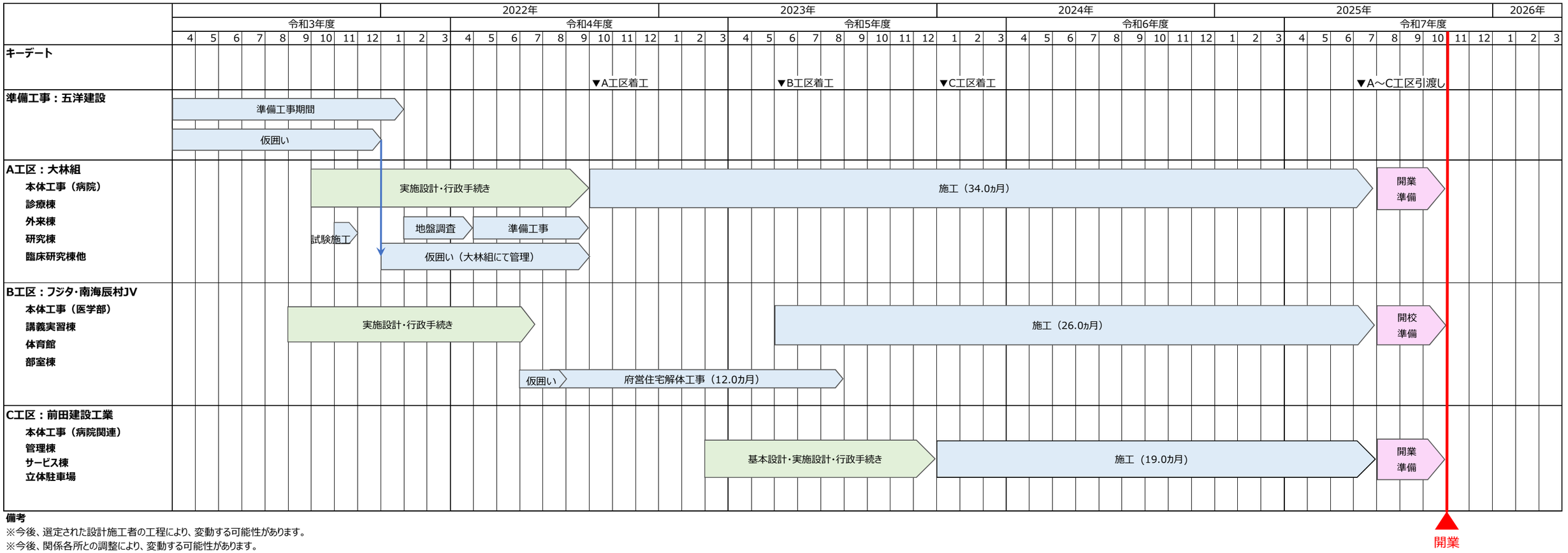


校地面積　115,837㎡　校舎面積　37,658㎡

近畿大学医学部・病院移転プロジェクト

マスタースケジュール

作成日：2023.7.31

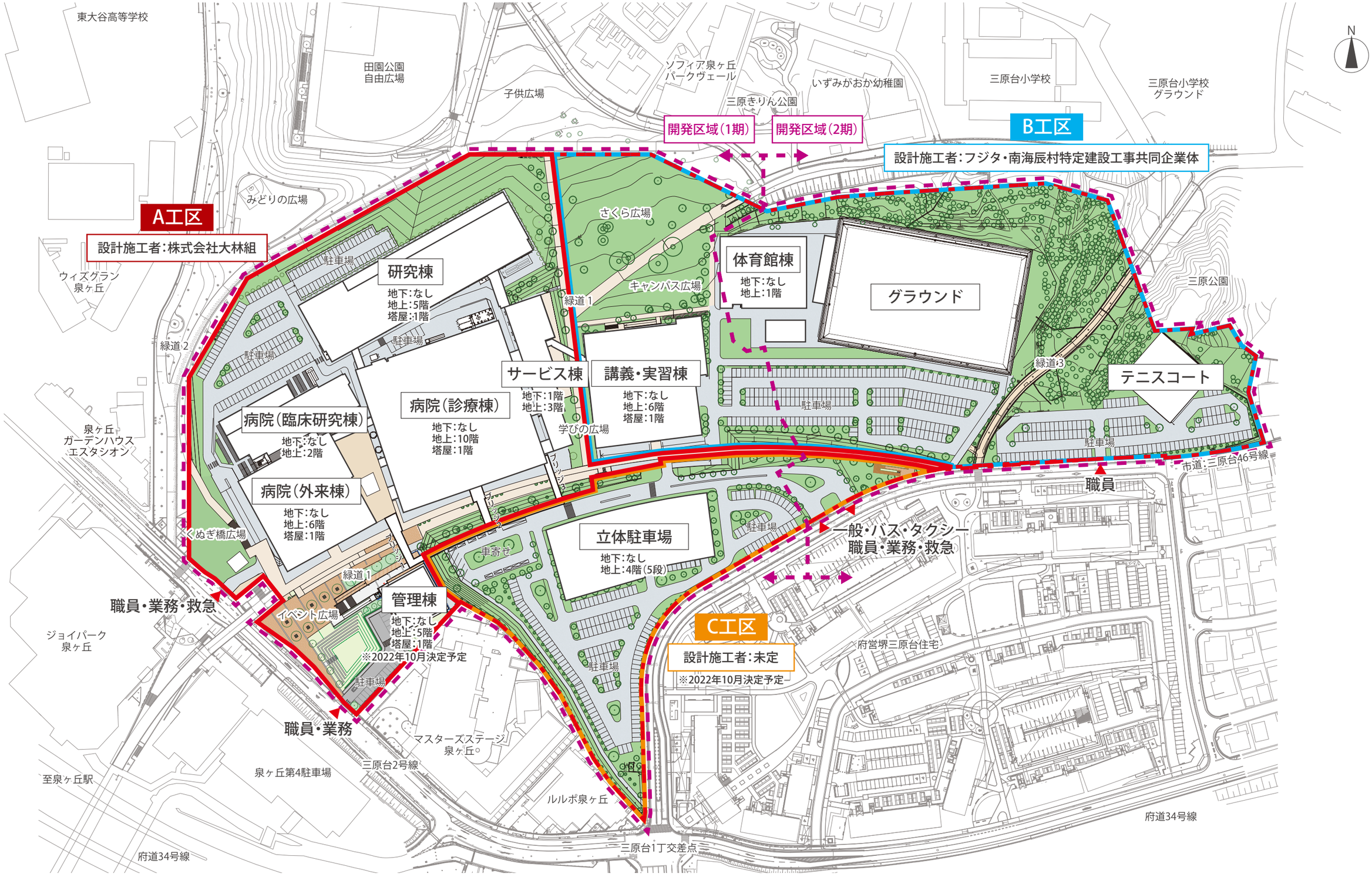


備考

※今後、選定された設計施工者の工程により、変動する可能性があります。

※今後、関係各所との調整により、変動する可能性があります。

全体配置図　S=1/2000



近畿大学学則案

第１章　総則

（目的）

第１条　本大学は、教育基本法の本旨に則り、法律学、経済学、商学、理学、工学、薬学、農学、水産学、文学、社会学、国際学、情報学及び医学に関する学術の理論及び応用を深く研究教授し、人格を陶冶することを目的とする。

２　本大学は建学の精神に沿った教育理念を実践するため、近畿大学教育方針を別記(１)に定め、学部､学科又は課程ごとに人材の育成に関する目的及びその他教育･研究上の具体的な目的を別記(２)に定めるものとする。

（自己点検及び評価等）

第１条の２　本大学は、教育研究水準の向上を図り、本大学の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。

２　点検及び評価等に関することは、別に定める。

（情報の積極的な提供）

第１条の３　本大学は、教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

（学部学科の構成及び定員）

第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。

学部・学科名	コース名	入学定員	編入学定員	収容定員
法学部				
法律学科		500名		2,000名
経済学部				
経済学科		420名		1,680名
総合経済政策学科		170名		680名
国際経済学科		170名		680名
経営学部				
経営学科	昼間主コース	425名		1,700名
	夜間主コース	160名		640名
商学科		405名		1,620名
会計学科		175名		700名
キャリア・マネジメント学科		175名		700名
理工学部				
理学科		225名		900名
生命科学科		95名		380名
応用化学科		130名		520名
機械工学科		200名		800名
電気電子通信工学科		170名		680名
社会環境工学科		100名		400名
エネルギー物質学科		120名		480名
建築学部				
建築学科		280名		1,120名
薬学部				
医療薬学科		150名		900名
創薬科学科		40名		160名
文芸学部				
文学科				
日本文学専攻		120名		480名

英語英米文学専攻	60名	240名
芸術学科		
舞台芸術専攻	50名	200名
造形芸術専攻	65名	260名
文化・歴史学科	140名	560名
文化デザイン学科	80名	320名
総合社会学部		
総合社会学科	510名	2,040名
国際学部		
国際学科	500名	2,000名
情報学部		
情報学科	330名	1,320名
農学部		
農業生産科学科	120名	480名
水産学科	120名	480名
応用生命化学科	120名	480名
食品栄養学科	80名	320名
環境管理学科	120名	480名
生物機能科学科	120名	480名
医学部		
医学科	95名	570名
生物理工学部		
生物工学科	90名	360名
食品安全工学科	90名	360名
遺伝子工学科	90名	360名
生命情報工学科	80名	320名
人間環境デザイン工学科	80名	320名
医用工学科	55名	220名
工学部		
化学生命工学科	75名	300名
機械工学科	100名	400名
情報学科	100名	400名
建築学科	100名	400名
電子情報工学科	95名	380名
ロボティクス学科	75名	300名
産業理工学部		
生物環境化学科	65名	260名
電気電子工学科	65名	260名
建築・デザイン学科	95名	380名
情報学科	75名	300名
経営ビジネス学科	120名	480名

（修業年限）

第３条　本大学の修業年限は、各学部４年とする。在学年数８年を超えることはできない。

２　薬学部医療薬学科、医学部の修業年限は６年とし、在学年数12年を超えることはできない。

第４条　（削除）

（大学院）

第５条　本大学に大学院を置く。

２　大学院の学則は、別に定める。
第６条　（削除）
（図書館、研究所、附属施設）
第７条　本大学に図書館、研究所、病院その他附属施設を置く。
第２章　学年・学期及び休業日
（学年・学期）
第８条　本大学の学年は、４月１日から始まり、翌年３月31日に終る。
２　学年は、これを２期に分け、４月１日から９月20日までを前期とし、９月21日から翌年３月31日までを後期とする。
３　学長は、前項の後期開始日を変更することができる。なお、後期開始日を変更した場合は、その前日をもって前期の終了とする。
（休業日）
第９条　休業日は、次のとおりとする。
（１）　日曜日、国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日、本学創立記念日（11月５日）
（２）　春期休暇　３月20日から４月９日まで
（３）　夏期休暇　７月21日から９月20日まで
（４）　冬期休暇　12月21日から翌年１月９日まで
２　学長は、前項各号に規定する休業日を変更し、又は臨時休業の日を定めることができる。
第３章　教育課程
（授業科目の区別）
第10条　本大学の授業科目は、全学共通科目（共通教養科目、外国語科目）及び専門科目に分ける。ただし、工学部については、総合科目、外国語科目、専門科目及び特修プログラムとする。
２　前項のほかに、学部によっては全学共通科目の中に学部基礎科目を設けることができる。
（授業科目及び単位数）
第11条　前条に規定する授業科目及びその単位数は、別表(１)のとおりとする。
２　留学生の教育課程については、前項に定めるほか、別表(６)のとおりとする。
（授業の方法）
第12条　授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。
２　学部教授会は、文部科学大臣が別に定めるところにより、前項の授業を多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。なお、これにより修得する単位数は60単位を超えないものとする。
（授業内容等の改善のための組織的な研修等）
第12条の２　本大学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。
（履修単位）
第13条　各学部の学生は、次に定める授業科目の単位を修得しなければならない。
（１）　法学部
全学共通科目は共通教養科目16単位以上、外国語科目18単位以上の計34単位以上、専門科目は94単位以上、総計128単位以上
（２）　経済学部
全学共通科目は共通教養科目16単位以上、外国語科目20単位以上の計36単位以上、専門科目は92単位以上、総計128単位以上
（３）　経営学部
全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目18単位以上の計38単位以上、専門科目は86単位以上、総計124単位以上
（４）　理工学部
全学共通科目は共通教養科目15単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目11単位以上、専門科目は84単位以上、総計124単位以上

（５） 建築学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上の計28単位以上、専門科目は96単位以上、総計124単位以上

（６） 薬学部

医療薬学科の全学共通科目は共通教養科目10単位以上、基礎ゼミ２単位、学部基礎科目８単位以上、外国語科目12単位以上、計32単位以上

創薬科学科の全学共通科目は共通教養科目９単位以上、基礎ゼミ２単位、学部基礎科目８単位以上、外国語科目16単位以上、計35単位以上

医療薬学科の専門科目は160単位以上、総計192単位以上

創薬科学科の専門科目は93.5単位以上、総計128.5単位以上

（７） 文芸学部

全学共通科目は共通教養科目20単位以上、外国語科目14単位以上、計32単位以上、専門科目は90単位以上、総計124単位以上

ただし、英語英米文学専攻は、共通教養科目20単位以上、第二外国語科目４単位以上の計24単位以上、専門科目は100単位以上、総計124単位以上

（８） 総合社会学部

全学共通科目は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目18単位以上の計42単位以上、学部共通コア科目６単位以上、専門科目は78単位以上、総計126単位以上

（９） 国際学部

全学共通科目は、共通教養科目及び外国語科目から計26単位以上、専門科目は100単位以上、総計126単位以上

(10) 情報学部

全学共通科目は、共通教養科目14単位以上、外国語科目14単位以上、学部基礎科目12単位以上、専門科目は84単位以上、総計124単位以上

(11) 農学部

全学共通科目は共通教養科目14単位以上、専門基礎科目４単位以上、共通教養科目及び専門基礎科目から２単位以上、外国語科目14単位以上の計34単位以上、専門科目90単位以上、総計124単位以上

ただし、食品栄養学科は、専門科目100単位以上、総計124単位以上

(12) 医学部

共通教養科目から16単位以上、外国語科目から９単位以上、学部基礎科目675時間以上、専門科目は4,675時間以上

(13) 生物理工学部

共通教養科目から16単位以上、外国語科目から14単位以上（うち第一外国語10単位以上）、学部基礎科目から６単位以上、及び専門科目から88単位以上、合計124単位以上（コンソーシアム科目は４単位を上限に共通教養科目として認め、また、学際領域選択科目は12単位を上限に専門科目として認める）

(14) 工学部

総合科目は16単位以上、外国語科目８単位以上、専門科目84単位以上、総合科目、外国語科目、専門科目、特修プログラム、他大学との単位互換科目のうちから16単位以上、総計124単位以上

(15) 産業理工学部

共通教養科目から20単位以上、外国語科目から８単位以上の計28単位以上、専門科目は80単位以上、さらに共通教養科目、外国語科目、専門科目から16単位以上、総計124単位以上

ただし、電気電子工学科は、専門科目は85単位以上、さらに共通教養科目、外国語科目、専門科目から11単位以上、総計124単位以上

（他の大学又は短期大学における授業科目の履修等）

第14条　本大学が教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学を含む。）との協議に基づき学生に当該大学又は短期大学の授業科目を履修させることができる。

２　前項の規定により修得した単位は、教授会の定めるところにより、本大学において修得したものとみなすことができる。

（大学以外の教育施設等における学修）
第14条の２　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。
（入学前の既修得単位等の認定）
第14条の３　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第１学年次に入学する前に大学又は短期大学において修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を教授会の定めるところにより入学した後の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
２　本大学が教育上有益と認めるときは、学生が第１学年次に入学する前に行った前条に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の定めるところにより単位を与えることができる。
３　第14条第２項から本条第２項の定めにより修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、合わせて60単位を超えないものとする。
（教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程）
第15条　本大学に教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程を置く。
２　教員免許状を取得しようとする者は、所定の教職に関する科目を履修しなければならない。その授業科目及び単位数は、別表(２)―１のとおりとする。
３　前項の履修により本学において取得できる免許状の種類及び教科は、別表(２)―２のとおりとする。
（司書課程）
第15条の２　本大学に司書課程を置く。
２　司書の資格を得ようとする者は、別表(３)に掲げる単位を修得しなければならない。
（博物館学課程）
第15条の３　本大学に博物館学課程を置く。
２　学芸員の資格を得ようとする者は、別表(４)に掲げる単位を修得しなければならない。
（日本語教員養成課程）
第15条の４　本大学に日本語教員養成課程を置く。
２　日本語教員の資格を得ようとする者は、別表(５)に掲げる単位を修得しなければならない。
第15条の５　削除
（通信教育）
第16条　本大学に通信教育の課程を置く。
２　通信教育課程の実施は、通信教育部がこれに当る。
３　通信教育に関する規程は、別に定める。
（留学生別科）
第16条の２　本大学に留学生別科の課程を置く。
２　留学生別科規程は、別に定める。

第４章　試験・卒業及び学位記

（試験）
第17条　履修した授業科目については、試験その他適当な方法により、学業成績を評価する。
２　試験の実施に関する事項は、教授会においてこれを定める。
（成績の評価）
第18条　学業成績は、秀・優・良・可及び不可に分け、秀・優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。秀は90点以上、優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。
（追・再試験）
第19条　病気その他正当な理由により受験できなかった科目及び不合格になった科目については、教授会で審議のうえ、追・再試験を行うことができる。
（単位）
第20条　合格した授業科目については、所定の単位を与える。ただし、医学部の専門科目については、

単位制によらず時間制を採用する。

2　授業科目の単位は、１単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の計算基準によるものとする。

（１）　講義及び演習については、内容に応じて15時間から30時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。

（２）　実験、実習及び実技については、内容に応じて30時間から45時間までの範囲で定める時間の授業をもって１単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、内容に応じて定める時間の授業をもって１単位とする。

（３）　前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業製作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

（卒業の認定）

第21条　本大学に４年以上在学し、また薬学部医療薬学科については６年以上在学し、所定の授業科目を履修し、所定の単位を修得して、卒業資格を得た者には卒業証書・学位記を授与する。

2　医学部については６年以上在学し､所定の授業科目を履修し､卒業試験及び総合試験に合格して、卒業資格を得た者に卒業証書・学位記を授与する。

3　第１項の規定にかかわらず、法学部法律学科法曹コースにおいて、所定の単位を優秀な成績で修得した者については、当該学部の定めるところに従い、３年以上の在学をもって卒業を認め、卒業証書・学位記を授与する。

（学士の学位）

第22条　本大学を卒業した者は、次の区分に従って学士の学位を授与する。

学士（法学）	近畿大学	法学部	（法律学科）
学士（経済学）	近畿大学	経済学部	（経済学科）
学士（経済政策学）	近畿大学	経済学部	（総合経済政策学科）
学士（国際経済学）	近畿大学	経済学部	（国際経済学科）
学士（経営学）	近畿大学	経営学部	（経営学科）
学士（商学）	近畿大学	経営学部	（商学科）
学士（会計学）	近畿大学	経営学部	（会計学科）
学士（キャリア・マネジメント学）	近畿大学	経営学部	（キャリア・マネジメント学科）
学士（理学）	近畿大学	理工学部	（理学科、生命科学科）
学士（工学）	近畿大学	理工学部	（応用化学科、機械工学科、電気電子通信工学科､社会環境工学科）
		情報学部	（情報学科）
		生物理工学部	（生物工学科、食品安全工学科、遺伝子工学科、生命情報工学科、人間環境デザイン工学科、医用工学科）
		工学部	（化学生命工学科、機械工学科、情報学科、建築学科、電子情報工学科、ロボティクス学科）
		産業理工学部	（生物環境化学科、電気電子工学科、建築・デザイン学科、情報学科）
学士（理工学）	近畿大学	理工学部	（エネルギー物質学科）
学士（建築学）	近畿大学	建築学部	（建築学科）
学士（経営ビジネス学）	近畿大学	産業理工学部	（経営ビジネス学科）
学士（薬学）	近畿大学	薬学部	（医療薬学科）

学士（薬科学）	近畿大学	薬学部	（創薬科学科）
学士（農学）	近畿大学	農学部	（農業生産科学科、水産学科、応用生命化学科、食品栄養学科、環境管理学科、生物機能科学科）
学士（文学）	近畿大学	文芸学部	（文学科、文化・歴史学科）
学士（文芸学）	近畿大学	文芸学部	（芸術学科・文化デザイン学科）
学士（総合社会学）	近畿大学	総合社会学部	（総合社会学科）
学士（国際学）	近畿大学	国際学部	（国際学科）
学士（医学）	近畿大学	医学部	（医学科）

第５章　入学・編入学・転学・外国留学・休学・退学・除籍・復学・再入学及び復籍

（入学の時期）

第23条　入学の時期は、毎学年の始めとする。

（入学資格）

第24条　本大学の各学部に入学を志願することのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

（１）　高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者

（２）　通常の課程による12年の学校教育を修了した者

（３）　外国において、学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

（４）　文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

（５）　文部科学大臣の指定した者

（６）　高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第１号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。）

（７）　その他本大学において、相当の年令に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

（入学選考）

第25条　入学を志願する者は、所定の手続と同時に別表(７)に定める入学検定料を納め、本学が行う選考により、合格した者について入学を許可する。

（入学手続）

第26条　入学を許可された者は、指定された期日までに別表(７)に定める入学金、授業料その他の学費を納入するとともに、学生規程に定める手続に従い入学手続を完了しなければならない。

（編入学）

第27条　本大学の医学部を除く各学部の第３学年次又は第２学年次において欠員がある場合、次の各号のいずれかに該当する編入学志願者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

（１）　学士の学位を有する者

（２）　大学第２学年修了者、短期大学卒業者又は高等専門学校卒業者その他同等以上の学力を有する者

（３）　大学第１学年修了者その他同等以上の学力を有する者

（４）　高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科の課程（修業年限が２年以上であることその他の文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

（５）　専修学校の専門課程（修業年限が２年以上であること、その他文部科学大臣の定める基準を満たすものに限る。）を修了した者

第27条の２　医学部に欠員がある場合は、他の大学の医学進学課程を修了した者又はこれと同等以上の学力があると認めた者について選考のうえ、編入学を許可することがある。

第27条の３　本大学の医学部･薬学部を除く各学部の第３学年次に編入した者の修業年限は２年とし、在学年数６年を超えることはできない。

２　本大学の医学部・薬学部を除く各学部の第２学年次に編入した者の修業年限は３年とし、在学年数７年を超えることはできない。

３　本大学の医学部又は薬学部に編入した者の修業年限は、別に定める。

（転学）
第28条　本大学から他の大学に転学しようとする者は所定の手続をとらなければならない。
２　転学に関する取扱は、別に定める。
（転部・転学部・転学科）
第29条　本大学の学生で、他の部又は学部・学科・専攻に転籍を志願する者については、関係学部における選考のうえ、これを許可することがある。
（外国留学）
第29条の２　本大学は、本大学の協定又は認定する外国の大学へ留学を希望する学生を、教授会並びに国際交流委員会で審議のうえ、留学させることができる。
２　前項の留学期間は、学長の承認を得て第３条に規定する修業年限に算入することができる。
３　留学に関する規定は、別に定める。
（休学）
第30条　病気その他やむを得ない理由で３ヵ月以上就学できないときは、その事実を証明する書類を添えて、保証人連署のうえ願い出て、その許可を得て休学することができる。
２　休学期間は、休学を許可された日から当該学期末又は当該年度末までとする。ただし、特別の事情がある場合には、引き続き休学を許可することができる。
３　休学できる期間は、連続して２年以内、通算して修業年限以内とする。
４　休学中の期間は、在学年数に算入しない。
５　休学中は、別に定める在籍料を納入しなければならない。
（復学）
第31条　休学者が休学の理由がやんだときは、保証人連署のうえ、復学を願い出てその許可を得て復学することができる。
（退学）
第32条　退学しようとする者は、その理由を記し、保証人連署のうえ願い出なければならない。ただし、やむを得ない事情のある場合はこの限りでない。
（除籍）
第32条の２　次の各号のいずれかに該当する者は、除籍とする。
（１）　第３条及び第27条の３に定める在学年数を超えた者
（２）　第30条第２項に定める休学を許可された期間を超えてなお復学又は退学しない者
（３）　学費の納入を怠り、督促を受けても納入しない者
（４）　新入生で学生証の交付手続を行わない者、その他本学において修学する意思がないと認められる者
（５）　１年間以上にわたり行方不明の者
（再入学）
第33条　正当な理由で退学した者が、再入学を願い出たときは学年の始めに限り審査のうえ、許可することがある。
（復籍）
第33条の２　学費未納による除籍者については、別に定めるところにより審査のうえ、復籍を許可することがある。
（二重在籍）
第34条　本大学の学生は、同時に他の大学に在籍することを許さない。
（強制休学）
第35条　校医が健康上の理由により修学が不適当と認めた学生に対しては､休学を命ずることがある。
（学生規程）
第36条　学生が遵守しなければならない事項は、本学則に定めるほか、別に定める学生規程による。

第６章　学費

（学費）
第37条　入学金、授業料、教育充実費等学費の額は、別表(７)のとおりである。
（学費の納付）
第38条　学費は、毎学期始め所定の期日までに納付しなければならない。ただし、事情によって別に

定めるところによりこれを分納することができる。
２　学期の中途で退学した者又は除籍された者も、当該期分の学費を納入しなければならない。
（学費納入要項）
第39条　学費については、この学則に定めるほか、別に定める学費納入要項による。
第７章　賞罰
（表彰）
第40条　学力優秀、品行方正な者その他格別の功績があった者は、これを表彰する。
（懲戒）
第41条　学則、学生規程その他諸規則に違反し、本学の秩序を乱し、又は性行不良その他学生の本分にもとる行為のあった者に対しては、懲戒として情状により譴責、停学又は退学の処分を行う。
２　次の各号の一に該当する者には退学を命ずる。
（１）　性行不良で改善の見込がないと認められる者
（２）　学業を怠り成業の見込がないと認められる者
（３）　本学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
第42条　前２条の表彰及び懲戒は、必要に応じ賞罰委員会又は大学協議会で審議するものとする。
２　賞罰委員会に関する事項は、別に定める。
第８章　科目等履修生・委託生及び外国人留学生
（科目等履修生）
第43条　本大学の一又は複数の科目を履修し、単位の修得を希望する者があるときは、選考のうえ、科目等履修生としてこれを許可することができる。
２　科目等履修生が履修した授業科目について、試験を受け合格したときは、所定の単位を与える。
（委託生）
第44条　公共団体又はその他の機関から本大学の特定授業科目について修学を委託されたときは、選考のうえ、委託生としてこれを許可する。
第45条　（削除）
（証明書）
第46条　委託生は、履修した授業科目について試験を受けることができる。
２　試験に合格したときは、本人の請求によって証明を与えることができる。
（学則適用除外）
第47条　科目等履修生及び委託生には、第21条及び第22条は適用しない。
（外国人留学生）
第48条　第24条に規定する入学資格を有する者で、本大学に入学を希望する外国人留学生は、外国公館から推薦又は証明ある者に限って選考のうえ、これを許可する。
（学則の準用）
第49条　特別の規定のない限りこの学則の規定は、科目等履修生・委託生及び外国人留学生にも準用する。
（科目等履修生・委託生及び外国人留学生の別定規定）
第50条　科目等履修生・委託生及び外国人留学生については、この学則に定めるもののほか、別に定める。
第９章　教職員組織
（教職員）
第51条　本大学には、学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務職員、技術職員その他の職員を置く。
（学長等）
第51条の２　学長は、本大学の校務をつかさどり、所属職員を統督する。
２　副学長は、学長を助け、命を受けて校務をつかさどる。
（職制）
第51条の３　職位、職務その他の職員に関する詳細は、学校法人近畿大学職制に規定するほか、必要に応じ別に定める。
（教授会）

第52条　本大学各学部に、教育研究に関する専門的な審議を行う機関として、教授会を置く。
２　教授会は、当該学部の専任教授をもって構成する。
３　学部長は、前項にかかわらず学長の承認を得て、議題の内容に応じその都度、専任教授以外の教職員を教授会の審議に加えることができる。
４　前項に基づく教授会においては、教員の選考その他人事に関する事項について審議することができない。
（教授会審議事項）
第53条　教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。
（１）　学生の入学、卒業及び課程の修了
（２）　学位の授与
（３）　前２号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの
２　教授会は、前項に規定するもののほか、次の各号に掲げる事項並びに学長及び学部長（以下「学長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。
（１）　教育課程及びその担任に関する事項
（２）　休学、退学、転学及び復学に関する事項
（３）　学生の試験に関する事項
（４）　学生の補導に関する事項
（５）　教育及び研究に関する事項
（６）　教授、准教授、講師、助教及び助手の選考に関する事項
（７）　その他教学に関する事項
（議事運営）
第54条　教授会は、学部長が招集して、その議長となる。
２　学部長に支障があるときは、予め学部長の指名した者が議長となってその職務を代行する。
第55条　教授会は、学部長が必要と認めたとき又は３分の１以上の構成員の要求があったときこれを開催する。
第56条　教授会は、構成員の半数以上の出席（委任状の提出を含む。以下同じ。）によって成立し、その議事は、出席者の過半数で決し教授会の意見とする。可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、人事その他学部長が重要と認めた事項については、構成員の３分の２以上の出席を要し、出席者の３分の２以上の同意をもって決し教授会の意見とする。
第57条　教授会の運営に関する細則は、別に定める。
第58条　学長が必要と認めたときは、全学部又は各学部の教授会を招集することができる。
（大学協議会）
第59条　本大学に大学全般の重要事項について審議するため大学協議会を置く。
（大学協議会の構成）
第60条　大学協議会は学長、各学部長、各事務部長、図書館長及び教授若干名をもって構成する。
（大学協議会審議事項）
第61条　大学協議会は、次の事項を審議する。
（１）　学則その他重要な規則の制定改廃に関する事項
（２）　学生の定員又は募集に関する事項
（３）　学生の表彰及び厚生補導に関する事項
（４）　学部その他の機関との連絡調整に関する事項
（５）　学長の諮問した事項
（６）　その他大学の運営に関する重要事項
（議事）
第62条　大学協議会は、学長が招集し、その議長となる。
第63条　大学協議会の運営に関する規定は、別に定める。

第10章　奨学生

（奨学生）

第64条　学力優秀、品行方正で学生の模範と認められた学生を選んで奨学生とすることがある。
２　奨学生に対しては、学費の全部又は一部を貸給与する。
３　奨学生に関する事項は、別に定める。

第11章　寄宿舎

（寄宿舎）

第65条　本大学に寄宿舎を設ける。
２　寄宿舎に関する事項は、別に定める寄宿舎規則による。

附　則

この学則は、昭和41年12月１日から施行する。

附　則（昭和49年４月１日）

この学則の改正は、昭和49年４月１日から施行する。

附　則（昭和51年４月１日）

この学則の改正は、昭和51年４月１日から施行する。

附　則（昭和55年４月１日）

この学則の改正は、昭和55年４月１日から施行する。

附　則（昭和56年４月１日）

この学則の改正は、昭和56年４月１日から施行する。

附　則（昭和61年４月１日）

この学則の改正は、昭和61年４月１日から施行する。

附　則（昭和62年４月１日）

この学則の改正は、昭和62年４月１日から施行する。

附　則（昭和63年４月１日）

この学則の改正は、昭和63年４月１日から施行する。

附　則（平成元年４月１日）

１　この学則の改正は、平成元年４月１日から施行する。
２　この学則のうち第35条は平成元年入学生から適用する。

附　則（平成２年４月１日）

１　この学則の改正は、平成２年４月１日から施行する。
２　この学則のうち別表(２)－５については、平成元年度入学生から適用する。

附　則（平成３年４月１日）

この学則の改正は、平成３年４月１日から施行する。

附　則（平成４年４月１日）

１　この学則の改正は、平成４年４月１日から施行する。
２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成４年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
商経学部	
商学科	550名
経済学科	550名
経営学科	600名
理工学部	
化学科	80名
応用化学科	80名
機械工学科	140名
土木工学科	110名
電気工学科	100名
金属工学科	100名
建築学科	180名
電子工学科	100名

経営工学科	200名
文芸学部	
文学科	
英米文学専攻	80名
国文学専攻	50名
文化学科	100名
農学部	
農学科	100名
水産学科	100名
農芸化学科	100名
食品栄養学科	100名
工学部	
工業化学科	80名
機械工学科	100名
経営工学科	100名
建築学科	100名
九州工学部	
工業化学科	90名
建築学科	90名
電気工学科	100名
産業デザイン学科	70名
経営工学科	100名

第２部（夜間）

商経学部	
商学科	150名
経済学科	150名
経営学科	150名
理工学部	
機械工学科	60名

附　則（平成５年４月１日）

１　この学則の改正は、平成５年４月１日から施行する。

２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成５年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名	入学定員
理工学部	
機械工学科	120名
電気工学科	90名
電子工学科	90名

附　則（平成６年４月１日）

この学則の改正は、平成６年４月１日から施行する。

附　則（平成７年４月１日）

この学則の改正は、平成７年４月１日から施行する。

附　則（平成８年４月１日）

この学則の改正は、平成８年４月１日から施行する。

附　則（平成９年４月１日）

１　この学則の改正は、平成９年４月１日から施行する。

ただし、文芸学部文学科日本文学専攻の名称は、平成９年度当該専攻卒業生から適用する。

２　第２条第１項に規定する入学定員は、平成９年度から平成11年度までの間は、次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名　　入学定員
文芸学部
文学科
英米文学専攻　　60名
日本文学専攻　　70名

附　則（平成10年４月１日）

（施行期日）

１　この学則の改正は、平成10年４月１日から施行する。

２　工学部経営工学科の経営システム工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は平成10年４月１日から施行し、工学部経営システム工学科の名称は、平成10年度当該学科卒業生から適用する。

ただし、第12条別表（２）―９については平成10年度入学生から適用する。

３　農学部食品栄養学科食品科学専攻、管理栄養士専攻設置に伴う第２条、第12条別表（２）―６及び第13条の改正は、平成10年度入学生から適用する。

４　第２条第１項に規定する入学定員は、平成10年度から平成11年度までの間は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名　　入学定員
農学部
食品栄養学科
食品科学専攻　　70名
工学部
経営システム工学科　　100名

附　則（平成11年４月１日）

１　この学則の改正は、平成11年４月１日から施行する。

２　工学部工業化学科の化学環境工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成11年４月１日から施行し、工学部化学環境工学科の名称は、施行日現在当該学科に在籍する者全員について適用する。

３　九州工学部電気工学科の電気情報工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成11年度第１年次入学生から適用する。

（経過措置）

４　九州工学部電気工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成11年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

５　第２条に規定する入学定員は、平成11年度は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科名　　入学定員
工学部
化学環境工学科　　80名
九州工学部
電気情報工学科　　100名

附　則（平成12年４月１日）

１　この学則の改正は、平成12年４月１日から施行する。

２　九州工学部工業化学科の生物環境化学科への名称変更及び九州工学部経営工学科の経営情報学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成12年４月１日から施行し、九州工学部生物環境化学科及び経営情報学科の名称は、施行日現在に当該学科に在籍する者全員に適用する。

３　第２条の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

第１部（昼間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						

商学科	515	490	465	440	415	
経済学科	515	490	465	440	415	
経営学科	555	530	505	480	455	
理工学部						
化学科	79	78	77	76	75	
応用化学科	79	78	77	76	75	
機械工学科	120	120	120	120	120	
土木工学科	107	104	101	98	90	
電気工学科	88	86	84	82	80	
金属工学科	89	83	77	71	70	
建築学科	178	176	174	172	170	
電子工学科	88	86	84	82	80	
経営工学科	187	179	171	163	155	
文芸学部						
文学科						
英米文学専攻	68	66	64	62	60	
日本文学専攻	89	88	87	86	85	
文化学科	108	106	104	102	100	
農学部						
農学科	112	109	106	103	100	
水産学科	102	99	96	93	90	
農芸化学科	112	109	106	103	100	
食品栄養学科						
食品科学専攻	82	79	76	73	70	
工学部						
化学環境工学科	77	74	71	68	65	
機械工学科	82	79	76	73	70	
経営システム工学科	87	84	81	78	75	
建築学科	92	89	86	83	80	
九州工学部						
生物環境化学科	86	82	78	74	70	
建築学科	90	90	90	90	90	
電気情報工学科	98	96	94	92	90	
産業デザイン学科	69	68	67	66	65	
経営情報学科	98	96	94	92	90	

第２部（夜間）

学部・学科	入学定員					備考
	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	148	141	134	127	120	
経済学科	148	141	134	127	120	
経営学科	148	141	134	127	120	
理工学部						
機械工学科	58	56	54	52	50	

附　則（平成13年４月１日）

１　この学則の改正は、平成13年４月１日から施行する。

２　法学部２部、商経学部２部、理工学部２部は平成13年度入学生から学生募集停止とし、法学部１部、商経学部１部、理工学部１部の法学部、商経学部、理工学部への名称変更に伴う第２条の改正は、平成13年４月１日から施行する。

（経過措置）

３　法学部２部、商経学部２部、理工学部２部は、改正後の第２条の規定にかかわらず、平成13年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

４　第２条の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員				備考
		平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部						
商学科	昼間主コース	490	465	440	415	
	夜間主コース	141	134	127	120	
経済学科	昼間主コース	490	465	440	415	
	夜間主コース	141	134	127	120	
経営学科	昼間主コース	530	505	480	455	
	夜間主コース	141	134	127	120	
理工学部						
化学科		78	77	76	75	
応用化学科		78	77	76	75	
機械工学科	昼間主コース	120	120	120	120	
	夜間主コース	56	54	52	50	
土木工学科		104	101	98	90	
電気工学科	昼間主コース	86	84	82	80	
金属工学科		83	77	71	70	
建築学科		176	174	172	170	
電子工学科		86	84	82	80	
経営工学科		179	171	163	155	
文芸学部						
文学科						
英米文学専攻		96	94	92	90	
日本文学専攻		108	107	106	105	
文化学科		136	134	132	130	
農学部						
農学科		109	106	103	100	
水産学科		99	96	93	90	
農芸化学科		109	106	103	100	
食品栄養学科						
食品科学専攻		64	61	58	55	
工学部						
化学環境工学科		74	71	68	65	
機械工学科		79	76	73	70	
経営システム工学科		84	81	78	75	

建築学科	89	86	83	80	
九州工学部					
生物環境化学科	82	78	74	70	
建築学科	90	90	90	90	
電気情報工学科	96	94	92	90	
産業デザイン学科	68	67	66	65	
経営情報学科	96	94	92	90	

附　則（平成14年４月１日）

１　この学則の改正は、平成14年４月１日から施行する。

２　理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、平成14年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　理工学部数学物理学科、化学科、応用化学科、機械工学科昼間主コース、機械工学科夜間主コース、土木工学科、電気工学科昼間主コース、電気工学科夜間主コース、原子炉工学科、金属工学科、建築学科、電子工学科及び経営工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成14年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

（経過措置）

４　工学部経営システム工学科及び機械システム工学科の情報システム工学科及びシステムデザイン工学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成14年４月１日から施行し、経営システム工学科及び機械システム工学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成14年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

５　第２条の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員			備考
		平成14年度	平成15年度	平成16年度	
商経学部					
商学科	昼間主コース	455	430	405	
	夜間主コース	134	127	120	
経済学科	昼間主コース	455	430	405	
	夜間主コース	134	127	120	
経営学科	昼間主コース	495	470	445	
	夜間主コース	134	127	120	
理工学部					
理学科		132	131	130	平成14年度学科改組
応用化学科		112	111	110	
機械工学科	昼間主コース	157	151	150	
	夜間主コース	39	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	168	164	160	
社会環境工学科		111	108	100	
建築学科		174	172	170	
情報学科		181	173	165	
文芸学部					
文学科					
英米文学専攻		94	92	90	
日本文学専攻		107	106	105	

文化学科	134	132	130	
農学部				
農学科	106	103	100	
水産学科	96	93	90	
農芸化学科	106	103	100	
食品栄養学科				
食品科学専攻	61	58	55	
工学部				
化学環境工学科	71	68	65	
機械工学科	76	73	70	
情報システム工学科	81	78	75	
建築学科	86	83	80	
九州工学部				
生物環境化学科	78	74	70	
建築学科	90	90	90	
電気情報工学科	94	92	90	
産業デザイン学科	67	66	65	
経営情報学科	94	92	90	

附　則（平成14年10月１日）

この学則の改正は、平成14年10月１日から施行する。

附　則（平成15年４月１日）

１　この学則の改正は、平成15年４月１日から施行する。

２　商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、平成15年度４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　商経学部商学科昼間主コース、商学科夜間主コース、経済学科昼間主コース、経済学科夜間主コース、経営学科昼間主コース及び経営学科夜間主コースは、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成15年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

４　生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文学科英米文学専攻は、平成15年４月１日から学生募集停止する。

（経過措置）

５　生物理工学部機械制御工学科、基礎機械工学科、工学部化学環境工学科及び文芸学部文学科英米文学専攻は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成15年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

６　第２条の規定にかかわらず、平成15年度から平成16年度までの間、入学定員は次のとおりとする。

学部・学科		入学定員		備考
		平成15年度	平成16年度	
経済学部				
経済学科		525	500	平成15年度学部改組
経営学部				
経営学科	昼間主コース	375	350	
	夜間主コース	187	180	
商学科	昼間主コース	375	350	
	夜間主コース	194	180	
理工学部				

理学科		131	130	
応用化学科		111	110	
機械工学科	昼間主コース	151	150	
	夜間主コース	37	35	
電気電子工学科	昼間主コース	164	160	
社会環境工学科		108	100	
建築学科		172	170	
情報学科	昼間主コース	173	165	
文芸学部				
文学科				
英語英米文学専攻		92	90	
日本文学専攻		106	105	
文化学科		132	130	
農学部				
農学科		103	100	
水産学科		93	90	
農芸化学科		103	100	
食品栄養学科				
食品科学専攻		58	55	
工学部				
生物化学工学科		68	65	
機械工学科		73	70	
情報システム工学科		78	75	
建築学科		83	80	
九州工学部				
生物環境化学科		74	70	
建築学科		90	90	
電気情報工学科		92	90	
産業デザイン学科		66	65	
経営情報学科		92	90	

7　生物理工学部学部基礎科目の「初級シミュレーション技術論」は、平成14年度入学生から適用する。

附　則（平成16年４月１日）

1　この学則の改正は、平成16年４月１日から施行する。なお、第15条の５（秘書課程）については平成15年度入学生から適用する。

2　九州工学部の産業理工学部への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成16年４月１日から施行し、産業理工学部の名称は、施行日現在に当該学部に在籍する者全員に適用する。

3　法学部経営法学科の政策法学科への名称変更に伴う第２条及び第22条の改正は、平成16年４月１日から施行し、法学部経営法学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

4　九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は平成16年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

5　九州工学部生物環境化学科、建築学科、電気情報学科、産業デザイン学科、経営情報学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

6　理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは平

成16年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
7　理工学部機械工学科夜間主コース、電気電子工学科夜間主コース及び情報学科夜間主コースは、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成16年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
8　文芸学部芸術学科造形美術専攻は、平成16年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
9　文芸学部芸術学科造形美術専攻は、改正後の第２条の規定にかかわらず、平成16年３月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成17年４月１日）

1　この学則の改正は、平成17年４月１日から施行する。
2　農学部農学科、農芸化学科、国際資源管理学科は平成17年４月１日から学生募集停止する。
（経過措置）
3　農学部農学科､農芸化学科､国際資源管理学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成17年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
4　第２条の規定のうち、農学部食品栄養学科については、１学年２学級とする。

附　則（平成18年１月１日）

この学則の改正は平成18年１月１日から施行する。

附　則（平成18年４月１日）

1　この学則の改正は、平成18年４月１日から施行する。
2　薬学部薬学科、工学部システムデザイン工学科は平成18年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
3　薬学部薬学科､工学部システムデザイン工学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成18年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
4　文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は、平成18年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
5　文芸学部芸術学科演劇・芸能専攻は改正後の第２条の規定にかかわらず、平成18年３月31日現在に当該専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成19年４月１日）

この学則の改正は、平成19年４月１日から施行する。

附　則（平成20年４月１日）

1　この学則の改正は、平成20年４月１日から施行する。
2　産業理工学部経営コミュニケーション学科は、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
3　産業理工学部経営コミュニケーション学科は改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。
4　法学部法律学科夜間コース並びに政策法学科夜間主コースは、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
5　法学部法律学科夜間主コース並びに政策法学科夜間主コースは、改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。
6　文芸学部文学科英語英米文学専攻は、平成20年４月１日から学生募集停止とする。
（経過措置）
7　文芸学部文学科英語英米文学専攻は、改正後の学則第２条及び第22条の規定にかかわらず平成20年３月31日に、当該専攻に在籍する者が、当該専攻に在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成21年４月１日）

この学則の改正は、平成21年４月１日から施行する。

附　則（平成22年４月１日）

１　この学則の改正は、平成22年４月１日から施行する。

２　生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は、平成22年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　生物理工学部電子システム情報工学科、知能システム工学科、生体機械工学科は改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず平成22年３月31日に、当該学科に在籍する者が、当該学科に在籍しなくなるまでの間存続するものとする。

附　則（平成22年６月１日）

この学則の改正は、平成22年６月１日から施行する。

附　則（平成23年４月１日）

１　この学則の改正は、平成23年４月１日から施行する。

２　理工学部建築学科は、平成23年４月１日から学生募集停止とする。

（経過措置）

３　理工学部建築学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、平成23年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成24年４月１日）

１　この学則の改正は、平成24年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　文芸学部文化学科、英語多文化コミュニケーション学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成24年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成24年10月１日）

この学則の改正は、平成24年10月１日から施行する。

附　則（平成25年４月１日）

１　この学則の改正は、平成25年４月１日から施行する。

２　この学則のうち別表(１)―６については、平成24年度入学生から適用する。

３　次の科目は薬学部創薬科学科の平成23年度入学生に適用する。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【自由選択科目】			
臨床検査学			1.5
疾患と薬物治療法１			1.5
生体成分分析実習			1
放射化学			1.5
疾患と薬物治療法２			1.5
病態検査学			1.5
臨床検査学総論１			2
臨床生理学			1.5
臨床検査学総論実習			3
臨床化学実習			5
臨床検査学総論２			2
臨床生理学実習			6

（経過措置）

４　工学部生物化学工学科、情報システム工学科、知能機械工学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成25年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成25年８月１日）

この学則の改正は、平成25年８月１日から施行する。

附　則（平成26年４月１日）

１　この学則の改正は、平成26年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　第18条の規定にかかわらず、平成25年度以前の入学生の成績の評価は、次のとおりとする。

（１）　学業成績は、優・良・可及び不可に分け、優・良・可を合格とし、不可を不合格とする。優は80点以上、良は70点以上、可は60点以上、不可は59点以下とする。また、前記にかかわらず単位を認定する場合は、認定とする。

附　則（平成27年４月１日）

この学則の改正は、平成27年４月１日から施行する。

附　則（平成28年４月１日）

１　この学則の改正は、平成28年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　法学部政策法学科、文芸学部文学科外国語外国文学専攻、文芸学部英語コミュニケーション学科、産業理工学部電気通信工学科は、改正後の第２条、第13条及び第22条の規定にかかわらず、平成28年３月31日現在に当該学科又は専攻に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成29年４月１日）

１　この学則の改正は、平成29年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　生物理工学部システム生命科学科、人間工学科は、改正後の学則第２条、第22条の規定にかかわらず、平成29年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

附　則（平成29年６月１日）

この学則の改正は、平成29年６月１日から施行する。

附　則（平成30年４月１日）

この学則の改正は、平成30年４月１日から施行する。

附　則（平成30年６月１日）

この学則の改正は、平成30年６月１日から施行する。

附　則（平成31年４月１日）

１　この学則の改正は、平成31年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　農学部バイオサイエンス学科は、改正後の学則第２条、第22条の規定にかかわらず、平成31年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

３　秘書課程の適用は、改正後の学則第15条の５の規定にかかわらず、平成31年３月31日現在に在籍する者に対しては、平成34年３月31日までの間、なお従前のとおりとする。

附　則（令和２年４月１日）

１　この学則の改正は、令和２年４月１日から施行する。

２　別表(７)の改正は、令和２年度以降の入学生を対象とする。

３　改正後の第２条の規定にかかわらず、令和２年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和２年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度
入学定員	107	107	95	95
収容定員	682	674	654	634

年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	95	95	95
収容定員	614	594	582

附　則（令和２年６月１日）

この学則の改正は、令和２年６月１日から施行する。

附　則（令和３年４月１日）

１　この学則の改正は、令和３年４月１日から施行する。

２　第２条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度
入学定員	112	95	95	95	95	95
収容定員	679	659	639	619	599	587

附　則（令和３年５月25日）

この学則の改正は、令和３年５月25日から施行する。

附　則（令和４年４月１日）

１　この学則の改正は、令和４年４月１日から施行する。

（経過措置）

２　理工学部電気電子工学科及び理工学部情報学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、令和４年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

３　第２条の規定にかかわらず、令和４年度から令和９年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和４年度	令和５年度	令和６度	令和７年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	676	656	636	616

年度	令和８年度	令和９年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

附　則（令和５年４月１日）

１　この学則の改正は、令和５年４月１日から施行する。

２　第２条の規定にかかわらず、令和５年度から令和10年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度
入学定員	112	95	95	95	95	95
収容定員	673	653	633	621	604	587

附　則（令和６年４月１日）

１　この学則の改正は、令和６年４月１日から施行する。

２　別表(７)の改正は、令和６年度以降の入学生を対象とする。

３　第２条の規定にかかわらず、令和６年度から令和11年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	112	95	95	95	95	95
収容定員	670	650	638	621	604	587

別表(１)―１

法学部授業科目表

授業科目	単位数	
	必修	選択
(共通教養科目)		
(人間性・社会性科目群)		
人権と社会１		2
人権と社会２		2
現代社会と倫理		2

心理と行動		2
現代の社会論		2
芸術鑑賞入門		2
哲学と人間・社会		2
住みよい社会と福祉		2
現代経済の課題		2
マスメディアの基本構造		2
自校学習		1
教養特殊講義Ａ		2
（地域性・国際性科目群）		
地域と環境の地理学		2
国際化と異文化理解		2
日本近現代史		2
世界近現代史		2
教養特殊講義Ｂ		2
（課題設定・問題解決科目群）		
基礎ゼミ	2	
日本語の技法		2
生命の科学		2
環境科学		2
思考の技術		2
基礎数学		2
科学技術の発展と現代社会		2
情報処理実習	2	
データリテラシー入門		2
暮らしのなかの起業入門		2
キャリア・デザイン１		2
キャリア・デザインＭａｔｈ１		2
キャリア・デザインＭａｔｈ２		2
教養特殊講義Ｃ		2
（スポーツ・表現活動科目群）		
生涯スポーツ１		1
生涯スポーツ２		1
（専門基礎科目群）		
法学入門		2
（第一外国語科目）		
（基幹科目）		
英語１Ａ	2	
英語１Ｂ	2	
英語２Ａ	1	
英語２Ｂ	1	
ベーシック・ライティングＡ	1	
ベーシック・ライティングＢ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１Ａ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１Ｂ	1	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２Ａ	1	

Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２Ｂ	1	
（発展科目）		
英語３Ａ	1	
英語３Ｂ	1	
アカデミック・ライティングＡ		1
アカデミック・ライティングＢ		1
ＴＯＥＩＣ　Ａ		1
ＴＯＥＩＣ　Ｂ		1
専門英語Ａ		1
専門英語Ｂ		1
Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ａ		1
Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂ		1
海外語学研修（英語）		2
（ＬＰＣ留学プログラム科目）		
留学セミナー		1
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅰ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅱ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅲ		2
Ｇｅｎｅｒａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ⅳ		2
（第二外国語科目）		
（基幹科目）		
ドイツ語総合１		1
ドイツ語総合２		1
ドイツ語総合３		1
ドイツ語総合４		1
フランス語総合１		1
フランス語総合２		1
フランス語総合３		1
フランス語総合４		1
中国語総合１		1
中国語総合２		1
中国語総合３		1
中国語総合４		1
韓国語総合１		1
韓国語総合２		1
韓国語総合３		1
韓国語総合４		1
スペイン語総合１		1
スペイン語総合２		1
スペイン語総合３		1
スペイン語総合４		1
イタリア語総合１		1
イタリア語総合２		1
イタリア語総合３		1
イタリア語総合４		1
（発展科目）		

ドイツ語コミュニケーション１		1
ドイツ語コミュニケーション２		1
ドイツ語コミュニケーション３		1
ドイツ語コミュニケーション４		1
ドイツ語カルチャーセミナーA		1
ドイツ語カルチャーセミナーB		1
フランス語コミュニケーション１		1
フランス語コミュニケーション２		1
フランス語コミュニケーション３		1
フランス語コミュニケーション４		1
フランス語カルチャーセミナーA		1
フランス語カルチャーセミナーB		1
中国語コミュニケーション１		1
中国語コミュニケーション２		1
中国語コミュニケーション３		1
中国語コミュニケーション４		1
中国語カルチャーセミナーA		1
中国語カルチャーセミナーB		1
海外語学研修（中国語）		1
韓国語コミュニケーション１		1
韓国語コミュニケーション２		1
韓国語コミュニケーション３		1
韓国語コミュニケーション４		1
韓国語カルチャーセミナーA		1
韓国語カルチャーセミナーB		1
海外語学研修（韓国語）		1
スペイン語コミュニケーション１		1
スペイン語コミュニケーション２		1
イタリア語コミュニケーション１		1
イタリア語コミュニケーション２		1

＜履修方法＞

共通教養科目から必修科目を含み16単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）14単位を含み18単位以上、合計34単位以上取得すること。

ただし、ＬＰＣ留学プログラム参加者は、英語２Ｂ、Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２Ｂ、ベーシック・ライティングＢ、英語３Ａ・Ｂを必修科目から除外し、留学セミナー、専門英語Ａ・Ｂ、Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｖｅ　ＥｎｇｌｉｓｈＡ・Ｂを必修科目とする。

共通教養科目は「人間性・社会性科目群」「スポーツ・表現活動科目群」「専門基礎科目群」から４単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から４単位以上を取得すること。

法律学科　法曹コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）	2		
憲法Ｂ（人権）	2		
憲法Ｃ（憲法理論）		2	

憲法Ｄ（憲法訴訟）		2		
行政法Ａ（行政法通則）	2			
行政法Ｂ（行政作用法）	2			
行政法Ｃ（行政救済法）	2			
刑法総論Ａ	2			
刑法総論Ｂ	2			
刑法各論Ａ	2			
刑法各論Ｂ	2			
刑事訴訟法Ａ	2			
刑事訴訟法Ｂ	2			
民法（総則）	2			
民法（契約）	2			
民法（物権）	2			
民法（債権総論）	2			
民法（親族）	2			
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）	2			
会社法Ｂ（株式・資金調達）	2			
民事訴訟法Ａ	2			
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（コース科目）				
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
憲法事例研究Ａ		2		
憲法事例研究Ｂ		2		
民法（相続）	2			
民法（不法行為）	2			
民法（担保）	2			
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）	2			

支払決済法		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
民事訴訟法Ｂ	2			
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（憲法）		2		
コース演習（行政法）		2		
コース演習（民法Ａ）		2		
コース演習（民法Ｂ）		2		
コース演習（刑法）		2		
コース演習（刑事訴訟法）		2		
コース演習（商事法Ａ）		2		
コース演習（商事法Ｂ）		2		
コース演習（基礎Ａ）		2		
コース演習（基礎Ｂ）		2		
コース演習（発展Ａ）	2			
コース演習（発展Ｂ）	2			
コース演習（民事訴訟法）		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
政治過程論		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
政治思想史Ａ		2		

政治思想史Ｂ		2	
国際政治学Ｂ		2	
日本外交史		2	
国際政治史		2	
政治史Ａ		2	
政治史Ｂ		2	
比較政治学Ａ		2	
比較政治学Ｂ		2	
裁判法		2	
国際法Ａ（総論）		2	
国際法Ｂ（各論）		2	
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2	
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2	
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
保険法		2	
海商法		2	
不動産登記法		2	
借地借家法		2	
国際私法Ａ（家族法関係）		2	
国際私法Ｂ（財産法関係）		2	
国際取引法		2	
国際経済法		2	
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2	
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
初級簿記		2	
中級簿記		2	
消費者法		2	
国際人権法		2	
国際環境法		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
金融商品と法		2	
信託法		2	
会計学		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」

で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　司法コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）	２		
憲法Ｂ（人権）	２		
憲法Ｃ（憲法理論）		２	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		２	
行政法Ａ（行政法通則）	２		
行政法Ｂ（行政作用法）	２		
行政法Ｃ（行政救済法）	２		
刑法総論Ａ	２		
刑法総論Ｂ	２		
刑法各論Ａ	２		
刑法各論Ｂ	２		
刑事訴訟法Ａ	２		
刑事訴訟法Ｂ	２		
民法（総則）	２		
民法（契約）	２		
民法（物権）	２		
民法（債権総論）	２		
民法（親族）	２		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		２	
会社法Ａ（総則・設立・機関）	２		
会社法Ｂ（株式・資金調達）	２		
民事訴訟法Ａ	２		
国際法入門		２	
政治学原論Ａ		２	
政治学原論Ｂ		２	
国際政治学Ａ		２	
行政学Ａ		２	
行政学Ｂ		２	
公共政策		２	
２　展開科目			
（コース科目）			
法哲学Ａ（法哲学総論）		２	
法哲学Ｂ（法哲学各論）		２	
法社会学Ａ		２	
法社会学Ｂ		２	
日本法制史Ａ		２	
日本法制史Ｂ		２	
西洋法制史Ａ		２	
西洋法制史Ｂ		２	
憲法事例研究Ａ		２	

憲法事例研究Ｂ		2		
民法（相続）	2			
民法（不法行為）	2			
民法（担保）	2			
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）	2			
支払決済法		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
民事訴訟法Ｂ	2			
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（憲法・司法）		2		
コース演習（行政法・司法）		2		
コース演習（民法Ａ・司法）		2		
コース演習（民法Ｂ・司法）		2		
コース演習（刑法・司法）		2		
コース演習（刑事訴訟法・司法）		2		
コース演習（商事法Ａ・司法）		2		
コース演習（商事法Ｂ・司法）		2		
コース演習（基礎Ａ）		2		
コース演習（基礎Ｂ）		2		
コース演習（発展Ａ・司法）	2			
コース演習（発展Ｂ・司法）	2			
コース演習（発展Ｃ・司法）		2		
コース演習（発展Ｄ・司法）		2		
コース演習（民事訴訟法・司法）		2		
コース演習（異文化理解Ａ・司法）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ・司法）		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		

外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
政治過程論		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
裁判法		2		
国際法Ａ（総論）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
保険法		2		
海商法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
消費者法		2		
国際人権法		2		
国際環境法		2		
土地家屋調査		2		

不動産鑑定		2	
金融商品と法		2	
信託法		2	
会計学		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　行政コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	
刑法総論Ａ		2	
刑法総論Ｂ		2	
刑法各論Ａ		2	
刑法各論Ｂ		2	
刑事訴訟法Ａ		2	
刑事訴訟法Ｂ		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	

公共政策		2		
２　展開科目				
（コース科目）				
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
政策法務演習		4		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（憲法）		2		
コース演習（行政法）		2		
コース演習（民法Ａ）		2		
コース演習（民法Ｂ）		2		
コース演習（社会法Ａ）		2		
コース演習（社会法Ｂ）		2		
コース演習（政治学Ａ）		2		
コース演習（政治学Ｂ）		2		
コース演習（行政学Ａ）		2		
コース演習（行政学Ｂ）		2		

コース演習（異文化理解Ａ）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ）		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
政治過程論		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際組織法		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
裁判法		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		

信託法		2	
金融商品と法		2	
民事訴訟法Ｂ		2	
民事執行・保全法		2	
破産法		2	
消費者法		2	
不動産登記法		2	
借地借家法		2	
民事再生・会社更生法		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
国際法Ａ（総論）		2	
国際法Ｂ（各論）		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
国際私法Ａ（家族法関係）		2	
国際私法Ｂ（財産法関係）		2	
国際人権法		2	
国際環境法		2	
国際取引法		2	
国際経済法		2	
ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
初級簿記		2	
中級簿記		2	
会計学		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　国際コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	

行政法Ｂ（行政作用法）		2		
行政法Ｃ（行政救済法）		2		
刑法総論Ａ		2		
刑法総論Ｂ		2		
刑法各論Ａ		2		
刑法各論Ｂ		2		
刑事訴訟法Ａ		2		
刑事訴訟法Ｂ		2		
民法（総則）		2		
民法（契約）		2		
民法（物権）		2		
民法（債権総論）		2		
民法（親族）		2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（コース科目）				
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
民法（不法行為）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
国際組織法		2		
国際人権法		2		
国際環境法		2		
国際経済法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際政治学Ｂ		2		
国際政治史		2		
日本外交史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		

英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
海商法		2		
保険法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
海外法事情演習		2		
国際経済学Ⅰ		2		
国際経済学Ⅱ		2		
開発経済学Ⅰ		2		
開発経済学Ⅱ		2		
国際協力論		2		
数的処理Ａ		2		
数的処理Ｂ		2		
コース演習（外国法Ａ）		2		
コース演習（外国法Ｂ）		2		
コース演習（国際政治学Ａ）		2		
コース演習（国際政治学Ｂ）		2		
コース演習（国際関係法Ａ）		2		
コース演習（国際関係法Ｂ）		2		
コース演習（言語と文化Ａ）		2		
コース演習（言語と文化Ｂ）		2		
コース演習（異文化理解Ａ）		2		
コース演習（異文化理解Ｂ）		2		
国際教育演習Ａ		2		
国際教育演習Ｂ		2		
３　その他の専門科目				
（演習科目）				
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
法情報処理演習		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
（自由選択科目）				
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		

労働法Ａ（労働法のしくみ）		2	
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2	
経済原論Ａ		2	
経済原論Ｂ		2	
政治史Ａ		2	
政治史Ｂ		2	
裁判法		2	
法哲学Ａ（法哲学総論）		2	
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2	
法社会学Ａ		2	
法社会学Ｂ		2	
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2	
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2	
支払決済法		2	
経済法		2	
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
破産法		2	
民事訴訟法Ｂ		2	
民事執行・保全法		2	
民法（相続）		2	
消費者法		2	
信託法		2	
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2	
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（コース科目）」から32単位以上を取得すること。

③上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（コース科目）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「３　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（犯罪・非行と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	

刑法総論Ａ		2		
刑法総論Ｂ		2		
刑法各論Ａ		2		
刑法各論Ｂ		2		
刑事訴訟法Ａ		2		
刑事訴訟法Ｂ		2		
民法（総則）		2		
民法（契約）		2		
民法（物権）		2		
民法（債権総論）		2		
民法（親族）		2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（専攻プログラム科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
社会心理学Ａ		2		
社会心理学Ｂ		2		
発達臨床心理学		2		

国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目				
（専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		

社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2	
国際法Ｂ（各論）		2	
国際政治学Ｂ		2	
日本外交史		2	
国際政治史		2	
比較政治学Ａ		2	
比較政治学Ｂ		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
地方自治法		2	
地方自治論Ａ		2	
地方自治論Ｂ		2	
都市計画論Ａ		2	
都市計画論Ｂ		2	
ＮＰＯ論Ａ		2	
ＮＰＯ論Ｂ		2	
ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
経済政策Ａ		2	
経済政策Ｂ		2	
社会政策Ａ		2	
社会政策Ｂ		2	
財政学Ａ		2	
財政学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。
②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。
③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（経済生活と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	
刑法総論Ａ		2	
刑法総論Ｂ		2	
刑法各論Ａ		2	
刑法各論Ｂ		2	
刑事訴訟法Ａ		2	
刑事訴訟法Ｂ		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（専攻プログラム科目）			
裁判法		2	
人権法Ａ		2	
人権法Ｂ		2	
国際人権法		2	

法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目 （専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
国際環境法		2		

国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		
４　その他の専門科目				

（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（会計・税務と法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	
刑法総論Ａ		2	
刑法総論Ｂ		2	
刑法各論Ａ		2	
刑法各論Ｂ		2	
刑事訴訟法Ａ		2	
刑事訴訟法Ｂ		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	

会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（専攻プログラム科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
信託法		2		
金融商品と法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		

政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
３　展開科目				
（専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
経済法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		

ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
経済政策Ａ		2	
経済政策Ｂ		2	
社会政策Ａ		2	
社会政策Ｂ		2	
財政学Ａ		2	
財政学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　専攻プログラム（まちづくりと法）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	

行政法Ｂ（行政作用法）		2		
行政法Ｃ（行政救済法）		2		
刑法総論Ａ		2		
刑法総論Ｂ		2		
刑法各論Ａ		2		
刑法各論Ｂ		2		
刑事訴訟法Ａ		2		
刑事訴訟法Ｂ		2		
民法（総則）		2		
民法（契約）		2		
民法（物権）		2		
民法（債権総論）		2		
民法（親族）		2		
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2		
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2		
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2		
民事訴訟法Ａ		2		
国際法入門		2		
政治学原論Ａ		2		
政治学原論Ｂ		2		
国際政治学Ａ		2		
行政学Ａ		2		
行政学Ｂ		2		
公共政策		2		
２　展開科目				
（専攻プログラム科目）				
裁判法		2		
人権法Ａ		2		
人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		

政治史Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
地方自治法		2		
国際環境法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
３　展開科目				
（専攻プログラム科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
犯罪学		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際組織法		2		
国際政治学Ｂ		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		

知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2	
金融商品と法		2	
消費者法		2	
不動産登記法		2	
借地借家法		2	
民事再生・会社更生法		2	
破産法		2	
民事訴訟法Ｂ		2	
民事執行・保全法		2	
日本外交史		2	
国際政治史		2	
国際私法Ａ（家族法関係）		2	
国際私法Ｂ（財産法関係）		2	
国際取引法		2	
国際経済法		2	
初級簿記		2	
中級簿記		2	
会計学		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
経済原論Ａ		2	
経済原論Ｂ		2	
土地家屋調査		2	
不動産鑑定		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」から20単位以上を取得すること。
③上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。
④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（専攻プログラム科目）」・上記「３　展開科目（専攻プログラム科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　教育副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	
刑法総論Ａ		2	
刑法総論Ｂ		2	
刑法各論Ａ		2	
刑法各論Ｂ		2	
刑事訴訟法Ａ		2	
刑事訴訟法Ｂ		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（教育副専攻科目）			
裁判法		2	
人権法Ａ		2	
人権法Ｂ		2	
国際人権法		2	
法哲学Ａ（法哲学総論）		2	

法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
国際教育演習Ａ		2		
国際教育演習Ｂ		2		
コース演習（言語と文化Ａ）		2		
コース演習（言語と文化Ｂ）		2		
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
自然地理学概論Ⅰ		2		
自然地理学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
英語学概論Ⅰ		2		
英語学概論Ⅱ		2		
学校英文法Ａ		1		
学校英文法Ｂ		1		
英文法演習Ａ		1		
英文法演習Ｂ		1		
英語文学概論Ⅰ		2		
英語文学概論Ⅱ		2		
英語文学講読Ａ		1		
英語文学講読Ｂ		1		
実践英語会話Ａ		1		
実践英語会話Ｂ		1		

英語実習（ＬＬ）Ａ		1		
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1		
英語文化概論Ⅰ		2		
英語文化概論Ⅱ		2		
３　展開科目				
（教育副専攻科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		
会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		

環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		
都市計画論Ａ		2		
都市計画論Ｂ		2		
ＮＰＯ論Ａ		2		
ＮＰＯ論Ｂ		2		
ジェンダー法Ａ		2		
ジェンダー法Ｂ		2		
国際法Ｃ（紛争解決）		2		
経済政策Ａ		2		
経済政策Ｂ		2		
社会政策Ａ		2		
社会政策Ｂ		2		
財政学Ａ		2		
財政学Ｂ		2		
法学の基礎		2		
特別講義Ａ		2		
特別講義Ｂ		2		
民事法特別講義Ⅰ		2		
民事法特別講義Ⅱ		2		
４　その他の専門科目				
（演習科目）				
一般演習Ａ		2		
一般演習Ｂ		2		
専門演習Ⅰ	4			
専門演習Ⅱ	4			
政策法務演習		4		
法情報処理演習		2		
海外法事情演習		2		
外国法政演習Ａ		2		
外国法政演習Ｂ		2		
（キャリア・プランニング教育科目）				
キャリア・デザイン２		2		
インターンシップＡ		2		

インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（教育副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（教育副専攻科目）」・上記「３　展開科目（教育副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

法律学科　スポーツ副専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
１　基幹科目			
憲法Ａ（統治）		2	
憲法Ｂ（人権）		2	
憲法Ｃ（憲法理論）		2	
憲法Ｄ（憲法訴訟）		2	
行政法Ａ（行政法通則）		2	
行政法Ｂ（行政作用法）		2	
行政法Ｃ（行政救済法）		2	
刑法総論Ａ		2	
刑法総論Ｂ		2	
刑法各論Ａ		2	
刑法各論Ｂ		2	
刑事訴訟法Ａ		2	
刑事訴訟法Ｂ		2	
民法（総則）		2	
民法（契約）		2	
民法（物権）		2	
民法（債権総論）		2	
民法（親族）		2	
商法総則・商行為Ａ（商法総則）		2	
会社法Ａ（総則・設立・機関）		2	
会社法Ｂ（株式・資金調達）		2	
民事訴訟法Ａ		2	
国際法入門		2	
政治学原論Ａ		2	
政治学原論Ｂ		2	
国際政治学Ａ		2	
行政学Ａ		2	
行政学Ｂ		2	
公共政策		2	
２　展開科目			
（スポーツ副専攻科目）			
裁判法		2	
人権法Ａ		2	

人権法Ｂ		2		
国際人権法		2		
法哲学Ａ（法哲学総論）		2		
法哲学Ｂ（法哲学各論）		2		
法社会学Ａ		2		
法社会学Ｂ		2		
日本法制史Ａ		2		
日本法制史Ｂ		2		
西洋法制史Ａ		2		
西洋法制史Ｂ		2		
民法（相続）		2		
民法（不法行為）		2		
民法（担保）		2		
国際法Ａ（総論）		2		
政治思想史Ａ		2		
政治思想史Ｂ		2		
政治過程論		2		
政治史Ａ		2		
政治史Ｂ		2		
エージェント理論		2		
トップ・アスリート論		2		
コミュニケーション・イングリッシュ・ＳＰＯＲＴＳⅠ		2		
コミュニケーション・イングリッシュ・ＳＰＯＲＴＳⅡ		2		
パフォーマンスと栄養学		2		
人材育成とリーダーシップ		2		
スポーツと知的財産		2		
イベント［競技会］運営論		2		
キャリア形成と自己分析		2		
スポーツと法Ⅰ		2		
スポーツと法Ⅱ		2		
メディアと法		2		
法学実用英語Ａ		2		
法学実用英語Ｂ		2		
社会の中の数学		2		
教育とスポーツ		2		
囲碁から学ぶスポーツ戦略		2		
３　展開科目 （スポーツ副専攻科目を除く）				
英米法Ａ（総論・アメリカ憲法）		2		
英米法Ｂ（アメリカ法制度）		2		
租税法Ａ		2		
租税法Ｂ		2		
犯罪学		2		
少年法		2		
刑事法特論		2		
商法総則・商行為Ｂ（商行為）		2		

会社法Ｃ（計算・組織再編）		2		
支払決済法		2		
保険法		2		
海商法		2		
経済法		2		
信託法		2		
知的財産法Ａ（知財の基礎）		2		
知的財産法Ｂ（知財の保護・活用）		2		
金融商品と法		2		
消費者法		2		
不動産登記法		2		
借地借家法		2		
民事訴訟法Ｂ		2		
民事執行・保全法		2		
破産法		2		
民事再生・会社更生法		2		
労働法Ａ（労働法のしくみ）		2		
労働法Ｂ（採用から退職まで）		2		
国際環境法		2		
国際私法Ａ（家族法関係）		2		
国際私法Ｂ（財産法関係）		2		
国際取引法		2		
国際経済法		2		
国際組織法		2		
経済原論Ａ		2		
経済原論Ｂ		2		
初級簿記		2		
中級簿記		2		
会計学		2		
経営学Ａ		2		
経営学Ｂ		2		
環境法Ａ（環境法概説）		2		
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）		2		
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）		2		
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）		2		
国際法Ｂ（各論）		2		
国際政治学Ｂ		2		
日本外交史		2		
国際政治史		2		
比較政治学Ａ		2		
比較政治学Ｂ		2		
土地家屋調査		2		
不動産鑑定		2		
地方自治法		2		
地方自治論Ａ		2		
地方自治論Ｂ		2		

都市計画論Ａ		2	
都市計画論Ｂ		2	
ＮＰＯ論Ａ		2	
ＮＰＯ論Ｂ		2	
ジェンダー法Ａ		2	
ジェンダー法Ｂ		2	
国際法Ｃ（紛争解決）		2	
経済政策Ａ		2	
経済政策Ｂ		2	
社会政策Ａ		2	
社会政策Ｂ		2	
財政学Ａ		2	
財政学Ｂ		2	
法学の基礎		2	
特別講義Ａ		2	
特別講義Ｂ		2	
民事法特別講義Ⅰ		2	
民事法特別講義Ⅱ		2	
４　その他の専門科目			
（演習科目）			
一般演習Ａ		2	
一般演習Ｂ		2	
専門演習Ⅰ	4		
専門演習Ⅱ	4		
政策法務演習		4	
法情報処理演習		2	
海外法事情演習		2	
外国法政演習Ａ		2	
外国法政演習Ｂ		2	
（キャリア・プランニング教育科目）			
キャリア・デザイン２		2	
インターンシップＡ		2	
インターンシップＢ		2	

＜履修方法＞

①上記「１　基幹科目」から32単位以上を取得すること。

②上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」から20単位以上を取得すること。

③上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」で20単位を超えて取得した単位数と上記「３　展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて12単位以上を取得すること。

④上記「１　基幹科目」で32単位を超えて取得した単位数、上記「２　展開科目（スポーツ副専攻科目）」・上記「３　展開科目（スポーツ副専攻科目を除く）」で取得した単位数を合わせて32単位を超えて取得した単位数及び上記「４　その他の専門科目」から取得した単位数を合わせて30単位以上取得すること。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）８単位までその他の専門科目に加算することができる。

法学部	
教職課程　教科に関する科目(１)	単位数
暮らしのなかの憲法	2
教職課程　教科に関する科目(２)	単位数
日本史概論Ⅰ	2
日本史概論Ⅱ	2
外国史概論Ⅰ	2
外国史概論Ⅱ	2
地理学概論Ⅰ	2
地理学概論Ⅱ	2
地誌学概論Ⅰ	2
地誌学概論Ⅱ	2
自然地理学概論Ⅰ	2
自然地理学概論Ⅱ	2
哲学概論Ⅰ	2
哲学概論Ⅱ	2
倫理学概論Ⅰ	2
倫理学概論Ⅱ	2
英語学概論Ⅰ	2
英語学概論Ⅱ	2
学校英文法Ａ	1
学校英文法Ｂ	1
英文法演習Ａ	1
英文法演習Ｂ	1
英語文学概論Ⅰ	2
英語文学概論Ⅱ	2
英語文学講読Ａ	1
英語文学講読Ｂ	1
実践英語会話Ａ	1
実践英語会話Ｂ	1
英語実習（ＬＬ）Ａ	1
英語実習（ＬＬ）Ｂ	1
英語文化概論Ⅰ	2
英語文化概論Ⅱ	2

別表(１)―２

経済学部授業科目表

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】（全学科共通）			
（人間性・社会性科目群）			
人権と社会　１		2	
人権と社会　２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
哲学と人間・社会		2	

現代社会と法		2		
現代社会と政治		2		
現代社会と人間		2		
教養特殊講義Ａ		2		
（地域性・国際性科目群）				
地域と環境の地理学		2		
国際化と異文化理解		2		
日本近現代史		2		
世界近現代史		2		
現代世界と民族・宗教		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
基礎ゼミ	2			
日本語の技法		2		
生命の科学		2		
環境科学		2		
基礎数学		2		
キャリアデザイン		2		
データリテラシー入門		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ　１		1		
生涯スポーツ　２		1		
食生活と健康		2		
心と体の健康		2		
【外国語科目】（全学科共通）				
（第一外国語科目）（英語）				
（基幹科目）				
英語１Ｌ		1		
英語１Ｒ		1		
英語２Ｌ		1		
英語２Ｒ		1		
英語３Ｔ		1		
英語３Ｒ		1		
英語４Ｔ		1		
英語４Ｒ		1		
オーラルイングリッシュ　１		1		
オーラルイングリッシュ　２		1		
オーラルイングリッシュ　３		1		
オーラルイングリッシュ　４		1		
（発展科目）				
総合英語１		1		
総合英語２		1		
自己表現の英作文１		1		
自己表現の英作文２		1		

ＴＯＥＩＣ　１		1		
ＴＯＥＩＣ　２		1		
スーパー英語（ＴＯＥＩＣ）１		1		
スーパー英語（ＳＫＩＬＬＳ）１		1		
スーパー英語（ＴＯＥＩＣ）２		1		
スーパー英語（ＳＫＩＬＬＳ）２		1		
ニュース英語１		1		
ニュース英語２		1		
カルチャー英語１		1		
カルチャー英語２		1		
アドバンストオーラルイングリッシュ１		1		
アドバンストオーラルイングリッシュ２		1		
【第二外国語】				
（基幹科目）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		
韓国語総合４		1		
（発展科目）				
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
ドイツ語カルチャーセミナーＡ		1		
ドイツ語カルチャーセミナーＢ		1		
フランス語コミュニケーション１		1		
フランス語コミュニケーション２		1		
フランス語コミュニケーション３		1		
フランス語コミュニケーション４		1		
フランス語カルチャーセミナーＡ		1		
フランス語カルチャーセミナーＢ		1		
中国語コミュニケーション１		1		
中国語コミュニケーション２		1		
中国語コミュニケーション３		1		

中国語コミュニケーション４		1	
中国語カルチャーセミナーA		1	
中国語カルチャーセミナーB		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
韓国語カルチャーセミナーA		1	
韓国語カルチャーセミナーB		1	

経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	
計量経済学Ⅰ		2	
計量経済学Ⅱ		2	
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
（学科共通科目）			
日本経済入門		2	
ミクロ経済学Ⅱ		2	
マクロ経済学Ⅱ		2	
経済史Ⅰ		2	
経済史Ⅱ		2	
経済政策論Ⅰ		2	
基礎経済心理学		2	
（分野科目）			
〈経済学コース科目〉			
経済数学Ⅰ		2	
経済数学Ⅱ		2	
貨幣論		2	
公共経済学		2	
現代産業論		2	
日本経済史Ⅰ		2	
日本経済史Ⅱ		2	
応用ミクロ経済学		2	
応用マクロ経済学		2	
経済政策論Ⅱ		2	

産業連関論		2	
〈経済心理学コース科目〉			
経済数学Ⅰ		2	
経済数学Ⅱ		2	
経済心理学		2	
実験経済学Ⅰ		2	
行動経済学Ⅰ		2	
実験データ分析		2	
応用ミクロ経済学		2	
応用マクロ経済学		2	
労働経済学Ⅰ		2	
組織と情報の経済学		2	
【専門基幹科目Ａ】			
（学科共通科目）			
財政学Ⅰ		2	
財政学Ⅱ		2	
金融論Ⅰ		2	
金融論Ⅱ		2	
商法Ⅰ		2	
国際経済学		2	
経済法		2	
日本経済論Ⅰ		2	
日本経済論Ⅱ		2	
（分野科目）			
〈経済学コース科目〉			
経済心理学		2	
実験経済学Ⅰ		2	
行動経済学Ⅰ		2	
経済学史		2	
行動ファイナンス		2	
ゲーム理論		2	
経済変動論Ⅰ		2	
経済変動論Ⅱ		2	
近代経済学史Ⅰ		2	
近代経済学史Ⅱ		2	
商法Ⅱ		2	
財政政策論Ⅰ		2	
財政政策論Ⅱ		2	
地方財政学Ⅰ		2	
地方財政学Ⅱ		2	
国際金融論Ⅰ		2	
国際金融論Ⅱ		2	
社会調査論		2	
デリバティブ論		2	
金融政策論		2	
情報システム論Ⅰ		2	

情報システム論Ⅱ		2	
交通経済学Ⅰ		2	
交通経済学Ⅱ		2	
労働経済学Ⅰ		2	
労働経済学Ⅱ		2	
産業組織論Ⅰ		2	
産業組織論Ⅱ		2	
知的財産法		2	
環境経済学		2	
経済社会学Ⅰ		2	
経済社会学Ⅱ		2	
西洋経済史Ⅰ		2	
西洋経済史Ⅱ		2	
経済地理学		2	
西洋経済思想史Ⅰ		2	
西洋経済思想史Ⅱ		2	
日本経済思想史		2	
〈経済心理学コース科目〉			
行動ファイナンス		2	
ゲーム理論		2	
認知心理学		2	
社会心理学		2	
実験経済学Ⅱ		2	
行動経済学Ⅱ		2	
経済倫理学		2	
マーケティング		2	
神経経済学		2	
経済社会学Ⅰ		2	
労働経済学Ⅱ		2	
産業組織論Ⅰ		2	
環境経済学		2	
【専門基幹科目Ｂ】			
（学科共通科目（情報専門科目））			
プログラミング論Ⅰ		2	
プログラミング論Ⅱ		2	
コンピュータ概論Ⅰ		2	
コンピュータ概論Ⅱ		2	
コンピュータ特修実習Ⅰ		2	
コンピュータ特修実習Ⅱ		2	
情報処理論Ⅰ		2	
情報処理論Ⅱ		2	
コンピュータ特修実習Ⅲ		2	
コンピュータ特修実習Ⅳ		2	
プログラミング特論Ⅰ		2	
プログラミング特論Ⅱ		2	
応用情報処理論Ⅰ		2	

応用情報処理論Ⅱ		2	
コンピュータ会計Ⅰ		2	
コンピュータ会計Ⅱ		2	
（学科共通科目）			
特殊講義ＩＡ		1	
特殊講義ＩＢ		1	
簿記論Ⅰ		2	
簿記論Ⅱ		2	
民法Ⅰ		2	
民法Ⅱ		2	
特殊講義Ⅱ		2	
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2	
簿記論Ⅲ		2	
簿記論Ⅳ		2	
会計学		2	
特殊講義Ⅲ		2	
特殊講義Ⅳ		2	
特殊講義Ⅴ		2	
特殊講義Ⅵ		2	
インターンシップ		2	
外国語演習Ⅰ		4	
外国語演習Ⅱ		4	
商学		2	
経営学		2	
外国文献研究		2	
憲法Ⅰ		2	
憲法Ⅱ		2	
行政法Ⅰ		2	
行政法Ⅱ		2	
国際法		2	
卒業論文		4	
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2	
（分野科目）			
〈経済学コース科目〉			
実験経済学Ⅱ		2	
行動経済学Ⅱ		2	
産業組織論Ⅰ		2	
産業組織論Ⅱ		2	
西洋経済思想史Ⅰ		2	
西洋経済思想史Ⅱ		2	
産業連関論		2	
経済心理学		2	
実験経済学Ⅰ		2	
行動経済学Ⅰ		2	
経済変動論Ⅰ		2	
経済変動論Ⅱ		2	

国際税制		2	
保険論		2	
経済社会学Ⅰ		2	
経済社会学Ⅱ		2	
地域経済学		2	
ロジスティクス論		2	
コーポレートガバナンス論		2	
多国籍企業論Ⅰ		2	
多国籍企業論Ⅱ		2	
社会保障論Ⅰ		2	
社会保障論Ⅱ		2	
アジア経済史Ⅰ		2	
アジア経済史Ⅱ		2	
近代日本経済史		2	
外国総合演習Ⅰ		2	
外国総合演習Ⅱ		2	
外国総合演習Ⅲ		2	
異文化演習Ⅰ		2	
異文化演習Ⅱ		2	
異文化演習Ⅲ		2	
〈経済心理学コース科目〉			
経済政策論Ⅱ		2	
社会調査論		2	
デリバティブ論		2	
情報システム論Ⅰ		2	
情報システム論Ⅱ		2	
コーポレートガバナンス論		2	
外国総合演習Ⅰ		2	
外国総合演習Ⅱ		2	
外国総合演習Ⅲ		2	
異文化演習Ⅰ		2	
異文化演習Ⅱ		2	
異文化演習Ⅲ		2	
【専門基幹科目Ｃ】			
（学科共通科目（教育専門科目））			
日本史概論Ⅰ		2	
日本史概論Ⅱ		2	
外国史概論Ⅰ		2	
外国史概論Ⅱ		2	
地理学概論Ⅰ		2	
地理学概論Ⅱ		2	
地誌学概論Ⅰ		2	
地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	

倫理学概論Ⅱ		2	
自然地理学概論Ⅰ		2	
自然地理学概論Ⅱ		2	
職業指導Ⅰ			2
職業指導Ⅱ			2
英語学概論Ⅰ		2	
英語学概論Ⅱ		2	
学校英文法Ａ		1	
学校英文法Ｂ		1	
英文法演習Ａ		1	
英文法演習Ｂ		1	
英語文学概論Ⅰ		2	
英語文学概論Ⅱ		2	
英語文学講読Ａ		1	
英語文学講読Ｂ		1	
実践英語会話Ａ		1	
実践英語会話Ｂ		1	
英語実習（ＬＬ）Ａ		1	
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1	
英語文化概論Ⅰ		2	
英語文化概論Ⅱ		2	
【他学部単位互換科目】			
（経営学部）			
国際経営論		2	
証券投資論		2	
外国為替論		2	
会社法		2	
経営史		2	
現代日本経営史		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
（法学部）			
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法Ａ		2	
社会保障法Ｂ		2	
国際組織法		2	
国際取引法		2	
【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2

（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2
インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2
教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・コース科目・他コース科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）を合わせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

総合経済政策学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	

計量経済学Ⅰ		2		
計量経済学Ⅱ		2		
演習Ⅰ	4			
演習Ⅱ	4			
（学科共通科目）				
日本経済入門		2		
ミクロ経済学Ⅱ		2		
マクロ経済学Ⅱ		2		
公共経済学		2		
金融論Ⅰ		2		
財政学Ⅰ		2		
産業組織論Ⅰ		2		
経済政策論Ⅰ		2		
（分野科目）				
日本経済論Ⅰ		2		
日本経済論Ⅱ		2		
産業組織論Ⅱ		2		
財政学Ⅱ		2		
経済地理学		2		
中小企業論Ⅰ		2		
中小企業論Ⅱ		2		
金融論Ⅱ		2		
応用マクロ経済学		2		
経済政策論Ⅱ		2		
公共政策論		2		
経済社会学		2		
応用ミクロ経済学		2		
国際金融論		2		
【専門基幹科目Ａ】				
（学科共通科目）				
政治学原理Ⅰ		2		
政治学原理Ⅱ		2		
憲法Ⅰ		2		
憲法Ⅱ		2		
簿記論Ⅰ		2		
簿記論Ⅱ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2		
簿記論Ⅲ		2		
簿記論Ⅳ		2		
財政政策論Ⅰ		2		
社会保障論Ⅰ		2		
環境経済学		2		
国際経済学		2		
（分野科目）				
福祉政策論		2		

都市政策論Ⅰ		2		
都市政策論Ⅱ		2		
地域経済学Ⅰ		2		
地域経済学Ⅱ		2		
労働経済学		2		
商法Ⅰ		2		
商法Ⅱ		2		
経済法		2		
観光資源論		2		
財政政策論Ⅱ		2		
社会保障論Ⅱ		2		
金融政策論		2		
交通経済学Ⅰ		2		
交通経済学Ⅱ		2		
環境政策論		2		
地方財政学Ⅰ		2		
地方財政学Ⅱ		2		
デリバティブ論		2		
国際税制		2		
国際投資論		2		
財務会計論		2		
関西経済論		2		
【専門基幹科目Ｂ】				
（学科共通科目（情報専門科目））				
コンピュータ概論Ⅰ		2		
コンピュータ概論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅰ		2		
コンピュータ特修実習Ⅱ		2		
情報処理論Ⅰ		2		
情報処理論Ⅱ		2		
情報システム論Ⅰ		2		
情報システム論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅲ		2		
コンピュータ特修実習Ⅳ		2		
応用情報処理論Ⅰ		2		
応用情報処理論Ⅱ		2		
情報データ解析入門		2		
（学科共通科目）				
特殊講義ＩＡ		1		
特殊講義ＩＢ		1		
民法Ⅰ		2		
社会調査論		2		
フィールドワークⅠ		4		
特殊講義Ⅱ		2		
インターンシップ		2		
外国語演習Ⅰ		4		

外国語演習Ⅱ		4		
外国文献研究		2		
特殊講義Ⅲ		2		
特殊講義Ⅳ		2		
特殊講義Ⅴ		2		
特殊講義Ⅵ		2		
卒業論文		4		
（分野科目）				
フィールドワークⅡ		4		
地方自治論		2		
経済変動論		2		
民法Ⅱ		2		
プログラミング論Ⅰ		2		
プログラミング論Ⅱ		2		
組織と情報の経済学		2		
地方自治法		2		
行政法Ⅰ		2		
行政法Ⅱ		2		
国際法Ⅰ		2		
国際法Ⅱ		2		
会社法Ⅰ		2		
会社法Ⅱ		2		
知的財産法		2		
プログラミング特論Ⅰ		2		
プログラミング特論Ⅱ		2		
コンピュータ会計Ⅰ		2		
コンピュータ会計Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅰ		2		
外国総合演習Ⅱ		2		
外国総合演習Ⅲ		2		
異文化演習Ⅰ		2		
異文化演習Ⅱ		2		
異文化演習Ⅲ		2		
【専門基幹科目Ｃ】				
（学科共通科目（教育専門科目））				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		

倫理学概論Ⅱ		2	
職業指導Ⅰ			2
職業指導Ⅱ			2
英語学概論Ⅰ		2	
英語学概論Ⅱ		2	
学校英文法Ａ		1	
学校英文法Ｂ		1	
英文法演習Ａ		1	
英文法演習Ｂ		1	
英語文学概論Ⅰ		2	
英語文学概論Ⅱ		2	
英語文学講読Ａ		1	
英語文学講読Ｂ		1	
実践英語会話Ａ		1	
実践英語会話Ｂ		1	
英語実習（ＬＬ）Ａ		1	
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1	
英語文化概論Ⅰ		2	
英語文化概論Ⅱ		2	
【他学部単位互換科目】			
（経営学部）			
国際経営論		2	
保険論Ⅰ		2	
保険論Ⅱ		2	
証券投資論		2	
外国為替論		2	
マーケティング		2	
経営史		2	
現代日本経営史		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
（法学部）			
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法Ａ		2	
社会保障法Ｂ		2	
国際組織法		2	
国際取引法		2	
【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2

（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2
インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2
教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）合わせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。

ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

国際経済学科

授業科目	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
【専門基礎科目】			
（学部共通科目）			
統計学Ⅰ		2	
統計学Ⅱ		2	
ミクロ経済学Ⅰ		2	
マクロ経済学Ⅰ		2	
コンピュータ実習Ⅰ		1	
コンピュータ実習Ⅱ		1	
コンピュータ実習Ⅲ		1	
コンピュータ実習Ⅳ		1	

計量経済学Ⅰ		2		
計量経済学Ⅱ		2		
演習Ⅰ	4			
演習Ⅱ	4			
（学科共通科目）				
基礎国際経済学		2		
日本経済入門		2		
ミクロ経済学Ⅱ		2		
マクロ経済学Ⅱ		2		
国際経済学Ⅰ		2		
開発経済学Ⅰ		2		
貿易論		2		
多国籍企業論Ⅰ		2		
国際金融論Ⅰ		2		
（分野科目）				
国際投資論Ⅰ		2		
国際投資論Ⅱ		2		
労働移動論		2		
多国籍企業論Ⅱ		2		
国際経済学Ⅱ		2		
開発経済学Ⅱ		2		
国際協力論		2		
地域統合論		2		
応用ミクロ経済学		2		
応用マクロ経済学		2		
国際金融論Ⅱ		2		
【専門基幹科目Ａ】				
（学科共通科目）				
専修英語Ⅰ		1		
専修英語Ⅱ		1		
基礎中国語Ⅰ		1		
基礎中国語Ⅱ		1		
金融論Ⅰ		2		
専修英語Ⅲ		1		
専修英語Ⅳ		1		
会話中国語		1		
ビジネス中国語		1		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ		2		
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ		2		
ヨーロッパ経済論Ⅰ		2		
アジア経済論		2		
アメリカ経済論Ⅰ		2		
国際法Ⅰ		2		
労働経済学Ⅰ		2		
（分野科目）				
金融論Ⅱ		2		

日本経済論Ⅰ		2		
日本経済論Ⅱ		2		
ヨーロッパ経済論Ⅱ		2		
アメリカ経済論Ⅱ		2		
国際法Ⅱ		2		
損害保険論		2		
国際マーケティング論		2		
国際取引法		2		
労働経済学Ⅱ		2		
中国経済論Ⅰ		2		
中国経済論Ⅱ		2		
韓国経済論		2		
東南アジア経済論		2		
関西経済論		2		
【専門基幹科目Ｂ】				
（学科共通科目（情報専門科目））				
コンピュータ概論Ⅰ		2		
コンピュータ概論Ⅱ		2		
情報データ解析入門		2		
コンピュータ特修実習Ⅰ		2		
コンピュータ特修実習Ⅱ		2		
情報処理論Ⅰ		2		
情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ特修実習Ⅲ		2		
コンピュータ特修実習Ⅳ		2		
応用情報処理論Ⅰ		2		
応用情報処理論Ⅱ		2		
コンピュータ会計Ⅰ		2		
コンピュータ会計Ⅱ		2		
（学科共通科目）				
特殊講義ＩＡ		1		
特殊講義ＩＢ		1		
簿記論Ⅰ		2		
簿記論Ⅱ		2		
特殊講義Ⅱ		2		
国際政治学		2		
民法Ⅰ		2		
簿記論Ⅲ		2		
簿記論Ⅳ		2		
特殊講義Ⅲ		2		
特殊講義Ⅳ		2		
特殊講義Ⅴ		2		
特殊講義Ⅵ		2		
専修英語Ⅴ		1		
専修英語Ⅵ		1		
専修英語Ⅶ		1		

専修英語Ⅷ		1	
外国文献研究		2	
インターンシップ		2	
外国語演習Ⅰ		4	
外国語演習Ⅱ		4	
憲法Ⅰ		2	
憲法Ⅱ		2	
行政法Ⅰ		2	
行政法Ⅱ		2	
卒業論文		4	
（分野科目）			
国際会計学		2	
民法Ⅱ		2	
西洋経済史Ⅰ		2	
西洋経済史Ⅱ		2	
アジア経済史Ⅰ		2	
アジア経済史Ⅱ		2	
近代日本経済史		2	
経済地理学		2	
環境経済学		2	
国際観光論		2	
外国総合演習Ⅰ		2	
外国総合演習Ⅱ		2	
外国総合演習Ⅲ		2	
異文化演習Ⅰ		2	
異文化演習Ⅱ		2	
異文化演習Ⅲ		2	
【専門基幹科目Ｃ】			
（学科共通科目（教育専門科目））			
日本史概論Ⅰ		2	
日本史概論Ⅱ		2	
外国史概論Ⅰ		2	
外国史概論Ⅱ		2	
地理学概論Ⅰ		2	
地理学概論Ⅱ		2	
地誌学概論Ⅰ		2	
地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	
倫理学概論Ⅱ		2	
職業指導Ⅰ			2
職業指導Ⅱ			2
英語学概論Ⅰ		2	
英語学概論Ⅱ		2	
学校英文法Ａ		1	

学校英文法Ｂ		1	
英文法演習Ａ		1	
英文法演習Ｂ		1	
英語文学概論Ⅰ		2	
英語文学概論Ⅱ		2	
英語文学講読Ａ		1	
英語文学講読Ｂ		1	
実践英語会話Ａ		1	
実践英語会話Ｂ		1	
英語実習（ＬＬ）Ａ		1	
英語実習（ＬＬ）Ｂ		1	
英語文化概論Ⅰ		2	
英語文化概論Ⅱ		2	
【他学部単位互換科目】			
（経営学部）			
国際経営論		2	
保険論Ⅰ		2	
保険論Ⅱ		2	
証券投資論		2	
外国為替論		2	
マーケティング		2	
会社法		2	
経営史		2	
現代日本経営史		2	
商業史Ⅰ		2	
商業史Ⅱ		2	
（法学部）			
租税法Ａ		2	
租税法Ｂ		2	
支払決済法		2	
保険法		2	
海商法		2	
社会保障法Ａ		2	
社会保障法Ｂ		2	
国際組織法		2	
【自由科目】			
（実学特修課程科目）			
（特修課程固有科目）			
コミュニケーションセミナーⅠ			2
コミュニケーションセミナーⅡ			2
（学部専門科目）			
特殊講義ＩＡ			1
特殊講義ＩＢ			1
日本経済入門			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅠ			2
Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　ＥｎｇｌｉｓｈⅡ			2

インターンシップ			2
（共通教養科目）			
暮らしのなかの憲法			2
芸術鑑賞入門			2
国際化と異文化理解			2
キャリアデザイン			2
教養特殊講義Ａ			2
教養特殊講義Ｂ			2
教養特殊講義Ｃ			2
食生活と健康			2
心と体の健康			2

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目の各科目群からそれぞれ１単位以上を修得し、必修２単位を含む16単位以上、外国語科目（英語14単位を含む）20単位以上、合計36単位以上、また、専門科目において、学部共通科目（必修科目８単位を含む）14単位以上、学科共通科目（情報専門科目８単位を含む）28単位以上、とは別に学部共通科目・学科共通科目・分野科目・他分野科目・他学部単位互換科目（８単位まで）合わせて、合計92単位以上、総計128単位以上を修得しなければならない。ただし、自由科目は、単位を修得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位として認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

大学コンソーシアム大阪単位互換科目は他学部単位互換科目と合わせて８単位まで加算することができる。

別表（１）―３

経営学部授業科目表

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
基礎ゼミ	2		
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	
自校学習		1	
情報処理基礎	2		
キャリアデザイン		2	
日本語の技法		2	

生命の科学		2		
環境科学		2		
思考の技術		2		
経営・経済のための数学		2		
ビジネス実務講座		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
教養特殊講義		2		
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
健康とスポーツの科学		2		
地域と環境の地理学		2		
国際化と異文化理解		2		
日本近現代史		2		
世界近現代史		2		
日本文化論		2		
教養特殊講義Ａ		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
データリテラシー入門		2		
［第一外国語科目］（英語）				
（基幹科目）				
英語１ＧＡ	1			
英語１ＲＡ	1			
英語１ＧＢ	1			
英語１ＲＢ	1			
英語２Ａ	1			
英語２Ｂ	1			
英語３Ａ	1			
英語３Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ１Ａ	1			
オーラルイングリッシュ１Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ２Ａ		1		
オーラルイングリッシュ２Ｂ		1		
オーラルイングリッシュ３Ａ		1		
オーラルイングリッシュ３Ｂ		1		
（発展科目）				
資格英語Ａ		1		
資格英語Ｂ		1		
英語表現Ａ		1		
英語表現Ｂ		1		
上級英語Ａ		1		
上級英語Ｂ		1		
英語特殊講義Ａ		1		
英語特殊講義Ｂ		1		
海外語学研修（英語）		2		
［第二外国語］				

（基幹科目）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
スペイン語総合１		1		
スペイン語総合２		1		
スペイン語総合３		1		
スペイン語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		
韓国語総合４		1		
（発展科目）				
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
フランス語コミュニケーション１		1		
フランス語コミュニケーション２		1		
フランス語コミュニケーション３		1		
フランス語コミュニケーション４		1		
スペイン語コミュニケーション１		1		
スペイン語コミュニケーション２		1		
中国語コミュニケーション１		1		
中国語コミュニケーション２		1		
中国語コミュニケーション３		1		
中国語コミュニケーション４		1		
韓国語コミュニケーション１		1		
韓国語コミュニケーション２		1		
韓国語コミュニケーション３		1		
韓国語コミュニケーション４		1		
ドイツ語カルチャーセミナーＡ		1		
ドイツ語カルチャーセミナーＢ		1		
フランス語カルチャーセミナーＡ		1		
フランス語カルチャーセミナーＢ		1		
中国語カルチャーセミナーＡ		1		
中国語カルチャーセミナーＢ		1		

韓国語カルチャーセミナーA		1	
韓国語カルチャーセミナーB		1	
海外語学研修（ドイツ語）		1	
海外語学研修（フランス語）		1	
海外語学研修（スペイン語）		1	
海外語学研修（中国語）		1	
海外語学研修（韓国語）		1	

経営学科　企業経営コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学A		2	
経営学B		2	
商学A		2	
商学B		2	
簿記論A		2	
簿記論B		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
ＩＴビジネス入門		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習A		2	
コンピュータ特修実習B		2	
［基幹科目］			
経営管理論		2	
経営組織論		2	
組織行動論		2	
人的資源管理論		2	
ダイバーシティ経営論		2	
生産管理論		2	
経営史		2	
現代日本経営史		2	
経営数学A		2	
経営数学B		2	
企業行動論		2	

企業発展論		2		
マネジメント・コントロール		2		
意思決定論		2		
企業形態論		2		
経営統計論Ａ		2		
経営統計論Ｂ		2		
コーポレートガバナンス論		2		
国際経営論		2		
経営科学		2		
財務管理論		2		
投資決定論		2		
マーケティング管理論		2		
多国籍企業論		2		
公共経営論		2		
ビジネス・エシックス		2		
消費者行動分析		2		
サービス経営論		2		
ネットビジネス論		2		
経営戦略論		2		
事業システム論		2		
財務分析		2		
企業分析		2		
非営利組織経営論		2		
公企業経営論		2		
ベンチャービジネス論		2		
中小企業経営論		2		
地域経営論		2		
環境経営論		2		
企業論		2		
イノベーション論		2		
ネットワーク産業論		2		
技術経営論		2		
西洋経営史		2		
新興国ビジネス論		2		
サービスサイエンス		2		
コンテンツビジネス論		2		
ビジネス実践Ａ		2		
ビジネス実践Ｂ		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		

地誌学概論Ⅱ		2	
哲学概論Ⅰ		2	
哲学概論Ⅱ		2	
倫理学概論Ⅰ		2	
倫理学概論Ⅱ		2	
財務会計Ⅰ		2	
原価計算Ⅰ		2	
ビジネスエコノミクス		2	
日本経済論		2	
民法Ⅰ		2	
民法Ⅱ		2	
秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ⅰ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し､その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	

※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		１	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		１	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		１	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		１	
海外語学研修（英語）		２	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		２	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科　ＩＴビジネスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
ＩＴビジネス入門		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
ＩＴビジネス論		2	
ネットビジネス論		2	
ネットビジネス基礎		2	
Ｂ２Ｂビジネス基礎		2	
ビジネス・シミュレーション		2	
情報戦略論		2	
企業と情報戦略		2	
システム企画論		2	
システム運用論		2	
情報組織論基礎		2	
情報組織論応用		2	
プログラム設計論Ⅰ		2	
プログラム設計論Ⅱ		2	
プログラミング論基礎		2	
プログラミング論応用		2	
コンピュータ特修実習Ｃ		2	
コンピュータ特修実習Ｄ		2	
情報システム入門		2	
経営科学		2	

ＩＴビジネス・プランニング論Ⅰ		2		
ＩＴビジネス・プランニング論Ⅱ		2		
Ｂ２Ｂビジネス応用		2		
情報セキュリティ論		2		
電子商取引法		2		
会計情報論		2		
コンテンツビジネス論		2		
プロジェクト管理論		2		
プロジェクト管理実践		2		
データベース設計論		2		
データベース構築論		2		
アプリケーション構築論Ⅰ		2		
アプリケーション構築論Ⅱ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ａ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｂ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｃ		2		
ＩＴビジネス特修実習Ｄ		2		
情報ネットワーク論		2		
情報システム論		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
原価計算Ⅰ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		

国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ⅰ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1） ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2） ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3） ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4） 本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

経営学科　スポーツマネジメントコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
ＩＴビジネス入門		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	

コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
スポーツ科学概論		2		
スポーツ心理学		2		
スポーツ指導論		2		
スポーツ医学		2		
スポーツコミュニケーション論		2		
スポーツビジネス論		2		
囲碁で学ぶ経営科学入門		2		
トップアスリート論		2		
トレーニング科学		2		
スポーツ生理学		2		
発育発達学		2		
スポーツマーケティング論		2		
救急処置		2		
スポーツと情報		2		
経営管理論		2		
経営組織論		2		
組織行動論		2		
経営史		2		
現代日本経営史		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
原価計算Ⅰ		2		
原価計算Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
リーダーシップ論		2		
スポーツバイオメカニクス		2		
スポーツサービス論		2		
スポーツ経営論		2		
スポーツ社会学		2		
スポーツ行政論		2		
スポーツ栄養学		2		
人的資源管理論		2		
ダイバーシティ経営論		2		

財務管理論		2		
投資決定論		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
国際経営論		2		
コーチング		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		
特殊講義Ｇ		2		
特殊講義Ｈ		2		
特殊講義Ⅰ		2		

特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		

※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3） ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｓｅｍｉｎａｒ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｅｎｇｌｉｓｈ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｓｋｉｌｌｓ Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4） 本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　マーケティング戦略コース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
マーケティング戦略論Ⅰ		2	
マーケティング戦略論Ⅱ		2	
消費者行動論Ⅰ		2	
消費者行動論Ⅱ		2	

流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
貿易論Ⅰ		2		
貿易論Ⅱ		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
サービスマネジメント論Ⅰ		2		
サービスマネジメント論Ⅱ		2		
観光事業論Ⅰ		2		
観光事業論Ⅱ		2		
貿易実務論Ⅰ		2		
貿易実務論Ⅱ		2		
ロジスティクス論		2		
チャネル戦略論		2		
製品戦略論		2		
価格戦略論		2		
ブランド論		2		
広告論		2		
マーケティングリサーチ論		2		
サービス・マーケティング		2		
サービス産業論		2		
リレーションシップマーケティング		2		
国際マーケティング		2		
デジタル・マーケティング		2		
リテール・マーケティング		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		

民法Ⅰ		2	
民法Ⅱ		2	
秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
財務会計Ⅰ		2	
財務会計Ⅱ		2	
上級簿記Ⅰ		2	
上級簿記Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ⅰ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）

・外国語科目（18単位以上英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）

・基礎科目（16単位以上）

・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	

海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5）　ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6）　ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　観光・サービスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	

商学Ａ		2		
商学Ｂ		2		
簿記論Ａ		2		
簿記論Ｂ		2		
統計学		2		
マーケティング		2		
コミュニケーション基礎		2		
会計学基礎論		2		
ミクロ経済学		2		
マクロ経済学		2		
［情報科目］				
コンピュータ概論		2		
情報倫理		2		
コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
消費者行動論Ⅰ		2		
消費者行動論Ⅱ		2		
サービスマネジメント論Ⅰ		2		
サービスマネジメント論Ⅱ		2		
観光事業論Ⅰ		2		
観光事業論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
貿易論Ⅰ		2		
貿易論Ⅱ		2		
貿易実務論Ⅰ		2		
貿易実務論Ⅱ		2		
サービス産業論		2		
サービス・マーケティング		2		
サービスサイエンス		2		

旅行産業論		2		
旅行業務論		2		
ホテルマネジメント論		2		
ホテル戦略論		2		
レジャー産業論		2		
フードビジネス論		2		
航空交通論		2		
観光産業分析		2		
観光資源論		2		
国際観光論		2		
地域観光論		2		
観光マーケティング		2		
外国為替論		2		
リレーションシップマーケティング		2		
観光・サービス各論		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
上級簿記Ⅰ		2		
上級簿記Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		

特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ｉ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語10単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｔｈｅｏｒｙ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｅｔｈｉｃｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1） ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2） ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3） ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｓｅｍｉｎａｒ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｅｎｇｌｉｓｈ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｓｋｉｌｌｓ Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4） 本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

商学科　貿易・ファイナンスコース

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
コミュニケーション基礎		2	
会計学基礎論		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	

データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
貿易論Ⅰ		2		
貿易論Ⅱ		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
保険論Ⅰ		2		
保険論Ⅱ		2		
交通論Ⅰ		2		
交通論Ⅱ		2		
流通システム論Ⅰ		2		
流通システム論Ⅱ		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
消費者行動論Ⅰ		2		
消費者行動論Ⅱ		2		
商業史Ⅰ		2		
商業史Ⅱ		2		
サービスマネジメント論Ⅰ		2		
サービスマネジメント論Ⅱ		2		
観光事業論Ⅰ		2		
観光事業論Ⅱ		2		
貿易実務論Ⅰ		2		
貿易実務論Ⅱ		2		
多国籍企業論		2		
総合商社論		2		
国際経営論		2		
国際ロジスティクス論		2		
貿易英語		2		
上級貿易英語		2		
外国為替論		2		
海外経済事情Ａ		2		
海外経済事情Ｂ		2		
証券市場論		2		
証券投資論		2		
生命保険論		2		
損害保険論		2		
銀行論		2		
コーポレートファイナンス論		2		
ファイナンシャル・プランニング論		2		
リスクマネジメント論		2		
国際マーケティング		2		
デジタル・ファイナンス論		2		

［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
上級簿記Ⅰ		2		
上級簿記Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		
特殊講義Ｇ		2		
特殊講義Ｈ		2		
特殊講義Ⅰ		2		
特殊講義Ｊ		2		
特殊講義Ｋ		2		
特殊講義Ｌ		2		
特殊講義Ｍ		2		
特殊講義Ｎ		2		
特殊講義Ｏ		2		

特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし他学科基幹科目、他コース基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他コース、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		

※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4）　本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２

単位を認定する。

（5） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

会計学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
会計学基礎論		2	
工業簿記		2	
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	
ミクロ経済学		2	
マクロ経済学		2	
コミュニケーション基礎		2	
［情報科目］			
コンピュータ概論		2	
情報倫理		2	
コンピュータ実習		2	
経営情報論		2	
情報管理論		2	
データ分析論		2	
情報分析論		2	
コンピュータ特修実習Ａ		2	
コンピュータ特修実習Ｂ		2	
［基幹科目］			
商業簿記Ⅰ		2	
商業簿記Ⅱ		2	
財務会計Ⅰ		2	
財務会計Ⅱ		2	
会計学Ⅰ		2	
会計学Ⅱ		2	
原価計算Ⅰ		2	
原価計算Ⅱ		2	
上級工業簿記Ⅰ		2	
上級工業簿記Ⅱ		2	

英文会計		2		
監査基準論		2		
監査報告書論		2		
会計史		2		
経営管理論		2		
マーケティング戦略論Ⅰ		2		
マーケティング戦略論Ⅱ		2		
社会環境会計		2		
サステナブル・ファイナンス		2		
連結会計		2		
意思決定会計		2		
コスト・マネジメント		2		
マネジメント・コントロール・システム		2		
会計職業倫理		2		
経営内部統制論		2		
税務会計Ⅰ		2		
税務会計Ⅱ		2		
財務分析		2		
企業分析		2		
国際会計Ⅰ		2		
国際会計Ⅱ		2		
会計情報システム論Ａ		2		
会計情報システム論Ｂ		2		
租税法		2		
経営戦略論		2		
事業システム論		2		
ファイナンス論Ⅰ		2		
ファイナンス論Ⅱ		2		
ビジネス・エシックス		2		
会計データ分析		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		

民法Ⅱ		2	
秘書学Ⅰ		2	
秘書学Ⅱ		2	
国際政治学Ⅰ		2	
国際政治学Ⅱ		2	
商法総則・商行為		2	
会社法		2	
上級会社法		2	
外国文献研究Ａ		2	
外国文献研究Ｂ		2	
国際経済論		2	
地域経済論		2	
特殊講義Ａ		2	
特殊講義Ｂ		2	
特殊講義Ｃ		2	
特殊講義Ｄ		2	
特殊講義Ｅ		2	
特殊講義Ｆ		2	
特殊講義Ｇ		2	
特殊講義Ｈ		2	
特殊講義Ⅰ		2	
特殊講義Ｊ		2	
特殊講義Ｋ		2	
特殊講義Ｌ		2	
特殊講義Ｍ		2	
特殊講義Ｎ		2	
特殊講義Ｏ		2	
特殊講義Ｐ		2	
特殊講義Ｑ		2	
特殊講義Ｒ		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し、その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

※Ｔｏｕｒｉｓｍ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ Ｂｕｓｉｎｅｓｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ ｉｎ Ｂｕｓｉｎｅｓｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｔｈｅｏｒｙ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｅｔｈｉｃｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ ｉｎ Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1） ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2） ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3） ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｓｅｍｉｎａｒ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｅｎｇｌｉｓｈ １Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ Ｓｋｉｌｌｓ Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（4） 本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（5） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（6） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

キャリア・マネジメント学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
経営学Ａ		2	
経営学Ｂ		2	
商学Ａ		2	
商学Ｂ		2	
簿記論Ａ		2	
簿記論Ｂ		2	
統計学		2	
マーケティング		2	

コミュニケーション基礎		2		
会計学基礎論		2		
ミクロ経済学		2		
マクロ経済学		2		
［情報科目］				
コンピュータ概論		2		
情報倫理		2		
コンピュータ実習		2		
経営情報論		2		
情報管理論		2		
データ分析論		2		
情報分析論		2		
コンピュータ特修実習Ａ		2		
コンピュータ特修実習Ｂ		2		
［基幹科目］				
キャリア・マネジメント入門		2		
コミュニケーション論		2		
ビジネス・インターンシップⅠ		2		
ビジネス・インターンシップⅡ		2		
職業・職種分析		2		
キャリア心理学		2		
リーダーシップ論		2		
フォロワーシップ論		2		
モチベーション論		2		
組織設計論		2		
経営戦略論		2		
企業戦略論		2		
組織調査論Ａ		2		
組織調査論Ｂ		2		
データ分析		2		
ビジネス・プラクティス		2		
業界発展分析		2		
財務会計Ⅰ		2		
財務会計Ⅱ		2		
経営組織心理学		2		
チームビルディング		2		
アドバンスト・インターンシップ		2		
コーチング		2		
キャリア・マネジメント論Ａ		2		
キャリア・マネジメント論Ｂ		2		
キャリア・カウンセリング論Ａ		2		
キャリア・カウンセリング論Ｂ		2		
職業選択理論		2		
ファシリテーション		2		
キャリア形成関連法		2		
ダイバーシティ・マネジメント		2		

ターンアラウンド・マネジメント		2		
ベンチャービジネス論		2		
ビジネス・エシックス		2		
報酬システム分析Ａ		2		
報酬システム分析Ｂ		2		
人材マネジメント論Ａ		2		
人材マネジメント論Ｂ		2		
雇用政策論		2		
健康心理学		2		
［関連科目］				
日本史概論Ⅰ		2		
日本史概論Ⅱ		2		
外国史概論Ⅰ		2		
外国史概論Ⅱ		2		
地理学概論Ⅰ		2		
地理学概論Ⅱ		2		
地誌学概論Ⅰ		2		
地誌学概論Ⅱ		2		
哲学概論Ⅰ		2		
哲学概論Ⅱ		2		
倫理学概論Ⅰ		2		
倫理学概論Ⅱ		2		
ビジネスエコノミクス		2		
日本経済論		2		
民法Ⅰ		2		
民法Ⅱ		2		
秘書学Ⅰ		2		
秘書学Ⅱ		2		
国際政治学Ⅰ		2		
国際政治学Ⅱ		2		
商法総則・商行為		2		
会社法		2		
外国文献研究Ａ		2		
外国文献研究Ｂ		2		
国際経済論		2		
地域経済論		2		
特殊講義Ａ		2		
特殊講義Ｂ		2		
特殊講義Ｃ		2		
特殊講義Ｄ		2		
特殊講義Ｅ		2		
特殊講義Ｆ		2		
特殊講義Ｇ		2		
特殊講義Ｈ		2		
特殊講義Ⅰ		2		
特殊講義Ｊ		2		

特殊講義K		2	
特殊講義L		2	
特殊講義M		2	
特殊講義N		2	
特殊講義O		2	
特殊講義P		2	
特殊講義Q		2	
特殊講義R		2	
［総合科目］			
演習Ⅰ	4		
演習Ⅱ	4		
［自由科目］			
インターンシップ			2
旅行事業人材育成プログラム			2

＜履修方法＞

次の科目群からそれぞれ規定された単位数を修得し､その合計単位数124単位以上を卒業要件とする。

・共通教養科目（20単位以上。基礎ゼミ、情報処理基礎の４単位を含む）
・外国語科目（18単位以上。英語12単位以上、第二外国語２単位以上を含む。ただし、インテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者は別に定める外国語科目から修得した18単位以上を卒業所要単位として認める。）
・基礎科目（16単位以上）
・情報科目（10単位以上）
・基幹科目と関連科目（52単位以上。基幹科目32単位以上を含む。ただし、他学科基幹科目、他学部等との単位互換科目から合計16単位までを関連科目の単位数に含めることができる。）※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。
・総合科目（８単位）

ただし、自由科目は、単位を取得すれば、免許・資格関係に必要な科目の単位としては認め、卒業所要単位としては認めない。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）

他学科、他学部互換科目の履修と合わせて、16単位まで関連科目に加算することができる。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程（経営学部共通）

教科に関する科目

授業科目	単位数
職業指導Ⅰ	2
職業指導Ⅱ	2

インテンシブ・インタナショナル・プログラム科目

［第一外国語科目］（英語）

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ｂ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ａ	1		
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　２Ｂ	1		

※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ａ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２Ｂ	2		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ	1		
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ｂ	1		
※Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ	1		
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＦＬ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　１		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　２		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　３		1	
※ＴＯＥＩＣ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ　４		1	
※Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ａ		1	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｂ		1	
海外語学研修（英語）		2	

※印科目はインテンシブ・インタナショナル・プログラムを選択した者のみ履修を認める。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［関連科目］			
※Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｔｏｕｒｉｓｍ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｍａｒｋｅｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｙ　ｉｎ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂａｓｉｃ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａｃｃｏｕｎｔｉｎｇ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｉｎｆｏｒｍａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｔｈｅｏｒｙ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｔｈｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	
※Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ｉｎ　Ｅｎｇｌｉｓｈ		2	

ＩＩＰの履修について

（1）　ＩＩＰは「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」から構成される。

（2）　ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ一般英語科目」の修得単位は第一外国語（英語）科目の単位に算入される。ＩＩＰの科目のうち、「ＩＩＰ専門科目」の修得単位は関連科目の単位に算入される。

（3）　ＩＩＰの修了者にはプログラムの修了証書を交付する。プログラムを修了するには、「ＩＩＰ一般英語科目」を18単位以上修得しなければならない。なお、Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｍｉｎａｒ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１Ａ、１Ｂ、２Ａ、２Ｂ、Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｓｋｉｌｌｓ　Ａ、Ｂ、Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｅｐａｒａｔｉｏｎを必ず

修得しなければならない。また、「ＩＩＰ専門科目」については８単位以上修得しなければならない。

（４） 本学実施の短期語学研修に参加し、所定の課程を修了した者には海外語学研修（英語）の２単位を認定する。

（５） ＩＩＰに登録した学生はＩＩＰプログラム以外の第一外国語を履修することはできない(「ＩＩＰ一般英語科目」が第一外国語科目となる）。ＩＩＰに登録した学生は卒業要件の第二外国語修得要件を免除されるが、第二外国語を履修することはできる。

（６） ＩＩＰに登録している学生がプログラムを修了できなかった場合でも、修得した「ＩＩＰ一般英語科目」と「ＩＩＰ専門科目」の単位は卒業に必要な単位としてそのまま有効となる（「ＩＩＰ一般英語科目」と第二外国語を合わせて18単位以上、うち「ＩＩＰ一般英語科目」を12単位以上修得していれば、外国語科目に関わる卒業要件を満たしたものとする。また、修得した「ＩＩＰ専門科目」の単位は関連科目の単位に算入する）。

別表(１)―４

理工学部授業科目表

△印は選択必修科目。＊印の科目は別欄の修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
（人間性・社会性科目群）			
自校学習		1	
人権と社会１		＊２	
人権と社会２		＊２	
暮らしのなかの憲法		＊２	
住みよい社会と福祉		＊２	
現代社会と法		＊２	
環境と社会		＊２	
資源とエネルギー		＊２	
技術と倫理		＊２	
企業倫理と知的財産		＊２	
教養特殊講義Ａ		２	
（地域性・国際性科目群）			
国際経済と企業の国際化		＊２	
国際化と異文化理解		＊２	
国際社会と日本		＊２	
ビジネスモデルとマネジメント		＊２	
メディアの読み方		＊２	
教養特殊講義Ｂ		２	
（課題設定・問題解決科目群）			
日本語の技法		＊２	
基礎ゼミ１	２		
基礎ゼミ２	２		
キャリアデザイン		２	
科学的問題解決法		＊２	
プレゼンテーション技術		２	
情報処理基礎	１		
教養特殊講義Ｃ		２	
データリテラシー入門		２	

暮らしのなかの起業入門		2	
（スポーツ・表現活動科目群）			
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
健康とスポーツの科学		2	
食生活と健康		2	
［外国語科目］（第一）			
英語演習１	2		
英語演習２	2		
ＴＯＥＩＣ１	1		
ＴＯＥＩＣ２	1		
ライティング１		1	
ライティング２		1	
科学技術英語１		＊1	
科学技術英語２		＊1	
オーラルイングリッシュ１	1		
オーラルイングリッシュ２	1		
オーラルイングリッシュ３		1	
オーラルイングリッシュ４		1	
アカデミックリーディング１		1	
アカデミックリーディング２		1	
海外語学研修（英語）		2	
［外国語科目］（第二）			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
海外語学研修（中国語）		2	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
海外語学研修（韓国語）		2	
ロシア語１			1
ロシア語２			1
海外語学研修（ロシア語）		2	

〔英語科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	履修条件

ライティング１、ライティング２、科学技術英語１、科学技術英語２、オーラルイングリッシュ３、オーラルイングリッシュ４	・２単位以上を修得 ・オーラルイングリッシュ３、オーラルイングリッシュ４のうちから１単位以上修得。 ・ライティング１、ライティング２、科学技術英語１、科学技術英語２のうちから１単位以上修得。

〔応用化学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理（２）、日本語の技法(２)、科学技術英語１(１)、科学技術英語２(１)

選択必修科目名（単位）	修得単位数
企業倫理と知的財産(２)、ビジネスモデルとマネジメント(２)、国際経済と企業の国際化(２)、国際化と異文化理解(２)、国際社会と日本(２)、メディアの読み方(２)	２単位以上
資源とエネルギー(２)、科学的問題解決法(２)、人権と社会１(２)、暮らしのなかの憲法(２)、住みよい社会と福祉(２)、現代社会と法(２)、環境と社会(２)	２単位以上

〔電気電子通信工学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理(２)

選択必修科目名（単位）	修得単位数
国際経済と企業の国際化(２)、国際化と異文化理解(２)、国際社会と日本(２)、ビジネスモデルとマネジメント(２)、メディアの読み方(２)	４単位以上

〔社会環境工学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理(２)

選択必修科目名（単位）	修得単位数
人権と社会１(２)、人権と社会２(２)、暮らしの中の憲法(２)、住みよい社会と福祉(２)、現代社会と法(２)、環境と社会(２)、資源とエネルギー(２)、企業倫理と知的財産(２)、国際経済と企業の国際化(２)、国際化と異文化理解(２)、国際社会と日本(２)、ビジネスモデルとマネジメント(２)、メディアの読み方(２)	２単位以上

〔エネルギー物質学科科目修得内訳表〕

必修科目名（単位）
技術と倫理(２)

理学科

＊印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を、□印はコースごとの自由選択科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		＊△３	
物理学および演習		＊△３	
物理学概論および演習Ⅰ		□△３	
物理学概論および演習Ⅱ		□△３	
基礎化学および演習		□３	
化学		□２	

基礎生物学		△２	
生物学		△２	
微分積分学Ⅰ		＊△２	
微分積分学Ⅱ		＊△２	
線形代数学Ⅰ		＊△２	
線形代数学Ⅱ		＊△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		１	
情報処理実習Ⅱ		１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
［専門科目］			
数学講究（１）		＊２	
基礎幾何学		２	
線形数学（１）		＊４	
基礎解析学（１）		＊４	
数学講究（２）		＊２	
プログラミング基礎		１	
力学Ⅰ		＊２	
力学Ⅱ		２	
基礎物理学実験Ⅰ		＊△２	
力学解法Ⅰ		２	
化学のための数学演習		△１	
基礎無機化学		＊２	
基礎有機化学		＊２	
基礎物理化学		＊２	
化学実験Ⅰ		＊３	
基礎分析化学		△２	
基礎有機化学演習		＊２	
数学講究（３）		＊２	
線形数学（２）		２	
基礎解析学（２）		２	
集合と位相（１）		２	
集合と位相（２）		２	
計算機実習（１）		２	
数学講究（５）		＊２	
群論（１）		２	
群論（２）		２	
複素解析学（１）		２	
微分方程式論（１）		２	
微分方程式論（２）		２	
計算機実習（２）		１	
基礎物理学実験Ⅱ		＊２	
電磁気学Ⅰ		＊２	
電磁気学Ⅱ		２	
物理数学Ⅰ		２	

物理数学Ⅱ		2		
物理学実験Ⅰ		3		
計算物理学Ⅰ		2		
計算物理学Ⅱ		2		
データ解析		2		
エレクトロニクス		2		
解析力学		2		
電磁気学解法Ⅰ		2		
電磁気学解法Ⅱ		2		
化学実験Ⅱ		＊3		
化学情報処理		△2		
基礎無機化学演習		＊2		
基礎物理化学演習		＊2		
反応有機化学Ⅱ		△2		
基礎分析化学演習		△1		
化学実験Ⅲ		＊3		
典型元素の化学		△2		
環境化学		△2		
機器分析化学		△2		
反応有機化学Ⅰ		△2		
基礎生化学		△2		
化学熱力学および演習		△3		
数学講究（7）		＊2		
代数学（1）		4		
幾何学（1）		4		
実解析学（1）		4		
複素解析学（2）		4		
数理統計学（1）		2		
数学講究（8）		＊2		
代数学（2）		4		
幾何学（2）		4		
実解析学（2）		4		
数理統計学（2）		2		
実験数理解析		1		
物理学実験Ⅱ		3		
放射線物理学		2		
相対論		2		
卒業研究ゼミナール		＊1		
化学実験Ⅳ		＊3		
遷移元素の化学		2		
応用機器分析化学		2		
電子移動の化学		2		
高分子化学		2		
反応物理化学		△2		
物性物理化学		2		
量子化学および演習		△3		

錯体化学		2		
化学実験Ⅴ		＊3		
生物無機化学		2		
構造物理化学		2		
生物有機化学		2		
合成有機化学		2		
化学教科教育演習		1		
生物物理化学		2		
超分子化学		△2		
グリーンケミストリー		△2		
現代数学（1）		△2		
現代数学（2）		△2		
応用数学（1）		△2		
応用数学（2）		△2		
現代数学（3）		△2		
現代数学（4）		△2		
現代数学（5）		△2		
物性物理学		2		
素粒子物理学		2		
宇宙物理学		2		
卒業研究	8			
特別講義		△1		
教科教育演習		1		
環境分析化学		2		
分光物性化学		2		
分子生物化学		△2		
情報と社会		2		
情報と職業		2		
生物学実験		1		
地学概論Ⅰ		2		
地学概論Ⅱ		2		
地学実験		1		
情報理論		2		
組込みシステム概論		2		
オペレーティングシステム		2		
データ構造とアルゴリズムⅠ		2		
移動体通信工学		2		
データベース論Ⅰ		2		
コンピュータグラフィックス		2		
画像処理		2		
通信方式		2		
ネットワーク工学		2		
数学講究（4）		＊2		
数学講究（6）		＊2		
物理学最前線		2		
科学論文		2		

熱力学		2	
振動と波動		＊2	
振動と波動解法		2	
ミクロの物理学		＊2	
ミクロの物理学解法		2	
物理数学Ⅲ		2	
物理数学Ⅳ		2	
現代物理学Ⅰ		2	
現代物理学Ⅱ		2	
現代物理学Ⅲ		2	
現代物理学Ⅳ		2	
現代物理学Ⅴ		2	
量子力学Ⅰ		＊2	
量子力学Ⅱ		2	
量子力学解法Ⅰ		2	
量子力学解法Ⅱ		2	
統計力学Ⅰ		＊2	
統計力学Ⅱ		2	
統計力学解法Ⅰ		2	
統計力学解法Ⅱ		2	
化学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8

［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］
包括協定にもとづいた提供科目および単位数

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔理学科コース別必修科目修得内訳表〕

数学コース

必修科目名〔単位〕
〔基礎科目〕 微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕 〔専門科目〕 数学講究(１)〔２〕、数学講究(２)〔２〕、線形数学(１)〔４〕、基礎解析学(１)〔４〕、数学講究(３)〔２〕、数学講究(４)〔２〕、数学講究(５)〔２〕、数学講究(６)〔２〕、数学講究(７)〔２〕、数学講究(８)〔２〕

物理学コース

必修科目名〔単位〕
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕 〔専門科目〕 基礎物理学実験Ⅰ〔２〕、力学Ⅰ〔２〕、電磁気学Ⅰ〔２〕、振動と波動〔２〕、基礎物理学実

験Ⅱ〔2〕、ミクロの物理学〔2〕、量子力学Ⅰ〔2〕、統計力学Ⅰ〔2〕、卒業研究ゼミナール〔1〕

化学コース

必修科目名〔単位〕
〔専門科目〕 基礎無機化学〔2〕、基礎有機化学〔2〕、基礎物理化学〔2〕、化学実験Ⅰ〔3〕、基礎有機化学演習〔2〕、化学実験Ⅱ〔3〕、基礎無機化学演習〔2〕、基礎物理化学演習〔2〕、化学実験Ⅲ〔3〕、卒業研究ゼミナール〔1〕、化学実験Ⅳ〔3〕、化学実験Ⅴ〔3〕

〔理学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

数学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔専門科目〕 現代数学(1)〔2〕、現代数学(2)〔2〕、現代数学(3)〔2〕、現代数学(4)〔2〕、現代数学(5)〔2〕、応用数学(1)〔2〕、応用数学(2)〔2〕	2単位以上

化学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習〔3〕、物理学および演習〔3〕、物理学概論および演習Ⅰ〔3〕、物理学概論および演習Ⅱ〔3〕、基礎生物学〔2〕、生物学〔2〕、微分積分学Ⅰ〔2〕、微分積分学Ⅱ〔2〕、線形代数学Ⅰ〔2〕、線形代数学Ⅱ〔2〕	8単位以上
〔専門科目〕 化学のための数学演習〔1〕、典型元素の化学〔2〕、基礎分析化学〔2〕、反応有機化学Ⅰ〔2〕、化学熱力学および演習〔3〕、化学情報処理〔2〕、基礎分析化学演習〔1〕、反応有機化学Ⅱ〔2〕、基礎生化学〔2〕、反応物理化学〔2〕、量子化学および演習〔3〕、機器分析化学〔2〕、環境化学〔2〕、分子生物化学〔2〕、基礎物理学実験Ⅰ〔2〕、超分子化学〔2〕、グリーンケミストリー〔2〕、特別講義〔1〕	22単位以上

〔理学科コース別自由選択科目修得内訳表〕

化学コース

自由選択科目名（単位）
〔基礎科目〕 基礎化学および演習〔3〕、化学〔2〕

物理学コース

自由選択科目名（単位）
〔基礎科目〕 物理学概論および演習Ⅰ〔3〕、物理学概論および演習Ⅱ〔3〕

生命科学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		3	
物理学および演習		3	
物理学概論および演習Ⅰ		3	
物理学概論および演習Ⅱ		3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		2	

生物学		2	
微分積分学Ⅰ		2	
微分積分学Ⅱ		2	
線形代数学Ⅰ		2	
線形代数学Ⅱ		2	
情報処理演習		1	
情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
［専門科目］			
生命科学数理演習		2	
生命科学序論	2		
化学実験	3		
生物学実験	3		
一般化学		2	
代謝生化学		2	
生物有機化学		2	
生命科学実験	3		
環境科学実験	3		
物理学実験		2	
細胞生物学		2	
分子生物学		2	
薬理学		2	
生物物理化学		2	
機器分析化学		2	
微生物学		2	
医学概論		2	
生命科学英語		1	
分子生物学実験	3		
細胞生物学実験	3		
卒業研究ゼミナール	1		
発生生物学		2	
ゲノム解析		2	
解剖生理学		2	
食品化学		2	
食品衛生学		2	
免疫生物学		2	
神経科学		2	
公衆衛生学		2	
生命倫理		2	
卒業研究	8		
病理学		2	
栄養学		2	
教科教育演習			1
情報と社会			2

情報と職業			2
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
有機化学		2	
生化学		2	
遺伝子工学		2	
内分泌学		2	
バイオ・環境計測技術演習		1	
アドバンストリサーチ		1	
分析化学		2	
生命科学演習	1		
生物統計学		2	
バイオインフォマティクス		2	
分子遺伝病態学		2	
医療情報学		2	
生命科学ゼミナールⅠ		1	
生命科学ゼミナールⅡ		1	
生命科学コミュニケーション		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

応用化学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		△２	
生物学		△２	
微分積分学Ⅰ	２		
微分積分学Ⅱ	２		
線形代数学Ⅰ	２		
線形代数学Ⅱ		△２	

情報処理演習		1
情報処理実習Ⅰ		△1
情報処理実習Ⅱ		△1
インターンシップ		2
社会奉仕実習		1
［専門科目］		
応用化学実験Ⅰ	3	
応用化学実験Ⅱ	3	
基礎化学結合論	2	
物理化学１	2	
無機化学１	2	
有機化学１	2	
物理化学２	2	
無機化学２	2	
有機化学２	2	
無機化学４	2	
物理学実験	2	
応用化学実験Ⅲ	3	
化学数学	2	
応用化学実験Ⅳ	3	
物理化学４	2	
環境工学		△2
界面化学		2
高分子化学		2
有機構造化学		2
無機化学３	2	
応用化学実験Ⅴ	3	
応用化学実験Ⅵ	3	
量子化学	2	
物理化学３	2	
安全工学	2	
エネルギー工学		△2
コンピュータ化学		2
応用化学セミナー	2	
卒業研究ゼミナール		1
有機化学３	2	
無機合成化学		2
有機合成化学		2
有機金属化学		2
有機構造解析	2	
化学工学１	2	
化学工学２	2	
化学情報処理基礎	1	
卒業研究	8	
教科教育演習		1
分光学１		2

分光学２		2	
バイオテクノロジー		2	
アドバンスト有機化学		2	
アドバンスト無機化学		2	
アドバンスト物理化学		2	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
実験デザインⅠ	1		
実験デザインⅡ	1		
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔応用化学科選択必修科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎生物学(２)、生物学(２)、線形代数学Ⅱ(２)、情報処理実習Ⅰ(１)、情報処理実習Ⅱ(１)	２単位以上
基礎物理学および演習(３)、物理学および演習(３)、物理学概論および演習Ⅰ(３)、物理学概論および演習Ⅱ(３)	３単位以上
環境工学(２)、エネルギー工学(２)	２単位以上

機械工学科

＊印はコースごとの必修科目を、△印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	

情報処理演習		△1	
情報処理実習Ⅰ		△1	
情報処理実習Ⅱ		△1	
インターンシップ		△2	
社会奉仕実習		1	
［専門科目］			
図学および機械製図	1		
工業材料		2	
機械工作法		2	
機械製図基礎演習	1		
流れ学の基礎	2		
材料力学の基礎	2		
機械加工実習	1		
金属加工実習		1	
工業力学		2	
電気電子回路		2	
物理学実験	1		
流れ学演習実験	1		
材料力学演習実験	1		
機械製図演習	1		
機械要素設計		2	
制御工学の基礎		＊2	
機械力学の基礎		＊2	
微分方程式		△2	
機構学		2	
計測工学		2	
材料工学演習実験		＊1	
メカトロニクス		2	
デジタル回路		2	
応用解析		△2	
設計製図の基礎	1		
熱力学の基礎		＊2	
機械力学		＊2	
機械設計		2	
制御工学		＊2	
機械工学実験	1		
流体工学		＊2	
材料力学		＊2	
機械加工学		2	
プログラミング実習		＊△1	
材料組織学		2	
数理計画法		△2	
数学解析		△2	
熱力学演習実験	1		
機械力学演習実験	1		
設計製図	1		

数値計算法		△1	
制御工学演習実験	1		
構造力学		2	
精密加工学		2	
流体力学		2	
鋳造工学		2	
センシング学		2	
ロボット工学		2	
線形システム制御論		2	
卒業研究ゼミナール	1		
熱力学		2	
ＣＡＥ実習		△1	
確率・統計		＊2	
応用機械製図		＊1	
伝熱工学		＊2	
塑性加工学		2	
振動工学		2	
自動車工学		2	
品質管理		△2	
卒業研究	8		
電気工学実験		1	
基礎幾何学		2	
幾何学（1）		4	
幾何学（2）		4	
木材加工		4	
園芸学（実習を含む）		4	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔機械工学科コース別必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

必修科目名（単位）
材料工学演習実験（1）、確率・統計（2）、応用機械製図（1）、機械力学の基礎（2）、制御工学の基礎（2）、熱力学の基礎（2）、機械力学（2）、制御工学（2）、流体工学（2）、材料力学（2）、伝熱工学（2）

知能機械システムコース

必修科目名（単位）
プログラミング実習(１)

〔機械工学科コース別選択必修科目修得内訳表〕

機械工学コース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習(３)、物理学および演習(３)、物理学概論および演習Ⅰ(３)、物理学概論および演習Ⅱ(３)、微分積分学Ⅰ(２)、微分積分学Ⅱ(２)、線形代数学Ⅰ(２)、線形代数学Ⅱ(２)、情報処理実習Ⅰ(１)、情報処理実習Ⅱ(１)、情報処理演習(１)、インターンシップ(２)	７単位以上
〔専門科目〕 微分方程式(２)、応用解析(２)、プログラミング実習(１)、数理計画法(２)、数学解析(２)、数値計算法(１)、ＣＡＥ実習(１)、品質管理(２)	５単位以上

知能機械システムコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
〔基礎科目〕 基礎物理学および演習(３)、物理学および演習(３)、物理学概論および演習Ⅰ(３)、物理学概論および演習Ⅱ(３)、微分積分学Ⅰ(２)、微分積分学Ⅱ(２)、線形代数学Ⅰ(２)、線形代数学Ⅱ(２)、情報処理実習Ⅰ(１)、情報処理実習Ⅱ(１)、情報処理演習(１)、インターンシップ(２)	７単位以上

電気電子通信工学科

＊印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		１	
情報処理実習Ⅱ		１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
解析学		△２	

電気回路Ⅰ		2		
電気回路Ⅱ	2			
確率統計		△2		
コンピュータ概論		2		
電気法規・施設管理		2		
論理回路		2		
電気計測		2		
基礎電子回路	2			
プログラミング実習Ⅰ	2			
電気物性概論		2		
電気電子通信工学実験	2			
制御工学基礎		2		
プログラミング実習Ⅱ		1		
アナログ電子回路		2		
電磁気学Ⅰ	2			
電気電子材料		2		
電磁気学Ⅱ	2			
エネルギー変換工学		2		
発電工学		2		
電子情報通信実験		＊3		
卒業研究ゼミナール	1			
通信方式		2		
電磁波工学		2		
電磁気学Ⅲ		2		
アルゴリズムとデータ構造		2		
制御工学		2		
画像・映像工学		2		
ネットワーク工学		2		
光・レーザー工学		2		
半導体工学		2		
ディジタル電子回路		2		
総合エレクトロニクス実験		＊3		
エレクトロニクス関連機器		2		
シミュレーション工学実習		1		
光通信工学		2		
エンジニアリングデザイン実験	2			
卒業研究	8			
移動体通信工学		2		
電波関係法規		2		
ＣＡＤ実習		2		
パワーエレクトロニクス		2		
ものづくり実習		2		
ものづくり概論		2		
電気回路Ⅲ		2		
電気回路Ⅳ		2		
電気数学		△2		

エネルギー伝送工学		2	
高電圧・プラズマ工学		2	
情報理論		2	
電気電子通信工学概論		2	
電気電子通信工学実習	1		
ディジタル回路設計実習		2	
木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導		4	
情報と社会		2	
情報と職業		2	
線形数学（１）		4	
線形代数（２）		2	
群論（１）		2	
群論（２）		2	
基礎幾何学		2	
幾何学（１）		4	
幾何学（２）		4	
数学解析		2	
基礎解析学（１）		4	
基礎解析学（２）		2	
数値計算法		1	
情報数学		2	
数理論理学		2	
計算論		2	
物理学実験		1	
化学実験		1	
生物学実験		1	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
エレクトリックヴィークル		2	
オプティクス		2	
センサー工学		2	
再生可能エネルギー工学		2	
メカトロニクス		2	
電力工学実習		1	
ナノエレクトロニクス		2	
信号処理論		2	
機械学習システム		2	
分析工学		2	

音響工学		2	
組込みシステム概論		2	
組込みシステム実習		1	
オプトエレクトロニクス		2	
量子コンピューティング		2	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔電気電子通信工学科コース別必修科目修得内訳表〕

電子情報通信コース

必修科目名（単位）
電子情報通信実験(３)

総合エレクトロニクスコース

必修科目名（単位）
総合エレクトロニクス実験(３)

〔選択必修科目一覧表〕

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習(３)、物理学および演習(３)、物理学概論および演習Ⅰ(３)、物理学概論および演習Ⅱ(３)	３単位以上
微分積分学Ⅰ(２)、微分積分学Ⅱ(２)、線形代数学Ⅰ(２)、線形代数学Ⅱ(２)	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
確率統計(２)、解析学(２)、電気数学(２)	４単位以上

社会環境工学科

△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙修得内訳表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		３	
基礎化学および演習		△３	
化学		２	
基礎生物学		△２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		１	

情報処理実習Ⅰ		1	
情報処理実習Ⅱ		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	
［専門科目］			
構造力学Ⅰ	2		
構造力学Ⅰ演習	1		
水理学Ⅰ	2		
水理学Ⅰ演習	1		
数値計算法		2	
工学のための生態学		2	
水理学Ⅱ	2		
水理学Ⅱ演習	1		
社会環境工学概論	2		
建設材料学	2		
測量学		△2	
測量学実習		△1	
土質力学Ⅰ	2		
土質力学Ⅰ演習	1		
土質力学Ⅱ	2		
土質力学Ⅱ演習	1		
製図基礎		2	
建設施工法		2	
構造力学Ⅱ	2		
構造力学Ⅱ演習	1		
都市環境デザイン論		2	
ＣＡＤ演習		1	
社会基盤計画学	2		
社会基盤計画学演習	1		
道路工学		2	
衛生工学	2		
土木製図		2	
連続体力学		2	
建設工学実験		△2	
環境工学実験		△2	
卒業研究ゼミナール	1		
インフラツーリズム		2	
建設リサイクル工学		2	
河川工学		2	
防災工学Ⅰ		2	
ユニバーサルデザイン		2	
メインテナンス工学		2	
交通システム学		2	
総合演習Ⅱ		2	
橋梁工学		2	
総合演習Ⅰ	2		

景観工学		2	
都市計画		2	
土木史		2	
環境管理		2	
都市微生物学		2	
地球環境学概論		2	
土木環境工学		2	
卒業研究	8		
内外セミナー		1	
教科教育演習		1	
構造力学Ⅲ		2	
鉄筋コンクリート工学		2	
建設マネジメント		2	
防災工学Ⅱ		2	
地盤調査・施工学		2	
海岸工学		2	
機械工学Ⅰ		2	
機械工学Ⅱ		2	
電気工学Ⅰ		2	
電気工学Ⅱ		2	
木材加工		4	
金属加工		4	
機械工学実験		1	
電気工学実験		1	
園芸学（実習を含む）		4	
職業指導			4
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目および単位数			

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔選択必修科目一覧表〕

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習(３)、物理学概論および演習Ⅰ(３)、基礎化学および演習(３)、基礎生物学(２)	２単位以上
微分積分学Ⅰ(２)、微分積分学Ⅱ(２)、線形代数学Ⅰ(２)、線形代数学Ⅱ(２)	２単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
測量学(２)、測量学実習(２)、建設工学実験(２)、環境工学実験(２)	５単位以上

エネルギー物質学科

＊印は領域ごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。詳細は別紙一覧表参照。

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎物理学および演習		△３	
物理学および演習		△３	
物理学概論および演習Ⅰ		△３	
物理学概論および演習Ⅱ		△３	
基礎化学および演習		３	
化学		２	
基礎生物学		２	
生物学		２	
微分積分学Ⅰ		△２	
微分積分学Ⅱ		△２	
線形代数学Ⅰ		△２	
線形代数学Ⅱ		△２	
情報処理演習		１	
情報処理実習Ⅰ		１	
情報処理実習Ⅱ		１	
インターンシップ		２	
社会奉仕実習		１	
情報システム基礎			２
情報システム応用			２
［専門科目］			
化学数学演習	１		
物理数学演習	１		
数理解析演習	１		
基礎化学情報処理	１		
数理情報処理	１		
インフォマティックス実習	１		
エネルギー工学演習		１	
機器分析化学演習		１	
計測物理学演習		１	
エネルギー物質概論	２		
エネルギー物質物理学概論	２		
エネルギー物質化学概論	２		
次世代インフラエネルギー概論	２		
基礎エネルギー物理学	２		
基礎環境エネルギー科学	２		
エネルギー物質化学１	２		
エネルギー物質化学２	２		
量子化学	２		
ライフデバイスエネルギー物理学	２		
基礎電子デバイス物理学	２		
基礎生体物理学	２		
バイオエネルギー工学		２	

基礎物理学実験	1		
基礎化学実験	1		
エネルギー物質化学実験	2		
エネルギー物質物理学実験１	2		
エネルギー物質物理学実験２	2		
エネルギー物質生物学実験	2		
エネルギー物質ゼミ１	1		
エネルギー物質ゼミ２	1		
エネルギー物質ゼミ３	1		
エネルギー物質ゼミ４	1		
卒業研究ゼミナール	1		
卒業研究	8		
物質熱力学		＊△２	
量子線物理・工学		＊△２	
エネルギー発電・伝送工学		＊△２	
原子エネルギー物理・工学		＊△２	
水素エネルギー工学		＊△２	
原子核物理学		＊△２	
インフラマテリアル工学		＊△２	
高電圧プラズマ物理・工学		＊△２	
放射化学		＊△２	
機能材料化学		＊△２	
生体物質化学		＊△２	
分子反応化学		＊△２	
分子機能化学		＊△２	
高分子材料工学		＊△２	
計算生体物質化学		＊△２	
光電子機能化学		＊△２	
量子分子工学		＊△２	
分子デバイス工学		＊△２	
電子デバイス物理学		＊△２	
生物センサ概論		＊△２	
生物メカニクス概論		＊△２	
熱機関物理学		＊△２	
光電変換デバイス工学		＊△２	
生体情報工学		＊△２	
生物デバイス工学		＊△２	
生物メカニクス工学		＊△２	
エネルギー変換工学		＊△２	
地学概論Ⅰ		2	
地学概論Ⅱ		2	
地学実験		1	
エンジニアリングデザイン実習			12
国際プロジェクトマネジメント実習			12
理工学国際ゼミナール			8
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］			

包括協定にもとづいた提供科目および単位数

＜履修方法＞

卒業に要する単位数は、共通教養科目（15単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（11単位以上）、専門科目（84単位以上）修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計して124単位以上修得のこと。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔エネルギー物質学科領域別必修科目修得内訳表〕

次世代インフラエネルギー領域

必修科目名（単位）
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕、水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕

マテリアル創製領域

必修科目名（単位）
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕、高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕

ライフデバイスエネルギー領域

必修科目名（単位）
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕、光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕

〔エネルギー物質学科領域別選択必修科目修得内訳表〕

次世代インフラエネルギー領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕	２単位以上
高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕	２単位以上
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕	２単位以上
光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕	２単位以上

マテリアル創製領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕	２単位以上
水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕	２単位以上
電子デバイス物理学〔２〕、生物センサ概論〔２〕、生物メカニクス概論〔２〕、熱機関物理学〔２〕	２単位以上
光電変換デバイス工学〔２〕、生体情報工学〔２〕、生物デバイス工学〔２〕、生物メカニクス工学〔２〕、エネルギー変換工学〔２〕	２単位以上

ライフデバイスエネルギー領域

基礎科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
基礎物理学および演習〔３〕、物理学および演習〔３〕、物理学概論および演習Ⅰ〔３〕、物理学概論および演習Ⅱ〔３〕	３単位以上
微分積分学Ⅰ〔２〕、微分積分学Ⅱ〔２〕、線形代数学Ⅰ〔２〕、線形代数学Ⅱ〔２〕	４単位以上

専門科目

選択必修科目名（単位）	修得単位数
物質熱力学〔２〕、量子線物理・工学〔２〕、エネルギー発電・伝送工学〔２〕、原子エネルギー物理・工学〔２〕	２単位以上
水素エネルギー工学〔２〕、原子核物理学〔２〕、インフラマテリアル工学〔２〕、高電圧プラズマ物理・工学〔２〕、放射化学〔２〕	２単位以上
機能材料化学〔２〕、生体物質化学〔２〕、分子反応化学〔２〕、分子機能化学〔２〕	２単位以上
高分子材料工学〔２〕、計算生体物質化学〔２〕、光電子機能化学〔２〕、量子分子工学〔２〕、分子デバイス工学〔２〕	２単位以上

別表(１)―５

建築学部授業科目表

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
自校学習		1	
教養特殊講義Ａ		2	
現代社会と法		2	
環境と社会		2	
技術と倫理		2	
人権と社会１		2	
住みよい社会と福祉		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
資源とエネルギー		2	
企業倫理と知的財産		2	
国際化と異文化理解		2	
ビジネスモデルとマネジメント		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
国際社会と日本		2	

国際経済と企業の国際化		2		
メディアの読み方		2		
基礎ゼミ１	2			
基礎ゼミ２	2			
教養特殊講義Ｃ		2		
日本語の技法		2		
データリテリシー入門		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
キャリアデザイン		2		
プレゼンテーション技術		2		
健康とスポーツの科学		2		
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
［外国語科目］（第一）				
英語演習１	1			
英語演習２	1			
英語演習３	1			
英語演習４	1			
英語演習５		1		
英語演習６		1		
イングリッシュ・スキルズＡ１	1			
イングリッシュ・スキルズＡ２	1			
イングリッシュ・スキルズＡ３	1			
イングリッシュ・スキルズＡ４	1			
イングリッシュ・スキルズＢ１		1		
イングリッシュ・スキルズＢ２		1		
イングリッシュ・スキルズＢ３		1		
イングリッシュ・スキルズＢ４		1		
留学英語		1		
［外国語科目］（第二）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		
韓国語総合４		1		

［基礎科目］			
情報処理基礎	1		
建築概論	2		
基礎製図	3		
スケッチ表現		2	
基礎数学	2		
物理学及び演習	3		
情報処理実習１		1	
建築基礎演習	3		
３Ｄ・ＣＡＤ演習	2		
建築構法	2		
数学概論		2	
情報処理実習２		1	
インターンシップ		2	
社会奉仕実習		1	

建築工学専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
静定構造力学２	2		
静定構造力学演習２		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
木質構造		2	
建築施工	2		
建築地盤・基礎構造		2	
コンクリート構造演習		1	
鋼構造演習		1	
建築構造実験		2	
耐震耐風工学	2		
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
環境演習		2	
建築設備各論		2	
建築環境実験		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習Ｉ	3		
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	

建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		
設計演習Ⅱ	3		
建築計画各論	2		
現代都市計画		2	
日本建築史		2	
設計演習Ⅲ	2		
建築行政	2		
西洋建築史		2	
設計演習Ⅳ		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

建築デザイン専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
静定構造力学２	2		
静定構造力学演習２		1	
不静定構造力学	2		
コンクリート構造	2		
鋼構造	2		
不静定構造力学演習		1	
建築材料	2		
建築施工	2		
構造設計総論		2	
環境工学概論	2		
音・光環境	2		
熱・空気環境	2		
建築設備概論	2		
建築設備各論		2	
環境設備計画		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
建築設計論	2		
設計演習Ⅰ	3		
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
近代建築史	2		
設計演習Ⅱ	3		
設計演習Ⅲ	2		
建築デザイン論	2		
建築計画各論		2	

現代都市計画		2	
日本建築史		2	
建築デザイン演習Ⅰ		2	
建築行政	2		
スタジオ設計Ⅰ	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
西洋建築史		2	
建築プロジェクトデザイン論		2	
建築デザイン演習Ⅱ		2	
設計演習Ⅳ		2	
スタジオ設計Ⅱ		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

住宅建築専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学	2		
建築施工	2		
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
住宅環境性能論		2	
住宅設備	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習Ⅰ	3		
建築設計論		2	
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習Ⅱ	3		
現代ハウジング	2		
住文化論		2	
近代建築史		2	
居住管理論	2		
住宅都市計画演習	2		

建築デザイン論		2	
現代都市計画		2	
建築行政	2		
住宅実務設計演習	2		
ランドスケープデザイン論		2	
インテリアデザイン論		2	
福祉住居論	2		
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

企画マネジメント専攻

［専門科目］			
静定構造力学１	2		
静定構造力学演習１		1	
構造力学演習		2	
構造概論	2		
建築材料	2		
住宅構造学		2	
建築施工		2	
環境工学概論	2		
音・光環境		2	
熱・空気環境		2	
建築設備概論	2		
環境都市・建築論		2	
建築設計概論	2		
住宅計画	2		
設計演習Ⅰ	3		
建築設計論		2	
２Ｄ・ＣＡＤ演習		2	
建築史概論	2		
建築計画総論	2		
アーバンデザイン	2		
企画マネジメント総論	2		
設計演習Ⅱ	3		
現代ハウジング	2		
近代建築史		2	
建築計画各論		2	
建築生産論	2		
現代都市計画	2		
建築企画演習Ⅰ	2		
建築デザイン論		2	
居住管理論	2		
建築行政	2		
まちづくり論	2		

建築マネジメントⅠ	2		
建築企画演習Ⅱ	2		
保存修景計画		2	
建築マネジメントⅡ		2	
土地建物調査法		2	
建築再生論		2	
建築総合演習	2		
ゼミナール演習	2		
卒業研究・設計	8		

卒業要件及び履修方法

共通教養科目から14単位以上（必修科目４単位）、外国語科目から14単位以上（必修科目８単位）及び専門科目から96単位以上（必修科目　建築工学専攻・建築デザイン専攻78単位、住宅建築専攻・企画マネジメント専攻76単位）修得し、124単位以上修得すること。

別表（１）―６

薬学部授業科目表

医療薬学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
住みよい社会と福祉		2	
教養特殊講義Ａ		2	
生活環境科学		2	
国際化と異文化理解		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
データリテラシー入門		2	
物理学概論		2	
日本語の技法		2	
暮らしのなかの起業入門		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
【学部基礎科目】			
基礎化学	2		
基礎生物学	2		
化学入門	2		
生物学入門	2		
【外国語科目】			

［英語］			
英語演習１	2		
英語演習２	2		
英語演習３	1		
英語演習４	1		
オーラルイングリッシュ１		1	
オーラルイングリッシュ２		1	
オーラルイングリッシュ３		1	
オーラルイングリッシュ４		1	
ＴＯＥＩＣ１		1	
ＴＯＥＩＣ２		1	
ＴＯＥＦＬ１		1	
ＴＯＥＦＬ２		1	
ライティング１		1	
ライティング２		1	
［初修外国語］			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から基礎ゼミ（必修）２単位を含んで12単位以上、学部基礎科目から８単位、外国語科目から英語８単位（必修６単位含む）を含んで12単位以上、合計32単位以上修得しなければならない。

医療薬学科

授業科目	単位数

	必修	選択	自由
【専門科目】			
［Ⅰ群］			
（化学系）			
基礎有機化学		2	
有機化学１		2	
分析化学１		2	
薬用資源学		2	
基礎物理化学		2	
物理化学		2	
有機化学２		2	
分析化学２		2	
生物有機化学		2	
分析化学３		2	
（生物系）			
解剖組織学		2	
基礎生化学		2	
人体生理学１		2	
分子薬理学		2	
人体生理学２		2	
生化学		2	
微生物学		2	
免疫学		2	
分子ゲノム薬科学		2	
［Ⅱ群］			
薬学概論	2		
生命倫理	2		
神経病態薬理学	2		
疾患と薬物治療法１	2		
基礎医療薬学	2		
医薬品情報学	2		
薬物動態学１	2		
医薬連携学習	1		
調剤学	2		
ファーマシューティカルケア	2		
医療・薬事関係法規	2		
医療薬学総論	2		
治験	1		
実践病態と治療	2		
放射化学		2	
製剤学１		2	
病態薬理学１		2	
病態薬理学２		2	
薬学統計学		2	
製剤学２		2	
医薬品化学		2	

環境毒性学		2	
漢方薬学		2	
化学療法学		2	
病態検査学		2	
臨床薬物動態学		2	
薬物動態学２		2	
疾患と薬物治療法２		2	
公衆衛生学１		2	
疾患と薬物治療法３		2	
薬と経済		2	
公衆衛生学２		2	
社会薬学		2	
薬効薬理処方解析		2	
がん治療学医薬看連携講義		2	
［専門英語］			
生物学英語		1	
化学英語		1	
薬学英語		1	
臨床薬学英語		1	
［アドバンスト科目］			
応用物理学		2	
天然物薬化学		2	
創薬化学		2	
ゲノム創薬と再生医療		2	
物理学実習		2	
香粧品学		2	
［実習・演習］			
情報科学実習	1		
基礎薬科学実習	1.5		
早期体験学習	1		
医薬品物性・製剤学実習	1.5		
免疫・分子生物学実習	1.5		
有機化学・生薬学実習	1.5		
衛生化学・放射化学実習	1.5		
薬効薬物動態解析実習	1.5		
物理化学生物学演習１	1		
総合薬学研究１	2		
物理化学生物学演習２	1		
総合薬学研究２	2		
フィジカルアセスメント	1		
実務実習事前学習	6		
総合演習１	3		
臨床薬学実務実習	20		
総合薬学研究３	4		
総合薬学演習	4		
総合演習２	4		

＜履修方法＞

専門科目は必修科目26単位以上、Ⅰ群選択必修科目から34単位以上、Ⅱ群選択必修科目から36単位以上、専門英語から３単位以上、アドバンスト科目から２単位以上、実習・演習科目から59単位以上、合計160単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代経済の課題		2	
自校学習		2	
住みよい社会と福祉		2	
教養特殊講義Ａ		2	
生活環境科学		2	
国際化と異文化理解		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
基礎ゼミ	2		
基礎数学		2	
情報科学入門		2	
データリテラシー入門		2	
物理学概論		2	
日本語の技法		2	
暮らしのなかの起業入門		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
【学部基礎科目】			
基礎化学	2		
基礎生物学	2		
化学入門	2		
生物学入門	2		
【外国語科目】			
［英語］			
英語演習１	2		
英語演習２	2		
英語演習３	2		
英語演習４	2		
オーラルイングリッシュ１	1		
オーラルイングリッシュ２	1		
オーラルイングリッシュ３	1		
オーラルイングリッシュ４	1		
ＴＯＥＩＣ１		1	
ＴＯＥＩＣ２		1	

ＴＯＥＦＬ１		1	
ＴＯＥＦＬ２		1	
ライティング１		1	
ライティング２		1	
［初修外国語］			
ドイツ語総合１		1	
ドイツ語総合２		1	
ドイツ語総合３		1	
ドイツ語総合４		1	
ドイツ語コミュニケーション１		1	
ドイツ語コミュニケーション２		1	
ドイツ語コミュニケーション３		1	
ドイツ語コミュニケーション４		1	
フランス語総合１		1	
フランス語総合２		1	
フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から11単位以上（基礎ゼミ含む）、学部基礎科目８単位、外国語科目から英語および初修外国語の中から必修12単位、選択必修２単位を含む16単位以上、合計35単位以上修得しなければならない。

創薬科学科

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【専門科目】			
［必修科目］			
薬学概論	2		
基礎有機化学	2		
有機化学１	2		
薬用資源学	2		
基礎生化学	2		
人体生理学１	2		
分析化学１	2		
化学熱力学	2		

化学演習	1			
生物学演習	1			
解剖組織学	2			
人体生理学２	2			
分子薬理学	2			
物理化学	2			
有機化学２	2			
分析化学２	2			
微生物学	2			
生化学	2			
バイオ・ゲノム薬科学	2			
有機反応化学	2			
分析化学３	2			
神経病態薬理学	2			
免疫学	2			
放射化学	2			
病態薬理学１	2			
製剤学	2			
薬物動態学	2			
環境毒性学	2			
薬学統計学	2			
［アドバンスト科目Ⅰ］				
天然物薬化学		2		
医薬品化学		2		
創薬化学		2		
病態薬理学２		2		
ゲノム創薬と再生医療		2		
病理学		2		
［アドバンスト科目Ⅱ］				
香粧品学		2		
漢方薬学		2		
生物有機化学		2		
製剤工学		2		
食品薬学		2		
化学療法学		2		
［実践科目］				
オープンラボ１		1		
オープンラボ２		1		
キャリアデザイン	1			
医薬品開発論	2			
データサイエンス演習	1			
産学連携講座	1			
インターンシップ		1		
創薬プレゼン実践演習	1			
海外研修グローバル創薬コース		1		
［専門英語］				

薬学専門英語	2		
グローバル創薬科学	2		
実践科学英語演習	1		
［自由選択科目］			
臨床検査総合管理学１			3
医療安全管理学１			0.5
検査学１			0.5
栄養学			0.5
物理学実習			2
一般検査学			2
一般検査学実習			1
血液検査学			3
血液検査学実習			1
疾患の検査診断学			1.2
微生物検査学			3
微生物検査学実習			1.2
医療安全管理学２			1
医療安全管理学実習			0.5
検査学２			0.5
公衆衛生学			2
疾患の検査と治療法１			2
輸血・移植検査学			3
輸血・移植検査学実習			1
生化学検査学			2
生化学検査学実習			0.5
染色体検査学			0.5
病理検査学			4
病理検査学実習			1
病理学実習			0.5
臨床検査総合管理学２			3
疾患の検査と治療法２			2
病態検査学			2.4
検査機器総論			0.5
生理検査学			9
生理検査学実習			1
免疫検査学実習			0.5
臨地実習事前学習			1
検査学３			0.5
臨地実習１			3
臨地実習２			8
検査学４			0.5
［実習・研究］			
情報科学実習	1		
基礎薬科学実習	1.5		
分析化学・製剤学実習	1		
有機化学・生薬学実習	1.5		

免疫・分子生物学実習	1.5		
衛生化学・放射化学実習	1.5		
薬効薬物動態解析実習	1.5		
卒業研究	12		

＜履修方法＞

専門科目は必修科目から56単位、アドバンスト科目Ⅰから２単位以上、アドバンスト科目Ⅱから２単位以上、実践科目から７単位以上、専門英語から５単位以上、実習・研究科目から21.5単位、合計93.5単位以上修得しなければならない。

教員免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1

別表(１)―７

文芸学部授業科目表

共通教養科目

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【共通教養科目】			
（人間性・社会性科目群）			
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
暮らしのなかの憲法		2	
現代社会と倫理		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
哲学と人間・社会		2	
住みよい社会と福祉		2	
自校学習		2	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
基礎ゼミ	2		
生命の科学		2	
思考の技術		2	
キャリアデザイン１		2	
キャリアデザイン２		2	
科学・技術と社会		2	
数的リテラシー基礎１		2	
数的リテラシー基礎２		2	

コンピュータ実習１	2			
コンピュータ実習２		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
データリテラシー入門		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
日本語の表現		2		
心と体の健康		2		
身体論		2		
芸術と表現		2		
【第一外国語科目（英語）】				
英語１Ａ	1			
英語１Ｂ	1			
英語２Ａ	1			
英語２Ｂ	1			
オーラルイングリッシュ１	1			
オーラルイングリッシュ２	1			
英語３	1			
英語４	1			
オーラルイングリッシュ３		1		
オーラルイングリッシュ４		1		
留学英語１		1		
留学英語２		1		
ＴＯＥＩＣ　１		1		
ＴＯＥＩＣ　２		1		
ＴＯＥＩＣ　３		1		
ＴＯＥＩＣ　４		1		
ＴＯＥＦＬ　１		1		
ＴＯＥＦＬ　２		1		
インターネット英語１		1		
インターネット英語２		1		
ＥＳＰ　１		1		
ＥＳＰ　２		1		
［第二外国語科目］				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		

フランス語総合３		1	
フランス語総合４		1	
フランス語コミュニケーション１		1	
フランス語コミュニケーション２		1	
フランス語コミュニケーション３		1	
フランス語コミュニケーション４		1	
中国語総合１		1	
中国語総合２		1	
中国語総合３		1	
中国語総合４		1	
中国語コミュニケーション１		1	
中国語コミュニケーション２		1	
中国語コミュニケーション３		1	
中国語コミュニケーション４		1	
韓国語総合１		1	
韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
韓国語コミュニケーション１		1	
韓国語コミュニケーション２		1	
韓国語コミュニケーション３		1	
韓国語コミュニケーション４		1	
イタリア語総合１		1	
イタリア語総合２		1	
イタリア語総合３		1	
イタリア語総合４		1	
イタリア語コミュニケーション１		1	
イタリア語コミュニケーション２		1	
スペイン語総合１		1	
スペイン語総合２		1	
スペイン語総合３		1	
スペイン語総合４		1	
スペイン語コミュニケーション１		1	
スペイン語コミュニケーション２		1	

＜履修方法＞

共通教養科目から必修科目を含み20単位以上、外国語科目から英語（必修科目を含む）10単位を含み14単位以上、合計34単位以上修得すること。

また、文学科英語英米文学専攻については英語10単位を除外し、合計24単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文学科　日本文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
【必修科目】			
（コース共通）			
専門基礎研究	2		
文学概論１	2		
文学概論２	2		

日本文学史１	2			
日本文学史２	2			
卒業論文・卒業制作	4			
［コース必修］				
（言語・文学コース）				
フィールド・ワーク	1			
アカデミック・ライティング	1			
［演習］				
（言語・文学コース）				
言語・文学演習１Ａ	1			
言語・文学演習１Ｂ	1			
言語・文学演習２Ａ	1			
言語・文学演習２Ｂ	1			
［コース必修］				
（創作・評論コース）				
クリエイティヴ・ライティング１	1			
クリエイティヴ・ライティング２	1			
［演習］				
（創作・評論コース）				
創作・評論演習１Ａ	1			
創作・評論演習１Ｂ	1			
創作・評論演習２Ａ	1			
創作・評論演習２Ｂ	1			
【選択必修科目】				
［選択必修科目Ⅰ（コース共通）］				
［言語・文学系（Ａ群）］				
※文学のジャンル１		2		
※文学のスタイル１		2		
古典への招待１		2		
古典への招待２		2		
作家論		2		
作品論		2		
※翻訳文学		2		
※日本語学概論		2		
※日本語文法		2		
［選択必修科目Ⅱ］				
（言語・文学コース）				
☆文学のジャンル２		2		
☆文学のスタイル２		2		
☆上代・中世作品講読		2		
☆中世・近世作品講読		2		
☆近代文学講読		2		
☆現代文学講読		2		
☆※上代の思想と表現		2		
☆※中古の思想と表現		2		
☆※中世の思想と表現		2		

☆※近世の思想と表現		2		
☆近代表現史論		2		
☆現代表現史論		2		
☆※日本語史論１		2		
☆※日本語史論２		2		
☆※社会言語学１		2		
☆※社会言語学２		2		
☆テクストクリティーク		2		
日本語研究１		2		
日本語研究２		2		
文学テクストの読み方１		2		
文学テクストの読み方２		2		
［選択必修科目Ⅰ（コース共通）］				
［創作・評論系（Ｂ群）］				
※創作基礎１		2		
※創作基礎２		2		
※批評理論１		2		
※批評理論２		2		
芸術と文学		2		
映画史		2		
メディア論		2		
翻訳基礎		2		
※編集基礎		2		
［選択必修科目Ⅱ］				
（創作・評論コース）				
☆※創作技法１		2		
☆※創作技法２		2		
☆※文芸批評１		2		
☆※文芸批評２		2		
☆現代思想１		2		
☆現代思想２		2		
☆外国文学		2		
☆※映像と文学１		2		
☆※映像と文学２		2		
☆比較文学		2		
☆※推理小説論		2		
☆マスメディア論		2		
☆ジャーナリズム論		2		
☆※編集技法		2		
☆※編集・出版論		2		
創作研究		2		
評論研究		2		
編集研究		2		
【コース共通選択科目】				
※映像・芸術基礎１		2		
※映像・芸術基礎２		2		

※古典と現代１		2	
※古典と現代２		2	
文芸特殊講義１		2	
文芸特殊講義２		2	
※日本語音声学		2	
※日本語教育文法		2	
※日本語教授法１		2	
※日本語教授法２		2	
※映像・芸術論１		2	
※映像・芸術論２		2	
※演劇・芸能論１		2	
※演劇・芸能論２		2	
文芸特殊講義３		2	
文芸特殊講義４		2	
※書誌学１		2	
※書誌学２		2	
書道		2	
※日本語特殊講義１		2	
※日本語特殊講義２		2	
※手話学１		2	
※手話学２		2	
※日本語教授法３		2	
※日本語教授法４		2	
文芸特殊講義５		2	
文芸特殊講義６		2	
※漢文学１		2	
※漢文学２		2	
文芸特殊講義７		2	
文芸特殊講義８		2	
※関西文化研究		2	
※大阪文芸研究		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

言語・文学コースは、必修科目20単位、選択必修科目Ⅰから12単位以上、選択必修科目Ⅱから26単位以上、必修科目と選択必修科目及びコース共通選択科目合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

創作・評論コースは、必修科目20単位、選択必修科目Ⅰから12単位以上、選択必修科目Ⅱから26単位以上、必修科目と選択必修科目及びコース共通選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

他コースの☆印の科目は、コース共通選択科目に加算することができる。

文芸学部授業科目表

文学科　英語英米文学専攻

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由

【必修科目】			
（英語英米文学コース）			
ＳｐｅａｋｉｎｇⅠＡ	2		
ＳｐｅａｋｉｎｇⅠＢ	2		
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅠＡ	2		
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅠＢ	2		
ＴｕｔｏｒｉａｌⅠ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ ａｎｄ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ ａｎｄ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	2		
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ Ａ	1		
Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌｓ Ｂ	1		
ＳｐｅａｋｉｎｇⅡＡ	2		
ＳｐｅａｋｉｎｇⅡＢ	2		
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅡＡ	2		
ＬｉｓｔｅｎｉｎｇⅡＢ	2		
Ｂａｓｉｃ Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	2		
Ｂａｓｉｃ Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	2		
ＴｕｔｏｒｉａｌⅡＡ	2		
ＴｕｔｏｒｉａｌⅡＢ	2		
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ａ	2		
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ｂ	2		
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ａ	2		
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｌｉｔｅｒａｒｙ Ｈｉｓｔｏｒｙ Ｂ	2		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎⅠＡ	2		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎⅠＢ	2		
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ａ	2		
Ａｃａｄｅｍｉｃ Ｗｒｉｔｉｎｇ Ｂ	2		
ＳｅｍｉｎａｒⅠＡ	2		
ＳｅｍｉｎａｒⅠＢ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅠＡ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅠＢ	2		
ＳｅｍｉｎａｒⅡＡ	2		
ＳｅｍｉｎａｒⅡＢ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅡＡ	2		
Ｒｅａｄｉｎｇ Ａｃａｄｅｍｉｃ ＥｎｇｌｉｓｈⅡＢ	2		
Ｅｎｇｌｉｓｈ ＣｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎⅡ	2		
Ｇｒａｄｕａｔｅ Ｓｔｕｄｙ	4		
【選択必修科目】			
［Ａ］			
Ｃｈｉｌｄｒｅｎ’ｓ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		2	
Ｃｈｉｌｄｒｅｎ’ｓ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ｂ		2	
Ａｎｇｌｏ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ａ		2	
Ａｎｇｌｏ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ｂ		2	
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ａ		2	
Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｆｉｃｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ Ｂ		2	
Ｌｉｔｅｒａｒｙ ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅠ Ａ		2	

Ｌｉｔｅｒａｒｙ　ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅠ　Ｂ		2	
Ｓｔｕｄｙ　Ａｂｒｏａｄ　Ｐｒｏｇｒａｍｍｅ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
Ｍｅｄｉｅｖａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
Ｍｅｄｉｅｖａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ａ		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ｂ		2	
Ｌｉｔｅｒａｒｙ　ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅡＡ		2	
Ｌｉｔｅｒａｒｙ　ＴｒａｎｓｌａｔｉｏｎⅡＢ		2	
［Ｂ］			
Ｄｒａｍａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ａ		2	
Ｄｒａｍａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ｂ		2	
Ｐｏｅｔｒｙ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ａ		2	
Ｐｏｅｔｒｙ　Ｓｔｕｄｉｅｓ　Ｂ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
Ｅａｒｌｙ　Ｃｈｉｌｄｈｏｏｄ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ａ		2	
Ｅａｒｌｙ　Ｃｈｉｌｄｈｏｏｄ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ　Ｂ		2	
【選択科目】			
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ａ		2	
※Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ　Ｂ		2	
※Ｇｌｏｂａｌ　Ｉｓｓｕｅｓ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ		2	
※Ｆｉｌｍ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ａ		2	
※Ｆｉｌｍ　ａｎｄ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ　Ｂ		2	
Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ａ		2	
Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｂ		2	
ＴＯＥＩＣ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ａ		2	
ＴＯＥＩＣ　Ａｄｖａｎｃｅｄ　Ｂ		2	
【自由選択科目】			
Ｉｎｔｅｒｎｓｈｉｐ		2	

＜履修方法＞

必修科目66単位、選択必修科目のＡから18単位以上、Ｂから８単位以上、選択科目から６単位以上を含む98単位以上、計100単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科　舞台芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
※演劇概論	2		
舞台芸術特別演習Ⅳ	2		
【指定必修科目Ⅰ】			
（基礎科目Ⅰ）			
身体と発声Ａ		1	
身体と発声Ｂ		1	
舞台表現基礎実習Ａ		1	

舞台表現基礎実習Ｂ		1		
舞踊表現基礎実習ＩＡ		1		
舞踊表現基礎実習ＩＢ		1		
（基礎科目Ⅱ）				
パフォーマンス研究Ａ		2		
パフォーマンス研究Ｂ		2		
※日本芸能概論Ａ		2		
※日本芸能概論Ｂ		2		
※戯曲の読み方		2		
※戯曲創作研究１		2		
【指定必修科目Ⅱ】				
演劇創作実習１Ａ		1		
演劇創作実習１Ｂ		1		
演劇創作実習２Ａ		1		
演劇創作実習２Ｂ		1		
演劇創作実習３		1		
舞踊創作実習１		1		
舞踊創作実習２		1		
身体表現実習		1		
※戯曲創作研究２Ａ		2		
※戯曲創作研究２Ｂ		2		
※日本作家作品論Ａ		2		
※日本作家作品論Ｂ		2		
※伝統芸能作品研究Ａ		2		
※伝統芸能作品研究Ｂ		2		
【指定必修科目Ⅲ】				
演劇創作演習１Ａ		2		
演劇創作演習１Ｂ		2		
演劇創作演習２		2		
演劇創作演習３		2		
舞踊創作演習１		2		
舞踊創作演習２		2		
身体表現演習		2		
舞踊表現演習		2		
戯曲創作研究３Ａ		2		
戯曲創作研究３Ｂ		2		
演劇芸能研究Ａ		2		
演劇芸能研究Ｂ		2		
戯曲分析研究		2		
アカデミック・ライティング		2		
舞台芸術研究		2		
※ＴＯＰ論Ａ		2		
※ＴＯＰ論Ｂ		2		
【指定必修科目Ⅳ】				
［卒業研究①］				
卒業研究ＩＡ		2		

卒業研究ＩＢ		2		
演劇卒業公演		4		
［卒業研究②］				
卒業研究ⅡＡ		2		
卒業研究ⅡＢ		2		
舞踊卒業公演		4		
［卒業研究③］				
卒業研究ⅢＡ		2		
卒業研究ⅢＢ		2		
卒業戯曲創作		4		
［卒業研究④］				
卒業研究ⅣＡ		2		
卒業研究ⅣＢ		2		
卒業論文		4		
【専攻選択科目】				
文章表現		2		
文章創作		2		
※アーツマネージメント論Ａ		2		
※アーツマネージメント論Ｂ		2		
舞台技術基礎実習Ｉ１		1		
舞台技術基礎実習Ｉ２		1		
舞台技術基礎実習Ⅱ１		1		
舞台技術基礎実習Ⅱ２		1		
舞台芸術特別実習Ｉ		1		
舞台芸術特別演習Ｉ		2		
※舞台芸術特論Ｉ		2		
舞踊表現基礎実習ⅡＡ		1		
舞踊表現基礎実習ⅡＢ		1		
※戯曲論Ａ		2		
※戯曲論Ｂ		2		
演出・演技論Ａ		2		
演出・演技論Ｂ		2		
舞台照明実習１		1		
舞台照明実習２		1		
音響効果実習１		1		
音響効果実習２		1		
舞台美術実習１		1		
舞台美術実習２		1		
映像表現実習Ａ		1		
映像表現実習Ｂ		1		
伝統芸能実習ＩＡ		1		
伝統芸能実習ＩＢ		1		
伝統芸能実習ⅡＡ		1		
伝統芸能実習ⅡＢ		1		
舞台衣裳実習１		1		
舞台衣裳実習２		1		

音楽実習Ⅰ		1	
※世界舞踊史Ａ		2	
※世界舞踊史Ｂ		2	
※世界映画史Ａ		2	
※世界映画史Ｂ		2	
※舞台芸術批評論Ａ		2	
※舞台芸術批評論Ｂ		2	
舞台芸術特別実習Ⅱ		1	
舞台芸術特別演習Ⅱ		2	
※舞台芸術特論Ⅱ		2	
音楽実習Ⅱ		1	
映像表現演習		2	
舞台美術実習３		1	
舞台美術実習４		1	
※日本演劇史Ａ		2	
※日本演劇史Ｂ		2	
演劇教育演習Ａ		2	
演劇教育演習Ｂ		2	
※世界演劇史Ａ		2	
※世界演劇史Ｂ		2	
舞台芸術特別実習Ⅲ		1	
舞台芸術特別演習Ⅲ		2	
※舞台芸術特論Ⅲ		2	
舞台芸術特別実習Ⅳ		1	
※舞台芸術特論Ⅳ		2	
日本語学概論		2	
日本語史論１		2	
日本語史論２		2	
書道		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目から４単位、指定必修科目Ⅰの基礎科目Ⅰから２単位以上、基礎科目Ⅱから４単位以上、指定必修科目Ⅱから８単位以上､指定必修科目Ⅲから４単位以上､指定必修科目Ⅳから８単位以上、指定必修科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ及び専攻選択科目を合わせて76単位以上、合計90単位以上を修得すること。

文芸学部授業科目表

芸術学科　造形芸術専攻

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
作品鑑賞Ａ	2		
作品鑑賞Ｂ	2		
卒業制作・卒業論文	4		
ゼミナールⅠＡ	4		
ゼミナールⅠＢ	4		

ゼミナールⅡA	4			
ゼミナールⅡB	4			
ゼミナールⅢA	4			
ゼミナールⅢB	4			
ゼミナールⅣA	4			
ゼミナールⅣB	4			
【選択必修科目】				
【選択必修科目Ⅰ】				
※日本美術史A		2		
※日本美術史B		2		
※西洋美術史A		2		
※西洋美術史B		2		
※現代美術論A		2		
※現代美術論B		2		
※アジア美術史		2		
※思想と表現（東洋）		2		
※思想と表現（西洋）		2		
【選択必修科目Ⅱ】				
デッサン基礎演習Ⅰ		2		
デッサン基礎演習Ⅱ		2		
平面基礎演習A		2		
平面基礎演習B		2		
立体基礎演習A		2		
立体基礎演習B		2		
【選択必修科目Ⅲ】				
色彩学		2		
デザイン製図		2		
デザイン概論A		2		
デザイン概論B		2		
工芸史A		2		
工芸史B		2		
彫塑		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅠA		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅠB		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅡA		2		
コンピュータグラフィックス演習ⅡB		2		
【選択必修科目Ⅳ】				
素材と表現Ⅰ		2		
素材と表現Ⅱ		2		
素材と表現Ⅲ		2		
素材と表現Ⅳ		2		
【選択必修科目Ⅴ】				
※絵画論		2		
※立体造形論		2		
※陶芸論		2		
※染織論		2		

※ガラス造形論		2	
※版画論		2	
※グラフィックアート論		2	
※イラストレーション論		2	
※日本彫刻史論		2	
【選択必修科目Ⅵ】			
造形プロジェクト演習ＩＡ		2	
造形プロジェクト演習ＩＢ		2	
造形プロジェクト演習ⅡＡ		2	
造形プロジェクト演習ⅡＢ		2	
造形特別プログラムＩＡ		2	
造形特別プログラムＩＢ		2	
造形特別プログラムⅡＡ		2	
造形特別プログラムⅡＢ		2	
※美術研究ＩＡ		2	
※美術研究ＩＢ		2	
※美術研究ⅡＡ		2	
※美術研究ⅡＢ		2	
【自由選択科目】			
※留学プログラムⅠ		2	
※留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目40単位、選択必修科目の選択必修科目Ｉから10単位以上、Ⅱ・Ⅳ・Ⅴからそれぞれ４単位以上、Ⅲ・Ⅵからそれぞれ６単位以上を含む34単位以上、必修科目と選択必修科目及び学科選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化・歴史学科

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
基礎研究	2		
演習ＩＡ	2		
演習ＩＢ	2		
演習ⅡＡ	2		
演習ⅡＢ	2		
卒業論文	8		
【選択必修科目】			
［基礎科目Ｉ］			
※日本史概説		2	
※世界史概説		2	
※現代学入門		2	
※文化資源学概説		2	
［基礎科目Ⅱ］			
［日本史系］			
日本古代史講読Ａ		2	
日本古代史講読Ｂ		2	
日本中世史講読Ａ		2	

日本中世史講読Ｂ		2		
日本近世史講読Ａ		2		
日本近世史講読Ｂ		2		
日本近現代史講読Ａ		2		
日本近現代史講読Ｂ		2		
［世界史系］				
西洋史講読ＩＡ		2		
西洋史講読ＩＢ		2		
西洋史講読ⅡＡ		2		
西洋史講読ⅡＢ		2		
東洋史講読Ａ		2		
東洋史講読Ｂ		2		
古代エジプト史講読Ａ		2		
古代エジプト史講読Ｂ		2		
［現代文化・倫理系］				
現代文化講読ＩＡ		2		
現代文化講読ＩＢ		2		
現代文化講読ⅡＡ		2		
現代文化講読ⅡＢ		2		
現代倫理講読ＩＡ		2		
現代倫理講読ＩＢ		2		
現代倫理講読ⅡＡ		2		
現代倫理講読ⅡＢ		2		
［文化資源学系］				
考古学講読Ａ		2		
考古学講読Ｂ		2		
文化資源学講読Ａ		2		
文化資源学講読Ｂ		2		
民俗学実習Ａ		2		
民俗学実習Ｂ		2		
［発展科目Ｉ］				
※日本民俗学		2		
※環境民俗論		2		
※日本考古学Ａ		2		
※日本考古学Ｂ		2		
※人文地理学Ａ		2		
※人文地理学Ｂ		2		
※地誌学Ａ		2		
※地誌学Ｂ		2		
※近畿現代文化探索		2		
※近畿歴史文化探索		2		
※世界の文化資源		2		
※近畿の文化資源		2		
※女性学・男性学Ａ		2		
※女性学・男性学Ｂ		2		
※宗教学Ａ		2		

※宗教学Ｂ		2		
［発展科目Ⅱ］				
［日本史系］				
※日本古代史Ａ		2		
※日本古代史Ｂ		2		
※日本中世史Ａ		2		
※日本中世史Ｂ		2		
※日本近世史Ａ		2		
※日本近世史Ｂ		2		
※日本近現代史Ａ		2		
※日本近現代史Ｂ		2		
※日本思想史Ａ		2		
※日本思想史Ｂ		2		
［世界史系］				
※西洋史Ａ		2		
※西洋史Ｂ		2		
※西洋文化史ＩＡ		2		
※西洋文化史ＩＢ		2		
※西洋文化史ⅡＡ		2		
※西洋文化史ⅡＢ		2		
※東洋史Ａ		2		
※東洋史Ｂ		2		
※東洋文化史ＩＡ		2		
※東洋文化史ＩＢ		2		
※東洋文化史ⅡＡ		2		
※東洋文化史ⅡＢ		2		
※古代エジプト史Ａ		2		
※古代エジプト史Ｂ		2		
［現代文化・倫理系］				
※環境倫理学		2		
※生命倫理学		2		
※文化社会学Ａ		2		
※文化社会学Ｂ		2		
※現代人間学Ａ		2		
※現代人間学Ｂ		2		
※身体装飾論		2		
※情報と文化Ａ		2		
※情報と文化Ｂ		2		
※音楽文化論		2		
※文化人類学Ａ		2		
※文化人類学Ｂ		2		
［文化資源学系］				
※歴史考古学Ａ		2		
※歴史考古学Ｂ		2		
考古学実習Ａ		2		
考古学実習Ｂ		2		

地域調査実習Ａ		2	
地域調査実習Ｂ		2	
文化探索実習		1	
文化活用・発信実習Ⅰ		2	
文化活用・発信実習Ⅱ		2	
文化資源学自由研究		2	
【学科選択科目】			
※自然地理学Ａ		2	
※自然地理学Ｂ		2	
※政治学原論Ａ		2	
※政治学原論Ｂ		2	
※文化学特講Ａ		2	
※文化学特講Ｂ		2	
※言語文化セミナー初級		2	
※言語文化セミナーＡ		2	
※言語文化セミナーＢ		2	
【自由選択科目】			
留学プログラムⅠ		2	
留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目14単位、選択必修科目（基礎科目Ⅰ２単位、基礎科目Ⅱ４単位以上、発展科目Ⅰ及び発展科目Ⅱから32単位以上を含む。）及び学科選択科目から66単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部授業科目表

文化デザイン学科

授業科目	必修	選択	自由
【必修科目】			
感性学概論	2		
デザイン学概論	2		
プロデュース学概論	2		
ゼミナールＩＡ	2		
ゼミナールＩＢ	2		
ゼミナールⅡＡ	4		
ゼミナールⅡＢ	4		
ゼミナールⅢＡ	4		
ゼミナールⅢＢ	4		
ゼミナールⅣＡ	4		
ゼミナールⅣＢ	4		
卒業論文・卒業制作・卒業プロジェクト	4		
【選択必修科目】			
【感性学系】			
※西洋芸術文化史Ａ		2	
※西洋芸術文化史Ｂ		2	
※日本芸術文化史Ａ		2	
※日本芸術文化史Ｂ		2	
※感性文化論		2	

視覚文化論		2		
※表象文化論		2		
※近畿風土論		2		
感性学特論Ⅰ		2		
感性学特論Ⅱ		2		
感性学特論Ⅲ		2		
【デザイン系】				
デザイン感覚基礎Ａ		2		
デザイン感覚基礎Ｂ		2		
※デザイン史Ａ		2		
※デザイン史Ｂ		2		
※空間デザイン論		2		
視覚デザイン論		2		
プロダクトデザイン論		2		
ソーシャルデザイン論		2		
デザイン学特論Ⅰ		2		
デザイン学特論Ⅱ		2		
デザイン学特論Ⅲ		2		
【プロデュース系】				
アートコミュニケーション論Ａ		2		
アートコミュニケーション論Ｂ		2		
プロデューサー論Ａ		2		
プロデューサー論Ｂ		2		
※文化政策論		2		
※劇場文化論		2		
※地方創生論		2		
※ソーシャルメディア論		2		
プロデュース学特論Ⅰ		2		
プロデュース学特論Ⅱ		2		
プロデュース学特論Ⅲ		2		
【選択科目】				
芸術文化講読Ａ		2		
芸術文化講読Ｂ		2		
プロジェクト演習Ａ		2		
プロジェクト演習Ｂ		2		
プロジェクト演習Ｃ		2		
プロジェクト演習Ｄ		2		
ＤＴＰ演習		2		
３Ｄモデリング演習		2		
ＣＡＤ演習		2		
ＣＡＤ・ＣＧ演習Ａ		2		
ＣＡＤ・ＣＧ演習Ｂ		2		
※広告コミュニケーション論		2		
※知的財産論		2		
【自由選択科目】				
留学プログラムⅠ		2		

留学プログラムⅡ		2	
インターンシップ		2	

＜履修方法＞

必修科目38単位、選択必修科目の感性学系、デザイン系及びプロデュース系の３つの系からそれぞれ10単位以上並びに選択科目から４単位以上、必修科目と選択必修科目及び選択科目を合わせて80単位以上、合計90単位以上修得すること。

文芸学部（全学科共通）

他学科・他専攻開講科目、他学部開講単位互換科目及びコンソーシアム科目は、合わせて10単位（英語英米文学専攻は２単位）まで自由選択科目の卒業所要単位数に算入することができる。

【他学科・他専攻開講科目】

※印の科目は、文芸学部の他学科・他専攻所属の学生が履修することができる。

授業科目	単位数
【他学部開講単位互換科目】	
（法学部開講科目）	
国際法Ａ（総論）	2
社会保障法Ａ（総論・社会保険関係法）	2
社会保障法Ｂ（社会福祉関係法）	2
民法（親族）	2
民法（相続）	2
ジェンダー法Ａ	2
ジェンダー法Ｂ	2
環境法Ａ（環境法概説）	2
環境法Ｂ（環境法の現代的展開）	2
（経済学部開講科目）	
アメリカ経済論Ⅰ	2
アメリカ経済論Ⅱ	2
中国経済論Ⅰ	2
中国経済論Ⅱ	2
（経営学部開講科目）	
経営学Ａ	2
経営学Ｂ	2
公企業経営論	2
広告論	2
非営利組織経営論	2
ブランド論	2

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

＜履修方法＞

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）履修配当学年については２学年生以上とする。

別表(１)―８

総合社会学部授業科目表

総合社会学科

授業科目名	単位数または時間数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			

（人間性・社会性科目群）				
いのちの尊厳		2		
ボランティア論		2		
ボランティア実習入門		2		
人権と社会１		2		
人権と社会２		2		
暮らしのなかの憲法		2		
住みよい社会と福祉		2		
芸術鑑賞入門		2		
教養特殊講義Ａ		2		
（地域性・国際性科目群）				
国際化と異文化理解		2		
ことばと文化		2		
国際社会と日本		2		
世界の貧困と格差		2		
グローバル化と経済		2		
地域と環境の地理学		2		
時事教養		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
基礎ゼミ	2			
日本語の技法		2		
思考の技術		2		
データリテラシー入門		2		
情報処理	2			
基礎数学		2		
キャリアデザインⅠ		2		
キャリアデザインⅡ		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
健康とスポーツの科学		2		
食生活と健康		2		
（学部基礎科目群）				
日本史概論１		2		
日本史概論２		2		
外国史概論１		2		
外国史概論２		2		
地誌学概論１		2		
地誌学概論２		2		
社会学概論		2		
政治学概論		2		
国際政治学概論		2		
法律学概論		2		

倫理学概論		2		
哲学概論		2		
［外国語科目（第一外国語）］				
（英語）				
（コア科目）				
プロジェクト英語１	2			
プロジェクト英語２	2			
プロジェクト英語３		1		
プロジェクト英語４		1		
総合英語１	1			
総合英語２	1			
総合英語３		1		
総合英語４		1		
（基礎科目）				
Media English A		1		
Media English B		1		
Current Topics in EnglishA		1		
Current Topics in English B		1		
Current Topics in EnglishC		1		
Current Topics in EnglishD		1		
資格英語１		1		
資格英語２		1		
資格英語３		1		
資格英語４		1		
（応用科目）				
Study Abroad in the English Speaking World A		1		
Study Abroad in the English Speaking World B		1		
Study Abroad in the English Speaking World C		1		
Study Abroad in the English Speaking World D		1		
Advanced Project English A		1		
Advanced Project English B		1		
海外語学研修（英語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（中国語）				
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
中国語コミュニケーション１		1		
中国語コミュニケーション２		1		
中国語カルチャーセミナーA		1		
中国語カルチャーセミナーB		1		
中国語コミュニケーション３		1		
中国語コミュニケーション４		1		
海外語学研修（中国語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				

（韓国語）				
韓国語総合１		1		
韓国語総合２		1		
韓国語総合３		1		
韓国語総合４		1		
韓国語コミュニケーション１		1		
韓国語コミュニケーション２		1		
韓国語カルチャーセミナーA		1		
韓国語カルチャーセミナーB		1		
韓国語コミュニケーション３		1		
韓国語コミュニケーション４		1		
海外語学研修（韓国語）		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（ドイツ語）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
ドイツ語コミュニケーション１		1		
ドイツ語コミュニケーション２		1		
ドイツ語カルチャーセミナーA		1		
ドイツ語カルチャーセミナーB		1		
ドイツ語コミュニケーション３		1		
ドイツ語コミュニケーション４		1		
［外国語科目（第二外国語）］				
（フランス語）				
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
フランス語コミュニケーション１		1		
フランス語コミュニケーション２		1		
フランス語カルチャーセミナーA		1		
フランス語カルチャーセミナーB		1		
フランス語コミュニケーション３		1		
フランス語コミュニケーション４		1		
［学部共通コア科目］				
総合社会学演習	2			
総合社会学概論A	2			
総合社会学概論B	2			
［社会・マスメディア系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
日本語文章力養成A		2		
日本語文章力養成B		2		
社会調査法A		2		
社会調査法B		2		

フィールドワークＡ		2		
フィールドワークＢ		2		
現代社会学概論Ａ	2			
現代社会学概論Ｂ	2			
国際社会論		2		
メディア概論Ａ	2			
メディア概論Ｂ	2			
現場からの放送論		2		
現場からの新聞論		2		
現代社会と家族		2		
現代社会と福祉		2		
グローバルヒストリー		2		
地理学概論		2		
現代政治概論		2		
経済学概論		2		
市民社会論		2		
科学的思考法		2		
時事総論Ａ		2		
時事総論Ｂ		2		
基礎講読（鑑賞）Ａ	2			
基礎講読（鑑賞）Ｂ	2			
ＮＰＯ／ＮＧＯ論		2		
（専門発展科目Ｉ）				
多文化共生論		2		
教育と社会階層		2		
社会学史		2		
メディア文化論		2		
メディア社会論		2		
災害と地域社会		2		
メディアと地域社会		2		
国際関係論		2		
国際理解教育		2		
ジェンダーとメディア		2		
意思決定とネットワーク		2		
広告論		2		
ＰＲ論		2		
映像制作演習		2		
映像表現論Ａ		2		
映像表現論Ｂ		2		
ジャーナリズム論Ａ		2		
ジャーナリズム論Ｂ		2		
出版論		2		
日本語文章力養成Ｃ		2		
日本語文章力養成Ｄ		2		
量的解析法		2		
質的分析法		2		

社会統計学Ａ		2		
社会統計学Ｂ		2		
社会調査実習Ａ		1		
社会調査実習Ｂ		1		
（専門発展科目Ⅱ）				
（現代社会コース）				
コミュニケーション論		2		
情報社会とネットワーク		2		
ドキュメンタリー制作		2		
グローバル化とコミュニティ		2		
経済と社会		2		
天文学と文明		2		
都市・地域論		2		
仕事と社会格差		2		
移動と社会		2		
文化人類学		2		
（マスメディアコース）				
芸術メディア論Ａ		2		
芸術メディア論Ｂ		2		
メディア・コンテンツ論		2		
映像表現論Ｃ		2		
映像表現論Ｄ		2		
マスメディア特講Ａ		2		
マスメディア特講Ｂ		2		
（卒業論文・卒業制作科目群）				
演習１Ａ	1			
演習１Ｂ	1			
演習２Ａ	2			
演習２Ｂ	2			
卒業論文・卒業制作	6			
（インターンシップ科目）				
エリア実践活動Ⅰ		2		
［心理系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
心理学概論Ａ	2			
心理学概論Ｂ	2			
心理学研究法	2			
心理学入門		2		
人間科学特殊講義Ａ		2		
人間科学特殊講義Ｂ		2		
心理学史		2		
心理学統計法１	2			
心理学統計法２		2		
心理学統計法３		2		
心理測定法		2		
実験プログラミング演習		1		

コミュニケーション心理学実習		1		
心理学実験Ａ	2			
心理学実験Ｂ		2		
（専門発展科目Ⅰ）				
知覚心理学		2		
認知心理学		2		
学習行動論		2		
行動発達学		2		
発達心理学		2		
社会心理学		2		
家族心理学		2		
犯罪心理学		2		
健康心理学		2		
産業心理学		2		
臨床心理学概論		2		
（専門発展科目Ⅱ）				
知覚・認知心理学		2		
神経・生理心理学		2		
情報処理心理学		2		
比較行動学		2		
進化心理学		2		
学習・言語心理学		2		
公道・発達心理学		2		
社会・集団・家族心理学		2		
感情・人格心理学		2		
司法・犯罪心理学		2		
教育・学校心理学		2		
障害者・障害児心理学		2		
福祉心理学		2		
健康・医療心理学		2		
産業・組織心理学		2		
人体の構造と機能及び疾病		2		
精神疾患とその治療		2		
心理学的支援法		2		
心理的アセスメント		2		
関係行政論		2		
心理学研究基礎	2			
心理学講読	2			
心理学フィールド実習		1		
演習１Ａ	1			
演習１Ｂ	1			
演習２Ａ	2			
演習２Ｂ	2			
卒業論文	6			
（専門特別科目）				
公認心理師の職責		2		

心理演習		2		
心理実習		2		
（インターンシップ科目）				
エリア実践活動Ⅱ		2		
［環境・まちづくり系専攻領域］				
（専門基礎科目）				
環境・まちづくり概論Ａ	2			
環境・まちづくり概論Ｂ	2			
ポスト近代社会論１		2		
ポスト近代社会論２		2		
都市・地域計画論１		2		
まちづくり論１		2		
地域経済論１		2		
環境政策学１		2		
環境計画論１		2		
自然地理学１		2		
自然環境論１		2		
地球環境論１		2		
地理情報システム１		2		
統計学の基礎		2		
情報リテラシー演習	2			
演習１	2			
演習２	2			
演習３		2		
演習４		2		
卒業研究ゼミナール１	1			
卒業研究ゼミナール２	1			
卒業研究ゼミナール３	2			
卒業研究ゼミナール４	2			
卒業論文	6			
（専門発展科目）				
都市・地域計画論２		2		
都市・地域計画論３		2		
まちづくり論２		2		
まちづくり論３		2		
地域経済論２		2		
地域経済論３		2		
環境政策学２		2		
環境政策学３		2		
資源循環論		2		
環境計画論２		2		
環境計画論３		2		
エネルギー論		2		
環境教育論		2		
自然地理学２		2		
自然地理学３		2		

自然環境論２		2	
地球環境論２		2	
情報と環境・社会		2	
地理情報システム論２		2	
地理情報システム論３		2	
空間情報処理論		2	
デジタル処理演習		2	
地球・環境統計学		2	
地球・環境調査論		2	
数理的思考		2	
ファシリテーション		2	
人文地理学１		2	
人文地理学２		2	
人文地理学３		2	
特別講義１		2	
特別講義２		2	
特別講義３		2	
特別講義４		2	
（インターンシップ科目）			
エリア実践活動Ⅲ		2	

＜履修方法＞

①卒業に要する単位数は、共通教養科目から24単位以上、外国語科目から18単位以上、学部共通コア科目から６単位以上、専門科目から78単位以上を修得し、共通教養科目、外国語科目、学部共通コア科目、専門科目とあわせて126単位以上を修得しなければならない。ただし、専門特別科目は卒業に要する単位数には加算できない。

②共通教養科目は「人間性・社会性科目群」から４単位以上、「地域性・国際性科目群」から４単位以上、「課題設定・問題解決科目群」から必修科目を含み６単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から２単位以上、「学部基礎科目群」から４単位以上、外国語科目は英語コア科目から必修科目を含み８単位以上を修得しなければならない。

③専門科目は、専門基礎科目、専門発展科目又は専門発展科目Ⅰ及び専門発展科目Ⅱ、インターンシップ科目から計78単位以上を修得しなければならない。

ただし、社会・マスメディア系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み28単位以上、専門発展科目Ⅰから24単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目12単位以上、現代社会コース又はマスメディアコースから６単位以上を含み14単位以上、心理系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み20単位以上、専門発展科目Ⅰから10単位以上、専門発展科目Ⅱから必修科目を含み36単位以上、環境・まちづくり系専攻では、専門基礎科目から必修科目を含み38単位以上、専門発展科目から18単位以上を修得しなければならない。

④他専攻開講科目は、専門科目の選択科目として単位数に加算できる。

授業科目	単位数
大学コンソーシアム大阪において定められた提供科目	

大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

（注）修得した単位は、４単位まで共通教養科目の単位数に加算することができる。

別表(１)―９

国際学部授業科目表

授業科目名	単位数又は時間数		
	必修	選択	自由

【全学共通科目】			
＜共通教養科目＞			
（人間性・社会性科目群）			
暮らしのなかの憲法		2	
哲学と人間・社会		2	
現代社会と倫理		2	
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
心理と行動		2	
現代の社会論		2	
芸術鑑賞入門		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代社会と法		2	
現代社会と政治		2	
現代経済の課題		2	
教養特殊講義Ａ		2	
（地域性・国際性科目群）			
日本近現代史		2	
世界近現代史		2	
地域と環境の地理学		2	
国際文化研究１		2	
国際文化研究２		2	
教養特殊講義Ｂ		2	
（課題設定・問題解決科目群）			
基礎ゼミ	2		
ＩＣＴリタラシー１	2		
日本語の技法		2	
キャリアデザイン１		2	
キャリアデザイン２		2	
ＩＣＴリタラシー２		2	
生命の科学		2	
環境科学		2	
思考の技術		2	
基礎数学１		2	
基礎数学２		2	
教養特殊講義Ｃ		2	
データリテラシー入門		2	
暮らしのなかの起業入門		2	
（スポーツ・表現活動科目群）			
生涯スポーツ１		1	
生涯スポーツ２		1	
健康とスポーツの科学		2	
＜外国語科目＞			
ＴＯＥＩＣ		2	
フランス語入門Ａ		1	
フランス語入門Ｂ		1	

スペイン語入門Ａ		1		
スペイン語入門Ｂ		1		
ドイツ語入門Ａ		1		
ドイツ語入門Ｂ		1		
韓国語入門Ａ		1		
韓国語入門Ｂ		1		
中国語入門Ａ		1		
中国語入門Ｂ		1		
タイ語入門Ａ		1		
タイ語入門Ｂ		1		
ベトナム語入門Ａ		1		
ベトナム語入門Ｂ		1		
フランス語基礎Ａ		1		
フランス語基礎Ｂ		1		
スペイン語基礎Ａ		1		
スペイン語基礎Ｂ		1		
ドイツ語基礎Ａ		1		
ドイツ語基礎Ｂ		1		
韓国語基礎Ａ		1		
韓国語基礎Ｂ		1		
中国語基礎Ａ		1		
中国語基礎Ｂ		1		
タイ語基礎Ａ		1		
タイ語基礎Ｂ		1		
ベトナム語基礎Ａ		1		
ベトナム語基礎Ｂ		1		
フランス語中級Ａ		1		
フランス語中級Ｂ		1		
スペイン語中級Ａ		1		
スペイン語中級Ｂ		1		
ドイツ語中級Ａ		1		
ドイツ語中級Ｂ		1		
韓国語中級Ａ		1		
韓国語中級Ｂ		1		
中国語中級Ａ		1		
中国語中級Ｂ		1		
タイ語中級Ａ		1		
タイ語中級Ｂ		1		
ベトナム語中級Ａ		1		
ベトナム語中級Ｂ		1		
フランス語上級Ａ		1		
フランス語上級Ｂ		1		
スペイン語上級Ａ		1		
スペイン語上級Ｂ		1		
ドイツ語上級Ａ		1		
ドイツ語上級Ｂ		1		

韓国語上級Ａ		1		
韓国語上級Ｂ		1		
中国語上級Ａ		1		
中国語上級Ｂ		1		
タイ語上級Ａ		1		
タイ語上級Ｂ		1		
ベトナム語上級Ａ		1		
ベトナム語上級Ｂ		1		
総合英語１Ａ		1		
総合英語１Ｂ		1		
総合英語２Ａ		1		
総合英語２Ｂ		1		
総合英語３Ａ		1		
総合英語３Ｂ		1		
総合英語４Ａ		1		
総合英語４Ｂ		1		
【専門科目】				
＜学部共通開講科目＞				
留学セミナー	2			
異文化理解	2			
ＩＥＬＴＳ		1		
日本語教授法１		2		
日本語教授法２		2		
日本語教育実習		2		
日本語学		2		
ビジネスライティング		1		
専門導入セミナー	2			
体験プログラムＡ		2		
体験プログラムＢ		2		
インターンシップＡ		2		
インターンシップＢ		2		
英米文学研究		2		
英米文学史		2		
日本語音声学			2	
日本語史論			2	
＜セミナー科目＞				
セミナー１	2			
セミナー２	2			
セミナー３	2			
セミナー４	2			
［専門科目（グローバル専攻）］				
＜言語科目＞				
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ　＆　Ｓｐｅａｋｉｎｇ（文法とスピーキング）	3			
Ｖｏｃａｂｕｌａｒｙ　Ｅｎｒｉｃｈｍｅｎｔ（ボキャブラリー）	2			

Ｒｅａｄｉｎｇ　＆　Ｗｒｉｔｉｎｇ （リーディング・ライティング）	３			
Ｃｏｍｐｕｔｅｒ－ａｓｓｉｓｔｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ （コンピュータ応用学習）	１			
Ｃａｒｅｅｒ　Ｅｎｇｌｉｓｈ１ （キャリア英語１）	１			
Ｄｉｓｃｕｓｓｉｏｎ （ディスカッション）	１			
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　１Ａ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　１Ｂ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　１Ｃ		１		
Ｃａｒｅｅｒ　Ｅｎｇｌｉｓｈ２ （キャリア英語２）	１			
Ｄｅｂａｔｉｎｇ （ディベート）	１			
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　２Ａ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　２Ｂ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　２Ｃ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　３Ａ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　３Ｂ		１		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ｆｏｒ　Ｓｐｅｃｉｆｉｃ　Ｐｕｒｐｏｓｅｓ　３Ｃ		１		
Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｐｒｅｓｅｎｔａｔｉｏｎ （ビジネスプレゼンテーション）		１		
Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　Ｎｅｇｏｔｉａｔｉｏｎ （実践ビジネスネゴシエーション）		１		
＜留学科目＞				
Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｓｋｉｌｌｓ１ （ランゲージスキル１）		２		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ１ （ストラクチャー１）		２		
Ｒｅａｄｉｎｇ１ （リーディング１）		２		
Ｗｒｉｔｉｎｇ１ （ライティング１）		２		
Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｓｋｉｌｌｓ２ （ランゲージスキル２）		２		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ２ （ストラクチャー２）		２		

Ｒｅａｄｉｎｇ２ （リーディング２）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ２ （ライティング２）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｓｋｉｌｌｓ３ （ランゲージスキル３）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ３ （ストラクチャー３）		2		
Ｒｅａｄｉｎｇ３ （リーディング３）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ３ （ライティング３）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｓｋｉｌｌｓ４ （ランゲージスキル４）		2		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ４ （ストラクチャー４）		2		
Ｒｅａｄｉｎｇ４ （リーディング４）		2		
Ｗｒｉｔｉｎｇ４ （ライティング４）		2		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＡ （人文学分野研究Ａ）		4		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＢ （人文学分野研究Ｂ）		4		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＣ （人文学分野研究Ｃ）		4		
ＨｕｍａｎｉｔｉｅｓＤ （人文学分野研究Ｄ）		4		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＡ （社会学分野研究Ａ）		4		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＢ （社会学分野研究Ｂ）		4		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＣ （社会学分野研究Ｃ）		4		
Ｓｏｃｉａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＤ （社会学分野研究Ｄ）		4		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＡ （国際教養研究Ａ）		4		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＢ （国際教養研究Ｂ）		4		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＣ （国際教養研究Ｃ）		4		
Ｉｎｔｅｒｄｉｓｃｉｐｌｉｎａｒｙ　ＳｔｕｄｉｅｓＤ （国際教養研究Ｄ）		4		
Ｎａｔｕｒａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＡ （自然科学分野研究Ａ）		4		

Ｎａｔｕｒａｌ　ＳｃｉｅｎｃｅｓＢ （自然科学分野研究Ｂ）		4		
＜専門基礎科目＞				
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （言語学の基礎）		2		
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （コミュニケーション学）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｓｏｃｉａｌ　Ａｃｔｉｏｎ （ソーシャルアクション入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ａｓｉａ （アジア学入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ａｒｅａ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （地域研究入門）		2		
ｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｅｎｖｉｒｏｎｍｅｎｔ　ａｎｄ　Ｓｏｃｉｅｔｙ （環境と社会入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ （文学研究入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｓｕｓｔａｉｎａｂｌｅ　Ｄｅｖｅｌｏｐｍｅｎｔ　Ｇｏａｌｓ （ＳＤＧｓ入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｓｅｍｉｏｔｉｃｓ （文化記号論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｒｅｌａｔｉｏｎｓ （国際関係入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｃｏｅｘｉｓｔｅｎｃｅ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （グローバル共生論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　ａｎｄ　Ｃｕｌｔｕｒｅ （言語文化入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｄｉｐｌｏｍａｔｉｃ　Ｈｉｓｔｏｒｙ （外交史入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　ｔｈｅ　Ｓｔｕｄｙ　ｏｆ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｇｒａｍｍａｒ （英文法研究入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｍａｓｓ　Ｍｅｄｉａ （マスメディア概論）		2		
Ｍａｎａｇｅｍｅｎｔ　Ｂａｓｉｃｓ （ビジネスマネジメントの基礎）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｌａｗ （国際法入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｓｏｃｉａｌ　Ｐｓｙｃｈｏｌｏｇｙ		2		

（社会心理学入門） Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ｔｅａｃｈｉｎｇ　Ｔｈｅｏｒｉｅｓ （言語教育理論）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ａｎｔｈｒｏｐｏｌｏｇｙ （文化人類学概論）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｍｅｄｉａ　Ｃｕｌｔｕｒｅ （メディア文化論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｖｉｓｕａｌ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （視覚文化論入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｓｏｃｉａｌ　Ｈｉｓｔｏｒｙ （社会史入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｐｒａｃｔｉｃａｌ　Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （実務翻訳概論）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｈｉｓｔｏｒｙ （グローバル・ヒストリー入門）		2		
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ　ｔｏ　Ｔｏｕｒｉｓｍ　Ｓｔｕｄｉｅｓ （観光学入門）		2		
｛コミュニケーション・実践領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｇｌｏｂａｌｉｚａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｊａｐａｎ （グローバル化と日本）		2		
Ｓｅｃｏｎｄ　Ｌａｎｇｕａｇｅ　Ａｃｑｕｉｓｉｔｉｏｎ （第二言語習得論）		2		
Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ　ａｎｄ　Ｇｌｏｂａｌ　Ｐｅｒｓｐｅｃｔｉｖｅｓ （多様性と世界を理解する視点）		2		
Ｍｕｌｔｉｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｓｏｃｉｅｔｙ　ａｎｄ　Ｌａｎｇｕａｇｅ （多文化共生社会と言語）		2		
Ｌａｎｇｕａｇｅ　ａｎｄ　Ｐｏｗｅｒ （言語と権力）		2		
Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ　ｉｎ　Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｒｙ　Ｊａｐａｎ （現代日本の文化的多様性）		2		
Ｇｌｏｂａｌｉｚａｔｉｏｎ　ａｎｄ　Ｃｕｌｔｕｒａｌ　Ｉｎｔｅｒａｃｔｉｏｎ （グローバル化と文化接触）		2		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ　ａｎｄ　Ｆｉｎａｎｃｅ （国際経済と金融）		2		
Ｉｎｔｅｒｎａｔｉｏｎａｌ　Ｂｕｓｉｎｅｓｓ　ａｎｄ　Ｔｒａｄｅ		2		

（国際ビジネスと貿易）				
Ｃｏｒｐｏｒａｔｅ Ｓｏｃｉｅｔｙ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （企業社会とコミュニケーション）			2	
Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｃｏｍｐａｎｉｅｓ ｉｎ ａ Ｇｌｏｂａｌ Ａｇｅ （グローバル時代の日本企業）			2	
ＥＳＬ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （ＥＳＬ言語学）			2	
Ｅａｒｌｙ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｅｄｕｃａｔｉｏｎ （早期英語教育論）			2	
Ｉｎｔｒｏｄｕｃｔｉｏｎ ｔｏ Ｉｎｔｅｒｐｒｅｔｉｎｇ （通訳概論）			2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ ｆｏｒ Ｔｏｕｒｉｓｍ Ｉｎｄｕｓｔｒｙ （旅行ビジネス英語）			2	
Ｔｒａｖｅｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ （観光英語）			2	
Ｏｓａｋａ Ｐｒｅｆｅｃｔｕｒｅ’ｓ Ｉｓｓｕｅｓ ａｎｄ Ｇｏｖｅｒｎｍｅｎｔ Ｉｎｉｔｉａｔｉｖｅｓ （大阪の課題と行政の取り組み）			2	
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ａｎａｌｙｓｉｓ （文化解析法特論）			2	
Ｍｏｄｅｌ Ｕｎｉｔｅｄ Ｎａｔｉｏｎｓ （模擬国連）			2	
Ｓｉｍｕｌｔａｎｅｏｕｓ Ｉｎｔｅｒｐｒｅｔａｔｉｏｎ（Ｅｎｇｌｉｓｈ） （英語同時通訳演習）			2	
ＣｏｎｓｅｃｕｔｉｖｅＩｎｔｅｒｐｒｅｔａｔｉｏｎ（Ｅｎｇｌｉｓｈ） （英語逐次通訳演習）			2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ－Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （英日翻訳演習）			2	
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｔｏｕｒｉｓｍ Ｓｔｕｄｉｅｓ （観光学特論）			2	
｛言語文化領域｝ ＜専門発展科目＞				
Ｈｉｓｔｏｒｙ ｏｆ Ｅｎｇｌｉｓｈ （英語の歴史）			2	
Ｉｎｔｅｒｐｅｒｓｏｎａｌ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （対人コミュニケーション論）			2	
Ｉｎｔｅｒｃｕｌｔｕｒａｌ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （異文化コミュニケーション論）			2	
Ａｐｐｌｉｅｄ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （応用言語学）			2	
Ｌａｎｇｕａｇｅ ａｎｄ Ｓｏｃｉｅｔｙ （言語と社会）			2	

Ｃｏｇｎｉｔｉｖｅ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （認知言語学）		２		
Ｕｎｄｅｒｓｔａｎｄｉｎｇ ｔｈｅ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌａｎｇｕａｇｅ （言語としての英語）		２		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ ａｎｄ Ｍｅａｎｉｎｇ ｏｆ Ｌａｎｇｕａｇｅ （言語の構造と意味）		２		
Ｐｒｉｎｃｉｐｌｅｓ ｏｆ Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｕｓｅ （言語使用の原理）		２		
Ｃｏｎｔｒａｓｔｉｖｅ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ （対照言語学）		２		
Ｐｒｉｎｃｉｐｌｅｓ ｏｆ Ｃｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎ ａｎｄ Ｄｉｓｃｏｕｒｓｅ （会話と談話の原理）		２		
Ｎｏｎ－ｖｅｒｂａｌ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （非言語コミュニケーション論）		２		
Ｉｎｔｅｒｎｅｔ ａｎｄ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （ネット社会とコミュニケーション）		２		
Ｃａｓｅ Ｓｔｕｄｉｅｓ ｉｎ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ （コミュニケーションの事例研究）		２		
Ｐｈｏｎｅｔｉｃ Ｓｏｕｎｄｓ ａｎｄ Ｐｒｏｎｕｎｃｉａｔｉｏｎ ｏｆ Ｅｎｇｌｉｓｈ （英語の音声と発音）		２		
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ ｏｆ ｔｈｅ Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｌａｎｇｕａｇｅ （日本語の構造）		２		
Ｊａｐａｎｅｓｅ－Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｔｒａｎｓｌａｔｉｏｎ （日英翻訳演習）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ Ａｎａｌｙｓｉｓ （言語構造特論）		２		
Ｉｓｓｕｅｓ ｉｎ Ｌａｎｇｕａｇｅ ａｎｄ Ｃｕｌｔｕｒｅ （言語文化特論）		２		
｛国際関係領域｝				
＜専門発展科目＞				
Ｔｏｐｉｃｓ ｉｎ Ｍｏｄｅｒｎ Ｌａｔｉｎ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （中南米の現代社会事情）		２		
Ｌａｔｉｎ Ａｍｅｒｉｃａｎ Ｃｕｌｔｕｒｅｓ ａｎｄ Ｈｉｓｔｏｒｙ （中南米の文化と歴史）		２		
Ｋｏｒｅａｎ Ｐｏｌｉｔｉｃｓ ａｎｄ Ｅｃｏｎｏｍｉｃｓ （韓国の政治と経済）		２		
Ｔｏｐｉｃｓ ｉｎ Ｍｉｄｄｌｅ Ｅａｓｔｅｒｎ ａｎｄ Ａｆｒｉｃａｎ Ｓｏｃｉｅｔｉｅｓ （中東とアフリカの現代社会事情）		２		

Middle Eastern and African Cultures and History （中東とアフリカの文化と歴史）		2	
Topics in North American Societies （北アメリカの現代社会事情）		2	
North American Cultures and History （北アメリカの文化と歴史）		2	
ASEAN and Japan （東南アジア諸国連合（ASEAN）と日本）		2	
Modern History of Asia and Japan （アジアの近現代史と日本）		2	
Issues in Journalism （ジャーナリズム特論）		2	
International Development and Cooperation （国際協力・開発論）		2	
Community Engagement （ボランティア論）		2	
Introduction to NPO／NGO （NPO・NGO論）		2	
Law of International Organizations （国際組織法）		2	
International Human Rights Law （国際人権法）		2	
Issues in Southeast Asian Politics and Economics （東南アジア政治と経済特論）		2	
Oceanian Cultures and History （オセアニアの文化と歴史）		2	
Chinese Politics and Economics （中国の政治と経済）		2	
Issues in Global Political Economy （グローバル政治経済特論）		2	
Issues in Peace Building （平和構築特論）		2	
Issues in Cold War History （冷戦史特論）		2	
Issues in International Law （国際法特論）		2	
Topics in Oceanian Societies （オセアニアの現代社会事情）		2	

{人文社会領域} ＜専門発展科目＞				
East Asian Literatures (東アジア文学)		2		
Reading Japanese Literature (日本文学を読む)		2		
World Religions (世界の宗教)		2		
South Asian Area Studies (南アジア地域研究)		2		
Asian Societies (アジア社会論)		2		
Modern European Culture (近代ヨーロッパ文化論)		2		
Contemporary European Culture (現代ヨーロッパ文化論)		2		
Cultural Heritage Studies (文化遺産学)		2		
Asian Art and Culture (アジア文化芸術論)		2		
Ethnic Issues in the Globalized World (グローバル化した世界の民族問題)		2		
Social History (社会史)		2		
Comparative Culture (比較文化論)		2		
Japan as an East Asian Country (東アジアの中の日本)		2		
History of Afro－Eurasia (アフロ・ユーラシア史)		2		
Issues in Japanese Literature (日本文学特論)		2		
Issues in Migration Studies (移民研究特論)		2		
Issues in Media Communication Studies (メディア・コミュニケーション研究特論)		2		
Issues in Social History (社会史特論)		2		
Issues in Human History (人類史特論)		2		
{４領域共通科目} ＜専門発展科目＞				
Thesis Writing ［専門科目（東アジア専攻）］		2		

{中国語コース}				
＜言語科目＞				
中国語文法（入門）１	1			
中国語文法（入門）２	1			
中国語文法（入門）３	1			
中国語会話（入門）１	1			
中国語会話（入門）２	1			
中国語表現１	1			
中国語表現２	1			
英会話	1			
中国語会話（上級）	1			
中国語文法（上級）	1			
中国語表現技法１		1		
ビジネス中国語１		1		
中国語プレゼンテーション１	1			
中国語演習１	1			
中国語表現技法２		1		
ビジネス中国語２		1		
中国語プレゼンテーション２	1			
中国語演習２	1			
中国語検定試験演習１	1			
中国語検定試験演習２	1			
＜留学科目＞				
中国語文法（初級）１		2		
中国語文法（初級）２		2		
中国語文法（初級）３		2		
中国語会話（初級）１		2		
中国語会話（初級）２		2		
中国語会話（初級）３		2		
中国語作文（初級）１		1		
中国語作文（初級）２		1		
中国語作文（初級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＡ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＡ		1		
中国語文法（中級）１		2		
中国語文法（中級）２		2		
中国語文法（中級）３		2		
中国語会話（中級）１		2		
中国語会話（中級）２		2		
中国語会話（中級）３		2		
中国語作文（中級）１		1		
中国語作文（中級）２		1		
中国語作文（中級）３		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＢ		1		
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＢ		1		
＜専門発展科目＞				

中国学研究法	2			
中国近現代史１		2		
中国現代文化１		2		
日中比較文化１		2		
中国語学１		2		
中国近現代文学１		2		
日中翻訳１		2		
中国近現代史２		2		
中国現代文化２		2		
日中比較文化２		2		
中国語学２		2		
中国近現代文学２		2		
日中翻訳２		2		
Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ		2		
{韓国語コース}				
＜言語科目＞				
韓国語文法（入門）１	1			
韓国語文法（入門）２	1			
韓国語文法（入門）３	1			
韓国語会話（入門）１	1			
韓国語会話（入門）２	1			
韓国語表現１	1			
韓国語表現２	1			
英会話	1			
韓国語会話（上級）	1			
韓国語文法（上級）	1			
韓国語表現技法１		1		
ビジネス韓国語１		1		
韓国語プレゼンテーション１	1			
韓国語演習１	1			
韓国語表現技法２		1		
ビジネス韓国語２		1		
韓国語プレゼンテーション２	1			
韓国語演習２	1			
韓国語検定試験演習１	1			
韓国語検定試験演習２	1			
＜留学科目＞				
韓国語文法（初級）１		2		
韓国語文法（初級）２		2		
韓国語文法（初級）３		2		
韓国語会話（初級）１		2		
韓国語会話（初級）２		2		
韓国語会話（初級）３		2		
韓国語作文（初級）１		1		
韓国語作文（初級）２		1		
韓国語作文（初級）３		1		

Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＡ		1	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＡ		1	
韓国語文法（中級）１		2	
韓国語文法（中級）２		2	
韓国語文法（中級）３		2	
韓国語会話（中級）１		2	
韓国語会話（中級）２		2	
韓国語会話（中級）３		2	
韓国語作文（中級）１		1	
韓国語作文（中級）２		1	
韓国語作文（中級）３		1	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＧｒａｍｍａｒＢ		1	
Ｅｎｇｌｉｓｈ　ＣｏｎｖｅｒｓａｔｉｏｎＢ		1	
＜専門発展科目＞			
現代韓国の理解	2		
韓国近現代史１		2	
韓国学概論１		2	
日韓文献翻訳１		2	
日韓比較研究１		2	
異言語と文化１		2	
日韓映像翻訳１		2	
韓国近現代史２		2	
韓国学概論２		2	
日韓文献翻訳２		2	
日韓比較研究２		2	
異言語と文化２		2	
日韓映像翻訳２		2	
Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ		2	

＜履修方法＞

①卒業に要する単位数は、

＜グローバル専攻＞

全学共通科目からは、

・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、

合計26単位以上、

専門科目からは、

・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、

・セミナー科目から８単位以上、

・言語科目から必修科目を含み、13単位以上、

・留学科目から２単位以上、

・専門基礎科目から８単位以上、

・専門発展科目（コミュニケーション・実践領域）、専門発展科目（言語文化領域）、専門発展科目（国際関係領域）又は専門発展科目（人文社会領域）から８単位以上を含み、合計20単位以上、

合計100単位以上

修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。

＜東アジア専攻・中国語コース＞

全学共通科目からは、

・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、

合計26単位以上、
専門科目からは、
・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、
・セミナー科目から８単位以上、
・言語科目から必修科目を含み、18単位以上、
・留学科目から２単位以上、
・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、
合計100単位以上
修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。なお、グローバル専攻の専門基礎科目又は専門発展科目から科目を履修した場合は、16単位を上限として、専門発展科目の卒業に要する単位数に算入することができる。

＜東アジア専攻・韓国語コース＞
全学共通科目からは、
・共通教養科目及び外国語科目から必修科目を含み、26単位以上、
合計26単位以上、
専門科目からは、
・学部共通開講科目から必修科目を含み、６単位以上、
・セミナー科目から８単位以上、
・言語科目から必修科目を含み、18単位以上、
・留学科目から２単位以上、
・専門発展科目から必修科目を含み、18単位以上、
合計100単位以上
修得し、必修科目、選択科目をあわせて126単位以上を修得しなければならない。なお、グローバル専攻の専門基礎科目又は専門発展科目から科目を履修した場合は、16単位を上限として、専門発展科目の卒業に要する単位数に算入することができる。
②他学部、大学コンソーシアム大阪単位互換に関する包括協定に基づき修得した単位は、８単位まで学部共通開講科目の選択科目として、卒業に要する単位数に算入することができる。

別表(１)―10
情報学部授業科目表
△印は選択必修科目を表す。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［共通教養科目］			
(人間性・社会性科目群)			
自校学習		1	
科学技術の進歩と人権		2	
暮らしのなかの憲法		2	
心理と行動		2	
住みよい社会と福祉		2	
現代社会と法		2	
環境と社会		2	
資源とエネルギー		2	
技術と倫理	2		
企業倫理と知的財産		2	
教養特殊講義Ａ		2	
(地域性・国際性科目群)			
国際経済と企業の国際化		2	
国際社会と日本		2	

ビジネスモデルとマネジメント		2		
メディアの読み方		2		
教養特殊講義Ｂ		2		
（課題設定・問題解決科目群）				
日本語の技法		2		
基礎ゼミ１	2			
基礎ゼミ２	2			
科学的問題解決法		2		
プレゼンテーション技術		2		
教養特殊講義Ｃ		2		
データリテラシー入門		2		
暮らしのなかの起業入門		2		
（スポーツ・表現活動科目群）				
生涯スポーツ１		1		
生涯スポーツ２		1		
［外国語科目］（第一）				
英語総合１	2			
英語総合２	2			
ＴＯＥＩＣ１	1			
ＴＯＥＩＣ２	1			
ライティング１		1		
ライティング２		1		
アカデミックイングリッシュ１		△１		
アカデミックイングリッシュ２		△１		
オーラルイングリッシュ１	1			
オーラルイングリッシュ２	1			
オーラルイングリッシュ３		△１		
オーラルイングリッシュ４		△１		
ＩＴ英語１		△１		
ＩＴ英語２		△１		
海外語学研修（英語）		2		
［外国語科目］（第二）				
ドイツ語総合１		1		
ドイツ語総合２		1		
ドイツ語総合３		1		
ドイツ語総合４		1		
フランス語総合１		1		
フランス語総合２		1		
フランス語総合３		1		
フランス語総合４		1		
中国語総合１		1		
中国語総合２		1		
中国語総合３		1		
中国語総合４		1		
海外語学研修（中国語）		2		
韓国語総合１		1		

韓国語総合２		1	
韓国語総合３		1	
韓国語総合４		1	
海外語学研修（韓国語）		2	

＊印はコースごとの必修科目を表す。△印は選択必修科目を表す。□印はコースごとの選択必修科目を表す。詳細は別表参照。

授業科目	単位数		
	必修	選択	自由
［基礎科目］			
基礎微分積分学	2		
基礎線形代数学１	2		
基礎線形代数学２	2		
コンピュータ基礎	2		
確率統計	2		
情報処理実習１		1	
情報処理実習２		1	
基礎物理学および演習		3	
基礎化学および演習		3	
化学		2	
基礎生物学		2	
生物学		2	
情報システム基礎			2
情報システム応用			2
［専門科目］			
プログラミング基礎１	2		
プログラミング基礎２	2		
ＩｏＴ	2		
オブジェクト指向プログラミング	2		
機械学習概論		2	
ネットワーク技術	2		
データ構造とアルゴリズム	2		
プログラミング実習１	2		
プログラミング実習２	2		
離散数学		＊2	
ＩＴビジネス基礎		2	
Ｗｅｂシステム	2		
オブジェクト指向設計	2		
人工知能	2		
ネットワークセキュリティ技術		＊2	
データベース論		2	
情報理論		＊2	
キャリアデザイン		2	
データマイニング		＊2	
情報セキュリティ		＊2	
情報と職業		2	
ｅスポーツ			2

社会情報学実習１		△１	
社会情報学実習２		△１	
社会情報学実習３		△１	
社会情報学実習４		△１	
情報学基礎ゼミナール１	２		
情報学基礎ゼミナール２	２		
情報学応用ゼミナール１	２		
情報学応用ゼミナール２	２		
卒業研究	８		
多変量解析		＊２	
応用数学		＊２	
機械学習１		＊２	
実践機械学習		＊２	
統計データ解析		＊２	
自然言語処理		□２	
数理計画法		２	
知能システムプロジェクト１		＊２	
知能システムプロジェクト２		＊２	
メディア処理		＊２	
音声言語処理		□２	
コンピュータビジョン		□２	
データモデリング		２	
ＨＣＩ		＊２	
機械学習２		＊２	
医療情報学応用		２	
知的エージェント		２	
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ		＊２	
暗号と情報セキュリティ		＊２	
情報数学		＊２	
ブロックチェーン		２	
情報セキュリティ対策と管理１		＊２	
情報セキュリティ対策と管理２		＊２	
サイバーセキュリティプロジェクト１		＊２	
サイバーセキュリティプロジェクト２		＊２	
ソフトウェア工学		＊２	
セキュリティ解析技術		＊２	
モバイル通信		＊２	
サイバー犯罪学		２	
組み込みシステム		＊２	
セキュリティ技術評価と実装技術		＊２	
クラウドコンピューティング		＊２	
情報と社会		２	
ネットワーク演習１			２
ネットワーク演習２			２
コミュニケーション論		＊２	
エンターテインメントコンピューティング		＊２	

人間中心設計論		＊２	
コンピュータグラフィックス		＊２	
モデル最適化基礎		２	
調査データ分析		２	
実世界コンピューティングプロジェクト１		＊２	
実世界コンピューティングプロジェクト２		＊２	
アドバンスドＷｅｂシステム		＊２	
人工現実感		＊２	
インタラクション設計		＊２	
深層学習		２	
サービスコンピューティング		＊２	
複合システムデザイン		＊２	
インタラクティブシステム		＊２	
深層強化学習		＊２	
社会シミュレーション		２	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定に基づいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

共通教養科目（14単位以上）、外国語科目（14単位以上）、基礎科目（12単位以上）、専門科目（84単位以上）を修得し、共通教養科目・外国語科目・基礎科目・専門科目を合計124単位以上修得すること。

単位互換科目（他大学・他学部）を修得した場合、６単位を限度として専門科目の選択科目の単位数に加算できる。

〔英語科目修得内訳表〕

選択必修科目名（単位）	修得単位数
アカデミックイングリッシュ１（１）、アカデミックイングリッシュ２（１）、ＩＴ英語１（１）、ＩＴ英語２（１）	１単位以上
オーラルイングリッシュ３（１）、オーラルイングリッシュ４（１）	１単位以上
	合計２単位以上を修得

〔専門科目　コース別必修科目修得内訳表〕

知能システムコース

必修科目名（単位）
離散数学（２）、多変量解析（２）、応用数学（２）、機械学習１（２）、実践機械学習（２）、統計データ解析（２）、知能システムプロジェクト１（２）、知能システムプロジェクト２（２）、メディア処理（２）、情報理論（２）、ＨＣＩ（２）、データマイニング（２）、情報セキュリティ（２）、機械学習２（２）

サイバーセキュリティコース

必修科目名（単位）
ＯＳとコンピュータアーキテクチャ（２）、暗号と情報セキュリティ（２）、離散数学（２）、情報数学（２）、情報セキュリティ対策と管理１（２）、情報セキュリティ対策と管理２（２）、ネットワークセキュリティ技術（２）、サイバーセキュリティプロジェクト１（２）、サイバーセキュリティプロジェクト２（２）、ソフトウェア工学（２）、情報理論（２）、セキュリティ解析技術（２）、モバイル通信（２）、組み込みシステム（２）、セキュリティ技術評価と実装技術（２）、クラウドコンピューティング（２）

実世界コンピューティングコース

必修科目名（単位）
コミュニケーション論（２）、エンターテインメントコンピューティング（２）、ネットワークセキ

ュリティ技術(２)、人間中心設計論(２)、コンピュータグラフィックス(２)、実世界コンピューティングプロジェクト１(２)、実世界コンピューティングプロジェクト２(２)アドバンスドＷｅｂシステム(２)、人工現実感(２)、インタラクション設計(２)、サービスコンピューティング(２)、複合システムデザイン(２)、インタラクティブシステム(２)、深層強化学習(２)、情報セキュリティ(２)

〔専門科目　コース別選択必修科目修得内訳表〕

知能システムコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
自然言語処理(２)、音声言語処理(２)、コンピュータビジョン(２)	２単位以上
社会情報学実習１・２・３・４(１)	２単位以上

サイバーセキュリティコース・実世界コンピューティングコース

選択必修科目名（単位）	修得単位数
社会情報学実習１・２・３・４(１)	２単位以上

別表(１)―11

農学部授業科目表

全学科

区分	授業科目	必修	選択
共通教養科目	【人間性・社会性科目群】		
	人権と社会１		2
	人権と社会２		2
	暮らしのなかの憲法		2
	住みよい社会と福祉		2
	現代社会と法		2
	環境と倫理		2
	生命と倫理		2
	ボランティア実習		1
	自校学習		1
	教養特殊講義Ａ		2
	【地域性・国際性科目群】		
	国際経済入門		2
	国際化と異文化理解		2
	農学と社会		2
	地球環境と気象		2
	教養特殊講義Ｂ		2
	【課題設定・問題解決科目群】		
	基礎ゼミ	2	
	日本語の技法		2
	科学的問題解決法		2
	統計と考え方		2
	情報基礎	2	
	情報処理		2
	データリテラシー入門		2
	キャリアデザイン		2
	キャリアデベロップメント		2
	インターンシップ		2
	進路と職業		1
	社会で役立つ文章表現法		1

	暮らしのなかの起業入門		2
	教養特殊講義Ｃ		2
	【スポーツ・表現活動科目群】		
	生涯スポーツ１		1
	生涯スポーツ２		1
専門基礎科目	数学		2
	環境教育学		2
	世界の食糧生産		2
	里山学		2
	自然色彩学		2
	生態学基礎		2
	食生活と健康		2
	基礎土壌学		2
外国語科目	［第一外国語］		
	英語１	2	
	英語２	2	
	英語３		1
	英語４		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ１	1	
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ２	1	
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ３		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ４		1
	ＴＯＥＩＣ１		1
	ＴＯＥＩＣ２		1
	ＴＯＥＩＣ３		1
	ＴＯＥＩＣ４		1
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　１		1
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　２		1
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　３		1
	Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｅｎｇｌｉｓｈ　４		1
	ＷｒｉｔｉｎｇＡ		1
	ＷｒｉｔｉｎｇＢ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　ＳｅｍｉｎａｒＡ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｃｕｌｔｕｒｅ　ＳｅｍｉｎａｒＢ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｐｅｃｉａｌ　ＳｔｕｄｉｅｓＡ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｐｅｃｉａｌ　ＳｔｕｄｉｅｓＢ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｌｆ－ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ａ		1
	Ｅｎｇｌｉｓｈ　Ｓｅｌｆ－ｌｅａｒｎｉｎｇ　Ｂ		1
	海外語学研修（英語）		1
	［第二外国語］		
	ドイツ語総合１		1
	ドイツ語総合２		1
	ドイツ語総合３		1
	ドイツ語総合４		1
	韓国語総合１		1
	韓国語総合２		1

	韓国語総合３		1
	韓国語総合４		1
	中国語総合１		1
	中国語総合２		1
	中国語総合３		1
	中国語総合４		1
	フランス語総合１		1
	フランス語総合２		1
	フランス語総合３		1
	フランス語総合４		1

＜履修方法＞

全学共通科目は共通教養科目14単位以上（必修科目を含む）、専門基礎科目４単位以上、共通教養科目及び専門基礎科目から２単位以上、外国語科目14単位以上（必修科目を含む）の合計34単位以上修得しなければならない。ただし、外国語科目の中に第二外国語４単位を含むことができる。共通教養科目は、人間性・社会性科目群から４単位以上、地域性・国際性科目群から２単位以上、課題設定・問題解決科目群から４単位以上を修得しなければならない。ただし、食品栄養学科は、人間性・社会性科目群から２単位以上、地域性・国際性科目群から２単位以上、課題設定・問題解決科目群から４単位以上を修得しなければならない。

農業生産科学科

区分	授業科目	必修	選択
	環境保全栽培学		2
	環境植物学		2
	植物生理学		2
	昆虫学		2
	植物病理学		2
	細胞生物学		2
	植物遺伝育種学		2
	日本農業論		2
	環境化学基礎		2
	鳥獣害管理学		2
	工芸作物学		2
	食用作物学		2
	果樹園芸学		2
	野菜園芸学		2
	花卉園芸学		2
	施設園芸学		2
	害虫管理学		2
	植物病原微生物学		2
	応用きのこ学		2
	植物分子生物学		2
	農村地域マネジメント論		2
	農業経済学		2
	特別講義Ⅰ		2
	地域活性化論		2
専攻科目	植物形態学		2
	栽培システム学		2
	作物生産情報学		2

	フラワービジネス演習		2
	雑草管理学		2
	園芸植物学		2
	昆虫生態学		2
	化学生態学		2
	昆虫生理学		2
	植物感染制御工学		2
	植物病診断防除論		2
	植物育種学		2
	果樹品種育成論		2
	農業政策学		2
	アグリビジネス起業論		2
	農産物流通・マーケティング論		2
	アグリビジネスマネジメント論		2
	園芸学研究の方法		2
	園芸植物と遺伝子		2
	フラワービジネス論		2
	農学野外実習		2
	実践型先端農業実習		2
	基礎生物学実験		1
	基礎化学実験		1
	基礎物理学実験		1
	農学専門実験Ⅰ	2	
	農学専門実験Ⅱ	2	
	附属農場実習		2
	農業農村インターンシップ		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
資格関連科目	アグリビジネス実習		2
	物理学		2
	化学		2
	生物学		2
	植物栄養生理学		2
	微生物学		2
	農薬化学		2
	食品機能学		2
	農産製造学		2
	生命有機化学		2
関連科目	生物多様性の科学		2
	環境ビジネス学		2
	植物生態学		2
	持続可能な水産業		2
	有機化学Ⅰ		2

	有機化学Ⅱ		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

④資格関連科目は卒業に必要な単位数に加算しない。

水産学科

区分	授業科目	必修	選択
	【Ａ群Ⅰ】		
	魚類生態学		2
	生物学		2
	魚類学		2
	動物行動学		2
	水産動物学		2
	魚類環境生理学		2
	魚類繁殖生理学		2
	微生物海洋学		2
	海棲哺乳類学		2
	水族館学		2
	魚類発生生物学		2
	生体分子解析学		2
	魚類内分泌学		2
	【Ａ群Ⅱ】		
	水産実用数学	2	
	物理学		2
	【Ｂ群Ⅰ】		
	魚介藻類増殖学		2
	海水養殖学		2
	淡水増殖学		2
	栽培漁業論		2
	種苗生産学		2
	魚類育種学		2
	魚病学		2
	魚類栄養学		2
	【Ｂ群Ⅱ】		
	水産海洋学		2
	水産資源学		2
	漁業情報学		2
	漁業生産システム論		2
	【Ｃ群】		
	生態系科学基礎		2
	水圏微生物学		2
	海洋生態系科学		2

	陸水学		2
	水質学		2
	水族環境学		2
	海洋環境修復学		2
	【Ｄ群Ⅰ】		
	化学		2
	水産利用学		2
	水産生物化学		2
専攻科目	水産食品保蔵学		2
	食品微生物学		2
	水産資源化学		2
	食品製造管理学		2
	食品衛生管理学		2
	【Ｄ群Ⅱ】		
	水産学概論	2	
	水産施策概論		2
	【Ｅ群】		
	水産学基礎実験Ⅰ	1	
	水産学基礎実験Ⅱ	1	
	養殖学基礎実習		1
	水産増殖学実験		1
	水産増殖学実習		1
	水産生物学実習		1
	生物学実験		1
	化学実験		1
	水産利用学実習		1
	水族環境学実験		1
	水産微生物学実験		1
	漁業情報学実習		1
	物理学実験		1
	海棲哺乳類学実習		1
	海棲哺乳類学実験		1
	潜水技術論		2
	小型船舶操縦法		2
	【Ｆ群】		
	技術者倫理	2	
	【Ｇ群】		
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	【Ｈ群】		
	水産技術専門演習	1	
	水産技術専門実験	1	
	卒業研究	8	
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］			

包括協定にもとづいた提供科目及び単位数

＜履修方法＞

①専攻科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。

②専攻科目Ａ群Ⅰから６科目12単位以上、Ａ群Ⅱから必修を含み１科目２単位以上、Ｂ群Ⅰから４科目８単位以上、Ｂ群Ⅱから２科目４単位以上、Ｃ群から４科目８単位以上、Ｄ群Ⅰから４科目８単位以上、Ｄ群Ⅱから必修を含み１科目２単位以上、Ｅ群のうち、各研究室の実験・実習等から２科目２単位以上を修得しなければならない。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

応用生命化学科

区分	授業科目	必修	選択
	【Ａ群】		
	化学		2
	分析化学		2
	無機化学		2
	基礎反応化学		2
	有機化学		2
	有機機器分析学		2
	有機反応化学		2
	【Ｂ群】		
	生物化学		2
	分子生物学		2
	食品化学		2
	発酵化学		2
	分子細胞生物学		2
	【Ｃ群】		
	微生物学		2
専攻科目Ⅰ	食品微生物学		2
	応用微生物学		2
	食品微生物工学		2
	【Ｄ群】		
	食品衛生学		2
	公衆衛生学		2
	【Ｅ群】		
	生物学		2
	物理化学		2
	酵素化学		2
	薬理学概論		2
	植物栄養生理学		2
	農薬化学		2
	栄養化学		2
	生命工学		2
	遺伝子工学		2
	生物統計学		2
	生命情報学		2
	天然物化学		2
	食品機能学		2
	農産製造学		2

	生命有機化学		2
	有機合成化学		2
専攻科目Ⅱ	物理学実験	1	
	生物学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅰ	1	
	化学実験Ⅱ	1	
	生物学実験Ⅱ	1	
	生物学実験Ⅲ	1	
	生命情報学実習	1	
	応用生命化学実験	1	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門英語Ⅲ	1	
	専門英語Ⅳ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
専攻科目Ⅲ	数学Ⅰ		2
	数学Ⅱ		2
	物理学		2
	生命科学基礎		2
	森林資源科学		2
	バイオビジネス論		2
	応用生命化学特別講義Ⅰ		2
	応用生命化学特別講義Ⅱ		2
	醸造・酒造学		2
	附属農場実習		2
関連科目	日本農業論		2
	農業経済学		2
	昆虫学		2
	園芸植物学		2
	水環境学		2
	保全遺伝学		2
	動物発生工学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	植物分子生物学		2
	実験動物学		2
	植物免疫学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目Ⅰ、専攻科目Ⅱ、専攻科目Ⅲ、関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②専攻科目ⅠのＡ群から２単位以上、Ｂ群から２単位以上、Ｃ群から２単位以上、Ｄ群から２単位以上、Ｅ群から18単位以上、Ａ～Ｄ群から合計22単位以上を修得しなければならない。

③外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

④互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

食品栄養学科

区分	授業科目	必修	選択
専門基礎分野	健康管理概論	2	
	公衆衛生学Ⅰ	2	
	公衆衛生学Ⅱ	2	
	人体の構造と機能	2	
	微生物学	2	
	生化学	2	
	病理学総論	2	
	代謝栄養学	2	
	疾患学総論	2	
	疾患学各論	2	
	化学実験	1	
	生物学実験	1	
	生化学実験	1	
	栄養生理学実験	1	
	微生物学実験	1	
	生理学実験	1	
	食品の調理と加工	2	
	食品学	2	
	食品機能化学	2	
	食品衛生学	2	
	食品分析学実験	1	
	調理学実習Ⅰ	1	
	調理学実習Ⅱ	1	
	食品衛生学実験	1	
専門分野Ⅰ	基礎栄養学	2	
	栄養学実験	1	
	応用栄養学Ⅰ	2	
	応用栄養学Ⅱ	2	
	栄養マネジメント論	2	
	応用栄養学実習Ⅰ	1	
	応用栄養学実習Ⅱ	1	
	栄養教育論Ⅰ	2	
	栄養教育論Ⅱ	2	
	栄養教育実習	1	
	栄養情報処理基礎	2	
	臨床栄養学Ⅰ	2	
	臨床栄養学Ⅱ	2	
	臨床栄養学Ⅲ	2	
	臨床栄養管理	2	
	臨床栄養学実習Ⅰ	1	
	臨床栄養学実習Ⅱ	1	
	公衆栄養学Ⅰ	2	
	公衆栄養学Ⅱ	2	

	公衆栄養学実習	1	
	給食管理論	2	
	給食経営論	2	
	給食経営管理実習	1	
	総合演習	2	
	臨地実習Ⅰ	1	
	臨地実習Ⅱ	1	
	臨地実習Ⅲ	1	
	臨地実習Ⅳ	1	
	臨地実習Ⅴ	1	
	臨地実習Ⅵ	1	
専門分野Ⅱ	有機化学	2	
	分析化学	2	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	特別講義Ⅰ	2	
	特別講義Ⅱ	2	
	特別講義Ⅲ	2	
	特別講義Ⅳ	2	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究		8
関連科目	物理学		2
	物理学実験		1
	化学		2
	生物学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専門科目は専門基礎分野、専門分野Ⅰから82単位以上、専門分野Ⅱのうち、必修科目18単位以上、合計100単位以上修得しなければならない。

②専門基礎分野の「人体の構造と機能」、「生化学」、「食品学」は専門基礎科目の単位として扱う。

③専門分野Ⅱの「有機化学」、「分析化学」は共通教養科目課題設定・問題解決科目群の単位として扱う。

④関連科目で修得した単位は卒業単位として扱う。

⑤互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

⑥臨地実習Ⅳ、臨地実習Ⅴ、臨地実習Ⅵのうち１単位を選択必修とする。

環境管理学科

区分	授業科目	必修	選択
	環境管理学概論		2
	動物生態学		2
	生物多様性の科学		2
	外来生物の科学		2
	環境化学		2
	森林科学		2
	物理学		2

	化学		2
	生物学		2
	持続可能な農業		2
	沿岸生態学		2
	水圏動物学		2
	河川生態学		2
	環境微生物学		2
	環境分子生物学		2
	水利サイエンス		2
	水環境学		2
	食料経済学		2
	緑地保全学		2
	植物生態学		2
	森林管理学		2
	森林土壌学		2
	環境関連法		2
	環境政策学		2
	野生動物保護論		2
	フィールドワークの技法		2
	環境統計学		2
	環境英語Ａ		1
	環境英語Ｂ		1
	情報処理専門演習Ⅰ	1	
	情報処理専門演習Ⅱ	1	
	沿岸保全論		2
	水辺域管理学		2
専攻科目	保全遺伝学		2
	バイオマス利用論		2
	環境分析学		2
	農業と環境		2
	環境ビジネス学		2
	持続可能な水産業		2
	造園計画論		2
	環境数理学		2
	環境リスク学		2
	造林学		2
	樹病学		2
	森林政策学		2
	特別演習		1
	海外調査・研修		2
	樹木学実習		1
	樹木医学実習		1
	造園学実習		1
	里山生物学実習		1
	環境管理学基礎実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学基礎実験・実習Ⅱ	2	

	環境管理学専門実験・実習Ⅰ	2	
	環境管理学専門実験・実習Ⅱ	2	
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	物理学実験		1
	化学実験		1
	生物学実験		1
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	卒業研究	8	
関連科目	環境保全栽培学		2
	植物形態学		2
	昆虫生態学		2
	雑草管理学		2
	農業政策学		2
	物理化学		2
	基礎反応化学		2
	有機機器分析学		2
	酵素化学		2
	天然物化学		2
	森林資源科学		2
	有機化学Ⅰ		2
	有機反応化学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

生物機能科学科

区分	授業科目	必修	選択
	バイオサイエンス概論	2	
	資源科学基礎		2
	植物生理学		2
	生物学基礎		2
	化学基礎		2
	物理学		2
	発生生物学		2
	基礎免疫学		2
	分子生物学Ⅰ		2
	細胞生物学Ⅰ		2
	生物化学Ⅰ		2
	有機化学Ⅰ		2
	分子生物学Ⅱ		2
	細胞生物学Ⅱ		2

	生物化学Ⅱ		2
	有機化学Ⅱ		2
	分子遺伝学		2
	微生物学		2
	酵素タンパク質工学		2
	有機反応化学		2
	Ｔｏｐｉｃｓ　ｉｎ　Ｂｉｏｓｃｉｅｎｃｅ		2
	生命情報学		2
	バイオインフォマティクス演習		2
	動物生産学		2
	動物遺伝学		2
	動物発生工学		2
	植物分子生物学		2
	植物バイオテクノロジー		2
	植物細胞生化学		2
	遺伝子工学		2
専攻科目	分子構造解析学		2
	ゲノム編集学		2
	生体物理化学		2
	環境生物学		2
	微生物バイオテクノロジー		2
	幹細胞生物学		2
	実験動物学		2
	エピジェネティクス		2
	植物免疫学		2
	バイオビジネス論		2
	アグリバイオ実習		2
	バイオビジネス実習		1
	特別講義Ⅰ		2
	特別講義Ⅱ		2
	特別講義Ⅲ		2
	特別講義Ⅳ		2
	専門英語Ⅰ	1	
	専門英語Ⅱ	1	
	専門演習Ⅰ	2	
	専門演習Ⅱ	2	
	物理学実験	1	
	生物有機化学実験	1	
	細胞工学実験	1	
	遺伝子工学実験	1	
	バイオサイエンス専門実験Ⅰ	2	
	バイオサイエンス専門実験Ⅱ	1	
	バイオサイエンス専門実験Ⅲ	1	
	卒業研究	8	
	植物遺伝育種学		2
	工芸作物学		2

関連科目	果樹園芸学		2
	発酵化学		2
	栄養化学		2
	食品化学		2
	農薬化学		2
	森林資源科学		2
	野生動物保護論		2
	環境政策学		2
［大学コンソーシアム大阪単位互換科目］ 包括協定にもとづいた提供科目及び単位数			

＜履修方法＞

①専攻科目及び関連科目の中から必修科目を含む合計90単位以上修得しなければならない。ただし、関連科目については12単位を限度とする。

②外国語科目の必要単位数を超えて修得した単位のうち、８単位を限度として専門科目単位数に加算することができる。

③互換科目は４単位を限度として、共通教養科目の単位数に加算することができる。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

授業科目	単位数
地学概論Ⅰ	2
地学概論Ⅱ	2
地学実験	1
職業指導	4

別表(１)―12

医学部授業科目表

医学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

区分	授業科目	単位数 (時間数)	必修・選択
共通教養科目	環境と社会	2	○
	生死論	2	□
	医学からみた現代社会と倫理	2	○
	人権と社会	2	○
	心理と行動	2	○
	グローバルヘルス概論	2	○
	数理科学	2	○
	医療イノベーション学	2	○
	教養特殊講義	2	□
	ホスピタルアートによる患者ケア	2	□
	データリテラシー入門	2	△
	暮らしのなかの起業入門	2	△
外国語科目	医学英語Ⅰ	4	○
	医学英語Ⅱ	2	○
	医学英語Ⅲ	2	○
	医学英語Ⅳ	1	○
	生命科学	(60)	○
	医用化学	(60)	○

	医物理学	(60)	○
	医統計学	(30)	○
	地域包括ケア実習／総合医学	(60)	○
	科学的思考演習	(30)	○
学部基礎科目	プロフェッショナリズム／実習Ⅰ	(45)	○
	プロフェッショナリズム／実習Ⅱ	(60)	○
	プロフェッショナリズム／実習Ⅲ	(90)	○
	プロフェッショナリズム／実習Ⅳ	(30)	○
	細胞・形態学	(90)	○
	医学概論	(30)	○
	医薬連携総論	(30)	○

＜履修方法＞

共通教養科目は必修科目14単位、選択必修科目２単位を含む計16単位以上、外国語科目から９単位以上修得しなければならない。

学部基礎科目は675時間以上修得しなければならない。

医学科

区分	授業科目	授業時間数	必修・選択
	生化学	(75)	○
	分子生物学	(75)	○
	人体構造Ⅰ	(50)	○
	人体構造Ⅱ	(75)	○
	人体構造Ⅲ	(65)	○
	人体構造Ⅳ	(35)	○
	機能Ⅰ	(100)	○
	機能Ⅱ	(100)	○
	病因・病態Ⅰ	(90)	○
	病因・病態Ⅱ	(120)	○
	薬理学	(90)	○
	臨床各論Ⅰ	(120)	○
	臨床各論Ⅱ	(120)	○
専門科目	臨床各論Ⅲ	(90)	○
	臨床各論Ⅳ	(120)	○
	臨床各論Ⅴ	(180)	○
	臨床各論Ⅵ	(90)	○
	臨床各論Ⅶ	(90)	○
	臨床各論Ⅷ	(120)	○
	臨床各論Ⅸ	(90)	○
	社会医学Ⅰ	(90)	○
	社会医学Ⅱ	(60)	○
	病理集中コース	(30)	○
	臨床総論／実習	(90)	○
	医療安全	(30)	○
	臨床実習（Ｃ・Ｃ）	(2,450)	○
	画像集中コース	(30)	○
合計		(4,675)	

＜履修方法＞

専門科目については、合計4,675時間以上履修すること。

別表(１)―13

生物理工学部授業科目表

授業科目の名称					単位数	
					必修	選択
全学共通科目	共通教養科目	人間性・社会性科目群		人権と社会１		2
				人権と社会２		2
				暮らしのなかの憲法		2
				芸術鑑賞入門		2
				現代社会と法		2
				現代社会と倫理		2
				現代経済の課題		2
				新しい政治学		2
				持続可能な社会論		2
				自己発見の心理学		2
				教養特殊講義Ａ		2
				心理と行動		2
		地域性・国際性科目群		国際経済入門		2
				国際化と異文化コミュニケーション		2
				国際社会と日本		2
				日本近現代史		2
				里山の環境学		2
				言語文化学入門		2
				教養特殊講義Ｂ		2
				世界近現代史		2
		課題設定・問題解決科目群		日本語の技法		2
				基礎ゼミ	2	
				思考の技術		2
				キャリアデザイン		2
				社会奉仕実習		1
				科学技術と人間・社会		2
				インターンシップ		2
				キャリアインターンシップ		1
				スクールインターンシップ		1
				教養特殊講義Ｃ		2
				データリテラシー入門		2
				キャリアのための情報リテラシー		2
				暮らしのなかの起業入門		2
				科学的問題解決法		2
		スポーツ・表現活動科目群		生涯スポーツ１		1
				生涯スポーツ２		1
				健康とスポーツの科学		2
				食生活と健康		2
				心と体の健康		2
	外国語科	第一外国	基幹科目	総合英語１		2
				総合英語２		2

	目	語		理系英語１		1
				理系英語２		1
				オーラルスキル（英語）１		1
				オーラルスキル（英語）２		1
				オーラルスキル（英語）３		1
				オーラルスキル（英語）４		1
			応用科目Ａ	海外研修（英語）		2
				言語演習（英語）１		1
				言語演習（英語）２		1
				ＴＯＥＩＣ・Ａ１		1
				ＴＯＥＩＣ・Ａ２		1
				英語スキル上級Ａ		1
			応用科目Ｂ	理系英語３（エッセンシャル）		1
				理系英語４（エッセンシャル）		1
				理系英語３（コンプリヘンション）		1
				理系英語４（コンプリヘンション）		1
				理系英語３（プレゼンテーション）		1
				理系英語４（プレゼンテーション）		1
				発展理系英語１		1
				発展理系英語２		1
				ＴＯＥＩＣ・Ｂ１		1
				ＴＯＥＩＣ・Ｂ２		1
				英語スキル上級Ｂ		1
		第二外国語		ドイツ語総合１		1
				ドイツ語総合２		1
				ドイツ語総合３		1
				ドイツ語総合４		1
				中国語総合１		1
				中国語総合２		1
				中国語総合３		1
				中国語総合４		1
学部基礎科目				化学実験		2
				物理学実験		2
				基礎食品化学		2
				知的財産権		2
				Ｗｅｂデザイン		1
				バイオテクノロジー技術論		2
				科学倫理		2
				情報倫理		2
				生物と地球環境		2
				医療・科学・暮らし		2
				情報処理基礎Ⅰ	1	
				情報処理基礎Ⅱ	1	
				地学概論Ⅰ		2
				地学概論Ⅱ		2

	地学実験		1
	代数学概論Ⅰ		2
	代数学概論Ⅱ		2
	幾何学ⅠA		2
	幾何学ⅠB		2
	幾何学ⅡA		2
	幾何学ⅡB		2

＜履修方法＞

共通教養科目から16単位以上（うち必修２単位）、外国語科目から14単位以上（うち英語10単位以上）、学部基礎科目から６単位以上（うち必修２単位）を修得しなければならない。

コンソーシアム科目は４単位を上限に共通教養科目として認められる。

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづく単位互換提供科目

授業科目	単位数
高等教育機関コンソーシアム和歌山及び南大阪地域大学コンソーシアムにおいて定められた提供科目および単位数	

＜履修方法＞

高等教育機関コンソーシアム和歌山単位互換及び南大阪地域大学コンソーシアム単位互換制度に関する包括協定にもとづき、単位互換提供科目を履修することができる。

生物工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
学科基幹科目群	トピックスインバイオロジー	2	
	有機化学基礎	2	
	基礎遺伝学	2	
	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	分子生物学Ⅰ	2	
	植物生理学	2	
	基礎微生物学	2	
	公衆衛生学		2
	基礎植物学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	細胞生物学Ⅲ		2
	分子生物学Ⅱ		2
	生物物理化学		2

	酵素化学		2
	生物機能物質化学		2
	遺伝子発現制御学		2
	免疫・アレルギー学		2
手法に関する科目群	計量生物学	2	
	遺伝子工学		2
	生物分析化学		2
	機器分析化学		2
	生物情報学		2
	植物細胞工学		2
生物資源利用科目群	応用微生物学		2
	植物生産環境工学		2
	植物生産情報工学		2
	植物育種学		2
	資源植物学		2
	植物栽培環境学		2
	植物病理学		2
生物プロセス科目群	応用生物工学Ⅰ		2
	応用生物工学Ⅱ		2
	応用生物工学Ⅲ		2
	生体情報工学		2
	環境科学		2
実験・実習・演習科目群	生物工学基礎化学実験	3	
	生物工学基礎生物学実験	3	
	生物工学基礎生化学実験	3	
	専門ゼミ	1	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	生物工学発展		2
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

遺伝子工学科

授業科目の名称	単位数	
	必修	選択

	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
	生命科学概論		2
	動物生理学	2	
	生体構成分子	2	
	微生物学	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
学科基礎科目群	細胞生物学Ⅱ	2	
	分子生物学Ⅰ	2	
	分子生物学Ⅱ	2	
	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	統計学	2	
	生物物理化学		2
	動物学	2	
	進化遺伝学		2
	タンパク質機能学		2
生命と情報科目群	遺伝子機能解析学		2
	生命科学のための情報リテラシー		2
	遺伝子発現制御とエピジェネティクス		2
	生命倫理	2	
	生命科学のための分析化学		2
	発生生物学Ⅰ	2	
	発生生物学Ⅱ	2	
	動物繁殖学	2	
高次生命科目群	免疫学概論		2
	神経科学		2
	分子発生学		2
	遺伝子工学概論	2	
	発生工学	2	
	公衆衛生学	2	
応用生命科目群	遺伝子工学	2	
	実験動物学		2
	医用遺伝子工学概論		2
	生殖医療工学		2
	幹細胞・再生医工学		2
	専門ゼミ	1	
	遺伝子基礎化学実験	3	
	遺伝子工学実験	3	
実験・実習・演習科目群	生殖工学実験	3	

	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目60単位、選択科目28単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

食品安全工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	生命科学概論		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学		2
	線形代数学		2
食品機能工学科目群	生化学Ⅰ	2	
	生化学Ⅱ	2	
	生体物質基礎	2	
	食品材料学		2
	食品機能統計学		2
	分子生物学Ⅰ	2	
	食品機能学	2	
	機能性食品開発	2	
食生産環境科目群	植物育種学		2
	世界の食生産事情		2
	科学情報の検索法		2
	植物生産環境工学		2
	動物生産学		2
	応用微生物工学	2	
	くらしと食農・環境		2
	食品システム論	2	
	食生産環境工学		2
	調理科学		2

	遺伝資源学		2
食品管理評価科目群	食品安全工学概論	2	
	食品保全学	2	
	食品安全学	2	
	食品加工学	2	
	食品微生物学	2	
	食品衛生管理学	2	
	食品分析化学	2	
	ＨＡＣＣＰシステム論		2
応用生命工学科目群	動物栄養学	2	
	細胞生物学Ⅰ	2	
	公衆衛生学		2
	細胞生物学Ⅱ		2
	免疫・アレルギー学		2
	分子生物学Ⅱ		2
	細胞培養工学		2
	実験動物学		2
	酵素化学		2
	生物情報学		2
実験・実習・演習科目群	自主演習		1
	食品化学実験	3	
	食品生物学実験	3	
	専門ゼミ	1	
	専攻科目演習Ⅰ	2	
	専攻科目演習Ⅱ	2	
	専攻科目演習Ⅲ	2	
	専攻科目演習Ⅳ	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目55単位、選択科目33単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

生命情報工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
	生命情報工学総論	2	
	数学	2	
	基礎数学		2
	微分積分学	2	
	線形代数学	2	

	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	コンピュータ概論	2	
	情報ネットワーク		2
	応用数学Ⅰ		2
	応用数学Ⅱ		2
	情報基礎		2
	確率基礎		2
学科基礎科目群	生物統計		2
	電気回路Ⅰ		2
	電気回路Ⅱ		2
	電子回路		2
	制御基礎論		2
	生体とシステム制御		2
	生体分子の統計物理		2
	知的財産権法概論		2
	細胞生物学		2
	情報セキュリティ		2
	分子生物学Ⅰ		2
	プログラミング	2	
	データ構造とアルゴリズム	2	
生命情報科目群	分子生物学Ⅱ		2
	バイオマテリアル		2
	バイオセンサー		2
	数値計算	2	
	データベース論	2	
	情報理論		2
	バイオインフォマティクス		2
	脳・神経生理学		2
	生体・電子計測学		2
	生体情報工学		2
	デジタル回路		2
生体システム科目群	情報通信工学		2
	生体信号解析		2
	画像処理		2
	システム工学		2
	機械学習		2
	脳と情報科学		2
先端専門科目群	生命情報工学講究Ⅰ	2	
	生命情報工学講究Ⅱ	2	
	基礎数学演習Ⅰ	1	
	基礎数学演習Ⅱ	1	

	AI・データサイエンス基礎実習	1	
	専門ゼミ	1	
実験・実習・演習科目群	プログラミング実習Ⅰ	1	
	プログラミング実習Ⅱ	1	
	生命情報工学演習Ⅰ	1	
	生命情報工学演習Ⅱ	2	
	システム情報処理実習Ⅰ	1	
	システム情報処理実習Ⅱ	1	
	情報基礎実験	2	
	生体情報工学実験	2	
	生命情報工学応用演習	1	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目44単位、選択科目44単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
情報科教育法Ⅰ	2
情報科教育法Ⅱ	2

人間環境デザイン工学科

授業科目の名称		単位数	
		必修	選択
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2
	化学Ⅱ		2
	基礎数学		2
	数学		2
	生物学Ⅰ		2
	生物学Ⅱ		2
	物理学Ⅰ		2
	物理学Ⅱ		2
	微分積分学	2	
	線形代数学	2	
	情報処理応用		2
	応用解析学Ⅰ		2
	応用解析学Ⅱ		2
	確率統計		2
	心理統計学		2
	シミュレーション工学		2
	心理学概論		2
	生体機能・解剖学		2
	生理学		2

人間科学科目群	カラーコーディネーションの心理学		2
	心理学研究法		2
	感性デザインの数理		2
機械科学科目群	暮らしの力学	4	
	材料力学Ⅰ		2
	材料力学Ⅱ		2
	センサ工学		2
	アンビエントセンサ		2
	生体計測学		2
	流れ学		2
	材料機能学		2
	生活支援ロボット		2
住環境科学科目群	住環境科学概論		2
	プロダクトデザイン	2	
	設計製図	2	
	熱・設備工学		2
	温熱・空気環境学		2
	振動と音響の科学		2
	建築法規		2
	建築施工		2
	環境計画学		2
	建築史		2
ユニバーサルデザイン科目群	ユニバーサルデザイン概論		2
	福祉工学		2
	人間工学		2
	建築と照明		2
	ユニバーサルデザイン		2
実験・実習・演習科目群	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅰ	2	
	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅱ	2	
	ユニバーサルデザイン・ＣＡＤ演習Ⅲ	2	
	３次元ＣＡＤプロダクトデザイン	2	
	設計製図演習	1	
	専門ゼミ	1	
	人間環境デザイン工学実験Ⅰ	2	
	人間環境デザイン工学実験Ⅱ	2	
	人間環境デザイン工学演習Ⅰ	1	
	人間環境デザイン工学演習Ⅱ	1	
	人間環境デザイン工学講究	2	
	卒業研究	6	
学際領域選択科目			
別表１に定める			

＜履修方法＞

必修科目36単位、選択科目52単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位

数学科教育法Ⅰ	2
数学科教育法Ⅱ	2
数学科教育法特講Ⅰ	2
数学科教育法特講Ⅱ	2

医用工学科

授業科目の名称		単位数		
		必修	選択	自由
学科基礎科目群	化学Ⅰ		2	
	化学Ⅱ		2	
	基礎数学		2	
	数学		2	
	生物学Ⅰ		2	
	生物学Ⅱ		2	
	物理学Ⅰ		2	
	物理学Ⅱ		2	
	微分積分学	2		
	線形代数学	2		
工学科目群	応用数学	2		
	コンピュータ工学	2		
	医用工学概論	2		
	電気工学Ⅰ	2		
	電気工学Ⅱ			2
	機械工学	2		
	電子工学Ⅰ	2		
	信号処理			2
	計測工学	2		
	バイオセンサー			2
	電子工学Ⅱ			2
	制御工学	2		
	医用材料工学	2		
	放射線工学概論	2		
	バイオマテリアル	2		
	生体物性工学	2		
基礎医学科目群	生命倫理	2		
	基礎医学総論（法規・衛生）	2		
	解剖学	2		
	生理学	2		
	病理学	2		
	臨床生化学	2		
	臨床免疫学	2		
	臨床生理学	2		
	臨床薬理学	2		
	チーム医療概論	2		
	医療社会学	2		
	医用機器学概論	2		
	生体計測装置学			2

医用工学科目群	臨床医学総論Ⅰ	2		
	生体機能代行技術学Ⅰ	4		
	医用治療機器学	2		
	臨床医学総論Ⅱ			2
	生体機能代行技術学Ⅱ			4
	臨床医学総論Ⅲ			2
	臨床支援技術学			2
	生体機能代行技術学Ⅲ			2
	医療機器安全管理学Ⅰ	2		
	医療機器安全管理学Ⅱ			2
実験・実習・演習科目群	専門ゼミ	1		
	応用数学演習			1
	電気電子工学実習	2		
	基礎医学実習	2		
	プログラミング演習	1		
	システム工学実習	2		
	医療治療機器学・生体計測装置学実習	3		
	生体機能代行技術学実習	3		
	医療機器安全管理学実習	2		
	臨床実習			7
	臨床工学特別演習Ⅰ			1
	臨床工学特別演習Ⅱ			1
	卒業研究	4		
学際領域選択科目				
別表１に定める				

＜履修方法＞

必修科目82単位、選択科目６単位以上、合計88単位以上を修得すること。また、学際領域選択科目は12単位まで選択科目として認められる。なお、教科及び教科の指導法に関する科目は卒業所要単位数とはしない。

教科及び教科の指導法に関する科目	単位
理科教育法Ⅰ	2
理科教育法Ⅱ	2
理科教育法特講Ⅰ	2
理科教育法特講Ⅱ	2

別表１　学際領域選択科目（○印、◎印）

※◎印：「AI・データサイエンティスト」育成プログラム（B-AiDaS）対象科目

授業科目	単位数	生物工学科	遺伝子工学科	食品安全工学科	生命情報工学科	人間環境デザイン工学科	医用工学科
	選択						
生物物理化学	2			○	○	○	○
環境科学	2		○	○	○	○	
生物機能物質化学	2		○	○	○		
機器分析化学	2		○		○		○
植物栽培環境学	2		○	○	○	○	○
計量生物学	2		◎	◎	◎	◎	◎
植物生産情報工	2		◎	◎	◎	◎	◎

学							
生物情報学	2		◎		◎	◎	◎
生命科学概論	2				○	○	○
遺伝子工学概論	2	○		○	○		○
実験動物学	2	○			○		○
幹細胞・再生医工学	2	○		○	○	○	○
医用遺伝子工学概論	2	○		○	○	○	○
統計学	2	◎		◎	◎	◎	◎
生命科学のための情報リテラシー	2	◎		◎	◎	◎	◎
遺伝子機能解析学	2	◎		◎	◎	◎	◎
くらしと食農・環境	2	○	○		○	○	
免疫・アレルギー学	2		○		○	○	
調理科学	2	○	○		○	○	
遺伝資源学	2		○		○		
科学情報の検索法	2	◎	◎		◎	◎	◎
食品機能統計学	2	◎	◎		◎	◎	◎
脳と情報科学	2	○	○	○		○	○
情報理論	2	○	○	○		○	○
バイオセンサー	2	○	○	○		○	
AI・データサイエンス基礎実習	2	◎	◎	◎		◎	◎
確率基礎	2	◎	◎	◎		◎	◎
情報基礎	2	◎	◎	◎		◎	◎
データ構造とアルゴリズム	2	◎	◎	◎		◎	◎
機械学習	2	◎	◎	◎		◎	◎
心理学概論	2	○	○	○	○		
材料機能学	2	○	○	○	○		
心理学研究法	2	○	○		○		
感性デザインの数理	2	○	○	○	○		
情報処理応用	2	◎	◎	◎	◎		◎
確率統計	2	◎	◎	◎	◎		◎
応用数学	2	◎	◎	◎	◎	◎	

別表(1)―14

工学部授業科目表

基礎教育

区分	分野	授業科目	単位数	必選別

総合科目	人間性・社会性科目群	哲学	2	○
		心理学	2	○
		日本国憲法	2	○
		人権論	2	○
		経済学	2	○
		政治基礎論	2	○
		教養特殊講義Ａ	2	○
	地域性・国際性科目群	ことばと文化	1	○
		日本語の技法	2	○
		人間と文化	2	○
		東広島学	2	○
		国際経営論	2	○
		グローバルキャリア論	2	○
		教養特殊講義Ｂ	2	○
	課題設定・問題解決科目群	キャリアデザイン	2	○
		職業の理解	2	○
		生活と倫理	2	○
		社会行動論	2	○
		エンジニアリング・デザイン	2	○
		インターンシップ研修	2	○
		教養ゼミナール	2	○
		教養特殊講義Ｃ	2	○
		情報と職業	2	○
		基礎ゼミ	2	◎
		データリテラシー入門	2	○
		暮らしのなかの起業入門	2	○
	表現・スポーツ・健康活動科目群	芸術論	2	○
		工業デザイン	2	○
		生涯スポーツⅠ	1	○
		生涯スポーツⅡ	1	○
		スポーツ概論	2	○
		健康と安全	2	○
		メンタルヘルス	2	○
		余暇論	2	○
	専門基礎・自然科学科目群	工学倫理	2	◎
		地球の科学	2	○
		宇宙の科学	2	○
		生命の科学	2	○
		情報処理基礎	1	◎
		図学	2	○
		物質の科学	2	○
		工学特講	2	○
		情報と社会	2	○
外国語科目	英語	英語ＡⅠ	1	◎
		英語ＡⅡ	1	○
		英語ＢⅠ	1	◎
		英語ＢⅡ	1	○

		英語ＣⅠ	1	○
		英語ＣⅡ	1	○
		英語ＤⅠ	1	○
		英語ＤⅡ	1	○
		英語応用Ⅰ	1	○
		英語応用Ⅱ	1	○
		英会話基礎Ⅰ	1	○
		英会話基礎Ⅱ	1	○
		英会話応用Ⅰ	1	○
		英会話応用Ⅱ	1	○
	初修外国語	ドイツ語Ⅰ	1	○
		ドイツ語Ⅱ	1	○
		フランス語Ⅰ	1	○
		フランス語Ⅱ	1	○
		中国語Ⅰ	1	○
		中国語Ⅱ	1	○
	外国語共通	海外語学研修	2	○

＜履修方法＞

① 総合科目は、人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群３単位以上、合計16単位以上修得すること。

② 外国語科目は、英語ＡⅠと英語ＢⅠ各１単位、英語ＡⅡ、英語ＢⅡ、英語ＣⅠ、英語ＣⅡ、英語ＤⅠ、英語ＤⅡ、英語応用Ⅰ、英語応用Ⅱの中から４単位、合計６単位の修得と、英語の選択科目（上記で修得済みの４単位の科目を除く）、初修外国語、外国語共通の中から２単位以上、合計８単位以上修得すること。ただし、英語ＤⅠと英語ＤⅡについては、履修を許可された者だけが受講できる。

〔総合科目修得内訳表〕

学科	総合科目の区分要件
化学生命工学科 機械工学科 情報学科 建築学科 ロボティクス学科	人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群３単位以上、合計16単位以上修得すること。
電子情報工学科	人間性・社会性科目群２単位以上、地域性・国際性科目群１単位以上（「日本語の技法」を含む）、課題設定・問題解決科目群２単位以上、表現・スポーツ・健康活動科目群１単位以上、専門基礎・自然科学科目群３単位以上、合計16単位以上修得すること。

化学生命工学科

区分	授業科目	単位数	必選別		
			化学・生命工学コース	環境・情報化学コース	医・食・住化学コース
工学基礎	物理学Ⅰ	2	◎	○	○
	物理学Ⅱ	2	◎	○	○
	化学概論Ⅰ	2	◎	◎	◎
	化学概論Ⅱ	2	◎	◎	◎
	生物学概論Ⅰ	2	◎	◎	◎
	生物学概論Ⅱ	2	◎	◎	◎
	化学生命工学概論	2	◎	◎	◎

	微分積分学Ⅰ	2	◎	○	○
	微分積分学Ⅱ	2	◎	○	○
	科学英語Ⅰ	2	◎	○	○
	科学英語Ⅱ	2	◎	○	○
	知的財産法	2	◎	○	○
演習・実験	化学生命工学基礎演習	2	◎	◎	◎
	化学生命工学基礎実験	2	◎	◎	◎
	化学実験	2	◎	◎	◎
	生物工学実験	2	◎	◎	◎
	物質化学実験	2	◎	◎	◎
	化学生命工学実験	2	◎	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎	◎
情報処理系	応用情報処理Ⅰ	2	◎	◎	○
	応用情報処理Ⅱ	2	◎	○	○
	化学情報学	2	○	◎	○
	生物情報学	2	○	○	○
	化学生命データサイエンス	2	○	○	○
化学系	物理化学	2	◎	○	○
	無機化学	2	◎	○	◎
	有機化学Ⅰ	2	◎	○	◎
	分析化学	2	◎	○	◎
	高分子化学Ⅰ	2	◎	○	○
	物質化学	2	○	○	○
	有機化学Ⅱ	2	○	○	○
	高分子化学Ⅱ	2	○	○	○
	機器分析化学	2	○	○	○
	生物化学工学	2	○	○	○
生物化学系	生物化学	2	◎	○	◎
	分子生物学	2	◎	○	○
	分子細胞生物学	2	○	○	◎
	生命工学	2	○	○	○
環境系	環境制御工学	2	◎	○	○
	環境化学	2	◎	◎	○
	資源循環化学	2	◎	○	○
食品科学系	食品化学	2	○	○	◎
	栄養化学	2	○	○	◎
	応用微生物学	2	○	○	◎
	食品衛生学	2	○	○	◎
	食品工学	2	○	○	○
	微生物学	2	○	○	◎
融合複合	公衆衛生学	2	○	○	○
	グリーンケミストリー	2	◎	○	○
	ファインケミカル科学	2	○	○	○
	化学生命工学セミナー	2	○	○	○
教職関連科目	物理学実験	2	○	○	○
	地学実験	2	○	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む）	2	○	○	○

	栽培・同実習	2	○	○	○

＜履修方法＞

化学・生命工学コースにおいては、必修科目◎69単位、選択科目○の中から15単位以上、合計84単位以上修得すること。

環境・情報化学コースにおいては、必修科目◎35単位、選択科目○の中から49単位以上、合計84単位以上修得すること。

医・食・住化学コースにおいては、必修科目◎49単位、選択科目○の中から35単位以上、合計84単位以上修得すること。

機械工学科

区分		授業科目	単位数	必選別	
				機械設計コース	エネルギー機械コース
工学基礎	数学	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
		微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
		線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
		微分方程式	2	◎	◎
		解析学	2	○	○
		確率統計学	2	◎	◎
	物理	物理学Ⅰ	2	◎	◎
		物理学Ⅱ	2	◎	◎
		物理学演習	1	○	○
		工業力学	2	◎	◎
実験・実習	実験	機械工学基礎実験Ⅰ	2	◎	◎
		機械工学基礎実験Ⅱ	2	◎	◎
		機械工学実験	2	◎	◎
	実習	機械基礎工作実習	2	◎	◎
		卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
		卒業研究	6	◎	◎
材料と構造	材料力学	材料力学Ⅰ	2	◎	◎
		材料力学演習	1	○	○
		材料力学Ⅱ	2	◎	○
		弾塑性力学	2	○	○
	材料工学	材料の基礎	2	◎	◎
		機械材料Ⅰ	2	◎	○
		機械材料Ⅱ	2	○	○
		鋳造材料学	2	○	○
運動と振動	機械力学	機械力学Ⅰ	2	◎	◎
		機械力学Ⅱ	2	○	○
設計と生産管理	設計・製図	機械製図法	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅰ	2	◎	◎
		設計製図演習Ⅱ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅰ	2	◎	◎
		機械要素設計Ⅱ	2	◎	◎
		応用設計	2	◎	◎
	生産工学	加工学Ⅰ	2	◎	◎
		加工学Ⅱ	2	◎	○

		接合工学	2	○	○
		生産加工学	2	○	○
エネルギーと流れ	流体力学	基礎流れ学	2	◎	◎
		流体力学Ⅰ	2	○	◎
		流体力学Ⅱ	2	○	○
		応用流体工学	2	○	○
	熱工学	工業熱力学Ⅰ	2	◎	◎
		工業熱力学演習	1	○	○
		工業熱力学Ⅱ	2	○	○
		伝熱工学	2	○	◎
		燃焼工学	2	○	○
情報と計測制御	計測制御工学	計測工学	2	◎	◎
		制御工学Ⅰ	2	○	◎
		制御工学Ⅱ	2	○	○
	電子情報工学	電気電子工学Ⅰ	2	○	○
		電気電子工学Ⅱ	2	○	○
		プログラミング	2	○	○
応用・関連	関連科目	法工学	2	○	○
教職・関連	教職関連科目	金属加工（製図及び実習を含む）	2	○	○

＜履修方法＞

機械設計コースにおいては、必修科目◎65単位、選択科目○の中から「材料力学」、「材料工学」、「機械力学」、「生産工学」区分の８単位以上を含む19単位以上、合計84単位以上修得すること。

エネルギー機械コースにおいては、必修科目◎65単位、選択科目○の中から「流体力学」、「熱工学」、「計測制御工学」、「電子情報工学」区分の８単位以上を含む19単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			情報システムコース	情報メディアコース
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	データサイエンス基礎	2	○	○
	基礎統計学	2	◎	◎
	情報数学	2	◎	◎
	コンピュータ基礎実習	1	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	2	◎	○
	科学技術英語Ⅱ	2	◎	○
	情報倫理	2	◎	◎
総合	情報基礎実習	1	◎	◎
	情報処理実習Ⅰ	2	◎	◎
	情報処理実習Ⅱ	2	◎	◎
	情報システム演習Ⅰ	4	◎	
	情報システム演習Ⅱ	4	◎	
	情報メディア演習Ⅰ	4		◎

	情報メディア演習Ⅱ	4		◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
情報処理	コンピュータ概論	2	◎	◎
	コンピュータシステムとアーキテクチャ	2	◎	◎
	アルゴリズムとデータ構造Ⅰ	2	◎	○
	アルゴリズムとデータ構造Ⅱ	2	○	○
	プログラミング実習Ⅰ	2	◎	◎
	プログラミング実習Ⅱ	2	◎	○
	コンピュータネットワーク	2	◎	○
	Ｗｅｂ技術	2	○	○
	データベース管理	2	○	○
	オブジェクト指向とモデリング言語	2	○	○
	オブジェクト指向プログラミング	1	○	○
	情報セキュリティ	2	○	○
	ソフトウェア工学	2	○	○
	応用統計学	2	◎	◎
	システム最適化法	2	○	○
	知識情報処理	2	○	○
	データマイニング	2	○	○
	オペレーションズ・リサーチ	2	○	○
	シミュレーション科学	2	○	○
情報システム	情報システム工学概論	2	◎	◎
	情報システム開発法	2	◎	○
	情報システムの設計と運営	2	○	○
	会計情報システム	2	○	○
	サプライチェインマネジメント	2	○	○
	経営情報システム	2	◎	○
	生産管理情報システム	2	○	○
	組織活動と情報システム	2	◎	◎
	企業情報システム演習	2	○	○
	経営学概論	2	◎	◎
	マーケティング	2	○	○
	プロジェクトマネジメント	2	○	○
	ビジネスプロセスモデリング	2	○	○
	ＥＲＰシステム実習Ⅰ	2	○	○
	ＥＲＰシステム実習Ⅱ	2	○	○
	情報システム管理	2	○	○
情報メディア	マルチメディア概論	2	◎	◎
	メディアデータ解析	2	○	◎
	コンピュータグラフィックス	2	○	○
	映像処理	2	○	○
	パターン認識	2	○	○
	組込みシステム	2	○	○
	ＩｏＴとクラウド	2	○	○
	マルチメディアプログラミング	2	○	○
	バーチャルリアリティ	2	○	○

	音響処理	2	○	○
	音響学	2	○	○
	Ｗｅｂデザイン	2	○	○
	ヒューマンインタフェース	2	○	○
教職関連科目	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

情報システムコースにおいては、必修科目◎61単位、「情報処理」区分の選択科目○の中から10単位以上、「情報システム」区分の選択科目○の中から12単位以上を含む23単位以上、合計84単位以上修得すること。

情報メディアコースにおいては、必修科目◎49単位、選択科目○の中から35単位以上、合計84単位以上修得すること。

建築学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			建築学コース	インテリアデザインコース
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	○	○
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	○	○
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	応用物理学	2	○	○
	建築プログラミング	1	○	○
建築設計製図	建築図法	2	○	○
	造形演習	2	○	○
	建築ＣＡＤ・ＣＧ演習	2	○	○
	建築基本製図	2	◎	◎
	建築演習	2	◎	◎
	建築設計製図	2	◎	◎
	木造住宅設計	2	○	○
	建築設計演習Ⅰ	2	◎	◎
	建築設計演習Ⅱ	4	◎	◎
	建築設計演習Ⅲ	4	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅰ	1	◎	◎
	建築設計・集中演習Ⅱ	1	◎	◎
建築計画	建築史Ⅰ	2	◎	◎
	建築史Ⅱ	2	◎	◎
	建築デザイン論	2	○	○
	建築計画Ⅰ	2	◎	◎
	建築計画Ⅱ	2	◎	◎
	都市計画	2	○	○
建築環境工学	居住環境学	2	◎	◎
	建築環境Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築環境Ⅱ・同演習	2	○	○
建築設備	建築設備Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	建築設備Ⅱ・同演習	2	○	○
構造力学	静定力学・同演習	2	◎	◎

	材料力学・同演習	2	◎	◎
	不静定力学Ⅰ・同演習	2	○	○
	不静定力学Ⅱ・同演習	2	◎	○
建築一般構造	構造演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅰ・同演習	2	◎	◎
	構造設計Ⅱ・同演習	2	○	○
	構造設計Ⅲ	2	○	○
	建築地盤工学	2	○	○
建築材料	建築材料	2	◎	◎
建築生産	建築構法	2	○	○
	建築施工	2	◎	◎
	建築生産	2	○	○
インテリアデザイン	インテリアデザイン論	2		◎
	色彩・照明論	2	○	○
	インテリア設計演習	2		◎
	インテリアエレメント	2	○	○
	インテリア制作	2		◎
共通	建築概論	2	◎	◎
	建築法規	2	◎	◎
	職業観と倫理	2	◎	◎
	建築実験	2	◎	○
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
教職関連科目	木材加工（製図及び実習を含む）	2	○	○
	金属加工（製図及び実習を含む）	2	○	○

＜履修方法＞

建築学コースにおいては、必修科目◎61単位、選択科目○の中から23単位以上、合計84単位以上修得すること。

インテリアデザインコースにおいては、必修科目◎63単位、選択科目○の中から21単位以上、合計84単位以上修得すること。

電子情報工学科

区分	授業科目	単位数	必選別	
			電気電子コース	情報通信コース
工学基礎	電気回路実験	1	◎	◎
	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	◎	◎
	力学	2	○	○
実験・実習	電子情報基礎実験	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅱ	2	◎	◎
	電子情報工学実験Ⅲ	2	◎	◎
	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
電子・情報基礎	コンピュータ概論	2	◎	◎

	プログラミング基礎	2	◎	◎
	回路理論Ⅰ	2	◎	◎
	回路理論Ⅱ	2	◎	◎
	電子回路Ⅰ	2	◎	◎
	電子回路Ⅱ	2	○	○
	電磁気学Ⅰ	2	◎	◎
	電磁気学Ⅱ	2	○	○
	微分方程式	2	○	○
	確率統計学	2	◎	◎
電子・情報応用	コンピュータシステム演習	1	◎	◎
	論理回路	2	◎	◎
	ディジタル回路設計	2	◎	○
	過渡解析	2	○	○
	制御システム	2	○	○
	データ工学	2	○	◎
	アルゴリズム演習	1	○	○
	集積回路	2	○	○
	電子計測	2	○	○
	情報理論	2	○	○
	アルゴリズム設計	2	○	○
	コンピュータアーキテクチャー	2	○	○
	組込みシステム	2	○	○
	電気機器学	2	◎	○
	人工知能	2	○	○
	エネルギー変換工学	2	○	○
	電磁波工学	2	○	○
ソフトウェア開発	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	オブジェクト指向プログラミング	1	○	○
	ソフトウェア設計	2	○	○
マルチメディア処理	信号処理工学	2	○	○
	画像処理工学	2	○	○
	ＶＲ・ＡＲ画像処理	2	○	○
情報通信メディア	情報通信ネットワーク	2	○	◎
	情報通信システム構築演習	1	○	○
	通信工学	2	○	○
	半導体工学	2	○	○
	光エレクトロニクス	2	○	○
関連科目	知的財産法	2	○	○
教職関連科目	解析学Ⅰ	2	○	○
	解析学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

必修科目◎49単位、選択科目○の中から35単位以上、合計84単位以上修得すること。

ロボティクス学科

区分	授業科目	単位数	必選別

			ロボット設計コース	ロボット制御コース
工学基礎	微分積分学Ⅰ	2	◎	◎
	微分積分学Ⅱ	2	○	○
	線形代数学Ⅰ	2	◎	◎
	線形代数学Ⅱ	2	○	○
	確率統計学	2	○	○
	微分方程式	2	○	○
	ベクトル解析	2	○	○
	物理学Ⅰ	2	○	○
	物理学Ⅱ	2	○	○
共通	卒業研究ゼミナール	1	◎	◎
	卒業研究	6	◎	◎
	科学技術英語Ⅰ	1	○	○
	科学技術英語Ⅱ	1	○	○
	知的財産管理	2	○	○
実験・実習・演習	機械標準製図法	2	◎	◎
	機械設計製図	2	◎	◎
	ロボット設計製図	2	◎	
	プログラミングⅠ	2	◎	◎
	プログラミングⅡ	2	◎	◎
	ＣＡＤ／ＣＡＥ／ＣＡＭ実習	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工作基礎Ⅱ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅰ	2	◎	◎
	ロボット工学実験Ⅱ	2		◎
	ロボット創成実験	2	◎	◎
設計・製造	流れ学	2	○	○
	基礎材料力学	2	◎	◎
	材料力学	2	○	○
	力学	2	◎	◎
	剛体の力学	2	◎	◎
	機械力学	2	○	○
	機械要素設計	2	◎	○
	機械材料	2	◎	◎
	加工学	2	○	○
	基礎数値解析	2	○	○
	数値解析	2	○	○
	生体工学	2	○	○
電気・電子	電気回路Ⅰ	2	◎	◎
	電気回路Ⅱ	2	○	○
	デジタル電子回路	2	○	○
	ロボットインタフェース	2	○	○
制御・メカトロニクス	基礎制御工学	2	◎	◎
	制御工学	2	○	◎
	メカトロニクス	2	○	○
	計測・センサ工学	2	○	○

	ロボット機構学	2	○	○
	アクチュエータ工学	2	○	○
	ロボット工学	2	○	○
	ビークルシステム学	2	○	○
	ビークル運動学	2	○	○
情報	コンピュータ科学基礎	2	◎	◎
	知能情報工学	2	○	○
	ロボットビジョン	2	○	○
教職関連科目	代数学Ⅰ	2	○	○
	代数学Ⅱ	2	○	○
	幾何学Ⅰ	2	○	○
	幾何学Ⅱ	2	○	○
	工作機械・同実習	2	○	○
	電気回路・同演習	2	○	○

＜履修方法＞

必修科目◎47単位、選択科目○の中から37単位以上、合計84単位以上修得すること。

特修プログラム

区分		授業科目	単位数
			選択
情報技術特修プログラム		Ｗｅｂデザイン特講	4
		Ｗｅｂデザイン実習	2
		プログラミング特講	4
		プログラミング実習	2
		データサイエンス特講	4
		データサイエンス実習	2
教育学特修プログラム		教師論	2
		教育原理	2
		教育心理学	2
		教育行政学	2
		教育方法学（情報通信技術の活用を含む）	2
		特別活動論	2
		道徳教育論	2
		教育情報学	2
		人権教育論	2
		生徒指導論（進路指導含む）	2
		教育相談	2
		ピア・ティーチング演習Ⅰ	2
		ピア・ティーチング演習Ⅱ	2
		キャリアガイダンス	2
		特別支援教育	2
		総合的な学習の時間の指導法	2
教職課程特修	技術コース	木材加工（製図及び実習を含む）	2
		金属加工（製図及び実習を含む）	2
		工作機械・同実習	2
		電気回路・同演習	2
		栽培・同実習	2
		代数学Ⅰ	2

プログラム	数学コース	代数学Ⅱ	2
		幾何学Ⅰ	2
		幾何学Ⅱ	2
		解析学Ⅰ	2
		解析学Ⅱ	2
国際経営特修プログラム	コース共通	Ｉｎｔｅｎｓｉｖｅ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｐｒｏｇｒａｍ	2
		ＴＯＥＩＣ Ⅰ	2
		ＴＯＥＩＣ Ⅱ	2
	英語コース	Ｍｅｄｉａ Ｅｎｇｌｉｓｈ	2
		Ｔｅｃｈｎｉｃａｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ⅰ	2
		Ｔｅｃｈｎｉｃａｌ Ｅｎｇｌｉｓｈ Ⅱ	2
		Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌ ｆｏｒ Ｇｌｏｂａｌ Ｅｎｇｉｎｅｅｒｓ Ⅰ	2
		Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｓｋｉｌｌ ｆｏｒ Ｇｌｏｂａｌ Ｅｎｇｉｎｅｅｒｓ Ⅱ	2
	技術経営コース	起業と経営	2
		技術・知識経営	2
		情報化社会の人間と組織	2
		サプライチェインマネジメント	2
		ビジネス・アカウンティング	2
		生産性設計と国際競争力	2

＜履修方法＞

16単位を限度として卒業単位として認定することができる。

〔特修プログラム修得内訳表〕

学科	教職課程特修プログラム	
	技術コース	数学コース
化学生命工学科	木材加工（製図及び実習を含む） 工作機械・同実習 電気回路・同演習	
機械工学科	木材加工（製図及び実習を含む） 電気回路・同演習 栽培・同実習	
情報学科	木材加工（製図及び実習を含む） 金属加工（製図及び実習を含む） 栽培・同実習	
建築学科	工作機械・同実習 電気回路・同演習 栽培・同実習	
電子情報工学科	木材加工（製図及び実習を含む） 金属加工（製図及び実習を含む） 栽培・同実習	代数学Ⅰ 代数学Ⅱ 幾何学Ⅰ 幾何学Ⅱ
ロボティクス学科	木材加工（製図及び実習を含む） 金属加工（製図及び実習を含む） 栽培・同実習	解析学Ⅰ 解析学Ⅱ

別表（１）―15

産業理工学部

教養・基礎教育部門

○：必修科目　□：選択必修科目

区分	科目群	授業科目の名称	単位数	必修・選択
共通教養科目	人間性・社会性科目群	現代社会と法	2	□
		暮らしのなかの憲法	2	□
		現代社会と倫理	2	□
		哲学と人間・社会	2	□
		心理と行動	2	□
		環境と社会	2	□
		環境科学	2	□
		企業倫理と知的財産	2	□
		建学のこころ	1	□
		教養特殊講義Ａ	2	□
	地域性・国際性科目群	国際経済入門	2	□
		国際社会と日本	2	□
		国際化と異文化理解	2	□
		日本史概論	2	□
		日本文学論	2	□
		地域社会と情報	2	□
		地域社会と電気技術	2	□
		教養特殊講義Ｂ	2	□
	課題設定・問題解決科目群	基礎ゼミ	2	○
		科学的問題解決法	2	○
		ライフデザイン	2	○
		日本語の技法	1	○
		論理的表現法Ⅰ	1	○
		論理的表現法Ⅱ	2	□
		キャリアデザイン	2	□
		就職計画	2	□
		インターンシップ	2	□
		情報処理Ⅰ	2	○
		情報処理Ⅱ	2	□
		データリテラシー入門	2	□
		情報処理Ⅲ	2	□
		教養特殊講義Ｃ	2	□
		暮らしのなかの起業入門	2	□
	スポーツ・表現活動科目群	生涯スポーツ１	1	□
		生涯スポーツ２	1	□
		健康とスポーツの科学	2	□
		食生活と健康	2	□
		視覚表現の科学	2	□
		空間とデザイン	2	□
外国語科目		英語Ⅰ	1	○
		英語Ⅱ	1	○
		英語Ⅲ	1	○
		英語Ⅳ	1	○
		実用英語Ⅰ	1	□

	実用英語Ⅱ	1	□
	アドヴァンスト英語Ⅰ	1	□
	アドヴァンスト英語Ⅱ	1	□
	インタラクティブ英語Ⅰ	1	□
	インタラクティブ英語Ⅱ	1	□
	留学英語	2	□
	中国語Ⅰ	1	□
	中国語Ⅱ	1	□
	フランス語Ⅰ	1	□
	フランス語Ⅱ	1	□
	スペイン語Ⅰ	1	□
	スペイン語Ⅱ	1	□
	海外語学研修	1	□
	日本語Ⅰ	1	□
	日本語Ⅱ	1	□
	日本語Ⅲ	1	□
	日本語Ⅳ	1	□

＜履修方法＞

共通教養科目20単位以上（必修科目を含む）、外国語科目８単位以上（必修科目を含む）の合計28単位以上修得すること。ただし、外国語科目は英語科目（留学英語を除く）から６単位以上修得すること。

共通教養科目は、「人間性・社会性科目群」から２単位以上、「地域性・国際性科目群」から２単位以上、「スポーツ・表現活動科目群」から１単位以上を修得すること。

生物環境化学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			バイオサイエンス	食品生物資源	エネルギー・環境
基礎	数学Ⅰ	2	△	△	△
	数学Ⅱ	2	△	△	△
	物理学Ⅰ	2	△	△	△
	物理学Ⅱ	2	△	△	△
コア	生物学Ⅰ	2	○	○	○
	生物学Ⅱ	2	□	□	□
	物理化学Ⅰ	2	○	○	○
	物理化学Ⅱ	2	□	□	□
	有機化学Ⅰ	2	○	○	○
	有機化学Ⅱ	2	□	□	□
	無機化学Ⅰ	2	○	○	○
	無機化学Ⅱ	2	□	□	□
	分析化学	2	□	□	□
	地学概論	4	△	△	△
	アカデミック有機化学Ⅱ	2	△	△	△
	環境材料化学	2	△	△	□
	生物資源利用学	2	△	□	△
	栄養化学	2	△	△	△
	バイオ分析化学	2	□	□	△

	アカデミック物理化学	2	△	△	□
	アカデミック有機化学Ⅰ	2	△	△	□
	生物環境化学特別講義Ⅰ	2	△	△	△
	生物環境化学特別講義Ⅱ	2	△	△	△
	生理学	2	□	□	△
	公衆衛生学	2	△	□	△
	分光分析法	2	△	△	△
	卒業研究	6	○	○	○
実験・演習	生物環境化学基礎実験	3	○	○	○
	環境化学基礎実験	3	○	○	○
	生物化学基礎実験	3	○	○	○
	物質化学基礎実験	3	○	○	○
	環境化学実験	3	○	○	○
	物質化学実験	3	○	○	○
	生物化学実験	3	○	○	○
	生物環境化学実験	3	○	○	○
展開（環境化学系）	公害防止管理	2	△	△	□
	環境バイオテクノロジー	2	△	□	□
	環境とバイオの統計学	2	□	△	△
	環境エネルギー化学	2	△	△	□
	環境生物学	2	□	△	△
	食品衛生学	2	△	□	△
	環境計量学	2	△	△	□
展開（生物化学系）	生物化学Ⅰ	2	□	□	△
	生物化学Ⅱ	2	△	△	△
	分子遺伝学	2	□	△	△
	生物有機化学	2	□	△	△
	バイオセンシング	2	△	△	△
	微生物学	2	△	□	△
	微生物バイオテクノロジー	2	□	□	△
	遺伝子工学	2	□	△	△
	食品化学	2	△	□	△
	食品保存学	2	△	□	△
	栄養学	2	△	△	△
展開（材料化学系）	高分子合成化学	2	△	△	△
	高分子物性	2	△	△	△
	化学と安全	2	△	△	□
	分子シミュレーション	2	△	△	□
	固体化学	2	△	△	□
	先端無機材料化学	2	△	△	△
	有機合成化学	2	△	△	△
	生体機能分子化学	2	△	△	△

＜履修方法＞

バイオサイエンスコースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

食品生物資源コースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目38単位、専門選択必修科目14単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

電気電子工学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			エネルギー・環境	情報通信	応用エレクトロニクス
基礎	基礎数学	2	○	○	○
	電気電子数学	2	○	○	○
	電気電子数学演習	2	○	○	○
	応用数学Ⅰ	2	□	□	○
	応用数学Ⅱ	2	□	□	○
	初等信号理論	2	○	○	○
	データ分析概論	2	○	○	○
	シミュレーション	2	○	○	○
	コンピュータ概論	2	○	○	○
	エレクトロニクス概論	2	○	○	○
電気基礎	電磁気学Ⅰ	2	○	○	○
	電磁気学Ⅱ	2	○	□	○
	電気回路Ⅰ	2	○	○	○
	電気回路演習	2	○	○	○
	電気回路Ⅱ	2	○	○	○
	電気回路Ⅲ	2	○	□	○
情報基礎	計算機システム	2	○	○	○
	論理回路	2	○	○	○
	論理回路演習	2	□	□	□
	プログラミング	2	○	○	○
	プログラミング演習	2	○	○	○
	データ処理とプログラミング	2	△	○	○
	システムプログラミング	2	△	○	○
電子基礎	電子回路Ⅰ	2	○	○	○
	電子回路Ⅰ演習	2	○	○	○
	電子回路Ⅱ	2	○	○	○
	電子回路設計	2	○	□	○
	計測工学	2	○	○	○
電力システム	電力システム概論	2	○	△	□
	電気機器	2	○	△	△
	パワーエレクトロニクス	2	○	△	△
	発変電工学	2	□	△	△
	送配電工学	2	□	△	△
	電気法規・施設管理	2	□	△	△
	エネルギー環境システム	2	○	△	△
情報・通信システム	情報システム概論	2	△	○	△
	電磁波工学	2	□	□	□
	無線通信工学	2	□	□	□
	情報通信工学	2	△	○	□

	情報ネットワーク	2	△	○	□
	情報メディア工学	2	△	○	△
	情報エレクトロニクス	2	△	□	□
	情報社会と倫理	2	△	△	△
	情報と法	2	△	△	△
	情報と職業	2	△	△	△
応用エレクトロニクス	電気材料物性	2	□	△	□
	半導体工学	2	□	□	○
	制御工学	2	□	□	○
	組込み制御	2	△	○	□
	ロボティクス	2	△	□	□
実験・実習	初等電気工学実験	1	○	○	○
	電気工学基礎実験Ⅰ	2	○	○	○
	電気工学基礎実験Ⅱ	2	○	○	○
	電気情報工学応用実験	2	○	○	○
	電子情報設計プロジェクト	2	○	○	○
	電子情報工学セミナー	2	○	○	○
	電機設計・製図	2	□	△	△
	卒業研究	6	○	○	○

＜履修方法＞

エネルギー・環境コースにおいては、必修科目71単位、専門選択必修科目14単位以上、計85単位以上を修得すること。

情報通信コースにおいては、必修科目71単位、専門選択必修科目14単位以上、計85単位以上を修得すること。

応用エレクトロニクスコースにおいては、必修科目75単位、専門選択必修科目10単位以上、計85単位以上を修得すること。

建築・デザイン学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			建築工学	建築・デザイン
基礎	数学及び演習	3	△	△
	物理学	2	△	△
構造	静定構造力学Ⅰ及び演習	3	○	○
	静定構造力学Ⅱ及び演習	3	○	△
	不静定構造力学及び演習	3	○	△
	建築と構造	2	○	○
	鉄筋コンクリート構造	2	○	△
	鋼構造	2	○	△
	構造設計及び演習	3	□	△
生産	建築材料	2	○	○
	施工法Ⅰ	2	○	○
	施工法Ⅱ	2	○	△
	施工管理及び演習	3	□	△
環境	環境概論	2	○	○
	建築と環境	2	□	△
	都市と環境	2	□	△
	建築設備の基礎	2	○	○

	建築設備の計画	2	□	△
	設備設計及び演習	3	□	△
計画	環境とデザイン	2	□	□
	近現代建築論	2	□	□
	住まいの計画	2	□	□
	地域施設の計画	2	□	□
	建築計画	2	□	□
	空間造形	2	□	□
	都市計画	2	□	△
造形・表現	基礎造形	3	△	△
	造形演習	3	△	△
	デザイン企画論	2	△	△
	インテリアデザイン論	2	△	△
	インテリアデザイン演習	3	△	△
	画像設計演習	3	△	△
	視覚表現演習	3	△	△
	建築メディア論	2	△	△
	プレゼンテーション演習	3	△	△
	感性とデザイン	2	△	△
	リアルサイズデザイン	2	△	△
	色彩検定講座	2	△	△
	図とデザイン	2	△	△
設計	建築・デザイン演習Ⅰ	3	○	○
	建築・デザイン演習Ⅱ	3	○	○
	建築設計Ⅰ	3	○	○
	建築設計Ⅱ	3	○	△
	建築設計Ⅲ	3	○	△
	建築設計Ⅳ	3	□	△
	ＣＡＤトレーニング	2	△	△
共通	建築工学実験	2	○	△
	建築法規	2	○	○
	建築技術者倫理	2	△	△
	プロジェクト研究	3	○	○
	卒業研究	6	○	○

＜履修方法＞

建築工学コースにおいては、必修科目53単位、選択必修科目17単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

建築・デザインコースにおいては、必修科目33単位、選択必修科目４単位以上を含み、合計80単位以上修得すること。

情報学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択		
			情報エンジニアリング	メディア情報	データサイエンス
数学	数学	2	△	△	○
	数学演習	2	△	△	○

	情報数学	2	△	△	△
	情報数学演習	2	△	△	△
	応用数学	2	△	△	△
	応用情報数学	2	△	△	△
	多変量解析	2	△	△	△
基礎・理論	コンピュータ概論Ⅰ	2	○	○	○
	コンピュータ概論Ⅱ	2	○	○	○
	ネットワークと通信の理論	2	△	△	△
	情報と符号の理論	2	△	△	△
	計算の複雑さ	2	△	△	△
	暗号とセキュリティの理論	2	△	△	△
マネジメント・資格支援	情報システム概論	2	○	□	△
	プロジェクト管理	2	○	□	△
	プロフェッショナルデザイン	2	△	□	△
情報と社会	情報と職業	2	△	□	△
	情報社会と倫理	2	△	□	△
	情報と法	2	△	□	△
プログラミング	プログラミングⅠ	2	○	○	○
	プログラミングⅡ	2	○	△	△
	データ構造とアルゴリズム	2	○	△	△
	データ構造とアルゴリズム演習	2	○	△	△
	ソフトウェア工学	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング	2	○	△	△
	オブジェクト指向プログラミング演習	2	○	△	△
	アドバンスドプログラミング	4	△	△	△
	ソフトウェア分析・設計	2	□	△	△
	ソフトウェア開発・展開	2	□	△	△
	ソフトウェア開発演習	4	□	△	△
ネットワーク	コンピュータネットワーク	2	○	○	○
	インターネット工学	2	○	△	△
	インターネット工学演習	2	□	△	△
	ネットワークセキュリティ	2	□	△	△
	ネットワークセキュリティ演習	4	□	△	△
コンテンツ系	コンピュータ音楽	2	△	△	△
	マルチメディア	2	△	○	△
	Ｗｅｂコンテンツ企画設計	2	△	△	△
	Ｗｅｂコンテンツ制作	2	△	□	△
	画像処理	2	△	○	△
	映像表現	2	△	△	△
	ゲームとシナリオのデザイン	2	△	△	△
	コンピュータグラフィックス	2	△	□	△
	プロダクションワーク	2	△	○	△
統計ソフトウェア・可視化	統計ソフトウェアⅠ	2	○	○	○
	統計ソフトウェアⅡ	2	△	△	○
	深層学習	2	△	△	△
	データマイニングと可視化	2	△	△	△
情報の知的処	シミュレーション	2	△	△	△

理	知識工学	2	△	△	△
	知識工学演習	2	△	△	△
	データベース	2	○	△	○
	データベース演習	2	○	△	○
	データサイエンス	2	△	△	○
	データ分析演習	2	△	△	○
関連	情報学概論	2	○	○	○
	情報学序論	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅠ	2	○	○	○
	情報学プロジェクトⅡ	2	○	○	○
	卒業研究	6	○	○	○

＜履修方法＞

情報エンジニアリングコースにおいては、必修科目46単位以上、専門選択必修科目８単位以上、計80単位以上を修得すること。

メディア情報コースにおいては、必修科目28単位、専門選択必修科目８単位以上、計80単位以上を修得すること。

データサイエンスコースにおいては、必修科目38単位以上、計80単位以上を修得すること。

経営ビジネス学科

○：必修科目　□：選択必修科目　△：選択科目

分野	授業科目	単位数	必修・選択	
			経営マネジメント	グローバル経営
基礎	経営ビジネス学入門	2	○	○
	基礎経営学	2	○	○
	基礎経済学	2	○	○
	基礎流通論	2	○	○
	基礎簿記Ⅰ	2	○	○
	地域マネジメント基礎論	2	○	○
	ビジネス英語基礎	2	△	□
	基礎情報システム論	2	△	△
	基礎産業心理学	2	□	△
経営学・商学	経営管理論	2	□	□
	経営戦略論	2	□	□
	人的資源管理論	2	△	△
	企業論	2	△	△
	マーケティング論	2	○	○
	流通システム論	2	△	△
	データ分析	2	△	△
	統計学	2	△	△
	会社法	2	△	△
	組織論	2	△	△
	広告論	2	△	△
	消費者行動論	2	△	△
	マーケティングリサーチ	2	△	△
会計・財務	経営財務論	2	△	△
	基礎簿記Ⅱ	2	□	□
	会計学	2	□	△

	財務諸表論Ⅰ	2	□	△
	財務諸表論Ⅱ	2	△	△
	原価管理	2	△	△
	経営分析	2	△	△
	税務会計	2	△	△
	税法Ⅰ	2	△	△
	税法Ⅱ	2	△	△
	管理会計論	2	△	△
社会・工学	社会調査論	2	□	□
	システムの基礎	2	△	△
	産業心理学	2	△	△
	ＮＰＯマネジメント論	2	△	△
	地域ビジネス論	2	□	△
	地域経済分析	2	△	△
	スポーツマネジメント	2	△	△
	都市経営論	2	△	△
グローバル	グローバル経営論	2	□	□
	グローバル経済論	2	△	□
	サステイナビリティ論	2	△	△
	比較経営論	2	□	□
	アジア社会文化論	2	△	△
	グローバル・スタディ	2	△	△
	スポーツ社会学	2	△	△
	スポーツ文化論	2	△	△
	アジア企業論	2	△	△
コミュニケーション	外書講読	2	△	△
	ビジネス英語	2	□	□
	英語コミュニケーションⅠ	2	△	△
	英語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	中国語コミュニケーションⅠ	2	△	□
	中国語コミュニケーションⅡ	2	△	△
	韓国語会話	2	△	□
	韓国語コミュニケーションⅠ	2	△	△
	韓国語コミュニケーションⅡ	2	△	△
演習	フィールドワーク	4	△	△
	会計処理演習	2	△	△
	特別講義Ⅰ	2	△	△
	特別講義Ⅱ	2	△	△
	特別講義Ⅲ	2	△	△
	特別講義Ⅳ	2	△	△
ゼミナール	プレゼミナールⅠ	2	○	○
	プレゼミナールⅡ	2	○	○
	ゼミナールⅠ	2	○	○
	ゼミナールⅡ	2	○	○
	卒業研究	6	○	○

＜履修方法＞

経営マネジメントコースとグローバル経営コースは、コース必修科目28単位、および、選択必修科

目６単位以上を含み、合計80単位以上を修得しなければならない。

教員の免許状授与の所要資格を得させるための課程

教科に関する科目

学科 授業科目	履修を必要とする学科					
	単位数	生物環境化学科	電気電子工学科	建築・デザイン学科	情報学科	経営ビジネス学科
職業指導	4	○	○	○	○	
職業指導（商業）	2					○

別表(２)―１

法学部、経済学部、経営学部、理工学部、薬学部、文芸学部、総合社会学部、国際学部、情報学部、農学部（食品栄養学科を除く。）

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
	◇各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		国語科教育法Ⅰ		2
			国語科教育法Ⅱ		2
			国語科教育法ⅢＡ		2
			国語科教育法ⅢＢ		2
			社会科・地歴科教育法Ⅰ		2
			社会科・地歴科教育法Ⅱ		2
			社会科・地歴科教育法Ⅲ		2
			社会科・公民科教育法Ⅰ		2
			社会科・公民科教育法Ⅱ		2
			社会科・公民科教育法Ⅲ		2
			数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法ⅢＡ		2
			数学科教育法ⅢＢ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法ⅢＡ		2
			理科教育法ⅢＢ		2
			美術科教育法Ⅰ		2
			美術科教育法Ⅱ		2
			美術科・工芸科教育法Ⅰ		2
			美術科・工芸科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法Ⅰ		2
			技術科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法ⅢＡ		2
			技術科教育法ⅢＢ		2
			農業科教育法Ⅰ		2
			農業科教育法Ⅱ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2

			商業科教育法Ⅰ		2
			商業科教育法Ⅱ		2
			水産科教育法Ⅰ		2
			水産科教育法Ⅱ		2
			英語科教育法Ⅰ		2
			英語科教育法Ⅱ		2
			英語科教育法ⅢA		2
			英語科教育法ⅢB		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	（A） ◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育の思想と歴史A		2
			教育の思想と歴史B		2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
	（B） ◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学		2
			教育社会学		2
	（C） ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		学習心理学		2
			発達心理学		2
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育学	2	
	◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育の理論と方法	2	
	◇（中学）総合的な学習の時間の指導法 （高校）総合的な探究の時間の指導法 ◇特別活動の指導法		総合的な学習の時間・特別 活動論	2	
	◇教育の方法及び技術 ◇情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2	
	◇生徒指導の理論及び方法 ◇進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）		教育相談	2	

	の理論及び方法				
教育実践に関する科目	◇教育実習	中５ 高３	教育実習指導 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	1 2	 2
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	道徳教育の理論と方法	2
		人権と社会１	2
		人権と社会２	2

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	学科開講共通科目	
体育	2	生涯スポーツ１	1
		生涯スポーツ２	1
外国語コミュニケーション	2	学科開講外国語科目	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	学科開講専門科目	

＜履修方法＞

（1） 上記の（A）（B）（C）の各領域より各２単位以上を選択し、計６単位以上履修すること。

（2） 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は８単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は４単位以上を修得するものとする。

（3） 「道徳教育の理論と方法」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科目」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。

（4） 中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。

（5） 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

（6） 「大学が独自に設定する科目」の人権と社会１、人権と社会２については、総合社会学部のみ開設する。

農学部食品栄養学科

栄養に係る教育に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
栄養に係る教育に関する科目	◇栄養教諭の役割及び職務内容に関する事項 ◇幼児、児童及び生徒の栄養に係る課題に関する事項	4	学校栄養指導法Ⅰ	2	
	◇食に関する指導の方法に関する事項		学校栄養指導法Ⅱ	2	
	◇食生活に関する歴史的及び文化的事項		学校栄養指導法Ⅲ	2	

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的	（A）	8	教育の思想と歴史A		2

理解に関する科目	◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育の思想と歴史Ｂ		2
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職入門	2	
	（Ｂ） ◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学 教育社会学		2 2
	（Ｃ） ◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		学習心理学 発達心理学		2 2
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育学	2	
	◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
道徳､総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導､教育相談等に関する科目	◇道徳、総合的な学習の時間及び総合的な探究の時間並びに特別活動に関する内容	6	道徳教育の理論と方法	2	
			総合的な学習の時間・特別 活動論	2	
	◇教育の方法及び技術 ◇情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2	
	◇生徒指導の理論及び方法		生徒指導の理論及び方法	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	◇栄養教育実習	2	栄養教育実習指導 栄養教育実習	1 1	
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（栄養教諭）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目名	単位数
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法	2
体育	2	生涯スポーツ１	1
		生涯スポーツ２	1
外国語コミュニケーション	2	Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ１	1
		Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ２	1
数理､データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	学科開講専門科目	1

＜履修方法＞

（1） 上記の（Ａ）（Ｂ）（Ｃ）の各領域より各２単位以上を選択し、計６単位以上履修すること。

（2） 平成15年度入学生・平成16年度入学生は、栄養教諭一種免許取得のための科目を履修することができる。

生物理工学部

教科及び教科に指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	・教科に関する専門的事項	中28 高24	学部学科等が定める科目	20	
	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法特講Ⅰ		2
			数学科教育法特講Ⅱ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			理科教育法特講Ⅰ		2
			理科教育法特講Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教職論	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	1	
	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	・道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育論	2	
	・（中学）総合的な学習の時間の指導法 （高校）総合的な探究の時間の指導法 ・教育の方法及び技術		教育方法と総合的な学習の時間の指導法	2	
	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		情報通信技術の活用	1	
	・特別活動の指導法		特別活動論	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（進路指導を含む。）	2	
	・教育相談（カウンセリングに		教育相談	2	

	関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法				
教育実践に関する科目	教育実習	中５ 高３	教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ 教育実習特講	2 1	 2
教職実践演習		2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	人権と社会１ 人権と社会２ 道徳教育論	2 2 2

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等		授業科目	単位数	
科目	単位数		必修	選択
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法		2
体育	2	生涯スポーツ１		1
		生涯スポーツ２		1
外国語コミュニケーション	2	オーラル・スキル（英語）１		1
		オーラル・スキル（英語）２		1
情報機器の操作	2	情報処理基礎Ⅰ	1	
		情報処理基礎Ⅱ	1	

＜履修方法＞

（１） 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」の単位の修得方法は、各免許教科について、中学校一種免許状の取得を希望する場合は８単位以上を、高等学校一種免許状の取得を希望する場合は４単位以上を修得するものとする。

（２） 該当教科教育法については必修科目として修得すること。

（３） 「道徳教育論」は、中学校免許状取得については、「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設、高等学校免許状取得については「大学が独自に設定する科目」として開設する。

（４） 中学校一種免許状を取得する場合は、教育実習Ⅱは必修科目とする。

（５） 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて修得した「教科及び教科の指導法に関する科目」若しくは「教育の基礎的理解に関する科目等」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	◇教科に関する専門的事項		学部学科等が定める科目	20	
	◇各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		数学科教育法Ⅰ		2
			数学科教育法Ⅱ		2
			数学科教育法ⅢＡ		2
			数学科教育法ⅢＢ		2
			理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
		中28	理科教育法ⅢＡ		2
		高24	理科教育法ⅢＢ		2
			技術科教育法Ⅰ		2

			技術科教育法Ⅱ		2
			技術科教育法ⅢA		2
			技術科教育法ⅢB		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	◇教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育原理	2	
	◇教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2	
	◇教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	◇幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	◇特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	◇道徳の理論及び指導法	中10 高８	道徳教育論	2	
	◇（中学）総合的な学習の時間の指導法 （高校）総合的な探究の時間の指導法		総合的な学習の時間の指導法	2	
	◇教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。） ◇特別活動の指導法		特別活動論	2	
	◇教育の方法及び技術		教育方法学（情報通信技術の活用を含む）	2	
	◇情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育情報学	2	
	◇教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
	◇生徒指導の理論及び方法 ◇進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒指導論（進路指導含む）	2	
教育実践に関する科目	◇教育実習	中５ 高３	教育実習特講 教育実習Ⅰ 教育実習Ⅱ	2 2	 2
	◇教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2	

大学が独自に設定する科目

免許法施行規則に定める科目	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
大学が独自に設定する科目	中４ 高12	人権教育論		2
		道徳教育論		2
		教育情報学		2
		東広島学	2	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分	単位数	授業科目	単位数
日本国憲法	2	日本国憲法	2
体育	2	生涯スポーツⅠ	1
		生涯スポーツⅡ	1
		スポーツ概論	2
外国語コミュニケーション	2	英会話基礎Ⅰ	1
		英会話基礎Ⅱ	1
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	学科開講科目	計２

＜履修方法＞

（１） 「各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。

（２） 該当教科教育法については必修科目として修得すること。

（３） 「道徳教育論」及び「教育情報学」は、中学校免許状取得については「教育の基礎的理解に関する科目等」として開設し必修科目とする。高等学校免許状取得については、「大学が独自に設定する科目」として開設し選択科目とする。

（４） 中学校一種免許状を取得する場合は、「教育実習Ⅱ」は必修科目とする。

（５） 「教師論」「教育原理」「教育心理学」「教育行政学」「教育方法学（情報通信技術の活用を含む）」「特別活動論」「道徳教育論」「教育情報学」「人権教育論」「生徒指導論（進路指導含む）」「教育相談」「キャリアガイダンス」「特別支援教育」「総合的な学習の時間の指導法」は特修プログラムで修得すること。

（６） 「大学が独自に設定する科目」は、「大学が独自に設定する科目」の選択科目又は最低修得単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」又は「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」について、併せて中学校免許状を取得の場合は４単位以上、高等学校免許状を取得の場合は12単位以上修得すること。

産業理工学部

教科及び教科の指導法に関する科目

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	・教科に関する専門的事項	24	学部学科等が定める科目	36	
	・各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		理科教育法Ⅰ		2
			理科教育法Ⅱ		2
			工業科教育法Ⅰ		2
			工業科教育法Ⅱ		2
			商業科教育法Ⅰ		2
			商業科教育法Ⅱ		2
			情報科教育法Ⅰ		2
			情報科教育法Ⅱ		2

教育の基礎的理解に関する科目等

免許法施行規則に定める科目区分等			授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項	単位数		必修	選択
教育の基礎理論に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	10	教育学概論	2	
	・教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教職論	2	
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育行政学	2	
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別支援教育論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	・総合的な学習・探究の時間の指導法 ・特別活動の指導法		特別活動及び総合的な学習の時間の理論と方法	2	
	・教育の方法及び技術 ・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		教育方法論（情報通信技術の活用を含む）	2	
	・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		生徒・進路指導論	2	
	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談	2	
教育実践に関する科目	・教育実習	3	教育実習 教育実習指導	2 1	
	・教職実践演習	2	教職実践演習（高等学校）	2	

教育職員免許法施行規則第66条の６に定める科目

免許法施行規則に定める科目区分等	単位数	授業科目	単位数	
			必修	選択
日本国憲法	2	暮らしのなかの憲法	2	
体育	2	生涯スポーツ１	1	
		生涯スポーツ２	1	
外国語コミュニケーション	2	インタラクティブ英語Ⅰ	1	
		インタラクティブ英語Ⅱ	1	
数理、データ活用及び人口知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理Ⅰ	2	

＜履修方法＞

（１）　「教育課程及び指導法に関する科目（各教科の指導法）」は、取得免許状の種類に該当する授業科目ごとに選択すること。

別表(２)―２

免許状の種類及び免許教科

学部名	学科名	高等学校教諭一種免許状（免許教科）	中学校教諭一種免許状（免許教科）	その他の免許状
法学部	法律学科	公民・地理歴史 英語	社会・英語	
経済学部	経済学科	公民・地理歴史 英語・商業	社会・英語	
	総合経済政策学科 国際経済学科	公民 英語・商業	社会・英語	
経営学部	経営学科（昼間主・夜間主コース） 商学科 会計学科 キャリア・マネジメント学科	公民・商業	社会	
理工学部	理学科	数学・理科 情報	数学・理科	
	生命科学科 応用化学科	理科	理科	
	機械工学科	数学・理科・工業	数学・理科・技術	
	電気電子通信工学科	数学・理科・工業・情報	数学・理科・技術	
	社会環境工学科	工業	技術	
	エネルギー物質学科	理科	理科	
薬学部	医療薬学科 創薬科学科	理科	理科	
文芸学部	文学科（日本文学専攻）	国語	国語	
	〃　（英語英米文学専攻）	英語	英語	
	芸術学科（舞台芸術専攻）	国語	国語	
	〃　（造形芸術専攻）	美術・工芸	美術	
	文化・歴史学科	公民・地理歴史	社会	
総合社会学部	総合社会学科	公民・地理歴史	社会	
国際学部	国際学科	英語	英語	
情報学部	情報学科	情報	情報	
農学部	農業生産科学科 応用生命化学科 環境管理学科 生物機能科学科	理科・農業	理科	
	水産学科	理科・水産	理科	
	食品栄養学科	理科	理科	栄養
生物理工学部	生物工学科 食品安全工学科 遺伝子工学科	理科	理科	
	生命情報工学科	数学・情報	数学	

	人間環境デザイン工学科	数学	数学	
	医用工学科	理科		
工学部	化学生命工学科	理科・工業	理科・技術	
	機械工学科	工業	技術	
	情報学科	工業・情報	技術	
	建築学科	工業	技術	
	電子情報工学科	数学・工業・情報	数学・技術	
	ロボティクス学科	数学・工業	数学・技術	
産業理工学部	生物環境化学科	工業・理科	―――	
	電気電子工学科	工業・情報	―――	
	建築・デザイン学科	工業	―――	
	情報学科	工業・情報	―――	
	経営ビジネス学科	商業	―――	

別表(３)

司書課程科目及びその単位数

授業科目	単位数	
	必修	選択必修
図書館情報学概論	2	
生涯学習概論	2	
図書館制度・経営論	2	
図書館サービス概論	2	
児童サービス論	2	
情報サービス論	2	
情報サービス演習Ⅰ	2	
情報サービス演習Ⅱ	2	
情報資源概論	2	
情報資源組織論Ⅰ	2	
情報資源組織論Ⅱ	2	
情報資源組織演習Ⅰ	2	
情報資源組織演習Ⅱ	2	
図書館情報技術論	2	
ファイリング論		2
文書情報管理論		2
出版流通・書店論		2
知財情報サービス論		2
情報資源史		2
計	28	10

＜履修方法＞

１　司書の資格を得ようとする者は、卒業に必要な単位のほかに、次に定めるところにより、32単位以上を修得しなければならない。

２　必修科目14科目28単位および選択科目を２科目４単位以上修得しなければならない。

別表(４)

博物館学課程科目及びその単位数

（文芸学部）

授業科目	必修	選択	自由
生涯学習概論	2		

博物館概論	2			
博物館経営論	2			
博物館資料論	2			
博物館資料保存論	2			
博物館展示論	2			
博物館実習Ａ	1			
博物館実習Ｂ	2			
博物館情報・メディア論	2			
博物館教育論	2			
書誌学１		2		
書誌学２		2		
日本美術史Ａ		2		
日本美術史Ｂ		2		
西洋美術史Ａ		2		
西洋美術史Ｂ		2		
現代美術論Ａ		2		
現代美術論Ｂ		2		
アジア美術史		2		
日本彫刻史論		2		
工芸史Ａ		2		
工芸史Ｂ		2		
絵画論		2		
立体造形論		2		
陶芸論		2		
染織論		2		
日本史概説		2		
文化資源学概説		2		
歴史考古学Ａ		2		
歴史考古学Ｂ		2		
日本古代史Ａ		2		
日本古代史Ｂ		2		
日本中世史Ａ		2		
日本中世史Ｂ		2		
日本近世史Ａ		2		
日本近世史Ｂ		2		
日本近現代史Ａ		2		
日本近現代史Ｂ		2		
日本思想史Ａ		2		
日本思想史Ｂ		2		
日本民俗学		2		
環境民俗論		2		
日本考古学Ａ		2		
日本考古学Ｂ		2		
近畿歴史文化探索		2		
西洋芸術文化史Ａ		2		
西洋芸術文化史Ｂ		2		

日本芸術文化史Ａ		2	
日本芸術文化史Ｂ		2	
デザイン感覚基礎Ａ		2	
デザイン感覚基礎Ｂ		2	
デザイン史Ａ		2	
デザイン史Ｂ		2	
アートコミュニケーション論Ａ		2	
アートコミュニケーション論Ｂ		2	
プロデューサー論Ａ		2	
プロデューサー論Ｂ		2	
空間デザイン論		2	
視覚デザイン論		2	
視覚文化論		2	
近畿風土論		2	
文化政策論		2	
劇場文化論		2	

＜履修方法＞

必修科目10科目19単位と、選択必修科目57科目から４科目８単位以上を修得しなければならない。

（農学部）

学科・学部	授業科目	単位数		履修条件
		必修	選択	
学部共通	生涯学習概論	2		９科目 19単位必修
	博物館概論	2		
	博物館経営論	2		
	博物館資料論	2		
	博物館資料保存論	2		
	博物館展示論	2		
	博物館実習	3		
	博物館情報・メディア論	2		
	博物館教育論	2		
農業生産科学科	環境植物学		2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
	昆虫学		2	
	植物病理学		2	
	植物遺伝育種学		2	
	工芸作物学		2	
	園芸植物学		2	
	昆虫生態学		2	
	雑草管理学		2	
水産学科	魚類生態学		2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
	海水養殖学		2	
	水産海洋学		2	
	魚介藻類増殖学		2	
	水質学		2	
	生態系科学基礎		2	
	化学		2	

	水産学概論	2		
応用生命化学科	生物化学		2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
	分子生物学		2	
	微生物学		2	
	生物学		2	
	生物統計学		2	
	天然物化学		2	
	生命有機化学		2	
	森林資源科学		2	
環境管理学科	動物生態学		2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
	生物多様性の科学		2	
	河川生態学		2	
	水圏動物学		2	
	野生動物保護論		2	
	植物生態学		2	
	環境政策学		2	
	水辺域管理論		2	
生物機能科学科	生物学基礎		2	計８科目16単位より４科目８単位以上を修得
	化学基礎		2	
	発生生物学		2	
	分子生物学Ⅰ		2	
	微生物学		2	
	有機反応化学		2	
	生命情報学		2	
	環境生物学		2	

＜履修方法＞

必修科目９科目19単位と、各学科の選択科目８科目16単位から４科目８単位以上を修得しなければならない。

別表（５）

日本語教員養成課程

（文芸学部）

授業科目	必修	選択	自由
日本語音声学	2		
日本語教育文法	2		
日本語教授法１	2		
日本語教授法２	2		
日本語教授法３	2		
日本語教授法４	2		
日本語学概論		2	
日本語文法		2	
社会言語学１		2	
社会言語学２		2	
日本語特殊講義１		2	
日本語特殊講義２		2	
日本語史論１		2	

日本語史論２		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ Ａ		2	
Ｅｎｇｌｉｓｈ Ｌｉｎｇｕｉｓｔｉｃｓ Ｂ		2	
Ｇｌｏｂａｌ Ｉｓｓｕｅｓ ａｎｄ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		2	
Ｃｏｍｐａｒａｔｉｖｅ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ｂ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ ａｎｄ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ａ		2	
Ｃｕｌｔｕｒｅ ａｎｄ Ｌｉｔｅｒａｔｕｒｅ Ｂ		2	
日本史概説		2	
日本古代史Ａ		2	
日本古代史Ｂ		2	
現代学入門		2	
言語文化セミナー初級		2	
言語文化セミナーＡ		2	
言語文化セミナーＢ		2	
伝統芸能作品研究Ａ		2	
伝統芸能作品研究Ｂ		2	
多文化共生社会と言語		2	
グローバル共生論入門		2	
心理と行動		2	
地域と環境の地理学		2	
国際経済入門		2	
国際社会と日本		2	
国際化と異文化理解		2	
日本文学論		2	

＜履修方法＞

必修科目12単位と選択必修科目から14単位以上、合計26単位以上履修すること。

（国際学部）

授業科目	必修	選択	自由
日本近現代史		2	
日本語の技法		2	
異文化理解		2	
日本語教授法１	2		
日本語教授法２	2		
日本語教育実習	2		
日本語学	2		
現代の社会論		2	
人権と社会１		2	
人権と社会２		2	
住みよい社会と福祉		2	
心理と行動		2	
Ｃｏｍｍｕｎｉｃａｔｉｏｎ Ｓｔｕｄｉｅｓ （コミュニケーション学）		2	
Ｃｕｌｔｕｒａｌ Ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ ｉｎ Ｃｏｎｔｅｍｐｏｒａｒｙ Ｊａｐａｎ （現代日本の文化的多様性）		2	

Ｍｕｌｔｉｃｕｌｔｕｒａｌ Ｓｏｃｉｅｔｙ ａｎｄ Ｌａｎｇｕａｇｅ （多文化共生社会と言語）		2	
Ｌａｎｇｕａｇｅ Ｔｅａｃｈｉｎｇ Ｔｈｅｏｒｉｅｓ （言語教育理論）		2	
Ｓｔｒｕｃｔｕｒｅ ｏｆ ｔｈｅ Ｊａｐａｎｅｓｅ Ｌａｎｇｕａｇｅ （日本語の構造）		2	
Ｊａｐａｎ ａｓ ａｎ Ｅａｓｔ Ａｓｉａｎ Ｃｏｕｎｔｒｙ （東アジアの中の日本）		2	
中国現代文化１		2	
中国現代文化２		2	
日中比較文化１		2	
日中比較文化２		2	
日中翻訳１		2	
日中翻訳２		2	
日韓比較研究１		2	
日韓比較研究２		2	
異言語と文化１		2	
異言語と文化２		2	
日韓映像翻訳１		2	
日韓映像翻訳２		2	
日本語音声学			2
日本語史論			2

＜履修方法＞

必修科目を含み合計26単位以上修得すること。

別表（６）

外国人留学生の共通教養科目・外国語科目に関する特例

（グローバルエディケーションセンター）

授業科目	時期	単位	年次
《共通教養科目》			
日本概論１	前後	2	１～４
日本概論２	前後	2	１～４
日本概論３	前後	2	１～４
日本概論４	前後	2	１～４
《外国語科目》			
［日本語関連科目］			
日本語読解１	前後	1	１～４
日本語読解２	前後	1	１～４
日本語作文１	前後	1	１～４
日本語作文２	前後	1	１～４
日本語会話１	前後	1	１～４
日本語会話２	前後	1	１～４
日本語読解３	前後	1	１～４
日本語読解４	前後	1	１～４
日本語作文３	前後	1	１～４
日本語作文４	前後	1	１～４

日本語アカデミックリーディング１	前後	1	１～４
日本語アカデミックリーディング２	前後	1	１～４
日本語リサーチメソッド１	前後	1	１～４
日本語リサーチメソッド２	前後	1	１～４
日本語会話３	前後	1	１～４
日本語会話４	前後	1	１～４
日本語プレゼンテーション１	前後	1	１～４
日本語プレゼンテーション２	前後	1	１～４
能力試験対策１	前後	1	１～４
能力試験対策２	前後	1	１～４
［初修英語関連科目］			
初修英語基礎１	前	1	1
初修英語基礎２	後	1	1
初修英語コミュニケーション１	前	1	2
初修英語コミュニケーション２	後	1	2

＜履修方法＞

共通教養科目

卒業に必要な共通教養科目の単位数を、『日本概論１』、『日本概論２』、『日本概論３』及び『日本概論４』を含む共通教養科全体の中から修得する。

外国語科目

（1） 卒業に必要な外国語科目の単位数を、『日本語関連科目』及び『初修英語関連科目』を含む外国語科目全体の中から修得する。

（2） 『英語』が必修となっている学部に所属する外国人留学生は、『日本語関連科目』の履修した修得単位をもって『英語』の単位に代えることができる。

（3） 外国語科目の履修に関しては、母国において、それを公用語、母国語又はそれに準ずる日常語として使用している言語の履修は、認めない。

（4） 『初修英語関連科目』の履修は、英語をほとんど学んだことのない外国人留学生に限り履修を認める。

（5） 英語を母国語とする外国人留学生は、『初修英語関連科目』は履修できない。各学部開講の『第二外国語科目』又は『日本語アカデミックリーディング１・２、日本語リサーチメソッド１・２、日本語プレゼンテーション１・２』を履修すること。

別表(7) 学費表

（単位 円）

費目 学部	◎入学金	授業料	合計	入学検定料
法学部	250,000	１年次 1,105,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	１年次 1,355,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	35,000
経済学部	250,000	１年次 1,105,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	１年次 1,355,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	35,000
経営学部	250,000	１年次 1,105,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	１年次 1,355,000 ２年次 1,125,000 ３年次 1,145,000 ４年次 1,165,000	35,000
理工学部	250,000	１年次 1,462,000	１年次 1,712,000	35,000

		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
建築学部	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
薬学部 医療薬学科	250,000	1年次	2,052,000	1年次	2,302,000	35,000
		2年次	2,082,000	2年次	2,082,000	
		3年次	2,112,000	3年次	2,112,000	
		4年次	2,142,000	4年次	2,142,000	
		5年次	2,172,000	5年次	2,172,000	
		6年次	2,202,000	6年次	2,202,000	
薬学部 創薬科学科	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
文芸学部 文学科 文化･歴史学科 文化デザイン学科	250,000	1年次	1,105,000	1年次	1,355,000	35,000
		2年次	1,125,000	2年次	1,125,000	
		3年次	1,145,000	3年次	1,145,000	
		4年次	1,165,000	4年次	1,165,000	
文芸学部 芸術学科	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
総合社会学部	250,000	1年次	1,105,000	1年次	1,355,000	35,000
		2年次	1,125,000	2年次	1,125,000	
		3年次	1,145,000	3年次	1,145,000	
		4年次	1,165,000	4年次	1,165,000	
国際学部	250,000	1年次	1,300,000	1年次	1,550,000	35,000
		2年次	1,300,000	2年次	1,300,000	
		3年次	1,320,000	3年次	1,320,000	
		4年次	1,320,000	4年次	1,320,000	
情報学部	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
農学部	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
生物理工学部	250,000	1年次	1,462,000	1年次	1,712,000	35,000
		2年次	1,492,000	2年次	1,492,000	
		3年次	1,522,000	3年次	1,522,000	
		4年次	1,552,000	4年次	1,552,000	
工学部	250,000	1年次	1,398,000	1年次	1,648,000	35,000

		２年次 1,428,000 ３年次 1,458,000 ４年次 1,488,000	２年次 1,428,000 ３年次 1,458,000 ４年次 1,488,000	
産業理工学部 生物環境化学科 電気電子工学科 建築･デザイン学科 情報学科	250,000	１年次 1,264,000 ２年次 1,294,000 ３年次 1,324,000 ４年次 1,354,000	１年次 1,514,000 ２年次 1,294,000 ３年次 1,324,000 ４年次 1,354,000	32,000
産業理工学部 経営ビジネス学科	250,000	１年次 889,000 ２年次 919,000 ３年次 949,000 ４年次 979,000	１年次 1,139,000 ２年次 919,000 ３年次 949,000 ４年次 979,000	32,000

共通テスト利用方式入学検定料：20,000
共通テスト併用方式入学検定料：＋10,000
併願検定料（１志願）：＋10,000

費目 学部	◎入学金	授業料	合計	入学検定料
医学部	1,000,000	5,800,000	１年次 6,800,000 ２年次以降 5,800,000	60,000

共通テスト利用方式入学検定料：30,000

備考１　◎印は入学年度のみ納入するものを示す。
２　上記以外に、学生健保共済会費、学部学生部会費及び校友会終身会費が必要。（ただし、校友会終身会費は既に全額を納めた者は不要。）
３　共通テスト利用方式を除く入学検定料について、インターネット出願を利用した場合は１志願ごとに3,000円を減額する。
４　共通テスト利用方式の入学検定料について、インターネット出願で医学部を含まない場合は、２志願まで20,000円、５志願まで30,000円とし、６志願目からは１志願ごとに7,000円とする。
５　共通テスト利用方式の入学検定料について、インターネット出願で医学部を含む場合は、２志願まで30,000円とし、３志願目からは１志願ごとに7,000円とする。
６　留学期間中（１年次後期～２年次前期）の本学の学費等は免除とするが、留学費用に係る提携先大学等の授業料等については別途徴収する。

別記(１)

近畿大学教育方針

(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念として掲げてきました。この「建学の精神」と「教育理念」は、知識基盤社会へ転換しようとする21世紀の日本において、いっそう必要とされる理念であると自負します。

本学が、総合大学として各学部の特色を生かしながら、共に手を携えて目指そうとしているのは、「実学教育」と「人格の陶冶」の融合です。真の「実学」とは、必ずしも直接的な有用性を志向するだけではなく、その事柄の意味を学び取ることを含みます。現実に立脚しつつも、歴史的展望をもち、地に足をつけて、しなやかな批判精神やチャレンジ精神を発揮できる、創造性豊かな人格の陶冶を志向するものです。「自主独往の気概に満ち」、生涯にわたって自己の向上に励み、社会を支える高い志をもつことが「人に愛され、信頼され、尊敬される」ことにつながります。このような学生を社会に送り出すことが、これからの時代に、本学が目指す社会的使命であります。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」に基づいて、「深い教養と高い志をもち、社会を支える気概をもった学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」としています。厳格な成績評価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学位を授与します。卒業までに身に付けるべき資質を以下に示します。

1　大学での種々の学びを通じて、「人に愛され、信頼され、尊敬される」人格へと自らを成長させ続ける自己教育力を培っていること。

2　問いながら学ぶ「学問」習慣を身に付け、専門領域における知識・技能を修得し、それらに裏打ちされた探究心と社会貢献への使命感に目覚めていること。

3　専門領域における課題の意味を、広い歴史観や深い人間観の中で位置づけようとする教養を、身に付けていること。

4　異質な価値や文化を理解し、自国の伝統や文化の意味を再発見する国際感覚を、身に付けていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

本学は、「建学の精神」と「教育理念」を実現するために、「全学共通科目」と「専門教育科目」を２本柱として、各学部学科の特色を生かしたカリキュラムを提供します。また、ボランティア、インターンシップ、各種資格取得講座などのプログラムを展開し、全教職員が、学生の学問的、人間的成長とキャリア形成を支援します。さらに、生涯学習社会実現のために、学生と社会人と教員が共に学び合う機会を提供します。これらにより、学生はディプロマ・ポリシーにある資質および能力を以下のように身に付けます。

1　全学共通科目および学部基礎科目では、文系・理系の枠を超え、入学者の基礎学力の確認と向上を図るプログラムを提供し、各学部における専門分野の学問へ導くとともに、学問する習慣を身に付けます。

2　専門教育に携わっている教員が教養教育（全学共通科目）に参加して、実学（専門教育）と教養の連動ないし融合を視野に入れた授業を提供します。これにより、教養と専門教育の意味を幅広い視野から理解し、学ぶ意義と意欲を体得します。

3　「専門教育科目」においては、社会のニーズに対応できる教養に裏打ちされた専門性を高める工夫を進め、社会に貢献できる知識と技能、探求心を身に付けます。また、必要に応じて他学部との単位互換制度等を活用し、複眼的な専門性を育成します。

4　さまざまな国際分野で活躍できる人材を養成するため、グローバル教育の充実を図り、国際社会が共有する目標と文化的多様性の価値を理解し、国際感覚を身に付けます。さらに、海外の教育機関等との提携による国際スタンダード教育への参加を進めます。

5　産学連携を推進し、生きた実学教育の充実を図ります。社会人の学びの場（リカレント教育）を充実し、生涯学習社会の実現に貢献します。学生の資格取得のために、学部横断的な取り組みを展開します。ボランティア、インターンシップ、留学制度等を充実し、学生が地域社会、国際社会において意味のある学びを体験できるよう努めます。これにより、社会貢献の意義と使命感を体得し、常に自らを高める自己教育力を身に付けます。

6　これらの達成度および学修の成果は、別に定める「評価の方針」によって評価を行います。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

本学の「建学の精神」と「教育理念」に共感する入学者を国内外から広く受入れます。

1　本学が求める基礎学力と倫理観を備える人。

2　謙虚に学ぶ姿勢を有するとともに、自ら課題を発見し解決していく意欲にあふれる人。

3　「人に愛され、信頼され、尊敬される」前に、まず人を愛し、信頼し、尊敬することのできる人。

4　社会のニーズに対応できる実学や教養及び国際性を身につけたい人。

5　自分の得意分野を伸ばし、社会に貢献したいと考える人。

別記（２）

近畿大学　学部・学科の教育・研究の目的について

【近畿大学学園の「建学の精神」と「教育の目的」】

近畿大学学園の建学の精神は、「実学教育と人格の陶冶」です。この建学の精神を具体的に実践す

るために「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育理念に掲げています。
この建学精神と教育理念に基づいて、「広い教養に裏打ちされた人格とチャレンジ精神をもって未来を志向しつつ、実践的学問すなわち実学の発展に貢献することのできる人材を育成」して、社会に送り出すことに全力で取り組んでいます。
本学の各学部・大学院及び各学校は、それぞれの人材育成目標に沿って、特色あるカリキュラムを用意し、充実した教授陣が、質の高い教育を提供しています。
学生の皆さんには、上記の建学精神と教育理念を理解していただき、本学園で、本当に優れた友人・先輩・教員や夢中になれる学問に出会い、美しいものに打たれ、豊かな教養と専門的知識を身につけ、各人固有の才能を見出し、自分に最もふさわしい将来設計をされることを願っています。
【法学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
法学部は、本学の建学の精神や教育目標を念頭に、法的思考力いわゆるリーガル・マインドの育成と涵養をその理念・目的としています。さらに、激動する社会の中で広い視野と豊かな（法的）思考により、積極的かつ柔軟に行動する能力を修得させることと、そのような能力を備えた21世紀を担う人材を育成することを教育目標としています。また、社会のニーズに添った人材を輩出することこそが実学教育の理念に基づく教育の到達目標であると考えており、そのため社会の変化に添った形で法学部の改革を続けております。
平成20年度からの改革として、法科大学院設置以後の法学部のあり方を検証し、新しいカリキュラムを導入します。その特徴は、従来どおりスペシャリストを育成する一方で、どんなことにも対応できる豊かで柔軟な教養をもったジェネラリストを育成することをベースにしたカリキュラムを組んでいることです。具体的には、就職・進路を意識した履修モデルをパッケージ化して設定し、出口を意識した教育を行います。その他、英語教育を充実させ、グローバリゼーションに対応できる人材の育成にも力を注いでいるところです。
【法律学科の学習・教育目標】
法律学科の学習・教育目標は、上記のとおり法学部の理念に沿って、法学の基礎知識や思考方法を十分に習得した法学士を養成することです。従来の法学部教育は、法曹養成を目標とする一方で、法的素養をもったジェネラリストの養成をも目標とするものでしたが、この二つの目標を同時に追求したために、大多数の学生にとっては高度で専門的すぎる内容となっていました。しかし、法科大学院の設置に伴い法学部教育が法曹養成の役割から解放された今日においては、学部卒業後に法科大学院へ進学し法曹を目指す学生のニーズにも応えながら、各学生の多様な関心と興味に即応して、社会の広い分野で活用できる法学の基礎知識や思考方法を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。
【法律学科カリキュラム編成上の特色】
法律学科では、上記の学習・教育目標に到達するために、従来の法学部にはない、ユニークなカリキュラム編成を平成20年度から導入しています。
第１に、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、これまでの教育内容を一新し、従来は同一科目の中で行われていた教育内容を基礎と応用に分離しています。その上で、基礎的な内容は「基幹科目」として１年次から２年次に配置し、学生全員が法学の基礎知識や思考方法を理解して社会へ出られることを目指します。
第２に、法学の基礎知識や思考方法を１年次から十分に習得しながら、２年次から、４つの専攻プログラムのいずれかを選択して、これらの中でパッケージ化された「展開科目」を履修することで、学部卒業後の進路を考え、そこへ誘われることを目指しています。法律学科では、「犯罪・非行と法」（公務員、検察事務官、裁判所事務官、警察官を目指す学生向け）、「経済生活と法」（商社、メーカー、銀行、司法書士、企業法務を目指す学生向け）、「会計・税務と法」（金融、税理士、公認会計士、企業の会計業務を目指す学生向け）「まちづくりと法」（地方自治体、建設・不動産関連企業を目指す学生向け）という４つの専攻プログラムと「司法コース」（法曹を目指す学生向け）、「行政コース」（公務員行政職を目指す学生向け）、「国際コース」（国際社会での活動を目指す学生向け）の３つのコースを設けることにより、低学年から将来の進路を考える機会が与えられ、専攻プログラム中の「展開科目」の履修を通じて、学生が自らの目指す進路へ誘います。
第３に、法学の基礎を習得した学生で、さらに深い法学の学習、研究を希望する学生のために、法学の主要科目（憲法、民法、刑法、民事訴訟法、刑事訴訟法、商法、行政法）については、「発展科

目」を配置しています。
　第４に、少人数教育が挙げられます。１年次前期に基礎ゼミ、１年次後期にキャリアデザイン１、２年次前後期に一般演習、３年次から４年次にかけて専門演習を配置し、４年間を通して、演習授業を通して、各学生が教員と身近に接することのできる環境で、自ら学ぶ意欲を喚起し、自ら学ぶための知識と知恵とを習得することができる体制を整えています。
【その他の特色】
　専攻プログラムに関連する展開科目はいずれも講義科目ですが、これらをより深く研究したい、あるいは様々な紛争や社会問題などへの応用を考え解決を図りたいという学生のために、知的財産法や英米法、国際私法、法制史など幅広い分野にわたって、専門演習を置いて、学生が主体的で自律的に学ぶ場を用意しています。
【経済学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
　経済学はその生誕以来、理論分析を軸としながら、政策課題やグローバル化の要請に応える社会科学の中心的学問として発展してきました。本学部は経済学科、総合経済政策学科、国際経済学科の３学科体制をとり、時代の要請に対応しています。経済学科では複雑多岐な経済問題の解明とその対応策の専門的な研究を理論・実証の両面から探求し、さらに多面的な政策課題や国際化の問題に特化して対応するために総合経済政策学科と国際経済学科が設けられています。これらの３学科のいずれにも一貫して流れる教育目標は、高い専門性と時代の要請に応える問題発見とその解決能力の修得にあります。
　そのために本学部では特に１～２年次で英語をはじめとする外国語教育とＩＴ教育が徹底的になされ、社会が必要とする実践的な技術を高めます。その上に経済学の専門性と総合性を両立させるように志向された特色のあるカリキュラムが実施され、将来を見据えた生きた経済学を学べます。
　本学部の専門科目は、高度な研究水準にある教員スタッフを迎え、各学年に魅力的に配置されています。とくに１～２年で統計学Ⅰ・Ⅱ、ミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、計量経済学Ⅰ・Ⅱなどが学部共通科目の専門基礎科目として開講さ　　れ、経済学的な分析手法に慣れ、２～４年次で学生各自が分野を選択し、その分野に属する科目を中心に経済学をより系統的・専門的に学んでいきます。入学して４年後には情報処理の技術（ＩＴ）に精通し、英語も話せ、かつ経済学の専門知識と分析能力に長じた学士（経済学・経済政策学・国際経済学）が誕生します。この学士こそ本学の建学の精神である「実学教育と人格の陶冶」の具体的な姿であり、必ず実社会で役に立つ人材になるはずです。
【経済学科の学習・教育目標】
　激しく推移する昨今の経済状況に対して、本学科に用意された標準的経済学の諸科目を学ぶことで現状を正確に把握して、広い視野で将来を明確に見通せる分析能力を養い、公共部門やビジネスの第一線で活躍できる経済人を育成します。
　経済学部のどの学科でも共通しますが、経済学をより系統的・専門的に学ぶために分野制がとられています。本学科では経済学の理解を深めるために、まず学部共通科目を１年次で履修して、２年次後期からは自分の目指す進路に合わせて「経済学コース」か「経済心理学コース」のいずれかのコースを選択し、段階的に専門性を高められるように配慮されています。「経済学コース」では、各学生の学術的関心に応じて「理論・計量分野」、「財政・金融分野」、「産業・情報分野」、「歴史・社会分野」のいずれかを選択します。また「経済心理学コース」では、行動経済学をはじめ体系的に経済心理学を学ぶことができます。
【経済学科のカリキュラム編成上の特色】
　本学科経済学コースの学生はミクロ経済学Ⅱ、マクロ経済学Ⅱ、経済史Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅰ、財政学Ⅰ・Ⅱ、金融論Ⅰ・Ⅱなどの学科共通科目の修得と並行して、選択した分野に従って科目を履修します。現実の経済動向を理論と計量の両面から分析する「理論・計量分野」は（削除）経済数学Ⅰ・Ⅱ、経済政策論Ⅱなどの科目でカリキュラムが編成されています。財政制度や金融制度の仕組みと資本主義経済の関わりに取り組む「財政・金融分野」では、公共経済学、貨幣論、財政政策論Ⅰ・Ⅱ、金融政策論などの科目が学べます。日本の産業が抱える諸問題に接近し、その解決策を考え、また情報社会の動向や問題点に注視する「産業・情報分野」では現代産業論、情報システム論Ⅰ・Ⅱ、労働経済学Ⅰ・Ⅱ、産業組織論Ⅰ・Ⅱなどの科目が選択できます。経済社会の歴史的展開を学び、それをもとにして現代社会がもつ諸問題を追求する「歴史・社会分野」では日本経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済史Ⅰ・Ⅱ、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、西洋経済思想史Ⅰ・Ⅱ、日本経済思想史などの科目が提供されていま

す。他方、選択した分野以外の他分野の科目も卒業に必要な単位のなかに組み込まれていますから、より総合的に経済学を把握できるようなカリキュラム編成になっています。
本学科経済心理学コースの学生は、コース固有科目である社会心理学などを通じて心理学への知見を踏まえながら、経済心理学を体系的に学ぶために行動経済学Ⅰ・Ⅱ、実験経済学Ⅰ・Ⅱなどの科目が配置されています。
【その他の特色】
本学科の教育方針は標準的経済学の学習を通じて、複雑に多岐に展開される経済社会の実態に容易に対応できる能力を育成することが常に心掛けられています。また経済心理学コースでは、標準的経済学を踏まえながら、心理学的分析に基づくより多様な経済行動を分析します。
【総合経済政策学科の学習・教育目標】
総合経済政策学科では、「公共政策分野」と「企業戦略分野」に分かれ、現代社会が抱える環境、福祉、過疎・過密などの公共的な経済問題や、資金調達、生産、投資などの民間企業の意思決定の問題を、現実に対応して鋭く分析し、社会や組織に役立つ政策提言を行う能力を養います。こうした公共部門や民間部門が抱く課題を見出し、具体的に解決策を考える場合には、経済学の理論的枠組みや実証分析などの研究蓄積をしなければなりません。１～２年次で基礎的な経済学の科目を修得したあとに、総合経済政策にまつわる幅広い応用問題を考えるために、多様な専門分野の講義が現実に即して展開されます。このような学問的興味を満たす専門科目の受講をとおして現実の公共的政策や民間部門の施策に提言するだけではなく、それらの有効性を評価しその問題点をあぶり出し、必要な対応策を新たに思考する訓練を行うのも本学科の大きな教育目標です。特に、種々の現場を体験する本学科固有のフィールドワークの科目は教室で習得した総合経済政策の知識をもとに、現実的な問題を分析し、その評価や対応策を思索するとても良い機会となっています。
【総合経済政策学科のカリキュラム編成上の特色】
２年次から経済制度に関する予備知識を得るために、財政学Ⅰ、金融論Ⅰ、公共経済学、産業組織論Ⅰ、社会保障論Ⅰ、簿記論Ⅲ・Ⅳなどの総合経済政策の基礎になる分野を学科共通科目として学習します。本学科では２分野制をとり、公共政策について関心のある学生は、福祉政策論、地方財政学Ⅰ・Ⅱ、地域経済学Ⅰ・Ⅱなどの政策に関連した科目を学ぶことが可能です。他方、企業やＮＰＯの意思決定に興味を示す学生は、デリバティブ論、中小企業論Ⅰ・Ⅱ、ＩＴ関連科目などを学ぶことができます。さらに経済学の範囲を超えて、法律や会計関連の科目も用意されています。
【その他の特色】
本学科の学習・教育目標を達成するために、多くの科目で経済学部の他学科に比較して、より少人数で講義が行われていることが大きな特色です。少人数の講義は教員と学生の距離が自然と近くなり、両者間のコミュニケーションが円滑になりますので、良好な教育環境が作り出されます。
【国際経済学科の学習・教育目標】
国際経済学科は経済のグローバル化が著しく進んでいくなか、国際経済や海外事情に精通し、国際的に活躍できる人材の育成を目指しています。本学科では「国際産業・金融分野」と「国際地域経済」の２分野制をとり、前者はヒト、モノ、カネが国境を越えて移動、又は取引されている現実について理論と実践の面から学び、後者は日本とのかかわりの深い地域の経済実態や日系企業の進出状況、地域統合の状況などを学習します。１～２年次にしっかりと修得した英語及び情報処理能力を十分に生かして、国際経済、貿易、国際投資、国際金融の理論や制度、データに関する知識を身につけます。また、日本語以外の言語によるコミュニケーション能力は国際化の時代に不可欠であり、語学能力の高い、アジアや欧米の地域事情にも通じた意欲的な人材の輩出を目標にしています。
【国際経済学科のカリキュラム編成上の特色】
１年次でミクロ経済学Ⅰ、マクロ経済学Ⅰ、基礎国際経済学を学習し、それらを基礎にして２～４年次ではより高度の理論系あるいは政策系科目や応用系経済学を学びます。学科共通科目として、２年次に国際経済学Ⅰ、貿易論、開発経済学Ⅰなどが提供され、履修すべき科目は多様でより専門的になります。分野科目として「国際産業・金融分野」では国際投資論Ⅰ・Ⅱ、国際金融論Ⅱ、多国籍企業論Ⅱ、開発経済学Ⅱなどの科目が、「国際地域経済分野」では地域統合論、国際協力論、アジア経済史Ⅰ・Ⅱ、ヨーロッパ経済論Ⅱなどの科目が提供されます。分野科目では、２つの分野にまたがって開講されている科目も多くあり、弾力的に受講できます。さらに、英語や中国語の科目を専門科目として提供し、学生各自の水準に合わせて外国語が習得できるようになっています。

【その他の特色】
職業体験を含むホームステイでの海外留学プログラムを実施しています。選抜された学生が留学中に現地の大学で語学研修および現地企業でのインターンシップに参加します。
【経営学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
経営学部は、企業や非営利組織体の運営と相互交渉が行われるビジネスの場における「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」を総合的に扱う複合学部として、所属する学科・コースを超えて関心を寄せる授業科目を履修することを認めるとともに、他方、授業科目を基礎科目、情報科目、基幹科目、関連科目に細分することで、専門知識の習得に必要な科目を段階的かつ発展的に履修するという教育体制を採っています。また、教授内容に関しては、単なる座学に止まず、「学問・実際一如」という実学教育の理念を実践するために、企業等の現場で実績を挙げた方々を専任教員や非常勤講師等として招き、実践的な視座からの講義を行っています。また、企業人による「ビジネス最前線」と題する講演会を随時開催し、さらに、企業活動を自ら体験するためのインターンシップ制度を設けて、理論と実践の融合を図っています。さらに、ビジネス・エシックスに関連する授業科目を設置して、高い倫理観をもった人材の育成に努め、また、昼夜開講制を採ることで、月～金曜日の１時限から７時限までの授業を自由に履修できるようにして、多くの学習機会を提供するように配慮しています。
【経営学科の学習・教育目標】
経営学科では、企業や非営利組織体の組織運営に関わる学科として、企業や非営利組織体の組織運営に関連して生じる種々の課題を合理的に解決して、望ましい成果を効率的に得るための実践的知識を有し、他方で、それらの知識が依拠する理論的基盤に存する原理・原則を体系的に整序して、理解することを目指す「学問・実際一如」を体現した人材の育成を目標としています。
【経営学科のカリキュラム編成上の特色】
本学科に「企業経営コース」、「ＩＴビジネスコース」、「スポーツマネジメントコース」の３コースを設置し、各コースに共通する授業科目を基礎科目、情報科目、関連科目に区分し、段階的かつ総合的な履修を図ると共に、それぞれのコース毎に各コースの特色に応じた授業科目を基幹科目として配置しています。
【その他の特色】
企業経営コースでは、経営戦略の立案や経営管理に係る知識を現実的なものとするために事例研究の手法を取り入れ、ＩＴビジネスコースでは、経営学部棟内に設置されている経営情報処理ステーション（ＭＩＰＳ）の最新の機器・ソフトを利用してバーチャル企業を設立して、これを経営する手法をマスターするなどの情報処理の高度なスキルを修得し、スポーツマネジメントコースでは、スポーツビジネスのリーダーやアマチュアスポーツの指導者を育成する指導が行われています。
【商学科の学習・教育目標】
商学科では、企業や非営利組織体の相互間の、また、消費者との間の俗に「モノ」、「カネ」、「情報」と言われる財・サービスの空間的、時間的移転に関する理論と実践を学びます。
【商学科のカリキュラム編成上の特色】
商学科では、(1)マーケティング戦略コース　(2)観光・サービスコース　(3)貿易・ファイナンスコースの３つのコースを設けています。１―２学年においては、３つのコースに共通し学習することが望ましい知識と、それぞれのコースの全体像が把握でき、かつ基礎理論を学べるプログラムを基幹科目として設定しています。３学年から、３つのコースに分かれてより専門的な学習プログラムを提供します。
(1)　マーケティング戦略コースは､マーケティング戦略の理論と理論を使える能力を身に付けます。そのために、マーケティング発想によるプラニング能力、マネジメント能力を育成します。
(2)　観光･サービスコースは､観光分野､サービス分野の理論と実践で使える能力を身に付けます。そのため、ビジネス状況を理解しつつ、戦略的かつ実践的なプラニング能力、マネジメント能力を育成します。
(3)　貿易・ファイナンスコースは、貿易とファイナンスの基礎知識、専門知識、及び実務で使える能力を身に付けます｡貿易及びファイナンスに必要となる実践的なマネジメント能力を育成します。
【その他の特色】
国際感覚を備えた人材の育成を目標として、インテンシブ・インターナショナル・プログラムを積極的に活用しています。この副専攻プログラムによって、ビジネスの現場で役立つ英語能力と国際感

覚を習得できる機会を提供しています。
【会計学科の学習・教育目標】
会計学科では、企業の財政状態、経営成績、キャッシュフローの状況を示す財務諸表を作成し、その内容を分析して、より良い経営の方向性を見出す企業会計の理論と技法を学習し、公認会計士、税理士などの職業会計人や、社内における会計参与や会計エキスパート等として、あるいは会計・財務に関するコンサルタントとして活躍できる人材の育成を目指しています。
【会計学科のカリキュラム編成上の特色】
上記のような人材を育成するために、本学科では、簿記、財務会計、管理会計、監査に関する基礎知識を徹底的に教育する体制を採っています。さらに、こうした専門知識の修得のみならず、会計職業倫理に関する科目を設けて、高い倫理観を兼ね備えた会計人を育成するようにカリキュラムを編成しています。
【その他の特色】
学習の便宜を図るために、会計学科学生のための学習相談室を設け、教員による指導を絶えず受けられるようにしています。
【キャリア・マネジメント学科の学習・教育目標】
キャリア・マネジメント学科では、企業組織におけるキャリアと、組織で働く個人のキャリアの２つの視点から考察し、適切なキャリアパスを見出すことで、個人の能力を最大に引き出し、経営力を高めるための理論と実践を学びます。
【キャリア・マネジメント学科のカリキュラム編成上の特色】
インターンシップ制度を積極的に推進し、「仕事とは何か」、「ビジネスとは何か」を現場で直接に学ぶことで、実務経験を積む機会を多く提供しています。
【理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
理工学部では、「学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標にしています。
様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に創成科目として「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけてもらいます。
今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、理工学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進しています。
理工学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。
１　教員は学生と真剣に向き合い、学生参加型授業を推進し、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業の実践に努力する。
２　卒業時における学生の質を保証し、就職などの出口での成果の向上を一層図ると共に教員による出口支援を強化する。
３　国際的資格であるＪＡＢＥＥ認定を受けている工学系の６学科ではＪＡＢＥＥプログラムを積極的、かつ継続的に遂行し、世界に通用する人材を育成する。
４　理工学部の教員養成カリキュラムを一層強化し、毎年50名以上の教員採用試験合格者を目指す。
５　理工学部内に競争的環境を創出し、「知の創造」と「役に立つ」といういずれかの尺度で見て、国内外に大きなインパクトを与える研究成果を発信する。
６　以上の到達目標の実現に努力し、社会で大いに活躍できる有能な人材を育成し、理工学部のブランド力の一層の向上を図る。
【理学科の学習・教育目標】
理学とは？
数学、物理、化学は、数とは何か？宇宙とは何か？物質とは何か？を追求することから出発して人間と自然との関わりを保ちながら、原子、分子のミクロな世界から宇宙のようなマクロな世界までを支配する自然法則を見出そうとしている基礎学問であります。現在においてもこの探求は休むことな

く続けられています。数学、物理、化学は独立した学問ではなく、互いに密接な関係を保っています。そして、電気、機械、土木などの工学を育んできただけでなく、現在では生命科学、環境科学などの最先端技術にも広く応用されています。現在のめまぐるしく移り変わる社会環境では、技術、知識を習得することも大事ですが、絶え間なく発展する先端技術、方法を受け入れる柔軟な頭脳を養うことと、より発展させる発想力と創造力を身につけることがより重要です。このような柔軟な頭脳、創造力を育てるためには数学、物理、化学で養われてきた物の見方、考え方を学ぶことが大変役に立ちます。

【理学科の教育理念と目標】

理学教育の総合的、有機的な連携を図るため、理学科は数学、物理学、化学の３コースから構成されています。理学科では学問を単なる知識として教えるのではなく、自然科学に対するより深い興味、喜びを引き出し、学生が自主的に学ぶ習慣を養います。学生が試行錯誤しながら自律的に考えることによって、発想力や創造力を豊かにし、その結果、社会に貢献できる、広い視野を持つ、応用力が効く、柔軟な頭脳をもつ学生を養成します。

理学科カリキュラム編成上の特色

理学科では、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他の分野での物の見方を学ばせるため、３コースが有機的に連携しながら教育を進めています。さらに、理学科では教員志望の学生が多く、数学と理科の２種類の教員免許の取得を希望する学生も多数おります。

このため、理学科のカリキュラム編成として、

１　他コースの科目を習得した場合、卒業単位の選択科目として30単位まで認定する。

２　「教職指定科目」を最大で20単位まで専門科目の選択科目として認定する。

【その他の特色】

１　技術者、研究者を育てる大学院との連携した教育

科学技術の高度化が進む中で、より高いレベルの技術者や研究者が望まれています。また、高校教員にもより質の高い理科教育が望まれています。現在理学科では約３分の１弱の学部生が大学院へ進学し、卒業研究では大学院生と学部生が連携して研究を行っています。また大学院生はＴＡとして学部の授業にも携わっています。

２　理数考房

理数教員志望学生の資質を向上させるため、理学科には数学・算数考房、理科考房、物理実験考房、化学実験考房、パソコン考房の五つのサークルが設置されています。各考房では学生が授業方法や実験方法などについて自主的に考え、工夫し、実践します。この一環として、年に数回の出前授業を行っています。

３　教員試験受験対策講座

教員採用試験の受験を支援するため、理学科教員が中心となって受験対策講座を開設しています。講座の目的としては数学、理科、技術教員を目指す学生に受験勉強のきっかけを作ることにあります。１次、２次試験対策講座だけでなく、特に理科教員を目指す学生に対して、中高生への実験指導教育を行っています。

４　保護者懇談会

保護者の方々に理学科の教育理念を理解していただくとともに、学生への細やかな指導を行うために保護者の方々と教員とのコミュニケーション活動を毎年行っています。

【数学コースの学習・教育目標】

「数学に夢を持ち、自らの力を信じて挑戦する人間の育成」

この教育目標の実現に向けて、数学コースでは学生に達成感を持たせることを第一に考えた教育課程を組み立てています。個々人の達成感を原動力に、より高度な数学的思考方法、知識、論理的思考力を身につけてもらい、プレゼンテーション技術の向上と訓練とを合わせて、学生一人一人が人生を自ら切り開くことのできる能力を、数学を基盤として獲得できる教育が目標です。論理的思考力はコンピューターのオペレーティングシステム（ＯＳ）にたとえられます。どんな優れた計算機とソフトウェアがあっても、優れたＯＳがなければ実用には適さず、優れたＯＳである論理的思考力の鍛錬に重点を置いた教育こそが数学コースの教育目標の根幹をなすものです。

【数学コースカリキュラム編成上の特色】

１　「数学講究（１）～（８）」において、現代数学の基礎をなす微分積分学・線形代数学・集合論・群

論などの基本を復習し、講義では扱いきれなかった内容も補足できるよう多角的に学びます。
２　１年次の数学講究と３年次の数学講究をリンクさせて、複数の教員の指導により、３年生が１年生の演習を補佐することにより、教育実習を想定した教育実践の場と加えて数学の内容の理解を深める講義を同時に修得する機会としています。
３　４年次の科目として、現代数学の講義を８科目開講しています。ここでは、幾何、代数、解析、応用数学の世界最先端の数学の研究についてのトピックを、その道の専門家である教員によってより専門的な講義を行っています。

【その他の特色】

毎年開催される近畿大学数学コンテストにより、学内・学外の数学好きの老若男女と数学を通して広く交流する場、数学を楽しむ場を提供しています。

【物理学コースの学習・教育目標】

「物理学全般を教育することによって、科学的な物の見方、考え方を育てる。」

物理は数学と同じく、順序立てて考える技術（論理的思考）を養う学問です。したがって、物理現象あるいは自然現象を理解するには数学の知識が不可欠であるため、物理学コースでは物理数学教育の充実を図っています。低学年の物理実験教育では、実験内容をより深く理解させるため、講義と密接に連携した物理学実験を行います。これによって、自分なりの自然現象、科学についての考え方を持たせ、“自分自身の物理的センスあるいは自然観”を身に付けさせます。卒業研究ゼミナール、卒業研究では具体的な研究を通して各学生の物理的自然観を集大成させます。

【物理学コースのカリキュラム編成上の特色】

１　力学、電磁気、熱統計力学、量子力学は物理学の基幹科目であるため、講義だけでなく、解法（演習）を設けています。
２　低学年から、最先端の物理の魅力に触れさせるため、複数の教員が担当する「物理学最前線」の講義を１年次で開講しています。それぞれの教員が各自の研究分野の魅力や最新の動向などについて、１年生にも分かりやすく講義します。
３　一方、４年生の科目として、現代物理学の講義を５科目開講しています。ここでは、物性から宇宙までの最先端の物理学について、より具体的な講義を行っています。

【その他の特色】

物理学コースで実施している特色ある教育プログラム

１　「基礎物理学実験Ⅰ及びⅡ」

教育効果が上がるように、数名の教員が小人数の学生グループに対して丁寧に実験技術と物理学の内容を指導しています。学生が自ら物理現象に興味をもち、実際の装置・器具でどのようにすれば実験がうまくでき、どのような問題点があるか、装置・方法に改善すべき点や改良の可能性があるかなどを考えさせるような実験テーマ、指導を行っています。実験（測定）器具の扱い方やレポートの書き方等、実験を通じて理解させるのではなく、それらを一つ一つのテーマにしてしっかりと教育しています。実験も自分達で測定器具を製作して行うことにしています。

２　充実したセミナー形式における双方向教育

低学年では総合セミナーとして少人数教育を行い、発想力、創造力を養います。中高学年ではより専門性の高い、あるいは先端の研究を題材にした物理講究を通して少人数教育を行います。

３　物理学習支援室

高校で物理を履修してこなかった学生、入試科目で物理を選択しなかった学生、また大学での物理の講義が分らない学生など、高校で物理学を苦手科目と意識してしまった学生にとっては、授業だけでこの苦手意識を払拭させることは困難になっています。このような現状を少しでも改善するため、理工学部学生の基礎学力の向上を目指すだけでなく科学への興味を抱かせるため、物理学コースでは、物理学習支援室を開設しています。

【理学科化学コースの学習・教育目標】

化学コースでは、物質世界を解明する中心的なサイエンスとして「化学」を位置付け、自然の真理に化学の視点から迫るべく、生命化学、環境科学、新物質の創製などの新しい領域へのアプローチを展開しています。化学の基礎知識やその基本原理を学ぶことでサイエンスの論理性に感動し、自然との調和を目指した技術者、理科系教員、研究者の養成が目的です。また、生命、環境に対する問題意識を持ち、国内外で活躍できる化学の知識及び倫理観を持った人材の育成を目指しています。

【理学科化学コースのカリキュラム編成上の特色】
化学コースでは、できるだけ早く化学に親しんでもらうため１年次から多くの専門科目を学び、理論を通して理学的な考え方を身に付けるとともに、実験を通して物質の合成、反応、分析、構造決定や物性測定などを修得します。したがって基礎学力を養う科目だけでなく演習科目も重視したカリキュラムとなっており、応用にも十分な力を発揮できるようバランスのとれた人材の育成に配慮しています。１年次開講の「基礎ゼミ１、２」は少人数で行なう対話型授業であり、討議能力やプレゼンテーション能力ばかりでなく、相互評価により聞く力も養えます。
また、数学、物理、化学という専門教育だけでなく、自然科学の幅広い知識や他分野の物の見方を学ばせるため、数学コース及び物理コースと有機的に連携しながら教育を進めています。
【生命科学科の学習・教育目標】
2003年、ヒトゲノムの解読が終了し、遺伝子診断・遺伝子治療・ゲノム創薬などが身近になりつつあります。「環境保全を考慮しながら人類の福祉に貢献できる生命科学やゲノム科学の探求に取り組む学科」として、近畿大学理工学部では2002年に生命科学科を誕生させました。生命科学に関する幅広い基礎知識と実践力を身に付け、医療・薬品・食品・化学などの産業で活躍する人材の育成を目指しております。そのため、バイオサイエンス科目を中心に医学・薬学関連科目を充実させています。発生・老化・病気の謎を解き明かすための基盤となる研究を推進し、再生医療や遺伝子診断などの人類のために役立つ最新知識を習得し、それらの分野を総合的に捉えることのできるポテンシャルの高い人材を育成します。深刻化する食糧・エネルギー・環境問題の解決に向け、実験・実習を通してバイオテクノロジーの応用が実感できます。また、総合大学の利点を活かして医学部・薬学部とも連携を取りながら、研究と教育を行っています。
本学には生命科学の教育・研究を目的とする生物理工学部及び農学部が存在しますが、本部キャンパスにある生命科学科の特徴は、「人」を中心に置き、人に役立つ科学・人バイオテクノロジーの研究と教育を目指していることです。
【生命科学科のカリキュラム編成上の特色】
生命科学は広い領域の叡智を結集し、人の幸福のために健全に発展する必要があります。一方で生命科学科が求められる方向性は多岐にわたります。そのニーズに応えるため、生命科学科ではゲノムの環境から生命倫理まで幅広く総合的に学ぶことができます。基礎と応用を有機的に結合したカリキュラムが作成されております。具体的には、講義科目と実験・実習科目を連携させ、基礎的な化学実験、物理学実験と専門分野の環境科学実験、分子生物学実験、細胞生物学実験を第１～３学年に設置しています。卒業研究は学科の総力を挙げ、教員と学生が一体となって取り組んでおり、科学的分析や考察を実践的に修得することができます。具体的には遺伝子系、機能分子系、細胞組織系、環境倫理系の４つのフィールドに分かれ、専門性を活かした高度な研究を進めています。
さらに、各種の資格取得に対応するため、高等学校教諭一種免許（理科）、中学校教諭一種免許（理科）、バイオ技術者、環境計量士、放射線取扱主任者、Ｘ線作業主任者、危険物取扱者、食品衛生管理者、食品衛生管理者などの資格認定あるいは受験資格を得ることを可能としております。
【その他の特色】
生命科学科の高度先端技術、および高度教育システムは、時代の先端を担うＪＳＴ（科学技術振興機構）の大型プロジェクトに採択されました。
・超高速バイオナノスコープの開発：プロジェクトリーダーである近畿大学理工学部社会環境学科の江藤剛治教授と共同し、世界最高速ビデヲカメラ（１秒間に100万枚の撮影速度）をさらに高速化・高感度化することで、これまで未知であった生体の超高速現象の解明を行っています。
【応用化学科の学習・教育目標】
応用化学科では、下記(１)～(８)の８項目の学習・教育目標を設定しています。
１　よく聞く者であれ、そして学び続ける者であれ。
科学技術が地球環境の保護を前提とした人類全体の幸福をもたらす手段の一つであることを理解し、それに携わる技術者として社会に対し貢献する意欲と実行力を備えている。また、価値観の異なる他者の考えを理解できるだけの広い視野と柔軟な思考力を持つよう努力しながら、自らの問題解決能力を高めるための学習を、自主的かつ計画的に継続することができる。【柔軟性、自主性、継続性】
２　倫理は、技術者の免許証。

科学技術、なかでも、化学工業が社会を便利で豊かなものにしてきたという事実とそれが社会及び自然環境の犠牲をともなってきたという事実を理解し、将来的に科学技術が社会に対して与えうる危険性を排除しつつ最大の利益を生むためのあり方について、考え続けることができる。【技術者倫理、社会性、自己啓発】

3　基礎学力なくして、進歩なし。
数学、物理学、化学、化学工学系科目の基礎知識を身につけ、専門基礎科目の理解、実験及び演習課題の解決に対して統合的に活用することができる。【基礎学力、論理性】

4　基礎から応用、理論から実践へ、そして習得へ。
専門基礎科目及び実験実習科目を通じて基礎的な専門知識及び基本的な実験技術を身につけており、これらの知識や技術を活かして、複雑な問題を解決する能力と実行力を備えている。【応用能力、実験技術】

5　デザイン能力は、エキスパートへの第一歩。
物質の開発及び応用を扱う合成化学及び材料化学の分野における専門的知識を身につけている。他者との多くのディスカッションを通して、課題をさまざまな角度から眺め全体像を理解した上で、解決のための計画を構想できる。専門知識を駆使してその計画を遂行し、課題を解決できる。【専門的課題の解決能力、計画遂行能力、デザイン能力】

6　斬新な技術は、共同プロジェクトから。
複数の分野が関連する境界領域における技術開発の重要性が高まっている現状を理解し、分野の異なる複数の技術者との共同作業を必要とする問題に直面した際に、問題提起からプロジェクトの企画・立案、遂行に至る一連のプロセスを実行できる能力と、全ての段階において、他のメンバーと協調しながらプロジェクトを遂行する能力を身につける。【協調性、デザイン能力】

7　国際性とコミュニケーション能力は、技術者のたしなみ。
計画立案、実験、データのまとめ、得られた結果についてのグループディスカッション、成果の発表といった様々な場面において、問題並びに要点を明確に文章化し、ディスカッションし、プレゼンテーションすることができる。さらに、科学技術英語の読解、表現法について、その基礎力を身につけており、諸外国の技術者との交流を行うことができる。【基本的文章力、ディスカッション能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、英語基礎能力】

8　情報処理能力は、技術者のかなめ。
文献情報データベースをはじめとする化学技術情報の収集、データ解析及びレポート作成ならびにプレゼンテーション資料作成等に、コンピューター利用技術及び情報処理技術を活用することができる。【情報リテラシー能力、情報処理能力】

【応用化学科のカリキュラム編成上の特色】

1　学生の自立・自発的学習を誘導する教育
　学科教員と大学院生のティーチングシスタントによるきめ細かいサポート体制のもと、数人からなる学生グループでプロジェクトを組み、グループ内で自由に実験をデザインして課題解決を行うＰｒｏｊｅｃｔ－Ｂａｓｅｄ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ（ＰＢＬ）を実施しています。
　「基礎ゼミ１・２」（課題設定・問題解決科目）、「応用化学実験Ⅴ、Ⅵ」（専門科目）、「卒業研究」（専門科目）など

2　技術者倫理教育の重視
　現在、社会で最も重視されている技術者の倫理の問題に正面から向き合い、１年次から科学技術をめぐる諸問題への理解を深め、倫理観を身につけることができるよう科目を設けています。
　「化学技術者倫理」（専門科目）、「技術と倫理」（人間性・社会性科目）

3　広い視野と柔軟な思考力を身につける
　技術士、弁理士、企業関係者や他大学教員などによる集中講義形式で「応用化学セミナー」（専門科目）を開講しています。

4　ディスカッション・コミュニケーション能力を身につける
　１年次から、「基礎ゼミ」や「応用化学実験Ⅰ～Ⅵ」においてプレゼンテーションを継続的に行い、今日、社会的に最も重視されているコミュニケーション能力が身につくようなカリキュラムになっています。

5　情報処理科目の強化

「情報処理基礎」（専門基礎科目）、「化学情報処理基礎」（専門科目）の学部共通の情報処理基礎科目に加えて、化学構造やモデリング、専門的な内容を教材にしたデータ処理やグラフ化など、化学分野のより実践的な情報処理教育も実施しています。

６　最先端の実験研究に没頭できる充実した卒業研究

応用化学科の４年次は、ほぼ「卒業研究」に専念します。物理化学・無機化学・有機化学といった既存の学問領域を超えて、より広い学問領域の立場から、多角的に化学現象の解明、新物質の創出に取り組みます。

【その他の特色】

・応用化学科の教育プログラムは、日本技術者認定機構（ＪＡＢＥＥ）から５年間（平成16年度～平成20年度）の認定を受けました。現在では、応用化学科に入学した学生全員がこのＪＡＢＥＥ認定プログラム「応用化学科」を履修しています。さらに、社会や学生の要望を反映させながら、教員一丸となって継続的な教育改善に取り組んでいます。

・応用化学科では、特に学生実験を重視しています。学生実験専用に導入されている最新の機器分析装置およびマルチメディアシステムを活用しながら、実践的な技術者の育成に注力しています。

・即戦力の技術者・研究者を育成することを目的として、共同利用センターに配備された最新の各種大型機器分析装置を駆使しながら、各研究室でナノマテリアルを中心とした最先端の研究が活発に行われており、その結果、私立大学としては高い大学院進学率を誇っています。

【機械工学科の学習・教育目標】

機械技術は、カメラ、ＯＡ機器、ロボット、自動車、医療機器、さらに航空機や宇宙ロケット等に活用されており、その普及はいっそう加速化しています。こうした技術の中核にある学問が「モノづくり」の原点である機械工学です。

機械工学科ではモノづくりの基本となる設計製図能力を重視し、手書き図面から３次元―ＣＡＤ図面に至る一貫した作図能力の修得を目標にするとともに、実験や実習による体験を重視したカリキュラムを編成しています。さらに時代の要求に応えて、人間との接点を持ち社会的ニーズに対応するロボットや自動車に関係する科目も配置した総合的な能力を身につける教育を展開しています。これらの能力に立脚した専門技術の展開能力、問題解決能力を身につけ、機械と人間社会との共生、適合、調和の考えられる国際性豊かな自立的機械技術者の育成を目的にしています。

ＪＡＢＥＥに対応した機械工学コースと知能機械システムコースの２コース制としています。

【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

特色ある科目名とその内容

１　科目名：機械加工実習１、２

内容：モノ作りの楽しさ、面白さあるいは作り方を体験させることによって、機械工学への興味を持たせるようにします。全員が形の違う簡単な機械製品（豆ジャッキ、ゼネバカムホイール）を、図面の作成から製品の完成までの全工程をすべて自分の手で行い、完成したときの喜びと感激を体験します。また本実習では工作機械基礎実習とＮＣ旋盤実習とをリンクさせて行っています。

２　科目名：熱力学演習実験、流れ学演習実験、機械力学演習実験、材料力学演習実験、制御工学演習実験

内容：講義により知識を習得させた後、演習を行うことにより知識を身についたものとし、実験で体験させることによって理解度と興味が一層深まることをめざし、より学習効果を上げるように工夫を凝らした科目です。

３　科目名：図学および機械製図、機械製図基礎演習、機械製図演習、設計製図の基礎、設計製図、応用機械製図

内容：モノづくりに必要な図面の書き方の基礎から具体的な機械部品のスケッチ、手書き組立図の作成と作図ツールである２次元・３次元ＣＡＤを用いた機械部品図面の作成を行います。これらの基礎知識に基づき設計製図法を学習し、設計計算からＣＡＤによる設計図面の作成を通して、機械技術者として必要な製図能力を習得します。このため１年生より３年生まで系統的な製図関係の科目を配置しています。

【その他の特色】

・創成科目の特色あるものの紹介（卒研ゼミ）：第６セメスターに開講されている卒研ゼミは、研究活動に必要な情報収集やプレゼンテーション能力の向上、実験装置の使用・製作などを行い卒業研究

への導入教育になるとともに、就職活動をサポートする役目も果たし、教員と学生の相互コミュニケーションの活性化にも役立っています。
・導入教育の特色あるものの紹介（基礎ゼミ1,2）：受身の学習ではなく積極的に学習する習慣およびその楽しさを知るとともに、グループで活動し、チームを組んで与えられたテーマに取り組み、問題を解決していく能力とともにプレゼンテーション能力を養います。
【電気電子通信工学科の学習・教育目標】
現代社会では、多面的な角度から総合的に物事を判断できる幅広い知識を備えた技術者が求められています。電気電子通信工学科では総合エレクトロニクスと電子情報通信という２領域を統合し、エレクトロニクスを軸に、高度情報化社会、環境共生社会のあらゆる分野で活躍できる教養豊かなエキスパートを養成するために以下のような学習・教育目標を設定しています。
１　数学、自然科学、コンピュータなどの基本的な知識をベースに、電気電子通信工学の基礎的知識を有する。
２　エレクトロニクス、電気エネルギー発生・伝送システム、情報・通信、制御、コンピュータハードウエア・ソフトウエアなどのいずれかの分野の専門的知識を有する。
３　幅広い工学的知識に基づき、課題を分析し、解決のための適切な計画を立案・実行できる能力を有する。
４　得られた結果･情報を文書･報告書としてまとめる能力及び口頭で正しく伝達する能力を有する。
５　技術者としての社会的責任、科学技術の社会との関わりを自覚する能力を有する。
６　自ら新しい知識や情報を得て、自主的・継続的に学習する能力を有する。
【電気電子通信工学科のカリキュラム編成上の特色】
電気電子通信工学科では、上記の学習・教育目標を達成するために、総合エレクトロニクスコースと電子情報通信コースの２つのコースを設定しています。２年次進級時に希望によりいずれかのコースに配属を行いますが、１・２年次は全コース共通のカリキュラムであり、３学年よりコース独自のカリキュラムが始まります。また、各学年に実験および実習科目を配置し、自主的に様々な問題に取り組む能力の育成を図っています。
総合エレクトロニクスコースでは、電気電子工学の基礎科目および強電系の科目が総合的に重点配置されています。講義と演習を一体化し、それらの内容に関連した実験・実習を通して、電気電子現象を確実に把握できるようにしています。電力工学、パワーエレクトロニクス、電気電子材料、光・レーザー工学、センサ工学、メカトロニクスなど、エレクトロニクス技術を支える工学分野全般の基礎力と想像力を兼ね備えた国際的に通用する技術者の養成を目指しています。
電子情報通信コースでは情報の処理、伝達、利用の技術を系統的に学べるカリキュラムを整えています。情報理論をはじめ情報・通信機器、通信システム、制御システム、アナログ・デジタル回路の開発設計、組込み技術や機械学習システム、さらに量子コンピューティングなど今日の高度情報化社会に不可欠なハードウエアに基礎を置いたシステム構築ができるエキスパートの養成を目指しています。
【その他の特色】
実験・実習
１年次の「ものづくり実習」では、各種道具、機械の仕組みとその正しい使用法を習得させ、各々にオペアンプと抵抗を用いた増幅器の製作を行わせ「ものづくり」の楽しさを経験させています。また、３年次の「エンジニアリングデザイン実験」では、通常の実験とは異なり、19の実験テーマから２テーマを選び、それぞれ６週間に亘って実験を行います。実験手順を示すテキストはなく、受講生自らがグループ作業を通して技術上の様々な問題点を抽出し、その解決法を立案し、実験を遂行します。
資格
本学科で開講されている科目の中から所定の科目を修得することにより第１級陸上特殊無線技師、第３級海上特殊無線技師の２つの資格が得られる他、教職指定科目を履修することにより、高等学校教諭第一種免許（工業、情報、数学、理科）及び中学校教諭第一種免許（数学、理科、技術）が取得できます。
【社会環境工学科の学習・教育目標】
社会環境工学科では、社会に貢献する技術者としての基本的な人格形成として「愛と自律ある人材

育成」、技術者としての知識・技術の習得と活用に関して「専門知識を通じて社会に貢献できる人材育成」、技術者としての社会的責任の自覚として「環境と社会に関心を持ち、問題解決に寄与できる人材育成」を柱とした教育目的を掲げています。

教育目的を達成していくために、４つの教育目標を設定しています。

１　社会に貢献できる技術者として必要な基本的な思想や能力を身につける

（１）　人類と地球に貢献し、社会に奉仕する思想を身につける。

（２）　倫理を重んじ、情熱と勇気のある自立した技術者として必要な資質を身につける。（技術者倫理）

（３）　変化に対応して継続的・自律的に学習できる。（生涯学習能力）

（４）　社会・経済・福祉・人間に常に関心を持ち、自らのあり方を考えるとともに、社会への貢献を行える力を養う。

２　社会的なニーズに応えるため時代や社会に即した幅広い知識や技術を習得する

（５）　建設技術者として直接必要な専門的知識を身につける。（専門性）

（６）　人類の幸福・福祉・環境共生など、これからの社会形成に必要とされる応用的分野に習熟する。

（７）　身近な環境・資源から地球環境・資源まで常に関心を持ち、自らが行えることを実行できる力を養う。

３　複雑に絡み合った社会の課題に対して、総合的、創造的に対応するための能力を養う

（８）　実際の計画や設計について、専門性と独創性をもってハード・ソフト両面で具体的な形を作り上げる力を養う。（デザイン能力）

（９）　人間や社会の課題に関し、地域・まちづくりの立場から課題を発見し、問題を分析し、それを総合的に解決する力を養う。（「まちづくり」）

４　協働で社会問題に対処するためのコミュニケーション能力をつける

(10)　国内外で幅広くコミュニケーションが行える。

(11)　情報機器、インターネットなど新しいメディアを使いこなす力をつける。

【社会環境工学科のカリキュラム編成上の特色】

人々が生活しているまちにある環境から社会福祉まであらゆる分野を対象とし、近未来の快適なまちを創造するための幅広い知識とそれを多角的に活用する力を養うことを目的としています。道路や橋、河川、上下水道など、さまざまな社会基盤の構築やまちづくりにおいて、自然環境や社会環境への配慮は切り離すことができません。幅広い視野と高度な技術力を養い、構造物・生態系・水環境・都市計画・コミュニティーづくりについて学ぶためのカリキュラムを構築しています。

【エネルギー物質学科の学習・教育目標】

エネルギー関連技術は、①持続可能社会の実現のための次世代インフラエネルギー技術、②Ｑｕａｌｉｔｙ　ｏｆ　Ｌｉｆｅ　（ＱＯＬ）　向上をささえる医療センサ・デバイス等へのエネルギー供給技術（ライフデバイスエネルギー技術）、さらには③エネルギー技術の革新を可能にするマテリアル創製に至るまで、極めて多岐に渡ります。いずれの技術も、数学・物理学・化学ならびに生命科学、さらに各種工学を適切に組み合わせることではじめて実現可能なものばかりです。エネルギー物質学科では、種々の講義と実験科目を通じて①～③の３領域すべての基礎知識・実験技術を身に付け、そのうえで各自の専門性を高めることができる教育を実施します。これによって、複雑な課題に対応可能な総合力と、モノづくり実践力を身に付けた、将来のエネルギー関連技術の発展に貢献するグローバルな理工系人材の養成を目指します。この目標を達成するため、エネルギー物質学科では、以下の学習・教育到達目標を設定しています。

１　関心・意欲・態度

（１）　社会とエネルギー関連技術の関わりに高い関心をもちながら、自主的な学習を継続できること。

（２）　理工系人材として必要な倫理観を備え、それに基づいて行動できること。

２　思考・判断

（１）　専門分野の異なる研究者・技術者や、文化的背景の異なる人々の考え方を寛容し、新たな技術開発や行動規範に柔軟に取り入れる思考能力をもつこと。

（２）　与えられた課題を解決するにあたり、メンバーと協力しながら計画を立案できること。

３　技能・表現
（１）　シミュレーションやインフォマティックスを活用する能力を身に付けていること。
（２）　物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けていること。
（３）　課題解決までの一連のプロセスを、文章および口頭で論理的に説明し、他者と建設的に議論できること。
（４）　データ解析、報告書、プレゼンテーション資料作成のための情報処理技術を身に付けていること。
（５）　上記（１）～（４）に英語を活用し、グローバル人材として諸外国の研究者・技術者と交流を行える基礎的な科学技術英語力を身につけていること。
４　知識・理解
（１）　数学・物理学・化学の基礎を修得し、それらを専門科目における基礎理論を理解するために利用できること。
（２）　「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域全てにおいて基礎的な知識を身に付けており、さまざまな現象を「エネルギー変換」に結びつけて説明できること。
（３）　上記３領域のうち、１つの領域に関して、より高度な専門知識を身に付けていること。
（４）　専門知識と実験技術を適切に活用しながら、複雑な課題を解決する能力を備えていること。

【エネルギー物質学科のカリキュラム編成上の特徴】

エネルギー物質学科では、上記の学習・教育到達目標の達成のため、以下のような特徴をもつカリキュラムを編成しています。

１　１年次の専門科目「エネルギー物質概論」「エネルギー物質物理学概論」「エネルギー物質化学概論」を必修とし、多岐にわたるエネルギー関連技術を学び、社会とエネルギー技術への関心を高めます。これによって、エネルギー関連技術を自主的かつ継続的に学び、新たな技術に対応できる能力を身に付けます。また、１年次から３年次にわたって少人数・対話形式の科目である「基礎ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」を必修とし、理工系人材としての倫理観や、自ら学び続ける力を身に付けます。

２　「基礎ゼミ１・２」「エネルギー物質ゼミ１～４」での少人数グループ活動を通じて、他者の意見を取り入れる柔軟性と協調性を身に付けます。さらに、ゼミと実験科目が連動したＰＢＬ活動を実施し、メンバーと協力しながら課題解決のための計画を立案する能力を身に付けます。

３　１～３年次にわたって、エネルギー関連技術を支える物理学・化学・生物学に関する実験科目を必修科目として履修し、物質合成やデバイス構築のための基礎的な実験技術を身に付けます。これらの実験科目では、データ解析・報告書・プレゼン資料作成に利用できる情報処理技術を修得するとともに、プレゼンテーションやディスカッションを通じたコミュニケーション能力を身に付けます。また、これらの活動には英語の活用も取り入れ、実践的な英語力を習得します。さらに、２・３年次には、実験科目と連動した「基礎化学情報処理」「数理情報処理」「インフォマティックス実習」を必修科目とし、課題解決に利用できる最新の情報処理技術を身に付けます。

４　１年次・２年次に「化学数学演習」「物理数学演習」「数理解析演習」を必修科目として履修し、物理や化学を学習する上で必要な数学の活用能力を身に付けます。専門科目は内容に応じて「次世代インフラエネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域に分類されており、２年次までは３領域全ての基礎理論を学ぶことで様々な現象を「エネルギー変換」に結びつけて理解・説明できる能力を養い、３年次からは１つの領域の科目を重点的に学ぶことで専門性を高めます。４年次の卒業研究では、高度な専門知識と実験技術を適切に活用し、複雑な課題を自主的・継続的に解決する実践力を身に付けます。

【その他の特色】

近畿大学は教育用原子炉施設を有する唯一の私立大学であり、本学科では原子炉施設を活用した教育も実施致します。同時に低炭素社会のための再生可能エネルギーについても学び、将来の社会基盤となるエネルギーについて俯瞰できる能力を養います。一方で、生命現象におけるエネルギー変換についても学び、新技術の創出につながる教育・研究も行います。

１年次と２年次には、多岐にわたるエネルギー関連技術を、物理学・化学・生物学の基礎と結びつけながら幅広く学びます。その過程で得意分野を見出し、各自の将来設計に応じて「次世代インフラ

エネルギー」「ライフデバイスエネルギー」「マテリアル創製」の３領域から１つを重点的に学び、専門性を高めることができます。

さらに、ＩｏＴの発達を伴う超スマート社会の到来を見越して、シミュレーションやインフォマティックスの活用といった情報リテラシー教育および研究への活用も重視しています。

【建築学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

建築学部では、「つくり・守り・育てる建築学の修得と共に、学ぶ意欲と学ぶ習慣を身につけ、自律的に考え、判断し、課題解決のために行動・チャレンジできる教養豊かで創造性に富む人材を育成する」ことを教育理念・目標とします。

様々な角度から物事をみることができる能力や自主的に考え、的確に判断する能力、豊かな人間性を有する人材を育てるという教育の理念・目標の実現のため、一年次に「基礎ゼミ」を設け、これには学科の全教員が教育に当たり、自ら学ぶ動機付けを与えると共に、自律的に考え、課題を探求し、解決するための基礎となる素養を身につけさせます。また、建築専門技術の修得については、１年次、２年次は設計教育を中心に建築学全般に対する基礎学力を身につけさせます。

今、大学教育では教室における授業だけではなく、授業の前提として読んでおくべき文献の提示や宿題を課すなど学生諸君が事前に行う準備学習・復習についても指示を与えるとともに、学生と教員との対話型授業（学生参加型授業）が求められています。そこで、建築学部では、教員からの一方通行の講義ではなくて、学生に問題を与え、学生が自ら調べ、考えたことを報告させ、「知識の修得」と「社会人基礎力の養成」が一体となった授業を推進します。

建築学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

・建築学部の教育理念

技術者教育と建築家教育を総合した独自の体系をもつ我が国のホリスティックな（包括的にバランスのとれた）建築教育の良さを生かした専門教育を目指します。

・学習・教育目標

１　人類の英知である人文科学・社会科学についての一般的知識と素養を養う。
２　将来の技術者として必要とされる語学能力、コミュニケーション能力を養う。
３　数学・自然科学の基礎的専門知識・能力、及び情報などの先端的領域の基礎知識を養う。
４　技術が自然及び人間社会に対して果たすべき役割を学ぶことを通して技術者倫理を身に付ける。
５　自発的・主体的に学び、自ら考える習慣・力を身につける。
６　建築と人間、社会の関係について理解し、それを方向づけるための企画・設計・計画についての基礎知識を修得する。
７　歴史・社会・経済、住生活との関係で建築・都市を多面的にとらえ、総合化する基礎的能力を養う。
８　建築構造を実現するために必要な方法・技術に関する知識、及び建築構造を理解するために必要な力学的知識を修得する。
９　建築材料の種類・特性及び建築生産の方法・プロセスに関する基礎的知識を修得する。
10　快適・健康・安全を持続させる建築環境を工学的に認識・評価する技術を修得する。
11　社会資産として建築を作り、維持管理するために必要な知識を修得する。
12　建築各専門分野の基礎知識の上にたち、より複雑な機能・現象や境界領域について、専門的知識、能力を養う。
13　幅広い知識を総合して具体的提案に結びつけるデザイン能力とそれを的確に表現するプレゼンテーション能力を身につける。
14　計画的に演習・調査・実験を行い、そのデータを整理・集計・分析する能力を養う。
15　設計演習などで、明らかにすべき課題に対して創造的に考え、問題解決に導く能力を養う。
16　ゼミナール演習、卒業研究を通して、社会から要請される専門分野に到達する能力を養う。

【建築学科のカリキュラム編成上の特色】

デザイン重視の欧米の建築家教育に対し、技術者教育と建築家教育を統合した独自の体系を持つ日本の建築教育は、国際的にも高く評価されています。建築学とは人間のための快適な空間と環境を創造する学問であり、時代によって求められる建築も変わります。それゆえ、常に自己変革できる能力を備えた人材が求められます。本学科では、近畿大学理工学部建築学科のこれまでの歴史の中で培われてきた包括的な建築教育を建築工学専攻の中で継承しながらも、建築家養成コースである建築デザ

イン専攻、「住まい」の建築学を総合的に学ぶことのできる住宅建築専攻、新しい時代に対応した守り育てる建築を専門的に学ぶ企画マネジメント専攻を新しく設置します。
建築工学専攻では、建築学科の長い歴史の中で培ってきた多くの卒業生のネットワークを活かしながら総合建設業を中心に建設業界で活躍できる人材を育成します。
建築デザイン専攻は、大学院との連携を重視しながら、建築家との交流の機会を活発に設け先鋭化した建築家教育を実施します。
住宅建築専攻は、これまで多くの卒業生を輩出してきた住宅産業で活躍できる人材を引き続き育てながらも、インテリアや外構計画を含めた、「住まい」に関わる建築学を総合的に学ぶことができます。
企画マネジメント専攻では、建設業の枠を超えて住宅・建築・都市に関わる様々な業態に対応できる能力を身につけ､建設関連業界に対する社会の新しい要請に応えることのできる人材を育成します。
理工学部建築学科から建築学部に生まれ変わることによって、工学だけではなく、また文系・理系の枠を超え、社会や時代が真に求める建築を学ぶ機会を提供することをお約束します。少人数教育の重視、フィールド調査や内外セミナーへの参加など、学外や社会との関係・連携を重んじ、バランス良く、総合的な力を備えた専門家を育成します。
【その他の特色】
建築学科では、４専攻とも、一級建築士をはじめ、二級建築士、木造建築士、建築施工管理技士などの技術的な資格に加え、宅地建物取引主任者や不動産鑑定士といった建物全般に関わる資格の取得を考慮した教育を実施します。できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。
【薬学部の教育研究の理念と目的・育成する人物像】
薬学部は、近畿大学建学の精神、すなわち「実学教育と人格の陶冶」に則り、『21世紀の生命科学、基礎薬学、創薬科学、医療薬学、衛生薬学などの基盤に立脚し、医療に貢献できる薬剤師を養成するとともに、これらの薬学分野での研究に貢献し、活躍できる人材の育成を行うことにより、人類の福祉と健康に奉仕すること』を理念としています。
これを実現するために、薬に関する幅広い専門知識や最先端のテクノロジーに精通したグローバルに活躍できる人材を育成します。
【医療薬学科の学習・教育目標】
医療薬学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「薬に関する高度な知識と臨床技能を備え、優れたコミュニケーション能力ならびに問題解決能力を備えた薬剤師として活躍できる人材を養成する」ことを目標としています。
【創薬科学科の学習・教育目標】
創薬科学科では、近畿大学の建学の精神である未来志向の「実学教育と人格の陶冶」に則り、「医薬品の創製・発見や開発・適用などの分野で社会と人類の福祉と健康に貢献できる創造性にあふれた有能な薬学研究者、薬学技術者を社会に輩出する」ことを目標としています。
【薬学部のカリキュラム上の特色】
薬学部では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を有する薬剤師、リサーチマインドを有し、医薬品の開発などに貢献できる人材を養成するために、医療薬学科では最先端の薬物治療や臨床薬学等に関する科目を、創薬科学科ではレギュラトリーサイエンスやゲノム科学等に関する特色ある科目を設置しています。
＜共通教養科目＞
医療人に求められる高い倫理観と使命感を醸成するための人文・社会系の科目とともに、専門科目の理解に必要な基礎学力を養う自然科学系の科目を提供します。また、「基礎ゼミ」では、少人数グループで薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、協働的に学修することで解決し、成果を発表すると共に、ルーブリック評価を取り入れて能動的な学修姿勢を醸成します。幅広い教養系科目を通して、専門科目の学修に対するモチベーションを高めます。
＜外国語科目＞
最先端の医療や薬物治療に関する情報の多くは、外国語の論文として報告されています。また、医薬品開発や製薬業界のグローバル化が進展する中で､グローバルに活躍できる人材を育成するために､ネイティブ教員を含む語学専任教員による少人数制の語学教育プログラムを導入し、外国語を継続的

に修得できる科目を開講しています。さらに、英語圏以外の地域における言語・文化・社会を学修できるように、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語を開講しています。
＜専門科目＞
医療薬学科では、基礎薬学、衛生薬学や社会薬学に加え、最先端の医療薬学に関する講義、演習、実習を開講しています。臨床に直結する薬物治療等に関する科目に加えて、遺伝子治療や再生医療などに関係した最先端医療系科目を導入しています。また、倫理観や責任感を身につけるために、早期体験学習では病院における看護体験を、医薬合同学習ではチーム医療の基礎を学ぶため医学部の学生と小グループでのディスカッション・発表する機会を設けています。
創薬科学科では、医薬品開発を始め、食品薬学や香粧品に関する基礎から発展まで幅広い創薬研究に対応できる知識と技術を修得するための科目に加え、有機合成化学や分析化学関連の講義を充実させるとともに、ゲノム創薬やｉｎ　ｓｉｌｉｃｏ　分子設計学など最先端の講義と実習も導入しています。また、プレゼンテーションや実践的な外国語を修得することができる科目を置いています。
各専門科目の評価には、知識を確認するための試験やレポートに加え、技能・態度はルーブリックにより評価されます。
＜実習・演習科目＞
課題発見・問題解決能力、コミュニケーション・プレゼンテーション能力及びディスカッション能力を身につけるため､両学科共に１年の情報科学実習から３年間にわたる実習科目を設定しています。また、３年から開始される長期にわたる卒業研究を通して、問題発見能力・課題解決能力を養うことのできるカリキュラムとしており、ルーブリック評価と発表会のプロダクト、プレゼンテーション及び質疑応答を複数の専任教員で評価しています。医療薬学科では、４年次以降に実務実習事前学習や病院と薬局における臨床薬学実習において、地域医療、チーム医療及び最先端の薬物治療に関する知識、技能及び態度を身につけることができます。創薬科学科では、グローバルに活躍できる人材を育成するため、プレゼンテーション能力や英語力の向上を目指した演習も開講しています。
【医療薬学科のカリキュラム上の特色】
＜共通教養科目＞
医療人に求められる広い教養､高い倫理および使命感を醸成するために人文･社会系の教養科目を、また、専門科目の理解に必要な基礎学力を養うために自然科学系の教養科目を提供します。定期試験等での成績評価を行い、双方向教育支援システムを用いる評価を奨励しています。
自主的、協調的かつ能動的に学修・行動する能力とコミュニケーション能力を醸成するため、少人数グループ討論授業を実施します。討論・発表の内容をルーブリックで評価します。
＜外国語科目＞
日本の医療をグローバルな観点から評価し、諸外国における医療制度や薬剤師業務を理解することで国際的にも活躍できる人材を育成するために、ネイティブ教員を含む語学専任教員による充実した語学教育プログラムを導入しているほか、医療英語、薬学英語に係る科目を充実させています。
＜薬学基礎科目＞
薬剤師の資質を活かして社会および地域に貢献するという使命感と、患者の立場を理解し、患者本位の医療の発展に寄与する意欲を醸成するために、初年次に専門性を持った教員によるオムニバス形式の薬学概論や医学部、医療施設、研究施設、企業等を訪問する早期体験学習を実施します。学修到達状況は、客観・論述試験筆記試験および能動的学修による成果発表やプロダクトをルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。
生命の尊さを認識して倫理的な判断力を醸成するために、グループ討議を取り入れた生命倫理を実施し、学修到達状況は、ルーブリックによるパフォーマンス評価、自己評価、他己評価によって評価します。
医療人として必要とされる広い教養と自然科学に関する知識を身につけるために、入学初期からリメディアル教育を含む化学入門、基礎化学、生物学入門、基礎生物学を実施し、さらに、物理化学、分析化学、有機化学、薬用資源学、天然物薬化学、生化学、人体生理学、衛生化学、情報科学などの薬学基礎科目を体系立てて実施します｡これらの学修到達状況は､客観試験や論述試験で評価します。
＜薬学専門科目＞
薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、医療や人の健康に関わるうえで必要とされる広い教養と幅広い専門知識を修得するため、病態薬理学、薬剤学製剤学、薬物動態学、病態・

薬物治療学、公衆衛生学、漢方薬学、薬学統計学などの薬学専門科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を導入しています。修得した知識は客観試験や論述試験で評価し、実習や演習の学修成果は、技能・態度に適した方法で評価します。

また、高度で多様化する薬物療法に関する基本的技能の修得や多職種間での連携を実践できるコミュニケーション能力を醸成するため、実習では、小人数での参加体験型課題やグループディスカッションを積極的に実施します。学修到達状況は、レポートやルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

さらに、基本的な研究技術と薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を身につけるために、34年次後期以降に学生が主体的に研究に携わる卒業研究を実施します。卒業研究では、医療・研究倫理に関する教育も行い、様々な問題について倫理的な判断ができる力を涵養しています。これらの学修成果は、プロダクトなどをルーブリック表を用いることで評価します。

＜薬学臨床科目＞

医療専門職としての薬剤師の役割を理解し、自主的、かつ協調的に行動できる力、薬剤師として必要とされる広い教養と医療に関する様々な問題を理解できる幅広い専門知識を修得するために、医薬品情報学、治験、地域医療社会薬学、医療薬事関係法規、医薬連携学習、フィジカルアセスメント、臨床薬学実務実習などに関する薬学臨床科目の講義・演習・実習を体系立てて実施し、双方向・対話型講義を積極的に導入します。修得した知識は客観・論述試験で評価し、実習や演習では到達度やパフォーマンスの質を評価します。

薬剤師に必要な調剤や服薬指導に関する基本的な技能を修得し、医療の実践で応用できる能力を身につけるとともに、多職種連携を実践できるコミュニケーション能力を高めるために、薬学臨床科目の実習では、グループワークなどのアクティブラーニングを採り入れ、知識の評価とパフォーマンス評価を行います。

修得した専門知識・技能・態度を基に、多種多様な薬物療法や技術に触れて薬学・医療の発展に応用できる課題発見・問題解決能力を醸成させるために、４年次～５年次にかけて臨床現場で実践的な体験で知識を活かし技能を高める臨床薬学実務実習を実施します。医療に関する高い倫理観と責任感を有し薬剤師の使命感および患者本位の医療の発展に寄与する意欲を培い、医療における様々な問題について倫理的な判断ができるように、１年次から５年次までシームレスに薬学臨床科目の実習を実施します。その到達度はルーブリックによるパフォーマンス評価によって評価します。

【創薬科学科のカリキュラム上の特色】

創薬科学科では、ディプロマ・ポリシーに掲げる教育目標を達成し、医薬品の創製や生命科学分野、医療産業において、グローバルに活躍できる人材を社会に輩出するため、医薬品創製に関する基礎教育を行うとともに、最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーに関する講義と実習を行います。

特に、強い探究心と高い倫理観を持ち、「問題発見能力」、「課題解決能力」、「コミュニケーション能力」、「ディスカッション能力」に秀でた人材を育成すること、社会で通用する実践力の高いキャリア形成に主眼を置いています。カリキュラムの体系性や構造はカリキュラムマップおよびカリキュラムツリーに明示しています。

＜共通教養科目＞

人文・社会・自然科学にわたる幅広い科目の学修を通し、豊かな教養と高い倫理観を身につけます。総合大学ならではの医学部・法学部・薬学部合同講義となる「教養特殊講義Ｂ」では、尊厳死、安楽死、臨死介助、死生観などの医療・生命倫理を学修します。

初年次の「基礎ゼミ」では、少人数グループで入学前に読んだ指定図書に基づき薬学や生命科学に関する課題を自ら設定し、文献調査やフィールドワークを通して協働的に学修することで解決し、成果を発表します。これらを通し、能動的・主体的な学修姿勢を涵養します。評価にはルーブリックを用います。

また、地域性・国際性科目群では「国際化と異文化理解」を開講し、変遷する国際社会で活躍するための基礎知識を学ぶとともに、＜外国語科目＞においてＴＯＥＩＣやＴＯＥＦＬなどのより実践的に使われる英語科目を選択必修とすることで、国際社会で活躍できる語学力の向上をはかり、グローバルに多様な人材と協働する力を身につけます。

＜外国語科目＞

グローバルに活躍できる人材を育成するために、英語教育に力を入れています。１・２年次には各

セメスターに語学教員による週２回の「英語演習」と週１回の「オーラルイングリッシュ」を必修とし、継続的に英語に触れ、専門英語につながる基礎力の向上をはかります。
　また、英語圏以外の地域における言語・文化・社会についての学修のため、初修外国語としてドイツ語、フランス語、中国語の各科目を置いています。
＜学部基礎科目＞
　１年次後期から始まる薬学専門科目を学修するうえで必要となる、化学および生物の基礎力を確かなものとするための必修科目群を設置しています。特に、高校で化学あるいは生物を履修していない学生には、リメディアル教育を含めて基礎知識を修得できる機会となります。
＜専門科目＞
　医療の担い手として求められる倫理観を、１年次前期開講の「薬学概論」と「教養特殊講義Ｂ」を通して入学後の早期から涵養し、「卒業研究」や「医薬品開発論」を通し、研究倫理や安全性や信頼性といった医薬品における倫理性について学びます。
　薬学を理解するためには、他の理系分野とは異なり、幅広い分野にまたがる知識の修得が必要となります。各分野の基礎的な知識をまんべんなく修得するために必修科目として設定し、より多彩な知識を身につけた学生の輩出を目指します。またこれら知識を習得することで、医薬品の創製にかかわる必須の知識に加え、医薬分子と生命現象、疾病や病態との関わりを分子レベルから生体レベルまで解析する最先端の生命科学研究の知識とテクノロジーを体系的に学ぶことができます。
　一方、薬学部の希望する研究室で研究を早期体験できる「オープンラボ」（１～２年）は、創薬科学科の特色のある科目の一つで、実際の研究を体験することで専門科目の学びの必要性を理解し、学修するモチベーションを高めることができます。
＜専門英語科目＞
　研究室に配属後は、学術論文を読むことは必須となりますが、専任教員による「薬学専門英語」では文献を講読するうえで基本となる化学・生物の専門用語や学術論文の構成などを学びます。これにより、研究を進める上で必要となる情報を自ら得ることができるようになります。
　また、語学専門教員による「グローバル創薬科学」では、国際学会で研究成果を発表するうえでの基本的な知識・スキルを学ぶことを通し、研究者として不可欠な英語におけるコミュニケーションやプレゼンテーション能力を高めることができます。
＜実習科目＞
　１年次には、「情報科学実習」や「データリテラシー入門（共通教養科目）」により、勉学や研究のみならず今後の社会生活を営む上で必要となるＩＣＴの活用スキルを身につけます。また、２年次から始まる専門実習の基本的な手技を「基礎薬科学実習」で学びます。
　２年次からの専門実習では、専門科目の講義で学修した知識や技術を実習で体験することにより理解を深めるとともに、研究室配属後の研究活動にすぐに活用できるスキルを獲得できます。
　３年次前期から研究室配属になり実施する「卒業研究」は、創薬科学科の学びの中で最も重要な位置づけにあります。課題を探求し、最先端の科学的知識を取り入れ、問題を解決する論理的思考力を養成します。また、定期的に研究成果を報告することにより、プレゼンテーションやコミュニケーション、ディスカッション能力を高めます。そして、研究者倫理に則り、最後まで倫理観・責任感・使命感をもって研究を遂行することで、社会で通用する実践力を養成します。卒業論文および卒業研究発表会のプレゼンテーションと質疑応答等により専任教員が達成度を評価します。
＜キャリア形成関連科目＞
　アドバンスト科目Ⅰでは、専門科目で学んだ知識を深め、より専門的な知識を学ぶための科目を配しています。アドバンスト科目Ⅱおよび実践科目では、漢方・食品・香粧品などの多様な薬学関連科目を配し、学生個々の興味や進路に応じて学ぶことができると同時に、広い視野を獲得し、様々な専門性・職種の人材と交流できる知識・姿勢を涵養します。
　また、２年次の「キャリアデザイン」ではキャリアセンターの協力のもと、広い視野で就職および生涯にわたるキャリア形成を考える機会を提供するとともに、「進路・就職活動」の意識づけを行います。
　一方、希望者には、近畿大学病院との連携のもと、薬学の専門科目を学びながら臨床検査技師の資格取得のための基礎知識を身につけられるカリキュラムを展開しています。４年次には約２か月にわたる病院での臨地実習を行い、体験・見学・観察を通して知識を深めるとともに、臨床検査技師の職

務を理解し、医療人としての高い倫理観を身につけます。
【文芸学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
本学部は、文学科（日本文学専攻、英語英米文学専攻）、文化・歴史学科、芸術学科（舞台芸術専攻、造形芸術専攻）、文化デザイン学科の４学科４専攻で構成され、「未来志向の実学教育と人格の陶冶」という建学の精神をふまえたうえで、それは、文学、文化・歴史、芸術、文化デザインのどの学科に学ぼうとも、人間の命（いのち）を護り、その命を輝かせる歴史的・社会的な試みこそが今と未来を担う者の責務であることを、共通理念として根底に置いた教育の場を実現することであり、この理念は、文芸学部を創設した平成元年以来一貫して保持されてきました。文芸学部は、現在そして未来に向けて、その実現を教育研究の目的とし、その目的を体現する人材の育成を目指しています。
【文学科の学習・教育目標】
文学科は日本文学専攻と英語英米文学専攻の２専攻構成になっています。
日本文学専攻
日本文学専攻では、「日本文学」と「日本語学」をグローバルな視点から学ぶために、「言語・文学コース」「創作・評論コース」の２コースを設け、「日本文学」と「日本語学」についての幅広い知識を身につけ、読解力・思考力・分析力・表現力・創造力を磨くことを目標とします。「言語・文学コース」では、日本語の歴史と言語学的思考や理論、及び日本文学の歴史と表現方法や思想などを学びます。「創作・評論コース」では、文学テクストの批評理論や創作技法を学び、文学創造の実践を行います。言語研究・文学研究・文芸批評・文学創作にとどまらず、日本語や日本文学の背景にあるグローバルな歴史、文化、社会、思想についても広く学ぶようカリキュラムを編成しています。
英語英米文学専攻
英語英米文学専攻では、「深い教養と志をもち、社会を支える気概を持った学生を育成し、社会に送り出すことを最終教育目標」とする近畿大学のディプロマポリシーを旨として、英語圏の文学・文化、言語領域に関する専門知識と高度な英語運用能力を修得した人材の育成を目指しています。卒業までに身につけるべき資質・能力に関して、本専攻では以下のような学習・教育目標を定めています。
1. 高度な専門教育を経て、学士号取得に至ることに誇りを持ち、国際社会及び地域社会に自らの力を還元しようという志を持っていること。
2. 国際的に困難な状況においても和を成すことができるような、他者との高いコミュニケーション能力を所持するに至っていること。また、そのための幅広く、深い教養を得ていること。
3. 専門知識・技能の修得により、学士として総合的に高いレベルに到達していること。また、これらの知識と技能に裏打ちされた専門分野の研究活動（卒業論文・卒業研究）において、説得力のある議論を構築する能力を修得していること。
4. 所定の科目の内容を修得し、勉学への高い志が見られること。また、外国語としての英語の能力を高い次元まで伸ばし、社会で求められる幅広い運用能力を身に付けていること。
【文学科のカリキュラム編成上の特色】
日本文学専攻
日本文学専攻は「言語・文学コース」と「創作・評論コース」の２コースを設けています。１、２年次で日本文学や日本語についての包括的、概論的知識を身につけ、３、４年次においては、日本語学、古典文学、近現代文学（以上言語・文学コース）、文芸創作、文芸評論（以上創作・評論コース）の５分野に分かれて、専門的な知識や思考方法、あるいは創作技法を学び、研究や創作の実践を行います。両コースは独立したカリキュラムをもっていますが、言語表現を読むという点では一致するので、概論的授業においては両コースの交流と融合を図っています。最終的には、各コースのそれぞれの分野に即した研究ないしは創作の成果を、論文又は作品としてまとめ提出して審査を受けます。
英語英米文学専攻
英語英米文学専攻では、英語圏留学制度の充実、及び少人数制クラスとチュートリアル制のきめ細かな個別指導が特色です。徹底した個別指導による、高度な英語コミュニケーション能力の育成と英語圏における文学作品や文化の研究指導、さらに卒業論文の制作指導などによる分析的思考力や論理的表現力の涵養など、世界を視野において積極的に活躍できる人材の育成を目指します。
【芸術学科の学習・教育目標】
芸術学科は舞台芸術専攻と造形芸術専攻の２専攻構成になっています。
舞台芸術専攻

舞台芸術の創作・制作活動は、複数の人間による共同作業を基本とし、他者を意識しながら自身の成長を促す表現行為であり、コミュニケーション能力の向上、さまざまな人間への深い理解と共感について学ぶことができる可能性を秘めています。本専攻では、総合芸術としての舞台芸術の中でも、特に、演劇、舞踊、戯曲の創作を実践的に学ぶこと、かつまた、それらについて学術的、批判的、歴史的に学ぶことを目的とし、４つの学びの系によるカリキュラムを用意しています。

本専攻の学習・教育目標は、舞台芸術を人間社会における重要かつ普遍的な文化的営みの一つとして認識すること、舞台芸術の持続と発展に寄与する人材の育成にあります。グローバル化する日本において、民主主義社会における芸術の役割について深く考え、よりよい社会を構築する為に、社会的想像力を育み、集団で表現内容や表現形態を模索し、常識に果敢に挑戦しながら創造することを実現できる人間の育成を目指しています。

本専攻は、実学教育に基づき、幅広く舞台芸術に携わる可能性をもつ人材（俳優、ダンサー、劇作家、演出家、振付家、プロデューサー、アドミニストレーター、技術スタッフ等）の育成を目指すばかりでなく、人格の陶冶を目指して、舞台芸術への造詣を深めることで、精神的にもより豊かな生き方を選択できる人材、他者への暖かいまなざしを持つことができる人材の育成を目指しています。

造形芸術専攻

造形芸術専攻は、「造形芸術を通じて、教育現場や社会に貢献できる人を育成する」、「専門的な力を持つ造形芸術作家やデザイナー及び研究者を育成する」、「ゼミナール、ワークショップ、イベント企画、産学連携アートプロジェクトを通してコミュニケーション能力及びマネージメント能力を身に付けた人を育成する」、「グローバル（アート）教育、国際アート交流プロジェクトを通して国際交流に意欲を持つ人を育成する」、を教育の目標としており、厳格な成績評価により教育カリキュラムを運営しています。これらの趣旨をもとに開講された科目を履修して、所定の単位を修得した学生に卒業認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。

関心・意欲・態度.

1. 疑問を持った事柄を放置せずに解決に向かうことができること。
2. 既成概念にとらわれず常に新たな発想を持つことができること。

思考・判断.

1. 多角的視点で物事を思考する能力を身につけること。
2. 「感じる・考える・創り出す」を積極的に繰り返し、発見・判断ができること。

技能・表現.

1. 自分の作品や論文について、論理的に発表できるプレゼンテーション能力を身につけること。
2. 専門分野の基本的技術を身につけること。

知識・理解.

1. 芸術と社会環境について具体的に説明できること。
2. 現代芸術を歴史的観点から理解できること。
3. 社会に貢献できるコミュニケーション能力を身につけること。

【芸術学科のカリキュラム編成上の特色】

舞台芸術専攻

舞台芸術専攻では、４年間でどのような角度から舞台芸術を学んでいくかの指標として、2016年度から、〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕、〔戯曲創作系〕、〔ＴＯＰ（Ｔｈｅａｔｒｅ　Ｏｒｇａｎｉｚａｔｉｏｎ　Ｐｌａｎｎｉｎｇ）系〕の４つの系を設けています。２年生から各自が選択した「系」の学びの中心となる核科目と、専攻の共通科目を横断的に組み合わせ、それぞれに独自カリキュラムを作成することにより、多角的に専門的な知識と経験が習得できるようにカリキュラムが構築されています。

〔演劇創作系〕、〔舞踊創作系〕の学びでは、実習・演習形式の授業を中心に実践的に演劇表現、舞踊表現の創造を探求します。〔戯曲創作系〕の学びでは戯曲創作の実践を積み重ねて創作力を、〔ＴＯＰ〕の学びでは広く舞台芸術作品に接するとともに、舞台芸術の理論、歴史、批評を学んで、考察力、発信力を養います。自らの学びに必要な他学部、他学科、他専攻の選択科目も組み込むことができます。また、演劇の教育的な側面を社会の中で生かすことができるように国語の教員免許取得のためのカリキュラムを設置しています。

造形芸術専攻

造形芸術専攻においても、基礎的なものから専門的なものへの段階的教育が組織的に実行されています。本専攻では平成16年度より「ゼミナール選択制」を採用し、１年次で４ゼミ、２年次で２ゼミを選択し、３年次で最終のゼミを決定することになっています。２年間自分の能力、関心がどこにあるのかを模索できるこの制度は有効に機能しています。また、平成28年度からは、造形コースと芸術学コースの区別をなくし、全ての学生が実技と美術史研究の両面から芸術にアプローチできるような体制を設けています。

【文化・歴史学科の学習・教育目標】

文化・歴史学科は、学問的知識とともに論理的な思考力、健全な批判精神、自分で問題を発見し解決する力、他者の立場を理解し異なった意見に耳を傾ける謙虚な姿勢、自分の意見や着想を他人に伝え積極的に社会にかかわっていく発信力と行動力を兼ね備えた人材の育成を目指し、以下の４つ領域についてそれぞれ具体的な学習・教育目標を定めています。

関心・意欲・態度

1. カリキュラムポリシーに示された４つの系にまたがる幅広い知識と理解力を身につけることにより、古今東西にわたる幅広い文化・歴史を総合的・俯瞰的に把握する意欲を持つこと。
2. 現代の社会文化に対するアクチュアルで自発的な考察力を持つこと。

思考・判断

1. 卒業後の自分の進路や自らの社会的使命に対して常に真摯かつ誠実であることを心がけること。
2. 身の回りや社会に生起する諸問題に対する鋭敏な洞察力を鍛えること。

技能・表現

1. 社会的な積極性をもち、自主性を心がけることのできる人物、そして文化的な意味で個性ある社交的能力に長けた人物となること。
2. 職場、同僚、友人、家族、近隣など日常の人間関係にとどまらず、ボランティアや趣味やＳＮＳなど自らが積極的に関与する広範な人間関係の中で、文化事情についての自己表現を行う技術と能力を発揮する意欲を持つこと。

知識・理解

1. 4つの系にまたがった広い見識と同時に、自分の専門領域とする文化事象について深い理解を会得し、実践的に応用できる能力を身につけること。
2. 協調性を重視すると同時に、独自の思考と判断のできる能力と表現力を身につけること。

【文化・歴史学科のカリキュラム編成上の特色】

文化・歴史学科では幅広い知識と深い教養を育むために、コース制ではなく日本史系、世界史系、現代文化・倫理系、文化資源学系の４つの＜系＞を設定しています。４つの＜系＞を横断した学びを通して学生は広い視野と深い専門的知識を修得しながら、最終的に各自の専門とすべき研究分野を絞り込んで卒業論文を作成することが、カリキュラムの主軸となっています。そのため重要となるのは、教員との活発な交流を通して学びの実際と楽しさを体得する少人数教育であり、１年次では特に「基礎ゼミ」「基礎研究」、２年次では「講読」がその役割を担っています。３・４年次の「演習」（いわゆる「ゼミ」）では主として一人の指導教員について、専門研究に必要な文献読解や現地調査等の研究方法を学び、ゼミ発表を通して社会で必要なプレゼンテーション能力を、論文作成を通じて文章表現力を学んでいきます。

【文化デザイン学科の学習・教育目標】

文化デザイン学科は、人文諸学の基礎的知識と感性的直観力、美的感性と倫理的思考力を養い、それらを基礎にした実践活動に必要な創造的思考力・デザイン思考・マネジメントカ・情報分析力、さらにチームワークに必要なコミュニケーショ力・調整能力、加えて困難を克服するための問題解決能力などを修得した人材の育成を教育の趣旨としています。

この趣旨のもとに厳格に成績評価を実施し、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（文芸学）の学位を授与します。卒業までに身につけるべき資質・能力は以下のとおりです。

関心・意欲・態度

1. 様々の社会現象に問題意識を持ち、その課題の解決への探求心を持つこと。
2. 解決すべき課題を他者と共有し、積極的にコミュニケーションを図ること。

思考・判断

1. 感性と知性の調和を保ち、良識に基づいた思考と判断力を修得していること。

2. 現代に鋭敏な、また未来を見通す論理を超えた直観力を発揮できること。

技能・表現

1. デザイン、プロデュースの専門分野における基本的方法と技術についての知識、能力を修得していること。
2. 思考内容や表現内容を論理的にプレゼンテーションする技術と能力を修得していること。

知識・理解

1. 文化、芸術、政治、経済、科学など人間活動の広範な分野についてグローバルな知識を持っていること。
2. 物事について、他者の立場に立って考え社会貢献につながる倫理的公共的理解ができること。

【文化デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】

文化デザイン学科では、「感性学系」「デザイン系」「プロデュース系」の３つの系を設置し、まずそれら全ての領域をまんべんなく学ぶことを求めるカリキュラム編成となっています。それを基礎にして、人間の文化的・芸術的成果を社会につなげるシステムやプログラムをデザイン／構想し、創造し、実行／プロデュースするため知識と能力を習得する専門科目群が設置され、加えて各系の学問的理論だけではなく、１年次から４年次までの「ゼミナール」あるいは「プロジェクト演習」など実践的なタスクワークを重視するカリキュラム編成がなされています。

教育課程の根幹ともいえる「ゼミナール」については、１年次から必修として全教員の「ゼミナール」を履修し、年次毎に研究テーマを絞り込みながら、最終的に４年次において一つのテーマに取り組むという４年間の段階的発展をたどる教育課程として編成されていることも特色です。

【総合社会学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

21世紀の課題は、『グローバル化』、『新ネット社会の登場』、『世界的な格差社会の拡大』、『自然環境の異変』などに象徴されます。

総合社会学部では、多様な視点から現代社会が直面する複雑な問題群を理解し、多様な見方を総合化していくために、人々の心的活動や行動（心理学）・社会システム（社会学）・環境と社会の関係（環境学）というミクロな視点からマクロな視点まで、視点の異なる学問分野を連携させた教育・研究により、複雑化した現代社会の問題群に一つの組織として総合的に取り組みます。

また、総合社会学部では、現代社会の諸課題をしっかりと見極めて、未曾有の転換期を生き抜く人材の養成にあたります。21世紀の社会は、情報社会・ネットワーク社会と呼ばれるものであり、それはインターネットに代表される情報通信技術の進展に大きく影響を受けて発展してきました。そこで、これからの社会を担う人材には、ネットワーク社会がどのようにもたらされ、どのような方向に向かっていくのかについて、的確に理解できることが求められます。

本学部では、現代社会が直面する複雑な問題を理解することができ、ミクロな視点からマクロな視点、ローカルな視点からグローバルな視点まで、多様な見方を総合化していくことができることを教育の到達目標とし、複雑化する社会問題を総合的、実証的に捉え解決を図ることができる人材の養成を学部全体としてめざしていきます。

【総合社会学科の学習・教育目標】

総合社会学科は、教育・研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、系統性のある学習を行う必要性から、教育の柱となる領域を定めています。学生が自分の興味がある科目のみを履修し、学部・学科の科目を自由に修得する教育課程では、広く浅い知識だけで問題の表層だけしか見ず、問題の本質を知るという力は育ちません。

そこで本学部は、より深く系統性のある学習を行うために、

①現代社会そのものの構造や動きを研究するための、社会学をベースとした『社会・マスメディア系専攻』

②現代社会を構成する主体である、人間の心的活動や行動を探求するための、心理学をベースとした『心理系専攻』

③現代社会を取り巻く環境と社会との関係を研究するための、環境学・地理学・都市学・地域学・政策学をベースとした『環境・まちづくり系専攻』

という３つの体系的な教育課程を専攻別に編成し、個別重点的、かつ分野横断的に教育することにより、多様な見方を総合化して問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

【総合社会学科カリキュラム編成上の特色】

総合社会学科の教育課程は、「共通教養科目」、「外国語科目」と本学部独自の「学部共通コア科目」により、本学部生の土台を形成し、その土台の上に連続して「専門科目」を専攻別に基礎から発展へと編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、幅広い知識と社会人としての基礎力を養い、「外国語科目」ではコミュニケーション能力の育成とともにグローバルな視点をも養成していきます。そして、「共通教養科目」である１年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、『学部共通コア科目』としての「総合社会学演習」、さらに各専攻に分かれても４年間一貫してゼミナール形式の少人数教育を施す「講読」、「演習」、「卒業論文」、「卒業制作」といった科目を必修科目として段階的・連続的に編成しています。このうち、どの専攻に所属しようとも必ず受講する『学部共通コア科目』では、学際的な学部としての総合的、実証的な視点や、人々の心的活動や行動（心理）・社会システム（社会）・環境と社会の関係（環境）といったミクロな視点からマクロな視点まで、異なる３つの視点を持つ各専攻の専門科目の基盤となる科目を編成し、「専門基礎科目」へと体系的につながっています。そして、学部教育の土台から連続して、学生の教育の柱となる領域を定めるため、「専門基礎科目」から「専門発展科目」へと体系的な教育課程を編成しています。

【その他の特色】

外国語科目（英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語）は、共通教養科目や専門科目の「国際関係」科目と同様に、総合社会学部の目的の一つであるグローバルな視点を養成するために重点を置く科目群です。本学部の外国語学習プログラムでは、提供するすべての外国語科目において基幹科目と発展科目を配置し、学生は基礎から上級レベルまで段階的に外国語学習に取り組むことができます。また、複数の外国語を学習できる環境を１年次から提供し、それぞれの進路・希望に応じて系統性のある学習が行えるプログラムとなっています。学生は、興味・関心の拡がりに合わせた科目の選択も可能です。外国語科目として18単位が卒業要件となっていますが、グローバル社会における英語の重要性に鑑み､英語の基幹科目のうち必修科目６単位を含む８単位以上を修得する必要があります。これらの科目を通して基礎的な英語コミュニケーション能力を育成します。高度なレベルの英語運用能力の習得を希望する学生には、英語科目の重点的な履修も可能としており、マッコーリー大学（オーストラリア）へのセメスター留学制度の利用、上級レベルの英語の授業履修等の機会が充実しています。また、英語・中国語・韓国語については、単位認定を含めた短期海外語学研修に参加することもできます。

【国際学部　国際学科の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

「国際学部　国際学科」は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」という本学の建学の精神を人材養成の礎とした上で、グローバル化というかつてないほど大きな社会の転換期を生き抜き、積極的にグローバル社会に参画するための知識と教養の吸収を目的とした教育を行います。具体的には、（１）外国語による高いコミュニケーション能力を有し、（２）幅広い教養と専門性を備え、（３）自文化と他文化を尊重し、かつ多面的に理解し、（４）自主性と協調性を持って行動できる人材、すなわち「国際教養人」の育成を目的とします。この教育理念を具現化するには、従来の座学的教育にはおのずと限界があります。よって本学部では１年次後期から１年間の留学を原則必修とし、大学生活早期の外国語コミュニケーション能力の習得、自文化・他文化の尊重と理解、自主性と協調性の涵養、の３つの目標の実現を目指します。さらに留学後に幅広い教養と専門性を深めることによって、グローバル社会で活躍できる人材の輩出という目的の実現を目指します。

【国際学科の学習・教育目標】

国際学部は、教育及び研究の連携を保つために、１学科組織となっていますが、留学を基盤とした確固たる言語運用能力の上で学習を行う必要性から、英語を専修言語とする「グローバル専攻」、中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」という２つの柱を定めます。

グローバル専攻は英語を主軸としますが、単に英語を学ぶに留まらず、「英語で何を学ぶか」に重点を置きます。そのために、以下の４つの「領域」を設けたうえで、多様な研究実績とキャリアを有した教員の専門性を活用した、効果的な教育の機会を提供します。

１　「コミュニケーション・実践領域」の科目は、実務の現場で活用可能なスキル・コミュニケーション能力を身につけることを目標とします。ビジネス、英語教育、観光、通訳・翻訳など、多様な実務・教育経験を持つ教員による開講科目を通じて、グローバル化に伴うコミュニケーション様式の変容や文化的多様性を意識した、実践的な問題意識と能力の習得を追求します。

２　「言語文化領域」の科目は、言語を理論的側面と現象面から分析し、言語と文化の関連性を深く理解することで、話者の多様な言語観とコミュニケーションスタイルの多様性を理解することを学習・教育目標とします。言語学、社会心理学、文化記号論などを研究する教員が、言語をさまざまな視点からとらえ、言語と人のかかわりを探求する科目を担当します。
３　「国際関係領域」の科目は、多様な人々が共に生きる社会の構築に向けて、積極的に行動できる力を養うことを目的とします。政治、外交、国際関係、国際法、地域研究、国際協力、ジャーナリズムなどを専門とする教員が担当する科目を通じて、国際社会や地域社会に貢献し得るグローバルな見識と行動力を習得することを目指します。
４　「人文社会領域」の科目は、グローバル化がもたらしたひと・モノ・文化の移動に目を向け、現代社会に刻み込まれたグローバル化のあり方を、複数の学問的視点から具体的に検討することを目的とします。歴史学、文学研究、芸術学、文化人類学、メディア論などを専門とする教員の開講科目を通じて、複雑な文化事象を粘り強く思考する経験を重ねながら、実社会にも貢献できる思考力や問題解決力の習得を目指します。

「東アジア専攻」は、中国語を専修言語とする「中国語コース」及び韓国語を専修言語とする「韓国語コース」を設置し、それぞれの言語・文化の理解を基盤に専門性を深めます。「中国語コース」では、中国語圏の人々と中国語で自在にコミュニケーションのとれる能力を高め、異なる価値観に対する寛容と自己の文化的立場の認識を深め客観化を図るべく、語学学習と並行して、中国語圏の文化、歴史、慣習、思考様式に関する知識及び日中の過去現在にわたる文化的交流の知識を得ることを学習・教育目標とします。「韓国語コース」では、韓国語でコミュニケーションのとれる能力を涵養し、韓国の文化、歴史、思考様式、社会構造を学ぶことにより、日韓のさまざまな交流に貢献できる地域専門性を身につけることを学習・教育目標とします。

以上のように、英語を専修言語とする「グローバル専攻」と中国語及び韓国語を専修言語とする「東アジア専攻」の２本の柱を持ちますが、分野横断的な学習が可能であり、多様性の理解と尊重のもと、さまざまな問題の本質を見抜く確かな学力を養成していきます。

【国際学科のカリキュラム編成上の特色】

「国際学科」の教育課程は、全学共通科目である「共通教養科目」及び「外国語科目」により学習の基礎を形成し、「専門科目」を段階的に編成することにより教育課程の体系性を確保しています。

「共通教養科目」では、１年次必修科目の「基礎ゼミ」に始まり、（1）人間性・社会性科目群、（2）地域性・国際性科目群、（3）課題設定・問題解決科目群、（4）スポーツ・表現活動科目群から偏向なく履修することにより、幅広い知識と社会人に求められる基礎能力を養います。「外国語科目」について、グローバル専攻では、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語、韓国語、タイ語、ベトナム語をそれぞれ入門、基礎、中級、上級の４レベルで開講し、学生の学習目標やキャリアの必要性に応じて主体的に選択ができます。また、東アジア専攻では、これら７言語（ただし、専修言語を除く。）に加えて英語も選択でき、「総合英語１」、「総合英語２」、「総合英語３」、「総合英語４」と４レベルで英語の運用力を強化していきます。

専門科目は、「国際教養人の育成」という目的を達成するべく教育課程を編成し、それは「学部共通開講科目」、「留学科目」、「セミナー科目」、「言語科目」、「専門基礎科目」（グローバル専攻のみ）、「専門発展科目」から構成されます。

「学部共通開講科目」は、所属する専攻を問わず、履修の必要性が高い科目を配当しています。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」は、１年次後期から１年間留学する学生にとって必要な知識を身につける科目です。また、２年次前期の「専門導入セミナー」は、留学で得た高い外国語運用能力と国際感覚を、２年次後期以降の専門科目群へと接続するための役割を担います。加えて、「学部共通開講科目」には、２年次後期からの選択科目として、学生のキャリアパスに関わる内容を扱う科目を配置しています。

「留学科目」は、各専修言語の海外提携校で履修する科目です。１年次前期の必修科目「留学セミナー」、「異文化理解」に加え、集中語学学習で培った知識・技能を１年間の留学で確認し、さらに高めます。

「セミナー科目」は、３年次前期から卒業までの期間を通して、少人数でのリサーチ・プロジェクトを進めていく科目です。３年次の「セミナー１」と「セミナー２」を通じて、指導教員のアドバイスのもとでそれぞれの研究分野の基礎的研究方法と問題意識を深化させ、４年次の「セミナー３」と

「セミナー４」で研究成果を論文等の形にまとめていきます。大学院進学等を視野に入れたハイレベルな論文指導が求められる場合は、後述する「専門発展科目」に配置された論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」をセミナー科目に接続し、より密度の高い論文指導を行うことが可能です。

「言語科目」は本学部の背骨となる科目で、グローバル専攻では英語を、東アジア専攻では中国語又は韓国語を指します。「言語科目」学修の目的は、実践的運用能力を身につけることだけでなく、「セミナー科目」などでの研究の基盤とすることにあります。

「専門基礎科目」は「グローバル専攻」にのみ設置する科目です。留学修了後、上述した４つの「領域」の中から自分に合った分野を選択し、該当分野の基礎的な知識と方法論を習得するための導入科目群で、これらの科目をバランスよく履修することを通じて、それぞれの「領域」の特徴を知ることができます。

「専門発展科目（グローバル専攻）」は、２年次までに習得した知識・技能・経験を基盤にして、より専門性の高い学修を行うための科目であり、「コミュニケーション・実践領域」、「言語文化領域」、「国際関係領域」、「人文社会領域」の４つの領域から構成されます。履修者は、これらの領域のいずれかひとつを選択し、専門分野の学修を進めていきますが、複数の領域を横断した履修を行うことが可能です。また、履修者の希望に応じて一層密度の高い専門教育を実現するために、それぞれの領域には少人数の特論科目を設置しているほか、上述した論文指導科目「Ｔｈｅｓｉｓ　Ｗｒｉｔｉｎｇ」を活用することで、レベルの面でも柔軟な科目選択・指導体制を実現することが可能です。

英語に比べ、中国語及び韓国語の習得期間は短いため、「専門発展科目（東アジア専攻）」ではグローバル専攻にあるような「領域」は設けることはせず、その代わりに専修言語習得をさらに強化し、学生自らの関心や進路希望に基づいて選択した履修モデルに従い、体系的に科目を選択し、履修していきます。

【その他の特色】

「国際学科」は文化の多様性だけでなく、垣根を越えた学問の多様性（ａｃａｄｅｍｉｃ　ｄｉｖｅｒｓｉｔｙ）も重んじます。学生は各自の専攻の中で「領域」（グローバル専攻）又は「コース」（東アジア専攻）に所属し所定の科目を履修しますが、学問の興味、又はキャリア面での技能にとって必要であれば学問横断的に科目を履修することができます。

また「国際学科」は、コミュニケーション能力のさらなる育成のために、１年次後期から１年間の留学に加え、他言語習得のための短期海外語学研修や海外インターンシップを奨励し、また有資格者には交換留学など、さらなる留学機会を提供します。

【情報学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

情報学部では、「Ｓｏｃｉｅｔｙ5.0の実現に向けて第４次産業革命（ＩｏＴ・ビッグデータ・ＡＩ等）が進展する中、ＡＩ活用やデータ分析、サイバーセキュリティ対策、社会システムのデザインなど、第４次産業革命の進展に伴って広がってきている社会のニーズに応える情報技術者を育成する」ことを教育理念・目標とします。

教育の理念・目標の実現のため、ＩｏＴ、ＡＩ、クラウドコンピューティングなど最新の技術を取り入れた実習科目と、それらの基礎となる概念を扱う情報学の専門的な知識を得るための講義科目をバランス良く配置し、数学や人工知能、機械学習といった現代の情報技術を支える数理的基礎を理解するための基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を習得させます。

情報学部では４年間のカリキュラムを通じて、社会のニーズに応える情報技術者としてふさわしい問題発見能力、制約の中で他者と協調しながら問題を解決する能力、情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力、システム構想・設計力、プログラミング能力に加え、国際的に通用する英語コミュニケーション能力と技術者倫理を身つけた人材を育成します。

【情報学科の学習・教育目標】

情報学部の教育理念・目的を具体化するために、以下の到達目標を設定しています。

1. 問題発見、およびそれに必要な知識修得を自主的、継続的に行う意欲を持つこと。
2. 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者がそれらに対して負う責任を理解し、関心を持つこと。
3. 地球的視点から多面的に物事を考える能力と素養を身につけること。
4. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力を身につけていること。

5. 他人との共同、協調作業を通して問題解決ができること。
6. 日本語による論理的な記述力、口頭発表力、討議などのコミュニケーション能力を身につけていること。
7. 国際的に通用する英語コミュニケーション能力を身につけていること。
8. 数学、自然科学に関する知識を情報分野の問題に応用できる能力を身につけていること。
9. 情報分野における幅広い専門技術の知識とそれらを問題解決に応用できる能力を身につけていること。
10. システム管理・運用能力、システム構想・設計力、プログラミング能力を身につけていること。

社会の広い分野で活用できる情報技術者に必要な基礎学力に加え、情報技術を組み合わせてシステムを構築するための実践的な知識と応用力を身につけてもらうことが学習・教育目標となります。

【情報学科のカリキュラム編成上の特色】

高度な専門教育を体系的かつ組織的に行うとともに、学生が情報学に関する幅広い分野の中から系統的に学べるよう、「知能システム」、「サイバーセキュリティ」、「実世界コンピューティング」の３コースを設置します。また、学生が他コース開講科目を履修できるようにすることで、自身の興味やキャリアプランに合わせて情報学を横断的に幅広く学べるようにします。３つのコースはいずれも「Ｓｏｃｉｅｔｙ　5.0」の根幹となる、サイバー空間と実世界を高度に融合させたシステムの運用や開発に従事するＩＣＴ技術者を養成するためのコースとなります。それぞれのコースでは、サイバー空間に蓄積する大規模データの利活用や、そのセキュアな流通、また、サイバー空間と実世界との橋渡しに関する技術を扱い、社会のニーズに即した人材の養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

知能システムコースでは、サイバー空間に蓄積された膨大なデータを解析し、人々の生活をより便利にする情報を提供する社会インフラやデータ利活用システムを構築できる人材を育成します。本コースは、講義科目と実践的な実習の相乗効果によって、人工知能・機械学習の背後にある数理的な基礎を理解した上で、世界で繰り広げられている研究開発競争の最新動向をキャッチアップし、目前の課題に適した技術を適用できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。サイバーセキュリティコースでは、サイバー空間に大規模データを収集し利活用するための安全な情報基盤を構築するＩＣＴアーキテクトや､高度化するサイバー攻撃に対処できる情報セキュリティ人材を育成します。本コースの科目群はサイバーセキュリティ分野の国家資格である「情報処理安全確保支援士」で必要とされる知識の一部を習得する構成となっています。また、仮想ネットワーク環境等を用いた実践的なサイバーセキュリティ実習により、知識だけでなく実践的なスキルを併せもった人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

実世界コンピューティングコースでは、実世界とサイバー空間を橋渡し、ＩｏＴ、ＡＩ、及びシステムとユーザの相互作用に関する人間中心のシステム設計を高度に統合して、実世界で新たなサービスやイノベーションを創出できる人材を育成します。本コースは、認知科学や社会学の観点から、サイバー空間の解析結果により実世界のユーザの行動がどのように変容するか分析・評価し、実世界の問題を解決するシステムを構築できる人材養成のためのカリキュラム編成を特色とします。

【その他の特色】

情報学部では、基本情報技術者、応用情報技術者、シスコ技術者認定資格、情報処理安全確保支援士などの資格の取得を考慮した教育を実施します｡できるだけ多くの資格を在学中に取得できるよう、支援体制を整えています。また情報学部では、実践による学びを通じて、学生が活きた知識を獲得できるよう、様々な企業と連携した産学連携で課題解決を図る企業連携型プロジェクト型学習を取り入れた実習科目を配置し、様々な制約の中で試行錯誤することで、より良い解決策を探る実践を通じ、専門職業人に必要な自主性、問題発見能力、問題解決能力を涵養します。

【農学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

農学部では、本学の建学の精神と教育理念に沿って、「積極的なチャレンジ精神を持ち、心豊かで社会に貢献できる人材を育成する」ことを教育理念としています。

農学は、生物生産、生命、環境等に関する体系的知識を核とした総合科学であり、その研究領域は、農業生産を中心とする食糧生産に関する研究にとどまらず、農林水産物の二次、三次加工、健康、機能性食品の開発、医薬品への活用など人間の健康維持に関する研究、更には地球環境、地域環境、住環境を含む環境保全、管理、改善に関する研究など人間生活の衣、食、住のすべてを包括した範囲に

まで拡大しています。このような背景を踏まえて、農学部では、社会的ニーズに対応した専門的知識と技術が修得でき、将来、暮らしに役立つ未来の技術の開発に積極的に取り組むことができるよう、講義科目と実験、実習、演習などの科目を有機的に連動させ、論理的並びに実践的側面を両立させる手法を取り入れた教育を行います。また、自ら問題を見出し、それを解決できる能力を高めることによって生命現象や地球環境などに対する深い理解を示し、豊かな倫理性・人間性を養うことにも取り組みます。地球レベルから分子レベルまでの幅広く展開する教育研究に加え、語学力やコミュニケーション力を高める教育を行い、グローバルな視野を持った実践的な人材を社会に送り出すことを目指します。

【農業生産科学科の学習・教育目標】

農業生産科学科では、「安全・安心な農業生産、食糧問題、環境問題、生物のいやし効果、およびアグリビジネスに関する知識を持ち、それらに関する問題を解決するための方法論や技術を修得するとともに、その力を応用し、新たに直面する可能性のある未知なる問題にも果敢に挑戦する人材を育成する」ことを教育目標としています。

農業生産の分野では「環境と健康に配慮した21世紀型農業の確立」が求められており、理論と実践の両面から教育・研究を進めることが必要です。具体的には生物多様性の保全と利用を念頭に置いた安全・安心な環境保全型農業、花など生物のいやし機能の利用、これからの農業を発展させるためのアグリビジネスへの展開を目的としています。

この目的のため農業生産科学科では、安全性に配慮した食糧生産技術、病害虫や生理障害に対する管理技術、収穫物の流通・販売・消費に関する問題、などについて基礎から応用まで知識を習得できる講義を実施しています。また、実験や実習にも多くの時間を割り当てることにより、実践能力をもつ人材を育成することも教育目標としています。

【農業生産科学科のカリキュラム編成上の特色】

農業生産科学科の専門科目は、１年次から開講されており、４年次の卒業研究まで一貫して農業生産科学に関する専門性の高い知識の教育を展開しています。また、アグリビジネスマイスター資格取得の制度を設け、ビジネスモデルの構想能力や地域産業とのコーディネート能力を有する人材の育成に取り組んでいます。

１年次では、農業生産の基礎となる生物学、植物学、植物保護に関する基礎的な科目を学習します。また、実践的に農業生産科学を理解するための農学野外実習を実施し、実学的に理解するとともに農業生産科学に取り組む心構えを養っています。

２年次では、学科を構成する各研究室の専門分野に関連する専門科目が開講されます。農業生産に関わる植物に関する植物の種類ごとの専門科目、栽培植物の保護に関する種々の病害虫や農薬利用に関する科目、アグリビジネスマイスターのコースに関連する種々の科目が開講されています。また実験科目として、農業生産科学に関係する幅広い基礎的な内容を実践的に理解するため、基礎生物学実験及び基礎化学実験を実施しています。

３年次では、１年及び２年次で修得した基礎知識をもとに、それぞれの専門分野でより高度な内容を含む専門性の高い科目を修得できるように講義科目を開講しています。さらに各専門分野に関する英語力を身につけるため、ゼミ形式の専門英語を開講しています。これらの専門的内容を実践的に理解し、４年次の卒業研究に必要な実験手法や機器の取り扱いについて、直接的な指導が受けられる農学専門実験を通年で実施しています。またアグリビジネスマイスターのコースではアグリビジネス実習を開講しています。

４年次では、３年次までに修得した知識や実験手法を活用して卒業研究に取り組み、同時にゼミ形式の専門演習において研究における問題解決能力を向上させます。すなわち、１年から３年次までに修得した知識や技術を十分に活用して卒業研究を完成させるカリキュラム構成になっています。

【その他の特色】

農業生産科学科では、農業生産に関する基礎教育を基盤として、応用的な専門教育を広く学べることを特色にしています。分子生物学を応用した遺伝子工学技術、植物組織培養技術を利用した苗生産技術を習得できます。また実学的な分野では、交配による育種技術、減農薬栽培のための物理的、生物的病害虫防除技術を体験・習得できます。収穫物の流通については、トレーサビリティーを含む流通管理技術や野菜や果実の保存の現場を体験することができます。さらに、附属農場実習として、マンゴーやミカンの栽培、収穫、販売を体験することができます。また、近隣の農業研究センターの見

学も定期的に実施しています。
【水産学科の学習・教育目標】
水産学科では、「地球的視野から水域の食料生産と環境・生物について多面的に考える能力を持った人材を育成する」ことを教育目標としています。
海に囲まれた日本において、水産業は極めて重要な産業であり、時代を通じて高い発展を図る必要があります。農学部水産学科では、自然と調和した水産学を志向し、増養殖、漁業、水産物加工・流通業などの水域の食料生産に関わる分野から、水産業に密接に関わる水域生態系の評価・保護・改善・修復・共生などの環境保全まで、幅広い水に関わる分野の教育をおこないます。
具体的には、下記に示す内容を学習・教育の目標としており、水産学科のカリキュラムは、ここに示すA群からH群までの８つの柱に沿って、それぞれの基礎から専門性の高い内容まで、確実に学習できるよう配当しています。

A群　科学知識の基礎を習得し、様々な生命活動を理解する
B群　水域における多様な食料生産システムを地球的視野から理解し、応用できる
C群　水域の環境保全の重要性を生物・環境の両面から認識し、多面的に考える
D群　世界における水産資源の利用方法を修得し、その流通を含む食料問題への対応力を養う
E群　学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する
F群　水産技術者として必要な世界観・倫理観を身につける
G群　水産技術者として必要な論理的記述力、口頭発表力、コミュニケーション力を身につける
H群　水産技術者として必要なデザイン能力・自主性・計画的遂行力を身につける

【水産学科のカリキュラム編成上の特色】
農学部のカリキュラムは、学部共通である共通教養科目・専門基礎科目・外国語科目、そして学科ごとの専門科目から構成されています。
水産学科の専門科目は学習・教育目標に定めたA群からH群の項目を系統的に学習できるよう、それぞれ目標に沿ってAからHまでの内容別に科目が配当されています。例えば、A群Ⅰ（生命科学系）では、『魚類生態学』や『魚類環境生理学』といった水域の生物学に関する基礎から専門性の高い内容まで合計13科目が開講され、学生はそれらの中から自分が興味を持つ６科目以上を選択することになっています。
また、実学である水産学を机上の学問とするのではなく、必ず現場における実践を意識するため、実験室レベルにおけるカリキュラムに加えて、養殖魚の生産・水産物の製造・流通などを体験・見学します。そのため、E群（学内外の諸施設を利用した実験・実習・見学により実践力を修得する）では多くの実験、実習科目が選択科目として開講されています。その例として、白浜実験場で実施する『養殖学基礎実習』や『水族環境学実験』などがあります。さらに『潜水技術論』や『小型船舶操縦法』といった、将来に向けたキャリア形成のための資格取得が可能な選択科目も開講されています。
【その他の特色】
水産学科発足時にその母体となった近畿大学水産研究所は、和歌山県に白浜実験場や浦神実験場など４カ所、また富山県と鹿児島県にも各１カ所の実験場を持ち、我が国で現在行われている魚類養殖方法の多くを開発したフロンティア的存在です。水産学科の授業においても、水産研究所のフィールドや実験施設、宿泊施設を利用した多くの実験、実習科目を開講しています。このように大規模な飼育施設を備えた実験施設は、我が国は元より世界的にも類を見ず、学生達は恵まれた環境で実践的な教育を受けることが可能です。
【応用生命化学科の学習・教育目標】
応用生命化学科では、「生物を化学的視点から理解し、豊かな未来を創造できる人材を育成する」ことを教育目標としています。
本学科では、化学の立場からライフサイエンスの知識と技術を習得し、食糧・生命・環境の分野で発生する「様々な課題を解決できる能力」を身につけ、より良い社会生活の実現に貢献できる技術者・研究者の育成を行い、国際的に活躍できる人材の養成を目的としています。
したがって、基礎学力から応用研究を行う実践的な能力までを確実に４年間で習得できるように講義を実施するとともに、実験や演習の時間を豊富に設け、知識・技術を確実に身につけることができるように配慮しています。また、これらの技術者に必要な情報処理や英語力の養成にも力を注いでい

ます。
　これから深刻になる食糧・環境問題に対処するため、化学と生物学の基礎を体得した実践的な技術者がますます必要になっています。応用生命化学科では人間生活の質の向上のため、食糧、生命、環境を化学的な視点から解明し応用へと導き、未利用資源の利用と再生に関する教育、研究を行います。そのため、生命現象を化学的に理解し、高度な先進的技術を習得させ、基礎から応用まで幅広く学べることを特徴としています。
【応用生命化学科のカリキュラム編成上の特色】
　応用生命化学科では、１年次から全学年にわたって専門科目が配されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に計画された一貫教育を受けることになります。
　１年次では、主に専門科目を受ける上で必要となる基礎科目、語学能力の習得を目的とした科目ならびに「物理学実験」、「生物学実験Ⅰ」が配されています。
　２年次からは、１年次で学んだ知識を基盤として化学系の専門科目、生物系の専門科目及び「化学実験Ⅰ」、「化学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅱ」、「生物学実験Ⅲ」が配置されています。また、ゼミ形式で少人数の専門英語の授業も始まります。
　３年次では、専門科目の要素も濃くなり、また研究室への配属も決まり専門科目実験が配置されています。専門英語については興味ある英語の論文を読ませ、この内容を要約して各人が発表するカリキュラムも配置されています。これらは「卒業研究」や卒業後社会で通用するためのより実践的な知識を身につけるためです。
　４年次では、「専門演習」と「卒業研究」を配し、学術的な研究を先生の的確な指導と、大学院生のサポートのもとに行います。英語の論文も積極的に読ませるようにし、未知の分野を研究することで、これまで学んだ専門知識や技術を遺憾なく発揮し、自力で問題を解決する訓練を行います。これによって、多くの困難を自分の力で解決できる専門職業人としての力を身につけることができます。
【その他の特色】
　応用生命化学科では、実学教育にも力を注ぐ観点から、2006年に学科独自で酒造免許を取得しました。これにより、２年次以降の学生実験では清酒やワイン、ビールの試醸実験、食用きのこ類の栽培実験、乳酸発酵によるヨーグルト、納豆菌による納豆の試作などを取り入れ、ものづくりの楽しさと、生物・微生物の行う発酵や形態形成の機能とその化学的なメカニズムの解明を行っています。
【食品栄養学科の学習・教育目標】
　食品栄養学科では、「人間の基本要素である食、栄養、健康に関する多様な問題に取り組み、人々の生活を豊かにできる人材を育成する」ことを教育目標としています。
　超高齢社会に入り、生活習慣病が大きな社会問題となっております。生活習慣病を予防して、健康寿命を延ばすための施策がとられていますが、この計画で指導的な活躍が期待されているのが管理栄養士です。そのためには、より高度な専門知識と技術を習得した資質の高い管理栄養士の養成が求められています。食品栄養学科では、学内に医学部・薬学部を併設する数少ない管理栄養士養成施設として、特色ある実践教育を展開しています。医療、保健、教育、福祉などの現場で独自に高度な対人栄養指導ができ、病院などでは医師をはじめ専門スタッフと共に医療チームを構成して栄養管理が出来る管理栄養士を養成することを目標としています。
【食品栄養学科のカリキュラム編成上の特色】
　カリキュラムは基礎から専門へと積み上げ方式で編成されています。本学科のカリキュラムと教育の特色を下記に示します。
１　臨床系を強化したカリキュラム
　人体の基礎を理解する解剖学、生理学、栄養学等の基礎科目、現場での臨床・カウンセリング系科目及び医学部・病院での実習科目を多く取り入れたカリキュラムを設定。
２　総合大学のメリットを最大限に活かした教育支援体制
　医学部・病院、薬学部等との連携で医学・医療・健康面の基礎から実践的な教育を実施。
３　学内２病院（近畿大学病院、近畿大学奈良病院）での充実した実習
　３年次では臨床栄養学実習Ⅱ（一日病院体験）を、４年次では臨地実習Ⅱ・Ⅲ・Ⅵを行っています。
４　研究能力・情報収集能力育成の強化
　資格取得だけでなく、研究やプレゼンテーションの能力も合わせもった管理栄養士を養成するた

め卒業研究や演習を設定、特に自主的に学び、問題解決能力を高めるための演習を充実。

5　国家試験対策講座
管理栄養士になるためには「管理栄養士国家試験」に合格しなければなりません。卒業生全員の国家試験合格を目指して３年次から模擬試験を実施し、４年次には特別講義で国家試験対策と実力の強化をはかるとともに、個別指導も行なっています。

6　少人数教育
本学科の学生は目的意識が明確であり、その上に実験・実習は１クラスおおむね40人単位で行なっているので、学生は極めて緊張感のある状況下で受講できます。

【その他の特色】

1　職域に対応した多様な資格取得が出来るカリキュラムを準備しています。
（例）栄養教諭、食品衛生管理者、食品衛生監視員

2　より高度な管理栄養士を目指すものは、本学農学研究科や他大学大学院に進学しており、修士や博士の学位をもった管理栄養士を養成します。

3　学外実習では社会人としての振る舞いが要求されます。礼儀作法は管理栄養士養成にとって大切な教育の１つであります。日常生活における基本的な礼儀作法と正しい言葉使いを身につけることにも注意を払っています。その大切さを認識させるために各職域の現場の管理栄養士の生の声を聴くことができる講演会なども実施しています。

4　管理栄養士は、対人栄養指導を行ないます。そのためには、相手を思いやるこころ、自身の品格を高めることも大切です。調理学実習・総合演習の一環として、西洋料理（１年次）、日本料理（４年次）の本格的な食事の作法をレストラン、料亭の専門家から学ぶことも行なっています。

【環境管理学科の学習・教育目標】

環境管理学科では、「グローバルな視点から、人間と生態系の共生を目指した、環境マネージメント能力を有する人材を育成する」ことを教育目標としています。

環境をめぐる問題は分野や地域を超えた総合的な問題であり、その軽減・克服のためには、従来にも増して総合的な視野を持つ専門家の育成が求められています。このような時代の要請に応え、人類社会の持続的な発展に貢献するために、この環境管理学科が発足しました。未来社会を創造する上で、あらゆる社会経済活動と自然環境との調和が不可欠です。本学科ではこの視点に立脚して、生物を指標とした環境や生態系の評価、その評価に基づく環境の保全と修復、資源の持続的な利用及びこれらを具体化するための政策立案にいたるまでの環境管理にかかわる一連の流れについて教育及び研究を行います。

環境管理学科の教育の特色は、環境管理に関する一連の知識を養うために、生態学を共通の基礎学問としつつ多様な専門分野の授業を行うとともに、問題解決のための手法を広く学ぶことができるように工夫している点にあります。１、２年次には、環境問題について広く学ぶとともに、生態系評価のため、森林や動植物の調査方法について遺伝子レベルから景観レベルまで学びます。動植物をとりまく環境については、水圏や土壌圏における様々な物理条件の測定方法や化学分析手法について学びます。また、環境経済や環境関連の法律についても学ぶことができます。これらを組み合わせることで、環境の保全、修復、持続的な資源利用について提言できる人材の養成を目指します。理論だけでなく実践を重視しているため、１年次から４年次までを通した実験・実習では、キャンパス里山から沿岸環境までの多様なフィールド調査を行います。さらにワークショップなどによる社会調査演習を充実させているのも特徴です。知識の集積と野外での実体験の双方から、環境に関する情報収集力、ＧＩＳや統計ソフトを用いた解析技術、政策実践力の習得が可能です。環境問題は国際的な問題であるため、一部の講義、演習で導入する英語による授業や海外調査・研修、短期留学制度を活用して英語力を身につける機会も設けています。

このように、確かな知識と技術力を身に付けることによって、環境問題にかかわる技術者、研究者、政策担当者、企業人、ＮＰＯ等の関係者として国際的に活躍できる広い視野を持った人材を養成することを目標としています。

【環境管理学科のカリキュラム編成上の特色】

環境管理学科の専門科目は、１年次から４年次まで全学年にわたって配置されており、学生は入学してから卒業するまで綿密に検討された一貫教育を受けることができます。環境管理学科では、実験室における環境測定・評価技術や統計処理法の習得と、フィールドにおける観察や実習の双方を重視

していることが特色です。なぜならば、環境問題は多岐にわたるレベルを包括しており、また一つの側面からだけでは解決できない問題だからです。

１年次では生態学や環境管理に関わる専門科目について広く学ぶとともに、後期には環境管理学基礎実験・実習Ⅰが行われ、近畿大学奈良キャンパスの里山を中心としたフィールドで環境測定技術の基礎を習得し、身近な生態系の仕組みや生物多様性の理解に努めています。

２年次では、水環境学、植物生態学、環境微生物学、森林管理学など、幅広い専門科目の選択肢の中から自分の興味に応じて講義を選択することができます。講義に加え環境管理学基礎実験・実習Ⅱを通して、さらに専門的な環境測定技術の習得に努めます。

３年次からは、水圏生態学、生態系保全、環境化学、森林資源学、国際開発・環境学、環境政策学の６研究室のいずれかに配属され、専門科目を学びながら研究室のゼミで卒業研究に向けた準備を開始します。また、研究を進めるために必要な英語力を培うため専門英語の授業も開始され、英語論文の読解や英語での発表などが行われます。

４年次では､学生生活４年間の集大成である卒業研究を中心に取り組みます｡大学内の里山を含め、国内外を問わず学生一人一人がテーマを持って卒業研究を進めます。学生によっては卒業前に学会発表を行います。

奈良キャンパスの里山には、各種絶滅危惧生物をはじめ、多様な生物が生息しています。環境管理学科では、この里山環境を最大限に活用して卒業研究や実習に取り組んでいるのも大きな特色です。棚田の修復や里山林の下刈り、間伐等の実習により里山と人間社会との関係を深く理解するだけでなく、こうした体験や技術は海外での調査、研究、指導にも役立つことが実証されつつあります。キャンパス内に豊かな里山が存在することは、特に環境管理学科の教育、研究において多大な効果を与えています。

【その他の特色】

国際的な環境問題、食料問題の実情を体験することを目的として、「海外調査・研修」を実施しています。また、さまざまな環境問題の特性に対応できるよう、複数の教員による「環境管理学概論」を開講し、社会的な関心の強い問題や時代の先端を切り開くような先進的な取り組みを学びます。さらに、特別演習において社会で活躍するＯＢ・ＯＧを招聘し、キャリア開発につながる進路研究を行います。

【生物機能科学科の学習・教育研究目標】

生物機能科学科では、「未来を拓く最先端バイオ技術で、世界の食料、環境、アグリバイオ分野をリードする人材を育成する」ことを教育目標としています。

近年のバイオテクノロジーの進歩はとどまるところを知らず、日進月歩の勢いで新しい知見が生み出されています。その上、新しい技術や方法論が開発され、ＩＴやナノテクなどを始めとする工学的な技術革新も近年のバイオテクノロジーに大きな影響を及ぼしています。本学部生物機能科学科は、このようなバイオの世界の多次元の変化に対応しながら、国際的な競争力をもつ、最先端バイオサイエンス教育、研究を行う学科として設置されています。本学科では、生物科学の諸問題あるいは食糧・環境・生命といった問題を、幅広い視野に立って理解でき、独創的なフロンティア精神とリサーチマインドを兼ね備えた学生を養成します。また、最先端バイオサイエンスの基礎から農学への応用・実用化までを取り入れた一貫教育・研究システムにより、21世紀の日本バイオ産業を興隆し、実践的なバイオテクノロジー技術を習得した技術、研究者を養成します。新しい知見や技術をなるべく早い段階で導入していくために、他の先端技術研究機関との連携を強め、常に外に向かったオープンな特色をもつ学科として教育研究を行っています。さらに、自然科学的知識だけではなく、アグリバイオ技術の実用化に必要な社会的知識、バイオビジネスなどに関する教育、また英語能力の向上のための教育を強化し、地域産業のみならず世界に通用する人材の育成を目指します。

【生物機能科学科のカリキュラム編成上の特色】

１年次では、生物学基礎、化学基礎、物理学など、それぞれの学問分野を全体的に概観する科目を履修し、入学以前に該当科目を学んだ経験のない学生が、それ以降の専門科目を支障なく学習できるように準備します。基礎知識の修得は、細胞生物学、分子生物学、動物発生学、生物化学Ⅰ、植物生理学基礎、有機化学Ⅰなどの専門基礎科目から始まっていきます。これらの科目は、２年次以降に配されている展開科目を履修する上で欠かすことのできない基礎知識を提供するものとなっています。１年次に組み込まれている物理学実験及び生物有機化学実験の二つの実験科目も、これらの基礎知識

を補足するものとして重要な科目です。さらに、少人数でのゼミ形式での授業（基礎ゼミ）を実施し、双方向的な討議を通して、口頭発表や質疑応答の方法について習得します。

２年次からは本格的な専門的基礎知識の習得に力を注ぐことになります。まず、総合的な専門基礎知識を得ることを目的として、生物化学Ⅱ、有機化学Ⅱ、生体物理化学、分子遺伝学、動物発生学などの科目を修得します。実験科目としては、細胞工学実験及び遺伝子工学実験を通して基礎知識を深めていきます。さらに２年次後半からは、いよいよ専門知識の中にも応用的な側面がかなり含められるようになります。本学科は生命科学に関する最先端の知識や技術を学び、「医療」、「創薬」、「食糧」、「エネルギー」などの分野から構成されており、それぞれの分野で特異的ないくつかの講義科目を準備しています。これらの科目は３年次後半に至るまで順次開講されていくことになります。各分野の研究に必要な実験技術は、バイオサイエンス専門実験Ⅰで２年次後半に学ぶことになります。

３年次には、バイオビジネス論、バイオビジネス実習、アグリバイオ実習の特徴的な科目が配されています。これらの科目は、生産業としてのバイオサイエンスを講義として、さらには野外にて学ぶことを旨としています。自然科学的知識だけでは、バイオサイエンス技術の実用化は不可能であり、それにふさわしい社会的知識をも修得させ、総合的な知識をもつバイオサイエンス技術者の養成に取り組みます。また、３年次からは上で述べた四つの分野の各研究室に正式に配属されることになり、バイオサイエンス専門実験Ⅱ及びⅢ（それぞれ１単位ずつ）を通して、各研究室ごとに専門的な技術を学んでいくことになります。各研究室への配属後は、専門英語Ⅰ、Ⅱ（３年次）や専門演習Ⅰ、Ⅱ（４年次）を通して、バイオサイエンス関連英語の理解力の向上が図られ、研究論文の読み方、書き方、さらにはプレゼンテーション能力の向上をも目指します。

４年次においては、各研究室に配属された学生に対して、卒業研究のテーマが割り当てられ、各学生が当該研究室の教員の指導の下に研究を遂行していくことになります。

【その他の特色】

３年次以降、特別講義を開講し、学内外の先端技術研究機関より講師を招聘し、最先端の研究成果や方法を学ぶ機会とします。また、本学科カリキュラムの中には、バイオサイエンス研究に必要なコンピュータ技術を学ぶ実習（バイオインフォマティクス演習）が組み込まれており、バイオサイエンス関連の実用英語やＩＴ関連技術も学べるように工夫しています。さらに、細胞（動物、植物、微生物）や哺乳類の受精卵の培養技術を習得させ、先端的バイオ関連機器を習熟させ、高度な研究の機会を学生に提供します。

【医学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

本学の建学の精神と教育の目的に沿って、医学部の教育研究の理念・目的を「人間性豊かで知識、技能に優れた医師を育成します。さらに研究や診療を通じ、医学の進歩に貢献し、豊かで健康な社会の創生に寄与する」としています。

医師は直接人命を預かる職業ゆえに、高度な専門知識や技術とともに、高い人間性と道徳的責任感が要求されます。診療には高度の医学的知識と医療技術の修得が要求されますが、高度に進歩し、情報量の極めて多くなった知識・技能は必要最低限を把握するだけでも至難であり、しかも現時点での最新・最高の知識でも時間の経過とともに時代遅れになるのは必至であります。ここに医師を目指す者が基礎的な知識・技能の習得と同時に、自ら問題を解決する能力の養成が求められる理由があります。

【医学部の学習・教育目標】

上記医学部の理念・目的と現代社会の多様な期待に応えうるため、本学部の学習・教育目標として医師の養成、高度先進医療を提供する特定機能病院としての機能の維持、健康な社会の創生に寄与する医学研究者の育成を掲げています。

具体的な学習・教育目標を次に列挙します。

１　近畿大学医学部の社会的評価の向上。

（１）　社会が求め、学生が満足する教育を施行することにより、医師としての高い評価を得る卒業生を可及的多数送り出す。

（２）　基礎系教授懇談会や教授会の議論を多くして、また少人数制の責任指導教員の活動を通して、良き医師になるための全人的教育の機会を増やす。

（３）　小人数の学生を担当する指導教員制度を通じ学生の生活習慣を良好にし、自学自習の意識を高め、良き臨床医として社会で貢献出来る学生を輩出する。

（４） 本学卒業生のみならず他大学卒業生も可及的多く、本学部・病院の大学院生や研修医を希望するような教育・診療・研究実績を作る。

２ 臨床実習の教育を充実させ、地域中核病院として、医療を社会に還元するため、高度先進医療を実施する。

３ 教育・診療を十分に行いながら、ＣＯＥクラスの研究を育てる環境を作る。

【医学科カリキュラムの編成上の特色】

医学部は、本学の建学の精神と教育の目的に沿って、しかも「21世紀にあるべき医学部像」を探求し、先取している点が本学部の長所です。すなわち学生が自ら問題点を探し出し、解決する能力を養成すべく、ｅａｒｌｙ ｅｘｐｏｓｕｒｅとして１年次では外来患者さんのエスコートなどを中心とした病院実習を行い、また２年次では看護師とともに病棟での病院実習を行って、良き医師になるための動機付けを行っています。また、医学情報の飛躍的な増加に対応すべく、学生が主体的に問題意識をもって学習するテュートリアルシステムを医学教育全般に導入しているところに本学部の教育カリキュラムの特徴があります。

また、全人的教育を目指して、生命倫理やコミュニケーション、医療安全などプロフェッショナリズム教育を複数年にまたがり実施するところも本学部のカリキュラムの長所です。地域医療教育として１年次には学外施設実習、５年次と６年次に和歌山県串本町で地域密着型地域医療教育（平成17年度文部科学省医療人ＧＰ採用）を実施しています。

具体的なカリキュラムは１年次の教養教育、準備教育を経て、２～６年次の医学専門教育に移行しますが、２～４年次では自律的に獲得する問題基盤型テュートリアルを中心として教育し、５～６年次で臨床の現場で患者さんの診療を基盤とした診療参加型臨床実習を行います。また、２～４年次に臨床実習入門のためのコースを設け、シミュレーションラボを活用しながらワークショップも取り入れ、臨床の場で役立つようカリキュラムを編成しています。その結果、

１ 医師に必要な基礎的な知識・技能の習得

２ 自ら問題を解決する積極的な学習態度の養成

３ 広い学問的視野の育成

４ 奉仕の心と協調精神の涵養

５ 豊かな人間性と高邁な倫理観・責任感の養育

という５大教育目標に到達出来るよう、６年間に開講されている多くの授業科目に分散しつつ、最終的に臨床実習を通して体系化出来るカリキュラムとなっています。

【生物理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】

（１） 教育理念：

生物理工学部は、生物系と理工学系の伝統的な科学・技術に裏打ちされた学際的な先端学術分野に係わる未来志向の教育と研究を通じて、高度な専門能力、豊かな教養に基づく独創的な創造力、そして高い倫理観と自主独往の精神を兼ね備えた人格の陶冶を理念とし、地域及び国際社会との連携や人類社会の福祉と持続的発展に貢献できる人材の育成を目指します。

（２） 教育目的：

生物理工学部は、次に示す人材の育成を教育目的として、教育研究に邁進します。

１ 生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤に、人類の発展に貢献できる独創性と創造性を備えた人材

２ 最先端の学問研究を果敢に追及し、21世紀の課題の解決を志す人材

３ 社会や科学技術に対して高い倫理観を有する人材

４ 自然との共存・共生を目指した持続的可能な人類社会の発展に貢献できる人材

５ 実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材

【生物工学科の学習・教育目標】

生物工学科では、人間をとりまく有用な生物、とくに植物や微生物を対象として、それらが示すさまざまな生命現象を、分子・細胞から個体・集団のレベルにわたる幅広い視点から理解するための教育を行い、生物学的手法に工学的手法を取り入れた、最新のバイオテクノロジーに対応できる技術者と研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１ 特定の生物学的分野に関する深い知識はもちろん、情報処理やシステム制御などの工学的手法をもとりいれた分野横断的な視野をもつ人材を育成する。

２　人類にとっての最大課題である食糧増産、人間の医療や福祉への貢献、種々の環境問題に対する生物学的対処などの地球規模の重要な課題解決を志向する人材を育成する。
３　社会的観点から、生物工学的技術のあり方と価値を適切にとらえる能力を涵養する人材を育成する。
４　長期的かつグローバルな視野をもち、様々な状況に適応できる人材を育成する。
５　世界からの情報の収集および世界へ向けての発信などを遂行できる能力をもつ人材を育成する。

【生物工学科カリキュラム編成上の特色】

上記の目標達成にむけて、１年生ではまず生物に対する興味や関心を喚起するため、多様な分野における現状と展望を概括します。これに基づき、生物工学における共通した手法、基盤となる専門科目、さらに各種の実験や実習を、１～２年生より履修します。さらに専門性を深めるために、３年生から生物工学の幅広い分野をカバーする研究室へと分属し、専攻科目演習や４年生での卒業研究論文作成に臨みます。

本学科では、核酸・タンパク質等の生体物質の解析から生物生産技術開発・環境工学等にわたる、幅広い生命現象の分子的基礎およびその活用技術を学びます。このように、広い入り口から深い出口へと進むことのできるのが、本学科におけるカリキュラムの特色です。

【生物工学科の教育におけるその他の特色】

本学科を卒業した学生の約３割は、大学院へと進学し、専門的能力をさらに研鑽しています。主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

その他の進路としては、食品、医薬品関連企業や、種苗会社、農業協同組合などの農業生産関連分野等があげられます。

【食品安全工学科の学習・教育目標】

食品安全工学科では、「食」を科学的・工学的知見に基づいた概念で捉えた教育を行います。「食」を安全で機能的に優れたものにするための知識と技術を身に付け、それらを食産業社会に還元できる実践的な技術者と研究者を育成のために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　生命科学を基盤とした基礎的な教育研究から、生命工学を基盤とした応用化・実用化およびイノベーションの創出までを視野に入れた実学的な知識を身に付けた人材を育成する。
２　食に関する情報を科学的に評価して、工学的に応用できる人材を育成する。
３　食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材を育成する。
４　食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材を育成する。
５　食品産業の企業倫理と生命倫理を正しく理解し、責任を持って行動できる人材を育成する。

【食品安全工学科のカリキュラム編成上の特色】

食品産業の研究者・技術者、食品衛生関連の指導者・コミュニケーター、国・地方の行政官など食の安全の分野の専門家を育成するコースは、欧米の大学には見られるものの、アジア諸国を含めて世界的にその専門家は不足しています。食品安全工学科では、食品の生産、加工、流通、保存過程の安全性や生産現場の環境保全など食全般の安全管理にエンジニアリングの視点から携わる人材､および、食に関わる生理や機能解析を基に食品と人間の健康との関連付けを食品工業に応用できる人材の育成を目的としています。分野が広範囲にわたるため、カリキュラムは基幹専門科目を食品機能工学、食生産環境、食品管理評価、応用生命工学の４ブロックに分け、それぞれ年次が進むに従い、基礎から応用へとなるよう科目を配置し、無理なく知識を広め、深めることができるようにしています。専門科目には、生物工学科や遺伝子工学科の開講科目を一部取り込み、生物資源利用や生命科学の知識や情報を得られるようにしています。また、食の安全の時代性をより深く考慮した講義科目に加え、食の工学研究に必要かつ基本的な実験手法を修得する実験科目、ならびに、世界的に通用する実践力を養うために英語教材を用いた演習科目を設けています。さらに､食品加工現場での衛生管理者として、食品産業界で注目されるＨＡＣＣＰ管理者の資格取得のためのカリキュラムも加え、学生の勉学意欲向上と実践者の育成を図ります。

【食品安全工学科の教育におけるその他の特色】

食品基礎、食生産環境、食品管理評価、食品機能工学および生命機能工学を中心とした各専門分野

をカバーする教育プログラムを充実させ、生産現場（食素材）から食卓（食品）に至る「食」の安全性と機能性を高めることを目的に、分子生物学、生化学、安全学などの科学科目と、保全工学、微生物工学および機能工学などの工学科目を基にした教育と研究を実施します。本学科は、近畿大学21世紀ＣＯＥプログラム研究拠点となった大学院生物理工学研究科の生命科学の基盤を踏襲し、世界に通用する「食」のテクノロジストの育成を実施することから、中央教育審議会で提言された高等教育の多様な機能のうち、世界的研究・教育拠点および高度専門職業人養成の機能を重点的に担う学科を目指します。

【遺伝子工学科の学習・教育目標】

遺伝子工学科は、遺伝子工学の技術を人類に役立てるために、分子生物学的手法を用いて遺伝子と生命の多面的・総合的な探求を行い、食物生産、医療、環境などの分野で貢献できる技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　遺伝子工学の科学的発展に寄与するため、生物学と理工学の融合的あるいは学際的研究を基盤にした教養を身に付け、独創性と創造性を備えた人材を育成する。

２　生命を総合的に理解して、遺伝子工学の最先端研究に挑戦することで、21世紀の課題である食糧・医療・環境問題の解決を志す人材を育成する。

３　遺伝子工学の技術と利用において高い倫理観を有する人材を育成する。

４　遺伝子工学に基づく生命理解の深化から、自然との共存・共生を図った持続的可能な人類社会の発展に貢献する人材を育成する。

５　世界中で開発競争されている遺伝子工学の分野で、実践的語学力を有し、国際的な視野と教養が涵養された人材を育成する。

【遺伝子工学科カリキュラム編成上の特色】

本学科には、分子遺伝学、発生遺伝子工学、分子発生工学、分子情報解析学、応用遺伝子工学の研究部門があり、分子・細胞・組織・個体各レベルで生命現象を総合的に理解するための講義を行います。さらに、遺伝子工学科は、多くの教育研究プログラムを通じて、柔軟な思考を兼ね備えた世界で活躍できる研究者・技術者の育成を行っています。

【遺伝子工学科の教育におけるその他の特色】

本学科では、３年生後期から各研究室に分属し、４年生より卒業研究が始まります。学生たちは、教員や大学院生の親身な指導を受けながら、最先端のテーマに取り組みます。卒業後は、民間企業への就職のみならず、多くの学生が大学院に進学し、研究者・技術者としての道を歩んでいます。なお、主たる進学先である近畿大学大学院生物理工学研究科生物工学専攻は、平成14年度文部科学省「21世紀ＣＯＥプログラム」、平成19年度「大学院教育改革支援プログラム」に採択されています。

【生命情報工学科の学習・教育目標】

生命情報工学科では、通信・システム・情報科学を基盤にして、ミクロな生命情報からマクロな生体システムまで統合的に理解すること、生物の優れた構造や情報処理機能を通信・システム・情報科学分野に応用すること、さらにこの成果を「健康・医療」などの人間生活に直結する分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。

１　生命の「仕組み」と生体としての「営み」を、通信・システム・情報科学を基盤にして統合的に解明し、これを工学分野に応用して、新たな科学技術を創成し得る人材を育成する。

２　通信・システム・情報科学を基盤に、生物から学んだ知見を取り入れて、将来生じるであろう未知の課題に対して積極的に対応し、解決ができる人材を育成する。

３　高度情報化及びポストゲノム時代に対応でき、技術力に裏付けられた高い倫理観を持った通信・システム・情報科学に関する技術者を育成する。

４　１の成果を利用し、「健康・医療」、「福祉」、「環境」、「安全」をキーワードとする分野に応用、還元することを目標とし、人と環境に優しい技術者や研究者を育成する。

５　国際的に目覚ましく発展する、生命科学及び通信・システム・情報科学の理解に必要な、読解力と論理的思考力を有する人材を育成する。

【生命情報工学科カリキュラム編成上の特色】

通信・システム・情報科学を基礎に数学・統計学、生体工学、感性工学、分子生物学、脳・神経生理学などを横断的に学び、これらを統合したシステム生命科学に到達すべく、教育課程を編成してい

ます。
数学や物理が主体の専門基礎科目の上に通信・システム・情報科学に関する専門科目を積み上げ、さらに２年生から先端専門科目を用意し、個別指導体制の充実を図っています。実技を磨くための実験や実習・演習科目も多く、また、企業や他大学から招かれた講師による先端技術に関する特別な講義も用意されています。
「生命」の全体像を統合して扱う知識と技術を幅広く学修するため、専門科目では「学科基礎科目」を中心に、以下の２つの科目群が設けられています。
○　生命情報科目群
通信・システム・情報科学を基盤に、ＤＮＡ、ＲＮＡ、タンパク質などのミクロな生命情報を単に配列情報として扱うだけでなく、コンピュータシミュレーション技術を駆使して、そのダイナミクスをシステム論的に捉えるための知識と技術を学修します。
○　生体システム科目群
視覚・聴覚などの五感や、脳波・心電・筋電などのマクロな生体情報から生体システムを理解するための知識と技術を、通信・システム・情報科学の観点から学修します。
【生命情報工学科の教育におけるその他の特色】
本学科のカリキュラム編成はＩＴパスポート、基本情報技術者、バイオインフォマティクス技術者などの資格の取得にも結びつきます。また、通信・システム・情報科学を基礎に、生命情報科目群や生体システム科目群を体系的に学び、「生命」の全体像を統合して捉えるためのカリキュラム編成であるため、医療・バイオ情報系企業への就職はもちろんのこと、日本の基幹産業である情報・電子・電気系企業を中心とした技術職への就職も拓けています。大学院への進学の道も用意されており、より先端的な研究に取り組むこともできます。
【人間環境デザイン工学科の学習・教育目標】
人間環境デザイン工学科では、人の身体寸法や形状、生理的な反応や変化、心理的な感情の変化、人の生活空間・生活環境を研究し、その結果を人と環境にやさしいモノづくりに活用するユニバーサルデザイン技術を修得する。人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン分野で貢献する技術者や技術コーディネーターを育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　人間科学、医療・福祉工学、環境科学、力学に関係した分野横断的な教育研究を通じて、より豊かな人間生活を支援するための工学技術に貢献できる学際領域のマインドを有した人材を育成する。
２　科学的根拠に基づく設計規範に立脚したユニバーサルデザイン技術を追究して、21世紀の福祉・ユニバーサル社会の構築に寄与できる人材を育成する。
３　技術者倫理のみならず医療・福祉に対する高い倫理観を有する人材を育成する。
４　環境負荷の低減を前提とする生活関連プロダクトのユニバーサルデザインを通じて、持続可能な社会の構築に貢献できる人材を育成する。
５　国際的な視野と教養を有するグローバルエンジニアとなり得る人材を育成する。
【人間環境デザイン工学科カリキュラム編成上の特色】
少子高齢化社会を迎えた21世紀において、すべての人々が安心で自立した日常生活及び社会生活を送るため、人間生活の快適性や健康と結びつくプロダクトから医療・福祉に関連する生活支援プロダクトまで、人間生活の質（ＱＯＬ）の向上を目的とした生活関連プロダクトのデザイン能力養成を目的に、以下に示す４系列の科目群を分野横断的に学び、ユニバーサルデザインの心と技術を身につけます。
○　人間科学系
人間医工学、感性や心理学、スポーツ科学といった人間科学の基礎学理を学び、生活関連プロダクトの使い心地を設計規範に取り込む技術を学びます。
○　機械科学系
材料力学、熱力学、流れ学といった生活関連機器設計のための工学の基礎を学び、高機能プロダクトを設計する能力を養います。
○　住環境科学系
生活環境における快適性や人間生活と自然環境との共生を学び、生活環境および地球環境に配慮した生活関連プロダクトの機能と構造をデザインする能力を養います。

○　ユニバーサルデザイン系
人間工学や福祉機器デザインの技術を学び、人間・生活支援に関連したプロダクトをプランニング・開発する能力を養います。
【人間環境デザイン工学科の教育におけるその他の特徴】
ユニバーサルデザイン技術の修得は、認定人間工学専門家、福祉情報技術コーディネーター、住環境コーディネーター、３次元ＣＡＤ利用技術者等の資格取得にも結びつくため、自動車、家電製品、住宅、スポーツ・健康器具、医療・福祉機器といった生活関連プロダクトの開発・設計技術者やプロダクトのユニバーサルデザインを企画する技術コーディネーターとして幅広い進路選択の可能性を有しています。工学系および医療・福祉工学系の大学院への進学も可能です。
【医用工学科の学習・教育目標】
医用工学科では、電気電子工学、制御工学、機械工学の専門知識や技術ならびに医学に関する幅広い知識を習得することで、医療福祉分野における科学技術の発展に貢献する、創造性と研究能力を兼ね備え、豊かな教養と高い倫理観を持つ臨床工学技士や技術者を育成するために、次の５項目に掲げる人材の育成を教育目標としています。
１　工学の専門知識と医学の基礎知識を備え、医療機器の開発を担うことのできるメディカルエンジニアを育成する。
２　高度な技術と専門知識に裏打ちされ、チーム医療に不可欠なコミュニケーション能力を備えた生命維持管理装置の専門家を育成する。
３　豊かな学識と優れた人間性を備え、生命に対する高い倫理観が涵養された医療従事者を育成する。
４　医療機器の操作や保守管理にとどまらず、その動作原理を熟知し、深い工学的素養を身に付けた医療従事者として、高齢化社会における人間生活の質的向上に貢献できる人材を育成する。
５　科学的な思考力と自発的に問題を解決する能力とともに、国際的視野や感覚を身に付けた、グローバルに進化する医療技術に対応できる人材を育成する。
【医用工学科カリキュラム編成上の特色】
工学と医学の融合領域における広い視野を身につけ、新しい医療技術の開発を可能にする科学的思考力を養う教育を行います。特に、臨床工学技士の資格取得に留まらない高度な専門知識を有する人材を育成するという観点から、専門基礎科目で学習した知識を、演習・実習を通してより深く理解することを目指します。また、４年次に実施する臨床実習は、医学部・病院などの学部外の医療機関において実施し、臨床現場で必要とされる実践的かつ総合的な知識や技術を修得します。一方、生命倫理に関する科目は全ての学生に必修とし、医療従事者に必要な倫理観を涵養します。
【医用工学科の教育におけるその他の特色】
本学科では、卒業に必要な単位に加え、所定の科目を修得すると「臨床工学技士」の国家試験の受験資格を得ることができます。将来の国家試験を見据えて、３年次までに、医用生体工学の基礎知識を有することを認定する第２種ＭＥ技術者（日本生体医工学会認定資格）の資格取得を目指します。さらに４年次には、臨床工学特別演習で医療チームの一員として活躍する際に重要となる、様々な角度から問題を検討・解決できる能力を養成します。卒業後は、最先端医療機器の開発に貢献できる技術者として医療機関や医療機器メーカーなどで活躍します。また、大学院に進学し、修士号または博士号を取得することで、教育、研究機関にも就職することが可能になります。
【工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
グローバル化が進み変革を余儀なくされている高度情報化社会にあって、技術者には、即戦力となる知性と技術に加え、良心と感性をもった付加価値の高い21世紀型の人材が求められています。
工学部では、本学の建学の精神と教育理念を旨として、そのような時代の要請に応えるべく、次の３つの教育目標
１　高い人格と倫理観を持つ人材の養成（人間性）
２　技術者としての専門的能力の涵養（専門性）
３　国際化時代を生き抜く力の養成（国際性）
を掲げて、長期的な視野で社会や技術の変化に対応し、持続可能な社会を実現できる技術者・研究者の育成を目指します。
そのために、工学部では、以下のカリキュラムを編成しています。
（１）　人間・文化・社会・自然・環境・健康等、多方面にわたる科目を配置して、人間尊重と公共

性の意識、国際的感覚、論理的思考力と課題設定・問題解決力、自己表現力とコミュニケーション力等をバランスよく育成し、幅広く調和のとれた豊かな教養と人間性を涵養します。

（2） 基礎教育・外国語科目：習熟度別英語クラス編成により基礎学力を徹底して身につけさせるとともに、系統的な科目配置とバランスのよい講義、演習、補習等の実施により、異文化への関心、実践的な語学力及び国際的視野を身につけさせ、国際性を育成します。

（3） 専門教育科目：分野及びレベルごとに階層化した専門基礎科目群と専門科目群、さらに分野間を繋ぐ科目群を系統的に配置し、幅広く応用可能な専門能力を身につけさせます。創成的内容を取り入れた演習・実験・実習と研究室での産学連携の共同研究等から、産業界に貢献できる実践的な専門性を育成します。

（4） 特修プログラム：「情報技術」、「教育学」、「教職課程」、「国際経営」の４つの特修プログラムを編成し、学際的な視野を育成します。

これらのカリキュラムを通して、卒業時には、ア　高い人格と倫理観とともに、専門分野の知識を基礎として、専門領域を超えて課題解決に取り組む姿勢、イ　技術者・研究者としての専門的能力を生かして、持続可能な社会を目指すための課題を発見・分析・解決する能力、ウ　表現力、論理的思考力、コミュニケーション力、さらには幅広い知識を活用して国際的視点に立って行動する能力、といった資質を身につけることができます。

【化学生命工学科の学習・教育目標】

化学生命工学科では、持続可能な社会の構築と健全で快適な生活の維持と促進に貢献できる技術者・研究者として必要な高い倫理観（人間性）、生命工学、環境化学、食品科学等の専門能力（専門性）を育成します。さらに、情報化社会に適応でき、専門分野での課題発見、解決、及び発信に資する情報基礎技術を育成します。これらを活用して国際的問題を洞察する力（国際性）を育成します。豊かな人間性と国際性を備え、判断力や指導力を発揮し社会に貢献できる人材を育成します。そのために、

１　地球と人を思いやる豊かな感性と高い倫理観を養成します。
２　国際的に通じる、筋道を立てて表現できる能力を養成します。
３　問題を提起しそれを解決するために行動できる能力を養成します。
４　化学や生物学の基礎知識を持ち専門知識を活用できる能力を養成します。
５　工学領域のみならず医学、農学分野に跨った問題に情報科学技術を活用して対処するために必要な化学及び生物学に対する理解能力を育成します。

化学と生命科学分野を融合した「ものづくり」の観点から、豊かで健全かつ快適な持続成長可能な社会構築を実現するために、（1） 機能性素材、副作用の少ない医薬品、機能性食品の開発、（2） 健康維持のための食の安全・安定供給の確保、（3） 限りある資源の有効な活用と再生可能な資源の利用、（4） 環境保全のための環境分析に関連した教育・研究に取り組みます。

【化学生命工学科カリキュラム編成上の特色】

化学生命工学科のカリキュラムは、化学、生物学、環境化学、食品科学の知識や技術を総合的に身につけ、持続成長可能な社会を実現するための技術を修得できるように編成されています。１・２学年には総合科目、工学基礎及び化学と生命科学の基礎全般を学修するための専門基礎科目を、３学年には生物工学、環境化学、食品科学の専門知識や技術を養成するための専門科目を設けています。また、現在の社会で必要とされる技術者・研究者としての高い倫理観と国際性（教養・コミュニケーション能力）を４年間を通じて継続的に身につける科目を設けています。さらに、全学年に情報技術を活用する科目を配置し、開講専門科目では、専門科目の特徴的な情報技術を縦断的に学習します。

化学生命工学科では、相互に深い関連を持つ以下の３つのコースを設置し、学習分野を明確にしています。

化学・生命工学コース（ＪＡＢＥＥ認定コース　2006年度より継続）

化学、生物学及びその複合領域の専門科目を縦断的に学び、その知識を複合的に応用し問題を解決する能力を身につけます。

環境・情報化学コース

環境化学、化学、生物学等の専門分野を学び、これら分野の専門知識と情報技術を活用した問題解決能力を身につけます。

医・食・住化学コース

食品科学、化学、生物学等の専門分野を学び、これらの分野の専門知識を活用し健康かつ文化的な生活維持に係る問題解決能力を身につけます。

【機械工学科の学習・教育目標】

機械工学科では、機械工学の基礎知識を足場にした「ものづくり」のできる能力、国際化時代を生き抜く行動力と倫理観を持つ機械技術者を育成することを目指しています。そのため、まず、人文社会や自然科学からなる基礎教育プログラムを学修することにより、社会に貢献できる幅広い視野と倫理観を身につけることを目標にしています。また、外国語科目や専門科目を学修することにより、国際化時代を生き抜く能力を養成します。そして、機械技術者として国際的に活躍するために必要な機械工学の基礎知識と設計や生産に関する専門教育プログラムを学修することにより、機械工学の基礎に立脚した「ものづくり」のできる能力を修得していきます。特に、設計製図に重点を置き、「ものづくり」の基礎となる実学を通して、設計に関する論理的な考え方や「ものづくり」において重要な材料とその加工技術に関する深い知識と力学的思考に基づく応用力を身につけることを目指しています。これらを通して、問題を発見して、それらを解決する能力と、設計能力を備えた国際性豊かな機械技術者の育成を目標としています。

【機械工学科のカリキュラム編成上の特色】

機械と人間の共存することに立脚した機械の設計に対する考え方が重要になってきます。さらに、環境にやさしいエネルギーによって機械を稼動させることなど、これからの機械技術者にはインフラの整備も含めた多くの課題が提示されます。このような現状を考慮し、機械工学の基礎学問と設計に関する専門知識を広く学び、かつ、設計製図に重点をおいて能力を養成していきます。また、「ものづくり」の基本となる実験や実習を通して設計に関する思想や技術が身につけられるように、カリキュラムは構成されています。さらに、機械とエネルギーの関連性を考慮した深い知識と考察力や応用力を身につけることができ、幅広く国際的な工学知識と倫理観をもつ専門職業人へと育成できるように、カリキュラムは構成されています。

1　実学重視：設計製図、工学実験、工作実習などにより、座学による学習を実体験することで教育効果の向上を図ります。また、座学による講義においても演習を導入することにより、より深い理解と、問題の解決及び解決能力の向上を図ります。

2　創成科目の導入：既成の実験テキストには頼らず、自由な発想に基づき、課題に対して実験の企画、実験道具の調達と実験の遂行、データ処理、レポート作成までを、各人が資料調査をしながら達成していく実験等の創成型科目により、自由な科学的発想と目的実現手段を培い、問題発見・解決能力や表現力を養成します。

3　設計製図の一貫教育：単純な機械をテーマとしながらも、製図、機械要素及び機械設計の一貫した「ものづくり」教育を行います。

【ロボティクス学科の学習・教育目標】

ロボティクス学科では、「Ｉ　ｃａｎ　ｄｏ　ｉｔ．」をキーワードに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学など、幅広い工学知識と技術を系統的に学習できる教育プランの下で、ロボットを作り出すために必要な基礎知識と技術を修得します。これにより、様々な機能を持つロボットの開発において直面する問題を自ら解決する能力を育成するとともに、新しい機能や高度な知能化技術などを備えた新時代のロボットを開発することができる創造性豊かなメカトロニクス技術者を育成することを目指します。

この教育理念のもと、以下の５つの項目を具体的な学習・教育目標としています。

1　技術者としての社会倫理観の養成

2　工学の基礎知識の修得

3　工学の基礎知識と技術を駆使して創造性豊かなデザイン能力の養成

4　課題発見・解決能力の養成

5　論理的思考に基づくプレゼンテーション能力、及び外国語による基礎的なコミュニケーション能力の養成

【ロボティクス学科のカリキュラム編成上の特色】

ロボティクス学科では、学生が自らロボットを作る力を身につけることを目指し、学生の自主性、創造性、問題発見・解決能力を養うとともに、機械工学、情報工学、電気電子工学、制御工学などロボット開発に必要な専門知識を定着させるために、実験・実習中心の体系化されたカリキュラムの下

で、学年進行に伴う知識の積上げと専門科目間の関連性を考慮した教育を行っています。１年次にはロボットの基本構造を学びながら座学と並行して行われる豊富な実験・演習科目を通して、ロボットを製作し動作させるための基礎知識と技術を修得します。２年次にはメカトロニクスに関する要素技術を学び、さらに３年次にはその応用技術に関する専門知識を修得します。４年次には、それまでに学んだ基礎知識を用いてロボット関連の研究と開発を行うことによって問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力を養います。また本学科では、幅広い専門知識を身につけられるように、「ロボット設計コース」と「ロボット制御コース」を設けています。各コースは以下のような特色があります。

「ロボット設計コース」では、設計工学、加工学、機構学、アクチュエータ工学など、ロボットを作り出すために必要な知識と技術を重点的に修得させ、独創的なロボットを設計・開発できる人材を養成することを目指します。

「ロボット制御コース」では、情報工学、制御工学、電気電子工学、計測工学など、ロボットシステムを統合するために必要な知識と技術を重点的に修得させ、ロボットの知能化を実現できる人材を養成することを目指します。

【電子情報工学科の学習・教育目標】

電子情報工学科では、ソフトウェアからハードウェアまで、コンピュータ関連の技術を幅広く修得させることを教育の目的とし、プログラミング技術と電子回路設計能力、ネットワーク設計技術を有する技術者を育成することを学習・教育到達目標としています。

最先端のコンピュータ技術に関するハードウェアを研究するのが電気・電子工学で、ソフトウェアを研究するのが情報・通信工学です。この二つの分野をバランスよく学び、両方の分野に強い技術者になっていただくために、上のような学習・教育到達目標を本学科では掲げました。情報通信技術が高度に進化し、生活の隅々にまでコンピュータやスマートフォンが浸透した現在、社会を支える電子情報技術者はこれまで以上に重要な役割を担っていくことになります。現代の電子情報技術者には、複雑化した社会で発生する様々な問題に対して、国際的視野まで含めた柔軟な問題解決能力を身につけることが期待されています。

したがって、このような技術者には電子情報工学に関する知識や技術はもちろんのこと、幅広い教養や倫理観を持ち社会に対する責任を自覚したり、様々な問題を考察し、その結果を明解に表現し、また、自ら問題を発見してそれを解決したりする力が必要です。本学科では、このような豊かな人間性や問題解決能力・コミュニケーション能力なども、仲間と協力し合いながら楽しく意欲的に身につけることが可能な教育プログラムを有しています。

電子情報工学科では、「電気電子コース」と「情報通信コース」の二つのコースでカリキュラムを編成しています。各コースの特色は次の通りです。

「電気電子コース」では、電気・電子工学やその関連技術の急速な発達に柔軟に適応し、国際的に活躍できるエレクトロニクス産業における技術者を育てます。そのため、コンピュータ・ハードウェアに関する専門的知識はもちろん、電子機器の基礎から応用まで幅広い分野にわたるカリキュラムを構成しています。具体的には、エネルギー変換工学や集積回路、半導体工学や光エレクトロニクスなどの電気・電子工学分野の専門知識に加えて、ＩＴ時代に必要な情報技術の関連知識までを幅広く身につけます。

「情報通信コース」では、コンピュータの基礎知識からコンピュータ制御を行うソフトウェアのプログラミング、さらにはセキュリティの高い高速大容量通信を可能とするネットワークやデータベースまでＩＴ技術について幅広く学びます。ＩＴの基礎や応用のみならず、技術開発に必要なハードウェア、画像処理技術・人工知能などに関連した高度な情報技術まで修得します。実験や実習による経験を重ねて、応用力をもった即戦力のエンジニアを育てます。

【電子情報工学科のカリキュラム編成上の特色】

電子情報工学科のカリキュラムには次の３つの特色があります。

１　実践力をつけるための実験・実習科目の重視

プログラミング演習や電気・電子回路に関する実験など、多くの実験・実習科目を１学年から受講でき、実践力が早くから身につけられます。また、実習と講義との結びつきを強くしているのも本カリキュラムの特徴であり、知識が生きたものとして身につきます。

２　電気・電子工学と情報・通信工学の科目のバランスよい配置

電気・電子工学分野ではコンピュータ・ハードウェアの中心となる様々な電子機器の仕組みや、

それを作り、動かすための技術、その物理的な原理等を学ぶ科目をバランスよく配置しています。一方、情報・通信工学分野ではソフトウェア技術の中心となる種々のプログラミング手法やネットワークシステムを設計し運用する方法等を学ぶ科目をバランスよく配置しています。さらに、これら二つの工学分野間のバランスを考慮して科目を配置しているため、常に広い視野を保ちながら、両方の分野の能力を向上させることができます。

３　専門性を磨き、個性を伸ばす柔軟なコース制システム

２学年から「電気電子コース」と「情報通信コース」に分かれます。これにより、電気・電子工学と情報・通信工学の二つの分野をバランスよく勉強しつつ、独自の専門性を磨いていくことができます。

「電気電子コース」の科目では主に、電子デバイス・計測工学・電磁波工学・電気エネルギー制御などを修得するためのハードウェアの物理を身につけることができ、これをさらに磨いていくことができます。

「情報通信コース」の科目では主に、データ処理・通信ネットワーク・非線形科学・人工知能・画像処理などを修得するためのソフトウェアのプログラミングを身につけることができ、これをさらに磨いていくことができます。

【情報学科の学習・教育目標】

製造業・流通業・サービス産業等の産業界の様々な分野における経営戦略の実現を支援する情報システムを企画・設計できる能力を有する技術者を育成します。現代社会では、情報システムを戦略的に活用し経営戦略をスピーディに実行する事が、企業が他社との競争において優位に立つ必須条件です。

ＡＩ等を含む先端的な情報メディア技術を活用して安全・快適な社会の創造を支援するマルチメディアシステムを提案・開発できる能力を有する技術者を育成します。様々な分野で情報メディアを有効に活用し、情報共有・情報伝達のスピードアップが求められています。

したがって、上記技術者の育成を目標に、情報システム構築の基礎となるコンピュータ技術やモデル化技術、情報システムの企画・設計・開発技術や情報メディア技術について学習します。

【情報学科のカリキュラム編成上の特色】

アルゴリズムなど情報システムの基礎から、ネットワークを活用する方法、マルチメディア社会にふさわしい情報の表現手段、さまざまな領域にまたがる応用システムの構築法に至るまで、広く情報システムに関する基礎理論・知識・技術を修得し、問題解決能力を身につけることで、情報システムデザイナ･システムエンジニアとして活躍できる能力を育成するためのカリキュラムを組んでいます。

産業界の第一線で活躍しているシステムインテグレータや情報技術者による特別講演形式の講義を行なうことによって、現場で役立つ技術とは何か、10年後、20年後のあるべき自分を実感できるようなカリキュラムを取り入れています。

教育支援システム（ＫＳＳ）という学科独自で設けたコンピュータルームを特別に用意し、学生が自分から学習・研究を深めていける設備を使用したカリキュラムを多数組み入れています。また、企業情報システム演習室１及び２では、企業情報システムの構築を実践できる環境を整えています。さらに、システム創成演習室及びマルチメディア実習室では、使いやすい情報インタフェースを作るための３次元ＣＧや賢いインタフェースに必要な画像ＡＩを、クラウド上で体験的に開発して学習できるようにしています。

カリキュラムの体系として、工学基礎、総合、情報処理、情報システム、情報メディアと大きく区分けしており、各区分の中に個々の専門科目を配置して、系統的に学習できるよう編成しています。平成24年度より、ＪＡＢＥＥ認定プログラム（ＩＳ（情報システム）分野）となりました。

【建築学科の学習・教育目標】

建築学科では、建学の精神と教育の目的に即して、持続可能な社会を実現する未来志向の建築を設計・生産できる次のような建築家や建築技術者を育成することを目標としています。「１　豊かな人間性と総合的なデザイン力を持ち、地域社会や地域環境に貢献できる建築専門家　２　国内外における建築技術の伝統を引継ぎ、発展させる、実践的な建築専門家　３　人間と環境の時代に向けて、確かなデザイン力とチャレンジ精神のある建築専門家」

本学科の学生が卒業までに身につけるべき具体的な知識・能力として、次の学習・教育到達目標を定め、これを達成するための授業科目を履修し、具体的に明示された評価方法に基づき厳格な成績評

価を行い、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、学士（工学）の学位を授与します。
1　豊かな人間性と総合力のある技術者として（A）～（D）の能力を身につける。
（A）　環境問題を理解し意匠設計ができる（意匠設計力）。
（B）　建築計画を理解し図面作成ができる（図面作成力）。
（C）　構造設計を理解し構造計画ができる（構造計画力）。
（D）　構造力学を理解し構造解析ができる（構造解析力）。
2　実践力のある技術者として（E）～（G）の能力を身につける。
（E）　建築倫理がわかる（建築倫理理解力）。
（F）　生産管理がわかる（生産管理理解力）。
（G）　環境設備がわかる（環境設備理解力）。
3　チャレンジ精神のある技術者として（H）、（I）の能力を身につける。
（H）　チームで課題解決ができる（課題解決力）。
（I）　新しいことに挑戦できる（チャレンジ力）。
【建築学科のカリキュラム編成上の特色】
本学科では、以上のような技術者を育成するために、次のような教育方針でカリキュラムを編成し実施しています。この学修の成果として、建築専門家（一級建築士）として必要となる設計・計画、環境・設備、構造、生産の総合的な基礎知識を確実に身につけることができます。
1　豊かな人間性と総合力のある技術者を育成するために、設計教育と力学教育を両輪とする建築教育を実施する。
2　実践力のある技術者を育成するために、実学志向教育を体系的に実践する。
3　チャレンジ精神のある技術者を育成するために、体験的・挑戦的教育を実現する。
さらに、下記のようなカリキュラムの特徴によって、基礎力を確実に身につけることができます。
1　初年次の構造力学科目については少人数クラスによる徹底教育を行い、基礎的な学力を確保しています。
2　講義後直ちに演習を行う［講義＋演習］科目を多用し、知識だけでなく実際に計算ができる能力を育成しています。
3　実物の住宅を計測し図面化する授業や、与条件のもとに設計し作成した構造模型の強度を競う創成型授業、建築実験（構造・材料・環境）など、体験的学修を重視する科目を多数配置しています。
4　総合的なデザイン能力とチャレンジ精神、実学志向にもとづく実践力を育むため、複数の建築家が直接指導する設計演習科目や国際交流を目的とした集中演習科目を配置しています。
また、基礎教育科目（総合科目＋外国語科目）については工学部のポリシーに準じたカリキュラムによって、基礎力を確実に身につけることができます。
【その他の特色】
工学部では、各学科の教育目標に沿ったカリキュラムによる学習とは別に、多様な将来構想に役立つよう、どの学科に在籍しているかとは無関係に履修することができる、特修プログラムと呼ばれるもう一つの専門科目群を設けています。
特修プログラムには、情報化時代に必須の技術を実践的に学び取ることを目的とした「情報技術特修プログラム」、教育のあり方や指導の仕方を学ぶ「教育学特修プログラム」と「教職課程特修プログラム」、英語力の向上と豊かな国際感覚を養い、ものづくりの提供側と顧客側の価値共創の視点を育成するための「国際経営特修プログラム」の４つがあります。これらを学修することによって、技術者としての素養をさらに幅広く身につけることができます。
【産業理工学部の教育研究の理念と目的、育成する人材像】
近畿大学学園の建学の精神に基づいた産業理工学部は、従来の大学における文科と理科に区別された教育に対する反省から
人間主義の工学　“（Ｈｕｍａｎｉｔｙ－Ｏｒｉｅｎｔｅｄ　Ｓｃｉｅｎｃｅ　ａｎｄ　Ｅｎｇｉｎｅｅｒｉｎｇ）”
の実践を目指し、自然・技術・人文・社会が調和する文理協働の発想をもった教養ある社会人を育成することを教育理念としています。このため、本学建学の精神である実学教育のもと、技術に偏重せず21世紀が求める文理シナジー的発想とコミュニケーション力を持ったフロンティア人材を育成することを目的にしています。

実社会で活躍できる人材となるためには、専門知識ばかりではなく、社会人としての基礎能力もしっかりと身につけておくことも大切です。そのために産業理工学部では教養・基礎教育部門の共通教養科目として人間性・社会性科目群、地域性・国際性科目群、課題設定・問題解決科目群、スポーツ・表現活動科目群という四つの科目群と外国語科目を開講しています。四つの科目群では幅広い教養科目の他にインターンシップといった体験型の授業があります。外国語科目については英語、中国語、フランス語、スペイン語などのスキルアップのために習熟度別にクラス分けを行い、実践的な教育を行っています。

産業理工学部は、21世紀にふさわしい新たな学びの場として人間力を高めるためのきめ細かな教育を提供し、本当に楽しく、充実した学生生活になるような体制を整えています。

【生物環境化学科の学習・教育目標】

人類と地球環境をより良い未来へ導いていくためには、自然現象を分子レベルで理解し、問題解決していく能力が強く求められます。生物環境化学科では社会の幅広い分野で活躍できるプロの技術者を育てるため、「生物」、「環境」、「化学」をバランスよく学べるカリキュラムを用意し、講義科目だけでなく実験科目と演習科目を充実させています。生物環境化学科には次の３コースがあります。

バイオサイエンスコース：バイオテクノロジーを専門に学びます。遺伝情報の流れや、それをもとにした遺伝子医薬などの応用まで幅広く学びます。微生物を用いた実験やタンパク質を用いたバイオセンサーの実験など、種々のバイオテクノロジー全般の技能を修得します。

食品生物資源コース：食の安全と品質を守り、食料その他生物資源の有効利用に携わるエキスパートを育てる教育に力を入れます。バイオテクノロジーを基盤に、新しい食品機能の発見と健康への利用、微生物の産業利用、食品と栄養の科学について学びます。また、排水浄化と有害物質の分解、バイオマスの資源化など生物を利用した自然環境の保全修復技術も身につけます。

エネルギー・環境コース：環境にやさしい化学の観点から、地球温暖化対策、新エネルギーの研究開発、人と環境に優しい材料の開発、リサイクル技術、環境計測、環境教育を身につけます。また、導電性や磁性を持った先端材料の開発、選択的高性能化学センサーの開発、微量で特殊な化合物の検出ツールなど、21世紀を支える先端技術も身につけます。

【生物環境化学科のカリキュラム編成上の特色】

１　21世紀の最重要課題「バイオ」、「環境」、「材料」の分野で、実社会の問題を解決し新たな技術やアイデアを生み出すことのできる人材の育成を目指したバランスのとれたカリキュラムを用意しています。

２　１、２年次ではおもに生物学・有機化学・無機化学を中心とするコア科目を配し、３年次以降の展開科目で幅広い専門知識を学びます。４年次では卒業研究を中心とした本格的な研究者・技術者養成のための教育を行います。

３　１年次よりすべての学期で実験科目が開講され、充実した研究設備のもと実践的な教育を行います。

【その他の特色】

１　産学官連携による企業や公的機関との共同研究を積極的に推進しており、研究業務の実際や大学での勉強がどう生かされているのかを実感しながら勉強できます。

２　国家資格である「食品衛生管理者及び食品衛生監視員」の養成施設として当学科は認定されているほか、専門性を生かした公害防止管理者などの資格取得をサポートしています。

３　地域社会との交流による環境ボランティアや理科教育支援を積極的に行います。

４　近畿大学はもちろん、国公立大学の大学院への進学率も高く、そのためのきめ細かな指導も行います。

【電気電子工学科の学習・教育目標】

電気電子・情報通信技術は、身近な携帯電話からインターネット・自動車・航空機・ロボットなどありとあらゆるところで利用され、広く産業社会活動の基盤技術となっています。電気電子工学科では、いつまでも最前線で輝ける技術者として活躍できるよう、電気工学の基礎に始まり、応用エレクトロニクス、情報通信、クリーンエネルギーにまで広がる個別技術をハードとソフトの両面から理解し、自然や地球環境と調和した基盤技術が開拓できる技術者を育てます。電気電子工学科には次の３コースがあります。

エネルギー・環境コース：環境保全に配慮した電気エネルギーの生成や安定供給、電気設備の設置

や保全、電気電子デバイスの回路設計など、つねに社会で求めつづけられる専門知識と実践力を身につけ、社会や環境を創る・支える・守ることができる技術者を育成します。

情報通信コース：携帯電話やリモコンに組み込まれたコンピュータのソフト・ハード技術、ロボット制御技術など、情報通信社会を支える多種多様な技術を学びます。おもにコンピュータを利用した装置と装置間の通信技術を中心に、情報通信に関する理論と技術を身につけたＩＣＴ基盤を支える技術者を育成します。

応用エレクトロニクスコース：専門基礎技術を理解し、独力で知識を吸収しながら時代をリードできる、より高いレベルの「自立した技術者」を目指して、アナログ技術とディジタル技術、ハードウェア技術とソフトウェア技術、さらにこれらの組み合わせ技術に精通し、とくにコンピュータによって制御されるエレクトロニクス機器を開発する技術を修得します。さらにコミュニケーション能力と多角的視野に基づいた教養も身につけ、世界に通用する技術者を育成します。

【電気電子工学科のカリキュラム編成上の特色】

1　数学や物理の学習において高校からスムーズなつながりができるよう、補習的な講義などを通したリメディアル教育を行っています。また、専門分野へのつながりに配慮した専門基礎科目を設けています。

2　１、２年次では、電気電子分野の専門基礎科目を配置し、３年次以降に各コースに所属して、コースに応じた専門知識を教育します。

3　「電子情報設計プロジェクト」では、15週にわたり一つのテーマに関して、グループ討論による問題抽出、解決法の探索・実現を通してエンジニアリングデザイン能力を養います。

4　「電子情報工学セミナー」では、パネル発表と自己分析により、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を養います。

【その他の特色】

1　各学年複数教員の担任制で、一人一人の顔が見える学生指導体制をとっています。個人面談や授業の補習を兼ねた個別学習指導の時間として「ホームルーム」があります。

2　「知能ロボットプロジェクト」や「電気電子工学科ものづくり工房」により実践的なモノづくり教育を進めています。

3　電気電子・情報通信分野からの多くの求人があり、毎年、一部上場企業をはじめとして就職率が高く、質の高さが社会や産業界から認められています。

【建築・デザイン学科の学習・教育目標】

建築の工学とデザインの感性を磨き、高い使命感と倫理観を身につけた建築技術者と美しい建築空間あるいはデザインコミュニケーション情報を創造するデザイナーの育成をめざします。建築や都市など規模の大きなものから、住宅や店舗の設計、ポスターデザインやウェブデザインなどの身近なものまで、幅広い「モノづくり」の技術・技能の習得を目標としてカリキュラムを編成しています。また、設計意図や完成作品の特徴を多くの人に伝え、深く印象付ける能力の習得も大切だと考えて開講科目を定めています。

建築・デザイン学科は次の２コースを設けています。

建築工学コース：国際的に通用する建築技術者に育つようより高いレベルの専門知識を授けます。建築に関する包括的な専門知識に加えて、さらに建築物や地域の安全性（建築構造）、快適性（建築環境・設備）、材料・構法（建築生産）に関する建築工学の高度な専門技術を習得するカリキュラムとしています。本コースを修了することで一級建築士受験資格と共に、二級施工管理技士受験資格を取得できます。

建築・デザインコース：自分の将来設計に合わせ、建築およびデザインの両方のプログラムを発展的に学習することができるコースです。幅広い素養と建築に関する包括的な専門知識・能力を身につけて、建設関連業界で活躍できる技術者や、企画から制作までの全過程を行える技能を持ち、デザイン関連業界で活躍できる人材の育成を目標としながら、その両方の資質を有したこれからの社会で必要とされる新たな建築士・デザイナーの育成を目指します。

建築設計・施工に欠かせない建築計画、建築環境・設備、建築構造、建築生産の４分野にわたる内容と、ユニバーサルデザインを軸に情報・プロダクト・環境デザインの３分野を総合的に学習できる多彩な科目が用意されています。そのため、各学生の将来目的に応じて履修科目を選定することができます。本コースを修了することで二級建築士の受験資格を取得できます。さらに修得科目によって

は一級建築士の受験が可能となります。
【建築・デザイン学科のカリキュラム編成上の特色】
1　建築とデザインのいずれをも学ぶことができるように、設定された多様な科目から、自分の将来設計にあった科目の選択が可能となっております。
2　幅広い視野を持ち人間力のある実践的な建築技術者と総合的なデザイン力のあるデザイナーを育成するため､建築教育とデザイン教育を高度に織り込んだ斬新なカリキュラムを編成しています。
3　一級建築士、二級建築士、技術士などの建築業務に関わる資格の取得をめざすカリキュラムとしています。また、インテリアコーディネーター、ＣＧ検定などのプロフェッショナル資格をめざした指導にも力を注いでいます。建築やデザインの分野で就職し活躍していくためには、専門資格の取得は必須です。
【その他の特色】
1　設計事務所やデザイン事務所等の会社組織や実務者と連携した実践的な教育を行います。
2　演習を中心とした専門教育の多くは、少人数クラスの授業で個別指導を徹底しています。
3　学生にとって魅力があり、なおかつ社会的にも話題となっている課題を取り上げ、作品などその成果は、学外発表・展示などにより外部の評価を受け、授業改善に結びつけています。
【情報学科の学習・教育目標】
　情報が社会のあらゆるレベルに浸透し、私たちの身近な生活と切っても切れない存在であることが認められる中、情報自身は、常にその可能性を広げ、存在様式を進化・発展させ続けています。巨大化し、多様化していく情報と与し、手なずけ、役立てて行くためには、情報を扱うためのソフトウェアやネットワークの技術と知識を学ぶとともに、日々進化・発展していく情報の様々な形式に触れ、そのサイエンスとしての扱い方に慣れ親しみ、新たな情報メディアの可能性を常々考えるような習慣を身につけることが必要となります。このような技術と知識と体験を身につけた人を育成するため、情報学科では次の３つのコースを設けています。
　情報エンジニアリングコース：情報システムの構築とその分析・設計・開発に関わる知識と技術を身につけ、インターネット社会の情報基盤を開発する最前線において活躍できる人材を育成します。このため､情報技術に関する基礎知識（ハードウェア､ネットワーク､データベース､アルゴリズム）、情報システムに関わる分析・設計・運用技術、プログラミング、セキュリティ、先端技術（クラウド、組み込みなど）の教育を提供します。
　メディア情報コース：情報メディアに関する知識と、コンテンツを制作するための手続き的知識と技能を身につけ、創造産業を含む文化産業に従事できる人材を育成します。このため、社会生活における情報メディアの役割・知的財産権・インターネットサービスやビジネス等に関する基礎知識、コンピュータ音楽・コンピュータグラフィックス・ディジタル映像といったコンテンツ制作技能、Ｗｅｂデザインの手法・Ｗｅｂプログラミング・Ｗｅｂ解析技術といったＷｅｂサイトの企画・制作・運用に関する技能を修得するための教育を提供します。
　データサイエンスコース：膨大なデータから有益な情報を抽出し、分析・予測に役立てるための手続き的知識と技能を身につけ、企業のマーケティングやデータ分析に携わる部門において活躍できる人材を育成します。このため、データ分析のための基礎知識（統計解析、データの可視化、データベース）、知識発見のための手法（データマイニング、機械学習、最適化）、そして、発展技術（シミュレーション、モデル同定）に関する教育を提供します。
【情報学科カリキュラム編成上の特色】
1　カリキュラムは、各コース共通の知識となる科目群と、それぞれのコース毎に特徴的な科目群から構成されています。
2　演習科目を多数用意して徹底した実践力の修得を行います。
3　「情報学プロジェクトⅠ・Ⅱ」として、実際に社会の中で役立つシステムを構築することを目的として、ゼミ単位少人数のチームで企画、計画から設計、コスト試算、構築、実証評価までを行い、その結果をプレゼンテーションとして発表するという講義を行います。座学や演習だけでは身につけることができない社会に役立つ実践力を育てます。力を育てます。
【その他の特色】
1　就職率が高いだけでなく、特に上場企業への就職者が多いのが特長です。
2　各コースの特性に沿った資格取得を積極的に指導します。男女の差なく、それぞれの分野のプロ

フェッショナルとして幅広く活躍できますので、女子学生のキャリアづくりにも最適です。

【経営ビジネス学科の学習・教育目標】

経営ビジネス学科では、実践的な経営センスを持ち、地域や社会に貢献する人材を育成します。知識中心の組織社会化がますます進行する中で知的資源や人的資源をいかに活用していくかが重要となってきています。また近年、社会全体の価値観や利害の多様化が進み、複雑化し、それらの間の調和をいかに図っていくかが重要になってきています。このような変化のために、マネジメントに対するニーズと期待が高まってきています。また、学生の関心と活躍の場のグローバル化も起こってきています。

マネジメントについて最も必要なことは、社会における組織の使命や役割を明らかにすることです。その使命を果たし、役割を遂行するためには、二つの条件が不可欠です。一つは、組織の置かれている現状をつねにチェックし、改善を加えていくことで、革新性・創造性をもつということです。もう一つは、組織に対する社会の期待がどこにあり、社会が必要とするものは何か考えることで、それは社会性をもつということです。マネジメントのあり方は、この２つの条件、革新性・創造性と社会性によって左右されます。

このような基本的認識に立って、経営ビジネス学科では組織経営に関する理論的、実践的教育を進めています。なお、組織は、企業だけでなく、非営利組織・自治体・地域コミュニティも含みます。これらの幅広い組織の経営（マネジメント）方法について、段階的に学んでいきます。

また、社会性を養うために、マネジメントの理論や技術だけでなく、そのよって立つ文化的背景をも学んでいきます。

【経営ビジネス学科のカリキュラム編成上の特色】

1　経営マネジメント・グローバル経営の２コースを設け、学生が興味や関心に応じて履修できるような編成です。経営マネジメントコースでは、経営や会計について幅広く学び、理論と実践の融合を目指していきます。企業・非営利組織・自治体などの組織に着目して、それらの運営に関する科目を幅広く学びます。グローバル経営コースでは、国際的な視野に立ち、グローバル社会における組織経営に関わる能力を養成します。国際化に対応するために、外国の文化の理解や語学の習得もめざします。

2　専門基礎科目を重視し、主要分野に関する必修科目を配置しています。それをベースに、段階的、系統的履修を促します。

3　ゼミナールを中心にした少人数教育を徹底し、「全人教育」を目指し、各学年で少人数によるゼミナール教育を行います。

4　「会計処理演習」「フィールドワーク」「データ分析」を開講し、具体的事例や実践的テーマに対して、学生が直接参加する講義を行います。アクティブラーニングは各科目でも取り入れて、学習内容のより深い理解をめざします。

【その他の特色】

1　簿記関連、販売士、ファイナンシャルプランナー、税理士、語学関連などの資格取得に関して、課外授業を行います。

変更の事由及び時期を記載した書類

１．変更の事由

「地域の医師確保等の観点からの令和６年度医学部入学定員の増加について（通知）」（令和５年８月８日付け５文科高第 669 号文部科学省高等教育局長、医政発 0807 第 12 号厚生労働省医政局長通知）を受け、将来の医師需給及び医師の偏在対策の観点から、医学部医学科の入学定員及び収容定員の変更を次のとおり行う。

なお、このたびの学則の変更にあたっては、令和６年度に限った臨時定員の増加であって、恒久定員の増加ではないことを明確にするため、本則には恒久定員のみ記載し、臨時定員を含めた入学定員及び収容定員は附則へ記載する。

〔変更点〕

・以下のとおり、附則を変更

１　この学則の改正は、令和６年４月１日から施行する。

２　第２条の規定にかかわらず、令和６年度から令和11年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	670	650	638	621

年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

２．変更の時期

令和６年４月１日

ただし、令和６年度新入生から適用する。

<table>
<tr>
<th>新学則</th>
<th>旧学則</th>
</tr>
<tr>
<td>
（学部学科の構成及び定員）
第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。
学部・学科名　　コース名　　入学定員　編入学定員　収容定員
（　省略　）
医学部
医学科　　95名　　570名
（　省略　）

附　則（令和２年４月１日）
１　この学則の改正は、令和２年４月１日から施行する。
２　別表(７)の改正は、令和２年度以降の入学生を対象とする。
３　改正後の第２条の規定にかかわらず、令和２年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
<table>
<tr><td>年度</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td></tr>
<tr><td>入学定員</td><td>107</td><td>107</td><td>95</td><td>95</td></tr>
<tr><td>収容定員</td><td>682</td><td>674</td><td>654</td><td>634</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td>年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td><td>令和8年度</td></tr>
<tr><td>入学定員</td><td>95</td><td>95</td><td>95</td></tr>
<tr><td>収容定員</td><td>614</td><td>594</td><td>582</td></tr>
</table>
（省略）
附　則（令和３年４月１日）
１　この学則の改正は、令和３年４月１日から施行する。
</td>
<td>
（学部学科の構成及び定員）
第２条　本大学には、次の学部及び学科を置き、その学生定員を次のとおりとする。
学部・学科名　　コース名　　入学定員　編入学定員　収容定員
（　省略　）
医学部
医学科　　95名　　570名
（　省略　）

附　則（令和２年４月１日）
１　この学則の改正は、令和２年４月１日から施行する。
２　別表(７)の改正は、令和２年度以降の入学生を対象とする。
３　改正後の第２条の規定にかかわらず、令和２年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
<table>
<tr><td>年度</td><td>令和2年度</td><td>令和3年度</td><td>令和4年度</td><td>令和5年度</td></tr>
<tr><td>入学定員</td><td>107</td><td>107</td><td>95</td><td>95</td></tr>
<tr><td>収容定員</td><td>682</td><td>674</td><td>654</td><td>634</td></tr>
</table>
<table>
<tr><td>年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td><td>令和8年度</td></tr>
<tr><td>入学定員</td><td>95</td><td>95</td><td>95</td></tr>
<tr><td>収容定員</td><td>614</td><td>594</td><td>582</td></tr>
</table>
（省略）
附　則（令和３年４月１日）
１　この学則の改正は、令和３年４月１日から施行する。
</td>
</tr>
</table>

新学則	旧学則
2　第２条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。	2　第２条の規定にかかわらず、令和３年度から令和８年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	679	659	639	619

年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	95	95
収容定員	599	587

（省略）

附　則（令和４年４月１日）

1　この学則の改正は、令和４年４月１日から施行する。

（経過措置）

2　理工学部電気電子工学科及び理工学部情報学科は、改正後の第２条及び第22条の規定にかかわらず、令和４年３月31日現在に当該学科に在籍する者が在籍しなくなるまでの間、存続するものとする。

3　第２条の規定にかかわらず、令和４年度から令和９年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	676	656	636	616

年度	令和8年度	令和9年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

新学則

附　則（令和５年４月１日）

１　この学則の改正は、令和５年４月１日から施行する。

２　第２条の規定にかかわらず、令和５年度から令和10年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	673	653	633	621

年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

附　則（令和６年４月１日）

１　この学則の改正は、令和６年４月１日から施行する。

２　別表(７)の改正は、令和６年度以降の入学生を対象とする。

３　第２条の規定にかかわらず、令和６年度から令和11年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	670	650	638	621

年度	令和10年度	令和11年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

旧学則

附　則（令和５年４月１日）

１　この学則の改正は、令和５年４月１日から施行する。

２　第２条の規定にかかわらず、令和５年度から令和10年度までの医学部医学科の入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度
入学定員	112	95	95	95
収容定員	673	653	633	621

年度	令和9年度	令和10年度
入学定員	95	95
収容定員	604	587

附　則（令和６年４月１日）

１　この学則の改正は、令和６年４月１日から施行する。

２　別表(７)の改正は、令和６年度以降の入学生を対象とする。

（新規）

学則の変更の趣旨等を記載した書類

目次

ア 学則変更(収容定員変更)の内容 ・・・

ア 学則変更(収容定員変更)の内容

医学部医学科　　入学定員 95 名　 収容定員 570 名

令和 6 年度から令和 11 年度までの入学定員及び収容定員は次の通りとする。

年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和 10 年度	令和 11 年度
入学定員	112	95	95	95	95	95
収容定員	670	650	638	621	604	587

イ 学則変更(収容定員変更)の必要性

医学部では、平成 22 年度から大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 5 名を地域枠として新設し、平成 24 年度からは和歌山県を 5 名増員、平成 27 年度からは静岡県を 5 名新設し、合計 20 名の地域枠を設けて、地域の医師不足の解消に貢献すべく教育に取り組んできた。平成 31 年度で地域枠による臨時定員増が終了した後も引き続き、上記 4 府県と協議して、令和 2 年度からも、大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 2 名、静岡県 5 名、合計 12 名の地域枠定員の認可を受けて、地域やへき地の医師不足の解消、診療科偏在の解消を図っている。

医師不足県とされる静岡県とは従来から定員増に向けて協議を重ねていたところ、令和 3 年度からは、静岡県を 5 名増員し合計 17 名の地域枠となった。4 府県と連携して、引き続き、地域やへき地の医師不足の解消、診療科偏在の解消を図るべく、令和 6 年度も同様に 17 名の地域枠を設けるため、学則変更(収容定員変更)を申請する。

ウ 学則変更(収容定員変更)に伴う教育課程等の変更内容

(ア)教育課程の変更内容について

医学部の教育課程では、1 年次から地域医療関係者の仕事を見学・体験する「地域包括ケア実習／総合医学」を実施している。2 年次から 4 年次の「プロフェッショナリズム/実習 II、社会医学 I・II、臨床総論／実習、臨床各論 I から IX」等の科目の中で、プライマリケア、地域包括ケア、へき地医療・地域医療構想等を学ぶ。その後、近畿大学病院、近畿大学奈良病院、くしもと町立病院(和歌山県)でのローテーション型臨床実習を実施し、5 年次後半から 6 年次には上記 3 病院に加えて大阪府・静岡県・三重県・兵庫県・和歌山県下の教育連携病院で診療参加型臨床実習を実施している。学則変更(収容定員変更)後もこれらの教育課程に変更はないが、各科目の授業の中で、地域医療関連の内容をさらに充実させることを検討している。

(イ)教育方法及び履修指導方法の変更内容について

教育方法及び履修指導方法について変更はなく、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。

(ウ)教員組織の変更内容について

医学部では、平成 27 年度より地域枠 20 名(入学総定員:115 名)を受け入れるための教員を確保･維持している。また、令和 2 年度に医学部教育センター内に地域医療教育部門を設置し

た。このため、教員組織について、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。なお、令和 5 年 5 月 1 日現在の教員数及び学生数は、以下のとおりである。

教員数:教授 64 名、准教授 30 名、講師 167 名、助教 143 名　　計 404 名
学生数:1 学年 117 名、2 学年 118 名、3 学年 123 名、
4 学年 113 名、5 学年 120 名、6 学年 109 名　　計 700 名

(エ)大学全体の施設・設備の変更内容について

医学部では、平成 27 年度より地域枠 20 名(入学総定員:115 名)を受け入れるための施設・設備を確保・維持している。このため、施設・設備について変更はなく、収容定員変更に伴い教育水準が低下することはないと考えている。令和 7 年 11 月に堺市泉ヶ丘への移転を予定しているが、移転後の新キャンパスでも充実した施設・設備を設ける計画を予定しており、必要な教育水準の確保に努める。

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（医学部医学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置						備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教養科目	医学からみた現代社会と倫理	1前	2			○			5	1	1			兼3	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	グローバルヘルス概論	1前	2			○								兼1	
	数理科学	1前	2			○					1				
	医療イノベーション学	1前	2			○			2						ﾒﾃﾞｨｱ ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	人権と社会	1前	2			○								兼1	ﾒﾃﾞｨｱ
	生死論	1前		2		○								兼1	ﾒﾃﾞｨｱ
	教養特殊講義	1前		2		○			5	1				兼9	ﾒﾃﾞｨｱ ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	ホスピタルアートによる患者ケア	1前		2		○			2	1	1			兼1	※演習 ﾒﾃﾞｨｱ
	暮らしのなかの起業入門	1前		2		○			2	1	1			兼1	ﾒﾃﾞｨｱ
	心理と行動	1後	2			○			1					兼1	
	環境と社会	1後	2			○				1					
	データリテラシー入門	1後		2		○				1					ﾒﾃﾞｨｱ
	小計（12科目）	－	14	10	0	－			9	4	3	0	0	兼17	－
外国語科目	医学英語Ⅰ	1通	4			○			1		2				※演習
	医学英語Ⅱ	2通	2			○			1		2				
	医学英語Ⅲ	3通	2			○			1		2				
	医学英語Ⅳ	4通	1			○			1		2				
	小計（4科目）	－	9	0	0	－			1	0	2	0	0	0	－
学部基礎科目	生命科学	1前	(60)			○			1		2				※実習
	医用化学	1前	(60)			○			1		2				※実習
	医物理学	1前	(60)			○			1		2			兼4	※実習
	科学的思考演習	1前	(30)				○		1		2				※講義
	細胞・形態学	1通	(90)			○			1		2				※実習
	医学概論	1前	(30)			○			2						※実習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	医統計学	1前	(30)			○				1					※演習
	地域包括ケア実習／総合医学	1後	(60)			○			4	4	7	2			※実習
	プロフェッショナリズム／実習Ⅰ	1通	(45)			○			2	1					※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	プロフェッショナリズム／実習Ⅱ	2通	(60)			○			11	5	2			兼1	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	プロフェッショナリズム／実習Ⅲ	3通	(90)			○			14	8	1			兼3	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	プロフェッショナリズム／実習Ⅳ	4通	(30)			○			4	2	1				※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	医薬連携総論	4通	(30)				○			1				兼1	集中 共同
	小計（13科目）	－	(675)	0	0	－			26	11	12	1	0	兼9	－
専門科目	人体構造Ⅰ	1後	(50)			○			4	1	4	3		兼1	※実習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	人体構造Ⅱ	1後	(75)			○			6	1	1	4		兼3	※実習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	人体構造Ⅲ	1後	(65)					○	4	3	4	6		兼3	※講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	人体構造Ⅳ	1後	(35)			○			3	1	1	3		兼2	※実習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	生化学	2通	(75)			○			1	1	1	1		兼1	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	分子生物学	2通	(75)			○			1		3			兼1	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	機能Ⅰ	2通	(100)			○			4		3	1		兼2	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同

専門科目	機能Ⅱ	2通	(100)			○			4	3	3	3		兼5	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	病因・病態Ⅰ	2通	(90)			○			1		3			兼4	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	病因・病態Ⅱ	2通	(120)			○			4	1	5	2		兼8	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	薬理学	2通	(90)			○			3	1	2	3			※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	臨床各論Ⅰ	3通	(120)			○			14	4	19	1		兼6	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅱ	3通	(120)			○			8	8	17	7		兼12	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	臨床各論Ⅲ	3通	(90)			○			14	3	12	1		兼7	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅳ	3通	(120)			○			14	2	19	8		兼3	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅴ	3通	(180)			○			14	6	31	17		兼14	※演習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	臨床各論Ⅵ	3通	(90)			○			5	2	10	11			集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅶ	4通	(90)			○			9	2	16			兼9	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅷ	4通	(120)			○			16	4	18	8		兼16	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床各論Ⅸ	4通	(90)				○		2						※講義 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	社会医学Ⅰ	2通	(90)			○			3	2	3	1		兼5	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	社会医学Ⅱ	3通	(60)			○			3	2	3	1		兼4	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	病理集中コース	4通	(30)			○			2	1	2	2		兼7	※実習 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	医療安全	4通	(30)			○			2		2			兼1	集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	臨床総論／実習	4通	(90)					○	1	2					※講義 集中 ｵﾑﾆﾊﾞｽ 共同
	臨床実習（C・C）	4～6通	(2,450)					○	1						
	画像集中コース	6通	(30)			○			7	3	6			兼4	ｵﾑﾆﾊﾞｽ
	小計（27科目）	－	(4,675)	0	0	－			87	38	146	60	0	兼100	－
合計（56科目）		－	23 (5,350)	8	0	－			88	38	151	60	0	兼123	－

学位又は称号	学士（医学）	学位又は学科の分野	医学関係

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
＜履修方法＞ 共通教養科目は必修科目14単位、選択必修科目2単位を含む計16単位以上、外国語科目から9単位以上修得しなければならない。 学部基礎科目は675時間以上修得しなければならない。 専門科目については、合計4,675時間以上履修すること。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
	1時限の授業時間	90分

（注）

1　学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には，授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等，研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。

2　私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合，大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は，この書類を作成する必要はない。

3　開設する授業科目に応じて，適宜科目区分の枠を設けること。

4　「授業形態」の欄の「実験・実習」には，実技も含むこと。

5　「授業形態」の欄は，各授業科目について，該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし，専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち，臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を，連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

6　課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し，若しくは変更する場合は，次により記入すること。

（1）各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には，当該専門職大学の全課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」に加え，前期課程に係る科目数，「単位数」及び「専任教員等の配置」を併記すること。

（2）「学位又は称号」の欄には，当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え，当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。

（3）「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には，当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え，前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

令和６年度
医学部入学定員増員計画

近大総発第８２１号
令和５年８月２１日

文部科学省高等教育局長　殿

学校法人近畿大学
理事長　　世耕　弘成

「地域の医師確保等の観点からの令和６年度医学部入学定員の増加について（令和５年８月８日文部科学省高等教育局長・厚生労働省医政局長通知）」を受けて、標記に関する資料を提出します。

＜連絡先＞

責任者連絡先	職名・氏名	経営戦略本部企画室　室長　　上原　真一
	TEL	06-4307-3120
	FAX	06-6727-5288
	E-mail	kikaku@itp.kindai.ac.jp

大学名	国公私立
近畿大学	私立

1．現在（令和５年度）の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	0	0	673

（収容定員計算用）

	H30	R1	R2	R3	R4	R5	計
（ア）入学定員	115	115	107	112	112	112	673
（イ）2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
（ウ）3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	115	115	107	112	112	112	673

2．本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和６年度の入学定員（編入学定員）及び収容定員

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
95	0	0	570

（収容定員計算用）

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
（ア）入学定員	95	95	95	95	95	95	570
（イ）2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
（ウ）3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	95	95	95	95	95	95	570
（臨時的な措置で減員した場合、その人数）							

3．令和６年度の増員計画

入学定員	2年次編入学定員	3年次編入学定員	収容定員
112	0	0	587

（収容定員計算用）

	R6	R7	R8	R9	R10	R11	計
（ア）入学定員	112	95	95	95	95	95	587
（イ）2年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
（ウ）3年次編入学定員	0	0	0	0	0	0	0
計	112	95	95	95	95	95	587
（臨時的な措置で減員した場合、その人数）							

増員希望人数	**17**

（内訳）

(1) 地域の医師確保のための入学定員／編入学定員増（地域枠）	**17**
(2) 研究医養成のための入学定員／編入学定員増（研究医枠）	**0**
計	**17**

１．地域の医師確保のための入学定員増について

増員希望人数	17

（１）対象都道府県名及び増員希望人数

	都道府県名	増員希望人数
大学が所在する都道府県	大阪府	3
大学所在地以外の都道府県	奈良県	2
	和歌山県	2
	静岡県	10
計		17

※「大学所在地以外の都道府県」が5都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

（２）修学資金の貸与を受けた地域枠学生の確保状況

都道府県名	R4地域枠定員（※1）	R4貸与者数（※2）	R5地域枠定員（※1）	R5貸与者数（※2）	R4とR5の貸与者数のうち多い方の数
大阪府	3	3	3	3	3
奈良県	2	2	2	2	2
和歌山県	2	2	2	2	2
静岡県	10	10	10	10	10
					0
					0
計	17	17	17	17	17

（※1）臨時定員分のみご記入ください。
（※2）恒久定員の中で地域枠を実施している場合、恒久定員分の地域枠の人数も含めた修学資金の貸与実績をご記入ください。
※6都道府県未満の場合は、残りの欄は空欄でご提出ください。

（３）令和6年度地域の医師確保のための入学定員増について

１．大学が講ずる措置

１－１．地域枠学生の選抜

①**令和４年度に実施した**地域枠学生(令和５年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行った場合には、それぞれご記入ください。また、参考として学生募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数	うち臨時定員分	選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合）その診療科名	開始年度	備考
大阪府地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	3	3	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：数学・英語・理科2科目 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （１）将来、大阪府の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （２）大阪府医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から1年6カ月以内に医師免許を取得すること。 ②在学中、卒前支援プラン（※1）の適用の対象となること。 ③卒業後、キャリア形成プログラム（※2）の対象となること。 ④卒業後（または医師国家試験合格後）、引き続き9年間（初期臨床研修期間を含む）、大阪府内の医療機関（大阪府が指定する病院又は診療所）に勤務し、うち4年間以上（初期臨床研修期間を含めない）は、大阪府が定める「医師の確保を特に図るべき区域」に所在する医療機関に勤務すること。 ⑤初期臨床研修を修了後5年間以上、指定診療業務（※3）に従事すること。 ※1都道府県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、対象学生が学生の期間を通じて、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン。詳細は今後大学HPにて掲載予定。 また、在学中に卒前支援プランの内容を変更する場合あり。 ※2医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム ※3ア.総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関の産婦人科(産)科・小児(新生児)科 イ.小児中核病院に指定された医療機関の小児（新生児）科又は小児地域医療センターに指定された医療機関の小児科 ウ.救命救急センター エ.総合診療専門研修基幹施設に指定された医療機関の内科（総合診療科を含む）、小児科又は救急科（※総合診療専門医取得後3年以上の従事） ただし、今後の医療環境の変化に伴い、指定診療業務の追加及び各項に該当する医療機関の変更を行う 場合があります。 本学が定める出願資格 次の①～⑤のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	有	周産期（産婦人科・小児科）、小児救急（小児科）、救命救急センター、総合診療（内科・総合診療科・救急科）	R5	
奈良県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	2	2	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：数学・英語・理科3科目 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （１）将来、奈良県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （２）奈良県緊急医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から2年以内に医師免許を取得すること。 ②卒業後、キャリア形成プログラム（※4）の対象となること。 ③医師免許取得後、直ちに知事が指定する臨床研修病院において2年間の臨床研修に従事すること。 ④臨床研修修了後、次の（ア）又は（イ）のいずれかにおいて医師業務に従事すること。（従事期間は臨床研修期間を含めて、修学資金貸与期間の1.5倍） （ア）修学資金貸与を受けた者ごとに知事が指定するべき地医療機関（※3） （イ）知事が定める医療機関の特定診療科等（※1）又は知事が定める医療機関の特定専攻課程（※2）のうち知事が修学資金貸与を受けた者ごとに指定する医療機関 ※1特定診療科等：小児科、産婦人科（産科を含む）、麻酔科、救急科、外科（呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、消化器外科及び小児外科に限る）、脳神経外科、総合診療を実施する科及び救命救急センター ※2特定専攻課程：総合内科分野-児童精神分野の医師を養成するための課程 ※3へき地医療機関：五條市、宇陀市、山辺郡、宇陀郡及び吉野郡の区域に所在する公立病院及び公立診療所 ※4医師の確保を特に図るべき診療科等における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム 本学が定める出願資格 次の①～⑤のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	有	小児科、産婦人科（産科）、麻酔科、救急科、総合診療科、外科（消化器外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）、脳神経外科、救命救急センター、総合内科分野、児童精神分野	R4	
和歌山県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	2	2	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：数学・英語・理科4科目 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （１）将来、和歌山県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （２）和歌山県地域医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から2年以内に医師免許を取得すること。 ②出願時には、和歌山県内でキャリア形成を行うことに同意する旨の県への同意書（※1）を提出すること。 ③医師免許取得後、引き続き9年間（臨床研修期間を含む）和歌山県内の公的医療機関に従事すること。うち2分の1以上の期間は、へき地医療機関（※2、※3）に勤務すること。 ④上記①から③までにおいて、やむを得ず遵守することができないと認められる場合は、退学や心身の故障など医師として従事することが不可能であるときに限ること。 ※1在学中にキャリア形成卒前支援プラン及び卒業後にキャリア形成プログラムの適用を受けるためのもの。 ・キャリア形成卒前支援プランとは、県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン ・キャリア形成プログラムとは、医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、当該区域に派遣される医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム ・キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムの詳細については、和歌山県ホームページをご確認ください。 ※2へき地医療機関：へき地医療拠点病院、市町村が開設するへき地診療所及び和歌山県が定める医師の確保を特に図るべき区域に所在する医療機関 ※3へき地医療機関における診療科は内科とします。 本学が定める出願資格 次の①～⑤のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R4	
静岡県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	6	6	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：数学・英語・理科5科目 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。なお、出願にあたっては同意書を提出すること。 （１）将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （２）静岡県医学修学研修資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①在学中は「静岡県キャリア形成卒前支援プラン」が、卒業後は「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。 ②本学医学部を卒業した日の翌日から起算して2年を経過する日の属する月の末日までに医師免許の登録を完了すること。 ③医師免許取得後、9年間（初期臨床研修期間を含む）静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、県が個別に勤務機関を指定するものとする。 本学が定める出願資格 次の①～⑤のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R3	

静岡県地域枠入試【一般後期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	4	4	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：数学・英語・理科6科目 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。なお、出願にあたっては同意書を提出すること。 （1）将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）静岡県医学修学研修資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①在学中は「静岡県キャリア形成卒前支援プラン」が、卒業後は「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。 ②本学医学部を卒業した日の翌日から起算して2年を経過する日の属する月の末日までに医師免許の登録を完了すること。 ③医師免許取得後、9年間（初期臨床研修期間を含む）静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、県が個別に勤務機関を指定するものとする。 本学が定める出願資格 次の(1)～(3)のいずれかに該当する者 (1) 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。 (2) 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。 (3) その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R3	
合計			17	17						

（※1）貴大学において作成した学生募集要項に記載の内容をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②**令和５年度に実施する**地域枠学生(令和６年入学)の選抜について、下記をご記入ください。複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
また、参考としてPRのために作成した文書（リーフレット，ホームページ，テレビ，新聞，雑誌等）の写しをご提出ください。

名称	入試区分	選抜方式	募集人数		選抜方法（※1）	出願要件（※1）	診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合）その診療科名	開始年度	備考
				うち臨時定員分						
大阪府地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	3	3	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：理科2科目・数学・英語 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （1）将来、大阪府の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）大阪府医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から1年6カ月以内に医師免許を取得すること。 ②在学中、卒前支援プラン（※1）の適用の対象となること。 ③卒業後、キャリア形成プログラム（※2）の対象となること。 ④卒業後（または医師国家試験合格後）、引き続き9年間（初期臨床研修期間を含む）、大阪府内の病院（大阪府が指定する病院）に勤務し、うち4年間以上（初期臨床研修期間を含めない）は、大阪府が定める「医師の確保を特に図るべき区域」に所在する病院に勤務すること。 ⑤初期臨床研修を修了後5年間以上、指定診療業務（※3）に従事すること。 ※1都道府県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、対象学生が学生の期間を通じて、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン。詳細は今後大学HPにて掲載予定。 また、在学中に卒前支援プランの内容を変更する場合あり。 ※2医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム ※3ア.総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関における産婦人科・産科・小児科（新生児診療業務に限る）・新生児科・小児外科・新生児外科における診療業務 イ. 小児中核病院又は小児地域医療センターに指定された医療機関における小児科・新生児科・小児外科・新生児外科における診療業務（ただし、少なくとも３年間は小児地域医療センターにおいて指定診療業務に従事する必要がある。） ウ.救命救急センターにおける診療業務 エ.総合診療専門研修、新家庭医療専門研修及び病院総合診療専門研修の基幹施設に指定された医療機関における総合診療業務 オ.総合診療と内科専門研修のダブルボードが可能な基幹施設に指定された医療機関における総合診療と内科における診療業務並びに感染症学会認定病院及び第二種感染症指定医療機関における感染症診療業務 ただし、今後の医療環境の変化に伴い、指定診療業務の追加及び各項に該当する医療機関の変更を行う場合があります。 本学が定める出願資格 次の⑴～⑶のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	有	産婦人科、産科、小児科（新生児診療業務に限る）、新生児科、小児外科、新生児外科、救命救急センター、総合診療	R6	
奈良県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	2	2	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：理科2科目・数学・英語 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （1）将来、奈良県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）奈良県緊急医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から2年以内に医師免許を取得すること。 ②卒業後、キャリア形成プログラム（※4）の対象となること。 ③医師免許取得後、直ちに知事が指定する臨床研修病院において2年間の臨床研修に従事すること。 ④臨床研修修了後、次の（ア）又は（イ）のいずれかにおいて医師業務に従事すること。（従事期間は臨床研修期間を含めて、修学資金貸与期間の1.5倍） （ア）修学資金貸与を受けた者ごとに知事が指定するへき地医療機関（※3） （イ）知事が定める医療機関の特定診療科等（※1）又は知事が定める医療機関の特定専攻課程（※2）のうち知事が修学資金貸与を受けた者ごとに指定する医療機関 ※1特定診療科等：小児科、産婦人科（産科を含む）、麻酔科、救急科、外科（呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、消化器外科及び小児外科に限る）、脳神経外科、総合診療を実施する科及び救命救急センター ※2特定専攻課程：総合内科分野・児童精神分野の医師を養成するための課程 ※3へき地医療機関：五條市、宇陀市、山辺郡、宇陀郡及び吉野郡の区域に所在する公立病院及び公立診療所 ※4医師の確保を特に図るべき診療科等における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム 本学が定める出願資格 次の⑴～⑶のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	有	小児科、産婦人科（産科）、麻酔科、救急科、総合診療科、外科（消化器外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）、脳神経外科、救命救急センター、総合内科分野、児童精神分野	R4	
和歌山県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	2	2	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：理科2科目・数学・英語 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。 （1）将来、和歌山県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）和歌山県地域医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①本学医学部を卒業した日から2年以内に医師免許を取得すること。 ②出願時には、和歌山県内でキャリア形成を行うことに同意する旨の県への同意書（※1）を提出すること。 ③医師免許取得後、引き続き9年間（臨床研修期間を含む）和歌山県内の公的医療機関に従事すること。うち2分の1以上の期間は、へき地医療機関（※2、※3）に勤務すること。 ④上記①から③までにおいて、やむを得ず遵守することができないと認められる場合は、退学や心身の故障など医師として従事することが不可能であるときに限ること。 ※1在学中にキャリア形成卒前支援プラン及び卒業後にキャリア形成プログラムの適用を受けるためのもの。 ・キャリア形成卒前支援プランとは、県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン ・キャリア形成プログラムとは、医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、当該区域に派遣される医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム ・キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムの詳細については、和歌山県ホームページをご確認ください。 ※2へき地医療機関：へき地医療拠点病院、市町村が開設するへき地診療所及び和歌山県が定める医師の確保を特に図るべき区域に所在する医療機関 ※3へき地医療機関における診療科は内科とします。 本学が定める出願資格 次の⑴～⑶のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R6	
静岡県地域枠入試【一般前期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	6	6	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：理科2科目・数学・英語 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。なお、出願にあたっては同意書を提出すること。 （1）将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）静岡県医学修学研修資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①在学中は「静岡県キャリア形成卒前支援プラン」が、卒業後は「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。 ②本学医学部を卒業した日の翌日から起算して2年を経過する日の属する月の末日までに医師免許の登録を完了すること。 ③医師免許取得後、9年間（初期臨床研修期間を含む）静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、県が個別に勤務機関を指定するものとする。 本学が定める出願資格 次の⑴～⑶のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R3	
静岡県地域枠入試【一般後期型】	（ⅲ）一般選抜地域枠（前期・後期）	別枠（区別型）	4	4	（１）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。 （２）一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。 一次試験：理科2科目・数学・英語 二次試験：小論文・面接	本学が定める出願資格を有し、以下の全ての要件を満たす者。なお、出願にあたっては同意書を提出すること。 （1）将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。 （2）静岡県医学修学研修資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。 ①在学中は「静岡県キャリア形成卒前支援プラン」が、卒業後は「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。 ②本学医学部を卒業した日の翌日から起算して2年を経過する日の属する月の末日までに医師免許の登録を完了すること。 ③医師免許取得後、9年間（初期臨床研修期間を含む）静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、県が個別に勤務機関を指定するものとする。 本学が定める出願資格 次の⑴～⑶のいずれかに該当する者 ⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。 ⑵ 通常の課程による１２年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。 ⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者。	無		R3	
合計			17	17						

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット，ホームページ，テレビ，新聞，雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。
※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

１－２．教育内容

①地域枠学生が卒後に勤務することが見込まれる都道府県での地域医療実習など、地域医療を担う医師養成の観点からの教育内容の概要（令和６年度）について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。

1年次から「地域包括ケア実習/総合医学」、2～4年次の講義において地域医療に関連する事項を学ぶ。4～6年次の「臨床実習（C.C.）」では和歌山県のくしもと町立病院でへき地医療実習を実施している。また、6年次には教育連携病院で地域医療実習を組み込んでおり、令和6年度からは地域枠学生がその地域の医療機関で臨床実習が行えるよう調整している。	（参考：記入例） 1～2年次には、「○○」という科目を開講するとともに「△△」を必修化し、～～を学んでいる。3～4年次には、××実習を行い、～～を学んでいる。またキャリア支援として□□を実施している。令和４年度からは、■■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②（過去に地域枠を設定したことがある場合）これまでの取組・実績を、3～5行程度で簡潔にご記入ください。

平成22年度から大阪府・奈良県・和歌山県地域枠による増員を開始し、各科目や臨床実習で地域医療に貢献する医師養成への取組を行ってきた。令和5年度までに150名の地域枠学生を確保し、そのうち41名が現在大阪府・奈良県・和歌山県・静岡県で地域医療に貢献している。	（参考：記入例） 平成○年度から地域枠による増員を開始し、□□、■■などの取組を行ってきた。令和４年度までに△名の地域枠学生を確保し、そのうち▲名が現在～～として地域医療に貢献している。

③上記①の教育内容（正規科目）について、講義・実習科目内容をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者（※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			地域枠学生	その他の学生			
1年次	医療イノベーション学	全員	必修	必修	講義	2	R2
1年次	地域包括ケア実習/総合医学	全員	必修	必修	実習	60h	R4
2年次	プロフェッショナリズム/実習Ⅱ	全員	必修	必修	講義	60h	R1
2年次	社会医学Ⅰ	全員	必修	必修	講義	90h	R2
3年次	社会医学Ⅱ	全員	必修	必修	講義	60h	R2
3年次	臨床各論Ⅲ	全員	必修	必修	講義	90h	R5
3年次	臨床各論Ⅴ	全員	必修	必修	講義	180h	H27
4～6年次	臨床実習（C.C.）	全員	必修	必修	実習	2450h	R3

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。（地域枠学生の希望者のみの場合は、対象者を「地域枠学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※空欄がある場合は、何も記入せずそのままにご提出ください。

④大学の正規科目以外で、提供する地域医療教育プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者 （※1）	都道府県との連携	期間 （例：○週間）	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度
1～6学年	地域医療セミナー	地域枠学生	大阪府	120分	1）大阪府職員による地域医療の説明 2）産科・小児科・救急科いずれかの診療科教員による講義	R1

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「地域枠学生」「全員」のうちから選択ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにご提出ください。

⑤上記③④以外に、地域医療を担う医師の養成に関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。（令和４年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

２．都道府県等との連携

①都道府県が設定する奨学金について、以下をご記入ください。併せて、都道府県が厚生労働省に提出する予定の地域の医師確保等に関する計画及び「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」（平成元年法律第64号）第４条に規定する都道府県計画等に位置づけることを約束する文書を添付して下さい。
なお、複数の奨学金を設定している場合は、それぞれ記入ください。

奨学金の設定主体	貸与人数	貸与対象	貸与額　（例：200,000）		返還免除要件	選抜方法		診療科の限定の有無	（診療科の限定（推奨）がある場合）その診療科名	備考
			月額	総貸与額		選抜時期	大学の関与の有無（※1）			
大阪府	3	新入生	100,000	7,200,000	次の1から4までを満たした場合、返還が免除されます。 １．大学卒業後、1年6か月以内に医師免許を取得すること。(医師国家試験の受験機会は2回) ２．大学卒業後、キャリア形成プログラム(※1）の対象となること。 ３．大学卒業後、引き続き9年間以上(初期臨床研修を含む)、大阪府が指定する医療機関に勤務し、うち初期臨床研修期間を除く4年間以上は、大阪府が指定する「医師の確保を特に図るべき区域(※2)」に所在する医療機関に勤務すること。 ４．初期臨床研修修了から5年間以上は、指定診療業務(※3)(初期臨床研修修了までに府が指定する診療業務)に従事すること。 ※1　医師が不足している地域における医師の確保と、医師の能力の開発・向上の両立しつつ、出産、育児等のライフイベントや、海外留学等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠の医師毎に策定するキャリアプログラム ※2　大阪府医師確保計画(2020.3策定)で医師確保が必要とした2次医療圏等 ※3　次の(1)から(5)までのいずれかの診療業務 (1)総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関における産婦人科・産科・小児科（新生児診療業務に限る）・新生児科・小児外科・新生児外科における診療業務 (2)小児中核病院又は小児地域医療センターに指定された医療機関における小児科・新生児科・小児外科・新生児外科における診療業務（ただし、少なくとも３年間は小児地域医療センターにおいて指定診療業務に従事する必要がある。） (3)救命救急センターにおける診療業務 (4)総合診療専門研修、新家庭医療専門研修及び病院総合診療専門研修の基幹施設に指定された医療機関における総合診療業務 (5)総合診療と内科専門研修のダブルボードが可能な基幹施設に指定された医療機関における総合診療と内科における診療業務並びに感染症学会認定病院及び第二種感染症指定医療機関における感染症診療業務 ※　指定診療業務となる診療科(業務)や医療機関は、今後の医療環境の変化で変更する場合があります。	④その他（備考欄に記入）	○	有	産婦人科、産科、小児科（新生児診療業務に限る）、新生児科、小児外科、新生児外科、救命救急センター、総合診療	大学における選抜後に都道府県において面接等を実施
奈良県	2	新入生	200,000	15,400,000 (入学金 1,000,000含む)	次の①～⑤をすべて満たすこと。 ①卒業した日から2年以内に医師の免許を取得すること。 ②卒業後、キャリア形成プログラムの対象となること。 ③医師免許取得後、直ちに知事が指定する臨床研修病院で初期臨床研修に従事すること。 ④臨床研修の修了後引き続き、へき地医療機関または知事が定める医療機関の特定診療科等：小児科、産婦人科（産科を含む。）、麻酔科、救急科、外科（呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、消化器外科及び小児外科に限る。）、脳神経外科、総合診療を実施する科及び救命救急センター又は特定専攻課程：総合内科分野・児童精神分野の医師を養成するための課程のうち知事が指定するものにおいて医師としての業務に従事すること。 ⑤③及び④の期間の合計が、修学資金の貸与を受けた期間の2分の3に相当する期間に達すること。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	有	小児科、産婦人科（産科）、麻酔科、救急科、総合診療科、外科（消化器外科、小児外科、心臓血管外科、呼吸器外科、乳腺外科）、脳神経外科、救命救急センター、総合内科分野、児童精神分野	
和歌山県	2	新入生	200,000	14,400,000	（１）医師免許を取得した後引き続き公的医療機関等において医業に従事した機関（研修等を受けた期間を含む。以下この項において「業務従事期間」という。）が、修学資金の貸与を受けた期間の２分の３に相当する期間（当該期間が９年に満たないときは、９年とする。）に達し、かつ、当該期間の２分の１以上の期間が、へき地医療機関に勤務し、又は特定医業に従事した期間であるとき。ただし、災害、疫病その他やむを得ない事由が生じたときは、当該事由が存続する間は、公的医療機関において引き続き医業に従事し、又は研修等を受けることを要しないものとする。 （２）業務従事期間中に業務上の理由により死亡し、又は医業若しくは研修等に起因する心身の故障のため、公的医療機関等において医業又は研修等を継続することができなくなったとき。 （３）全号に該当する場合を除くほか、死亡その他やむを得ない理由により、貸与を受けた修学資金を返還することが困難であると認められるとき。	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		
静岡県	10	新入生	200,000	14,400,000	以下の（１）から（２）までの要件を全て満たしたときに、貸与した資金全額の返還を免除します。 （１）大学卒業後、２年以内に医師免許の登録を完了すること。 （２）「静岡県キャリア形成プログラム」※に従い、静岡県内で医師として９年間勤務すること。 ＊ 返還免除を受けるための勤務（＝９年間）は、大学卒業後１６年間が経過するまでに完了することが必要です（履行期限）。 ＊ 勤務先として指定する可能性のある病院は５ページの別表１のとおりです。 ＊ 出産・育児で休業等をした場合は、その休業等をした期間に相当する期間、履行期限を延長します（６ページの別表２参照）。 ＊ 県が個別に指定する静岡県内の公的医療機関等での勤務期間中に育児短時間勤務をしたときの返還免除を受けるための勤務期間の計算は、６ページの別表３のとおりとなります。 ※「静岡県キャリア形成プログラム」とは、「医師が不足している地域における医師の確保」と「当該地域に派遣される医師の能力開発・向上を図ること」を目的として、医師が不足する地域の医療機関における就業期間等の諸条件を定めたものです。詳しくは７ページ以降に記載の静岡県医学修学研修資金貸与制度Ｑ＆Ａを参照してください。 【別添：別表1，2，3，Q&A】	③地域枠入学者であれば別途選抜を実施せず貸与	○	無		

（※1）診療科の限定または推奨がある場合は、備考欄に詳細をご記入ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

②その他、都道府県と連携した取組があれば、簡潔にご記入ください。（例：在学中の学生に対する都道府県と連携した相談・指導、卒後のキャリアパス形成等に対する支援）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度
大阪府地域医療確保修学資金	近畿大学医学部教員（小児科、産婦人科、救命救急センター等）による地域医療の役割等の講演会	H27
大阪府OB/OG訪問	大阪府・大学を通して卒業生と在学生を結び付け、病院見学を実施する	R5
奈良県キャリア支援	学生面談、病院見学ツアー、へき地セミナー	H28
和歌山県キャリア支援	学生面談、病院見学、学生間交流・勉強会	H27
静岡県キャリア支援	病院合同説明会、病院見学ツアー、意見交換会	H27

※空欄がある場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

３．その他

<u>１～２に記入したもの以外で、</u>その他、地域の医師確保の観点から大学の今後の取組があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）
特に、都道府県からの奨学金の貸与を受ける者、地域枠入学者を確保するために貴大学で取り組まれていることや今後の取組み予定がありましたら、ご記入ください。

本学では従来から学生サポートの一環としてメンター制度を導入しているが、令和元年度から地域枠学生に対して、既存のメンターに加えて地域枠メンターを配置した。令和2年度には医学部教育センター内に地域医療教育部門を設置し、地域枠学生のキャリア形成を支援する体制を整えている。

２．研究医養成のための入学定員増について

増員希望人数	0

（１）令和６年度研究医養成のための入学定員増について

大学が講ずる措置

※令和５年度までの取組を継続して行う場合には、必要に応じて見直しを行ったうえで、当該取組も記載すること。

１．コンソーシアムの形成

①以下をご記入ください。複数のコンソーシアムを形成している場合には、コンソーシアムごとにご記入ください。

	連携大学	取組の概要（1～3行程度）	（連携先大学が研究医枠による増員を行っている場合） 連携大学との役割分担（※1）	開始年度
No.1				
No.2				
No.3				

２．特別コース（※）の設定

（※）「特別コース」とは、学部・大学院教育を一貫して見通した研究医養成のための重点的プログラムを指します。

①特別コースの概要について、5～6行程度で簡潔にご記入ください。その際、平成22年度～令和５年度に実施した取組で継続して行うもののほか、令和６年度に新たに行おうとする取組についてもご記入ください。

（選抜の時期、授業内容、特別コースに入ることにより大学院進学が促進される仕組み（MD-PhD、単位の先行履修、論文認定、キャリア支援の取組など）

	（参考：記入例） MD-PhDコースや▲年次での大学院進学を促すとともに、○年次に選抜を行い、「○○」という科目等を開講して～～を学んでいる。学部・大学院での一貫した研究を促すため、△△、□□を行っている。またキャリア支援として、～～を実施している。令和５年度からは、■■を新たに開始するなど、～～を図ることとしている。

②研究医養成のための一貫した特別コースついて、以下をご記入ください。併せて、概要がわかる資料をご提出ください。

選抜の時期　（※1）		コースの名称	年次	募集定員（※2）	大学院への進学時期（※3）	開始年度	備考
	選抜入試						
	特定の学年次に希望者を募集						
	その他（備考欄に詳細を記入）						

（※1）複数段階に分けて選抜を行っている場合には、該当する全てに○をご記入ください。
（※2）最低人数を定めている場合には、「○名以上」という形でご記入ください。
（※3）特別コースの学生の大学院進学時期について全てご記載ください。（例：5年次（MD-PhD）／卒後直後に進学／卒後、臨床研修後に進学／卒後、臨床研修と並行して進学）

③研究医養成のための選抜入試について、以下をご記入ください。

研究医養成のために特別な入試を実施しているか。	

（「○」を選択した場合）以下をご記入するとともに、募集要項の写しをご提出ください。

名称	入試区分	募集人数	うち臨時定員分	選抜方法（※1）	開始年度	備考
合計		0	0			

（※1）貴大学において、PRのために作成した文書（リーフレット，ホームページ，テレビ，新聞，雑誌等）に記載の内容（貴大学において作成予定の学生募集要項に記載予定の内容）をご記入ください。
※複数種類の選抜を行っている場合には、それぞれご記入ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

④研究医養成のための教育内容（正規科目）について、以下をご記入ください。また、参考としてシラバスの写しをご提出ください。

対象学年	講義・実習名	対象者（※1）	必修／選択の別		講義／実習の別	単位数	開始年度
			研究医コース学生	その他の学生			

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。（研究医コース学生の希望者のみの場合は、対象者を「研究医コース学生」、必修／選択の別を「選択」とご記載ください。）

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑤大学の正規科目以外で、研究医養成プログラムがあれば、その内容をご記入ください。

対象学年	プログラム名	対象者（※1）	期間（例：○週	プログラムの概要（1～2行程度）	開始年度

（※1）対象者は、当該講義・実習を受講可能な学生を「研究医コース学生」「全員」のうちから選択ください。
※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑥特別コースに関する取組のうち、以下の項目に関連するものについてご記入ください。なお、必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。
（項目：専用の入試枠の設定による選抜の実施、学生が研究活動を実施するために必要となる研究費の予算措置、学生の学会発表、論文発表の機会の設定及び指導体制の構築、臨床研修により研究活動が中断されることのないようにするための配慮、研究医となった際の常勤ポストの確保、海外での研修の機会（1か月以上））

（項目）	概要（1～2行程度）	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑦**上記②～⑥以外に、**研究医養成の特別コースに関する取組等があれば、簡潔にご記入ください。
（令和５年度以前から継続する取組を含む）（1～2行程度）

取組の名称	取組の概要（1～2行程度）	開始年度

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

⑧特別コースの履修者の確保状況について、以下をご記入ください。

	R3	R4	R5	直近3年間の平均
人数（名）				#DIV/0!

※当該年度の新規履修者のみを計上してください。

３．奨学金の設定

①卒後一定期間の研究医としての従事を要件とする奨学金の設定について、以下をご記入ください。
複数の奨学金を設定している場合には、それぞれについてご記入ください。

	名称	設定主体（例：大学、○○財	給付／貸与の別	支給対象	募集人数	選抜の有無	支給期間（例：大学院1～3年次（3年間））
No.1							
No.2							
No.3							

（続き）

	支給額 （例：200,000）		返還免除要件	開始年度	備考
	月額	総支給額			
No.1					
No.2					
No.3					

※該当がない場合は、何も記入せずにそのままご提出ください。

（２）研究医養成拠点として相応しい実績

①－１．継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

（入学年度）	R3	R4	R5	直近3年間の平均
基礎・社会系大学院進学者数（【A】）				#DIV/0!
臨床系大学院進学者数（【B】）				#DIV/0!

（博士課程修了年度）	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【A】の修了者数（【C】）				#DIV/0!
【B】のうち、基礎・社会学系の論文（又は共著論文）を執筆した修了者数（【D】）				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

①－２．その他、継続的に大学院生を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

②－１．継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績について、以下をご記入ください。

（博士課程修了年度）	R2	R3	R4	直近3年間の平均
【C】【D】のうち、基礎・社会学研究分野の就職者数				#DIV/0!
【C】【D】のうち、臨床系に就職したが基礎・社会学研究に従事する者等の数（※1）				#DIV/0!
合計	0	0	0	0

（※1）一度臨床系（基礎系以外）に進んだものの実態としては研究に従事している又は従事する見込みがある者の数。
（例：臨床医として働きながら研究活動を行っている者、常勤ポストではないが大学の身分を有し研究活動を行っている者、現在臨床医として勤務しているが将来的に研究に従事する意思を大学が確認している者）

②－２．その他、継続的に研究医を輩出してきた客観的な実績があれば、簡潔にご記入ください。（1～3行程度）

③大学教育改革の支援に関する補助事業の採択実績等
※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

採択事業名	採択年度（○年度～○年	概要（1～3行程度）

④他大学と比較した際に研究医養成拠点として相応しいと考えられる客観的な実績（科学研究費採択率等）
※必要に応じて内容がわかる資料をご提出ください。

概要（1～3行程度）

（３）過去に研究医枠による入学定員増を実施した場合の令和５年度における状況

①過去に入学定員増を実施した際に計画していた研究医養成に関する取組について、その有効性が高いことを確認している旨を、確認方法等とともにご記入ください。
（例：第三者による評価、学内委員会による評価）

大学別医学部入学定員一覧

大　学　名	属性（国公私）	Ｒ５年度定員	本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和４年度の入学定員	Ｒ６年度増員数	Ｒ６年度定員（計画）
近畿大学	私立	112	95	17	**112**

大学名	令和５年度定員	本増員計画による入学定員増を行わない場合の令和６年度の入学定員	令和６年度増員計画				令和６年度定員（計画）	令和６年度増員計画 教育内容の概要
				増員数	都道府県ごとの内訳			
近畿大学	112	95	地域枠	17	大阪府	3	112	1年次から「地域包括ケア実習/総合医学」、2～4年次の講義において地域医療に関連する事項を学ぶ。4～6年次の「臨床実習（C.C.）」では和歌山県のくしもと町立病院でへき地医療実習を実施している。また、6年次には教育連携病院で地域医療実習を組み込んでおり、令和6年度からは地域枠学生がその地域の医療機関で臨床実習が行えるよう調整している。
					奈良県	2		
					和歌山県	2		
					静岡県	10		
					0	0		
					0	0		
			研究医枠	0				0

令和5年度　入学試験要項

近畿大学への出願は、
簡単・便利・安心なインターネット出願です。
出願には受験ポータルサイト「UCARO（ウカロ）」への
登録が必要です。出願写真の提出方法は、
データアップロードのみになります。

経済学部、理工学部、工学部において、
一部の入試日程で**試験科目**を変更します。

» 7～8ページ

推薦入試（一般公募）、一般入試・前期（B日程）に
生物理工学部独自方式（併願）を導入します。

» 8ページ

新型コロナウイルス感染症に関する
対応について

» 100ページ

近畿大学

医 医学部

推薦入試（一般公募）

試験日 一次試験 令和4年11月20日(日) 二次試験 令和4年12月4日(日)　出願期間 令和4年11月1日(火)～11月10日(木)〈消印有効〉　合格発表 一次試験 令和4年12月1日(木) 二次試験 令和4年12月14日(水)

スタンダード方式 一次試験	理科 100点(60分)	＋	英語 100点(60分)	＋	数学 100点(60分)	＝	3科目 300点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

一般入試・前期

試験日 一次試験 令和5年1月29日(日) 二次試験 令和5年2月12日(日)　出願期間 令和4年12月16日(金)～令和5年1月12日(木)〈消印有効〉　合格発表 一次試験 令和5年2月7日(火) 二次試験 令和5年2月23日(木)

スタンダード方式 一次試験	数学 100点(60分)	＋	英語 100点(60分)	＋	理科2科目 200点(120分)	＝	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

一般入試・後期

試験日 一次試験 令和5年2月26日(日) 二次試験 令和5年3月9日(木)　出願期間 令和5年2月1日(水)～2月14日(火)〈消印有効〉　合格発表 一次試験 令和5年3月4日(土) 二次試験 令和5年3月17日(金)

スタンダード方式 一次試験	数学 100点(60分)	＋	英語 100点(60分)	＋	理科2科目 200点(120分)	＝	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

※文部科学省へ認可申請予定

地域枠入試【一般前期型】（大阪府、奈良県、和歌山県、静岡県）

試験日 一次試験 令和5年1月29日(日) 二次試験 令和5年2月12日(日)　出願期間 令和4年12月16日(金)～令和5年1月12日(木)〈消印有効〉　合格発表 一次試験 令和5年2月7日(火) 二次試験 令和5年2月23日(木)

地域枠入試【一般後期型】（静岡県）

試験日 一次試験 令和5年2月26日(日) 二次試験 令和5年3月9日(木)　出願期間 令和5年2月1日(水)～2月14日(火)〈消印有効〉　合格発表 一次試験 令和5年3月4日(土) 二次試験 令和5年3月17日(金)

●地域枠入試は、大阪府、奈良県、和歌山県または静岡県の地域医療に貢献できる医師を養成することを目的とし、入学者には各府県から修学資金が貸与され、卒業後に各府県が定める条件を満たすことで、貸与された修学資金の返還が免除される制度です。

＜出願資格＞
・本学が定める出願資格（一般入試・前期、後期）に該当する者。
・将来、地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学を確約できる者。（いかなる事由があっても入学を辞退できません。）
・各府県が定める条件を全て満たすことを確約できる者。

一次試験	数学 100点(60分)	＋	英語 100点(60分)	＋	理科2科目 200点(120分)	＝	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は、学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・本学医学部一般入試との併願は可能ですが、地域枠入試に合格した場合、一般入試は判定対象外となります。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

＊詳細については、113～115ページの各府県「修学資金概要」または各府県ホームページ等でご確認ください。



共通テスト利用方式(前期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ――― 二次試験 令和5年2月19日(日)　出願期間 令和5年1月3日(火)～1月13日(金)〈消印有効〉

合格発表 一次試験 令和5年2月15日(水) 二次試験 令和5年2月28日(火)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/14･15)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	数学2科目 200点(1科目100点)	＋	理科2科目 200点(1科目100点)	＝ 5科目 500点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/14・15)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

共通テスト利用方式(中期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ――― 二次試験 令和5年2月19日(日)　出願期間 令和5年1月3日(火)～2月1日(水)〈消印有効〉

合格発表 一次試験 令和5年2月15日(水) 二次試験 令和5年2月28日(火)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/14･15)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	国語 数学 高得点1科目(100点)	＋	理科2科目 200点(1科目100点)	＝ 4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/14・15)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

共通テスト利用方式(後期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ――― 二次試験 令和5年3月9日(木)　出願期間 令和5年2月3日(金)～2月23日(木)〈消印有効〉

合格発表 一次試験 令和5年3月4日(土) 二次試験 令和5年3月17日(金)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/14･15)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	国語 数学 理科 高得点2科目(1科目100点)	＝	3科目 300点満点	
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/14・15)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・小論文および面接は段階評価とし、得点化はしません。

個別学力試験

推薦入試(一般公募)
一次　理科60分／記述方式、英語60分／マーク方式、数学60分／マーク方式
二次　小論文40分／記述方式、面接

一般入試･前期、地域枠入試【一般前期型】、一般入試･後期、地域枠入試【一般後期型】
一次　数学60分／記述方式、英語60分／マーク方式、理科2科目合計120分／記述方式
二次　小論文40分／記述方式、面接

※理科･数学(推薦入試(一般公募)除く)の筆記試験においては、医学を学ぶにあたって必要となる数理的思考能力と課題を読み解き、複数の情報を統合して、自ら新しい考えをまとめる論理的思考力を評価するため記述式問題を実施しています。

共通テスト利用方式(前期･中期･後期)
一次　―――
二次　小論文40分／記述方式、面接

令和5年度入試変更点

◎推薦入試(一般公募)において、数学は、全学部共通問題を使用します。あわせて、出題形式および試験時間を変更します。

出願資格

推薦入試（一般公募）（推薦基準）

次の⑴、⑵ともに該当する者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を令和４年３月に卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。

⑵ 学業、人物ともに優秀で出身高等学校長もしくは中等教育学校長が推薦する者。
なお、調査書に記載している各教科の学習成績の状況については、各学部が選考に使用する教科・科目の（学習）成績が優秀であることが望ましい。

一般入試 前期(A日程)・前期(B日程)・後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当する者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

共通テスト利用方式 前期・中期・後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当し、かつ⑷を満たす者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

⑷ 令和５年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。

共通テスト併用方式 A日程・B日程・後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当し、かつ⑷を満たす者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和５年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和５年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

⑷ 本学の一般入試・前期（A日程）、一般入試・前期（B日程）、一般入試・後期に出願し、令和５年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。

※申し出により本学が出願資格を認定した学校は次のとおりです。（推薦入試（一般公募）を含みます。）

大阪朝鮮高級学校、京都国際中学高等学校、神戸朝鮮高級学校、京都朝鮮中高級学校、東京朝鮮中高級学校
茨城朝鮮初中高級学校、北海道朝鮮初中高級学校、愛知朝鮮中高級学校、広島朝鮮初中高級学校
山口朝鮮高級学校、九州朝鮮中高級学校、神奈川朝鮮中高級学校　（令和4年7月1日現在）

（表１）

NO	項　目	内　容
1	高等学校卒業程度認定試験・大学入学資格検定	高等学校卒業程度認定試験（大学入学資格検定）に合格した者および令和5年3月31日までに合格見込みの者。
2	外国の学校等	外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および令和5年3月31日までに修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
3	文部科学大臣の指定した者	海技教育機構(旧海員学校)の本科の卒業(見込)者、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格(フランス共和国)取得者、GCEAレベル取得者、国際的な評価団体の認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者または修了見込みの者、その他文部科学大臣の指定した者(旧制諸学校出身者等)。
4	在外教育施設	「在外教育施設」とは、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和5年3月31日までに修了見込みの者。
5	専修学校の高等課程	専修学校の高等課程を修了した者および令和5年3月31日までに修了見込みの者。
6	認定	「認定」とは、本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和5年3月31日までに18歳に達する者。 出願を希望する場合は、事前の申し出により、個人の学習履歴を勘案した上で、入学資格審査委員会が特に許可した場合には、受験資格を認めます。詳細については、出願受付開始日1カ月前までに入学センターまでお問い合わせください。

※ インターネット出願時において、（表１）のいずれかに該当する場合は、出身高等学校欄の学校名に、実際の学校・施設名ではなく太枠内の該当する項目（認定など）を入力してください。

出願手続

本学への出願手続は、「インターネット（Web）入力による出願」のみとなります。ネット環境がない方は、近畿大学入学センター（TEL(06)6730-1124）にご相談ください。詳細については、92～96ページをご参照ください。
※出願期間中は東大阪キャンパス入学センターでパソコンを使っての出願登録が可能です。
（月曜日～金曜日　8時45分～17時30分　祝日および冬期休業期間を除く）

出願における注意事項

1. **入力した情報の変更**
志望学科や試験地などを間違えて登録しても、出願期間内であれば、志望学科、併願の追加、試験地、個人情報等すべての変更が可能です。ただし、入学検定料支払い後の志望学科の変更は、入学検定料の変動がない範囲に限ります。
2. **登録データの有効期限について**
登録されたデータは入学検定料の納入期限内は保持されますが、支払いがされないまま期限を過ぎると無効になります。
3. **漢字の登録エラーについて**
氏名や住所などの個人情報を入力する際に、JIS第1水準・第2水準以外の漢字は登録エラーになる場合があります。その場合は、代替の文字を入力してください。入学後に、正しい漢字を登録することができます。
例）髙木→高木　　山﨑→山崎　　（ローマ数字）Ⅲ→（アルファベットのアイ）III

出願写真データ・必要書類

● 本年度（令和５年度）入試において、一度提出された出願写真データ・書類の再度の提出は不要です。前回に提出したものを流用することで、志願者の出願手続きに関する負担の軽減を図ります。
ただし、前回の出願時に提出していない必要書類（大学入学共通テスト成績請求票等）がある場合は、出願期間内（締切日消印有効）に送付してください。

［対象となる入試制度］
「推薦入試（一般公募）」「一般入試･前期（A日程）」「一般入試･前期（B日程）」「一般入試･後期」「共通テスト利用方式（前期）」「共通テスト利用方式（中期）」「共通テスト利用方式（後期）」「共通テスト併用方式（A日程）」「共通テスト併用方式（B日程）」「共通テスト併用方式（後期）」「医学部地域枠入試【一般前期型】」「医学部地域枠入試【一般後期型】」「専門高校、専門学科･総合学科等を対象とする推薦入学試験」

〈出願写真データについて〉
●出願写真は、インターネット出願時に出願写真データをアップロードしていただきます。郵送の必要はありません。
出願写真データのアップロード方法は、93ページを参照ください。

全員提出

・**出願3か月以内**に撮影した受験者本人のみが写ったカラー写真（モノクロ・スナップ写真は不可）
・上半身、正面（焦点が合ったもの）、無帽（ヘアバンドも不可）、背景無地、枠無しのものを使用してください。
・制服、私服は問いません。ただし、入学が許可された場合には、**<u>この写真は入学後に交付する学生証の写真として使用します。卒業時まで写真交換はできません。</u>**
・眼鏡着用の場合、レンズは無色透明（ブルーライトカットレンズ等の反射するものは不可）で、レンズに光が反射していないものに限ります。
・画像に加工を施していないこと。また、不鮮明なもの（背景と人物の境目がわかりにくくないもの等）、サングラス・マスクや髪や影で目元輪郭を隠している、目を閉じている等、個人の判別、本人確認が困難な写真は使用できません。
・平常の顔貌と著しく異ならないもの（たとえば、口を開き歯が必要以上に見えているものは不可）
・変色や傷、汚れのないもの
・証明写真等、プリントアウトした写真を撮影したものは不可。
・ファイル形式：JPEG、10MB以内

●受け付けできる写真例



・上部に隙間がある。
・水平かつ正面を向いている。
・顔の大きさが全体の3分の1以上ある。
・両目の瞳が確認できる。
・肩の一部が写っている。

［不適当な写真例］
※次のような写真の場合は、再請求することがあります。

①頭がきれている



②写真が全体的に暗い（影になっている）



③背景に余計なものが写っている



④プリントされた証明写真をスマートフォンのカメラで撮影している



⑤枠から顔がはみ出している



※出願写真データは画面上でサイズを調整して登録することができますので、顔がはっきり映るように適宜調整してください。
（顔が大きすぎる、小さすぎるものは不可）
※出願写真として適切ではないと判断された場合は、再提出になることがあります。出願期間内に再提出を行わない場合、出願は受理できません。
※一度受理された出願写真データは、変更することができません。

〈必要書類について〉

● 以下の表に記載されている書類を巻末に綴じこまれている送付用封筒に入れ、「簡易書留・速達」で出願期間内に郵便局窓口から郵送してください（**ポストへの投函不可**）。送付用封筒に必要書類が入らない場合は、折って入れてください。登録を完了した後、書類郵送用の宛先を印刷し、市販の封筒に貼って使用することも可能です。

送　付　先	〒539−8691　日本郵便　新大阪郵便局留 近畿大学　出願受付係

対象	提出書類	要件	
全員提出	調査書等	【出願資格を証明する提出書類】を確認し、準備してください。	
対象者のみ提出	共通テスト成績請求票	・共通テスト利用方式、共通テスト併用方式に出願される方は、大学入試センターから交付された成績請求票（私立大学・公私立短期大学用）を1枚送付してください。（台紙等への貼付は不要です） すでに推薦入試（一般公募）等で必要書類を郵送済みの場合でも、成績請求票を提出していなければ、成績請求票の郵送が必要です。	
	推薦書	・推薦入試に出願される方は、専用の用紙（162ページ参照）を用いて、学校長が作成し厳封したものを送付してください。（入試情報サイトからダウンロードしたものを使用することも可能です）	
	その他	専門高校、専門学科・総合学科等を対象とする推薦入試	・検定試験合格証写し（検定試験に合格したことを認定する証書の写し、A4版）
			・志望理由書（164ページ参照）
		医学部地域枠入試 【一般前期型】【一般後期型】	・地域枠入試 志望理由書（166・167ページ参照）
			・地域枠入試 入学誓約書（168ページ参照）
		外部試験利用制度	【各種資格試験の証明書】を確認し、準備してください。合格証・スコア等は原本の写しでも可とします。

【出願資格を証明する提出書類】各提出書類１通の郵送が必要です。

該当の出願資格（85ページ参照） ※85ページ（表1）の各項目番号に対応しています。		提出書類	注意事項
高等学校または中等教育学校卒業（見込）者		調査書	・文部科学省の指定の様式により、学校長が出願3か月以内に作成・厳封したものに限ります。 ・学習成績の状況に関しては、新型コロナウイルス感染症対策で3学年1学期の中間・期末テストが実施できなかった場合、実施された範囲の実績で調査書に記載してください。 ・改姓等の理由により調査書記載の氏名と表記が異なる場合は、姓（名）が変わった理由を調査書の余白に記載してください。 ・高等学校卒業後５年以上経過する等により、高等学校での調査書の発行が不可能な場合は、「卒業証明書、単位修得証明書（成績証明書）」を提出してください。なお、単位修得証明書または成績証明書が発行できない場合は「保存期間経過証明書」（任意書式）を提出してください。
通常の課程による12年の学校教育修了（見込）者			
(表1)−1※	高等学校卒業程度認定試験合格者 または 大学入学資格検定合格者	「合格証書（写し）」 または 「合格証明書（原本）」	・免除科目がある場合、当該免除科目の成績に係る証明書の提出は不要です。 ※令和5年3月31日までに18歳に達するもの。
(表1)−1※	高等学校卒業程度認定試験合格見込者	合格見込成績証明書	
(表1)−2※	外国において学校教育における12年の課程修了（見込）者 または上記に準ずる者で文部科学大臣の指定した者	「修了（見込）証明書、成績証明書」	・日本と外国両方の高校に在学した者は、日本の高等学校在学時の成績証明書等も提出してください。 ※出願資格の確認が必要となります。時間を要するため、出願締切間際の出願とならないようご注意ください。
(表1)−3※	文部科学大臣の指定した者	「当該資格証明書」 または 「修了した教育施設の修了（見込）証明書、成績証明書」	
(表1)−4※	在学教育施設	「修了（見込）証明書」 または 「卒業（見込）証明書」	
(表1)−5※	専修学校の高等課程を修了（見込）者	「修了（見込）証明書、成績証明書」	
(表1)−6※	認定	近畿大学入学センターにお問い合わせください。（TEL：(06) 6730-1124）	

【各種資格試験の証明書】各証明書１通の郵送が必要です。

資格名称	証明書の種類	注意事項	有効期限
①TOEFL iBT®	Test Taker Score Report	・TOEFL iBTテストのTest Dateスコアのみをスコアとして活用します。（MyBestスコアは活用しません）	出願開始日より過去2年以内に受験したもの
②TOEIC® L&R+TOEIC® S&W	OFFICIAL SCORE CERTIFICATE（公式認定証）	・TOEIC L&R公開テストのみの受験およびTOEIC S&W公開テストのみの受験、IPテストのスコアは認められません。	
③IELTS	成績証明書（Test Report Form）	・換算表記載のスコアは、4技能の平均を示す「Overall Band Score」を指します。	
④GTEC（CBTタイプ、検定版）	OFFICIAL SCORE CERTIFICATE	・検定受験のOFFICIAL SCOREに限ります。	
⑤TEAP4技能パターン	TEAP成績表	・4技能パターンに限ります。 ・受験時期の異なる点数の合計では認められません。	令和3年度以降に受験したものに限る
⑥ケンブリッジ英語検定	（各レベル検定）Certificate （リンガスキル）Test Report	・ケンブリッジ英語検定（各レベル、for Schoolsバージョンを含む）ならびに「ケンブリッジ英語検定4技能CBTリンガスキル（以下、リンガスキル）」を対象とします。 ・リンガスキルは「公開受験」のみ利用可能です。自宅受験の結果は利用できません。 ・ケンブリッジ英語検定のスコアはケンブリッジ英語検定（各レベル検定）の「Overall Score」、「リンガスキル」の「Average Score」を指します。	有効期限の限定はありません
⑦英検®	合格証明書	・英検S-CBT、英検CBT、英検S-Interviewを含みます。 ・1次試験を2016年3月以前に受験した方は、2級Aを証明する場合のみ、日本英語検定協会に問い合わせのうえ、英語有資格者確認依頼結果を2級合格証と併せて提出してください。	

大阪府地域枠入試【一般前期型】

大阪府医師確保修学資金制度の概要

（1）貸与額：月額 10 万円（6 年間総額 720 万円）
（2）返還免除：下記 1. 出願資格（2）の条件を全て履行した場合に、貸与を受けた修学資金と利息の返還が免除されます。
（3）返還条件：返還債務免除のための勤務を履行できなくなった場合は、一括返還（年利 10%）となります。
大阪府医師確保修学資金制度の詳細は、大阪府地域医療確保修学資金等貸与要綱および大阪府地域医療確保修学資金等貸与事業実施要領に規定しています。大阪府ホームページまたは、大阪府健康医療部保健医療室医療対策課医療人材確保グループ TEL（06）6944-8183 にご確認ください。

1.出願資格

本学が定める出願資格（令和 5 年度　入学試験要項 85 ページ「一般入試・前期、後期」参照）を有し、以下の全ての要件を満たす者。
（1）将来、大阪府の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。
（2）大阪府医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。
①本学医学部を卒業した日から 1 年 6 カ月以内に医師免許を取得すること。
②在学中、卒前支援プラン（※1）の適用の対象となること。
③卒業後、キャリア形成プログラム（※2）の対象となること。
④卒業後（または医師国家試験合格後）、引き続き 9 年間（初期臨床研修期間を含む）、大阪府内の医療機関（大阪府が指定する病院又は診療所）に勤務し、うち 4 年間以上（初期臨床研修期間を含めない）は、大阪府が定める「医師の確保を特に図るべき区域」に所在する医療機関に勤務すること。
⑤初期臨床研修を修了後 5 年間以上、指定診療業務（※3）に従事すること。
※1 都道府県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、対象学生が学生の期間を通じて、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン。詳細は今後大学 HP にて掲載予定。
また、在学中に卒前支援プランの内容を変更する場合あり。
※2 医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム
※3 ア.総合周産期母子医療センターに指定された医療機関又は地域周産期母子医療センターに認定された医療機関の産婦人科(産)科・小児(新生児)科
イ.小児中核病院に指定された医療機関の小児（新生児）科又は小児地域医療センターに指定された医療機関の小児科
ウ.救命救急センター
エ.総合診療専門研修基幹施設に指定された医療機関の内科（総合診療科を含む）、小児科又は救急科（※総合診療専門医取得後 3 年以上の従事）
ただし、今後の医療環境の変化に伴い、指定診療業務の追加及び各項に該当する医療機関の変更を行う 場合があります。

2.試験科目

一次試験：数学（100 点）・英語（100 点）・理科 2 科目（200 点）合計 400 点満点
二次試験：面接用アンケート・小論文（段階評価）・面接（段階評価）

3.出願書類

出願手続（令和５年度　入学試験要項 88～89 ページ）の必要書類に加え、次の同意書を提出してください。

同意書

4.併願について

大阪府地域枠入試の出願者は、奈良県地域枠入試・和歌山県地域枠入試・静岡県地域枠入試に出願することはできません。 なお、一般入試・前期への併願は可能です。

5.選抜方法・合否判定基準

(1)一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定する。
(2)一次試験合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定する。
(3)合否判定は、地域枠が定員に達するまで順次判定するため、他の地域枠の合格最低点と異なることがある。
(4)地域枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合は、合格者数が募集人数を満たさない場合がある。
(5)地域枠入試【一般前期型】と一般入試・前期を併願した者のうち、地域枠入試で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・前期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・前期の選抜対象とします。

6.入学辞退について

(1)地域枠入試の合格者はいかなる事由があっても入学を辞退できません。また、入学手続後はいかなる事由があっても、納入した入学金および授業料等は返還しません。
(2)地域枠入試【一般前期型】の合格者が、一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】、共通テスト利用方式（前期・中期・後期）の二次試験に合格した場合であっても、これらの入試方式で入学手続きをすることはできません。

7.大阪府地域枠の不同意離脱について

出願時に大阪府地域医療確保修学資金貸与事業同意書を提出いただきます。
大阪府地域医療確保修学資金貸与制度においては、府は退学、死亡、業務に起因する心身の故障など、医師として復帰ができず猶予期間を設定しても府地域枠医師として就業することが特に困難であると考えられる場合以外は、原則離脱することはできません。
なお、一般社団法人日本専門医機構は、都道府県の同意を得ずに地域枠を離脱し、専門研修を開始した者については、原則、専門医の認定を行わないこととしており、同機構等からの求めがあれば不同意離脱者に関する情報を提供します。また、不同意離脱者については、今後、厚生労働省の決定により、その他の制約を課せられることがあります。

奈良県地域枠入試【一般前期型】

奈良県緊急医師確保修学資金制度の概要

（1）貸与額：月額 20 万円（6 年間総額 1,440 万円）、入学金相当額（100 万円）※利息：年 10%（貸与日の翌日～貸与期間が満了した月の末日）
（2）返還免除：下記 1.出願資格（2）の条件を全て履行した場合に、貸与を受けた修学資金と利息の返還が免除されます。
（3）返還条件：返還債務免除のための勤務を履行できなくなった場合は、一括返還（年利 10%）となります。

卒業後の勤務・キャリア形成

大学在学中

奈良県が策定する、キャリア形成卒前支援プラン（大学の教育カリキュラムと連動）の適用を受ける。
（例）臨床研修病院見学バスツアー等

臨床研修

医師免許取得後 1、2 年目：県内の臨床研修病院に勤務し 2 年間の臨床研修を受ける。

臨床研修終了後

知事が指定する医療機関の特定診療科等（※1）、特定専攻課程（※2）又はへき地医療機関（※3）で勤務する医師として、必要な経験を積みつつ、奈良県の地域医療に貢献する。

奈良県緊急医師確保修学資金の詳細については、奈良県緊急医師確保修学資金貸与条例及び同条例施行規則に規定しています。同条例及び施行規則に関する最新の情報は、奈良県のホームページ、もしくは、奈良県医療政策局　医師・看護師確保対策室 TEL（0742）27-8644 にご確認ください。

1.出願資格

本学が定める出願資格（令和 5 年度　入学試験要項 85 ページ「一般入試・前期、後期」参照）を有し、以下の全ての要件を満たす者。
（1）将来、奈良県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。
（2）奈良県緊急医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。
①本学医学部を卒業した日から 2 年以内に医師免許を取得すること。
②卒業後、キャリア形成プログラム（※4）の対象となること。
③医師免許取得後、直ちに知事が指定する臨床研修病院において 2 年間の臨床研修に従事すること。
④臨床研修修了後、次の（ア）又は（イ）のいずれかにおいて医師業務に従事すること。（従事期間は臨床研修期間を含めて、修学資金貸与期間の 1.5 倍）
（ア）修学資金貸与を受けた者ごとに知事が指定するへき地医療機関（※3）
（イ）知事が定める医療機関の特定診療科等（※1）又は知事が定める医療機関の特定専攻課程（※2）のうち知事が修学資金貸与を受けた者ごとに指定する医療機関

※1 特定診療科等：小児科、産婦人科（産科を含む）、麻酔科、救急科、外科（呼吸器外科、心臓血管外科、乳腺外科、消化器外科及び小児外科に限る）、脳神経外科、総合診療を実施する科及び救命救急センター
※2 特定専攻課程：総合内科分野・児童精神分野の医師を養成するための課程

※3 へき地医療機関：五條市、宇陀市、山辺郡、宇陀郡及び吉野郡の区域に所在する公立病院及び公立診療所
※4 医師の確保を特に図るべき診療科等における医師の確保と、医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム

2.試験科目

一次試験：数学（100 点）・英語（100 点）・理科 2 科目（200 点）合計 400 点満点
二次試験：面接用アンケート・小論文（段階評価）・面接（段階評価）

3.出願書類

出願手続（令和 5 年度　入学試験要項 88～89 ページ）の必要書類を提出してください。

4.併願について

奈良県地域枠入試の出願者は、大阪府地域枠入試・和歌山県地域枠入試・静岡県地域枠入試に出願することはできません。
なお、一般入試・前期への併願は可能です。

5.選抜方法・合否判定基準

（1）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定する。
（2）一次試験合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定する。
（3）合否判定は、地域枠が定員に達するまで順次判定するため、他の地域枠の合格最低点と異なることがある。
（4）地域枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合は、合格者数が募集人数を満たさない場合がある。
（5）地域枠入試【一般前期型】と一般入試・前期を併願した者のうち、地域枠入試で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・前期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・前期の選抜対象とします。

6.入学辞退について

（1）地域枠入試の合格者はいかなる事由があっても入学を辞退できません。また、入学手続後はいかなる事由があっても、納入した入学金および授業料等は返還しません。
（2）地域枠入試【一般前期型】の合格者が、一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】、共通テスト利用方式（前期・中期・後期）の二次試験に合格した場合であっても、これらの入試方式で入学手続きをすることはできません。

7.その他

修学資金の貸与申請には、連帯保証人を 2 名選出する必要がありますので、予めご留意ください。
※独立の生計を営む成年者 2 名（別住所地の 2 名）とし、本人が未成年の場合、うち 1 名は法定代理人とすること。

和歌山県地域枠入試【一般前期型】

和歌山県地域医師確保修学資金制度の概要

（1）貸与額：月額 20 万円（6 年間総額 1,440 万円）　※なお、貸与時より年 10%の利息が付きます。
（2）返還免除：下記 1．出願資格（2）の条件を全て履行した場合に、貸与を受けた修学資金と利息の返還が免除されます。
（3）返還条件：返還債務免除のための勤務を履行できなくなった場合は、一括返還（年利 10%）となります。

和歌山県地域医師確保修学資金の詳細については、「修学資金等の返還に係る債務の免除に関する条例」および「和歌山県地域医師確保修学資金貸与規則」に規定しています。和歌山県ホームページ、もしくは、和歌山県福祉保健部健康局医務課 TEL（073）441-2610 にご確認ください。

1.出願資格

本学が定める出願資格（令和 5 年度　入学試験要項 85 ページ「一般入試・前期、後期」参照）を有し、以下の全ての要件を満たす者。

（1）将来、和歌山県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。
（2）和歌山県地域医師確保修学資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。
①本学医学部を卒業した日から 2 年以内に医師免許を取得すること。
②出願時には、和歌山県内でキャリア形成を行うことに同意する旨の県への同意書（※1）を提出すること。
③医師免許取得後、引き続き 9 年間（臨床研修期間を含む）和歌山県内の公的医療機関に従事すること。うち 2 分の 1 以上の期間は、へき地医療機関（※2、※3）に勤務すること。
④上記①から③までにおいて、やむを得ず遵守することができないと認められる場合は、退学や心身の故障など医師として従事することが不可能であるときに限ること。

※1 在学中にキャリア形成卒前支援プラン及び卒業後にキャリア形成プログラムの適用を受けるためのもの。
・キャリア形成卒前支援プランとは、県が大学や医療機関と連携し、地域医療へ貢献する意志を有する学生に対し、地域医療や将来の職業選択に対する意識の涵養を図り、地域医療に貢献するキャリアを描けるように支援するプラン
・キャリア形成プログラムとは、医師の確保を特に図るべき区域における医師の確保と、当該区域に派遣される医師の能力の開発・向上を両立しつつ、出産、育児等のライフイベント等のキャリア形成上の希望に配慮して地域枠学生（医師）ごとに作成するプログラム
・キャリア形成卒前支援プラン及びキャリア形成プログラムの詳細については、和歌山県ホームページをご確認ください。

※2 へき地医療機関：へき地医療拠点病院、市町村が開設するへき地診療所及び和歌山県が定める医師の確保を特に図るべき区域に所在する医療機関
※3 へき地医療機関における診療科は内科とします。

2.試験科目

一次試験：数学（100 点）・英語（100 点）・理科 2 科目（200 点）合計 400 点満点
二次試験：面接用アンケート・小論文（段階評価）・面接（段階評価）

3.出願書類

出願手続（令和５年度　入学試験要項 88～89 ページ）の必要書類に加え、次の同意書を提出してください。

同意書

4.併願について

和歌山県地域枠入試の出願者は、大阪府地域枠入試・奈良県地域枠入試・静岡県地域枠入試に出願することはできません。
なお、一般入試・前期への併願は可能です。

5.選抜方法・合否判定基準

（1）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定する。
（2）一次試験合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定する。
（3）合否判定は、地域枠が定員に達するまで順次判定するため、他の地域枠の合格最低点と異なることがある。
（4）地域枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合は、合格者数が募集人数を満たさない場合がある。
（5）地域枠入試【一般前期型】と一般入試・前期を併願した者のうち、地域枠入試で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・前期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・前期の選抜対象とします。

6.入学辞退について

（1）地域枠入試の合格者はいかなる事由があっても入学を辞退できません。また、入学手続後はいかなる事由があっても、納入した入学金および授業料等は返還しません。
（2）地域枠入試【一般前期型】の合格者が、一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】、共通テスト利用方式（前期・中期・後期）の二次試験に合格した場合であっても、これらの入試方式で入学手続きをすることはできません。

7.その他

修学資金の貸与申請には、連帯保証人２名を選出する必要がありますので、予めご留意ください。
・連帯保証人２名は、独立して生計を営む成年者でなければなりません。
・そのうち１名は、その保護者（親権者又は未成年後見人）である必要があります。

静岡県地域枠入試【一般前期型】、【一般後期型】

静岡県医学修学研修資金

（1）貸与額：月額 20 万円（6 年間総額 1,440 万円）　※なお、貸与時より年 10%の利息が付きます。
（2）返還免除：下記 1．出願資格（2）の条件を全て履行した場合に、貸与を受けた修学資金と利息の返還が免除されます。
（3）返還条件：返還債務免除のための勤務を履行できなくなった場合は、一括返還（年利 10%）となります。 静岡県キャリア形成プログラム及び静岡県医学修学研修資金の詳細については、ふじのくに地域医療支援センターのホームページ、もしくは、静岡県健康福祉部地域医療課医師確保班 TEL（054）221-2868 にご確認ください。

1.出願資格

本学が定める出願資格（令和 5 年度　入学試験要項 85 ページ「一般入試・前期、後期」参照）を有し、以下の全ての要件を満たす者。なお、出願にあたっては同意書を提出すること。
（1）将来、静岡県の地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学することを確約できる者。
（2）静岡県医学修学研修資金の貸与を受け、次の条件を全て満たすことを確約できる者。
①在学中は「静岡県キャリア形成卒前支援プラン」が、卒業後は「静岡県キャリア形成プログラム」が適用されること。
②本学医学部を卒業した日の翌日から起算して 2 年を経過する日の属する月の末日までに医師免許の登録を完了すること。
③医師免許取得後、9 年間（初期臨床研修期間を含む）静岡県の公的医療機関等に勤務すること。なお、初期臨床研修修了後は、本人の意向を聴取し、県が個別に勤務機関を指定するものとする。

2.試験科目

一次試験：数学（100 点）・英語（100 点）・理科 2 科目（200 点）合計 400 点満点
二次試験：面接用アンケート・小論文（段階評価）・面接（段階評価）

3.出願書類

出願手続（令和 5 年度　入学試験要項 88～89 ページ）の必要書類に加え、次の同意書を提出してください。

同意書

4.併願について

静岡県地域枠入試【一般前期型】出願者は、大阪府地域枠入試・和歌山県地域枠入試・奈良県地域枠入試に出願することはできません。なお、一般入試・前期への併願は可能です。静岡県地域枠入試【一般後期型】出願者は、一般入試・後期への併願が可能です。

5.選抜方法・合否判定基準

（1）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定する。

(2) 一次試験合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定する。
(3) 合否判定は、地域枠が定員に達するまで順次判定するため、他の地域枠の合格最低点と異なることがある。
(4) 地域枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合は、合格者数が募集人数を満たさない場合がある。
(5) 地域枠入試【一般前期型】と一般入試・前期を併願した者のうち、地域枠入試【一般前期型】で二次試験が不合格となった場合は一般入試・前期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・前期の選抜対象とします。
同様に地域枠入試【一般後期型】と一般入試・後期を併願した者のうち、地域枠入試【一般後期型】で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・後期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・後期の選抜対象とします。

6.入学辞退について

(1) 地域枠入試の合格者はいかなる事由があっても入学を辞退できません。また、入学手続後はいかなる事由があっても、納入した入学金および授業料等は返還しません。
(2) 地域枠入試【一般前期型】の合格者が、一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】、共通テスト利用方式（前期・中期・後期）の二次試験に合格した場合であっても、これらの入試方式で入学手続きをすることはできません。

7.連帯保証人について

静岡県医学修学研修資金の貸与を受けるには、以下の条件を満たす 2 名の連帯保証人を立てる必要がありますので、予めご留意ください。
(1) 応募者が未成年の場合は、連帯保証人 2 名のうち 1 名は必ず親権者（法定代理人）とすること。
(2) 2 名の連帯保証人は、それぞれ別に独立して生計を営む者であること（両親 2 名を連帯保証人 2 名にすることはできません。）
(3) 法的に保証能力を有し、万一あなたが返還できなくなったときに代わりに弁済する資力を有する者であること。

令和6年度　入学試験要項

近畿大学への出願は、
簡単・便利・安心なインターネット出願です。
出願には受験ポータルサイト「UCARO（ウカロ）」への
登録が必要です。出願写真の提出方法は、
データアップロードのみになります。

全学部の共通テスト利用方式（前期）に
5教科型を導入します。※医学部・短期大学部除く

» 11~12ページ

全国最大**31都市**で受験が可能です。

» 11ページ

近畿大学

医 医学部

推薦入試(一般公募)

試験日 一次試験 令和5年11月19日(日) 二次試験 令和5年12月3日(日)
出願期間 令和5年11月1日(水)~11月9日(木)〈消印有効〉
合格発表 一次試験 令和5年11月29日(水) 二次試験 令和5年12月13日(水)

スタンダード方式 一次試験	理科 100点(60分)	+	英語 100点(60分)	+	数学 100点(60分)	=	3科目 300点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	+	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

一般入試・前期

試験日 一次試験 令和6年1月28日(日) 二次試験 令和6年2月11日(日)
出願期間 令和5年12月15日(金)~令和6年1月11日(木)〈消印有効〉
合格発表 一次試験 令和6年2月7日(水) 二次試験 令和6年2月23日(金)

スタンダード方式 一次試験	理科2科目 200点(120分)	+	数学 100点(60分) POINT	+	英語 100点(60分)	=	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	+	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

一般入試・後期

試験日 一次試験 令和6年2月24日(土) 二次試験 令和6年3月7日(木)
出願期間 令和6年2月1日(木)~2月13日(火)〈消印有効〉
合格発表 一次試験 令和6年3月2日(土) 二次試験 令和6年3月15日(金)

スタンダード方式 一次試験	理科2科目 200点(120分)	+	数学 100点(60分) POINT	+	英語 100点(60分)	=	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	+	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

※文部科学省へ認可申請予定

地域枠入試【一般前期型】(大阪府、奈良県、和歌山県、静岡県)

試験日 一次試験 令和6年1月28日(日) 二次試験 令和6年2月11日(日)
出願期間 令和5年12月15日(金)~令和6年1月11日(木)〈消印有効〉
合格発表 一次試験 令和6年2月7日(水) 二次試験 令和6年2月23日(金)

地域枠入試【一般後期型】(静岡県)

試験日 一次試験 令和6年2月24日(土) 二次試験 令和6年3月7日(木)
出願期間 令和6年2月1日(木)~2月13日(火)〈消印有効〉
合格発表 一次試験 令和6年3月2日(土) 二次試験 令和6年3月15日(金)

●地域枠入試は、大阪府、奈良県、和歌山県または静岡県の地域医療に貢献できる医師を養成することを目的とし、入学者には各府県から修学資金が貸与され、卒業後に各府県が定める条件を満たすことで、貸与された修学資金の返還が免除される制度です。

＜出願資格＞
・本学が定める出願資格（一般入試・前期、後期）に該当する者。
・将来、地域医療に貢献しようとする強い意志を持ち、合格した場合は入学を確約できる者。(いかなる事由があっても入学を辞退できません。)
・各府県が定める条件を全て満たすことを確約できる者。

一次試験	理科2科目 200点(120分)	+	数学 100点(60分) POINT	+	英語 100点(60分)	=	4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	+	面接 段階評価(10分程度)				

(注)・一次試験は、学力検査の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。
・本学医学部一般入試との併願は可能ですが、地域枠入試に合格した場合、一般入試は判定対象外となります。

＊詳細については、115ページおよび各府県ホームページ等でご確認ください。



共通テスト利用方式(前期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ―― 二次試験 令和6年2月18日(日)　出願期間 令和6年1月3日(水)~1月12日(金)(消印有効)

合格発表 一次試験 令和6年2月14日(水) 二次試験 令和6年2月27日(火)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	数学2科目 200点(1科目100点)	＋	理科2科目 200点(1科目100点)	＝ 5科目 500点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

共通テスト利用方式(中期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ―― 二次試験 令和6年2月18日(日)　出願期間 令和6年1月3日(水)~2月1日(木)(消印有効)

合格発表 一次試験 令和6年2月14日(水) 二次試験 令和6年2月27日(火)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	国語 数学 高得点1科目(100点)	＋	理科2科目 200点(1科目100点)	＝ 4科目 400点満点
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

共通テスト利用方式(後期)<大学入学共通テスト利用>

試験日 一次試験 ―― 二次試験 令和6年3月7日(木)　出願期間 令和6年2月2日(金)~2月22日(木)(消印有効)

合格発表 一次試験 令和6年3月2日(土) 二次試験 令和6年3月15日(金)

●一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の結果で判定し、一次試験の合格者に二次試験を課します。

共通テスト利用方式一次試験	英語 100点	＋	国語 数学 理科 高得点2科目(1科目100点)	＝	3科目 300点満点	
二次試験	小論文 段階評価(40分)	＋	面接 段階評価(10分程度)			

(注)・一次試験は大学入学共通テスト(1/13・14)の成績によって判定し、一次試験合格者を決定します。(本学の個別学力試験は課しません。)
・一次試験の合格者に二次試験を実施し、一次試験、二次試験の成績および調査書等を総合的に判定して最終合格者を決定します。

個別学力試験

一次試験　推薦入試（一般公募）　理科／記述方式、英語・数学／マーク方式
一般入試・前期、地域枠入試【一般前期型】　理科／記述方式、数学・英語／マーク方式
一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】　理科・数学／記述方式、英語／マーク方式

二次試験　全入試制度　小論文、面接

※記述式問題において、医学を学ぶにあたって必要となる知識と数理的・科学的思考力、判断力、これらをもとに自ら新しい考えを創出する論理的思考力、およびその結果を記述する表現力を評価しています。
また、二次試験（小論文・面接）において、医師として必要な資質である積極性、協調性、倫理観、コミュニケーション能力等の主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度・能力について段階評価を行うことで、個別学力試験の成績および調査書等の評価とともに、学力を多面的・総合的に評価しています。

令和6年度入試変更点

POINT 一般入試・前期、地域枠入試【一般前期型】
数学は、全学部共通問題を使用します。あわせて、出題形式および試験時間を変更します。

POINT 一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】
試験時間を変更します。

出願資格

推薦入試（一般公募）（推薦基準）

次の⑴、⑵ともに該当する者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を令和５年３月以降に卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。

⑵ 学業、人物ともに優秀で出身高等学校長もしくは中等教育学校長が推薦する者。
なお、調査書に記載している各教科の学習成績の状況については、各学部が選考に使用する教科・科目の（学習）成績が優秀であることが望ましい。

一般入試 前期(A日程) 前期(B日程) 後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当する者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

共通テスト利用方式 前期・中期・後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当し、かつ⑷を満たす者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

⑷ 令和６年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。

共通テスト併用方式 A日程・B日程・後期

次の⑴～⑶のいずれかに該当し、かつ⑷を満たす者

⑴ 高等学校もしくは中等教育学校を卒業した者および令和６年３月卒業見込みの者。

⑵ 通常の課程による12年の学校教育を修了した者および令和６年３月修了見込みの者。

⑶ その他文部科学省令により、上記と同等以上の学力があると認められる者（表１）。

⑷ 本学の一般入試・前期（A日程）、一般入試・前期（B日程）、一般入試・後期に出願し、令和６年度大学入学共通テストで本学が指定した教科・科目を受験する者、または受験した者。

※申し出により本学が出願資格を認定した学校は次のとおりです。（推薦入試（一般公募）を含みます。）

大阪朝鮮高級学校、京都国際中学高等学校、神戸朝鮮高級学校、京都朝鮮中高級学校、東京朝鮮中高級学校
茨城朝鮮初中高級学校、北海道朝鮮初中高級学校、愛知朝鮮中高級学校、広島朝鮮初中高級学校
山口朝鮮高級学校、九州朝鮮中高級学校、神奈川朝鮮中高級学校　（令和5年7月1日現在）

（表１）

NO	項　目	内　容
1	高等学校卒業程度認定試験・大学入学資格検定	高等学校卒業程度認定試験（大学入学資格検定）に合格した者および令和6年3月31日までに合格見込みの者。
2	外国の学校等	外国において、学校教育における12年の課程を修了した者および令和6年3月31日までに修了見込みの者、またはこれらに準ずる者で文部科学大臣の指定した者。
3	文部科学大臣の指定した者	海技教育機構(旧海員学校)の本科の卒業(見込)者、国際バカロレア資格取得者、アビトゥア資格取得者、バカロレア資格(フランス共和国)取得者、GCEAレベル取得者、国際的な評価団体の認定を受けた教育施設に置かれる12年の課程を修了した者または修了見込みの者、その他文部科学大臣の指定した者(旧制諸学校出身者等)。
4	在外教育施設	「在外教育施設」とは、文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程または相当する課程を有するものとして認定または指定した在外教育施設の当該課程を修了した者および令和6年3月31日までに修了見込みの者。
5	専修学校の高等課程	専修学校の高等課程を修了した者および令和6年3月31日までに修了見込みの者。
6	認定	「認定」とは、本学において、個別の入学資格審査により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和6年3月31日までに18歳に達する者。 出願を希望する場合は、事前の申し出により、個人の学習履歴を勘案した上で、入学資格審査委員会が特に許可した場合には、受験資格を認めます。詳細については、出願受付開始日1カ月前までに入学センター（TEL（06）6730-1124）までお問い合わせください。

※ インターネット出願時において、（表１）のいずれかに該当する場合は、出身高等学校欄の学校名に、実際の学校・施設名ではなく太枠内の該当する項目を入力してください。

出願手続

本学への出願手続は、「インターネット（Web）入力による出願」のみとなります。ネット環境がない方は、近畿大学入学センター（TEL(06)6730-1124）にご相談ください。詳細については、94～98ページをご参照ください。
※出願期間中は東大阪キャンパス入学センターでパソコンを使っての出願登録が可能です。
（月曜日～金曜日　8時45分～17時30分　日曜・祝日および冬期休業期間を除く）

出願における注意事項

1. 入力した情報の変更
志望学科や試験地などを間違えて登録しても、出願期間内であれば、志望学科、併願の追加、試験地、個人情報等すべての変更が可能です。ただし、入学検定料支払い後の志望学科の変更は、入学検定料の変動がない範囲に限ります。
2. 登録データの有効期限について
登録されたデータは入学検定料の納入期限内は保持されますが、支払いがされないまま期限を過ぎると無効になります。
3. 漢字の登録エラーについて
氏名や住所などの個人情報を入力する際に、JIS第1水準・第2水準以外の漢字は登録エラーになる場合があります。
その場合は、代替の文字を入力してください。入学後に、正しい漢字を登録することができます。
例）髙木→高木　　山﨑→山崎　　（ローマ数字）Ⅲ→（アルファベットのアイ）III

出願写真データ・必要書類

〈必要書類の注意事項〉

●本年度(令和6年度)入試において、**一度提出された出願写真データ・必要書類の再度の提出は不要です。**前回に提出したものを流用することで、志願者の出願手続に関する負担の軽減を図ります。
ただし、前回の出願時に提出していない必要書類(大学入学共通テスト成績請求票等)がある場合は、出願期間内(締切日消印有効)に送付してください。

［対象となる入試制度］
「推薦入試(一般公募)」「一般入試･前期(A日程)」「一般入試･前期(B日程)」「一般入試･後期」「共通テスト利用方式(前期)」「共通テスト利用方式(中期)」「共通テスト利用方式(後期)」「共通テスト併用方式(A日程)」「共通テスト併用方式(B日程)」「共通テスト併用方式(後期)」「医学部地域枠入試【一般前期型】」「医学部地域枠入試【一般後期型】」「専門高校､専門学科･総合学科等を対象とする推薦入学試験」

●出願期間締切日消印有効ですが、出願期間内に到着するよう可能な限り早く送付してください。
●必要書類が出願期間内にすべて揃わない場合や、提出された書類に不備があった場合は、出願を受理しません。よく確認して間違いのないようにしてください。

〈出願写真データについて〉

●出願写真は、インターネット出願時に出願写真データをアップロードしていただきます。郵送の必要はありません。
出願写真データのアップロード方法は、95ページを参照ください。

全員提出

・**出願3ヵ月以内**に撮影した受験者本人のみが写ったカラー写真（モノクロ・スナップ写真は不可）
・上半身、正面（焦点が合ったもの）、無帽（ヘアバンドも不可）、背景無地、枠無しのものを使用してください。
・制服、私服は問いません。ただし、入学が許可された場合には、**この写真は入学後に交付する学生証の写真として使用します。卒業時まで写真交換はできません。**
・眼鏡着用の場合、レンズは無色透明（ブルーライトカットレンズ等の反射するものは不可）で、レンズに光が反射していないものに限ります。
・画像に加工を施していないこと。また、不鮮明なもの（背景と人物の境目がわかりにくくないもの等）、サングラス・マスクや髪や影で目元輪郭を隠している、目を閉じている等、個人の判別、本人確認が困難な写真は使用できません。
・平常の顔貌と著しく異ならないもの（たとえば、口を開き歯が必要以上に見えているものは不可）
・変色や傷、汚れのないもの
・証明写真等、プリントアウトした写真を撮影したものは不可。
・ファイル形式：JPEG、10MB以内

●受け付けできる写真例



・上部に隙間がある。
・水平かつ正面を向いている。
・顔の大きさが全体の3分の1以上ある。
・両目の瞳が確認できる。
・肩の一部が写っている。

[不適当な写真例]
※次のような写真の場合は、再請求することがあります。

①頭がきれている



②写真が全体的に暗い（影になっている）



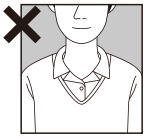
③背景に余計なものが写っている



④プリントされた証明写真をスマートフォンのカメラで撮影している



⑤枠から顔がはみ出している



※出願写真データは画面上でサイズを調整して登録することができますので、顔がはっきり映るように適宜調整してください。
（顔が大きすぎる、小さすぎるものは不可）
※出願写真として適切ではないと判断された場合は、再提出になることがあります。出願期間内に再提出を行わない場合、出願は受理できません。
※一度受理された出願写真データは、変更することができません。

〈必要書類について〉

● 以下の表に記載されている書類を巻末に綴じこまれている送付用封筒（**私製・市販封筒可**）に入れ、「簡易書留・速達」で出願期間内に郵便局窓口から郵送してください（**ポストへの投函不可**）。送付用封筒に必要書類が入らない場合は、折って入れてください。登録を完了した後、書類郵送用の宛先を印刷し、市販の封筒に貼って使用することも可能です。

送　付　先	〒539-8691　日本郵便　新大阪郵便局留 近畿大学　出願受付係

対象	必要書類	要件	
全員提出	調査書等	【出願資格を証明する提出書類】を確認し、準備してください。	
対象者のみ提出	共通テスト成績請求票	・共通テスト利用方式、共通テスト併用方式に出願される方は、大学入試センターから交付された成績請求票（私立大学・公私立短期大学用）を1枚送付してください。（台紙等への貼付は不要です） すでに推薦入試（一般公募）等で必要書類を郵送済みの場合でも、成績請求票を提出していなければ、成績請求票の郵送が必要です。	
	推　薦　書※	・推薦入試に出願される方は、専用の用紙（162ページ参照）を用いて、学校長が作成し厳封したものを送付してください。	
	その他	専門高校、専門学科・総合学科等を対象とする推薦入試※	・検定試験合格証写し（検定試験に合格したことを認定する証書の写し、A4判）
			・志望理由書（164ページ参照）
		医学部地域枠入試※ 【一般前期型】【一般後期型】 ※詳細が決まり次第、入試情報サイトでお知らせします。	・地域枠入試 志望理由書（166・167ページ参照）
			・地域枠入試 入学誓約書（168ページ参照）
			・同意書　入試情報サイト（https://kindai.jp/exam/apply/documents/）からダウンロードしてください。
		外部試験利用制度	【各種資格試験の証明書】を確認し、準備してください。合格証・スコア等は原本の写しでも可とします。

※入試情報サイト(https://kindai.jp/exam/apply/documents/)からダウンロードしたものを使用することも可能です。

【出願資格を証明する提出書類】各提出書類１通の郵送が必要です。

該当の出願資格(87ページ参照) ※87ページ(表1)の各項目番号に対応しています。	提出書類	注意事項
高等学校または中等教育学校卒業(見込)者	調査書	・文部科学省の指定の様式により、学校長が出願3ヵ月以内に作成・厳封したものに限ります。 ・改姓等の理由により調査書記載の氏名と表記が異なる場合は、姓（名）が変わった理由を調査書の余白に記載してください。 ・高等学校卒業後５年以上経過する等により、高等学校での調査書の発行が不可能な場合は、「卒業証明書、単位修得証明書(成績証明書)」を提出してください。なお、単位修得証明書または成績証明書が発行できない場合は「保存期間経過証明書」(任意書式)を提出してください。
・通常の課程による12年の学校教育修了(見込)者 ・在学教育施設修了(見込)者 (表1)ー4※ ・専修学校の高等課程を修了(見込)者 (表1)ー5※	調査書 ※調査書の発行が不可の場合は、「修了(見込)証明書、成績証明書」を提出してください。	
高等学校卒業程度認定試験合格者 または 大学入学資格検定合格者 (表1)ー1※	「合格成績証明書(原本)」 または 「合格証明書(原本)」 または 「合格証書(写し)」	・免除科目がある場合、当該免除科目の成績に係る証明書の提出は不要です。 ※令和6年3月31日までに18歳に達する者。 ※「合格成績証明書」、「合格証明書」は発行に時間を要する場合がありますので、時間に余裕をもって準備してください。
高等学校卒業程度認定試験合格見込者 (表1)ー1※	合格見込成績証明書	
外国において学校教育における12年の課程修了(見込)者 または上記に準ずる者で文部科学大臣の指定した者 (表1)ー2※	「修了(見込)証明書、成績証明書」	・日本と外国両方の高校に在学した者は、日本の高等学校在学時の成績証明書等も提出してください。 ※出願資格の確認が必要となります。時間を要するため、可能な限り早く出願し、必要書類を郵送してください。海外から発送する場合は、入学センター（〒577-8502 大阪府東大阪市小若江3-4-1）宛に送付してください。 また提出された証明書等に不備がある場合は、受理できませんので、よく確認して間違いのないようにしてください。
文部科学大臣の指定した者 (表1)ー3※	「当該資格証明書」 または 「修了した教育施設の修了(見込)証明書、成績証明書」	
認定 (表1)ー6※	近畿大学入学センターにお問い合わせください。(TEL：(06) 6730-1124)	

【各種資格試験の証明書】各証明書１通の郵送が必要です。

資格名称	証明書の種類	注意事項	有効期限
①TOEFL iBT®	Test Taker Score Report	・TOEFL iBTテストのTest Dateスコアのみをスコアとして活用します。（MyBestスコアは活用できません）	出願開始日より過去2年以内に受験したもの
②TOEIC® L&R+TOEIC® S&W	OFFICIAL SCORE CERTIFICATE (公式認定証)	・TOEIC L&R公開テストのみの受験およびTOEIC S&W公開テストのみの受験、IPテストのスコアは認められません。 ※2023年度に受験された方は、デジタル公式認定証のPDFデータを印刷し、提出することも可能です。	
③IELTS	成績証明書 (Test Report Form)	・換算表記載のスコアは、4技能の平均を示す「Overall Band Score」を指します。	
④GTEC (CBTタイプ、検定版)	OFFICIAL SCORE CERTIFICATE	・検定受験のOFFICIAL SCOREに限ります。	
⑤TEAP4技能パターン	TEAP成績表	・4技能パターンに限ります。 ・受験時期の異なる点数の合計では認められません。	令和4年度以降に受験したものに限る
⑥ケンブリッジ英語検定	(各レベル検定) Certificate (リンガスキル) Test Report	・ケンブリッジ英語検定(各レベル、for Schoolsバージョンを含む)ならびに「ケンブリッジ英語検定4技能CBTリンガスキル(以下、リンガスキル)」を対象とします。 ・リンガスキルは試験会場での受験のみ利用可能です。自宅受験の結果は利用できません。 ・ケンブリッジ英語検定のスコアはケンブリッジ英語検定(各レベル検定)の「Overall Score」、「リンガスキル」の「Average Score」を指します。	有効期限の限定はありません
⑦英検®	合格証明書 **※個人成績表は不可**	・英検S-CBT、英検CBT、英検S-Interviewを含みます。 ・「2級かつCSEスコア2150以上(2級A)」対象の方で、2級合格時にCSEスコア2150未満の方でも別の試験日程でCSEスコアが2150以上の場合、組み合わせて利用することが可能です。(準1級、1級が不合格であってもCSEスコアが基準に達している場合は対象です。)提出書類は、「合格証明書」に加えて「英検CSEスコア証明書」の提出が必要です。 ・1次試験を2016年3月以前に受験した方は、2級Aを証明する場合のみ、日本英語検定協会に問い合わせのうえ、英検有資格者確認依頼結果を2級合格証と併せて提出してください。	

医学部地域枠入試（認可申請予定）

近畿大学医学部地域枠入試制度は、国の医師不足対策に基づき、大阪府・奈良県・和歌山県・静岡県の地域医療に貢献できる医師を養成することを目的としています。各府県地域枠入試の定員については文部科学省に申請予定であり、本内容は変更する場合があります。各府県の制度の概要や出願資格は、詳細が決まり次第、医学部ホームページでお知らせします。
医学部ホームページ：https://www.kindai.ac.jp/medicine/admissions/exam/region/
制度の詳細については、各府県のホームページをご確認ください。

試験制度	入学検定料	地域	募集人員	試験日	試験地	出願期間	合格発表	入学手続締切日
地域枠入試【一般前期型】	57,000円	大阪府	3名	【一次試験】令和6年1月28日(日)【二次試験】令和6年2月11日(日)	【一次試験】大阪・東京 【二次試験】大阪狭山	令和5年12月15日(金)～令和6年1月11日(木)＜消印有効＞	【一次試験】令和6年2月7日(水)【二次試験】令和6年2月23日(金)	令和6年3月1日(金)
		奈良県	2名					
		和歌山県	2名					
		静岡県	6名					
地域枠入試【一般後期型】		静岡県	4名	【一次試験】令和6年2月24日(土)【二次試験】令和6年3月7日(木)		令和6年2月1日(木)～令和6年2月13日(火)＜消印有効＞	【一次試験】令和6年3月2日(土)【二次試験】令和6年3月15日(金)	令和6年3月21日(木)

1．試験科目　一次試験：理科2科目（200点）・数学（100点）・英語（100点）合計400点満点
二次試験：小論文（段階評価）・面接（段階評価）

2．出願書類　出願手続（入学試験要項90～91ページ）の必要書類を提出してください。

3．併願について　地域枠入試の出願者は、複数地域に出願することはできません。
地域枠入試【一般前期型】は一般入試・前期との併願、地域枠入試【一般後期型】は一般入試・後期との併願が可能です。

4．選抜方法・合否判定基準
（1）一次試験は学力試験の成績によって判定し、一次試験合格者を決定する。
（2）一次試験合格者に二次試験を実施し、一次試験・二次試験の成績および調査書・地域枠志望理由書等を総合的に判定して最終合格者を決定する。
（3）合否判定は、地域枠が定員に達するまで順次判定するため、他の地域枠の合格最低点と異なることがある。
（4）地域枠において、合格基準を満たす受験者がいないと判定した場合は、合格者数が募集人数を満たさない場合がある。
（5）地域枠入試【一般前期型】と一般入試・前期を併願した者のうち、地域枠入試で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・前期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・前期の選抜対象とします。
同様に地域枠入試【一般後期型】と一般入試・後期を併願した者のうち、地域枠入試【一般後期型】で二次試験が不合格となった場合は、一般入試・後期（一次試験）の合格最低点を超えている者を一般入試・後期の選抜対象とします。

5．入学辞退について
（1）地域枠入試の合格者はいかなる事由があっても入学を辞退できません。また、入学手続後はいかなる事由があっても、納入した入学金および授業料等は返還しません。
（2）地域枠入試【一般前期型】の合格者が、一般入試・後期、地域枠入試【一般後期型】、共通テスト利用方式（前期・中期・後期）の二次試験に合格した場合であっても、これらの入試方式で入学手続きをすることはできません。

6．各府県問い合わせ先

大阪府	大阪府健康医療部 保健医療室医療対策課医療人材確保グループ	TEL:(06)6944-8183 URL:https://www.pref.osaka.lg.jp/iryo/isikakuho/tiikiwaku.html (大阪府／大阪府地域医療確保修学資金―地域枠募集案内―)
奈良県	奈良県医療政策局 医師･看護師確保対策室	TEL:(0742)27-8644 URL:https://www.pref.nara.jp/isikangosi/naradr/highschool/emergency.html (ならドクターズネット　緊急医師確保修学資金貸与制度)
和歌山県	和歌山県福祉保健部 健康局医務課	TEL:(073)441-2610 URL:https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/ishisyugaku/ishisyuugaku.html (和歌山県医師確保修学資金制度) URL:https://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050100/career/careerkeiseiprogram.html (和歌山県キャリア形成卒前支援プラン･キャリア形成プログラム)
静岡県	静岡県健康福祉部 地域医療課医師確保班	TEL:(054)221-2868 URL:https://fujinokuni-doctor.jp (ふじのくに地域医療支援センター)

令和６年度地域枠入試の詳細は、認可後にホームページに掲載予定
https://www.kindai.ac.jp/medicine/admissions/exam/region/



シラバスNo.： 2311900004

科目名　：	**医療イノベーション学**						
英文名　：	Study of Medical Innovation						
担当者　：	松田　学・岡田　清孝						
開講学科：	医学科						
単　位　：	2単位	開講年次：	1年次	開講期：	前期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	共通教養科目						
備　考　：							

■授業概要

近未来の医療を支える技術やしくみづくりに携わるフロントランナーを大学内外から招き、オムニバス形式の講義・ワークショップを行います。テーマは、医学およびその周辺分野イノベーションを軸に、産学官連携のトピックスからAIによるメガデータの分析方法まで多岐にわたります。
本科目は、受動的に話を聞いて知識を蓄える場ではありません。最先端の知識は近い将来には古いものとなってしまいます。本科目では、常に新しいモノや情報を希求するマインドそのものを、現在の最先端を生み出している講師陣から受け継いで欲しいと思います。履修者は、問題意識をもって講義に臨み、講義テーマに触発されて主体的に考え、考えたことを表現し、また学生どうしが討論してさらなる高みと深みを目指すことが求められます。とくに、ワークショップ「カレッジラボ with 近大医学部」では、フィールドワークと討論を経て、ヘルスケアに関わる自分たちが生み出したアイデアを発表します。ここでは、能動的で主体的な学修態度が求められます。医学および周辺分野で起きているイノベーションの現在を学び、社会の一員として、良い未来を想像し創造する志向性を是非とも養ってください。
なお、Zoomの参加記録およびワークショップ中の点呼により出席確認を行います。

■授業形態

メディア授業（授業回の半数以上がメディア授業／それ以外は、対面授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

PBL（課題解決学習）・ディスカッション、ディベート・グループワーク・プレゼンテーション・フィールドワーク

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

対応ディプロマポリシー
（DP①）医学知識と技能の修得
（DP②）自律的学習能力
（DP③）国際化への対応力
（DP⑤）プロフェッショナリズム

対応教育アウトカム
（EO-1）倫理とプロフェッショナリズム　⑤
（EO-2）医学的知識　①
（EO-9）自律的継続的学習能力　②
（EO-10）国際化への対応できる教養と英語力　③

キーワード
医療イノベーション、産学連携、グローバル化、コミュニケーション、AI

学習・教育目標
　これから６年間にわたる医学部での学修を経て医師となったあとも、社会の環境変化に対応しながら自己形成を継続するマインドをもつことを目指す。本科目を通して、医学分野の内外で起こるイノベーションに常に関心を寄せ、自ら問題点を見い出し、関連する情報を収集・分析し、考え、何らかの解を見つけ、それを形にしていく力を身につけていくことが目標である。
DP①およびDP③とそれに対応した教育アウトカムの学修を目的として、医療関連の各分野のエキスパートによる授業を受けることで、医療に関わるイノベーションの現状と未来への展望を理解する。

DP②およびDP⑤とそれに対応した教育アウトカムの獲得を目的として、ICTを利用した調べ学習の習慣づけを行い、授業内およびワークショップにおけるグループワークを活用して、コミュニケーション能力の向上と、協調性のある能動的で積極的な学修姿勢を身につける。Sustainable Development Goals（SDGs：持続可能な開発目標）を含む科目である。

上記の学習・教育目標達成に向けた到達目標を以下に示す。
1）情報を常にアップデートし新しい事に挑戦することが医師にとって重要であることを理解する。
2）「デザイン思考」および「Bio Design」について述べることができ、この考え方を活かして1年生の間に実践をする。
3）医療機器開発における医工連携の重要性を説明できる。
4）新薬開発のプロセスを理解し、「育薬」における医師の役割を説明できる。
5）在宅人工治療の現状と意義、および医師の立場からSDMの重要性について述べることができる。
6）医療の発展における医学研究と倫理の重要性について説くことができる。
7）医療・社会課題の本質的な解決に向けて医師がインタープレナーシップをもつことの重要性について説明できる。
8）技術革新における常識を超える具体例について述べることができる。
9）技術の伝承において重要なことを述べることができる。
10）起業に必要なことが何かを理解し、事業アイデアを自分で考えることができる
11）院内の新規医療機器・サービスについて、事例を挙げて紹介できる。
12）医療に関する社会のニーズを汲み取ろうとする姿勢をもち、イノベーションのシーズを生み出そうとする視点から身の回りの世界を眺めることができる。
13）地域社会の一員として社会と主体的に関わろうとするマインドを獲得する。
14）医療トレンドの変化の理解を深め、それをもとに自身のキャリアや目標について考えることができる。
15）ビッグデータやAIをはじめとしたIT技術の革新が医療の発展と深く結びついていることを説明できる。
16）1対１あるいは1対数人での円滑なコミュニケーションをはかる上でのヒントを獲得する。
17）Zoomを通じての討論およびGoogleDrive上のファイルの共同編集などネットワークを通じた共同作業を実践できる。
18）課題に対して異なるバックグラウンドをもつメンバーと意見を述べ合い、答えを導き出すことができる。
19）パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料を作成し口頭発表を実践できる。

■成績評価方法および基準

課題レポート評価（別に定めるルーブリック評価表に従う；30%×2回） 60%
ワークショップ学習評価（カレッジラボでの参加姿勢20%および発表内容20%） 40%

■試験・課題に対するフィードバック方法

ワークショップ担当者からグループワーク等の成果物に対する評価結果が伝えられる。また、科目担当者から、課題レポート返却時に、ルーブリック評価の結果が個人に開示される。

■教科書

指定しない

■参考文献

随時紹介する

■関連科目

医学から見た現代社会と倫理、グローバルヘルス概論、環境と社会、総合医学、プロフェッショナリズム

■授業評価アンケート実施方法

医学部実施規程に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

医学部教育センター医学基盤教育部門（岡田清孝；進学棟２階） kiyokada@med.kindai.ac.jp
医学部教育センター医学基盤教育部門（松田　学；進学棟２階） matsu.dam@edu.med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

火曜日 16:30～18:00（岡田清孝）
木曜日 17:00～18:00（松田　学）
上記以外でも可能な場合があります。研究室を訪ねてください。

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

第1回 「今だから言える！ 僻地医療からシリコンバレーへの挑戦！」（池野文昭 先生／スタンフォード大学・近畿大学）

予習内容：ゼロから１を創り出すには、何より、本人の情熱が重要である。宿題として、講師のTEDxHamamatsuでのYouTubeの講演内容を事前に視聴しておくこと。https://www.youtube.com/watch?v=a614BxrK3lM&t=10s
予習時間：20分
復習内容：何でもいいから、デザイン思考の本を一冊読破すること。

復習時間：180分

デザイン思考を用い革新的な医療機器を生み出し続けるシリコンバレーの発想法がある。
シリコンバレーは、世界の医療機器の半分以上がここで生まれると言われている程の医療機器創生先進地域であり、 その中心に位置し、人財を提供しているのが、Stanford Universityである。本講演では、演者が、日本において9年間の僻地医療を含む地域医療の末に、シリコンバレーに渡り、Stanford Universityにおいて、サバイバルしている経緯、経験を説明し、そして、医療機器の起業家精神育成講座で教えている発想法/開発 手法である「デザイン思考」について、又これに基づく標準化プログラムとして各国に展開されつつあるBio Designについて講義をする。

第2回 医療用ロボットの現状と今後の展望（山本泉 先生／株式会社メディカロイド）

予習内容：・病院の中で使用されているロボットはどのようなものがあるか予習する。
・腹腔鏡手術におけるマニュアル手術とロボット支援下手術の違いについて予習する。
予習時間：60分
復習内容：医療機器開発における医工連携の重要性と、それに対する自身のキャリアへの影響について考察する。
復習時間：60分
日本は産業用ロボットではグローバルに市場をリードする技術・製品を供給しているが、医療用ロボットでは海外メーカに後塵を拝している状況である。
当社は日本製初の手術支援ロボットを発売したが、産業・医療におけるロボットの現状を説明し、医療用ロボットを開発をどのように進めてきたか、またその中で医工連携がどのように重要であったかを説明する。また今後求められる医療用ロボットを事例を交え紹介する。

第3回 新薬ライフサイクル（新薬の誕生から育薬まで）__肺癌領域における免疫療法＋化学療法の併用療法の研究を通じて（江夏総太郎　先生／日本イーライリリー株式会社）

予習内容：肺がんの治療について予習すること
予習時間：60分
復習内容：授業の内容を振り返り新薬開発のプロセスと、育薬について確認すること
復習時間：60分
新薬は、9～17年の年月を費やし、基礎的な研究から、治験にて有効性や安全性を確認した上で、厚生労働省の承認を受け、ようやく市販に至ります。　しかし、新薬の歩みはこの『誕生』がゴールではありません。
誕生の後も、くすりには、より使いやすいものへと成長そして成熟を遂げていくという大切な歩みがあります。この誕生後のくすりの道のりを、くすりを育てるという意味で『育薬』と呼んでいます。
この講義では、新治療として肺癌領域に『誕生』した免疫療法の効果を最大化するための化学療法との併用という更なる研究によって、それまで一部の患者さんにしか効果を発揮できなかった免疫療法がすべての肺癌患者さんに適応できる新治療へと育っていく『育薬』までの過程を基礎データーから臨床データまで包括的にレビューし新薬のライフサイクルについて科学的見地から学べます。

第4回 医工連携と在宅人工臓器治療（古薗　勉　先生／近畿大学生物理工学部）

予習内容：補助人工心臓と腎代替療法（血液透析、在宅血液透析、腹膜透析、腎移植）について、事前に概略を予習すること
予習時間：60分
復習内容：在宅医療と患者主体医療について自分なりに考えをまとめておくこと
復習時間：120分
「医工連携」とは医学者と工学者が共同で医療新技術を創出するという意味である。医工連携を背景とした我が国のベンチャー企業による事業化について、事例を挙げて解説する。また、近年、高度化している重症臓器不全を対象とした人工臓器（補助人工心臓や人工腎臓）による在宅医療の最新動向および、安全性確保に向けた医工学的な取り組みを紹介する。さらに、この根底には患者主体医療が存在することから、医師と患者と協働意思決定（shared decision making, SDM)についても触れる。

第5回 医薬品開発における問題（小竹　武　先生／近畿大学薬学部）

予習内容：国の施策である後発医薬品を推奨する理由とその問題点を知っておく。予習時間
予習時間：30分
復習内容：医薬品開発における問題点と先発医薬品と後発医薬品の違いを理解する。
復習時間：60分
医薬品開発に関わる規制と制度と治験の実施手順および先発医薬品、後発医薬品の違いを概説する。

第6回 医師キャリアの多様性と医療におけるインタープレナーシップ（竹田　陽介　先生／株式会社Vitaly）

予習内容：インタープレナー（越境人材）について、アントレプレナー、イントレプレナーとの違いも含めて予習すること。参考：「21世紀型社会に求められるインタープレナー（越境人材）について初の実態調査を実施」
https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000046109.html
予習時間：60分
復習内容：医師キャリアの多様性（特に新たなキャリア像であるインタープレナー）を踏まえ、医学部卒業後の自らのキャリアプランを作成し、(できれば病院外で活躍する）先輩医師に壁打ち（自らの考えをぶつけてフィードバックをもらい、ディスカッションを行う）をすること

復習時間：60分
近年、医師のキャリアは多様化し、臨床、研究、起業といった従来の医師キャリアに加え、新たなキャリア像として「インタープレナー（越境人材）」が注目されている。産業界では、既に多くのインタープレナーが、分野、組織、世代を越えて人と人の化学反応を惹起し、価値共創を通じた新たな産業（エコシステム）が次々と生み出されている。人類が地球資源の枯渇を乗り越え、持続可能な社会（SDGs）を実現するために必要なことは、各分野での「一人の天才起業家による新規事業」ではなく、「実現すべきビジョンを共有したインタープレナー達による新産業の共創」であり、医療分野も例外ではない。本講義では、従来型医師キャリアの「わかりやすく敷かれたレール」の功罪と、医療・社会課題の本質的な解決に向けた医師一人一人のインタープレナーシップの重要性を理解し、自分達の医師キャリアの「開かれた可能性」について全員で意見を出し合い活発に議論をしていただく。

第7回　革新的バイオエネルギーの開発の視点と工学的応用（井田　民男　先生／近畿大学バイオコークス研究所）

予習内容：再生可能エネルギーの概要について予習すること
予習時間：120分
復習内容：21世紀を切り開くバイオエネルギーについてその役割を纏め、統計社会学に基づく医学との接点を再考し、医学の果たす役割を確認すること
復習時間：60分
世界総人口が100億人に迫る中、１次エネルギーの争奪が増している。一方、地球温暖化に関する抑止技術開発は遅延し、回復はおろか進行状態にある。ここでは、産業分野における化石資源：石炭/石炭コークスの代替あるいはそれをも超える技術の開発視点と工学応用を講義する。本講義は、Sustainable Development Goals（SDGs：持続可能な開発目標）における No.7,9,11,12,13,14,15,17に対応する。

第8回　医療学生のための起業のすゝめ（西井　香織　先生／NEWRON株式会社）

予習内容：将来起業したい方は、「リーンスタートアップ」という本がオススメなので、ぜひ読んでみてください。本を読むのが苦手な方は、ネットで「リーンスタートアップ　要約」などで調べて概要を掴んでみてください。特に、「UVP」と「MVP」とは何なのか？について調べておくと学びが深まります。
予習時間：60分
復習内容：事業アイデアを自分で考えてみましょう！
復習時間：60分
医師の資格を取るからといって、医師としてだけしか働けないことはありません。
医学の知識を生かしたキャリアの一つに、「起業」という選択を考えてみるのはいかがでしょうか？
本講義では、同じく近畿大学の薬学部に在学中に起業した講師（2019年に薬剤師免許取得）が、国師勉強と両立しながら起業した体験談と、起業するために必要な事をお伝えいたします！
どのように事業アイデアを考え、具現化してゆくのか？といった内容を、実際に運営しているサービスである「旅する薬剤師」の事例をもとにご紹介いたします。
就活の自己分析でもよく使われる「Will Can Must」のフレームワークを活用した事業アイデア発想法も伝授致しますので、ぜひこの機会に、ご自身でやってみたい事業アイデアを発想してみましょう！

第9回　医療を通じて社会に貢献する（松本　幸大　先生／テルモ株式会社）

予習内容：病院の中で使用される医療機器にはどのようなものがあるか予習すること。
予習時間：60分
復習内容：講義の中で出てきた医療機器が使われる場面について確認すること。
復習時間：60分
テルモは「医療を通じて社会に貢献する」という企業理念のもと、世界の医療現場と患者さんにより良い製品とサービスを提供するために取り組んでいる。1921年に体温計の町工場として「日本」の国民衛生を支えるために設立されたテルモは、今や5万点以上の製品やサービスを通して「世界」の医療に貢献する企業に成長した。世界の絶え間なく変化する社会環境と科学技術の中で、持続的な成長とグローバルでのプレゼンスを向上するための取り組みについて紹介する。

第10回　医療領域における 新技術の展開（渡邉　正宏　先生／富士通株式会社）

予習内容：現在革新が行われている医療領域の新規医療機器・サービスを確認し、ユーザは誰なのか、どんな課題を解決しているのかを検討しておいてください。
予習時間：60分
復習内容：講義でいくつかのシステム、サービスのユーザや貢献の仕方について紹介しました。現在存在しない技術を想定してよいので、今後の新しいシステムやサービスの位置づけを想像し、誰がユーザで誰に貢献するのか考えてみてください
復習時間：60分
医療に展開されている技術の革新がまさに今行われている。本講義では近年医療領域での適用が
進むＡＩ関連技術、ＡＲ／ＶＲ技術、そして弊社で推進しております数値シミュレーション技術について事例を含めて紹介いたします。

第11回　『カレッジラボ with 近大医学部』（SENBOKUスマートシティコンソーシアムヘルスケアWGと共催）＿泉北ニュータウンのフィールドワーク①

予習内容：「泉北ニュータウン」をキーワードにインターネットで検索し、ニュータウンの歴史と現在抱える問題点を理解す

る。地図をみて、訪問先の位置および周囲の様子のほか、事業開始・施設設立などの背景を頭に入れておく。
予習時間：60分
学生による地域魅力創造・課題解決のための手法提案型のワークショップである。泉北ニュータウンで福祉や介護・住民の交流支援等、幅広く住民のヘルスケアやウェルビーイング向上に資する取組を行うまちづくり拠点を学生がフィールドワークし、各拠点の取組の概要や将来展望、課題等について学ぶとともに、より取組が活性化するような提案を2日間のワークショップでの討論を通して練り上げ、最終日に提案のプレゼンテーションを行う。

第12回 『カレッジラボ with 近大医学部』（SENBOKUスマートシティコンソーシアムヘルスケアWGと共催）＿泉北ニュータウンのフィールドワーク②

復習内容：フィールドワークで得られた情報および自分の考えを文字情報としてまとめる。問題点を抽出して改善案を考える。まずは、自分の頭で思考する。
復習時間：60分
第11回と合同

第13回 『カレッジラボ with 近大医学部』（SENBOKUスマートシティコンソーシアムヘルスケアWGと共催）③＿ブレインストーミング

予習内容：フィールドワークから得られた問題点等について、同様の問題について対応した成功事例がないか、情報検索を行い、グループディスカッションに備える。
予習時間：60分
復習内容：グループディスカッションを通じて得られたアイデアの絞り込みに向けて、プランの実現の可否を判断するために必要な情報をインターネット上の情報検索などを通じて集め、まずは自分の考えを絞り込む。
復習時間：60分
フィールドワークにより得られた情報をグループディスカッションを通じて整理し、発表という当座の目標に向けて準備を行う。アイデアを発掘し発展させるための、ブレインストーミング法を実践する。

第14回 『カレッジラボ with 近大医学部』（SENBOKUスマートシティコンソーシアムヘルスケアWGと共催）④＿発表に向けたグループワーク

予習内容：（③復習に同じ）
復習内容：授業時間外のグループワークにより発表スライドを作成し、完成度を高める。
復習時間：360分
グループディスカッションを通じて発掘されたアイデアを絞り込み、発表のストーリーを決める。

第15回 『カレッジラボ with 近大医学部』（SENBOKUスマートシティコンソーシアムヘルスケアWGと共催）⑤＿講堂にて提案発表会

予習内容：個人およびグループでの発表演習を行い提案内容およびプレゼンテーションの完成度を高める
予習時間：120分
復習内容：他班のプレゼンテーションも参考に、自分たちの発表の良かった点と改善点をまとめ、今後に生かせる情報として整理する。
復習時間：120分
学外者を含む多くの聴衆の前でグループワークの成果を発表し、自分たちのプランの魅力と熱意を伝える。また、他班の提案を吸収し、泉北ニュータウンをどのように活性化するか、地域住民をどのように幸せにするか、主体的に考える。

試験は実施しない

（レポートおよびワークショップへの取り組みとプレゼンテーションを評価する）

■ホームページ

SENBOKUスマートシティコンソーシアム　https://senboku-smartcity.com

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業
オムニバス形式で多様な企業等から講師を招いて行う授業
企業等から提供された課題（企画提案等）に取り組む授業

シラバスNo.： 2311900024

科目名　：	**地域包括ケア実習/総合医学（地域包括ケア実習）**						
英文名　：	Off - campus facility practice in public health						
担当者　：	今野　弘規・田中　麻理・松村　拓実・奥村　二郎・東　賢一・水越　厚史・井内田　科子・松田　学・藤田　貢・博多　義之・藤田　裕規・森内　博正・藤田　至彦						
開講学科：	医学科						
単　位　：	60時間	開講年次：	1年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	基礎科目						
備　考　：							

■授業概要

1．多様な場や人をつなぎ活躍できる医師となるためには、社会や地域のことを知る必要がある。本実習では、公衆衛生学教育の一環として、以下のような地域の保健・福祉・医療を担う地域施設を訪ね、職員や入所者から直接現場の生の声を聞き、感じ取ることを通じて、２学年、３学年で系統的に学ぶことになる社会医学の意義について考える機会とし、人の健康や疾病・障がいに関わる多様な施設や人材がそれを支えていることを体験し、理解する。

2．複数の班（12～14班予定）に分かれ、班単位で以下の例に示す施設から一施設を選択し、見学する機会を設ける。

(例) 保健所、市町村保健センター、地域医療施設(精神保健)、精神障害者社会復帰支援施設
介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、障がい者(児)施設、医療廃棄物処理施設など

3．水平的統合として社会医学の公衆衛生学および環境医学・行動科学、垂直的統合として教育センター、基礎医学医学基盤教育部門および基礎医学の各教員が各班の担当教員を担う。

4．前半の班と後半の班に分かれ、学外施設実習と総合医学を同じ期間の水曜日３・４時限に前半・後半交代で行う。

5．見学先の施設に関連する内容を班単位でまとめ、実習発表会でPowerPointによるプレゼンテーションを行う。

6．発表会には総合医学の班と担当教員も参加し、発表の評価および質疑応答を行う。

7．発表会の内容を踏まえ、班単位でレポートをまとめ提出する。

8．出席確認は担当教員が直接行う。

9．各班に担当教員が１名付くが、学外施設見学の引率やプレゼンおよびレポートに関する基本的な情報提供や助言などのテューターとしての役割であり、本実習を通じて習得する内容の質や量は学生自身の主体性にかかっている。

10．評価は、プレゼン、レポートならびに関連教育アウトカムを含む実習を通じての総合評価により行う。

11. なお、新型コロナウイルス感染症の状況によっては、見学中止やオンライン、あるいはビデオ見学など他の代替手段に切り替える可能性がある。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

グループワーク・プレゼンテーション・実験・実習科目

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
DP2 積極的に課題に取り組み、さらに自ら問題点を見いだし解決する姿勢を身につけること。
DP4 患者に対する思いやりと奉仕の精神またチームワークにおける協調精神を身につけること。
DP5 プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと。

関連教育アウトカム
① 倫理とプロフェッショナリズム(レベルE)
⑥ コミュニケーション能力(レベルE)
⑦ 医療の社会性の理解(レベルE)
⑨ 自律的継続的学習能力(レベルE)

キーワード
社会医学、多職種連携、地域保健医療福祉施設、地域ケア、コミュニケーション

学習・教育目標
DP4, DP5と教育アウトカム⑥⑦の基礎力（レベルE）を涵養するために、班のメンバーと共に学外施設の見学を通じて様々な職種や入居者とふれあうことで、多様な施設や人材が地域の健康や福祉を支えていることを経験し、学ぶ。
DP2, DP4および教育アウトカム⑥⑦⑨の基礎力（レベルE）涵養を目標として、プレゼン資料およびレポート作成における共同作業の進め方を学び、経験する。また、効果的なプレゼンのしかたを学び、経験する。

到達目標
健康や障害・疾病に関わる多様な施設、多様な職種の例を具体的に述べることができる。（⑦⑨）
人の健康や疾病・障がいを支える保健や福祉の役割を述べることができる。（⑦⑨）
医療も社会の一部、医師も1人の社会人であり、公衆衛生に寄与する存在であることを自覚できる。（⑦）
協調性とコミュニケーションを駆使し、チームで一つの資料をまとめ上げることができる。（⑥⑨）

行動目標
集合場所・集合時間を事前に確認する（①）
集合時間を守る（①）
遅刻や欠席をする際は、同じ班のメンバーまたは担当教員に事前に報告する（①⑥））
集合時、担当教員に挨拶する（①⑥）
学外施設の見学に参加する（①）
同じ班のメンバーが遅刻や欠席をしないよう連絡を取り合う（⑥）
同じ班のメンバーがそろわない時に理由を説明できる（⑥）
学外施設の見学時、常識的な身だしなみ、服装で参加する（①）
学外施設のスタッフ、入居者に挨拶する（①⑥）
学外施設のスタッフへの質問を能動的に行う（①⑥⑦⑨）
学外施設の入居者に丁寧に接する（①⑥⑦）
施設入居者およびその家族の生活に思いを馳せる（①⑦）
見学で学んだことを記録する（①⑨）
施設の存在理由を考える（⑦⑨）
施設の法的根拠を調べる（⑦⑨）
学んだことを元に、良い点と課題と考えられる点を挙げる（①⑨）
課題と考えられる点について改善策の案を挙げる（①⑨）
見学終了後、学外施設のスタッフに御礼を述べる（①⑥）
学外施設見学後は速やかに帰路につく（①）
プレゼン資料およびレポート作成に向けて班内での役割を決める（①⑥）
プレゼン資料およびレポート作成の過程で担当教員との連絡を円滑に行う（⑥）
指示待ちではなく班全体で能動的に進める（①⑨）
自身の役割を積極的に果たす（①⑨）
班内で積極的に議論をする（①⑨）
進捗の遅れがある部分はメンバーがお互い支え合い協力して進める（①⑥）
プレゼン用のスライドは視認性が良く理解しやすい内容にする（①⑥）
プレゼンの話し方は、聞き取りやすい声の大きさ、速さで行う（①⑥）
プレゼンは規定の時間を厳守する（①）
発表会で積極的に質疑応答に参加する（①⑥⑨）
レポートは規定の様式、提出期限を厳守する（①）
レポートは必ず担当教員の確認を経て承認を得る（①⑥）

■成績評価方法および基準

実習発表会での発表における成果のとりまとめ能力、分析力、プレゼンテーション技量等を評価する。 30%
学外施設での実習とその事前、事後学習、発表準備やレポート作成におけるコラボレーションとリーダーシップ、学習に取り組む姿勢等をルーブリックで評価する。 50%

レポートにおいて実習成果をまとめ、思考、推論、想像する力を評価する。 20%

■試験・課題に対するフィードバック方法

実習発表会において各班の発表毎にディスカッションを行い、最後に全発表についての講評を行う。

■教科書

【留意事項】実習要領および適宜資料を配布する

■参考文献

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学(改訂第4版) (NANKODO'S ESSENTIAL WELL一ADVAN)』 (岸 玲子, 南江堂：2018)
[ISBN]B0B3FX5P58 『国民衛生の動向 2022/2023 (厚生の指標2022年8月増刊)』 (一般財団法人 厚生労働統計協会, 一般財団法人 厚生労働統計協会：2022)

■関連科目

総合医学

■授業評価アンケート実施方法

授業評価は実施規定に準拠して行うとともに、実習発表会の時に学生アンケートを行う。

■研究室・メールアドレス

公衆衛生学教室　pbl-h@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金　10時～17時
実習全体に関する質問は上記メールアドレスまで。
班単位の個別の質問に関する連絡は各担当教員と相談して決めること。

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

第1回　オリエンテーション（全班）
　学外施設実習と総合医学の合同オリエンテーション

第2回　学外実習（1-7班または6班）
　実際に学外の施設に行き、実習を行う。※詳細はオリエンテーションで説明する。

第3回　学外実習（1-7班または6班）
　実際に学外の施設に行き、実習を行う。※詳細はオリエンテーションで説明する。

第4回　学外実習（1-7班または6班）
　学内またはオンラインで発表会の準備を行う。

第5回　学外実習（1-7班または6班）
　学内またはオンラインで発表会の準備を行う。

第6回　実習発表会（全班）
　学内で1-7班が実習発表を行う。

第7回　学外実習（8-14班または7-12班）
　実際に学外の施設に行き、実習を行う。※詳細はオリエンテーションで説明する。

第8回　学外実習（8-14班または7-12班）
　実際に学外の施設に行き、実習を行う。※詳細はオリエンテーションで説明する。

第9回　学外実習（8-14班または7-12班）
　学内またはオンラインで発表会の準備を行う。

第10回　学外実習（8-14班または7-12班）
　学内またはオンラインで発表会の準備を行う。

第11回　実習発表会（全班）
　学内で8-14班が実習発表を行う。

第12回　（総合医学）（全班）

第13回　学外実習（全班）
　学内またはオンラインでレポート作成を行う。

第14回　（総合医学）（全班）

第15回　学外実習（全班）
　学内またはオンラインでレポート作成を行う。
予習内容：実習施設の概要や事業内容、実習の目的について予習すること
予習時間：30分
復習内容：実習中に生じた疑問点や意見について復習すること
復習時間：30分

■ホームページ

近畿大学医学部公衆衛生学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/pubheal/

■実践的な教育内容

学外でのインターンシップや実習、研修を授業の一環として位置付けている授業

シラバスNo.： 2311900025

科目名　：	**地域包括ケア実習/総合医学（総合医学）**						
英文名　：	The scope of public health (Department of Hygiene)						
担当者　：	奥村　二郎・東　賢一・水越　厚史・井内田　科子						
開講学科：	医学科						
単　位　：	60時間	開講年次：	1年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	基礎科目						
備　考　：							

■授業概要

【概要】

1. 一般的な講義形式の授業や実習に加えて、学習の動機・印象付け、問題抽出・解決能力の涵養、自己学習・討論の習慣が身に付くように、それぞれの分野に連結したテュートリアル（Problem-Based Learning）を実施する。テュートリアルのまとめとしての発表・討論会・解説講義を行うとともに、演習授業や課題演習(Q&A)などの学生参加型の授業を設ける。
2. 講義内容には、臨床医学との垂直的統合として、臨床医学の疫学・診断・治療の内容も一部含まれる。また、水平的統合として、法医学、公衆衛生学の内容も学習の効果を促進する範囲内で解説する。
3. 主に環境医学・行動科学の教員が講義を行うが、垂直的統合として、臨床系の教員や学外講師による講義を実施する。
4. 主としてパワーポイントスライドを用いて講義を行うが、併せて授業内容を要約した資料を配布する。資料はあくまでも講義の参考資料であり、講義内容を網羅するものではないことに留意する。講義を聴講することにより、学習のポイントを把握し、ノートをとることを推奨する。また、講義内容には一部最新トピックスを含むため、必ずしも講義内容全てが試験の出題項目ではないことに注意が必要である。本試験については、基本的な内容を出題し、疫学や診断、治療に特化した内容は出題しない。
5. 学生からの質問は随時受け付けるが、学生がより積極的に質問できる時間として課題演習・Q&Aやオフィスアワーを設ける。
6. Unit終了後の統括的評価のためのコース試験を行い、カリキュラムの習得度を評価する。
7. 実習とテュートリアルについては、出席とレポート提出は必須である。教育内容の丸暗記を避け、理論的に理解して頭に学習内容や思考パターンを定着させることを心がけて学習する必要がある。
8. コース試験で合格点を得るのに必要な学習のためには、簡易な参考書やプリント、過去問のみの学習では不充分である。理論的に理解するためには、講義と併行してしっかりした教科書を読んで復習し、学習する必要がある。教科書はユニットが開始するよりも、できるだけ早期に購入しておくことが望ましい。
9. 講義の出席確認はUNIPAのカードリーダーと座席指定により行う。時に予告の上出席カードを使用する。

1年の総合医学は、カリキュラムツリーの上で、学外施設実習に加えて、2年の行動科学（行動医学）、3年の環境医学及び臨床実習の行動科学関連科目と垂直統合された科目で、医学部医学科の基幹科目です。卒業後必要となる公衆衛生学の全般及び医師国家試験に出題されるものと同等の事例や多彩な講師による実務事例を基に受講者自らが調べて考え発表し討論することにより講義を進めます。

【背景】

講義の背景としては、援助を必要とする患者や障害者、高齢者に対する日本の保健医療福祉のシステムが、公平性、経済性、専門性という観点から、先進国の中でも最も進んだ国の一つとなっているもののいずれのシステムも海外の事例を参考に制度化された後、国民経済と社会保障との関係性をはじめ、保健医療福祉関係者の熱意や努力に多くを依存する現状など、多くの課題をかかえています。介護保険や障害者福祉、難病の制度など海外では望んでも構築出来ない制度も多く、海外の先進事例に頼ることも選択枝になく、医療関係者を始め国民の英知や先進的な思考によるわが国独自の改革が求められています。このため、基礎的な現状に関する知識を得たところで、それぞれの問題点を整理し、国や自治体を含めた地域の政策・制度の立案などを含め、将来の制度運用を担い、また医師としてのリーダーシップを求められる個々の学生が、環境医学や行動科学、衛生行政の課題について、常に自ら考える態度や習慣を身につけることを目的としています。

【方法】

授業の事前準備や事後の展開に必要な学習の方法

総合医学は、地域医療教育Ⅰ学外施設実習と表裏一体です。

1～7班と8～14班の2群に分け、8～14班が前半、1～7班が後半に講義を受けます。合同での講義（発表・討論）も行います。

（1）総合医学発表・討論では、1～１４班全員出席の上、学会における口頭の発表形式で事例発表・討論会を開催します。

（2）レポートの提出や筆記試験は、①わかったこと、②①について自ら考えたことを他者に理解してもらうことを目的として論理的に記載してもらいます。

講義・発表などでは、席を指定します。カードリーダーの他、随時、着席の有無や出席票の配布により出欠をとりますので、指定外の席や、遅刻、途中退出は講師からの特段の指示がある場合以外は欠席となります。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

1.ディプロマ・ポリシーとの関連（3つ）に講義や実習を通して技術を学び、態度をルーブリック評価するなどにより身につけ、その結果としてディプロマポリシーを達成する。

①受講者は、プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指す。

②受講者は、患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につける。

③受講者は、医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努める。

2.教育アウトカムとの関連（3つ）；受講者は、以下の関連教育アウトカムを身につける。

①倫理とプロフェッショナリズム

②医学的知識

③医療の社会性の理解

3.キーワード（5つ）；受講者は、キーワードについて学習する。

①社会医学、②行動科学、③環境医学、④環境･衛生行政、⑤健康リスク

4.学士力との関連性

①受講者は、医学、医療の歴史と現状を広い視野から学ぶことによって、今後学習する専門的医学や医療の社会全体における位置づけを体系的に理解する。

②受講者は、患者や住民と共同して地域医療を円滑に進めるために、いわゆる社会性を身につけ、人権を理解し、患者の苦しみや家族の気持ちを汲み取る素地を育成する。

③受講者は、臨床医として働く上で必要な健康管理や医療を動かす社会的な仕組みのあり方について、自ら考え、革新する態度を身につける。

④受講者は、筆記試験とレポート発表との両方の合格点取得を必須とする。

注）受講者は、期間中1.を目指して、カリキュラムツリーに挙げられた2.について既定の学習成果を得るため、総合医学において、3.の各項目について、4.の観点から学習する。

【学習目標】

受講者は、総合医学の全容を理解し、医の倫理、国際保健に加えて個体要因と環境諸要因の健康への関わりを学ぶ。また、医療・保健に取り組む際の基本的な心構えや行動科学的な技術を学ぶ。

ケーススタディでは、症例ごとに社会医学的な課題を整理し、関連する制度の現状や問題点、行動科学的な改善点を学ぶ。また、発表・質疑では、発表の手法に加えて、個人個人が、自ら考え、他者との論理的な意見交換を心がける態度を学ぶ。

【到達目標】

受講者は、以下の各項を達成できる。

1.健康の概念と疾病予防の概要を理解し説明できる。

2.保健医療行政における保健所や医療機関、医療計画について、その根拠法や機能について説明できる。。

3.主要な食中毒の種類と特徴、予防法について説明できる。

4.生活習慣と関連した疾患と予防について説明できる。

5.憲法、医師法、医療法、医療関連の法律について、それぞれの体系や概要を説明できる。

6.プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて説明できる。

7.屋内環境の管理の必要性、衣服の機能と健康との関わりについて説明できる。

8.感染症について、成立の要因、感染経路、免疫、流行について説明できる。

9.感染症法、予防接種法、免疫法について説明できる。

10.国際的な感染症対策の仕組みについて、実例をあげて説明できる。

11.医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセントについて説明できる。

12.リスボン宣言、及び個人情報保護法、種々の倫理指針について説明できる。

13･高齢者に対する医療福祉の制度や現状、課題、歴史について説明できる。

14.わが国の社会保障制度について理解し、その役割について説明できる。

15･障害者福祉、自立支援、新障害者プラン、障害者基本計画について説明できる。

16.老人福祉施設、老人保健福祉計画、介護保険制度について説明できる。

17.チーム医療について理解し説明できる。

18.精神保健福祉施策について、総合的に理解し、説明できる。

19.ケースについて概要を理解し、必要な検索を行い発表・説明ができる。

20.ケースに関する行政施策や課題について自分の考えを論理的に説明できる。

■成績評価方法および基準

①試験（選択肢問題） 50%
②「知識・技能」ﾚﾎﾟｰﾄ（筆記試験を含む）発表・討論（ルーブリック評価） 50%

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説などを教室HPに掲載します。（パスワードはhygiene）
①試験と②レポート、発表・討論の両方を合格しないとコースの合格となりません。レポートは、授業の理解度、及びレポートの完成度を評価します。発表・討論は、思考力、調査力、発表力をルーブリックで評価します。筆記試験は、発表及び討議のため、授業で紹介する事例について医療を広い視点でとらえることができるリテラシーの育成を目的とする。

授業評価アンケートや各班の連絡係からのメールは、試験・課題（ケース選択を含む）・学修支援システム・連携授業や地域社会との連携・第3者評価・シラバス・評価基準への（教員及び学生からの）フィードバックに用います。
試験の答案用紙やレポート、発表・討論のスライド、講義での配布資料、授業アンケート、メールのコピーは、グループごとに学生に配布することや教室の学生ポータルサイト（ネット掲示板）に掲載することがあります。e-learningなどを活用してください。
自分の答案やレポートのコピーが配布や掲載される場合がありますので、希望しない学生は、第1週の間に申し出てください。この場合、評価には影響しません。
レポートの再（追）提出を求める学生には、UniversalPassportより要請します。
最終的にレポートが提出されない場合、再（追）試験を受けることができない場合があります。再試験は、筆記試験50%、選択肢問題50%で実施します。（両方の合格が必要です）

■教科書

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学 (Nankodo’s essential well−advan)』 (南江堂：2018)

■参考文献

[ISBN]9784874923405 『衛生・公衆衛生学―社会や環境のシステムと健康との関わり』 (山本 玲子, アイケイコーポレーション：2017)
[ISBN]9784907921163 『Simple Step 公衆衛生』 (高橋 茂樹, 海馬書房)
[ISBN]9784524203758 『シンプル衛生公衆衛生学 2023』 (南江堂 ： 2023)
[ISBN]9784896328585 『公衆衛生がみえる2022-2023』 (メディックメディア ： 2022)
『国民衛生の動向・厚生の指標2023-2024』（厚生労働統計協会）

注）教科書・参考文献は、講義の期間中、グループの担当者に合計10冊程度、教室から貸し出しますのでそれぞれ使ってください。

■関連科目

2年行動医学、3年環境医学、臨床実習

■授業評価アンケート実施方法

実施規定に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟7階 環境医学・行動科学教室・hygiene@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月曜～水曜　 9：30～16：00
（予約は不要ですが、内線3275まで電話してから来てください。）

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

下記の各題名に含まれる授業1時間当たりの予習･復習について
予習内容：授業内容に対応する公衆衛生学の教科書･参考書を読み、不明な語句について調べる。
予習時間：各講義内容に記載（例、予15分、復15分）注）予：予習、復：復習
復習内容：授業中に書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：各講義内容に記載（例、予15分、復15分）注）予：予習、復：復習

〈授業の進め方〉
【第1週】 3－4　奥村二郎　　オリエンテーション（教科書確認；予15分、復15分）
水越厚史、
井内田科子

【第2週】 3　奥村二郎　ケース7：医療提供（予30分、復30分）
4　奥村二郎　ケース13：海外からの感染症（予30分、復30分）
【第3週】 3　奥村二郎　ケース11：感染症サーベイランス（予30分、復30分）
4　奥村二郎　ケース14：環境保健（予30分、復30分）
【第4週】 3　奥村二郎　ケース8：医行為（予30分、復30分）
4　奥村二郎　ケース16:高齢者（予30分、復30分）
【第5週】 3　奥村二郎　ケース1：健康日本21（予30分、復30分）
4　奥村二郎　グループワーク（予30分、復60分）
【第6週】 3－4　奥村二郎　、　実習発表会（予180分、復60分）
水越厚史、井内田科子

【第7週】 3　奥村二郎　①ケース7 ：医療提供（予30分、復30分）
4　奥村二郎　②ケース13：海外からの感染症（予30分、復30分）
【第8週】 3　奥村二郎　③ケース11：サーベイランス（予30分、復30分）
4　奥村二郎　④ケース14：環境保健（予30分、復30分）
【第9週】 3　奥村二郎　⑤ケース8：医行為（予30分、復30分）
4　奥村二郎　⑥ケース16:高齢者（予30分、復30分）
【第10週】3　奥村二郎　⑦ケース1：健康日本21（予30分、復30分）
4　奥村二郎　⑧グループワーク（予30分、復60分））

【第11週】3－4　奥村二郎、　実習発表会資料作成（予180分、復60分）
水越厚史、井内田科子

【第12週】3－4　奥村二郎、　事例発表・討論会。資料作成（予180分、復60分）
水越厚史、井内田科子

【第13週】3－4　奥村二郎、　学外実習　施設概要（予30分、復30分）
水越厚史、井内田科子

【第14週】3－4　奥村二郎　事例発表・討論会（予180分、復60分）
水越厚史、井内田科子

【第15週】3－4　奥村二郎　、　学外実習施設概要（予30分、復30分）
水越厚史、井内田科子

■ホームページ

近畿大学医学部　環境医学・行動科学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/hygie/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業
学外でのインターンシップや実習、研修を授業の一環として位置付けている授業

シラバスNo.： 2311900027

科目名　：	**プロフェッショナリズム/実習II**						
英文名　：	Professionalism/Practical Training II						
担当者　：	三井　良之・池田　行宏・梶　博史・稲瀬　正彦・髙橋　英夫・伊藤　彰彦・ 岡田　斉・栗田　隆志・上裕　俊法・武田　卓・辰巳　陽一・阪本　亮・ 平野　豊・岩永　賢司・渡邉　智裕・藤田　貢・植嶋　利文・能宗　伸輔・ 森口　ゆたか・西中　崇・霜田　求・高井　康之・ 厚生労働省近畿厚生局担当官・医学部実習担当教員						
開講学科：	医学科						
単　位　：	60時間	開講年次：	2年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	基礎科目						
備　考　：							

■授業概要

本学のカリキュラムは、学ぶべき内容を順次修得するだけではなく、様々な視点から角度を変えて、階層的に学びを蓄積することをめざして構築されている。とりわけ、プロフェッショナリズムは、低学年からの卒業までの階層性が重要である。2学年で開講するプロフェッショナリズム/実習IIでは，1学年で学んだプロフェッショナリズム/実習Iから、さらに一歩進み、臨床医学入門として、①基礎医学から臨床医学への橋渡しとなる基礎・臨床垂直統合の授業，②病院体験実習やグループワークを通して学ぶ多職種連携，③学生が主導あるいは参加する小規模な研究プロジェクトなどを配置している。①では事例を通じて，基礎医学がいかに臨床医学と連結しているかを学び，②では，病院体験実習、シミュレーションセンター実習を行い，③「研究室配属実習」では，(1)分析的で批判的思考を含む科学的方法の原理、(2)医学研究の方法、(3)Evidence-based medicine (EBM)、を学ぶことを目的として、後半に、計３週間の基礎医学講座を中心とする研究室に学生を配属する。このシリーズの学習を通じて、卒業後に適切な医療的責務を果たせるようになるための，知識、医療専門職としての技能，科学的方法を修得する。関連教育アウトカムの達成度についても個別に評価する。出席確認は対面授業では原則としてUNIPAのカードリーダーを用い、オンライン授業ではログイン記録を用いるが、Google Classroomの課題提出などを用いて行う場合もあり、途中退出などのないように真剣な態度で授業に臨むことが必要である。なお，新型コロナウイルス感染症の影響により，授業概要・方法には変更が生じる可能性がある。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

PBL（課題解決学習）・ディスカッション、ディベート・グループワーク・実験・実習科目

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプローマポリシー
①医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること(DP-1)。
②自ら問題を解決する積極的な態度を身につけること(DP-2)。
④患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること(DP-4)。
⑤プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬さされる医師を目指すこと(DP-5)。
関連教育アウトカム（到達度レベルはEを目標とする）
①倫理とプロフェッショナリズム
②医学的知識
③診療の基本的技能
④医療安全
⑤チーム医療
⑥コミュニケーション能力
⑨自律的継続的学習能力

⑩問題解決能力と医学研究への連結
キーワード
基礎医学、臨床医学、プロフェッショナリズム、シミュレーション，多職種連携
学習・教育目標
基礎医学で学んだ生体の解剖、機能、病因に関する理解を基盤として、診断学の基礎を学習し、診療において、生体のシグナルが、どのようにとらえられるのかを授業，シミュレーション実習を通じて学ぶ。卒業後に適切な医療的責務を果たすために医療における多職種連携に関わる知識、医療専門職の基本を修得する。これまでは，学問体系に基づいた複数の分野(解剖学・生理学・生化学・分子生物学・細菌学・免疫学・薬理学・病理学)によるユニット別のカリキュラムで、基礎医学教育が行われてきたが、基礎臨床統合授業では、Active learningとして，課題学習を軸に、基礎医学分野相互の関連(水平的統合)と基礎医学と臨床医学の関連(垂直的統合)を意識した授業を行う。さらに、３学年からの臨床医学の学習のための疾患の基本的概念および病態生理を学ぶことを目指す。また、Active learningとして、Team-based learningによる課題学習を通して、能動的に自ら問題点を抽出し、解決する姿勢を実践していく。研究室配属では、基礎医学講座あるいは関連教室に全学生が配属され、研究者（教員・大学院生）と行動を共にして研究活動を行う。研究活動を通して、科学的な知識や思考、問題解決能力を培い、医学文献やEBMを活用することにより、自ら問題を解決する積極的な態度を培い、科学的方法を学ぶ。これらの過程を通じて、研究マインドを持った診療能力の優れた医師あるいは研究者となるための資質を育成し、経験を積む。括弧内は関連する教育アウトカムを示す。
到達目標
１．卒業後に適切な医療的責務を果たすためにの知識や，医療専門職としての技能や素養の修得が必要なことを説明できる（①、②）。
２．患者とのコミュニケーションが診療のプロセスでいかに重要かを述べることができる（⑥）。
３．診断学に求められる身体診察の手法とフィジカルアセスメントを説明できる（③）。
４．生体からのシグナルが、どのような手段で診断に使われているかを概説できる（③）。
５．診療において医療安全、感染対策，医療倫理がどのような意味で重要かを概説できる（①、④）。
６．病院体験を通じて医療サービスの実際を体験するとともに、チーム医療の重要性を伝えることができる（①、③、⑤）。
７．シミュレーション実習を通じて、医療行為の基本を体験する（②、③）
８．臨床的に重要な病態から適切に問題解決を行うことができる（②、③、⑨）。
９．臨床的な問題点を基礎医学複数科目の視点を組み合わせて理解できる（②、⑥、⑨）。
１０．臨床的な問題点を基礎医学と臨床医学を組み合わせて理解できる（②、⑥、⑨）。
１１．医学的な問題から、研究テーマを抽出する（⑨、⑩）。
１２．研究に関する学習・調査を行う（②、⑨、⑩）。
１３．研究(実験)の計画・準備をし、実施する（⑨、⑩）。
１４．得られたデータの解析・分析・考察を行う（⑥、⑨、⑩）。
１５．発表（レポートあるいはプレゼンテーション）を行う（⑨、⑩）。
１６．研究内容について、教員や学生同士で議論できる（⑥、⑨、⑩）。

■成績評価方法および基準

基礎臨床統合授業:小試験と演習における態度や解答理由の評価を半分ずつ程度の割合とする。 30%
病院体験実習レポート 10%
シミュレーション実習評価 20%
研究室配属実習レポート，プレゼンテーション 30%
研究室配属実習態度評価（ルーブリック評価） 10%

■試験・課題に対するフィードバック方法

レポート内容に対するコメント
実習支援
上記評価方法は新型コロナウイルスの感染拡大の状況において変更する可能性がある.

■教科書

[ISBN]9784260020640 『内科診断学 第3版』 (福井 次矢, 医学書院：2016)

■参考文献

随時紹介する

■関連科目

プロフェッショナリズム/実習Ⅰ
プロフェッショナリズム/実習Ⅲ
プロフェッショナリズム/実習Ⅳ
人体構造、生化学、機能I,II、微生物学、病理学、薬理学、臨床各論I,II

■授業評価アンケート実施方法

実施既定に準拠して行う。
基礎臨床統合授業と研究室配属実習については、それぞれ別にアンケートを実施する。

■研究室・メールアドレス

神経内科　第4研究室
mitsui@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

三井良之　水曜日17-18時

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

以下の授業，実習を行う．括弧内に関連する教育アウトカムを示す。
１．バイタルサインの基本（②）
血圧測定など生体情報の基本であるバイタルサインを学ぶ
２．補完医療（②）
漢方からみた診療を学ぶ
３．医療倫理（①）
実例に基づいた医療倫理を学ぶ
４．地域包括ケア（①）
地域における医療・福祉の実態を学ぶ
５．医師会の役割（①）
地域医療と医師会の果たす役割を学ぶ
６．一次救命処置（②、⑥）
BLSを実践し，一般市民に教育できるレベルを目指す
７．検査概論（②、⑥）
EBMに基づく適正な検査の考え方を学ぶ
８．呼吸診察（②、⑥）
呼吸器診察の基本を学ぶ
９．心臓からのシグナル（②、⑥）
心音聴取，心電図など循環器疾患の基本を学ぶ
１０．医療安全（③、⑤）
座学，グループワークを通じて医療安全を学ぶ
１１．ホスピタルアート（①、⑦）
ホスピタルアートを通じて療養環境のあり方を考える.
１２．全人的医療（①、③）
心身の状況に配慮した医療を学ぶ
１３．シミュレーション実習（②、⑥）
種々のシミュレーターを用いた技術のトレーニングを行う
１４．病院体験実習（①、③、⑦）
病院各部門の見学から多職種連携を体感し，病院内各部門の機能と役割を学ぶ
１５．外来患者エスコート実習（①、③、⑦）
外来初診患者の院内で案内することにより，患者さんの生の声を聴く機会を持つ

基礎臨床統合授業について（②、⑥、⑨）　複数の基礎医学・臨床医学の授業を相互に関連させながら実施する基礎医学の水平的統合と基礎医学・臨床医学の垂直的統合を意図した授業・演習を含む授業である。
本授業・演習のための事前の知識整理として、本ユニットの直前に実施される２学年総合試験を活用する。
１日ごとに異なる臓器系統の疾患をテーマとする。
１限目に、臨床各論を履修する前に初歩的な知識が必要な重要な病態に関連した臨床課題(症例)を提示する。
その課題について、その日に行われる授業の分野に関連したいくつかの問題点について、学生はグループに分かれて議論をし、解答を考える。
２限目から４限目までは、基礎医学の水平的統合として、基礎医学のいくつかの分野の教員が、１時間ずつ、課題や関連した分野の講義をおこなう。
最後に、垂直的統合として、臨床科の教員が、講義と課題解説を行う。
学習課題は学生には前もって提示する。これらの授業・演習において、学生は自ら能動的に学び、考え、表現する態度を学ぶ。
授業内容に関する学生からの質問は、講義前後や講義中に随時受け付ける。
(具体的な内容)
火曜日 (消化器系) :
１限 課題演習　２限 生理学（解剖も含めて）　３限 微生物学　４限 薬理学　５限 消化器内科　６限 病理学

水曜日（循環器系）：
２限 課題演習　３限 生理学(解剖も含めて)　４限 薬理学　５限 循環器内科　６限 病理学
金曜日 (内分泌代謝系）：
１限 課題演習　２限 生化学　３限 生理学（解剖も含めて）　４限 薬理学　５限 内分泌代謝内科科　　準備学習：月曜日に課題と問題を前もって配布するので、予習による事前学習を行うことにより、演習授業中に議論と迅速な解答を記載できるように準備しておく。
事後学習としては、授業の内容から関連する基礎医学・臨床医学の分野を復習する。
研究室配属実習について（②、⑥、⑨、⑩）
基礎医学講座あるいは関連教室に全学生が配属され、研究者（教員・大学院生）と行動を共にして研究活動を行う。研究活動を通して、科学的な知識や思考、問題解決能力を培い、医学文献やEBMを活用することにより、自ら問題を解決する積極的な態度を培い、科学的方法を学ぶ。
予習内容：授業，実習に関連したキーワードを学ぶ
予習時間：30分
復習内容：授業，実習で学んだことを振り返る
復習時間：30分

■ホームページ

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバス№： 2311900077

科目名　：	**社会医学I（公衆衛生学）**						
英文名　：	Social medicine Ⅰ (Public Health)						
担当者　：	今野　弘規・田中　麻理・松村　拓実・藤田　裕規						
開講学科：	医学科						
単　位　：	90時間	開講年次：	2年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

1．医師には医療および保健指導によって公衆衛生の向上と増進に寄与する任務がある。そして、多様な場や人材と連携できる存在であらねばならず、科学的根拠に基づいた医療を実践できなくてはならない。そのためには、社会における医療・保健・福祉に関するシステムや現状、疫学などを含む公衆衛生学について学ぶ必要がある。本コースでは、公衆衛生学の概要、社会保障、保健統計、母子保健や学校保健、疫学の基礎などについて系統的に学習する。
2．通常の講義、非常勤講師による特別講義、練習問題と解説、相互学習から成る。
3．水平的統合として公衆衛生学、医学部教育センターおよび環境医学・行動科学が社会医学Ⅰの公衆衛生学学域を担当し、そのうち公衆衛生学コースは公衆衛生学と医学部教育センターが担当する。
4．学生自身の授業の理解度点検の目的で各授業単位の形成的評価試験を実施する。
5．コース終了後に総括的評価のための本試験を実施し、カリキュラムの習熟度を評価する。
6．関連教育アウトカムについても個別に評価する。

■授業形態

対面授業（全授業回）

■アクティブ・ラーニングの形態

グループワーク

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
DP1 医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること。
DP2 積極的に課題に取り組み、自ら問題点を見いだし解決する姿勢を身につけること。
DP3 他者を理解する幅広い教養と国際化の時代に対応できる英語力を身につけること。

関連教育アウトカム
② 医学的知識
⑦ 医療の社会性の理解
⑩ 課題解決能力と医学研究への連結

キーワード
予防医学、疫学、保健統計、地域保健医療福祉サービス、母子保健

学習・教育目標
DP1,DP2,DP3と教育アウトカム②⑩の基礎力（レベルE）を涵養するために、研究デザイン、分析疫学の指標、バイアスなどについて学び、科学的根拠に基づいた医療実践に必要な疫学の基礎的事項を習得する。
DP1,DP2,DP3と教育アウトカム②⑦の基礎力（レベルE）を涵養するため、公衆衛生学の概要、保健統計、社会保障、地域における健康管理（母子保健、学校保健、小児保健など）について学び、医師の公衆衛生の向上と増進に対する寄与に関する基礎を習得する。

到達目標

公衆衛生学の概要
1. 公衆衛生学の概念を説明できる。（②⑦）
2. 疫学および予防医学の概念を説明できる（②⑦）
3. 健康の定義を述べることができる。（②⑦）
4. 公衆衛生学で扱う領域を述べることができる。（②⑦）
5. 公衆衛生に関わる多様な学問と人材について述べることができる。（②⑦）

疫学
6. 予防の３つのレベルを説明し、それぞれの具体例を挙げることができる（②⑩）。
7. 予防医学におけるハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの長所と短所を説明できる（②⑩）。
8. 記述疫学の目的と方法の概要を説明できる。（②⑩）
9. 分析疫学の種類をあげ、個々の方法の得失を説明できる。（②⑩）
10. 無作為割付比較試験の有用性と問題点を列挙できる。（②⑩）
11. 疫学におけるリスク指標をあげ、その意味と計算方法を説明できる。（②⑩）
12. 医学情報のもつ系統誤差と非系統誤差を説明し、具体例をあげることができる。（②⑩）

保健統計
13. 人口統計と他の保健統計の主な指標を挙げ、その動向について述べることができる。（②⑦）

社会保障
14. 社会保障の理念と主たる分野について述べることができる。（②⑦）
15. 社会保険を列挙し、その目的を説明できる。（②⑦）
16. 公的年金のシステムを概説できる。（②⑦）
17. 公的扶助のシステムとその内容を説明できる。（②⑦）

地域における健康管理
18. 各ライフステージにおける保健・医療・福祉のシステムの概要を説明できる。（②⑦）
19. 保健・医療・福祉の各サービスを国民に提供する際に医師が果たす役割を説明できる。（②⑦）
20. 母子保健指標の定義と近年の動向について述べることができる。（②⑦）
21. 主な母子保健事業を列挙し、その概要を説明できる。（②⑦）
22. 学校保健の現状と動向、および保健教育と保健管理について説明できる。（②⑦）

■成績評価方法および基準

コース末試験 100%

■試験・課題に対するフィードバック方法

各講義の終わりに形成的評価のための小テストを実施し、その解説を行う。

■教科書

【留意事項】適宜プリントを配布する。

■参考文献

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学(改訂第4版) (NANKODO'S ESSENTIAL WELL−ADVAN)』 (南江堂 : 2018)
[ISBN]4896328582 『公衆衛生がみえる 2022-2023』 (医療情報科学研究所, メディックメディア : 2022)
[ISBN]4524231560 『シンプル衛生公衆衛生学2022』 (小山洋, 南江堂 : 2022)
[ISBN]9784883787180 『New Simple Step 公衆衛生』 (高橋茂樹, 総合医学社 : 2020)
[ISBN]9784884123383 『ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版』 (矢野 栄二, 篠原出版新社 : 2009)
[ISBN]B0B3FX5P58 『国民衛生の動向 2022/2023 (厚生の指標2022年8月増刊)』 (一般財団法人 厚生労働統計協会, 一般財団法人 厚生労働統計協会: 2022)

■関連科目

環境医学・行動科学

■授業評価アンケート実施方法

授業評価は実施規定に準拠して行うとともに、コース終了時にも学生アンケートを行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟7階 公衆衛生学教室・pbl-h@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金　10時～17時
質問は上記メールアドレスまで。
教員と直接面談を希望する場合は上記メールアドレスに連絡して必ず事前にアポを取ること。

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

社会医学ユニット合同オリエンテーション
　社会医学ユニット(公衆衛生学、環境医学・行動科学、法医学)の全体像、各コースの進め方について
講義A1-1　疫学と公衆衛生学
　健康の定義、リスク要因、疫学の役割、疾患の経過の全体像について
講義A1-2　予防医学のストラテジー
　疾病予防の３つのレベル、ヘルスプロモーションの概要について
講義A1-3　人口統計指標とその動向
　人口静態統計と人口動態統計の指標と動向、死因の動向について
講義A1-4　人口以外の保健統計
　生命表の諸関数と平均寿命、国民生活基礎調査と患者調査、その他保健統計について
講義A1-5　人を対象とした医学研究のデザインⅠ
　記述疫学、罹患率と有病率、集積性、分析疫学について
演習A1-5　練習問題と解説
演習A1-5　相互学習Q&A
講義A1-6　人を対象にした医学研究のデザインⅡ
　患者対照研究、要因対照研究（コホート研究）、無作為割付比較試験について
演習A1-6　練習問題と解説
講義A1-7　リスクとは何か、その表現と評価
　相対危険度と寄与危険度、オッズ比、治療の有効性指標について
演習A1-7　分析疫学指標の意味と計算1
演習A1-7　相互学習 Q & A
演習A1　相互学習Q&A
講義A1-8　研究結果を信じるな　真実か偶然かバイアスかⅠ
　臨床検査の系統誤差と非系統誤差、各種バイアスの具体例と対策について
講義A1-9　研究結果を信じるな　真実か偶然かバイアスかⅡ
　臨床検査の系統誤差と非系統誤差、各種バイアスの具体例と対策について
演習A1-8,9　練習問題と解説
演習A1-5～9　分析疫学指標の意味と計算2
演習A1-5～9　相互学習 Q & A

講義A2-1　社会保障の枠組とSafety net
　社会保障の理念と主たる分野、社会保険、公的年金、公的扶助について
特別講義①　（未定）
講義A2-2　母子保健
　母子保健指標の動向、母子保健事業、ハイリスク妊娠・胎児の要因、母子への医療援護について
講義A2-3　学校保健と小児保健
　学校保健教育と保健管理、健康診断、感染症対策、小児健康問題の動向について
演習A2-2,3　練習問題と解説
特別講義②　（未定）
予習内容：事前に配布する各講義の到達目標について予習すること
予習時間：60分
復習内容：各講義の到達目標の達成状況を参照しつつ復習すること
復習時間：60分

■ホームページ

近畿大学医学部　公衆衛生学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/pubheal/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900076

科目名　：	**社会医学I（環境医学・行動科学）**						
英文名　：	Social medicine I (Environmental Medicine/Behavioral Science)						
担当者　：	奥村　二郎・東　賢一・水越　厚史・青野　明子・佐々木　昌弘・ 柏樹　悦郎・宮園　将哉・古閑　比斗志・井内田　科子						
開講学科：	医学科						
単　位　：	90時間	開講年次：	2年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

1. 一般的な講義形式の授業や実習に加えて、学習の動機・印象付け、問題抽出・解決能力の涵養、自己学習・討論の習慣が身に付くように、それぞれの分野に連結したテュートリアル（Problem-Based Learning）を実施する。テュートリアルのまとめとしての発表・討論会・解説講義を行うとともに、演習授業や課題演習(Q&A)などの学生参加型の授業を設ける。
2. 講義内容には、臨床医学との垂直的統合として、臨床医学の疫学・診断・治療の内容も一部含まれる。また、水平的統合として、法医学、公衆衛生学の内容も学習の効果を促進する範囲内で解説する。
3. 主に環境医学・行動科学の教員が講義を行うが、垂直的統合として、臨床系の教員や学外講師による講義を実施する。
4. 主としてパワーポイントスライドを用いて講義を行うが、併せて授業内容を要約した資料を配布する。資料はあくまでも講義の参考資料であり、講義内容を網羅するものではないことに留意する。講義を聴講することにより、学習のポイントを把握し、ノートをとることを推奨する。また、講義内容には一部最新トピックスを含むため、必ずしも講義内容全てが試験の出題項目ではないことに注意が必要である。本試験については、基本的な内容を出題し、疫学や診断、治療に特化した内容は出題しない。
5. 学生からの質問は随時受け付けるが、学生がより積極的に質問できる時間として課題演習・Q&Aやオフィスアワーを設ける。
6. Unit終了後の統括的評価のためのコース試験を行い、カリキュラムの習得度を評価する。
7. 実習とテュートリアルについては、出席とレポート提出は必須である。教育内容の丸暗記を避け、理論的に理解して頭に学習内容や思考パターンを定着させることを心がけて学習する必要がある。
8. コース試験で合格点を得るのに必要な学習のためには、簡易な参考書やプリント、過去問のみの学習では不充分である。理論的に理解するためには、講義と併行してしっかりした教科書を読んで復習し、学習する必要がある。教科書はユニットが開始するよりも、できるだけ早期に購入しておくことが望ましい。
9. 講義の出席確認はUNIPAのカードリーダーと座席指定により行う。時に予告の上出席カードを使用する。

【概要】
2年の行動医学は、カリキュラムツリーの上で、1年の学外施設実習と総合医学、3年の環境医学及び臨床実習の行動医学と垂直統合された科目で、医学部医学科の基幹科目です。卒業後必要となる公衆衛生学の全般及び医師国家試験に出題されるものと同等の事例や多彩な講師による実務事例を基に受講者自らが調べて考え発表し討論することにより講義を進めます。
【背景】
講義の背景としては、援助を必要とする患者や障害者、高齢者に対する日本の保健医療福祉のシステムが、公平性、経済性、専門性という観点から、先進国の中でも最も進んだ国の一つとなっているもののいずれのシステムも海外の事例を参考に制度化された後、国民経済と社会保障との関係性をはじめ、保健医療福祉関係者の熱意や努力に多くを依存する現状など、多くの課題をかかえている。介護保険や障害者福祉、難病の制度など海外では望んでも構築出来ない制度も多く、海外の先進事例に頼ることも選択枝になく、医療関係者を始め国民の英知や先進的な思考によるわが国独自の改革が求められている。このため、基礎的な現状に関する知識を得たところで、それぞれの問題点を整理し、国や自治体を含めた地域の政策・制度の立案などを含め、将来の制度運用を担い、また医師としてのリーダーシップを求められる個々の学生が、環境医学や行動科学、衛生行政の課題について、常に自ら考える態度や習慣を身につける必要がある。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

1.ディプロマ・ポリシーとの関連（3つ）に講義や実習を通して技術を学び、態度をルーブリック評価するなどにより身につけその結果として、ディプロマポリシーを達成する。

①受講者は、プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊　　敬される医師を目指す。

②受講者は、患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につける。

③受講者は、医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努める。

2.受講者は、以下の関連教育アウトカムを身につける。

①倫理とプロフェッショナリズム

②医学的知識

③医療の社会性の理解

3.受講者は、キーワードについて学習する。

社会医学、行動科学、環境医学、環境･衛生行政、健康リスク

4.学士力との関連性

①受講者は、医学、医療の歴史と現状を広い視野から学ぶことによって、今後学習する専門的医学や医療の社会全体における位置づけを体系的に理解する。

②受講者は、患者や住民と共同して地域医療を円滑に進めるために、いわゆる社会性を身につけ、人権を理解し、患者の苦しみや家族の気持ちを汲み取る素地を育成する。

③受講者は、臨床医として働く上で必要な健康管理や医療を動かす社会的な仕組みのあり方について、自ら考え、革新する態度を身につける。

注）受講者は、期間中、1.を目指して、カリキュラムツリー全体の中の本コースについて、2.については既定の学習成果を得るため、行動医学における3.の各項目について、4.の観点から学習する。

受講者は、行動医学において、個体要因と環境諸要因の健康への関わりを学ぶとともに、医療・保健に取り組む際の健康づくりに対する行動をどう理解し、どのように働きかけを行うかを学ぶ。
ケーススタディでは、症例ごとに社会医学的な課題を整理し、関連する制度の現状や問題点を行動科学の観点を交えて学ぶ。また、発表・質疑では、発表の手法に加えて、個人個人が、自ら考え、他者との論理的な意見交換を心がける態度を学ぶ。
(到達目標)

1. 受講者は、行動科学の理論と応用について、総論的に理解し、説明できる。
2. 受講者は、以下の公衆衛生の方法論、実務について、行動科学の観点を交えて説明できる。
   1）健康の概念と疾病予防について
   2）保健医療行政における保健所や医療機関、医療計画について
   3）医療政策の概念（行動科学的に説明できる）
   4）日本人の食事摂取基準、国民栄養調査の動向
   5）主要な食中毒の種類と特徴、予防法
   6）生活習慣病予防に係わる食品やその成分、栄養素の働き
   7）主要な生活習慣病の動向、リスクファクター
   8）生活習慣と関連した疾患と予防（糖尿病）
   9）環境要因と健康について（行動科学的に説明できる）
   10）環境汚染の歴史と取り組み（行動科学的に説明できる）
   11）地球環境の変化と健康影響
   12）内分泌攪乱物質、ダイオキシン類
   13）廃棄物処理
   14）憲法、医師法、医療法、医療関連の法律
   15）プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション（行動科学的に説明できる）
   16）患者・家族の心理、健康の心理、医療従事者の心理（行動科学的に説明できる）
   17）心理コミュニケーション（行動科学的に説明できる）
   18）屋内環境の管理の必要性
   19）高齢者や障害者に対する環境整備
   20）感染症について、成立の要因、感染経路、免疫、流行
   21）感染症法、予防接種法
   22）医師として、患者・家族に接する際のポイント
   23）終末期ケアに関する具体的な手法・手続き（COPD）
   24）医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセント
   25）リスボン宣言、及び個人情報保護法、種々の倫理指針
   26）医師の責務を定める法律
   27）高齢者に対する医療福祉の制度や現状、課題
   28）わが国の社会保障制度

29）障害者福祉、自立支援、新障害者プラン、障害者基本計画
30）老人福祉施設、老人保健福祉計画、介護保険制度
31）チーム医療（脳卒中）
32）医療関連法規
33）精神保健福祉施策（統合失調症、うつ）
34）障害の概念・自立支援、ノーマライゼーション、バリアフリー

■成績評価方法および基準

①試験（ブランク埋め問題・選択肢問題・筆記試験） 50%
②「知識・技能」レポート、発表・討論（ルーブリック評価） 50%

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験の要点と解説などを教室HPに掲載します。（パスワードはhygiene）
①試験と②レポート、発表・討論の両方を合格しないとコースの合格となりません。レポートは、授業の理解度、及びレポートの完成度を評価します。
発表・討論は、思考力、調査力、発表力をルーブリックで評価します。授業評価アンケートや各班の連絡係からのメールは、試験・課題（ケース選択を含む）・学修支援システム・連携授業や地域社会との連携・第3者評価・シラバス・評価基準への（教員及び学生からの）フィードバックに用います。
試験の答案用紙やレポートのコピーは、グループごとに学生に配布することがあります。また、教室の学生ポータルサイト（ネット掲示板）に掲載することがあります。自分の答案やレポートのコピーが配布や掲載される場合がありますので、希望しない学生は、第1週の間に申し出てください。この場合、評価には影響しません。
また、レポートの再（追）提出を求める学生には、UniversalPassportより要請します。最終的に指示されたレポートが全て提出されない場合、再（追）試験を受けることができない場合があります。
再試験は筆記試験50%、選択肢問題50%で実施します。

3.受講者は、健康と環境にかかる実習事項を理解し、いくつかの測定機器の操作を行うことができる。
4.行動科学の観点を交えて医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基礎及び現場での対応について例をあげて説明できる。
5.行動科学の観点を交えて厚生労働行政について、例をあげて説明できる。
6.受講者は、ケースについて概要を理解し、必要な検索を行い行動科学の観点を交えて発表・説明ができる。
7.受講者は、感染症対策の実施について、例をあげて説明できる。
8.受講者は、国際的な感染症対策の仕組みについて、実例をあげて説明できる。
9.受講者は、都道府県における保健医療福祉行政について、課題や実例をあげて行動科学の観点を交えて説明できる。
10.受講者は、ケースに関する行政施策や課題について自分の考えを論理的に行動科学の観点を交えて説明できる。

■教科書

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学 (Nankodo’s essential well−advan)』 (南江堂：2018)

■参考文献

[ISBN]9784874923405 『衛生・公衆衛生学―社会や環境のシステムと健康との関わり』 (山本 玲子, アイケイコーポレーション：2017)
[ISBN]9784907921163 『Simple Step 公衆衛生』 (高橋 茂樹, 海馬書房)
[ISBN]9784524226566 『シンプル衛生公衆衛生学2020』 (鈴木 庄亮, 南江堂)
[ISBN]9784896328585 『公衆衛生がみえる 2022-2023』 (医療情報科学研究所, メディックメディア ： 2022)
『国民衛生の動向・厚生の指標』（厚生労働統計協会）

■関連科目

1年総合医学、3年環境医学、臨床実習

■授業評価アンケート実施方法

実施規定に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟7階 環境医学・行動科学教室・hygiene@med.kindai.ac.jp
〈グループ間で意見発表・評価し、振り返り：送付先）

■オフィスアワー

月曜～水曜　 9：30～16：00
（予約は不要ですが、内線3275まで電話してから来てください。）

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

下記の各題名に含まれる授業1時間当たりの予習･復習について

予習内容：授業内容に対応する公衆衛生学の教科書･参考書を読み、不明な語句について調べる。
予習時間：1時間（60分）あたり60分
復習内容：授業中に書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：1時間（60分）あたり60分
〈授業の進め方〉
【第1週目】
D-1　　オリエンテーション（奥村二郎）
B-1　健康日本21 ①（井内田科子、奥村二郎）
B-2　グループワーク / Q&A（奥村二郎 /水越厚史 / 井内田科子）
B-3　グループワーク / Q&A（奥村二郎 /水越厚史 / 井内田科子）
B-4　心理ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ①（青野明子）
B-5　心理ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ②（青野明子）
B-6　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 東賢一 /水越厚史 / 井内田科子）
B-7　医療関連法規（井内田科子、奥村二郎）
B-8　医療法・医療計画（井内田科子、奥村二郎）
B-9　健康危機管理（井内田科子、奥村二郎）
B-10　食品･栄養と健康（水越厚史、奥村二郎）
B-11　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-12　厚生労働政策の企画立案（佐々木昌弘）

【第2週目】
B-13　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-14　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-15　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-16　高齢者(介護保険)（井内田科子、奥村二郎）
B-17　感染症対策①（柏樹悦郎）
B-18　感染症対策②（柏樹悦郎）
B-19　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-20　精神保健・障害者福祉（水越厚史）
B-21　健康日本21②（井内田科子、奥村二郎）

【第3週目】
B-22　筆記試験（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-23　チーム医療（井内田科子、奥村二郎）
B-24　医療保険（井内田科子、奥村二郎）
B-25　グループワーク / Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-26　海外トラベル外来①（古閑比斗志）
B-27　海外トラベル外来②（古閑比斗志）
B-28　環境と健康①（水越厚史）
B-29　環境と健康②（水越厚史)
B-30～32 ケース発表･討論･Q/A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）【第3週目】

【第4週目】
B-33　10:00～11：00　試験（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）

■ホームページ

近畿大学医学部　環境医学・行動科学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/hygie/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業
学外でのインターンシップや実習、研修を授業の一環として位置付けている授業

シラバス№： 2311900080

科目名　：	**社会医学II（公衆衛生学）**						
英文名　：	Social medicine Ⅱ (Public Health)						
担当者　：	今野　弘規・田中　麻理・松村　拓実・藤田　裕規						
開講学科：	医学科						
単　位　：	60時間	開講年次：	3年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

1．医師には医療および保健指導によって公衆衛生の向上と増進に寄与する任務がある。そして、多様な場や人材と連携できる存在であらねばならず、科学的根拠に基づいた医療を実践できなくてはならない。そのためには、社会における医療・保健・福祉に関するシステムや現状、疫学などを含む公衆衛生学について学ぶ必要がある。本コースでは、臨床疫学、産業保健、医師の関連法規について系統的に学習する。
2．通常の講義、非常勤講師による特別講義、練習問題と解説、相互学習から成る。
3．水平的統合として公衆衛生学および環境医学・行動科学が社会医学Ⅰの公衆衛生学領域を担当する。
4．学生自身の授業の理解度点検の目的で各授業単位の形成的評価試験を実施する。
5．コース終了後に総括的評価のための本試験を実施し、カリキュラムの習熟度を評価する。
6．関連教育アウトカムについても個別に評価する。

■授業形態

対面授業（全授業回）

■アクティブ・ラーニングの形態

グループワーク

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
DP1 医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること。
DP2 積極的に課題に取り組み、自ら問題点を見いだし解決する姿勢を身につけること。
DP3 他者を理解する幅広い教養と国際化の時代に対応できる英語力を身につけること。

関連教育アウトカム
② 医学的知識
⑦ 医療の社会性の理解
⑩ 課題解決能力と医学研究への連結

キーワード
疫学、Evidence-based medicine(EBM)、地域保健医療福祉サービス、産業保健、医師の法的義務

学習・教育目標
DP1,DP2,DP3と教育アウトカム②⑩の基礎力（レベルE）を涵養するために、臨床疫学の指標、EBMなどについて学び、科学的根拠に基づいた医療実践に必要な疫学の基礎的事項を習得する。
DP1,DP2,DP3と教育アウトカム②⑦の基礎力（レベルE）を涵養するため、産業保健ならびに医師の関連法規について学び、職域における健康管理および医師として把握しておくべき法律・省令や倫理指針の基礎を習得する。

到達目標
臨床疫学とEBM

1. 診断的検査の有効性の指標をあげ、その意味と計算方法を説明できる。（②⑩）
2. EBM実践のための基本的手順を説明できる。（②⑩）
3. 情報収集方法と各種の情報の特徴を説明できる。（②⑩）
4. エビデンスレベルについて説明できる。（②⑩）
5. 文献の批判的吟味のポイントを列挙できる。（②⑩）
6. 医学情報の患者への適用における留意点を説明できる。（②⑩）

産業保健

7. 職場の労働衛生管理体制について説明できる。(②⑦)
8. 産業医の役割を説明できる。(②⑦)
9. 労働衛生の３管理について具体例を挙げて説明できる。(②⑦)
10. 労働に起因する種々の健康障害を列挙し、それぞれの予防対策について説明できる。(②⑦)

医師の関連法規

11. 医師法に定める医師の義務を列挙できる。(②⑦)
12. 医療法に定める医師の義務を列挙できる。(②⑦)
13. 保険医療機関で診療を行う医師の義務について述べることができる。(②⑦)
14. 医学研究の倫理指針の概要を述べることができる。(②⑦)
15. 医師に届出義務がある疾患や状態、届出先、届出内容、届出期限を述べることができる。(②⑦)

■成績評価方法および基準

コース末試験 100%

■試験・課題に対するフィードバック方法

各講義の終わりに形成的評価のための小テストを実施し、その解説を行う。

■教科書

【留意事項】適宜プリントを配布する。

■参考文献

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学(改訂第4版) (NANKODO'S ESSENTIAL WELLーADVAN)』 (南江堂 : 2018)
[ISBN]4896328582 『公衆衛生がみえる 2022-2023』 (医療情報科学研究所, メディックメディア : 2022)
[ISBN]4524231560 『シンプル衛生公衆衛生学2022』 (小山洋, 南江堂 : 2022)
[ISBN]9784883787180 『New Simple Step 公衆衛生』 (高橋茂樹, 総合医学社 : 2020)
[ISBN]9784884123383 『ケースで学ぶ公衆衛生学 第2版』 (矢野 栄二, 篠原出版新社 : 2009)
[ISBN]B0B3FX5P58 『国民衛生の動向 2022/2023 (厚生の指標2022年8月増刊)』 (一般財団法人 厚生労働統計協会, 一般財団法人 厚生労働統計協会 : 2022)

■関連科目

環境医学・行動科学

■授業評価アンケート実施方法

授業評価は実施規定に準拠して行うとともに、コース終了時にも学生アンケートを行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟7階 公衆衛生学教室・pbl-h@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金　10時～17時
質問は上記メールアドレスまで。
教員と直接面談を希望する場合は上記メールアドレスに連絡して必ず事前にアポを取ること。

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

社会医学ユニット合同オリエンテーション
　社会医学ユニット(公衆衛生学、環境医学・行動科学、法医学)の全体像、各コースの進め方について
講義A1-10　疫学、２学年の振り返り
　科学的な臨床判断のための臨床疫学指標について
演習A1　相互学習 Q & A
講義A1-11　検査を検査し、診断を診断するⅠ
　臨床検査の有効性評価と診断的検査結果の解釈、臨床判断の方法について
講義A1-12　検査を検査し、診断を診断するⅡ
　臨床検査の有効性評価と診断的検査結果の解釈、臨床判断の方法について

演習A1-11,12　練習問題と解説
演習A1-11,12　臨床検査の有効性指標の意味と計算
講義A1-13　エビデンスに基づく臨床判断
　科学的根拠に基づく臨床判断の手順、医学文献の吟味、医学情報の現場への適用について

講義A2-4　産業保健総論
　産業保健の目的、労働災害、業務上疾病の動向、産業医、現代の課題について
講義A2-5　職業に起因する疾病Ⅰ
　金属、有機溶剤、その他化合物、有害ガス、酸素欠乏による健康障害について
講義A2-6　職業に起因する疾病Ⅱ
　農薬中毒、職業がん、粉塵、放射線による健康障害について
講義A2-7　職業に起因する疾病Ⅲ
　騒音、振動、温熱、 気圧による健康障害について
講義A2-8　産業保健管理Ⅰ
　安全衛生管理の組織、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働災害とその補償について
講義A2-9　産業保健管理Ⅱ
　安全衛生管理の組織、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働災害とその補償について
演習A2-8,9　練習問題と解説
講義A2-10　法による医師の義務Ⅰ
　医師法と医療法に定める医師の義務、 医師に届け出義務がある事項について
講義A2-11　法による医師の義務Ⅱ
　医師法と医療法に定める医師の義務、 医師に届け出義務がある事項について
演習A2-10,11　練習問題と解説
特別講義③　(未定)
予習内容：事前に配布する各講義の到達目標について予習すること
予習時間：60分
復習内容：各講義の到達目標の達成状況を参照しつつ復習すること
復習時間：60分

■ホームページ

近畿大学医学部　公衆衛生学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/pubheal/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900079

科目名　：	**社会医学II（環境医学・行動科学）**						
英文名　：	Social medicine II (Environmental Medicine/Behavioral Science)						
担当者　：	奥村　二郎・東　賢一・奥野　洋子・水越　厚史・平原　嘉親・名越　究・ 俣野　良造・井内田　科子						
開講学科：	医学科						
単　位　：	60時間	開講年次：	3年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

医学部医学科の基幹科目です。公衆衛生学全般（一部を除く）の入門から専門領域までを医師国家試験出題基準の各項目に沿って（以下「各項目」といいます。）学修します。
〈授業の事前準備や事後の展開に必要な学修の方法（その1）（授業回ごとの予習・復習は「授業の事前準備や事後の展開に必要な学修の方法（その2）」「授業の進め方」を合わせて参照のこと）〉
環境医学及び行動科学、衛生行政の分野における講義・演習・実習を進める。
主に 講義及び自己学習により知識を習得し、発表・討論においての知識の再構築し理解を深める。
各項目の課題や現状について、種々の立場や発想からの行動科学的な解決方法を考案・考察し、発表などを通して、自ら「考える」態度を身につける
注）「対面授業」ですが、メディア授業に変更する場合は、第1週目の「オリエンテーション」の際に、変更点等を説明するので注意してください。
【背景】援助を必要とする患者や障害者、高齢者に対する日本の保健医療福祉のシステムは、公平性、経済性、専門性という観点から、先進国の中でも最も進んだ国の一つとなっている。いずれのシステムも当初は海外の事例を参考に制度化されたが、国民経済と社会保障との関係性をはじめ、保健医療福祉関係者の熱意や努力に多くを依存する現状など、多くの課題をかかえている。介護保険や障害者福祉、難病の制度など海外では望んでも構築出来ないものも多く、海外の先進事例に頼ることも選択枝になく、医療関係者を始め国民の英知や先進的な思考によるわが国独自の改革が求められている。このため、基礎的な現状に関する知識を得たところで、それぞれの問題点を整理し、国や自治体を含めた地域の政策・制度の立案などを含め、将来の制度運用を担い、また医師としてのリーダーシップを求められる個々の学生が、環境医学や行動科学、衛生行政の課題について、常に自ら考える態度や習慣を身につける必要がある。
注1）「レポート作成など」の時間は、学外に出ないでください。
2）遅刻した場合には、レポート用紙や試験用紙を配布しないことがあります。
3）学生の提出した全てのレポート及び発表スライド、発言内容などは、教室ファイルに記録されるとともに、教室ＨＰや製本資料などにおいて公表・公開される場合があります。（個人名がわからないように、イニシャルをつける場合もあります。）本文または個人名の掲載・公表をなどを希望しない学生は１回目の講義が始まるまでに申し出ること。申し出があっても評価には影響しません。申し出がない場合は了解したものとみなしますので、よく注意してください。
4）メディア授業など、実授業以外で実施する場合は、その都度連絡しますので、注意してください。この場合、発表・討論、図書の貸出、提出先など変更する場合があります。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）・グループワーク・プレゼンテーション・実験・実習科目

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

受講者は、期間中、1.を目指してカリキュラムツリー全体の中の本コースにおいて、2.の学習成果を得るため、3.の各項目について、4.の観点から学習する。
1.］ディプロマ・ポリシーとの関連（3つ）に講義や実習を通して技術を学び、態度をルーブリック評価するなどにより身につけ、その結果としてディプロマポリシーを達成する。

①受講者は、プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと。
②受講者は、患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること。
③受講者は、医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること。
2.］受講者は、関連教育アウトカムを身につける。
①倫理とプロフェッショナリズム
②医学的知識
③医療の社会性の理解
3.]受講者は、キーワードについて学習する。
社会医学、行動科学、環境医学、環境･衛生行政、健康リスク
4.］学士力との感連性（ディプロマ・ポリシーとの関連）
①受講者は、保健医療福祉の現状やあり方を理解する。
②受講者は、行動科学的な視点で学習する。
③受講者は、次世代に向かって、自ら「考える」態度･習慣を身につける。
環境医学・行動科学コースとして上記の学習・教育目標及び到達目を達成するため、以下各項を学習・教育目標とする。
【学習目標】
受講者は、環境医学・行動科学総論、各論及び各項目の全容を理解し、個体要因と環境諸要因の健康への関わりを学ぶ。また、医療・保健に取り組む際の基本的な心構えや行動科学的な技術を学ぶ。
各項目について、社会医学的な課題を整理し、関連する制度の現状や問題点を学ぶ。また、発表・質疑では、発表の手法に加えて、個人個人が、自ら考え、他者との論理的な意見交換を心がける態度を学ぶ。
【到達目標】受講者は、以下について理解し説明できる。
1.環境医学総論について、体系的に理解し、説明できる。
2.公衆衛生の歴史、方法論、実務について、概要や区分を説明できる。
3.健康の概念と疾病予防を理解し説明できる。
4.保健医療行政における保健所や医療機関、医療計画について、その根拠法や機能について行動科学的に説明できる。
5.医療政策の概念を理解し、説明できる。
6.日本人の食事摂取基準、国民栄養調査の動向について説明できる。
7.主要な食中毒の種類と特徴、予防法について説明できる。
8.生活習慣病予防に係わる食品やその成分、栄養素の働きを分子生物学的側面より概説できる。
9.主要な生活習慣病の動向、リスクファクターについて説明できる。
10.生活習慣と関連した疾患と予防について説明できる。
11.環境要因と健康について、総論的体系的に理解し、説明できる。
12.環境汚染の歴史と取り組みについて説明できる。
13.地球環境の変化と健康影響について説明できる。
14.内分泌攪乱物質、ダイオキシン類について説明できる。
15.廃棄物処理について説明できる。
16.健康と環境にかかる実習事項を理解し、いくつかの測定機器の操作を行うことができる。
17.憲法、医師法、医療法、医療関連の法律について、それぞれの体系や概要を説明できる。
18.プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて説明できる。
19.臨床倫理における、４分割法を理解し説明できる。
20.患者・家族の心理、健康の心理、医療従事者の心理について行動科学的に説明できる。
21.生物統計について説明できる。
22.医療ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝの基礎について説明できる。また、現場での対応について例をあげて行動科学的に説明できる。
23.厚生労働行政について、例をあげて説明できる。
24.屋内環境の管理の必要性、衣服の機能と健康との関わりについて説明できる。
25.高齢者や障害者に対する環境整備の意義について説明できる。
26.各項目についての概要を理解し、必要な検索を行い発表・説明ができる。
27.感染症について、成立の要因、感染経路、免疫、流行について説明できる。
28.感染症法、予防接種法、免疫法について説明できる。
29.感染症対策の実施について、例をあげて説明できる。
30.国際的な感染症対策の仕組みについて、実例をあげて説明できる。

■成績評価方法および基準

①「知識・技能」レポート、発表・討論（ルーブリック評価） 50%
②試験（ブランク埋め問題・選択肢問題・筆記試験） 50%

■試験・課題に対するフィードバック方法

【試験に関する注意】
試験の要点と解説などを教室HPに掲載します。（パスワードはhygiene）

1）①「知識・技能」レポート、発表・討論（ルーブリック評価）と
②試験（ブランク埋め問題・選択肢問題・筆記試験）の両方を合格しないとコースの合格となりません。
2）「再試験」を実施することがあります。
3）次年度に行う「特別試験」該当者への注意：「特別試験」の出題範囲及び評価基準は、次年度の該当コースの「試験」と同じです。次年度の「復習テスト」は受験できません。また、「特別試験」の「再試験」は実施しないことがあります。「特別試験」が不合格の場合は、次々年度への進級不可や退学の可能性があります。十分注意してください。

試験結果の要点と解説の主なものは教室の学生ポータルサイト（ネット掲示板）に掲載することがあります。自分の答案やレポートのコピーが掲載される場合がありますので、希望しない学生は、第1週の間に申し出てください。この場合、評価には影響しません。
授業評価アンケートや各班の連絡係からのメールは、試験・課題（各項目に関することを含む）・学修支援システム・連携授業・産業界や地域社会との連携・第3者評価・シラバス・評価基準への（教員及び学生からの）フィードバックに用います。また、レポートの再（追）提出を求める学生には、個人個人に直接要請します。
最終的に指示されたレポートが全て提出されない場合、再（追）試験を受けることができない場合があります。
【目標（31～47）】
31.医師として、患者・家族に接する際のポイントについて説明できる。
32.終末期ケアに関する具体的な手法・手続きについて説明できる。
33.医の倫理、患者の権利、インフォームドコンセントについて行動科学的に説明できる。
34.リスボン宣言、及び個人情報保護法、種々の倫理指針について説明できる。
35.医師の責務を定める法律について説明できる。
36·高齢者に対する医療福祉の制度や現状、課題、歴史について説明できる。
37·わが国の社会保障制度について理解し、その役割について説明できる。
38·障害者福祉、自立支援、新障害者プラン、障害者基本計画について説明できる。
39.老人福祉施設、老人保健福祉計画、介護保険制度について説明できる。
40.医薬品の開発や研究振興について理解し説明できる。
41.チーム医療について理解し説明できる。
42.医療関連法規について、その概要と役割について説明できる。
43.精神保健福祉施策について、総合的に理解し、説明できる。
44.障害の概念・自立支援、ノーマライゼーション、バリアフリーについて説明できる。
45.生物統計の主要な各論について説明できる。
46.都道府県における保健医療福祉行政について、課題や実例をあげて説明できる。
47.ケースに関する行政施策や課題について自分の考えを論理的に説明できる。

■教科書

[ISBN]9784524251162 『NEW予防医学・公衆衛生学 (Nankodo’s essential well−advan)』 (南江堂)
[ISBN]9784874923405 『衛生・公衆衛生学―社会や環境のシステムと健康との関わり』 (山本 玲子, アイケイコーポレーション：2017)
[ISBN]9784883787180 『New Simple Step 公衆衛生』 (高橋茂樹, 総合医学社)
[ISBN]9784524248193 『シンプル衛生公衆衛生学』 (南江堂)

■参考文献

[ISBN]9784896328585 『公衆衛生がみえる2022-2023』 (メディックメディア2022)
『国民衛生の動向・厚生の指標』（厚生労働統計協会）
注）教科書・参考文献は、講義の期間中、グループの担当者に合計10冊程度、教室から貸し出しますのでそれぞれ使ってください。

■関連科目

なし

■授業評価アンケート実施方法

実施規定に準拠して行う。授業評価アンケートや各班の連絡係からのメールは、試験・課題・学修支援システム・連携授業・産業界や地域社会との連携・第3者評価・シラバス・評価基準への（教員及び学生からの）フィードバックに用います。

■研究室・メールアドレス

研究棟7階 環境医学・行動科学教室・hygiene@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月・火　　9：30～16：00
（当該授業のある日は、月～金18:00まで。予約は不要ですが、内線3275まで電話してから来ること。）

〈必要な準備学習(予習・復習)〉
(予習1時間、復習30分)

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

下記の各題名に含まれる授業1時間当たりの予習･復習について
予習内容：授業内容に対応する公衆衛生学の教科書･参考書を読み、不明な語句について調べる。
予習時間：ｵﾌｨｽｱﾜｰ欄参照
復習内容：授業中に書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：ｵﾌｨｽｱﾜｰ欄参照

〈授業の進め方〉

【第1週目】
B-1　　オリエンテーション（奥村二郎）
B-2､3　　環境と健康（水越厚史）
B-4～6　　環境生理･心理実習/ グループワーク（水越厚史 / 井内田科子）
D-1　　糖尿病の食事療法（広峰義久）
D-2　　精神保健福祉法（柳 雅也）
B-7　　グループワーク（水越厚史 / 井内田科子）

【第2週目】
B-8　　グループワーク（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-9､10　　地方自治体の地域保健−保健所の医師−（宮園将哉）
B-11　　グループワーク（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）
B-12､13　　食品安全とリスク管理（平原嘉親）
D-3　　職業性の呼吸器疾患（岩永賢司）
B-14　　地方自治体における環境保全の取組み（俣野良造）
B-15　　島嶼・中山間における医療提供（名越 究）
B-16～18　ケース発表･討論 Q&A（奥村二郎 / 水越厚史 / 井内田科子）

【第3週目】
○試験・レポート作成
注意）
①指定された席への着席により、カードリーダーに加えて、随時出欠をとります。
②「実習」「グループワーク」の際、担当教員ごとに出席者・出席時間を指名します。指定された時間・場所に集まること。

〈授業の事前準備や事後の展開に必要な学修の方法（その2）〉
学生は講義内容の理解を容易にするため授業前に教科書を用いて予習し、質問事項があれば授業中に教官に質問できるよう準備を行う。授業終了後は、その日の講義内容を復習し、再度教科書を読み、理解を深めるとともに、記憶として知識を定着させる。発表・討論においては、自ら「考える」姿勢を習得する目標を定めて積極的に参加すること。

〈教室の学生ポータルサイト参照〉
①授業改善の取り組みを進めるための、ネットでの教員・職員・学生による意見交換
②教室ホームページ上に事前・事後の教材・課題・各種テストなどを掲載
③グループ学習・課題提示

■ホームページ

近畿大学医学部　環境医学・行動科学教室　http://www.med.kindai.ac.jp/hygie/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

科目名　：	**臨床各論Ⅲ内科学教室（呼吸器・アレルギー内科部門）**						
英文名　：	Clinical Medicine Unit III						
担当者　：	松本　久子・村木　正人・東本　有司・原口　龍太・岩永　賢司・ 佐野　博幸・大磯　直毅・福田　昌彦・西山　理・山縣　俊之・ 佐野　安希子・竹村　豊						
開講学科：	医学科						
単　位　：	90時間	開講年次：	3年次	開講期：	前期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

授業は呼吸器病学全般について呼吸器内科、呼吸器外科、病理学の教員がプリントとスライドを用いた講義形式と実習形式で行う。双方向授業になるように講義内容についての質疑応答を適宜行う。またUnit IIIとして、グループ学習、発表を行う（Team Based Learning, TBL)。
呼吸器は外界と直接接する臓器であり、環境の影響を強く受ける。また肺結核など公衆衛生に関わる疾患、睡眠時無呼吸症候群など放置により大事故につながりうる疾患を含み、社会医学的側面も強い。本科目は、呼吸生理、解剖などの基礎医学と、社会医学、臨床医学の統合的な科目である。これらを十分に認識して修得して欲しい。
・ 出席確認はUNIPAのカードリーダーで行う

成績評価、合否判定はUnit IIIとして一括して行う。 Unit IIIでは、統合試験を2回(呼吸器内科・外科統合で1回、眼科・耳鼻科統合で1回)実施する。統合試験は、 Unit IIIとして統合された記述問題と各科から出題されるMCQ問題で構成される。受験要件として、それぞれの科が実施する講義・TBLなどの授業において、2/3以上の出席が必須である。4科が合同で実施する症候病態に関する講義、TBLも成績評価に加味する。Unit IIIの合否判定は、統合試験80%、症候病態に関する講義、TBL20%の比率で行う。再試験・追試験、特別試験の合否判定は試験のみを判定対象とする。令和5年度は合否判定に用いないが、上記に挙げた医学部教育アウトカムの到達レベルを、それぞれ個別に設定したマイルストーンをもとにルーブリックを用いて評価する。 Unit IIIにおける各教育アウトカムの比率は、 2. 医学的知識 84% 、5. チーム医療 4% 、10.課題解決能力 12%とする。知識だけでなく、態度についても、自己学習量、症候病態に関する講義、TBLでの討論での発言内容、発表討論会での取り組みなどをもとに評価する。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連するディプロマポリシー
DP1. 医師になるために必要な医学の知識と技能を習得し、さらに日々向上に努める。
DP2. 積極的に課題に取り組み、さらに自ら問題点をみいだし解決する姿勢を身につける。
DP4. 患者に対する思いやりと奉仕の精神、またチームワークにおける協調精神を身につける。

関連する医学部教育アウトカム
2.医学的知識 (DP1に対応)
5.チーム医療 (DP4に対応)
10. 課題解決能力と医学研究への連結 (DP2に対応)

キーワード
呼吸器、疫学、病態、診断、治療

一般目標（GIO）
呼吸器疾患を理解する上で、肺の構造および人体における呼吸の機能と調節について学習し、肺でのガス交換がどのように行われているかを理解する。また、各種呼吸器疾患の病態、症状・症候、診断を学習し、内科的および外科的対象疾患を理解して手術を含めた治療方法、チーム医療についての知識を身につける(DP1、DP4、教育アウトカム2、5)。さらにTBLにより自ら問題点をみいだし解決する姿勢を身につける（DP2、教育アウトカム10)、また呼吸器疾患の病理学について実習を通して理解する。

行動目標（SBOs）
１．肺の解剖と換気・拡散・肺循環を理解し、換気に関わる因子、呼吸調節系の機序および肺、末梢でのガス交換機序を述べることができる（教育アウトカム2）。
2．咳嗽・喀痰・呼吸困難などの症状や呼吸器疾患に伴う主要症候・身体所見、胸部画像・気管支鏡を含めた検査所見について述べることができる。---TBL学習ではこれらの症候を扱う。積極的に課題に取り組み、さらに自ら問題点をみいだし解決する姿勢を身につけて欲しい（教育アウトカム10）。
３．急性・慢性呼吸不全の定義、病態、症状、検査所見、治療について述べることができる（教育アウトカム2）。
4. 呼吸器疾患におけるチーム医療について理解し、取り組み方について述べることができる。---公立豊岡病院で地域医療、若手医師の育成に尽力している中治仁志呼吸器内科部長から講義いただく。患者に対する思いやりと奉仕の精神、またチームワークにおける協調精神を身につけて欲しい（教育アウトカム5）。

以下5～10の疾患の病態、症状、検査所見、診断、治療、予後について述べることができることを目標とする。
医師になるために必要な医学の知識と技能を習得し、さらに日々向上に努めて欲しい（教育アウトカム2）。

5.　COPD・喘息・気管支拡張症・閉塞性細気管支炎などの閉塞性気道疾患や気道異物を含めた気道系疾患
6. 肺結核を含めた各種呼吸器感染症
7. 特発性間質性肺炎、薬剤、化学物質、放射線などによる肺障害、全身疾患に伴う肺疾患
8.　睡眠時無呼吸症候群、肺胞低換気症候群などの換気障害
9.　胸膜・縦隔疾患、肺分画症など
10. 肺血栓・塞栓症および肺高血圧症、慢性呼吸器疾患に合併する肺性心、肺動静脈瘻などの肺循環系の障害

１1．外科総論として呼吸器外科に必要な肺の解剖と生理の特性について説明できる。また、呼吸器外科手術の対象疾患を列挙し、術前術後管理、合併症について述べることができる。種々の胸腔内到達法、内視鏡手術、ロボット手術について説明できる。　肺のリンパの解剖とリンパ節郭清の意義および肺切除の機能的な適応について説明できる。肺移植の適応、手技、成績について説明できる（教育アウトカム2）。
１2．個々の外科的疾患について、肺癌以外の肺腫瘍とその治療について説明できる。転移性肺腫瘍の手術適応とその治療成績について説明できる。肺の感染症の外科治療について説明できる。気管支の外科的疾患と手術について説明できる（教育アウトカム2）。
１3．肺組織の正常構造と疾患について病理学的知識を得る（教育アウトカム2）。

■成績評価方法および基準

統合試験 80%
Team Based Learning (TBL) 20%

■試験・課題に対するフィードバック方法

試験終了後（試験期間終了後）に解説・模範答案をGoogle Drive の共有アイテム内、2023年度_3学年試験問題・回答・解説のフォルダに提示します。

■教科書

[ISBN]9784765306126 『肺機能検査』 (中島 重徳, 金芳堂：1991)
[ISBN]9784260003056 『新臨床内科学』 (高久 史麿, 医学書院：2009)
[ISBN]9784784932184 『カラー図解 人体の正常構造と機能〈1〉呼吸器』 (牛木 辰男, 日本医事新報社：2017)
[ISBN]9784779223150 『最新 呼吸器内科・外科学』 (平井豊博, 伊達洋至, メディカルレビュー社：2019)

■参考文献

[ISBN]9784860347741 『ガイトン生理学 原著第13版』 (アーサー・C. ガイトン, エルゼビア・ジャパン：2018)
[ISBN]9784758300957 『生理学 (カラーイラストで学ぶ 集中講義)』 (メジカルビュー社：2014)

■関連科目

生理学
病理学
免疫学
アレルギー学

■授業評価アンケート実施方法

実施規定に準拠して行う

■研究室・メールアドレス

koare-kyoju@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月ー金曜日　PM5時まで

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

下記の講義タイトルと順番は変更があり得ます。

第1, 2週は下記講義（第15回は病理実習）を行い、第3週はTeam Based Learning（TBL)として、耳鼻科・眼科疾患合併呼吸器疾患、呼吸器外科との統合講義を行い、①呼吸困難　②咳・痰　③血痰・喀血　の鑑別と治療について、グループ学習、発表を行う。

第1回　呼吸器系の解剖と機能

予習内容：呼吸器病学、呼吸生理学の教科書から呼吸機能・肺のガス交換調節機構を予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：15分
①呼吸器疾患・呼吸機能について概説する。
②呼吸調節系およびガス交換、換気の機序を講義する。
③ヘモグロビンの生理作用と酸素解離曲線について講義する。
③呼吸器症状の出現メカニズムについて講義する。
教育アウトカム2

第2回　呼吸器疾患総論

予習内容：呼吸器の主要症候・検査を予習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
主要症候と身体所見、疾患のエッセンス・キーワードを概説する。
臨床症状、胸部Ｘ線、ＣＴの読影、呼吸機能検査、血液・生化学、血清学的検査による鑑別診断とその評価について概説する
教育アウトカム2

第3回　呼吸不全・管理

予習内容：呼吸不全の項を予習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
①急性・慢性呼吸不全
②Acute Respiratory Distress Syndrome(ARDS 急性呼吸窮迫症候群)、Acute Lung Injury(ALI 急性肺障害）の病態および診断基準について説明し、薬物治療および呼吸管理法について学習する。
教育アウトカム2

第4回　気管支鏡検査・気道系疾患

予習内容：気道系疾患について予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
①気管支鏡検査の概要
②気管支拡張症をきたす各種呼吸器疾患（カルタゲナー症候群、嚢胞性線維症、び漫性汎細気管支炎、副鼻腔気管支症候群を含む）を講義
③気道異物・気道熱傷
④喘息（Unit4で主に講義）と鑑別すべき疾患（再発性多発軟骨炎）
教育アウトカム2

第5回　閉塞性肺疾患

予習内容：閉塞性換気障害をきたす代表的な呼吸器疾患を予習
予習時間：30分

復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
COPD(慢性閉塞性肺疾患）に加えて閉塞性換気障害を呈する閉塞性細気管支炎などについて、病態生理・診断・治療について講義する。
教育アウトカム2

第6回　呼吸器感染症1・2 (2コマ）

予習内容：呼吸器感染症をきたす病原体を復習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
①市中肺炎、肺膿瘍、誤嚥性肺炎、ウイルス性肺炎（COVID-19を含む）など
②肺結核、肺非結核性抗酸菌症、肺真菌症
教育アウトカム2

第7回　間質性肺炎1・2 (2コマ）

予習内容：間質性肺炎の概念とIPFの位置づけを予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：15分
①特発性間質性肺炎（IIP)
IPFの臨床的特長、画像・病理的特長と換気不全の病型、管理方法について講義する。
NSIP/AIPの特徴と治療について講義し、IPFとの違いを概説する。
COPの特徴と治療について講義する。
②IIPに加え、過敏性肺炎（主にはUnit 4で講義）、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症（LAM)について講義する。
教育アウトカム2

第8回　薬剤、化学物質、放射線性肺炎

予習内容：肺に障害をきたしうる外的因子について予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
上記に加え、職業性肺疾患について講義する。
教育アウトカム2

第9回　全身性疾患に伴う肺疾患

予習内容：各疾患概念を予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
膠原病肺、肺アミロイドーシス、サルコイドーシス、ランゲルハンス細胞組織球症（LCH)などについて講義する。
教育アウトカム2

第10回　睡眠時無呼吸症候群・換気障害　（2コマ）

予習内容：睡眠・換気障害について予習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
①睡眠時無呼吸症候群
②肺胞低換気症候群・過換気症候群
③酸素療法
教育アウトカム2

第11回　胸膜・縦隔疾患

予習内容：胸膜、縦隔の構造について復習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
胸膜・縦隔疾患、胸郭変形、肺分画症などについて講義する。
教育アウトカム2

第12回　肺循環障害

予習内容：肺循環について復習
予習時間：30分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：30分
①肺血栓・塞栓症
②肺高血圧症
③肺性心・肺水腫・肺動静脈瘻について講義する。
教育アウトカム2

第13回　呼吸器疾患におけるチーム医療

予習内容：チーム医療の概念を予習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
地域医療・若手医師の育成に尽力している公立豊岡病院呼吸器内科部長より、チーム医療について学ぶ。
教育アウトカム5

第14回　呼吸器外科総論・各疾患

予習内容：肺の解剖について復習しておく
予習時間：15分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：20分
①呼吸器外科に必要な肺野解剖と生理の特性を概説し、術前術後管理・合併症について講義する。
②胸腔内到達法、内視鏡手術、ロボット手術について講義する。
③腫瘍性疾患、胸膜・胸壁疾患、縦隔腫瘍、横隔膜疾患、外傷、肺移植などの呼吸器外科の対象疾患と手術適応、手術について講義する
教育アウトカム2

第15回　病理実習

予習内容：基礎医学での組織学、病理学で行った呼吸器の単元を復習
予習時間：20分
復習内容：配布されたプリント学習
復習時間：15分
肺野病理学的正常構造と代表的呼吸器疾患の病理増にういて病理実習室にて解説を交えて実習形式で学習する。実習は3時間連続の集中学習形式で行う。
教育アウトカム2

■ホームページ

近畿大学医学部　内科学講座　呼吸器・アレルギー内科部門　https://www.respirmed-kindai.jp/index.html
近畿大学医学部　外科学講座　呼吸器外科部門　http://www.kindai-geka.jp/medical/thoracic-lung/
呼吸器学会ホームページ　http://www.jrs.or.jp/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900063

科目名　：	**臨床各論Ｖ脳神経外科学教室**						
英文名　：	Clinical Medicine Unit V Neurosurgery						
担当者　：	髙橋　淳・大槻　俊輔・露口　尚弘・中野　直樹・内山　卓也・中川　修宏・ 布川　知史・眞田　寧皓・奥田　武司・辻　潔・吉岡　宏真・宮内　正晴・ 藤島　一紘・古川　健太郎・中尾　雄三・濱田 有深・植嶋　利文・ 武友　保憲・泉本　修一・新山　一秀						
開講学科：	医学科						
単　位　：	180時間	開講年次：	3年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

授業は講義を主体とするが、授業形態は原則対面授業です。COVID19感染症の社会的影響等によりメディア授業に変更する可能性がある。

医師として必須の倫理観やプロフェッショナリズムを涵養したうえで、臨床各論Vでは、脳の構造、機能を解説し、その基礎的な事柄と臨床疾患が密接に連携していることを解説する。脳卒中・脳腫瘍・機能的脳神経外科・脊髄疾患などの代表的な疾患に関する症候、診断の基礎を紹介する。よく理解できるようスライドを工夫し、学習効果をあげるためのビデオも用いる。学生への明確な目標を提示する。授業内容の理解度を確認するため、授業中での質問を適宜、実施する。救急疾患の代表的な脳卒中に対する体験学習を講義にとりあげる予定である。この講義を通じて、臨床診断へのアプローチを学び、自主的な学習の重要性を強調する。

脳神経外科学講座は、講義を主体としつつ、将来の臨床実習への円滑な連結を企図して、アクティブラーニングの要素も取り入れたカリキュラムを構築した。その一例として、脳神経内科およびメンタルヘルス科との合同で小グループによるteam-based learning (TBL)を実施する。また外科系科（整形外科・形成外科）と共に水平性統合の講義も合わせて行う。アクティブラーニングにより課題解決・臨床推論能力を培い、臨床実習への連結を図ることである。相互学習/Q&Aの時間は，自由に質問できる場として大いに活用してもらいたい。出席は、原則としてUNIPAのカードリーダーを用いるが、座席表を作成し、定位置に着席する形式をとり、またGoogle Classroomの課題提出などを用いて行う場合もあり、途中退出などのないように真剣な態度で授業に臨むことが必要であ
る。全講義終了後には多肢選択式の客観的試験と重要課題に対する論述問題を課して習熟度を総合的に評価す
る。また統合試験として（整形外科、形成外科と共に多肢選択的の試験も行い評価する。なお、これらの総括的評価に用いる試験・レポートは各教育アウトカムに基づいて評価している。

■授業形態

対面授業（全授業回）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
①医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること（DP1）。
④患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること（DP4）。
⑤プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと（DP5）。

関連教育アウトカム（①、②、③、⑤、⑨は臨床各論Ｖ共通のアウトカム。到達度レベルはDを目標とする．）
①倫理とプロフェッショナリズム
②医学的知識
③診療の基本的技能

⑤チーム医療
⑨自律的継続的学習能力

キーワード
脳神経、病因、病態、診断、治療

脳神経外科学教室では上記の教育アウトカムを達成するために学習・教育目標とその具体的な到達目標を示す.

到達目標
脳神経疾患を的確に診断し，治療計画を立案する能力を得るために，脳神経の構造と機能とともに各疾患の病態と鑑別診断を理解し，治療法の実際とその選択基準を習得する。

行動目標（括弧内は関連アウトカムを示す）
1. 脳神経の解剖と機能について理解する。（②，③）
2. 脳神経疾患の病態を、生理学的・病理学的に説明し、理解する。（②，③）
3. 脳神経疾患の症状について神経診察を通して、神経生理学的意義ついて理解する。（②，③）
4. 脳神経疾患の画像診断の種類とそれぞれの特徴について理解する。（②，③）
5. 各種症候に対応した脳神経疾患の鑑別診断について理解する。（②，③）
6. 脳神経疾患に対する治療法の種類とその実際について理解する。（②，③）
7. 脳神経疾患患者の心理状態や精神的特性について理解する。（②，③,⑤，⑨）

■成績評価方法および基準

ユニット終了時のコース試験（多肢選択式客観的試験35%　記述試験35%）統合試験は整形外科、形成外科と合同して実施する。出席要件として、講義には、2/3以上の出席が必須である。 70%
グループワーク課題のプロダクト，発表，課題演習（態度評価を組み入れる）なお、課題演習の出席は 必須である。 30%

■試験・課題に対するフィードバック方法

必要に応じて，Google Classroom等を通じた情報提供を行います.
オフィアスアワーを利用しての質問も歓迎致します
試験の要点と解説をUNIVERSAL PASSPORTに掲載します

■教科書

[ISBN]9784260028271 『標準脳神経外科学 第14版 (STANDARD TEXTBOOK)』 (児玉 南海雄, 医学書院：2017)
[ISBN]9784765316675 『脳神経外科学』 (太田 富雄, 金芳堂：2016)
[ISBN]9784765313162 『脳神経外科ハンドブック』 (黒岩敏彦, 金芳堂：2007)
[ISBN]9784830615443 『神経局在診断―その解剖、生理、臨床』 (Mathias, 文光堂)

■参考文献

[ISBN]9784896326864 『病気がみえる 〈vol.7〉 脳・神経 (Medical Disease:An Illustrated Reference)』(メディックメディア)
[ISBN]9784498028807 『臨床のための神経機能解剖学』 (後藤 文男, 中外医学社)
[ISBN]9784765316484 『小児脳神経外科学』 (山崎麻美, 金芳堂)

■関連科目

脳神経内科　精神神経科　リハビリテーション科　整形外科 形成外科学

■授業評価アンケート実施方法

実施規程に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟4階 脳神経外科・mineno@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金 9時～17時
内山は，月、火，金は，比較的，医局・院内におります.
不在の場合は医局秘書に要件を伝えて下さい．後で連絡します．このほか，Google Classroomを介した質問，問い合わせでも結構です

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

領域別概要（１～１０は講義、１１，１２はアクティブ・ラーニング）

１．神経学の基本に関連する授業（①、②、③）：脳神経外科総論，症候と病態（神経解剖）、脳血管解剖、脳外科と高次脳機能、症候から学ぶ脳卒中、頭蓋内圧亢進・意識障害・脳死
２．神経疾患の検査に関連する授業（②）：神経画像診断の基礎
３．脳血管障害に関連する授業（②、③）：脳血管内治療、脳循環・もやもや病、脳卒中について、閉塞性脳血管障害（手術治療・血管内治療）、脳動脈瘤・くも膜下出血、AVM/閉塞性脳血管障害（手術治療）、AVM/AVF（血管内治療）
４．脳腫瘍に関連する授業（②、③）：神経鞘腫・髄膜腫、神経膠腫・髄芽腫、転移性脳腫瘍、下垂体腺腫・頭蓋咽頭腫、胚細胞腫・中枢神経悪性リンパ腫
５．機能性神経疾患に関連する授業（②、③）：機能的脳神経外科I/II（神経血管圧迫症候群・痙縮・不随意運動に対する機能神経外科）
６．髄液循環に関連する授業（②、③）：髄液循環、水頭症
７．小児神経に関する授業（②、③）：小児脳神経外科
８．頭部外傷に関する授業（②、③）：脳神経外科外傷
９．内分泌に関する授業（②、③）：下垂体を中心とした内分泌内科学
１０．神経眼科に関する授業（②、③）：眼科から見た神経疾患
１１．神経疾患の包括的ケアに関連する授業（②、⑤、⑨）：地域医療における脳神経外科
１２．統合授業：脳卒中の診断、脳卒中の診断実習・実践、てんかん・てんかん外科、Parkinson病・機能外科
１３．症候・病態（けいれん、もの忘れ、めまいなど）を基盤としたTBL：（①、②、③、⑤、⑦、⑨）
１４．課題演習：課題に対するレポート作成（①、②、⑦）：脳血管障害、脳腫瘍・脊髄腫瘍

予習内容：事前に配信・配布される授業資料を読み，授業タイトルに対応する「教科書，参考文献」部分を読み、不明な語句について調べる
予習時間：30分
復習内容：授業中に配布される資料などに書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：30分

■ホームページ

近畿大学医学部　脳神経外科　https://www.med.kindai.ac.jp/nouge/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900062

科目名　：	**臨床各論Ｖ内科学教室（脳神経内科部門）**						
英文名　：	Clinical Medicine Unit V Clinical Neurology						
担当者　：	永井　義隆・楠　進・三井　良之・平野　牧人・宮本　勝一・西郷　和真・塩山　実章・桑原　基・寒川　真・稲田　莉乃・上坂　義和・竹島　多賀夫・髙田　和男・濱田　征宏						
開講学科：	医学科						
単　位　：	180時間	開講年次：	3年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

授業形態は対面授業が原則であるが、TBLなどグループワークを伴う授業では、メディア授業を併用する。このほか、一部の授業ではGoogle Classroomを用い、双方向性の授業を行う予定である。ただし、コロナウイルス感染症の社会的影響により、授業形態は変更する可能性がある。
ヒトをヒトたらしめる本質は何か？という問いは、あらゆる学問領域において大きな命題であり、医学もその例外ではない。医学は単に知識や技術を学ぶのではない。医学を通じてヒトや人が何であるかを学び､医師として必須の倫理観やプロフェッショナリズムを涵養するのである。その中で、脳神経分野が果たす役割は大きい。臨床各論Vでは、幅広く、神経と運動器について学ぶが、それらを「病（やまい）」と言う観点から見るとき、臨床神経学のみかた、考え方は見晴らしの良い広々とした視点を与えてくれる。脳神経内科学講座は、講義を主体としつつ、将来の臨床実習への円滑な連結を企図して、アクティブラーニングの要素も取り入れたカリキュラムを構築した。その一例として、脳神経外科および整形外科との合同で小グループによるteam-based learning (TBL)を実施する。アクティブラーニングにより課題解決・臨床推論能力を培ってほしい。TBLの評価は総括的評価の一部に組み入れる。講義では、基礎医学との垂直的統合として、解剖学、生理学などの知見を踏まえた講義を行い、中枢神経・末梢神経の構造、機能を解説したうえで、代表的な疾患に関する症候、診断の基礎を紹介する。さらには４学年以降の臨床実習や将来、医師として遭遇する多彩な神経疾患を理解するうえでの必須事項を解説する。また、臨床医学間の水平的統合として、TBL以外でも、神経疾患に関わる他の分野（脳神経外科学，整形外科学，精神神経科学，リハビリテーション医学など）と連携した授業も行い、神経学について多面的な理解ができるような工夫を凝らしている。相互学習/Q&Aの時間は，自由に質問できる場として大いに活用してもらいたい。出席は、原則としてUNIPAのカードリーダーを用いるが、Google Classroomの課題提出などを用いて行う場合もあり、途中退出などのないように真剣な態度で授業に臨むことが必要である。全講義終了後には、精神神経科、リハビリテーション科とともに多肢選択式の客観的試験と重要課題に対する論述問題を課して習熟度を総合的に評価する。なお、これらの総括的評価に用いる試験・レポートは各教育アウトカムに基づいて評価している。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）・自主学習支援（e-learning等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
①医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること（DP1）。
④患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること（DP4）。
⑤プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと（DP5）。
関連教育アウトカム（①、②、③、⑤、⑨は臨床各論Ｖ共通のアウトカムで⑦は脳神経内科の独自のアウトカムである。到達度レベルはDを目標とする．）
①倫理とプロフェッショナリズム
②医学的知識
③診療の基本的技能
⑤チーム医療

⑦医療の社会性の理解
⑨自律的継続的学習能力
キーワード
神経系、病態、技能、診断、治療
脳神経内科学教室では上記の教育アウトカムを達成するために学習・教育目標とその具体的な到達目標を示す.
学習・教育目標
医師として日常診療で遭遇する神経系疾患の患者さんに対応するために，神経疾患の基礎医学，臨床医学，社会医学にわたる知識とその知識を生かした技能，臨床推論を習得する.
到達目標（括弧内は関連アウトカムを示す）
１．神経診察を実践し，その神経生理学的意義，さらには解剖学的局在診断について理解する（②，③）.
２．神経疾患の診断に必要な様々な臨床検査について理解する（②，③）.
３．神経変性疾患の病態，発症機序，診断方法，治療，ケアについて理解する（②，③，⑤，⑨）.
４．神経免疫性疾患の病態，発症機序，診断方法，治療，ケアについて理解する（②，③）.
５．脳血管障害の病態，発症機序，診断方法，治療，慢性期管理について理解する（②，③）.
６．認知症の病態，発症機序，診断方法，治療，ケア，社会的問題について理解する（②，③，⑤，⑨）.
７．機能性疾患（一次性頭痛，てんかんなど）の病態，発症機序，診断方法，治療，ケア，社会的問題について理解する（②，③）.
８．末梢神経・筋・脊髄疾患の多様な病態と診断，治療について理解する（②，③）.
９．神経疾患を通じて包括的ケア，社会的問題について理解する（①，⑤，⑦，⑨）.

■成績評価方法および基準

ユニット終了時のコース試験（多肢選択式客観的試験40%　記述試験40%）コース試験は精神神経科、リハビリテーション科と合同して実施する。出席要件として、講義には、2/3以上の出席が必須である。 80%
グループワーク課題のプロダクト，発表，課題演習（態度評価を組み入れる）なお、TBL・課題演習の出席は必須である。 20%

■試験・課題に対するフィードバック方法

必要に応じて，Google Classroom等を通じた情報提供を行います．オフィアスアワーを利用しての質問も歓迎致します．学生諸君も具体的に何を知りたいかを明確にして質問を投げかけて下さい.

■教科書

[ISBN]9784254322804 『内科学　第12版』 (朝倉書店 ： 2022)
[ISBN]9784260003056 『新臨床内科学』 (高久史麿，医学書院 ：2009)
[ISBN]9784890134625 『ポ ケット判　カラー　内科学』 (西村書店：2016)
[ISBN]9784524269983 『免疫性神経疾患ハンドブック』 (南江堂：2013)

■参考文献

[ISBN]9784254321906 『神経内科学書（第2版）』 (朝倉書店 ： 2004)
[ISBN]9780071802154 『Harrison's Principles of Internal Medicine 19/E (Vol.1 & Vol.2)』 (Anthony Fauci,Stephen Hauser, Dan Longo, J. Jameson, Joseph Loscalzo Dennis Kasper, McGraw-Hill Professional ： 2015)
[ISBN]9784525247980 『ベッドサイドの神経の診かた 改訂18版』 (田崎 義昭，南山堂 ： 2016)

■関連科目

脳神経外科学　整形外科学　精神神経科学　リハビリテーション医学　形成外科学　人体構造　機能Ⅱ

■授業評価アンケート実施方法

実施規程に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

研究棟5階 脳神経内科・shinnai@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金　9時～17時
三井は，月，水は，比較的，医局におります.
不在の場合は医局秘書に要件を伝えて下さい．後で連絡します．このほか，Google Classroomを介した質問，問い合わせでも結構です.

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

領域別概要（１～１０は講義、１１，１２はアクティブ・ラーニング）
１．神経学の基本に関連する授業（①、②、③）：神経内科総論，症候と病態（運動麻痺，感覚障害，もの忘れ），
２．神経疾患の臨床検査に関連する授業（②）：神経生理検査

３．神経変性疾患に関連する授業（①、②、③、⑤、⑦、⑨）：運動ニューロン疾患，Parkinson症候群，Parkinson病，進行期Parkinson病のケア，小脳疾患-脊髄小脳変性症を中心に-
４．神経免疫疾患 関連する授業（②、③）：重症筋無力症と傍腫瘍性神経症候群，神経系と免疫（基礎編，臨床編）
５．脳血管障害に関連する授業（②、③）：急性期脳血管障害
６．認知症に関連する授業（②、③）：認知症の基礎
７．機能性神経疾患に関連する授業（②、③）：てんかん，頭痛
８．末梢神経・筋・脊髄疾患に関連する授業（②、③）：末梢神経障害，筋疾患，脊髄疾患
９．神経疾患の包括的ケアに関連する授業（②、⑤、⑨）：神経難病と地域包括ケア，神経疾患と遺伝、サルコペニア・ロコモーティブシンドローム・フレイル
１０．神経感染症に関連する授業：神経感染症（②、③）
１１．症候・病態（筋力低下、もの忘れ、めまいなど）を基盤としたTBL：（①、②、③、⑤、⑦、⑨）
１２．課題演習：課題に対するレポート作成（①、②、⑦）
予習内容：事前に配信・配布される授業資料を読み，授業タイトルに対応する「教科書，参考文献」部分を読み、不明な語句について調べる
予習時間：30分
復習内容：授業中に配布される資料などに書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：30分

■ホームページ

近畿大学医学部内科学講座神経内科部門　https://www.med.kindai.ac.jp/neuro/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900061

科目名　：	**臨床各論Ⅴ精神神経科学教室**						
英文名　：	Clinical Medicine Unit V　Psychiatry						
担当者　：	橋本　衛・花田　一志・柳　雅也・明石　浩幸・細見　史治・佐久田　静・ 安達　融・山形　祥礼・森本　拓頌・林 宏樹・瀧川 清統・中田 翼・ 丹羽 篤・後藤 雄一朗・和田　照平						
開講学科：	医学科						
単　位　：	180時間	開講年次：	3年次	開講期：	後期	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

授業形態は「対面授業」で行う予定である。COVID-19感染症の社会的影響によりメディア授業に変更する可能性がある。
精神医学とは精神疾患・精神障害の病因・診断・予防・治療を取り扱う医学の一分野である。精神疾患を有する患者数は年々増加し、2011年に精神疾患は５大疾病の一つに加えられた。そのため精神医学は全ての医師が習得すべき基本的な学問である。精神疾患は身体疾患と同様に問診が診断のための第一歩であるが、診断の根拠となる検査データが基本的に存在しないことが身体疾患との大きな違いとなる。曖昧でわかりにくいという印象を与えがちな医学分野ではあるが、むしろそうであるからこそ、論理的な考え方や核となるべき知識を持つことが何よりも大切である。精神神経科の講義においては、精神疾患で見られる症状をどのように把握し、診断し、そして治療に結びつけるのかを筋道立てて理解できるように指導を行う。
精神神経科学講座は講義を主体とするが、課題解決・臨床推論能力を高め、将来の臨床への円滑な応用に結びつくよう、アクティブラーニングの要素も取り入れている。具体的には脳神経外科および脳神経内科との合同で小グループによるteam-basedlearning (TBL)を実施する。TBLの評価は総括的評価の一部に組み入れる。また、臨床医学間の水平的統合として、TBL以外でも、精神疾患に関わる他の分野（脳神経外科学，脳神経内科，リハビリテーション医学など）と連携した授業も行い、多面的な理解を促す。相互学習/Q&Aの時間は，自由に質問できる場として大いに活用してもらいたい。出席は、原則としてUNIPAのカードリーダーを用いるが、課題提出などを用いて行う場合もあり、途中退出などのないように真剣な態度で授業に臨むことが必要である。全講義終了後には多肢選択式の客観的試験と重要課題に対する論述問題を課して習熟度を総合的に評価する。試験は脳神経内科、リハビリテーション科との統合試験で実施する。出席要件として、講義には、2/3以上の出席が必須である。なお、これらの総括的評価に用いる試験・レポートは各教育アウトカムに基づいて評価している。

■授業形態

対面授業（授業回の半数以上が対面授業／それ以外は、メディア授業）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・グループワーク・プレゼンテーション

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語・英語の併用

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連ディプロマポリシー
（DP1）医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること。
（DP2）積極的に課題に取り組み、さらに自ら問題点を見いだし解決する姿勢を身につけること。
（DP4）患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること。
（DP5）プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと。

関連教育アウトカム（①、②、③、⑤、⑨は臨床各論Ⅴ共通のアウトカムで⑥は精神神経科の独自のアウトカムである。到達度レベルはDを目標とする．）
①倫理とプロフェッショナリズム（DP5）
②医学的知識（DP1）
③診療の基本的技能（DP1）
⑤チーム医療（DP4）
⑥コミュニケション能力（DP4、DP5）

⑨自律的継続的学習能力（DP2）

キーワード
精神医学、病因、病態、診断、治療、地域医療

精神神経科学教室では上記の教育アウトカムを達成するために学習・教育目標とその具体的な行動目標を示す。

学習・教育目標
・精神疾患の症候と病態を把握・理解し，診断技術および治療法の基本を習得する。
・特徴ある個々の精神疾患について、講義、症例呈示等により知識形成を図るほか、精神科医療に関わるそれぞれの職種の専門的な立場に立った視点提供により、チーム医療の役割を知り広い視野をもつ。
・症例を通じて学生自らのグループ学習をおこなうことにより、知識を整理できる。

行動目標（括弧内は関連ディプロマポリシー、アウトカムを示す）
- 主な精神疾患の症候および病態を理解でき，診断および鑑別診断を述べることができる。（②、③、⑥）
- 精神疾患の診断に必要な画像検査および心理検査を理解し，選択できる。（②、③）
- 主な精神疾患の治療法を理解し，その適応を判断できる。（②、③、⑤、⑥）
- チーム医療・リエゾン医療における精神科の役割を理解できる。（①、②、⑤、⑥）
- 精神科医療における法と倫理、社会学的側面についての知識を習得する。（①、⑤、⑥、⑨）
- 精神疾患を病む人への偏見の存在、その人の心を理解する。（①、③、⑥）

■成績評価方法および基準

ユニット終了時のコース試験（多肢選択式客観的試験40%　記述試験40%）コース試験は脳神経内科、リハビリテーション科と合同して実施する。出席要件として、講義には、2/3以上の出席が必須である。 80%
グループワーク課題のプロダクト，発表，課題演習（態度評価を組み入れる）なお、TBL・課題演習の出席は必須である。 20%

■試験・課題に対するフィードバック方法

必要に応じて，情報提供を行います。授業にあたっては、疑問点やわかりにくかった点、さらに知りたい点など、積極的に質問することが大切である。予習をして講義を受けても疑問が残る場合は、講義担当者に直接質問すること。オフィアスアワーを利用しての質問も歓迎致します.

■教科書

[ISBN]9784260042918 『標準精神医学 第8版 (STANDARD TEXTBOOK)』 (尾崎 紀夫, 医学書院：2021)

■参考文献

[ISBN]9784307150613 『現代臨床精神医学』 (大熊 輝雄, 金原出版 ： 2008)
[ISBN]9784895928526 『カプラン臨床精神医学テキスト DSM-5診断基準の臨床への展開 第3版』 (メディカルサイエンスインターナショナル ： 2016)
[ISBN]9780198747437 『Shorter Oxford Textbook of Psychiatry』 (Philip Cowen, Oxford Univ Pr ： 2017)

■関連科目

脳神経内科学、脳神経外科学、整形外科学、リハビリテーション医学、形成外科学

■授業評価アンケート実施方法

実施規程に準拠しておこなう。

■研究室・メールアドレス

seisin@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

月～金　9：00～17：00

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

・以下の各回の授業内容において、予習復習の際に読むべきである、教科書（『標準精神医学』）の該当ページは、各回の授業のタイトルの後に記されている。

精神医学総論（pp.6-48）　（①、②、③、⑤、⑥）
・精神疾患の分類、要因、診断方法、精神医学の歴史の概略を解説する。
・授業方法：講義

精神症候学（pp.51-67）（②、③）

・精神疾患で見られる以下の症候を解説する。
・意識・知能・記憶・知覚・思考・感情・意欲の異常、自我意識及びその異常。
・授業方法：講義

心理検査(pp.132-144)　（③、⑤）
・主な心理検査とその内容ならびに適応疾患を解説する。
・授業方法：講義

気分障害（pp.299-337）（②、③）
・概念と歴史，病因論、病型と症状，経過，予後、治療について解説する。特に、うつ病と双極性障害の相違について重点を置く。
・授業方法：講義

統合失調症（pp.273-296）（②、③）
・代表的な病型の症候と特徴。経過と長期予後。薬物療法および心理社会療法。
・授業方法：講義

器質性精神障害（pp.418-419pp.519-542）（②、③）
・せん妄を中心とした脳器質性精神障害の定義、病因、病態について解説する。
・授業方法：講義

高次脳機能障害、認知症統合授業（pp.123-131、pp.443-478）（②、③、⑤、⑨）
・記憶障害や言語障害などの認知機能障害を解説する。
・認知症の症状、病型、病因、診断、治療について解説する。
・授業方法：講義

アルコール関連精神障害（pp.421-434）（②、③、⑤）
・アルコール依存症の疫学、成因、症状、経過ならびにアルコール関連精神障害の分類について解説する。
・授業方法：講義

薬物関連精神障害（pp.435-441）（②、③、⑤）
・物質依存の現状と対策、精神作用物質の種類と特徴について解説する。
・授業方法：講義

神経症性障害（pp.339-377）（②、③、⑥）
・疫学、成因。古典的分類とＩＣＤ、ＤＳＭとの対応。診断、鑑別診断。分類、症状、経過。
・授業方法：講義

摂食障害（pp.393-402）（②、③）
・概念、疫学、成因。症状、診断、治療、経過について解説する。
・授業方法：講義

ストレス関連精神障害（pp.379-391）（②、③）
・心的外傷とその後の経過。診断上の問題を中心に解説する。
・授業方法：講義

パーソナリティ障害（pp.491-505）（②、③、⑥）
・パーソナリティ障害の概念と分類、対応について解説する。
・授業方法：講義

児童青年期精神医療（pp.69-81，pp.253-271）（②、③、⑥）
・精神遅滞、心理発達障害、行動および情緒障害、児童期・青年期の精神症状と精神疾患、広汎性発達障害について解説する。
・授業方法：講義

精神科薬物療法（pp.154-172)）（②、③）
・向精神薬の原理、適応と副作用を中心に解説する。
・授業方法：講義

精神科医療面接と精神療法（pp.83-97，pp.173-183）（③、⑥）

・精神医療の場における医師・患者関係。精神療法の原理、適応、副作用。行動化や転移、逆転移。
・授業方法：講義

睡眠障害（pp.403-419）　（②、③）
・疫学、成因、診断、治療について解説する。
・授業方法：講義

リハビリテーション精神医学（pp.177-183，pp.226-229）　（③、⑤、⑥）
・概念、構成、方法について解説する。
・授業方法：講義

精神科病院における精神科医療（pp.212-229）（①、⑤、⑥）
・精神科病院における入院形態と行動制限、生活療法と社会技能訓練、社会復帰施設と社会資源について解説する。
・授業方法：講義

診療所における精神科医療（pp.212-229）（①、⑤、⑥）
・プライマリケアにおける精神疾患について解説する。
・授業方法：講義

産業精神保健（pp.201-211）　（①、⑤、⑥）
・企業におけるメンタルヘルス管理について解説する。
・授業方法：講義

精神保健福祉法（pp.237-242）　（①、⑤、⑥）
・精神科医療と取り巻く法律について解説する。
・授業方法：講義

精神科救急医療とチーム医療（pp.187-195，pp.408-464）　（①、②、⑤）
・精神科救急対応の実際、チーム医療、自殺の心理学、生物学、社会学的な病因論、自殺企図者のマネージメントについて解説する。
・授業方法：講義

症候・病態（不安、抑うつ、もの忘れ）を基盤としたTBL：（①、②、③、⑤、⑥、⑨）
・事例を通して、症候学的理解と、診断に至る思考過程、治療、チーム医療などの理解を深める。
・授業方法：アクティブラーニング
予習内容：事前に配信・配布される授業資料を読み，授業タイトルに対応する「教科書，参考文献」部分を読み、不明な語句について調べる
予習時間：15分
復習内容：授業中に配布される資料などに書き込んだ内容を整理して、不明な部分を調べる。
復習時間：15分

■ホームページ

近畿大学医学部精神神経科学教室　https://www.med.kindai.ac.jp/laboratory/neuropsychiatry/

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業

シラバスNo.： 2311900086

科目名　：	**臨床実習（C・C）**						
英文名　：	Clinical Clerkships						
担当者　：	三井　良之・医学部所属教員						
開講学科：	医学科						
単　位　：	2450時間	開講年次：	4～6年次	開講期：	通年	必修選択の別：	必修科目
科目区分：	専門科目						
備　考　：							

■授業概要

臨床実習の手引きおよび各診療科のシラバスに則って実習を行う。各診療科のシラバスはログブックに記載されている。多くの臨床科での実習での体験を統合し、医師として総合的な視点を身につけてほしい。関連教育アウトカムの達成度についても個別に評価する。

１.医学生（Student doctor）が、医療チームの一員として実際の患者診療に従事しながら臨床実習を行う。

２.指導医による指導・監督のもとに許容された一定範囲の医行為を行い、Student doctorとしての責任を負う。

３.将来、医師となるために必要な知識、技能、態度および価値観を身につける。

■授業形態

対面授業（全授業回）

■アクティブ・ラーニングの形態

ディスカッション、ディベート・実験・実習科目

■ICTを活用したアクティブ・ラーニング

双方向授業（クリッカーや、学生ディスカッション用にGoogleClassroom等を活用）

■使用言語

日本語

■到達目標およびディプロマポリシーとの関連

関連するディプローマポリシー

①医師になるために必要な医学の知識と技能を修得し、さらに日々向上に努めること（DP-1）。

④患者に対する思いやりと奉仕の精神、また、チームワークにおける協調精神を身につけること（DP-4）。

⑤プロフェッショナルとしての高い使命感と倫理観を持ち、人に愛され、人に信頼され、人に尊敬される医師を目指すこと（DP-5）。

関連教育アウトカム

①倫理とプロフェッショナリズム

②医学的知識

③診療の基本的技能

④医療安全

⑤チーム医療

⑥コミュニケーション能力

⑦医療の社会性の理解

⑧国際化に対応できる能力

⑨自律的継続的学習能力

⑩課題解決能力

キーワード

基本的技能、コミュニケーション、チーム医療、医療安全，診療参加型

診療科ごとの学習目標，到達目標は臨床実習ログブックに掲示している。ここでは、臨床実習全体の学習目標、到達目標を記載する。

学習目標

Student Doctorとしての自覚を持ち医学部での学習の総仕上げとして臨床の現場で学ぶ。

到達目標　括弧内に関連する教育アウトカムを示す。

１．卒業時までに初期研修医として直ちに勤務可能な臨床能力を習得する（①～⑩）。
Student doctorとして実際の医療現場で診断および治療に参画し、実体験を通して臨床医学を学ぶ。卒業時点においては初期研修医として直ちに勤務可能な知識・技能・態度を修得する。
２．医師の責任を学ぶ（①～⑩）。
医師として患者さんを担当することは非常に大きな医療上の責任を持つことを意味する。真摯に、緊張感を持って医療技術の習得に努めなければならない。また、必ず指導医の監督・指導に従い医行為を行なう。
３．医療行為における患者人権の尊重、すなわち、医の倫理を学ぶ（①）。
常に患者の安全、人権、利益を第一に考え、患者中心の医療が行なわれていることを学ぶ。また、患者さんの羞恥心を配慮し、医療上知り得た患者の秘密を守ることの重要性を理解する。
４．インフォームドコンセント（IC）の方法を学ぶ（⑥）。
ICとは患者が診療の内容についてよく説明を受け、十分に理解した上で、患者が自らの自由意志に基づきその医療行為について医療者と合意することである。ICの現場に同席しその重要性を学ぶ。
５．チーム医療を学ぶ（⑤）。
学生（Student doctor）は看護師や技師、薬剤師、理学療法士、事務員など多くの医療スタッフからなる医療チームの一員として医療に参画する。そして、医療が多職種の連携と協働により行なわれ、医師はその中核的役割を果たすことを学ぶ。
６．医師としてのコミュニケーション能力を磨く（④，⑤，⑥）。
医師と患者さんとの信頼関係、様々な医療スタッフとの好ましい人間関係を築くための態度やコミュニケーション能力を磨き、医師のヒューマニズムのあり方を現場で学ぶ。
７．医師としての良好な態度を身につける（①，④）。
医師にふさわしい服装や言葉使い、患者さんの人格や個別性を尊重する姿勢、患者さんの気持ちや心を思いやる優しさなど、医師としての基本的、人間的な態度を身につける。このことは、医学知識や医療技術と同様に医療の質的向上に必須である。

■成績評価方法および基準

臨床実習ログブックに掲示された臨床実習評価シートに基づき、教授その他の教員および担当指導医は実習態度を含めてルーブリック評価を行う。内容としては、病棟回診、症例レポート、症例発表、小試験、口頭試問などを併せて総合的にルーブリック評価する。また、臨床実習レビューも内容に応じた評価を行う。評価結果にもとづいて，追実習・特別実習を行う。 100%

■試験・課題に対するフィードバック方法

4学年の11月から開始する実習Ⅰ（ローテーション、40週），5学年の12月から開始の実習Ⅱ（選択、20週）では，担当診療科の医師が，随時、形成的評価判定を行ない学生にフィードバックする。また，ログブックには，担当症例，臨床推論：経験した症候・病態，臨床実習の到達目標などを記載し，日々の学習の振り返りに用いる.

■教科書

各診療科でその都度指定する。

■参考文献

各診療科でその都度指定する。

■関連科目

すべての医学部開講専門科目

■授業評価アンケート実施方法

実施規定に準拠して行う。

■研究室・メールアドレス

学務課・gakumu@med.kindai.ac.jp

■オフィスアワー

各診療科教員が随時受けつける（診療業務により不在の場合があります）。

■授業計画の内容及び時間外学修の内容・時間

１．実習Ⅰローテーション（4学年11月から5学年11月の40週）

見学型の実習を基本とし、少人数のグループに分かれて各科１～３週のローテーション実習を行なう。いずれ診療科も必修である。他の医療施設を見学出来るよう１週間の自習週を設けている。

ローテーション実習を行なう診療科とその週数
4週間実習
外科（上部消化管、下部消化管、肝胆膵、呼吸器、小児、乳腺など）
２週間実習
循環器内科、内分泌・代謝・糖尿病内科、消化器内科、血液・膠原病内科（血液）、神経内科、

腫瘍内科、呼吸器・アレルギー内科、小児科、産科婦人科、放射線医学
1週間もしくは1週間未満実習
血液・膠原病内科（膠原病）、腎臓内科、心療内科、精神神経科、心臓血管外科、
整形外科、脳神経外科、皮膚科学、形成外科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、麻酔科、
リハビリテーション科、救命救急科、中央臨床検査、病院病理、奈良病院、
地域医療実習（和歌山県串本町、くしもと病院）
臨床実習レビュー（臨床実習Ⅰの課程途中で、それまでに経験した症例を発表しあう機会を設ける）

2．実習Ⅱ選択（5学年11月から6学年6月の30週）

実習先診療科および学外施設、実習期間を決定するためアンケート調査をおこなう（希望が重なる場合には学務課において調整を行なう）。各診療科（奈良病院含める）での診療参加型の実習に加えて、教育連携病院（提携を結んだ地域の病院や研究所やその他）での実習を行なう。
予習内容：翌日の臨床実習における行動計画を立案する．そのために必要な知識を自学自習。
予習時間：30分
復習内容：本日の実習の振り返りと必要事項の自学自習。
復習時間：60分

■ホームページ

■実践的な教育内容

経営者、技術者、研究者、行政官等の当該授業科目に関連した実務経験がある教員が行う授業
学外でのインターンシップや実習、研修を授業の一環として位置付けている授業

医対 第１７０４号
令和５年８月１５日

厚生労働省医政局長　様

大阪府健康医療部長

地域の医師確保等の観点からの令和６年度医学部
入学定員の増加に係る誓約書

令和５年８月８日付け５文科高第６６９号、医政発 0807 第 12 号に基づき、下記のとおり、学校法人近畿大学において、地域の医師確保等の観点から令和６年度医学部入学定員増を行うことに合意しました。

地域の医師確保等に関する計画及び都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

１　増　員　数　　３名

２　提携大学　　学校法人近畿大学

大阪府健康医療部保健医療室医療対策課
医療人材確保グループ　大野、坂東
TEL　06-6944-8183（直通）
FAX　06-6944-8227

医看第１２３号
令和５年８月１０日

厚生労働省医政局長　殿

奈良県知事　山下　真

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和５年８月８日付け５文科高第669号、医政発0807第12号に基づき、下記のとおり、令和６年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

１５名

・奈良県立医科大学における地域枠：１３名

・近畿大学医学部における地域枠：２名

担　　当：奈良県医療政策局
医師・看護師確保対策室
医師対策係　担当　東本
電話番号：０７４２－２７－８６４４
メールアドレス：higashimoto-tatsuki@office.pref.nara.lg.jp

医　第　４　５　７　号
令和５年８月１０日

厚生労働省医政局長　様

和歌山県知事　　岸　本　周　平

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和５年８月８日付け５文科高第６６９号、医政発０８０７第１２号に基づき、下記のとおり、令和６年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。

地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数

１２名

・和歌山県立医科大学医学部における地域枠：１０名

・近畿大学医学部における地域枠：２名

担当：福祉保健部健康局医務課医療戦略推進班　宮本
電話番号：０７３－４４１－２６１２

医　地　第　４３５　号
令和５年８月17日

厚生労働省医政局長　様

静岡県健康福祉部長　八木　敏裕

地域の医師確保のための入学定員増に係る誓約書

令和５年８月８日付け５文科高第６６９号、医政発0807第12号に基づき、下記のとおり、令和６年度における地域の医師確保のための入学定員増を行うこととしました。
地域の医師確保等に関する計画、都道府県計画等に沿って、地域枠入学者が地域に定着するよう取組を行います。

記

増員数
６８名
・浜松医科大学医学部における地域枠：１５名
・順天堂大学医学部における地域枠：５名
・昭和大学医学部における地域枠：８名
・帝京大学医学部における地域枠：２名
・日本大学医学部における地域枠：３名
・日本医科大学医学部における地域枠：４名
・東海大学医学部における地域枠：３名
・関西医科大学医学部における地域枠：８名
・近畿大学医学部における地域枠：１０名
・川崎医科大学医学部における地域枠：１０名

担　　当：医療局地域医療課医師確保班　竹田
電話番号：０５４－２２１－２８６７
メールアドレス：chiikiiryou@pref.shizuoka.lg.jp

別表１　返還免除の条件に指定する静岡県内の公的医療機関等一覧（Ｒ５．３．１時点）

地域名	圏域名	病院名	公的医療機関等	担っている役割・機能等									
				公的病院	地域医療支援病院	救命救急センター	精神科救急医療施設（常時対応型・後方支援病院）	災害拠点病院	災害拠点精神科病院	へき地医療拠点病院	総合周産期母子医療センター	小児救命救急センター
東部	賀茂	下田メディカルセンター	○	○								
		公益社団法人地域医療振興会伊豆今井浜病院	○							○		
		医療法人社団健育会西伊豆健育会病院	○							○		
		計	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0
	熱海伊東	伊東市民病院	○	○	○			○				
		国際医療福祉大学熱海病院	○					○				
		計	2	1	1	0	0	2	0	0	0	0
	駿東田方	国立病院機構静岡医療センター	○		○			○				
		県立静岡がんセンター	○	○								
		沼津市立病院	○	○	○	○		○				
		裾野赤十字病院	○	○								
		伊豆赤十字病院	○	○								
		伊豆医療福祉センター	○	○								
		JA静岡厚生連リハビリテーション中伊豆温泉病院	○	○								
		三島総合病院	○					○				
		沼津中央病院	○				○		○			
		フジ虎ノ門整形外科病院	○							○		
		NTT東日本伊豆病院	○							○		
		順天堂大学医学部附属静岡病院	○			○		○			○	
		計	12	6	2	2	1	4	1	2	1	0
	富士	富士宮市立病院	○	○	○			○				
		共立蒲原総合病院	○	○								
		富士市立中央病院	○	○	○			○				
		鷹岡病院	○				○					
		計	4	3	2	0	1	2	0	0	0	0
中部	静岡	県立こころの医療センター	○	○			○		○			
		県立こども病院	○	○	○						○	○
		県立総合病院	○	○	○	○		○		○		
		静岡市立静岡病院	○	○	○			○				
		静岡市立清水病院	○	○	○			○				
		静岡赤十字病院	○	○	○	○		○				
		静岡済生会総合病院	○	○	○	○		○				
		静岡厚生連静岡厚生病院	○	○								
		静岡厚生連清水厚生病院	○	○								
		清水駿府病院	○				○					
		計	10	9	6	3	2	5	1	1	1	1
	志太榛原	島田市立総合医療センター	○	○	○			○				
		焼津市立総合病院	○	○	○			○				
		藤枝市立総合病院	○	○	○	○		○				
		榛原総合病院	○	○								
		コミュニティーホスピタル甲賀病院	○							○		
		計	5	4	3	1	0	3	0	1	0	0
西部	中東遠	磐田市立総合病院	○	○	○	○		○				
		中東遠総合医療センター	○	○	○	○		○				
		聖隷袋井市民病院	○	○								
		市立御前崎総合病院	○	○								
		菊川市立総合病院	○	○								
		公立森町病院	○	○								
		計	6	6	2	2	0	2	0	0	0	0
	西部	浜松労災病院	○		○							
		国立病院機構天竜病院	○							○		
		浜松医療センター	○	○	○	○		○				
		浜松市リハビリテーション病院	○	○								
		国民健康保険佐久間病院	○	○						○		
		市立湖西病院	○	○								
		引佐赤十字病院	○	○								
		浜松赤十字病院	○	○	○			○				
		静岡厚生連遠州病院	○	○	○							
		総合病院聖隷浜松病院	○		○	○		○			○	
		総合病院聖隷三方原病院	○		○	○	○	○	○			
		神経科浜松病院	○						○			
		浜松医科大学医学部附属病院	○					○				
		計	13	7	6	3	1	5	2	2	1	0
	計		**55**	37	22	11	5	23	4	8	3	1

※網掛けは臨床研修実施施設

※本一覧表に記載されている医療機関以外にも、「公的医療機関に準ずるものとして知事が指定する医療機関」として、勤務先を指定することがあります。

（聖隷沼津病院は小児科、産婦人科に限り、返還免除対象となります。）

別表２ 出産・育児で休業等をした場合の履行期限の取扱い

休業等の区分	内容
産前産後休暇	大学卒業後（大学院生として修学研修資金の貸与を受けた場合にあっては医学を履修する課程修了後、専攻医として修学研修資金の貸与を受けた場合にあっては専門研修修了後）に取得した産前産後休暇の期間に相当する期間、履行期限を延長します。
育児休業	大学卒業後（大学院生として修学研修資金の貸与を受けた場合にあっては医学を履修する課程修了後、専攻医として修学研修資金の貸与を受けた場合にあっては専門研修修了後）に取得した育児休業の期間に相当する期間、履行期限を延長します。
育児短時間勤務	県が個別に指定する静岡県内の公的医療機関等での勤務期間中に育児短時間勤務をした場合、次の計算式で算出した期間に相当する期間、履行期限を延長します。なお、算出した期間に１か月未満の端数が生じたときは、その端数を切り上げることとします。 育児短時間勤務月数 － 育児短時間勤務月数 × 育児短時間勤務をした場合の１週間当たりの所定労働時間 ／ １週間当たりの通常の所定労働時間

別表３ 育児短時間勤務に関する取扱い

区分	内　容
計算式	次の計算式により算出した期間を返還免除を受けるための勤務期間に算入します。 育児短時間勤務月数 × 育児短時間勤務をした場合の１週間当たりの所定労働時間 ／ １週間当たりの通常の所定労働時間

静岡県医学修学研修資金貸与制度Q＆A

Q：連帯保証人の収入に条件はありますか？

Ａ：具体的な収入の条件は設けておりませんが、連帯保証人は、支払能力があり十分な保証が可能である者とします。

Q：他の奨学金の貸与を受けることができますか？

Ａ：卒業後の医師としての就業先を制限する条件（返還免除条件として定める場合を含む）のある奨学金・貸付金でなければ、貸与を受けることができます。（日本学生支援機構の奨学金 など）

Q：「静岡県キャリア形成プログラム」の適用の流れを教えてください。

Ａ：「静岡県キャリア形成プログラム」の適用者は、大学卒業後の９年間を県内病院で勤務していただくこととなります。臨床研修の２年間については県で研修先を指定することはありませんが、県内病院で研修をしていただきます（ご自身で、臨床研修マッチングに参加して決定していただくこととなります）。また、臨床研修２年目の時点で県内病院が基幹となる専門研修のコースを選択していただき、その後は選択したコースに沿って研修を進めていただきます。コースの詳細については下記のホームページを参照してください。

ふじのくに地域医療センター「静岡県キャリア形成プログラム」ホームページアドレス
http://fujinokuni-doctor.jp/careerpro.html

Q：「静岡県キャリア形成プログラム」から離脱した場合はどうなりますか。

Ａ：離脱した場合、医学修学研修資金の貸与契約は解除されます。解除された日の属する月の翌月末日までに、貸与を受けた修学研修資金に利息（年利10%）を付して、一括で返還していただきます。また、離脱にあたり、国や大学との協議が必要な場合があります。
離脱要件については、30 ページの「地域枠における従事要件等の取扱いに関する要項」をご確認ください。

Q：専攻する診療科は自分で選択できますか？

Ａ：返還免除を受けるための条件として診療科を指定することはありません。

Q：貸与を受けている間や貸与を終了した後などに行わなければならない手続きはありますか？

A： 修学研修資金の貸与を継続する場合、大学を卒業した場合、返還免除を受けるための勤務を行った場合など、貸与を受けている間や貸与を終了した後にも、所定の様式による申請・届出が必要です。また、現況確認等のため、書類の提出を依頼する場合もありますので、必ず期限を遵守の上、書類を提出してください。

（主な申請・届出書類）

貸与を継続する場合※	修学研修資金貸与継続申請書　等
貸与期間が満了した場合	返還猶予申請書、借用証書、印鑑証明書　等
大学４年生進級時	誓約書、印鑑登録証明書　等
大学を卒業し、 臨床研修を開始した場合	返還猶予申請書、勤務開始届、 卒業届、医師免許取得届　等
臨床研修を修了した場合	返還猶予申請書、臨床研修医療機関報告書　等
卒後３年目以降の毎年度	返還猶予申請書、業務従事医療機関報告書　等

※ 卒業まで継続して貸与を受けていただきます（途中学年での継続辞退不可）が、毎年度貸与継続申請手続を行う必要があります。

Q：連帯保証人に記入してもらわなければならない書類はありますか？

A：誓約書の記入及び実印の押印をしていただきます。連帯保証人には今後、誓約書記載の極度額（保証の限度額）の範囲で保証をしていただきます。また、印鑑登録証明書を添付する必要がありますので、そちらも併せてご提出ください。（詳細は、28 ページの誓約書の記載例をご確認ください。）なお、４年生進級時（契約締結から３年以内）にも改めて連帯保証人による誓約書の作成が必要となります。留年等で極度額の変更が想定される場合にも作成が必要となりますので、ご留意ください。

Q：医師国家試験に合格しなかった場合、直ちに資金の返還を求められますか？

A：直ちに返還とはなりませんが、返還免除を受けるためには、大学卒業後２年以内に医師免許の登録を完了することが必要です。「国家試験合格」ではなく「医師免許の登録」で判断しますのでご留意ください。

Q：出産・育児により、必要な期間、返還免除を受けるための勤務を中断することは認められますか？この場合、履行期限はどのような取扱いになるのですか？

Ａ：産前産後休暇や育児休業により休業等をする場合、個別にご相談いただければ、資金の返還を求めずに、必要な期間内で返還免除のための勤務の中断を認めるとともに、休業等をした期間に相当する期間、履行期限を延長します。

また、県が個別に指定する静岡県内の公的医療機関等での勤務期間中に育児短時間勤務をした場合は、６ページの別表２に掲げる計算式により算出した期間に相当する期間、履行期限を延長します。

Q：返還免除を受けるための勤務期間が終了した後、自動的に免除になりますか？また、免除後も、県から連絡が来ることはありますか？

Ａ：返還免除を受けるための勤務期間が終了した後、県内公的医療機関等で勤務したことを証明する書類と共に返還免除の申請が必要です。

また、県では、返還免除を受けるための勤務期間が終了した後も、引き続き県内で勤務を続けていただくことを期待しています。

このため、返還免除後の勤務先や、勤務状況については、定期的にアンケート等を実施したいと考えておりますので、その際はご協力をお願いいたします。

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況
ア 設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・ P2
イ 地域・社会的動向等の現状把握・分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

ア　設置又は定員を変更する学科等を設置する大学等の現状把握・分析

本学は全国に 6 つのキャンパス、15 学部 49 学科を擁する総合大学である。文系 6 学部（法・経済・経営・文芸・総合社会・国際）、理系 9 学部（理工・建築・薬・情報・農・医・生物理工・工・産業理工）を設置しており、令和 5 年度の入学定員（通信教育課程を除く）は大学全体で 8,207 人、そのうち文系学部が 50.3%（4,125 人）、理系学部が 49.7%（4,082 人）となり、一方に偏らない学部構成となっている。このことから、学部系統の人気に左右されず、一定の志願者数を確保することができ、安定した大学経営の基盤となっている。

近年では、東大阪キャンパスにおいて、令和 4 年度に情報学部を開設、併せて理工学部を改組しエネルギー物質学科を設置した。情報学部では、IoT・セキュリティ技術・ビッグデータ・AI・ロボットの技術革新による第 4 次産業革命の進展に伴って広がりを見せる社会のニーズに応える情報技術者の育成を目指し、理工学部エネルギー物質学科では、「持続可能社会のためのエネルギー」「エネルギー技術を支えるマテリアル」「生命のエネルギー」の 3 つの領域を総合的に学ぶことで、エネルギー技術を通じて SDGs の達成に貢献する人材の育成を目指すなど、社会の要請に応えることのできる人材輩出に向けて取り組んでいる。なお、令和 4 年度および令和 5 年度入試においては、情報学部、理工学部エネルギー物質学科ともに概ね入学定員どおりに入学者数を確保できており、引き続き安定した入学者数の確保を見込んでいる。【資料 1】

一方で、東大阪キャンパス以外のキャンパスに目を向けると、生物理工学部（和歌山キャンパス）、工学部（広島キャンパス）、産業理工学部（福岡キャンパス）については、毎年度、入学定員は概ね充足している状況ではあるものの、東大阪キャンパスの学部と比較すると競争率が低い傾向にあるため、地域ごとの特有の事情を加味しながら引き続き志願動向を注視したい。なお、既設学部等の学生確保の状況の詳細については後述する。

イ　地域・社会的動向等の現状把握・分析

本学医学部の地域枠である大阪府、奈良県、和歌山県、静岡県の令和 2 年度の医師数および人口 10 万対医師数を示す【資料 2】。特に静岡県では、県内医療に従事する医師は 7,972 人で全国 11 位であるが、人口 10 万人対医師数の都道府県順位は 40/47 位である。静岡県は東西に幅広い地域医療をカバーしているが、特に中東遠、富士、賀茂は医師少数区域にあたり、他の地域においても医師充足率は低い状態である。浜松医科大学 15 名に次いで、近畿大学医学部は 10 名の地域枠を確保し、卒業後は上述の医師少数・中位区域での医療に従事している。

ウ　新設学科等の趣旨目的、教育内容、定員設定等

地域枠定員は、令和 2 年度からは大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 2 名、静岡県 5 名の合計 12 名となり、令和 3 年度から静岡県が 5 名増員し合計 17 名の認可を受けている。上記 4 府県と協議を重ね、医師の確保を特に図るべき区域や診療科偏在に対応できるよう、医師の確保を引き続き行う必要があるため、令和6年度も17名の地域枠定員を申請する。

教育内容についても、地域枠学生を含む医学部学生全員に十分な教育を提供することができると考えている。

具体的な教育内容

1. 大学内外の組織や地域との連携

各自治体から地域医療の現状、医師の必要性、現在活躍している医師の紹介。

2. 将来のロールモデル形成

地域枠の卒業生より地域医療の実践を講義してもらい、将来の自分を想起することを促進させる。

3. 多職種連携教育

診療所における実習を通じて、地域の中での診療所の役割を学ぶことと住民対象の健康教育に参加することにより予防医学の概念を学ぶ。

エ 学生確保の見通し

A 学生確保の見通しの調査結果

本学医学部では、大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 10 名、静岡県 5 名の合計 20 名の地域枠臨時定員を設けていた。平成 31 年度で臨時定員増の期限が終了後、令和 2 年度からは大阪府 3 名、奈良県 2 名、和歌山県 2 名、静岡県 5 名の合計 12 名となり、令和 3 年度からは静岡県が 5 名増員し合計 17 名の認可を受けている。令和6年度は、上記 4 府県と協議を重ねた結果、前年と同様の地域枠定員を申請することで合意を得ている。本学医学部の令和元年度入試から令和 5 年度入試の志願状況【資料 3】からも、志願倍率は増加傾向であり、地域枠定員を充足する見込みはあると考える。

B 新設学部等の分野の動向

医師の確保を特に図るべき区域や診療科偏在に対応できるよう医師の確保を引き続き行う必要がある。そのため、大阪府、奈良県、和歌山県、静岡県の地域枠定員数 17 名を充足する見込みはあると考える。なお、近隣大学の志願動向については後述する。

C 中長期的な18歳人口の全国的、地域的動向等

本学医学部の地域枠は平成 22 年度入試から募集を開始した。手上げ方式事前型で選抜を実施してきたため、各府県の地域枠定員が充足していない年度もあったが、令和 2 年度入試からの増員分について、その他の定員と区別する別枠方式により学生を選抜することとし、地域医療に従事する確固たる意思を持った学生を確実に確保することにしている。学校基本調査の高等教育機関への入学状況（過年度高卒者等を含む）の推移からも全国的に 18 歳人口が減少傾向にある中で、大学進学率は上昇している。医学部志向が高まる状況で、本学においても志願者数は微増している。これらから恒久定員 95 名に加えて、地域枠定員 17 名を充足する見込みはあると考える。【資料 4】

D 競合校の状況

本学医学部の競合校と考える関西地区の私立医科大学である関西医科大学、大阪医科薬科大学、兵庫医科大学の過去 3 年間の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、定員充足率、学費をまとめた【資料 5】。本学は、大阪医大、兵庫医大より多くの志願者を集めており、安定的に入学者を確保できている状況である。

E 既設学部等の学生確保の状況

本学の平成 31 年度入試から令和 5 年度入試までの 5 年間の入学志願者数の推移は別紙のとおりである。令和 2 年度入試における大学入学共通テストへの移行時や、令和 3 年度入試のコロナ禍においては志願者数が減少し厳しい状況もあったが、順調に志願者数は確保できている。令和 4 年度入試では大学の学部全体として過去最高となる 209,328 人の志願者数を確保し、令和 5 年度入試まで 10 年連続で全国最多を記録してい

る。【別紙 1-1～1-49】

志願者数が好調に推移する中、入学者数も順調に確保できており、大学全体として、5 年間の平均入学定員充足率は 1.02 となっている。また、学科単位で見た場合、49 学科のうち 4 分の 3 以上の 38 学科で 5 年間の平均入学定員充足率が 1.00 を上回っており、残りの 11 学科についても 0.91～0.99 の範囲内であることから、いずれの学部も概ね安定して入学者数を確保できている。特に、建築学部、薬学部医療薬学科(6 年制)、医学部など、資格や就職に直結する専門性の高い学部については歩留率が高い傾向にあり、今後も同様に推移することが見込まれる。

一方、大学全体として志願者数が好調に推移する中、生物理工学部(和歌山キャンパス)、工学部(広島キャンパス)、産業理工学部(福岡キャンパス)については、志願者数は概ね横ばいで推移しているものの、毎年度の競争率が 2 倍程度であり、今後、志願者数が顕著に減少した場合、入学者数の確保に苦慮する場面が生じる可能性も想定される。これら 3 学部 17 学科のうち約 3 分の 1 の 6 学科で 5 年間の平均入学定員充足率が 1.00 を下回る状況であることも考慮すると、引き続き志願動向を注視する必要がある。【資料 6】

F その他、申請者において検討・分析した事項

本学医学部の令和元年度入試から令和 5 年度入試における地域枠4府県出身の志願者数については、近畿大学の認知度上昇と地域枠の設定に伴い地域枠以外の入試区分においても増加傾向で、今後も継続して地域枠の志願者が維持できると考える。【資料 7】

オ 学生確保に向けた具体的な取組と見込まれる効果

①オープンキャンパス

医学部が所在する大阪狭山キャンパスでオープンキャンパスを開催している。受験生のみならず、保護者をはじめ地域住民や医療関係者等、多数の方に情報を提供する場となっている。医学部の概要説明や入試概要の説明のほかに、入試対策講座、在学生が入試体験や学生生活等について語る在学生座談会、手技体験、ドクターカー見学等多彩な構成で実施している。特にシミュレーションセンターでの手技体験プログラムは、地域の小学生等に人気のプログラムとなっている。また、本学の東大阪キャンパスでは、例年 5 回程度オープンキャンパスを開催しており、医学部もブースを設け、情報提供を行っている。

②入試説明会・進学相談会

医学部では学生募集活動のひとつとして、各種の入試説明会や、予備校主催の進学相談会等のイベントに積極的に参加している。これらのイベントは東京、名古屋、大阪、福岡等の各地で開催され、年間で 20 回程度、医学部学生センター学務課所属の職員を派遣している。担当者は、医学部の概要や入試の説明を行うとともに、受験生や保護者からの様々な相談に応じており、相談者と直接対話することによって、医学部への関心が高まり、是非とも入学したいとの声が多く寄せられている。また、ホームページにおいても入試概要の動画を公開し、対面で参加できない受験生に対しても医学部の魅力や情報を発信している。

③地域枠学生確保

オープンキャンパスや入試説明会・進学相談会では、一般枠学生の確保のみならず、地域枠学生の確保についても取り組んでいる。特に入試説明会・進学相談会では医学部が設ける 4 府県地域枠の修学資金の内容及び返還条件、卒業後のキャリア形成、臨床研修病院の紹介等について詳細な説明を行っている。令和 2 年

度入試から、一般枠とは別枠で選抜したことで、確実な地域枠学生の確保に繋げることができている。地域枠入試の受験会場としては所在地の大阪以外にも東京会場を設置し、静岡県地域枠等の希望者が受験しやすい環境を整えていることも要因と思われる。なお、学力レベルに関しても入試合格最低点においては地域枠と一般枠との大きな差はなく、一部では地域枠の方が高いケースもあるなど入学生の学力は概ね担保できている状況である。

カ　基本計画書の「既設大学等の状況」の欄に記載した定員超過率が 0.7 倍未満の学科等について

・法学部法律学科（通信教育課程）

法学部法律学科（通信教育課程）は、昭和 35 年（1960 年）に自ら苦学した経験をもつ創設者、世耕弘一の「学びたいものに学ばせたい」という理念に基づき設置された。同課程は関西における大学通信教育の草分けであり、大学の門戸を広く社会に開放する方針により、入学試験や選抜試験は行わず、入学資格を満たす者については入学を許可し、多くの人々を受入することができるよう設置当時の入学定員である 2,000 人を維持している。

近年においては、各大学の入学定員の拡大に伴う学修機会の増加や 18 歳人口の減少等の理由により、全国的に入学者が減少していたが、昨今のコロナ禍によって、通学制の大学でも通学ができず、オンライン講義での単位修得を余儀なくされていることから、全国の通信制大学で入学生が増加傾向にある。

法学部法律学科（通信教育課程）については、入学定員 2,000 人に対し、令和 4 年 12 月 31 日現在の入学者数は 526 人、入学定員超過率は 0.26 となっており、昨年度と比べても増加傾向に見られる。正科生については、入学定員を充足していない状態ではあるが、入学者数に科目等履修生入学者数を加えると毎年入学定員を充足している【資料 8】。これは、通信教育課程の特性であるとともに、本学が提供する通信教育が社会人を中心とするニーズに応えられていることを実証する数字だと考えている。社会的ニーズの受け皿となっている現段階では、入学定員を削減するのではなく、後述する具体的な取組を行うことで、入学定員を充足できるよう努めたいと考えている。

法学部法律学科（通信教育課程）では、特に以下 10 点の改善を進めている。

①LMS（Learning Management System）の導入

平成 26 年度から LMS を導入し、居住地や勤務形態に囚われない学習環境の提供を開始した。これまで単位修得に係る試験会場やスクーリング会場が近くになく、入学に至らなかった方々を中心に、入学促進を図っている。また、より学びやすいシステムの構築を進めており、令和 6 年度には手書きでの学習形態を廃止し、Web 学習のみとする予定である。

②ホームページのリニューアル

令和元年度に、読みやすさ、わかりやすさに重点を置き、また学園全体の最新情報を即時発信できるよう、HP をリニューアルした。また、HP 上に掲載している『動画で見る入学説明会』を最後まで見ていただけるよう、工夫に富んだ、学習方法が理解しやすいバージョンへのリニューアルを企画している。令和 2 年度からは HP 上にチャットボットを開設し、入学検討者からの FAQ に対応できるようになり、事前に本学での学習方法を理解いただくことで入学者増につながったと考えている。また、通信教育についてより理解いただける HP となるよう、在学生向けチャットボットの開設も進めている。

③3年次編入学生の募集強化

専修学校専門課程を訪問し、当該学生及び進路指導担当教員に対して、卒業後の進路選択肢の一つとして本学を加えていただくよう説明を行っている。また、通信教育課程では分野問わず一括単位認定を導入しており、大学の中途退学者に向けてキャンペーン（広告）を行い更なる編入学生増加を図っている。

④提携する専門学校の新規開拓

専修学校専門課程を訪問し、専門学校に在籍しながら、大学卒業資格も取得できるダブルスクールの魅力を伝えている。学習継続に必要な諸手続等の当該学校での事務的負担を軽減するため、団体でのスクーリング申込、試験申込、費用の一括請求等をオンラインから行える機能を平成 27 年度に本学独自のポータルサイトに追加し、他大学との差別化を図っている。

⑤通信教育サポート校の新規開拓

居住地に近い場所で、通信教育課程における学習サポートを担える教室を全国各地に設置しようと、専修学校を中心に提携を提案している。ダブルスクールと比較すると、学生は通信制大学の卒業のみを目的とするため、学習における負担が大幅に軽減され、サポートに係る費用を抑えられる。大幅な入学者数増加につながると期待している。令和 4 年 7 月には通信制高校との間で協定を交わし、高校在学中から科目等履修生として入学させることが可能になった。通信教育課程の学習方法をより理解いただくことで、入学促進につながると期待している。

⑥入学説明会の内容充実

近畿大学法学部法律学科及び近畿大学短期大学部商経科の通信教育課程が合同で開催している入学説明会では、平成 26 年度秋季から、来場者の満足度向上に重点を置き、運営方法を一新した。開催告知対象を広げ、学習方法、学習サポート、必要経費等の説明に加え、本学 LMS を体験できるコーナーの設置、個別相談コーナーの人員を増やし満足度の向上に努めてきた。

その結果、平成 26 年度は 24.2％であった説明会来場者の入学率が、令和元年度 40.3%、令和 2 年度 47.0%と着実に実績をあげている。令和 4 年度は 34.5%となっているが引き続き入学率の向上を図り入学者増加につなげていきたい。 また、令和 2 年度の入学説明会からはプレゼンテーションアプリを採用しており、入学後の学習方法について理解を深めていただくことで入学者数増につながったと考えている。

⑦SNS の活用

令和 2 年度から通信教育課程の Twitter（現 X）を開設し科目終末試験実施やスクーリング開講、Web 学習相談会等の学事行事、手続き期間等を発信している。また、令和 3 年度からは公式 Line も導入し、入学検討者からの質問に対して迅速に回答できるようになった。入学前から学生生活を身近に感じていただくことで入学者の増加につながると期待している。

⑧学費一括収納制の導入

令和 2 年度から、面接授業科目の履修や通信授業科目における定期試験申込の都度、請求を発生させるこれまでの仕組みから、年間に必要な学費を一括で請求する方式に変更した。都度振込みの手間を省くことによ

る利便性向上、明朗な学費制度による安心感が学生募集に寄与していると考えている。令和 4 年度からはクレジットカード決済、QR コード決済を導入することで、更なる学生の利便性向上を図っており、入学者数の増加につながることを期待している。

⑨メディア授業の拡充

今後は、通信授業科目として開講していた科目のメディア授業化を進めていく予定である。自学自習によるレポート作成及び試験と比較し、教員に直接質問できるメディア授業の比率を高めることで卒業率が向上し、ひいては学生募集につながるものと期待している。また、昨年度から通学課程向けに開講しているオンデマンド科目の受講を可能とした。このことにより、通信授業科目で受講する必要があった総合科目について、メディア授業による単位修得が可能となった。

⑩外部学習支援サービスの活用

通信制大学の特徴として、自学自習での単位修得、学習計画を自分で立てる必要があり、これらによるドロップアウト率の高さ、卒業率の低減が課題であったが、それらを解消するための学習支援サービス（有料）を令和 4 年 4 月に導入した。サービス開始から 1 年が経過し、申込者数は 80 名を超えており、単位修得状況は良好である。支援サービスは大阪の大学受験専門塾が行い、申込学生は通信授業科目におけるレポート作成支援、科目終末試験の受験対策や、学習計画の立て方について、オンラインで指導を受けられる。これらの支援により、卒業率の向上、ドロップアウト率の向上を図り、今後の入学生獲得につながるものと期待している。

2. 人材需要の動向等社会の要請

①人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本学は、未来志向の「実学教育と人格の陶冶」を建学の精神とし、「人に愛される人、信頼される人、尊敬される人の育成」を教育の目的としている。そのため、医学部においては、人に愛され、信頼され、尊敬される医師、卒後に必要な医療の実践力とさまざまな医療分野で活躍できる知識・資質を有する医師、国内外の医療・保健・福祉において社会的貢献ができる医師、医学の進歩に対応できる継続的な学修心・研究心を持つ医師を育成することを目指している。

②上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア　医師国家試験合格率推移

本学医学部 6 年生の医師国家試験の結果【資料 9】および合格率の推移【資料 10】から、平成 28 年以降増加した留年者数に対する方策も並行して行い、医師としての能力を適正に判断して社会に貢献できる人材を輩出している。毎年 100 人程度の本学卒業者が、近畿大学病院、近畿大学奈良病院をはじめとする大学病院や各地の臨床研修病院で 2 年間の臨床研修を行い、医師としてのキャリアをスタートしている。臨床研修修了後は、大阪府をはじめ地域枠設定の4府県を含めて全国各地で医療に従事しており、本学医学部は医師養成機関としての役割を十分に果たしていると考えている。

イ　地域枠学生の進路等

地域枠学生は修学資金の貸与期間の 1.5 倍（9 年間）の就労義務があるが、卒業後は各府県の臨床研

修病院で臨床研修を行い、その後各府県の要請に合わせて医師の確保を必要とする地域や診療科等で地域医療に貢献している。

令和 2 年度入学の地域枠学生からは、各府県のキャリア形成プログラムの対象者となり、各府県の要請に基づいて卒業後の進路を決定している。

本学医学部地域枠各府県の臨床研修医募集定員、マッチ者数、充足率を示す【資料 11】。地域枠学生はキャリア形成プログラムに基づき、各府県が指定する臨床研修病院で 2 年間の臨床研修修了後、地域の医師不足や診療科偏在の解消に貢献することになる。本学医学部では、従来から学生サポートの一環としてメンター制度を導入しているが、令和元年度から地域枠学生に対しては、既存のメンターに加えて別の教員を地域枠メンターとして配置し、各府県の地域枠担当者の協力のもとでキャリア形成を支援するとともに、地域枠からの離脱の防止にも繋げている。

3. 資料目次

資料 1　情報学部及び理工学部エネルギー物質学科　入学者数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P10
資料 2　令和 2 年度 都道府県別医師数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

【資料 1】

情報学部及び理工学部エネルギー物質学科　入学者数

学部	入学定員（人）	R4 年度入試		R5 年度入試	
		入学者数（人）	入学定員充足率（%）	入学者数（人）	入学定員充足率（%）
情報学部	330	360	1.09	323	0.97
理工学部エネルギー物質学科	120	113	0.94	115	0.95

【資料 2】

令和 2 年度　都道府県別医師数

	医師数（人）	順位	人口 10 万対医師数（人）	順位
	医療施設の従事者		医療施設の従事者	
大阪府	25,253	2	286	16
奈良県	3,670	26	277	18
和歌山県	2,840	30	308	9
静岡県	7,972	11	219	40

出典：厚生労働省　令和2(2020)年医師・歯科医師・薬剤師統計の概況

（https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/ishi/20/index.html）より抜粋

【資料 3】

近畿大学医学部　志願状況

	R1 年度入試	R2 年度入試	R3 年度入試	R4 年度入試	R5 年度入試
募集人員（人）	115	107	112	112	112
志願者数（人）	3,532	3,615	3,814	3,658	4,082
志願倍率（倍）	30.7	33.8	34.1	32.7	36.4

【資料 4】

近畿大学医学部　一般枠･地域枠　入学定員充足率

			R2 年度入試	R3 年度入試	R4 年度入試	R5 年度入試
定員(人)	一般枠		95	95	95	95
	地域枠		12	17	17	17
		大阪府	3	3	3	3
		奈良県	2	2	2	2
		和歌山県	2	2	2	2
		静岡県	5	10	10	10
志願者数(人)	一般枠		3,569	3,598	3,395	3,816
	地域枠		46	216	263	266
		大阪府	23	22	28	39
		奈良県	3	14	32	34
		和歌山県	5	11	31	18
		静岡県	15	169	172	175
受験者数(人)	一般枠		3,383	3,359	3,191	3,578
	地域枠		46	204	247	252
		大阪府	23	21	28	38
		奈良県	3	14	31	33
		和歌山県	5	11	31	18
		静岡県	15	158	157	163
合格者数(人)	一般枠		231	253	260	246
	地域枠		13	17	20	18
		大阪府	4	3	3	4
		奈良県	2	2	2	2
		和歌山県	2	2	2	2
		静岡県	5	10	13	10
入学者数(人)	一般枠		95	95	95	94
	地域枠		11	17	17	17
		大阪府	3	3	3	3
		奈良県	1	2	2	2
		和歌山県	2	2	2	2
		静岡県	5	10	10	10
入学定員充足率(%)	一般枠		100	100	100	99
	地域枠		88	100	100	100
		大阪府	100	100	100	100
		奈良県	50	100	100	100
		和歌山県	100	100	100	100
		静岡県	100	100	100	100

【資料 5】

競合校　志願状況

	大学名	R3 年度入試	R4 年度入試	R5 年度入試
志願者数(人)	近畿大	3,814	3,658	4,082
	関西医大	3,840	3,861	5,437
	大阪医大	2,876	2,949	3,501
	兵庫医大	1,875	1,799	2,053
受験者数(人)	近畿大	3,563	3,438	3,830
	関西医大	4,181	4,177	5,851
	大阪医大	2,485	2,527	3,062
	兵庫医大	1,777	1,711	1,947
合格者数(人)	近畿大	270	279	264
	関西医大	291	333	340
	大阪医大	212	219	248
	兵庫医大	241	244	221
入学者数(人)	近畿大	112	112	111
	関西医大	127	127	127
	大阪医大	112	112	112
	兵庫医大	112	112	112
入学定員充足率(%)	近畿大	100	100	99
	関西医大	100	100	100
	大阪医大	100	100	100
	兵庫医大	100	100	100
学費(円)	近畿大	35,800,000	35,800,000	35,800,000
	関西医大	27,700,000	27,700,000	21,000,000
	大阪医大	31,410,000	31,410,000	28,410,000
	兵庫医大	37,000,000	37,000,000	37,000,000

【資料 6】

生物理工学部･工学部･産業理工学部　競争率

学部	競争率(倍)				
	H31 年度入試	R2 年度入試	R3 年度入試	R4 年度入試	R5 年度入試
生物理工学部	2.5	2.0	1.3	1.5	1.6
工学部	2.6	2.2	1.7	2.1	1.7
産業理工学部	3.1	2.1	1.8	2.3	1.7

【資料 7】

近畿大学医学部　出身地別　志願者・合格者・入学者　（人）

都道府県	R1 年度入試			R2 年度入試			R3 年度入試			R4 年度入試			R5 年度入試		
	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
大阪府	1,050	86	42	1,119	93	34	1,085	89	39	1,101	95	45	1,223	97	39
奈良県	297	21	11	293	23	11	317	35	11	306	33	12	309	39	13
和歌山県	122	18	11	103	13	9	116	11	7	104	7	3	88	6	5
静岡県	34	2	1	43	0	0	70	2	0	67	3	2	75	2	0
合計	3,532	249	113	3,599	244	106	3,814	270	112	3,658	280	112	4,082	264	111

【資料 8】

法学部法律学科(通信教育課程)　入学者状況(令和 4 年 12 月 31 日現在)

項目	H30 年度	R1 年度	R2 年度	R3 年度	R4 年度
入学定員(人)	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
入学者数(人)	391	439	407	498	526
入学定員超過率(倍)	0.19	0.21	0.20	0.24	0.26
科目等履修生入学者数(人)	2,175	2,041	2,038	2,753	2,848
正科生＋科目等履修生(人)	2,566	2,480	2,445	3,251	3,374
科目等履修生を加えた 入学定員超過率(倍)	1.28	1.24	1.22	1.62	1.68

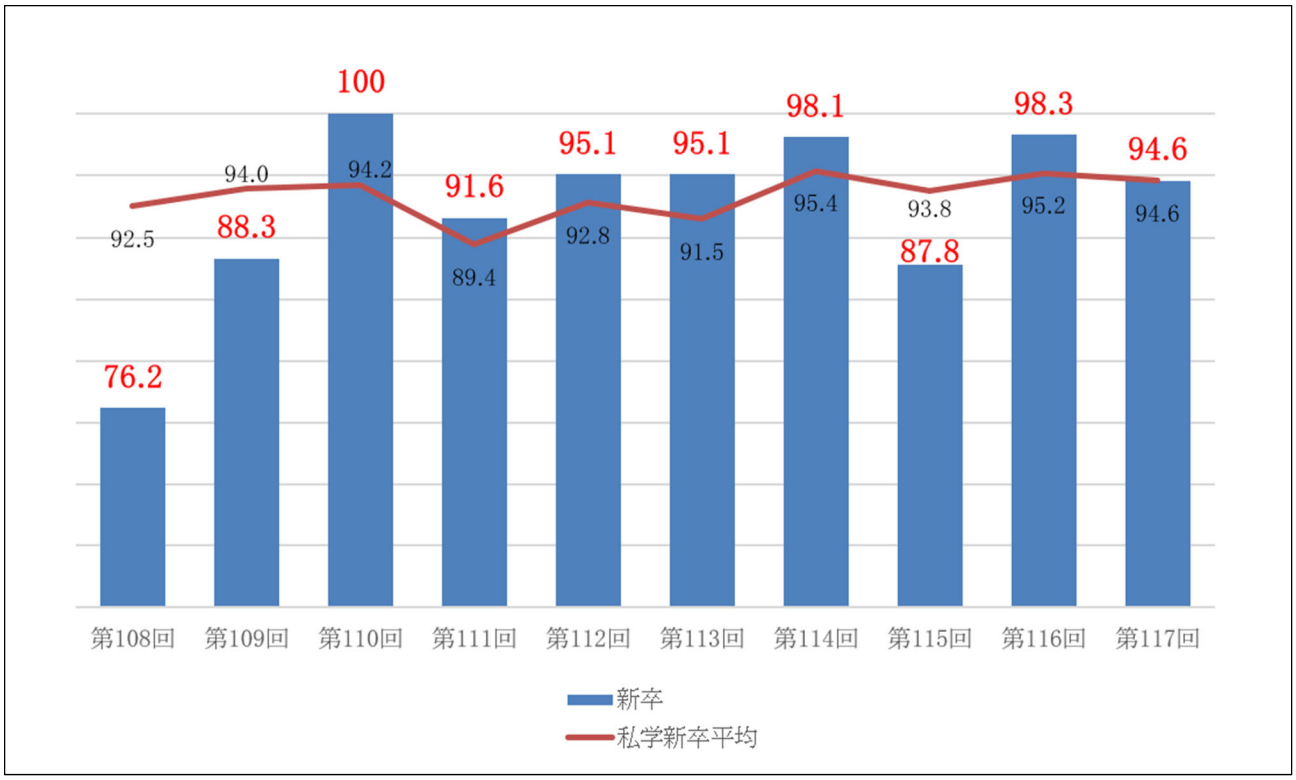
【資料 9】

近畿大学医学部　医師国家試験結果

	新卒		
	合格者数(人)	不合格者数(人)	合格率
第 108 回 (H25 年度)	77	24	76.20%
第 109 回 (H26 年度)	83	11	88.30%
第 110 回 (H27 年度)	85	0	100.00%
第 111 回 (H28 年度)	87	8	91.60%
第 112 回 (H29 年度)	97	5	95.10%
第 113 回 (H30 年度)	98	5	95.10%
第 114 回 (R1 年度)	104	2	98.10%
第 115 回 (R2 年度)	108	15	87.80%
第 116 回 (R3 年度)	116	2	98.30%
第 117 回 (R4 年度)	105	6	94.60%

【資料 10】

近畿大学医学部　医師国家試験合格率推移



【資料 11】

都道府県別　医師臨床研修医　募集定員・マッチ者数・充足率

都道府県	R2 年度			R3 年度			R4 年度		
	募集定員（人）	マッチ者数（人）	充足率	募集定員（人）	マッチ者数（人）	充足率	募集定員（人）	マッチ者数（人）	充足率
大阪府	646	634	98.1%	644	633	98.3%	634	621	97.9%
奈良県	141	129	91.5%	129	126	97.7%	129	98	76.0%
和歌山県	118	93	78.8%	126	96	76.2%	127	85	66.9%
静岡県	299	242	80.9%	292	252	86.3%	297	272	91.6%

出典：医師臨床研修マッチング協会　病院数・学生数・募集定員・マッチ者数の推移
（https://www.jrmp2.jp/data.htm）より抜粋

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１

大学学部学科等名：近畿大学法学部法律学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		238人	238人	238人	238人	238人	238人
	延べ人数	志願者数	2587人	1538人	2242人	2205人	2142人	2143人
		受験者数	2583人	1536人	2229人	2191人	2124人	2133人
		合格者数	356人	516人	584人	574人	619人	530人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	34人	36人	26人	27人	26人
	実人数	志願者数	1121人	753人	1035人	1038人	1007人	991人
		受験者数	1120人	753人	1030人	1033人	1001人	987人
		合格者数	289人	354人	403人	415人	425人	377人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	34人	36人	26人	27人	26人
	入学者数		228人	249人	260人	279人	289人	261人
一般選抜	募集人数		227人	227人	227人	227人	227人	227人
	延べ人数	志願者数	6493人	5554人	6071人	7780人	6757人	6531人
		受験者数	6021人	5053人	5434人	7053人	6289人	5970人
		合格者数	715人	1153人	1536人	1676人	946人	1205人
		うち追加合格者数	11人	0人	58人	0人	27人	19人
		辞退者数	9人	18人	28人	14人	14人	17人
	実人数	志願者数	1982人	1729人	1805人	2146人	1855人	1903人
		受験者数	1924人	1672人	1747人	2094人	1811人	1850人
		合格者数	421人	671人	817人	815人	525人	650人
		うち追加合格者数	11人	0人	36人	0人	27人	15人
		辞退者数	9人	18人	28人	14人	14人	17人
	入学者数		119人	216人	250人	241人	159人	197人
共通テスト利用入試	募集人数		35人	35人	35人	35人	35人	35人
	延べ人数	志願者数	1610人	1090人	870人	866人	722人	1032人
		受験者数	1607人	1088人	869人	866人	718人	1030人
		合格者数	600人	628人	391人	411人	398人	486人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	21人	14人	11人	8人	16人	14人
	実人数	志願者数	1519人	1020人	824人	813人	673人	970人
		受験者数	1516人	1018人	823人	813人	669人	968人
		合格者数	588人	603人	384人	401人	386人	472人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	21人	14人	11人	8人	16人	14人
	入学者数		63人	48人	14人	24人	19人	34人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	38人	42人	38人	32人	38人	38人
		受験者数	33人	33人	27人	28人	31人	30人
		合格者数	12人	16人	19人	18人	12人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	38人	42人	38人	32人	38人	38人
		受験者数	33人	33人	27人	28人	31人	30人
		合格者数	12人	16人	19人	18人	12人	15人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		8人	14人	10人	12人	6人	10人
合計	募集人数		500人	500人	500人	500人	500人	500人
	延べ人数	志願者数	10728人	8224人	9221人	10883人	9659人	9743人
		受験者数	10244人	7710人	8559人	10138人	9162人	9163人
		合格者数	1683人	2313人	2530人	2679人	1975人	2236人
		うち追加合格者数	11人	0人	58人	0人	27人	19人
		辞退者数	35人	66人	75人	48人	57人	56人
	実人数	志願者数	4660人	3544人	3702人	4029人	3573人	3902人
		受験者数	4593人	3476人	3627人	3968人	3512人	3835人
		合格者数	1310人	1644人	1623人	1649人	1348人	1515人
		うち追加合格者数	11人	0人	36人	0人	27人	15人
		辞退者数	35人	66人	75人	48人	57人	56人
	入学者数		418人	527人	534人	556人	473人	502人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	500人	500人	500人	500人	500人	500人
入学定員充足率	0.84	1.05	1.07	1.11	0.95	1.00
歩留率	0.32	0.32	0.32	0.34	0.34	0.33

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２

大学学部学科等名：近畿大学経済学部経済学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		206人	206人	206人	206人	206人	206人
	延べ人数	志願者数	3712人	2683人	2918人	2995人	3333人	3128人
		受験者数	3624人	2626人	2823人	2896人	3157人	3025人
		合格者数	394人	403人	521人	527人	541人	477人
		うち追加合格者数	19人	0人	0人	0人	0人	4人
		辞退者数	12人	22人	37人	35人	36人	28人
	実人数	志願者数	1545人	1189人	1318人	1347人	1478人	1375人
		受験者数	1513人	1171人	1285人	1316人	1423人	1342人
		合格者数	286人	292人	360人	377人	383人	340人
		うち追加合格者数	19人	0人	0人	0人	0人	4人
		辞退者数	12人	22人	37人	35人	36人	28人
	入学者数		195人	206人	202人	218人	237人	212人
一般選抜	募集人数		178人	178人	178人	178人	178人	178人
	延べ人数	志願者数	7993人	7701人	7383人	8449人	8188人	7943人
		受験者数	7509人	6938人	6782人	7668人	7623人	7304人
		合格者数	772人	864人	1278人	1222人	1207人	1069人
		うち追加合格者数	56人	0人	0人	0人	102人	32人
		辞退者数	6人	10人	22人	13人	12人	13人
	実人数	志願者数	2529人	2454人	2205人	2346人	2386人	2384人
		受験者数	2445人	2372人	2141人	2284人	2335人	2315人
		合格者数	468人	567人	689人	658人	647人	606人
		うち追加合格者数	54人	0人	0人	0人	83人	27人
		辞退者数	6人	10人	22人	13人	12人	13人
	入学者数		137人	189人	199人	157人	160人	168人
共通テスト利用入試	募集人数		36人	36人	36人	36人	36人	36人
	延べ人数	志願者数	1742人	1289人	1233人	1243人	1742人	1450人
		受験者数	1734人	1285人	1230人	1242人	1728人	1444人
		合格者数	540人	649人	676人	837人	865人	713人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	15人	17人	16人	20人	17人
	実人数	志願者数	1646人	1202人	1172人	1195人	1473人	1338人
		受験者数	1638人	1198人	1169人	1194人	1461人	1332人
		合格者数	532人	632人	659人	820人	742人	677人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	15人	17人	16人	20人	17人
	入学者数		36人	44人	44人	71人	36人	46人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	50人	97人	37人	60人	31人	55人
		受験者数	47人	83人	27人	57人	25人	48人
		合格者数	15人	14人	12人	16人	11人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	3人	2人	1人
	実人数	志願者数	50人	97人	37人	60人	31人	55人
		受験者数	47人	83人	27人	57人	25人	48人
		合格者数	15人	14人	12人	16人	11人	14人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	3人	2人	1人
	入学者数		9人	7人	7人	4人	6人	7人
合計	募集人数		420人	420人	420人	420人	420人	420人
	延べ人数	志願者数	13497人	11770人	11571人	12747人	13294人	12576人
		受験者数	12914人	10932人	10862人	11863人	12533人	11821人
		合格者数	1721人	1930人	2487人	2602人	2624人	2273人
		うち追加合格者数	75人	0人	0人	0人	102人	35人
		辞退者数	33人	49人	76人	67人	70人	59人
	実人数	志願者数	5770人	4942人	4732人	4948人	5368人	5152人
		受験者数	5643人	4824人	4622人	4851人	5244人	5037人
		合格者数	1301人	1505人	1720人	1871人	1783人	1636人
		うち追加合格者数	73人	0人	0人	0人	83人	31人
		辞退者数	33人	49人	76人	67人	70人	59人
	入学者数		377人	446人	452人	450人	439人	433人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	420人	420人	420人	420人	420人	420人
入学定員充足率	0.90	1.06	1.08	1.07	1.05	1.03
歩留率	0.27	0.30	0.26	0.24	0.24	0.26

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３

大学学部学科等名：近畿大学経済学部国際経済学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		82人	82人	82人	82人	82人	82人
	延べ人数	志願者数	1476人	927人	1137人	1042人	1285人	1173人
		受験者数	1414人	901人	1092人	1001人	1216人	1125人
		合格者数	165人	188人	241人	257人	262人	223人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	8人	14人	14人	11人	10人
	実　人　数	志願者数	623人	415人	509人	463人	592人	520人
		受験者数	601人	408人	493人	452人	567人	504人
		合格者数	123人	137人	159人	176人	171人	153人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	8人	14人	14人	11人	10人
	入学者数		78人	98人	86人	91人	83人	87人
一般選抜	募集人数		69人	69人	69人	69人	69人	69人
	延べ人数	志願者数	2591人	2313人	2259人	2599人	4020人	2756人
		受験者数	2445人	2104人	2035人	2295人	3684人	2513人
		合格者数	269人	332人	473人	494人	584人	430人
		うち追加合格者数	8人	0人	53人	0人	42人	21人
		辞退者数	0人	2人	4人	6人	2人	3人
	実　人　数	志願者数	833人	771人	716人	770人	1113人	841人
		受験者数	800人	731人	689人	738人	1088人	809人
		合格者数	174人	218人	247人	248人	311人	240人
		うち追加合格者数	8人	0人	46人	0人	36人	18人
		辞退者数	0人	2人	4人	6人	2人	3人
	入学者数		54人	57人	82人	64人	70人	65人
共通テスト利用入試	募集人数		19人	19人	19人	19人	19人	19人
	延べ人数	志願者数	569人	460人	379人	365人	771人	509人
		受験者数	569人	458人	376人	365人	764人	506人
		合格者数	237人	232人	231人	267人	295人	252人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	4人	1人	1人	5人	2人
	実　人　数	志願者数	549人	435人	362人	351人	697人	479人
		受験者数	549人	433人	359人	351人	692人	477人
		合格者数	235人	226人	224人	260人	273人	244人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	4人	1人	1人	5人	2人
	入学者数		14人	13人	9人	17人	19人	14人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	15人	34人	25人	21人	7人	20人
		受験者数	11人	26人	21人	19人	7人	17人
		合格者数	4人	8人	5人	4人	2人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	15人	34人	25人	21人	7人	20人
		受験者数	11人	26人	21人	19人	7人	17人
		合格者数	4人	8人	5人	4人	2人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	6人	2人	3人	2人	3人
合計	募集人数		170人	170人	170人	170人	170人	170人
	延べ人数	志願者数	4651人	3734人	3800人	4027人	6083人	4459人
		受験者数	4439人	3489人	3524人	3680人	5671人	4161人
		合格者数	675人	760人	950人	1022人	1143人	910人
		うち追加合格者数	8人	0人	53人	0人	42人	21人
		辞退者数	6人	14人	19人	21人	18人	16人
	実　人　数	志願者数	2020人	1655人	1612人	1605人	2409人	1860人
		受験者数	1961人	1598人	1562人	1560人	2354人	1807人
		合格者数	536人	589人	635人	688人	757人	641人
		うち追加合格者数	8人	0人	46人	0人	36人	18人
		辞退者数	6人	14人	19人	21人	18人	16人
	入学者数		147人	174人	179人	175人	174人	170人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	170人	170人	170人	170人	170人	170人
入学定員充足率	0.86	1.02	1.05	1.03	1.02	1.00
歩　留　率	0.27	0.30	0.26	0.25	0.22	0.26

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４

大学学部学科等名：近畿大学経済学部総合経済政策学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		82人	82人	82人	82人	82人	82人
	延べ人数	志願者数	1917人	1150人	1382人	1146人	1271人	1373人
		受験者数	1868人	1130人	1338人	1097人	1213人	1329人
		合格者数	209人	231人	229人	244人	283人	239人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	11人	12人	6人	19人	11人
	実　人　数	志願者数	777人	500人	621人	510人	565人	595人
		受験者数	760人	495人	606人	496人	548人	581人
		合格者数	140人	152人	154人	176人	190人	162人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	11人	12人	6人	19人	11人
	入学者数		81人	78人	81人	81人	97人	84人
一般選抜	募集人数		69人	69人	69人	69人	69人	69人
	延べ人数	志願者数	3697人	2704人	3027人	3675人	4337人	3488人
		受験者数	3493人	2401人	2738人	3231人	4005人	3174人
		合格者数	324人	364人	558人	596人	573人	483人
		うち追加合格者数	9人	0人	15人	0人	48人	14人
		辞退者数	1人	3人	10人	3人	2人	4人
	実　人　数	志願者数	1068人	862人	895人	927人	1150人	980人
		受験者数	1035人	815人	859人	893人	1121人	945人
		合格者数	178人	244人	279人	309人	285人	259人
		うち追加合格者数	9人	0人	15人	0人	41人	13人
		辞退者数	1人	3人	10人	3人	2人	4人
	入学者数		45人	80人	72人	75人	62人	67人
共通テスト利用入試	募集人数		19人	19人	19人	19人	19人	19人
	延べ人数	志願者数	605人	369人	376人	446人	719人	503人
		受験者数	604人	367人	375人	446人	710人	500人
		合格者数	205人	197人	198人	305人	283人	238人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	1人	3人	4人	3人
	実　人　数	志願者数	572人	346人	355人	420人	635人	466人
		受験者数	571人	344人	354人	420人	628人	463人
		合格者数	199人	191人	195人	297人	262人	229人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	1人	3人	4人	3人
	入学者数		17人	14人	14人	26人	4人	15人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	6人	25人	20人	32人	17人	20人
		受験者数	4人	21人	18人	30人	16人	18人
		合格者数	3人	7人	8人	8人	7人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	6人	25人	20人	32人	17人	20人
		受験者数	4人	21人	18人	30人	16人	18人
		合格者数	3人	7人	8人	8人	7人	7人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	3人	1人	3人	2人	2人
合計	募集人数		170人	170人	170人	170人	170人	170人
	延べ人数	志願者数	6225人	4248人	4805人	5299人	6344人	5384人
		受験者数	5969人	3919人	4469人	4804人	5944人	5021人
		合格者数	741人	799人	993人	1153人	1146人	966人
		うち追加合格者数	9人	0人	15人	0人	48人	14人
		辞退者数	12人	15人	23人	12人	25人	17人
	実　人　数	志願者数	2423人	1733人	1891人	1889人	2367人	2061人
		受験者数	2370人	1675人	1837人	1839人	2313人	2007人
		合格者数	520人	594人	636人	790人	744人	657人
		うち追加合格者数	9人	0人	15人	0人	41人	13人
		辞退者数	12人	15人	23人	12人	25人	17人
	入学者数		144人	175人	168人	185人	165人	167人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	170人	170人	170人	170人	170人	170人
入学定員充足率	0.85	1.03	0.99	1.09	0.97	0.98
歩留率	0.27	0.29	0.26	0.23	0.21	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－５

大学学部学科等名：近畿大学経営学部経営学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		294人	294人	294人	294人	294人	294人
	延べ人数	志願者数	4042人	2731人	3127人	3195人	3292人	3277人
		受験者数	4029人	2715人	3104人	3181人	3274人	3261人
		合格者数	574人	592人	619人	636人	705人	625人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	24人	31人	14人	24人	22人
	実人数	志願者数	1711人	1279人	1462人	1468人	1508人	1486人
		受験者数	1706人	1273人	1452人	1464人	1500人	1479人
		合格者数	471人	447人	474人	468人	499人	472人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	24人	31人	14人	24人	22人
	入学者数		366人	345人	328人	313人	344人	339人
一般選抜	募集人数		256人	256人	256人	256人	256人	256人
	延べ人数	志願者数	7430人	8318人	7889人	8411人	8582人	8126人
		受験者数	6872人	7685人	7225人	7607人	7987人	7475人
		合格者数	818人	1157人	1257人	1404人	736人	1074人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	14人	17人	13人	5人	11人
	実人数	志願者数	2222人	2422人	2116人	2160人	2198人	2224人
		受験者数	2149人	2358人	2041人	2080人	2128人	2151人
		合格者数	451人	654人	669人	720人	395人	578人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	14人	17人	13人	5人	11人
	入学者数		146人	198人	201人	266人	110人	184人
共通テスト利用入試	募集人数		25人	25人	25人	25人	25人	25人
	延べ人数	志願者数	1327人	1086人	971人	1236人	974人	1119人
		受験者数	1325人	1083人	968人	1234人	972人	1116人
		合格者数	489人	546人	582人	590人	410人	523人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	12人	19人	16人	2人	12人
	実人数	志願者数	1269人	1031人	931人	1158人	922人	1062人
		受験者数	1267人	1028人	928人	1156人	920人	1060人
		合格者数	484人	530人	568人	575人	404人	512人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	13人	12人	19人	16人	2人	12人
	入学者数		31人	24人	47人	44人	24人	34人
その他の特別選抜	募集人数		10人	10人	10人	10人	10人	10人
	延べ人数	志願者数	157人	155人	110人	137人	117人	135人
		受験者数	140人	150人	93人	128人	107人	124人
		合格者数	52人	45人	44人	61人	42人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	0人	2人	3人	2人
	実人数	志願者数	157人	155人	110人	137人	117人	135人
		受験者数	140人	150人	93人	128人	107人	124人
		合格者数	52人	45人	44人	61人	42人	49人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	0人	2人	3人	2人
	入学者数		36人	31人	27人	49人	22人	33人
合計	募集人数		585人	585人	585人	585人	585人	585人
	延べ人数	志願者数	12956人	12290人	12097人	12979人	12965人	12657人
		受験者数	12366人	11633人	11390人	12150人	12340人	11976人
		合格者数	1933人	2340人	2502人	2691人	1893人	2272人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	53人	67人	45人	34人	47人
	実人数	志願者数	5359人	4887人	4619人	4923人	4745人	4907人
		受験者数	5262人	4809人	4514人	4828人	4655人	4814人
		合格者数	1458人	1676人	1755人	1824人	1340人	1611人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	34人	53人	67人	45人	34人	47人
	入学者数		579人	598人	603人	672人	500人	590人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	585人	585人	585人	585人	585人	585人
入学定員充足率	0.99	1.02	1.03	1.15	0.85	1.01
歩留率	0.40	0.36	0.34	0.37	0.37	0.37

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－６

大学学部学科等名：近畿大学経営学部商学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		139人	139人	139人	139人	139人	139人
	延べ人数	志願者数	3043人	1544人	1962人	2468人	2548人	2313人
		受験者数	3036人	1534人	1947人	2461人	2530人	2302人
		合格者数	328人	311人	466人	466人	473人	409人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	10人	29人	20人	22人	19人
	実人数	志願者数	1194人	692人	876人	1079人	1106人	989人
		受験者数	1192人	689人	870人	1076人	1099人	985人
		合格者数	250人	229人	291人	295人	295人	272人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	10人	29人	20人	22人	19人
	入学者数		171人	165人	170人	159人	150人	163人
一般選抜	募集人数		242人	242人	242人	242人	242人	242人
	延べ人数	志願者数	5664人	5990人	5324人	7146人	7897人	6404人
		受験者数	5226人	5502人	4793人	6371人	7209人	5820人
		合格者数	805人	946人	1167人	1587人	1101人	1121人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	7人	13人	11人	9人	9人
	実人数	志願者数	1688人	1846人	1575人	1829人	2023人	1792人
		受験者数	1636人	1791人	1518人	1777人	1960人	1736人
		合格者数	487人	549人	592人	782人	561人	594人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	7人	13人	11人	9人	9人
	入学者数		208人	186人	206人	297人	172人	214人
共通テスト利用入試	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	994人	716人	713人	1057人	777人	851人
		受験者数	992人	715人	708人	1056人	776人	849人
		合格者数	355人	382人	511人	512人	374人	427人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	5人	16人	7人	7人	9人
	実人数	志願者数	933人	680人	681人	994人	736人	805人
		受験者数	931人	679人	677人	993人	735人	803人
		合格者数	346人	369人	495人	498人	369人	415人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	5人	16人	7人	7人	9人
	入学者数		26人	35人	43人	24人	17人	29人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	78人	97人	43人	35人	48人	60人
		受験者数	70人	93人	32人	29人	38人	52人
		合格者数	21人	26人	14人	18人	14人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	78人	97人	43人	35人	48人	60人
		受験者数	70人	93人	32人	29人	38人	52人
		合格者数	21人	26人	14人	18人	14人	19人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		10人	18人	6人	10人	8人	10人
合計	募集人数		405人	405人	405人	405人	405人	405人
	延べ人数	志願者数	9779人	8347人	8042人	10706人	11270人	9629人
		受験者数	9324人	7844人	7480人	9917人	10553人	9024人
		合格者数	1509人	1665人	2158人	2583人	1962人	1975人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	27人	22人	58人	38人	38人	37人
	実人数	志願者数	3893人	3315人	3175人	3937人	3913人	3647人
		受験者数	3829人	3252人	3097人	3875人	3832人	3577人
		合格者数	1104人	1173人	1392人	1593人	1239人	1300人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	27人	22人	58人	38人	38人	37人
	入学者数		415人	404人	425人	490人	347人	416人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	405人	405人	405人	405人	405人	405人
入学定員充足率	1.02	1.00	1.05	1.21	0.86	1.03
歩留率	0.38	0.34	0.31	0.31	0.28	0.32

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－７

大学学部学科等名：近畿大学経営学部会計学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	55人	55人	55人
	延べ人数	志願者数	1079人	766人	664人	1302人	884人	939人
		受験者数	1079人	764人	657人	1298人	879人	935人
		合格者数	157人	150人	202人	209人	178人	179人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	10人	4人	6人	6人
	実人数	志願者数	424人	346人	305人	545人	380人	400人
		受験者数	424人	346人	304人	544人	379人	399人
		合格者数	107人	108人	139人	150人	122人	125人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	10人	4人	6人	6人
	入学者数		65人	75人	89人	94人	79人	80人
一般選抜	募集人数		104人	104人	104人	104人	104人	104人
	延べ人数	志願者数	3176人	3121人	2826人	3147人	3681人	3190人
		受験者数	3001人	2809人	2569人	2853人	3382人	2923人
		合格者数	364人	485人	480人	685人	407人	484人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	3人	4人	1人	3人
	実人数	志願者数	996人	889人	768人	808人	977人	888人
		受験者数	964人	854人	744人	782人	947人	858人
		合格者数	222人	270人	234人	333人	210人	254人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	3人	5人	3人	4人	1人	3人
	入学者数		72人	63人	80人	87人	60人	72人
共通テスト利用入試	募集人数		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	374人	288人	334人	384人	293人	335人
		受験者数	373人	288人	333人	384人	291人	334人
		合格者数	138人	151人	181人	160人	98人	146人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	1人	2人	2人	2人
	実人数	志願者数	353人	273人	318人	364人	275人	317人
		受験者数	352人	273人	317人	364人	273人	316人
		合格者数	134人	144人	177人	157人	98人	142人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	1人	2人	2人	2人
	入学者数		14人	11人	19人	6人	5人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	51人	36人	43人	43人	54人	45人
		受験者数	51人	36人	41人	41人	50人	44人
		合格者数	14人	16人	23人	12人	13人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	2人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	51人	36人	43人	43人	54人	45人
		受験者数	51人	36人	41人	41人	50人	44人
		合格者数	14人	16人	23人	12人	13人	16人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	2人	0人	0人	1人
	入学者数		11人	11人	14人	8人	11人	11人
合計	募集人数		175人	175人	175人	175人	175人	175人
	延べ人数	志願者数	4680人	4211人	3867人	4876人	4912人	4509人
		受験者数	4504人	3897人	3600人	4576人	4602人	4236人
		合格者数	673人	802人	886人	1066人	696人	825人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	13人	16人	10人	9人	12人
	実人数	志願者数	1824人	1544人	1434人	1760人	1686人	1650人
		受験者数	1791人	1509人	1406人	1731人	1649人	1617人
		合格者数	477人	538人	573人	652人	443人	537人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	13人	16人	10人	9人	12人
	入学者数		162人	160人	202人	195人	155人	175人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	175人	175人	175人	175人	175人	175人
入学定員充足率	0.93	0.91	1.15	1.11	0.89	1.00
歩留率	0.34	0.30	0.35	0.30	0.35	0.33

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－８

大学学部学科等名：近畿大学経営学部キャリアマネジメント学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	55人	55人	55人
	延べ人数	志願者数	1909人	936人	921人	2219人	1681人	1533人
		受験者数	1909人	930人	909人	2209人	1675人	1526人
		合格者数	199人	167人	316人	337人	278人	259人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	12人	10人	4人	7人
	実人数	志願者数	710人	391人	411人	892人	689人	619人
		受験者数	710人	390人	406人	889人	687人	616人
		合格者数	140人	116人	183人	199人	165人	161人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	2人	12人	10人	4人	7人
	入学者数		74人	67人	100人	75人	63人	76人
一般選抜	募集人数		104人	104人	104人	104人	104人	104人
	延べ人数	志願者数	5248人	4265人	4020人	4373人	5346人	4650人
		受験者数	4891人	3885人	3657人	3940人	4951人	4265人
		合格者数	493人	568人	551人	869人	634人	623人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	4人	2人	2人	2人
	実人数	志願者数	1439人	1159人	980人	1013人	1286人	1175人
		受験者数	1406人	1124人	947人	990人	1257人	1145人
		合格者数	269人	329人	277人	412人	311人	320人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	4人	2人	2人	2人
	入学者数		62人	92人	79人	111人	81人	85人
共通テスト利用入試	募集人数		16人	16人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	673人	511人	404人	486人	334人	482人
		受験者数	671人	511人	402人	486人	332人	480人
		合格者数	240人	269人	201人	194人	107人	202人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	2人	0人	0人	1人
	実人数	志願者数	638人	486人	382人	465人	312人	457人
		受験者数	636人	486人	380人	465人	310人	455人
		合格者数	230人	262人	192人	191人	103人	196人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	2人	2人	0人	0人	1人
	入学者数		24人	10人	3人	10人	5人	10人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	21人	13人	10人	7人	14人	13人
		受験者数	20人	13人	7人	7人	12人	12人
		合格者数	5人	4人	3人	3人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	21人	13人	10人	7人	14人	13人
		受験者数	20人	13人	7人	7人	12人	12人
		合格者数	5人	4人	3人	3人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		5人	3人	2人	1人	2人	3人
合計	募集人数		175人	175人	175人	175人	175人	175人
	延べ人数	志願者数	7851人	5725人	5355人	7085人	7375人	6678人
		受験者数	7491人	5339人	4975人	6642人	6970人	6283人
		合格者数	937人	1008人	1071人	1403人	1023人	1088人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	6人	19人	12人	6人	10人
	実人数	志願者数	2808人	2049人	1783人	2377人	2301人	2264人
		受験者数	2772人	2013人	1740人	2351人	2266人	2228人
		合格者数	644人	711人	655人	805人	583人	680人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	6人	19人	12人	6人	10人
	入学者数		165人	172人	184人	197人	151人	174人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	175人	175人	175人	175人	175人	175人
入学定員充足率	0.94	0.98	1.05	1.13	0.86	0.99
歩留率	0.26	0.24	0.28	0.24	0.26	0.26

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－９

大学学部学科等名：近畿大学理工学部理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		68人	68人	68人	68人	68人	68人
	延べ人数	志願者数	1295人	1215人	1527人	1395人	1592人	1405人
		受験者数	1288人	1207人	1485人	1378人	1558人	1383人
		合格者数	219人	381人	455人	567人	624人	449人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	44人	44人	49人	47人	40人
	実人数	志願者数	476人	471人	567人	495人	566人	515人
		受験者数	472人	470人	552人	490人	557人	508人
		合格者数	123人	200人	227人	259人	274人	217人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	44人	44人	49人	47人	40人
	入学者数		52人	74人	78人	91人	91人	77人
一般選抜	募集人数		128人	128人	135人	135人	135人	132人
	延べ人数	志願者数	3726人	4196人	3699人	3964人	4241人	3965人
		受験者数	3463人	3774人	3275人	3445人	3770人	3545人
		合格者数	931人	907人	1278人	1283人	1191人	1118人
		うち追加合格者数	0人	129人	26人	0人	21人	35人
		辞退者数	14人	19人	30人	23人	25人	22人
	実人数	志願者数	1126人	1168人	993人	1103人	1096人	1097人
		受験者数	1097人	1115人	956人	1058人	1059人	1057人
		合格者数	498人	488人	574人	596人	548人	541人
		うち追加合格者数	0人	124人	25人	0人	18人	33人
		辞退者数	14人	19人	30人	23人	25人	22人
	入学者数		157人	128人	147人	139人	126人	139人
共通テスト利用入試	募集人数		29人	29人	22人	22人	22人	25人
	延べ人数	志願者数	790人	1002人	783人	647人	726人	790人
		受験者数	781人	980人	764人	626人	716人	773人
		合格者数	313人	354人	286人	334人	394人	336人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	7人	8人	10人	6人	8人
	実人数	志願者数	654人	716人	528人	463人	507人	574人
		受験者数	649人	708人	524人	457人	504人	568人
		合格者数	275人	282人	212人	254人	302人	265人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	7人	8人	10人	6人	8人
	入学者数		19人	21人	6人	9人	17人	14人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	5人	15人	10人	8人	8人	9人
		受験者数	5人	10人	7人	5人	7人	7人
		合格者数	2人	2人	3人	4人	6人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	5人	15人	10人	8人	8人	9人
		受験者数	5人	10人	7人	5人	7人	7人
		合格者数	2人	2人	3人	4人	6人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		2人	2人	0人	4人	3人	2人
合計	募集人数		225人	225人	225人	225人	225人	225人
	延べ人数	志願者数	5816人	6428人	6019人	6014人	6567人	6169人
		受験者数	5537人	5971人	5531人	5454人	6051人	5709人
		合格者数	1465人	1644人	2022人	2188人	2215人	1907人
		うち追加合格者数	0人	129人	26人	0人	21人	35人
		辞退者数	37人	70人	82人	82人	79人	70人
	実人数	志願者数	2261人	2370人	2098人	2069人	2177人	2195人
		受験者数	2223人	2303人	2039人	2010人	2127人	2140人
		合格者数	898人	972人	1016人	1113人	1130人	1026人
		うち追加合格者数	0人	124人	25人	0人	18人	33人
		辞退者数	37人	70人	82人	82人	79人	70人
	入学者数		230人	225人	231人	243人	237人	233人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	225人	225人	225人	225人	225人	225人
入学定員充足率	1.02	1.00	1.03	1.08	1.05	1.04
歩留率	0.26	0.21	0.22	0.22	0.21	0.22

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１０

大学学部学科等名：近畿大学理工学部生命科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		29人	29人	29人	29人	29人	29人
	延べ人数	志願者数	612人	834人	617人	716人	826人	721人
		受験者数	606人	816人	597人	687人	811人	703人
		合格者数	97人	101人	150人	145人	151人	129人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	11人	12人	10人	13人	11人
	実　人　数	志願者数	251人	328人	255人	281人	337人	290人
		受験者数	249人	322人	248人	272人	330人	284人
		合格者数	66人	66人	83人	86人	96人	79人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	11人	12人	10人	13人	11人
	入学者数		45人	35人	40人	43人	53人	43人
一般選抜	募集人数		53人	53人	56人	56人	56人	55人
	延べ人数	志願者数	2297人	1909人	1815人	1798人	2175人	1999人
		受験者数	2192人	1737人	1651人	1590人	2059人	1846人
		合格者数	229人	333人	371人	431人	318人	336人
		うち追加合格者数	0人	12人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	5人	9人	12人	7人	8人	8人
	実　人　数	志願者数	681人	529人	508人	492人	578人	558人
		受験者数	669人	517人	490人	473人	567人	543人
		合格者数	127人	180人	197人	209人	172人	177人
		うち追加合格者数	0人	11人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	5人	9人	12人	7人	8人	8人
	入学者数		44人	49人	52人	66人	35人	49人
共通テスト利用入試	募集人数		13人	13人	10人	10人	10人	11人
	延べ人数	志願者数	604人	458人	402人	313人	422人	440人
		受験者数	602人	450人	390人	302人	411人	431人
		合格者数	143人	185人	167人	142人	147人	157人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	7人	2人	4人	1人	4人
	実　人　数	志願者数	568人	358人	331人	261人	343人	372人
		受験者数	566人	354人	326人	254人	338人	368人
		合格者数	136人	155人	143人	127人	123人	137人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	7人	2人	4人	1人	4人
	入学者数		7人	7人	3人	7人	5人	6人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	22人	4人	9人	8人	10人
		受験者数	8人	17人	3人	7人	6人	8人
		合格者数	2人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	9人	22人	4人	9人	8人	10人
		受験者数	8人	17人	3人	7人	6人	8人
		合格者数	2人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	0人	0人	0人	1人
合計	募集人数		95人	95人	95人	95人	95人	95人
	延べ人数	志願者数	3522人	3223人	2838人	2836人	3431人	3170人
		受験者数	3408人	3020人	2641人	2586人	3287人	2988人
		合格者数	471人	621人	688人	718人	617人	623人
		うち追加合格者数	0人	12人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	18人	27人	26人	21人	22人	23人
	実　人　数	志願者数	1509人	1237人	1098人	1043人	1266人	1231人
		受験者数	1492人	1210人	1067人	1006人	1241人	1203人
		合格者数	331人	403人	423人	422人	392人	394人
		うち追加合格者数	0人	11人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	18人	27人	26人	21人	22人	23人
	入学者数		98人	92人	95人	116人	93人	99人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	95人	95人	95人	95人	95人	95人
入学定員充足率	1.03	0.97	1.00	1.22	0.98	1.04
歩　留　率	0.30	0.22	0.22	0.27	0.24	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１１

大学学部学科等名：近畿大学理工学部応用化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	622人	658人	600人	697人	1018人	719人
		受験者数	611人	640人	585人	666人	975人	695人
		合格者数	139人	229人	290人	338人	394人	278人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	33人	22人	20人	17人	21人
	実　人　数	志願者数	240人	261人	252人	276人	388人	283人
		受験者数	238人	258人	249人	267人	374人	277人
		合格者数	74人	116人	148人	155人	173人	133人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	33人	22人	20人	17人	21人
	入学者数		29人	38人	49人	46人	59人	44人
一般選抜	募集人数		72人	72人	75人	75人	75人	74人
	延べ人数	志願者数	2342人	2576人	1906人	2260人	2350人	2287人
		受験者数	2175人	2318人	1652人	2004人	2023人	2034人
		合格者数	490人	658人	824人	848人	743人	713人
		うち追加合格者数	0人	93人	0人	0人	0人	19人
		辞退者数	5人	15人	19人	19人	24人	16人
	実　人　数	志願者数	789人	801人	572人	727人	668人	711人
		受験者数	759人	772人	551人	701人	646人	686人
		合格者数	287人	382人	397人	411人	365人	368人
		うち追加合格者数	0人	89人	0人	0人	0人	18人
		辞退者数	5人	15人	19人	19人	24人	16人
	入学者数		85人	81人	91人	89人	71人	83人
共通テスト利用入試	募集人数		18人	18人	15人	15人	15人	16人
	延べ人数	志願者数	735人	617人	546人	451人	427人	555人
		受験者数	734人	607人	540人	442人	417人	548人
		合格者数	241人	211人	264人	166人	190人	214人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	6人	2人	2人	3人	4人
	実　人　数	志願者数	695人	496人	440人	378人	346人	471人
		受験者数	694人	489人	438人	373人	344人	468人
		合格者数	235人	185人	226人	146人	166人	192人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	6人	2人	2人	3人	4人
	入学者数		6人	9人	9人	4人	3人	6人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	8人	11人	6人	7人	6人	8人
		受験者数	4人	9人	3人	5人	5人	5人
		合格者数	2人	3人	2人	4人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	8人	11人	6人	7人	6人	8人
		受験者数	4人	9人	3人	5人	5人	5人
		合格者数	2人	3人	2人	4人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		1人	2人	0人	1人	0人	1人
合計	募集人数		130人	130人	130人	130人	130人	130人
	延べ人数	志願者数	3707人	3862人	3058人	3415人	3801人	3569人
		受験者数	3524人	3574人	2780人	3117人	3420人	3283人
		合格者数	872人	1101人	1380人	1356人	1328人	1207人
		うち追加合格者数	0人	93人	0人	0人	0人	19人
		辞退者数	27人	54人	43人	42人	44人	42人
	実　人　数	志願者数	1732人	1569人	1270人	1388人	1408人	1473人
		受験者数	1695人	1528人	1241人	1346人	1369人	1436人
		合格者数	598人	686人	773人	716人	705人	696人
		うち追加合格者数	0人	89人	0人	0人	0人	18人
		辞退者数	27人	54人	43人	42人	44人	42人
	入学者数		121人	130人	149人	140人	133人	135人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	130人	130人	130人	130人	130人	130人
入学定員充足率	0.93	1.00	1.15	1.08	1.02	1.04
歩　留　率	0.20	0.17	0.19	0.20	0.19	0.19

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１２

大学学部学科等名：近畿大学理工学部機械工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		61人	61人	61人	61人	61人	61人
	延べ人数	志願者数	1295人	1378人	1070人	1372人	1296人	1282人
		受験者数	1289人	1365人	1060人	1336人	1267人	1263人
		合格者数	234人	210人	323人	296人	390人	291人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	19人	30人	23人	23人	22人
	実人数	志願者数	484人	561人	452人	516人	506人	504人
		受験者数	482人	557人	450人	504人	494人	497人
		合格者数	140人	134人	183人	163人	194人	163人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	19人	30人	23人	23人	22人
	入学者数		74人	58人	87人	73人	79人	74人
一般選抜	募集人数		111人	111人	113人	113人	113人	112人
	延べ人数	志願者数	3840人	4590人	3898人	4613人	4492人	4287人
		受験者数	3611人	4136人	3600人	4093人	4029人	3894人
		合格者数	584人	844人	1034人	1122人	1089人	935人
		うち追加合格者数	0人	150人	0人	0人	0人	30人
		辞退者数	10人	19人	16人	17人	25人	17人
	実人数	志願者数	1166人	1334人	1106人	1230人	1187人	1205人
		受験者数	1137人	1291人	1078人	1195人	1147人	1170人
		合格者数	338人	493人	522人	559人	524人	487人
		うち追加合格者数	0人	143人	0人	0人	0人	29人
		辞退者数	10人	19人	16人	17人	25人	17人
	入学者数		99人	122人	116人	133人	113人	117人
共通テスト利用入試	募集人数		28人	28人	26人	26人	26人	27人
	延べ人数	志願者数	911人	985人	816人	838人	813人	873人
		受験者数	907人	968人	800人	824人	799人	860人
		合格者数	311人	371人	361人	431人	351人	365人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	16人	13人	13人	8人	12人
	実人数	志願者数	844人	745人	643人	683人	633人	710人
		受験者数	843人	741人	637人	678人	629人	706人
		合格者数	304人	311人	301人	366人	285人	313人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	16人	13人	13人	8人	12人
	入学者数		21人	8人	10人	21人	7人	13人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	20人	30人	10人	12人	21人	19人
		受験者数	18人	18人	7人	10人	16人	14人
		合格者数	2人	3人	2人	0人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	30人	10人	12人	21人	19人
		受験者数	18人	18人	7人	10人	16人	14人
		合格者数	2人	3人	2人	0人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	1人	0人	1人	1人
合計	募集人数		200人	200人	200人	200人	200人	200人
	延べ人数	志願者数	6066人	6983人	5794人	6835人	6622人	6460人
		受験者数	5825人	6487人	5467人	6263人	6111人	6031人
		合格者数	1131人	1428人	1720人	1849人	1832人	1592人
		うち追加合格者数	0人	150人	0人	0人	0人	30人
		辞退者数	37人	55人	59人	53人	56人	52人
	実人数	志願者数	2514人	2670人	2211人	2441人	2347人	2437人
		受験者数	2480人	2607人	2172人	2387人	2286人	2386人
		合格者数	784人	941人	1008人	1088人	1005人	965人
		うち追加合格者数	0人	143人	0人	0人	0人	29人
		辞退者数	37人	55人	59人	53人	56人	52人
	入学者数		196人	189人	214人	227人	200人	205人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	200人	200人	200人	200人	200人	200人
入学定員充足率	0.98	0.95	1.07	1.14	1.00	1.03
歩留率	0.25	0.17	0.21	0.21	0.20	0.21

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１３

大学学部学科等名：近畿大学理工学部電気電子通信工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		57人	57人	57人	51人	51人	55人
	延べ人数	志願者数	740人	1141人	896人	1195人	1168人	1028人
		受験者数	732人	1136人	889人	1158人	1131人	1009人
		合格者数	121人	179人	320人	280人	222人	224人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	14人	28人	18人	16人	17人
	実　人　数	志願者数	294人	443人	376人	472人	487人	414人
		受験者数	292人	440人	374人	462人	472人	408人
		合格者数	80人	116人	179人	157人	133人	133人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	14人	28人	18人	16人	17人
	入学者数		53人	57人	76人	82人	72人	68人
一般選抜	募集人数		106人	106人	108人	97人	97人	103人
	延べ人数	志願者数	3306人	4380人	3454人	4079人	3782人	3800人
		受験者数	3076人	3971人	3200人	3751人	3458人	3491人
		合格者数	572人	779人	879人	788人	766人	757人
		うち追加合格者数	0人	98人	0人	0人	23人	24人
		辞退者数	13人	22人	32人	11人	15人	19人
	実　人　数	志願者数	1007人	1279人	941人	1130人	1012人	1074人
		受験者数	979人	1241人	919人	1085人	969人	1039人
		合格者数	345人	450人	432人	398人	383人	402人
		うち追加合格者数	0人	90人	0人	0人	22人	22人
		辞退者数	13人	22人	32人	11人	15人	19人
	入学者数		129人	96人	117人	118人	92人	110人
共通テスト利用入試	募集人数		27人	27人	25人	22人	22人	25人
	延べ人数	志願者数	930人	1019人	761人	861人	574人	829人
		受験者数	924人	1001人	744人	847人	561人	815人
		合格者数	367人	469人	351人	263人	219人	334人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	13人	10人	5人	4人	9人
	実　人　数	志願者数	868人	845人	619人	690人	469人	698人
		受験者数	867人	843人	611人	680人	463人	693人
		合格者数	351人	420人	302人	223人	191人	297人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	13人	10人	5人	4人	9人
	入学者数		17人	34人	13人	9人	6人	16人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	13人	19人	11人	7人	9人	12人
		受験者数	10人	15人	5人	5人	7人	8人
		合格者数	5人	8人	1人	5人	6人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	13人	19人	11人	7人	9人	12人
		受験者数	10人	15人	5人	5人	7人	8人
		合格者数	5人	8人	1人	5人	6人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	5人	1人	4人	3人	3人
合計	募集人数		190人	190人	190人	170人	170人	182人
	延べ人数	志願者数	4989人	6559人	5122人	6142人	5533人	5669人
		受験者数	4742人	6123人	4838人	5761人	5157人	5324人
		合格者数	1065人	1435人	1551人	1336人	1213人	1320人
		うち追加合格者数	0人	98人	0人	0人	23人	24人
		辞退者数	32人	49人	70人	34人	35人	44人
	実　人　数	志願者数	2182人	2586人	1947人	2299人	1977人	2198人
		受験者数	2148人	2539人	1909人	2232人	1911人	2148人
		合格者数	781人	994人	914人	783人	713人	837人
		うち追加合格者数	0人	90人	0人	0人	22人	22人
		辞退者数	32人	49人	70人	34人	35人	44人
	入学者数		200人	192人	207人	213人	173人	197人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	190人	190人	190人	170人	170人	182人
入学定員充足率	1.05	1.01	1.09	1.25	1.02	1.08
歩留率	0.26	0.18	0.23	0.27	0.24	0.23

（備考）
・令和4年度より電気電子工学科から電気電子通信工学科へ名称変更。

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１４

大学学部学科等名：近畿大学理工学部社会環境工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		30人	30人	30人	30人	30人	30人
	延べ人数	志願者数	581人	593人	656人	449人	708人	597人
		受験者数	573人	585人	638人	433人	688人	583人
		合格者数	114人	156人	168人	223人	214人	175人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	8人	7人	11人	10人	8人
	実人数	志願者数	217人	227人	251人	172人	266人	227人
		受験者数	216人	225人	245人	169人	260人	223人
		合格者数	63人	83人	93人	99人	104人	88人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	8人	7人	11人	10人	8人
	入学者数		33人	43人	41人	39人	49人	41人
一般選抜	募集人数		56人	56人	59人	59人	59人	58人
	延べ人数	志願者数	1921人	1854人	1913人	1826人	1804人	1864人
		受験者数	1790人	1692人	1689人	1615人	1562人	1670人
		合格者数	297人	387人	532人	548人	448人	442人
		うち追加合格者数	0人	34人	0人	0人	16人	10人
		辞退者数	5人	6人	12人	5人	5人	7人
	実人数	志願者数	530人	513人	498人	509人	468人	504人
		受験者数	519人	499人	475人	487人	453人	487人
		合格者数	171人	217人	258人	249人	209人	221人
		うち追加合格者数	0人	32人	0人	0人	15人	9人
		辞退者数	5人	6人	12人	5人	5人	7人
	入学者数		63人	52人	68人	58人	47人	58人
共通テスト利用入試	募集人数		14人	14人	11人	11人	11人	12人
	延べ人数	志願者数	356人	376人	362人	286人	271人	330人
		受験者数	356人	372人	356人	282人	265人	326人
		合格者数	115人	152人	165人	147人	106人	137人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	8人	2人	3人	0人	3人
	実人数	志願者数	332人	298人	283人	231人	212人	271人
		受験者数	332人	295人	281人	229人	210人	269人
		合格者数	113人	121人	134人	124人	90人	116人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	8人	2人	3人	0人	3人
	入学者数		3人	1人	5人	7人	1人	3人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	7人	10人	0人	4人	6人	5人
		受験者数	6人	7人	0人	3人	4人	4人
		合格者数	3人	2人	0人	2人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	7人	10人	0人	4人	6人	5人
		受験者数	6人	7人	0人	3人	4人	4人
		合格者数	3人	2人	0人	2人	2人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	0人	2人	2人	1人
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	2865人	2833人	2931人	2565人	2789人	2797人
		受験者数	2725人	2656人	2683人	2333人	2519人	2583人
		合格者数	529人	697人	865人	920人	770人	756人
		うち追加合格者数	0人	34人	0人	0人	16人	10人
		辞退者数	12人	22人	21人	19人	15人	18人
	実人数	志願者数	1086人	1048人	1032人	916人	952人	1007人
		受験者数	1073人	1026人	1001人	888人	927人	983人
		合格者数	350人	423人	485人	474人	405人	427人
		うち追加合格者数	0人	32人	0人	0人	15人	9人
		辞退者数	12人	22人	21人	19人	15人	18人
	入学者数		101人	97人	114人	106人	99人	103人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	1.01	0.97	1.14	1.06	0.99	1.03
歩留率	0.29	0.21	0.24	0.22	0.24	0.24

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１５

大学学部学科等名：近畿大学理工学部エネルギー物質学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数					0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数				0人	0人	0人
		受験者数				0人	0人	0人
		合格者数				0人	0人	0人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	実人数	志願者数				0人	0人	0人
		受験者数				0人	0人	0人
		合格者数				0人	0人	0人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	入学者数					0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数					38人	38人	38人
	延べ人数	志願者数				349人	852人	601人
		受験者数				333人	834人	584人
		合格者数				181人	224人	203人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				6人	10人	8人
	実人数	志願者数				133人	320人	227人
		受験者数				129人	314人	222人
		合格者数				79人	113人	96人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				6人	10人	8人
	入学者数					26人	41人	34人
一般選抜	募集人数					68人	68人	68人
	延べ人数	志願者数				1282人	2002人	1642人
		受験者数				1118人	1768人	1443人
		合格者数				564人	550人	557人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				3人	7人	5人
	実人数	志願者数				379人	508人	444人
		受験者数				367人	492人	430人
		合格者数				244人	239人	242人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				3人	7人	5人
	入学者数					83人	73人	78人
共通テスト利用入試	募集人数					14人	14人	14人
	延べ人数	志願者数				181人	243人	212人
		受験者数				177人	237人	207人
		合格者数				117人	122人	120人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				1人	3人	2人
	実人数	志願者数				154人	199人	177人
		受験者数				152人	198人	175人
		合格者数				99人	99人	99人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				1人	3人	2人
	入学者数					3人	1人	2人
その他の特別選抜	募集人数					0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数				6人	2人	4人
		受験者数				4人	0人	2人
		合格者数				2人	0人	1人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	実人数	志願者数				6人	2人	4人
		受験者数				4人	0人	2人
		合格者数				2人	0人	1人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	入学者数					1人	0人	1人
合計	募集人数					120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数				1818人	3099人	2459人
		受験者数				1632人	2839人	2236人
		合格者数				864人	896人	880人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				10人	20人	15人
	実人数	志願者数				672人	1029人	851人
		受験者数				652人	1004人	828人
		合格者数				424人	451人	438人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				10人	20人	15人
	入学者数					113人	115人	114人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員				120人	120人	120人
入学定員充足率				0.94	0.96	0.95
歩留率				0.27	0.25	0.26

（備考）
・令和4年度開設

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１６

大学学部学科等名：近畿大学建築学部建築学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	2960人	2277人	2354人	2535人	2345人	2494人
		受験者数	2954人	2275人	2337人	2527人	2322人	2483人
		合格者数	327人	399人	476人	451人	418人	414人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	36人	42人	33人	23人	32人
	実人数	志願者数	991人	829人	872人	911人	879人	896人
		受験者数	990人	828人	867人	907人	870人	892人
		合格者数	201人	228人	247人	236人	227人	228人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	36人	42人	33人	23人	32人
	入学者数		134人	141人	149人	135人	148人	141人
一般選抜	募集人数		164人	164人	167人	167人	167人	166人
	延べ人数	志願者数	6694人	6161人	6377人	6661人	5753人	6329人
		受験者数	6337人	5777人	6000人	6220人	5331人	5933人
		合格者数	628人	608人	724人	894人	793人	729人
		うち追加合格者数	16人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	16人	18人	18人	23人	12人	17人
	実人数	志願者数	1561人	1451人	1374人	1448人	1230人	1413人
		受験者数	1531人	1416人	1346人	1413人	1204人	1382人
		合格者数	327人	348人	356人	432人	379人	368人
		うち追加合格者数	16人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	16人	18人	18人	23人	12人	17人
	入学者数		132人	136人	133人	150人	151人	140人
共通テスト利用入試	募集人数		16人	16人	13人	13人	13人	14人
	延べ人数	志願者数	808人	828人	727人	823人	709人	779人
		受験者数	798人	822人	727人	820人	707人	775人
		合格者数	170人	206人	200人	239人	204人	204人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	7人	5人	9人	4人	8人
	実人数	志願者数	739人	716人	634人	709人	627人	685人
		受験者数	735人	712人	634人	707人	626人	683人
		合格者数	166人	193人	188人	221人	195人	193人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	15人	7人	5人	9人	4人	8人
	入学者数		14人	16人	13人	21人	12人	15人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	14人	11人	11人	13人	4人	11人
		受験者数	14人	11人	9人	13人	4人	10人
		合格者数	3人	4人	4人	2人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	14人	11人	11人	13人	4人	11人
		受験者数	14人	11人	9人	13人	4人	10人
		合格者数	3人	4人	4人	2人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	4人	3人	2人	1人	3人
合計	募集人数		280人	280人	280人	280人	280人	280人
	延べ人数	志願者数	10476人	9277人	9469人	10032人	8811人	9613人
		受験者数	10103人	8885人	9073人	9580人	8364人	9201人
		合格者数	1128人	1217人	1404人	1586人	1418人	1351人
		うち追加合格者数	16人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	57人	61人	65人	65人	39人	57人
	実人数	志願者数	3305人	3007人	2891人	3081人	2740人	3005人
		受験者数	3270人	2967人	2856人	3040人	2704人	2967人
		合格者数	697人	773人	795人	891人	804人	792人
		うち追加合格者数	16人	0人	0人	0人	0人	3人
		辞退者数	57人	61人	65人	65人	39人	57人
	入学者数		283人	297人	298人	308人	312人	300人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	280人	280人	280人	280人	280人	280人
入学定員充足率	1.01	1.06	1.06	1.10	1.11	1.07
歩留率	0.40	0.38	0.37	0.35	0.39	0.38

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１７

大学学部学科等名：近畿大学薬学部医療薬学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		60人	60人	60人	65人	65人	62人
	延べ人数	志願者数	1223人	1028人	1009人	1095人	1125人	1096人
		受験者数	1219人	1026人	999人	1091人	1116人	1090人
		合格者数	172人	197人	210人	233人	197人	202人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	15人	21人	14人	13人	16人
	実　人　数	志願者数	439人	384人	381人	416人	436人	411人
		受験者数	438人	384人	377人	416人	432人	409人
		合格者数	99人	113人	122人	123人	112人	114人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	16人	15人	21人	14人	13人	16人
	入学者数		65人	78人	81人	91人	74人	78人
一般選抜	募集人数		78人	78人	78人	75人	75人	77人
	延べ人数	志願者数	2876人	2365人	2246人	2506人	2307人	2460人
		受験者数	2515人	2079人	1947人	2286人	2032人	2172人
		合格者数	351人	321人	351人	315人	364人	340人
		うち追加合格者数	0人	10人	0人	6人	11人	5人
		辞退者数	12人	7人	7人	10人	10人	9人
	実　人　数	志願者数	719人	616人	593人	645人	595人	634人
		受験者数	672人	581人	559人	616人	566人	599人
		合格者数	168人	179人	187人	180人	191人	181人
		うち追加合格者数	0人	10人	0人	6人	8人	5人
		辞退者数	12人	7人	7人	10人	10人	9人
	入学者数		80人	76人	82人	61人	68人	73人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	12人	12人	10人	10人	11人
	延べ人数	志願者数	473人	384人	400人	337人	433人	405人
		受験者数	463人	381人	390人	336人	427人	399人
		合格者数	108人	45人	65人	104人	183人	101人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	2人	2人	3人	2人
	実　人　数	志願者数	402人	324人	333人	294人	371人	345人
		受験者数	394人	322人	325人	293人	366人	340人
		合格者数	100人	39人	60人	98人	169人	93人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	1人	2人	2人	3人	2人
	入学者数		6人	0人	4人	5人	9人	5人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	12人	15人	6人	3人	4人	8人
		受験者数	11人	10人	4人	1人	3人	6人
		合格者数	2人	2人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	12人	15人	6人	3人	4人	8人
		受験者数	11人	10人	4人	1人	3人	6人
		合格者数	2人	2人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	1人	1人	0人	1人
合計	募集人数		150人	150人	150人	150人	150人	150人
	延べ人数	志願者数	4584人	3792人	3661人	3941人	3869人	3969人
		受験者数	4208人	3496人	3340人	3714人	3578人	3667人
		合格者数	633人	565人	627人	653人	744人	644人
		うち追加合格者数	0人	10人	0人	6人	11人	5人
		辞退者数	32人	23人	30人	26人	26人	27人
	実　人　数	志願者数	1572人	1339人	1313人	1358人	1406人	1398人
		受験者数	1515人	1297人	1265人	1326人	1367人	1354人
		合格者数	369人	333人	370人	402人	472人	389人
		うち追加合格者数	0人	10人	0人	6人	8人	5人
		辞退者数	32人	23人	30人	26人	26人	27人
	入学者数		153人	155人	168人	158人	151人	157人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	150人	150人	150人	150人	150人	150人
入学定員充足率	1.02	1.03	1.12	1.05	1.01	1.05
歩　留　率	0.41	0.45	0.45	0.39	0.31	0.40

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１８

大学学部学科等名：近畿大学薬学部創薬科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		10人	10人	10人	17人	17人	13人
	延べ人数	志願者数	169人	184人	238人	260人	291人	228人
		受験者数	169人	184人	238人	260人	291人	228人
		合格者数	34人	51人	64人	71人	76人	59人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	4人	3人	7人	5人
	実　人　数	志願者数	64人	69人	89人	104人	110人	87人
		受験者数	64人	69人	89人	104人	110人	87人
		合格者数	18人	24人	31人	36人	37人	29人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	4人	3人	7人	5人
	入学者数		8人	9人	12人	19人	16人	13人
一般選抜	募集人数		24人	24人	24人	18人	18人	22人
	延べ人数	志願者数	658人	676人	575人	751人	679人	668人
		受験者数	591人	607人	533人	671人	615人	603人
		合格者数	157人	140人	177人	130人	125人	146人
		うち追加合格者数	0人	16人	0人	0人	9人	5人
		辞退者数	3人	5人	2人	3人	5人	4人
	実　人　数	志願者数	226人	212人	194人	218人	204人	211人
		受験者数	219人	202人	186人	213人	198人	204人
		合格者数	90人	89人	88人	67人	69人	81人
		うち追加合格者数	0人	15人	0人	0人	7人	4人
		辞退者数	3人	5人	2人	3人	5人	4人
	入学者数		27人	30人	35人	22人	22人	27人
共通テスト利用入試	募集人数		6人	6人	6人	5人	5人	6人
	延べ人数	志願者数	158人	178人	179人	170人	159人	169人
		受験者数	156人	178人	178人	168人	159人	168人
		合格者数	52人	43人	47人	64人	82人	58人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	1人	3人	1人
	実　人　数	志願者数	144人	158人	158人	147人	145人	150人
		受験者数	143人	158人	157人	145人	145人	150人
		合格者数	48人	41人	44人	58人	76人	53人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	1人	3人	1人
	入学者数		2人	0人	1人	3人	2人	2人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	8人	3人	3人	3人	5人
		受験者数	8人	4人	3人	3人	3人	4人
		合格者数	4人	4人	2人	1人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	9人	8人	3人	3人	3人	5人
		受験者数	8人	4人	3人	3人	3人	4人
		合格者数	4人	4人	2人	1人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	2人	1人	1人	1人	1人
合計	募集人数		40人	40人	40人	40人	40人	40人
	延べ人数	志願者数	994人	1046人	995人	1184人	1132人	1070人
		受験者数	924人	973人	952人	1102人	1068人	1004人
		合格者数	247人	238人	290人	266人	284人	265人
		うち追加合格者数	0人	16人	0人	0人	9人	5人
		辞退者数	10人	12人	7人	7人	15人	10人
	実　人　数	志願者数	443人	447人	444人	472人	462人	454人
		受験者数	434人	433人	435人	465人	456人	445人
		合格者数	160人	158人	165人	162人	183人	166人
		うち追加合格者数	0人	15人	0人	0人	7人	4人
		辞退者数	10人	12人	7人	7人	15人	10人
	入学者数		38人	41人	49人	45人	41人	43人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	40人	40人	40人	40人	40人	40人
入学定員充足率	0.95	1.03	1.23	1.13	1.03	1.07
歩　留　率	0.24	0.24	0.30	0.28	0.22	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－１９

大学学部学科等名：近畿大学文芸学部文学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	5人	6人	7人	6人	6人	6人
		受験者数	5人	6人	7人	6人	6人	6人
		合格者数	2人	0人	2人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	6人	7人	6人	6人	6人
		受験者数	5人	6人	7人	6人	6人	6人
		合格者数	2人	0人	2人	2人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	0人	1人	2人	0人	1人
学校推薦型選抜	募集人数		72人	72人	72人	72人	72人	72人
	延べ人数	志願者数	1475人	1132人	1400人	1573人	1545人	1425人
		受験者数	1450人	1108人	1363人	1548人	1500人	1394人
		合格者数	160人	232人	318人	314人	334人	272人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	10人	20人	16人	17人	15人
	実人数	志願者数	534人	434人	507人	547人	561人	517人
		受験者数	525人	428人	499人	542人	550人	509人
		合格者数	107人	141人	175人	177人	182人	156人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	10人	20人	16人	17人	15人
	入学者数		66人	85人	96人	93人	84人	85人
一般選抜	募集人数		90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	4082人	3717人	4020人	3516人	3573人	3782人
		受験者数	3823人	3406人	3751人	3189人	3268人	3487人
		合格者数	449人	560人	597人	599人	568人	555人
		うち追加合格者数	16人	0人	6人	0人	0人	4人
		辞退者数	8人	10人	12人	3人	5人	8人
	実人数	志願者数	1070人	970人	952人	834人	844人	934人
		受験者数	1043人	944人	936人	804人	820人	909人
		合格者数	251人	312人	312人	273人	268人	283人
		うち追加合格者数	15人	0人	6人	0人	0人	4人
		辞退者数	8人	10人	12人	3人	5人	8人
	入学者数		81人	93人	94人	84人	90人	88人
共通テスト利用入試	募集人数		18人	18人	18人	18人	18人	18人
	延べ人数	志願者数	771人	646人	582人	474人	449人	584人
		受験者数	769人	646人	581人	474人	449人	584人
		合格者数	258人	267人	246人	250人	244人	253人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	5人	6人	6人	2人	6人
	実人数	志願者数	615人	499人	433人	360人	359人	453人
		受験者数	613人	499人	432人	360人	359人	453人
		合格者数	222人	233人	200人	215人	200人	214人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	5人	6人	6人	2人	6人
	入学者数		15人	7人	9人	10人	10人	10人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	18人	31人	3人	5人	4人	12人
		受験者数	10人	28人	1人	4人	4人	9人
		合格者数	4人	4人	1人	2人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	18人	31人	3人	5人	4人	12人
		受験者数	10人	28人	1人	4人	4人	9人
		合格者数	4人	4人	1人	2人	2人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	2人	1人	1人	2人	2人
合計	募集人数		180人	180人	180人	180人	180人	180人
	延べ人数	志願者数	6351人	5532人	6012人	5574人	5577人	5809人
		受験者数	6057人	5194人	5703人	5221人	5227人	5480人
		合格者数	873人	1063人	1164人	1167人	1148人	1083人
		うち追加合格者数	16人	0人	6人	0人	0人	4人
		辞退者数	28人	25人	38人	25人	24人	28人
	実人数	志願者数	2242人	1940人	1902人	1752人	1774人	1922人
		受験者数	2196人	1905人	1875人	1716人	1739人	1886人
		合格者数	586人	690人	690人	669人	652人	657人
		うち追加合格者数	15人	0人	6人	0人	0人	4人
		辞退者数	28人	25人	38人	25人	24人	28人
	入学者数		166人	187人	201人	190人	186人	186人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	180人	180人	180人	180人	180人	180人
入学定員充足率	0.92	1.04	1.12	1.06	1.03	1.03
歩留率	0.28	0.27	0.29	0.28	0.29	0.28

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２０

大学学部学科等名：近畿大学文芸学部芸術学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	37人	41人	21人	35人	32人	33人
		受験者数	37人	41人	20人	34人	32人	33人
		合格者数	7人	11人	9人	12人	9人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	37人	41人	21人	35人	32人	33人
		受験者数	37人	41人	20人	34人	32人	33人
		合格者数	7人	11人	9人	12人	9人	10人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		7人	9人	9人	8人	7人	8人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	54人	54人	55人
	延べ人数	志願者数	319人	364人	289人	352人	414人	348人
		受験者数	310人	352人	284人	341人	406人	339人
		合格者数	106人	101人	117人	123人	135人	116人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	5人	1人	4人	3人
	実　人　数	志願者数	153人	188人	144人	172人	209人	173人
		受験者数	148人	183人	140人	168人	204人	169人
		合格者数	72人	75人	79人	85人	90人	80人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	2人	5人	1人	4人	3人
	入学者数		58人	65人	56人	67人	64人	62人
一般選抜	募集人数		50人	50人	50人	51人	51人	50人
	延べ人数	志願者数	793人	999人	834人	643人	796人	813人
		受験者数	757人	923人	753人	575人	736人	749人
		合格者数	169人	153人	225人	196人	167人	182人
		うち追加合格者数	7人	0人	7人	0人	0人	3人
		辞退者数	3人	3人	7人	2人	3人	4人
	実　人　数	志願者数	266人	292人	246人	218人	266人	258人
		受験者数	262人	285人	238人	212人	250人	249人
		合格者数	97人	89人	120人	105人	87人	100人
		うち追加合格者数	6人	0人	6人	0人	0人	2人
		辞退者数	3人	3人	7人	2人	3人	4人
	入学者数		35人	37人	43人	50人	39人	41人
共通テスト利用入試	募集人数		10人	10人	10人	10人	10人	10人
	延べ人数	志願者数	182人	161人	135人	141人	129人	150人
		受験者数	182人	161人	135人	141人	128人	149人
		合格者数	60人	60人	63人	67人	57人	61人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	1人	0人	2人	2人	1人
	実　人　数	志願者数	148人	135人	115人	114人	112人	125人
		受験者数	148人	135人	115人	114人	112人	125人
		合格者数	53人	55人	59人	60人	53人	56人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	1人	0人	2人	2人	1人
	入学者数		6人	8人	4人	6人	3人	5人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	6人	5人	3人	3人	2人	4人
		受験者数	4人	5人	3人	3人	2人	3人
		合格者数	1人	3人	1人	0人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	6人	5人	3人	3人	2人	4人
		受験者数	4人	5人	3人	3人	2人	3人
		合格者数	1人	3人	1人	0人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	1人	1人	0人	2人	1人
合計	募集人数		115人	115人	115人	115人	115人	115人
	延べ人数	志願者数	1337人	1570人	1282人	1174人	1373人	1347人
		受験者数	1290人	1482人	1195人	1094人	1304人	1273人
		合格者数	343人	328人	415人	398人	370人	371人
		うち追加合格者数	7人	0人	7人	0人	0人	3人
		辞退者数	6人	6人	12人	6人	9人	8人
	実　人　数	志願者数	610人	661人	529人	542人	621人	593人
		受験者数	599人	649人	516人	531人	600人	579人
		合格者数	230人	233人	268人	262人	241人	247人
		うち追加合格者数	6人	0人	6人	0人	0人	2人
		辞退者数	6人	6人	12人	6人	9人	8人
	入学者数		107人	120人	113人	131人	115人	117人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	115人	115人	115人	115人	115人	115人
入学定員充足率	0.93	1.04	0.98	1.14	1.00	1.02
歩　留　率	0.45	0.52	0.41	0.50	0.48	0.47

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２１

大学学部学科等名：近畿大学文芸学部文化・歴史学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	7人	6人	6人	5人	6人
		受験者数	4人	7人	6人	6人	5人	6人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	7人	6人	6人	5人	6人
		受験者数	4人	7人	6人	6人	5人	6人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	55人	55人	55人
	延べ人数	志願者数	1025人	660人	878人	1024人	990人	915人
		受験者数	1016人	650人	858人	1004人	964人	898人
		合格者数	96人	144人	192人	228人	245人	181人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	10人	15人	10人	14人	11人
	実人数	志願者数	418人	277人	360人	421人	404人	376人
		受験者数	415人	275人	354人	417人	395人	371人
		合格者数	65人	84人	110人	129人	133人	104人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	10人	15人	10人	14人	11人
	入学者数		41人	43人	52人	63人	61人	52人
一般選抜	募集人数		71人	71人	71人	71人	71人	71人
	延べ人数	志願者数	3100人	2752人	2433人	2591人	2501人	2675人
		受験者数	2880人	2467人	2261人	2288人	2282人	2436人
		合格者数	378人	485人	478人	520人	465人	465人
		うち追加合格者数	17人	0人	32人	0人	6人	11人
		辞退者数	3人	7人	11人	2人	7人	6人
	実人数	志願者数	852人	773人	716人	656人	649人	729人
		受験者数	827人	751人	701人	630人	632人	708人
		合格者数	212人	275人	267人	240人	238人	246人
		うち追加合格者数	15人	0人	26人	0人	6人	9人
		辞退者数	3人	7人	11人	2人	7人	6人
	入学者数		73人	92人	87人	76人	59人	77人
共通テスト利用入試	募集人数		14人	14人	14人	14人	14人	14人
	延べ人数	志願者数	525人	455人	366人	332人	322人	400人
		受験者数	523人	454人	366人	332人	321人	399人
		合格者数	181人	190人	167人	176人	174人	178人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	5人	1人	4人	1人	4人
	実人数	志願者数	481人	418人	328人	298人	293人	364人
		受験者数	479人	417人	328人	298人	292人	363人
		合格者数	173人	182人	157人	172人	167人	170人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	5人	1人	4人	1人	4人
	入学者数		15人	11人	10人	6人	15人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	14人	25人	4人	3人	2人	10人
		受験者数	12人	21人	3人	3人	1人	8人
		合格者数	2人	4人	2人	3人	0人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	14人	25人	4人	3人	2人	10人
		受験者数	12人	21人	3人	3人	1人	8人
		合格者数	2人	4人	2人	3人	0人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		1人	1人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		140人	140人	140人	140人	140人	140人
	延べ人数	志願者数	4668人	3899人	3687人	3956人	3820人	4006人
		受験者数	4435人	3599人	3494人	3633人	3573人	3747人
		合格者数	657人	824人	839人	927人	884人	826人
		うち追加合格者数	17人	0人	32人	0人	6人	11人
		辞退者数	16人	23人	27人	17人	22人	21人
	実人数	志願者数	1769人	1500人	1414人	1384人	1353人	1484人
		受験者数	1737人	1471人	1392人	1354人	1325人	1456人
		合格者数	452人	546人	536人	544人	538人	523人
		うち追加合格者数	15人	0人	26人	0人	6人	9人
		辞退者数	16人	23人	27人	17人	22人	21人
	入学者数		130人	147人	149人	145人	135人	141人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	140人	140人	140人	140人	140人	140人
入学定員充足率	0.93	1.05	1.06	1.04	0.96	1.01
歩留率	0.28	0.27	0.27	0.27	0.25	0.27

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２２

大学学部学科等名：近畿大学文芸学部文化デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	20人	23人	13人	18人	15人	18人
		受験者数	20人	23人	12人	18人	15人	18人
		合格者数	2人	3人	1人	2人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	23人	13人	18人	15人	18人
		受験者数	20人	23人	12人	18人	15人	18人
		合格者数	2人	3人	1人	2人	1人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	3人	1人	1人	1人	2人
学校推薦型選抜	募集人数		28人	28人	28人	28人	28人	28人
	延べ人数	志願者数	524人	355人	575人	745人	537人	547人
		受験者数	522人	346人	557人	723人	520人	534人
		合格者数	65人	87人	134人	106人	120人	102人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	4人	5人	8人	3人	4人
	実人数	志願者数	206人	151人	230人	290人	211人	218人
		受験者数	206人	147人	224人	285人	205人	213人
		合格者数	44人	56人	74人	73人	67人	63人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	4人	5人	8人	3人	4人
	入学者数		32人	38人	51人	48人	44人	43人
一般選抜	募集人数		44人	44人	44人	44人	44人	44人
	延べ人数	志願者数	1488人	1284人	1597人	1436人	1361人	1433人
		受験者数	1359人	1168人	1483人	1349人	1264人	1325人
		合格者数	132人	172人	205人	180人	191人	176人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	1人	1人	2人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数	383人	334人	377人	330人	323人	349人
		受験者数	371人	327人	370人	322人	317人	341人
		合格者数	77人	98人	101人	91人	98人	93人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	1人	1人	2人	1人	3人	2人
	入学者数		35人	35人	31人	35人	38人	35人
共通テスト利用入試	募集人数		8人	8人	8人	8人	8人	8人
	延べ人数	志願者数	199人	164人	185人	142人	161人	170人
		受験者数	199人	164人	185人	142人	159人	170人
		合格者数	50人	53人	54人	57人	60人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	2人	2人	1人
	実人数	志願者数	182人	151人	167人	128人	142人	154人
		受験者数	182人	151人	167人	128人	141人	154人
		合格者数	49人	52人	53人	56人	60人	54人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	1人	2人	2人	1人
	入学者数		6人	7人	0人	5人	4人	4人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	2人	6人	1人	2人	1人	2人
		受験者数	2人	4人	1人	2人	1人	2人
		合格者数	1人	3人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	6人	1人	2人	1人	2人
		受験者数	2人	4人	1人	2人	1人	2人
		合格者数	1人	3人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	3人	1人	0人	0人	1人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	2233人	1832人	2371人	2343人	2075人	2171人
		受験者数	2102人	1705人	2238人	2234人	1959人	2048人
		合格者数	250人	318人	395人	346人	372人	336人
		うち追加合格者数	8人	0人	0人	0人	0人	2人
		辞退者数	4人	5人	8人	11人	8人	7人
	実人数	志願者数	793人	665人	788人	768人	692人	741人
		受験者数	781人	652人	774人	755人	679人	728人
		合格者数	173人	212人	230人	223人	226人	213人
		うち追加合格者数	7人	0人	0人	0人	0人	1人
		辞退者数	4人	5人	8人	11人	8人	7人
	入学者数		76人	86人	84人	89人	87人	84人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	0.95	1.08	1.05	1.11	1.09	1.06
歩留率	0.42	0.41	0.37	0.40	0.38	0.40

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２３

大学学部学科等名：近畿大学総合社会学部総合社会学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		176人	176人	176人	176人	176人	176人
	延べ人数	志願者数	7406人	3661人	4959人	5383人	5045人	5291人
		受験者数	7299人	3615人	4835人	5250人	4919人	5184人
		合格者数	563人	784人	991人	1050人	1179人	913人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	51人	58人	60人	57人	50人
	実人数	志願者数	2210人	1236人	1600人	1683人	1608人	1667人
		受験者数	2190人	1227人	1568人	1654人	1576人	1643人
		合格者数	343人	400人	487人	534人	543人	461人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	26人	51人	58人	60人	57人	50人
	入学者数		228人	238人	263人	295人	291人	263人
一般選抜	募集人数		279人	279人	281人	281人	281人	280人
	延べ人数	志願者数	12598人	8848人	10542人	11357人	10117人	10692人
		受験者数	11908人	8165人	9735人	10438人	9265人	9902人
		合格者数	720人	1176人	1475人	1312人	1453人	1227人
		うち追加合格者数	63人	0人	0人	10人	21人	19人
		辞退者数	9人	12人	23人	7人	11人	12人
	実人数	志願者数	2856人	2139人	2313人	2299人	2123人	2346人
		受験者数	2784人	2089人	2255人	2230人	2079人	2287人
		合格者数	378人	594人	707人	629人	651人	592人
		うち追加合格者数	59人	0人	0人	10人	20人	18人
		辞退者数	9人	12人	23人	7人	11人	12人
	入学者数		111人	198人	208人	188人	192人	179人
共通テスト利用入試	募集人数		55人	55人	53人	53人	53人	54人
	延べ人数	志願者数	2412人	1411人	1441人	1821人	1389人	1695人
		受験者数	2408人	1409人	1436人	1818人	1385人	1691人
		合格者数	666人	833人	840人	846人	693人	776人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	22人	17人	12人	12人	16人
	実人数	志願者数	1847人	1096人	1063人	1340人	1068人	1283人
		受験者数	1843人	1094人	1060人	1338人	1066人	1280人
		合格者数	540人	673人	677人	674人	585人	630人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	19人	22人	17人	12人	12人	16人
	入学者数		69人	83人	78人	35人	53人	64人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	130人	146人	68人	79人	27人	90人
		受験者数	114人	111人	57人	69人	22人	75人
		合格者数	13人	11人	10人	6人	3人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	130人	146人	68人	79人	27人	90人
		受験者数	114人	111人	57人	69人	22人	75人
		合格者数	13人	11人	10人	6人	3人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	0人	1人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		8人	5人	6人	3人	2人	5人
合計	募集人数		510人	510人	510人	510人	510人	510人
	延べ人数	志願者数	22546人	14066人	17010人	18640人	16578人	17768人
		受験者数	21729人	13300人	16063人	17575人	15591人	16852人
		合格者数	1962人	2804人	3316人	3214人	3328人	2925人
		うち追加合格者数	63人	0人	0人	10人	21人	19人
		辞退者数	54人	86人	98人	79人	80人	79人
	実人数	志願者数	7043人	4617人	5044人	5401人	4826人	5386人
		受験者数	6931人	4521人	4940人	5291人	4743人	5285人
		合格者数	1274人	1678人	1881人	1843人	1782人	1692人
		うち追加合格者数	59人	0人	6人	10人	20人	19人
		辞退者数	54人	86人	98人	79人	80人	79人
	入学者数		416人	524人	555人	521人	538人	511人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	510人	510人	510人	510人	510人	510人
入学定員充足率	0.82	1.03	1.09	1.02	1.05	1.00
歩留率	0.31	0.31	0.29	0.28	0.30	0.30

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２４

大学学部学科等名：近畿大学国際学部国際学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	130人	118人	105人	56人	55人	93人
		受験者数	128人	118人	103人	54人	54人	91人
		合格者数	52人	60人	56人	42人	41人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	130人	118人	105人	56人	55人	93人
		受験者数	128人	118人	103人	54人	54人	91人
		合格者数	52人	60人	56人	42人	41人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		35人	43人	44人	27人	22人	34人
学校推薦型選抜	募集人数		211人	211人	211人	211人	212人	211人
	延べ人数	志願者数	3173人	2189人	2472人	2366人	2314人	2503人
		受験者数	3109人	2160人	2408人	2334人	2242人	2451人
		合格者数	502人	651人	644人	804人	1079人	736人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	28人	42人	34人	48人	34人
	実人数	志願者数	1091人	780人	878人	811人	810人	874人
		受験者数	1074人	772人	863人	801人	792人	860人
		合格者数	315人	366人	378人	403人	501人	393人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	28人	42人	34人	48人	34人
	入学者数		227人	248人	238人	216人	305人	247人
一般選抜	募集人数		226人	226人	226人	226人	224人	226人
	延べ人数	志願者数	5590人	4871人	4150人	4032人	4266人	4582人
		受験者数	5221人	4557人	3800人	3584人	3934人	4219人
		合格者数	618人	687人	896人	1352人	1039人	918人
		うち追加合格者数	31人	0人	0人	0人	77人	22人
		辞退者数	14人	9人	14人	14人	10人	12人
	実人数	志願者数	1364人	1213人	1034人	1041人	1144人	1159人
		受験者数	1318人	1186人	998人	1006人	1111人	1124人
		合格者数	363人	390人	448人	615人	524人	468人
		うち追加合格者数	28人	0人	0人	0人	71人	20人
		辞退者数	14人	9人	14人	14人	10人	12人
	入学者数		137人	130人	178人	215人	188人	170人
共通テスト利用入試	募集人数		63人	63人	63人	63人	64人	63人
	延べ人数	志願者数	1364人	1437人	1111人	1269人	1084人	1253人
		受験者数	1358人	1433人	1111人	1263人	1082人	1249人
		合格者数	676人	922人	782人	788人	608人	755人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	22人	15人	18人	10人	15人
	実人数	志願者数	1119人	937人	713人	820人	730人	864人
		受験者数	1114人	934人	713人	817人	729人	861人
		合格者数	567人	668人	545人	578人	470人	566人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	12人	22人	15人	18人	10人	15人
	入学者数		84人	100人	71人	56人	26人	67人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	20人	38人	16人	20人	11人	21人
		受験者数	15人	28人	11人	17人	9人	16人
		合格者数	9人	16人	5人	10人	7人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	20人	38人	16人	20人	11人	21人
		受験者数	15人	28人	11人	17人	9人	16人
		合格者数	9人	16人	5人	10人	7人	9人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		9人	8人	1人	4人	3人	5人
合計	募集人数		500人	500人	500人	500人	500人	500人
	延べ人数	志願者数	10277人	8653人	7854人	7743人	7730人	8451人
		受験者数	9831人	8296人	7433人	7252人	7321人	8027人
		合格者数	1857人	2336人	2383人	2996人	2774人	2469人
		うち追加合格者数	31人	0人	0人	0人	77人	22人
		辞退者数	44人	61人	71人	66人	68人	62人
	実人数	志願者数	3724人	3086人	2746人	2748人	2750人	3011人
		受験者数	3649人	3038人	2688人	2695人	2695人	2953人
		合格者数	1306人	1500人	1432人	1648人	1543人	1486人
		うち追加合格者数	28人	0人	0人	0人	71人	20人
		辞退者数	44人	61人	71人	66人	68人	62人
	入学者数		492人	529人	532人	518人	544人	523人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	500人	500人	500人	500人	500人	500人
入学定員充足率	0.98	1.06	1.06	1.04	1.09	1.05
歩留率	0.37	0.35	0.37	0.31	0.34	0.35

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２５

大学学部学科等名：近畿大学情報学部情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数					0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数				25人	30人	28人
		受験者数				25人	29人	27人
		合格者数				11人	9人	10人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	1人	1人
	実人数	志願者数				25人	30人	28人
		受験者数				25人	29人	27人
		合格者数				11人	9人	10人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	1人	1人
	入学者数					7人	5人	6人
学校推薦型選抜	募集人数					142人	142人	142人
	延べ人数	志願者数				4738人	3928人	4333人
		受験者数				4710人	3890人	4300人
		合格者数				334人	345人	340人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				25人	25人	25人
	実人数	志願者数				1598人	1297人	1448人
		受験者数				1588人	1287人	1438人
		合格者数				260人	236人	248人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				25人	25人	25人
	入学者数					185人	162人	174人
一般選抜	募集人数					165人	165人	165人
	延べ人数	志願者数				11046人	7945人	9496人
		受験者数				10371人	7513人	8942人
		合格者数				969人	700人	835人
		うち追加合格者数				0人	9人	5人
		辞退者数				23人	11人	17人
	実人数	志願者数				2240人	1602人	1921人
		受験者数				2193人	1565人	1879人
		合格者数				479人	354人	417人
		うち追加合格者数				0人	9人	5人
		辞退者数				23人	11人	17人
	入学者数					155人	137人	146人
共通テスト利用入試	募集人数					23人	23人	23人
	延べ人数	志願者数				1317人	759人	1038人
		受験者数				1311人	757人	1034人
		合格者数				218人	242人	230人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				13人	11人	12人
	実人数	志願者数				1142人	665人	904人
		受験者数				1136人	663人	900人
		合格者数				209人	226人	218人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				13人	11人	12人
	入学者数					12人	18人	15人
その他の特別選抜	募集人数					0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数				29人	10人	20人
		受験者数				21人	8人	15人
		合格者数				3人	2人	3人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	実人数	志願者数				29人	10人	20人
		受験者数				21人	8人	15人
		合格者数				3人	2人	3人
		うち追加合格者数				0人	0人	0人
		辞退者数				0人	0人	0人
	入学者数					1人	1人	1人
合計	募集人数					330人	330人	330人
	延べ人数	志願者数				17155人	12672人	14914人
		受験者数				16438人	12197人	14318人
		合格者数				1535人	1298人	1417人
		うち追加合格者数				0人	9人	5人
		辞退者数				61人	48人	55人
	実人数	志願者数				5034人	3604人	4319人
		受験者数				4963人	3552人	4258人
		合格者数				962人	827人	895人
		うち追加合格者数				0人	9人	5人
		辞退者数				61人	48人	55人
	入学者数					360人	323人	342人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員				330人	330人	330人
入学定員充足率				1.09	0.98	1.03
歩留率				0.37	0.39	0.38

（備考）
・令和4年度開設

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２６

大学学部学科等名：近畿大学農学部農業生産科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		39人	39人	39人	39人	39人	39人
	延べ人数	志願者数	523人	651人	647人	673人	672人	633人
		受験者数	523人	640人	632人	661人	658人	623人
		合格者数	174人	222人	353人	332人	293人	275人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	19人	21人	15人	19人	17人
	実人数	志願者数	195人	254人	244人	257人	262人	242人
		受験者数	195人	251人	238人	253人	256人	239人
		合格者数	87人	109人	154人	151人	140人	128人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	19人	21人	15人	19人	17人
	入学者数		37人	41人	59人	71人	48人	51人
一般選抜	募集人数		66人	66人	69人	69人	69人	68人
	延べ人数	志願者数	1396人	1347人	1146人	1377人	1257人	1305人
		受験者数	1227人	1186人	1017人	1196人	1113人	1148人
		合格者数	337人	397人	414人	326人	366人	368人
		うち追加合格者数	0人	55人	18人	0人	12人	17人
		辞退者数	7人	7人	7人	10人	7人	8人
	実人数	志願者数	424人	414人	353人	362人	343人	379人
		受験者数	405人	398人	338人	350人	328人	364人
		合格者数	187人	225人	205人	161人	191人	194人
		うち追加合格者数	0人	51人	16人	0人	11人	16人
		辞退者数	7人	7人	7人	10人	7人	8人
	入学者数		49人	62人	51人	35人	50人	49人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	15人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	409人	363人	306人	386人	387人	370人
		受験者数	405人	359人	301人	382人	382人	366人
		合格者数	265人	234人	238人	266人	253人	251人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	7人	6人	5人	6人
	実人数	志願者数	303人	274人	237人	280人	278人	274人
		受験者数	301人	271人	233人	277人	274人	271人
		合格者数	208人	186人	190人	202人	194人	196人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	7人	6人	5人	6人
	入学者数		19人	14人	13人	14人	16人	15人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	8人	2人	2人	6人	5人
		受験者数	9人	6人	2人	2人	6人	5人
		合格者数	3人	5人	2人	1人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	9人	8人	2人	2人	6人	5人
		受験者数	9人	6人	2人	2人	6人	5人
		合格者数	3人	5人	2人	1人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		3人	3人	2人	1人	4人	3人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	2337人	2369人	2101人	2438人	2322人	2313人
		受験者数	2164人	2191人	1952人	2241人	2159人	2141人
		合格者数	779人	858人	1007人	925人	917人	897人
		うち追加合格者数	0人	55人	18人	0人	12人	17人
		辞退者数	22人	32人	35人	31人	31人	30人
	実人数	志願者数	931人	950人	836人	901人	889人	901人
		受験者数	910人	926人	811人	882人	864人	879人
		合格者数	485人	525人	551人	515人	530人	521人
		うち追加合格者数	0人	51人	16人	0人	11人	16人
		辞退者数	22人	32人	35人	31人	31人	30人
	入学者数		108人	120人	125人	121人	118人	118人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.90	1.00	1.04	1.01	0.98	0.99
歩留率	0.22	0.21	0.22	0.23	0.22	0.22

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２７

大学学部学科等名：近畿大学農学部水産学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		39人	39人	39人	39人	39人	39人
	延べ人数	志願者数	718人	711人	713人	776人	958人	775人
		受験者数	716人	705人	703人	763人	926人	763人
		合格者数	117人	162人	242人	293人	233人	209人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	19人	32人	31人	21人	23人
	実人数	志願者数	256人	269人	259人	282人	358人	285人
		受験者数	256人	268人	255人	278人	347人	281人
		合格者数	70人	89人	114人	132人	125人	106人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	19人	32人	31人	21人	23人
	入学者数		45人	52人	52人	81人	82人	62人
一般選抜	募集人数		66人	66人	69人	69人	69人	68人
	延べ人数	志願者数	1853人	1915人	1758人	1704人	1849人	1816人
		受験者数	1690人	1700人	1600人	1535人	1714人	1648人
		合格者数	297人	341人	299人	267人	251人	291人
		うち追加合格者数	5人	59人	15人	0人	4人	17人
		辞退者数	15人	14人	11人	10人	8人	12人
	実人数	志願者数	521人	565人	468人	450人	464人	494人
		受験者数	502人	553人	454人	435人	450人	479人
		合格者数	171人	208人	168人	139人	134人	164人
		うち追加合格者数	5人	56人	15人	0人	4人	16人
		辞退者数	15人	14人	11人	10人	8人	12人
	入学者数		40人	51人	39人	31人	29人	38人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	15人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	682人	536人	518人	455人	550人	548人
		受験者数	671人	529人	510人	454人	544人	542人
		合格者数	285人	288人	322人	316人	148人	272人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	15人	9人	11人	5人	9人
	実人数	志願者数	453人	374人	361人	325人	359人	374人
		受験者数	450人	369人	356人	325人	358人	372人
		合格者数	204人	212人	244人	240人	108人	202人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	6人	15人	9人	11人	5人	9人
	入学者数		18人	20人	37人	42人	10人	25人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	8人	6人	5人	5人	6人	6人
		受験者数	7人	5人	4人	4人	6人	5人
		合格者数	3人	2人	2人	4人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	8人	6人	5人	5人	6人	6人
		受験者数	7人	5人	4人	4人	6人	5人
		合格者数	3人	2人	2人	4人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	2人	3人	3人	2人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	3261人	3168人	2994人	2940人	3363人	3145人
		受験者数	3084人	2939人	2817人	2756人	3190人	2957人
		合格者数	702人	793人	865人	880人	637人	775人
		うち追加合格者数	5人	59人	15人	0人	4人	17人
		辞退者数	32人	48人	52人	52人	34人	44人
	実人数	志願者数	1238人	1214人	1093人	1062人	1187人	1159人
		受験者数	1215人	1195人	1069人	1042人	1161人	1136人
		合格者数	448人	511人	528人	515人	372人	475人
		うち追加合格者数	5人	56人	15人	0人	4人	16人
		辞退者数	32人	48人	52人	52人	34人	44人
	入学者数		105人	124人	130人	157人	124人	128人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.88	1.03	1.08	1.31	1.03	1.07
歩留率	0.23	0.22	0.24	0.30	0.33	0.26

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２８

大学学部学科等名：近畿大学農学部応用生命化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		39人	39人	39人	39人	39人	39人
	延べ人数	志願者数	547人	578人	643人	607人	665人	608人
		受験者数	545人	567人	625人	597人	653人	597人
		合格者数	166人	222人	321人	326人	306人	268人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	30人	27人	25人	19人	23人
	実　人　数	志願者数	208人	239人	250人	241人	263人	240人
		受験者数	207人	236人	245人	237人	260人	237人
		合格者数	79人	111人	150人	146人	142人	126人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	14人	30人	27人	25人	19人	23人
	入学者数		36人	28人	53人	57人	64人	48人
一般選抜	募集人数		66人	66人	69人	69人	69人	68人
	延べ人数	志願者数	1524人	1783人	1410人	1420人	1411人	1510人
		受験者数	1385人	1585人	1282人	1270人	1269人	1358人
		合格者数	389人	463人	459人	365人	441人	423人
		うち追加合格者数	8人	34人	9人	0人	13人	13人
		辞退者数	11人	16人	7人	7人	7人	10人
	実　人　数	志願者数	548人	572人	448人	448人	432人	490人
		受験者数	529人	559人	431人	428人	415人	472人
		合格者数	230人	278人	249人	205人	223人	237人
		うち追加合格者数	8人	33人	9人	0人	12人	12人
		辞退者数	11人	16人	7人	7人	7人	10人
	入学者数		47人	63人	56人	23人	54人	49人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	15人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	656人	611人	564人	567人	544人	588人
		受験者数	647人	606人	561人	563人	539人	583人
		合格者数	437人	442人	456人	421人	352人	422人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	13人	16人	13人	8人	13人
	実　人　数	志願者数	493人	468人	436人	436人	407人	448人
		受験者数	487人	466人	434人	435人	405人	445人
		合格者数	330人	344人	363人	341人	282人	332人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	17人	13人	16人	13人	8人	13人
	入学者数		32人	26人	21人	34人	23人	27人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	4人	1人	1人	3人	4人
		受験者数	8人	4人	1人	1人	3人	3人
		合格者数	5人	3人	1人	1人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	2人	1人
	実　人　数	志願者数	9人	4人	1人	1人	3人	4人
		受験者数	8人	4人	1人	1人	3人	3人
		合格者数	5人	3人	1人	1人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	2人	1人
	入学者数		3人	1人	1人	0人	1人	1人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	2736人	2976人	2618人	2595人	2623人	2710人
		受験者数	2585人	2762人	2469人	2431人	2464人	2542人
		合格者数	997人	1130人	1237人	1113人	1102人	1116人
		うち追加合格者数	8人	34人	9人	0人	13人	13人
		辞退者数	43人	59人	50人	46人	36人	47人
	実　人　数	志願者数	1258人	1283人	1135人	1126人	1105人	1181人
		受験者数	1231人	1265人	1111人	1101人	1083人	1158人
		合格者数	644人	736人	763人	693人	650人	697人
		うち追加合格者数	8人	33人	9人	0人	12人	12人
		辞退者数	43人	59人	50人	46人	36人	47人
	入学者数		118人	118人	131人	114人	142人	125人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.98	0.98	1.09	0.95	1.18	1.04
歩留率	0.18	0.15	0.17	0.16	0.21	0.18

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－２９

大学学部学科等名：近畿大学農学部食品栄養学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		24人	24人	24人	24人	24人	24人
	延べ人数	志願者数	413人	407人	472人	499人	492人	457人
		受験者数	413人	402人	462人	491人	476人	449人
		合格者数	75人	107人	193人	197人	168人	148人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	16人	16人	19人	12人
	実人数	志願者数	155人	158人	177人	182人	178人	170人
		受験者数	155人	156人	174人	180人	174人	168人
		合格者数	49人	52人	89人	91人	78人	72人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	6人	16人	16人	19人	12人
	入学者数		33人	28人	52人	49人	37人	40人
一般選抜	募集人数		45人	45人	47人	47人	47人	46人
	延べ人数	志願者数	861人	897人	796人	813人	684人	810人
		受験者数	757人	790人	741人	724人	631人	729人
		合格者数	164人	210人	158人	165人	174人	174人
		うち追加合格者数	0人	22人	8人	0人	9人	8人
		辞退者数	7人	2人	0人	6人	4人	4人
	実人数	志願者数	259人	248人	222人	196人	191人	223人
		受験者数	248人	230人	213人	182人	184人	211人
		合格者数	92人	108人	79人	83人	78人	88人
		うち追加合格者数	0人	21人	7人	0人	9人	7人
		辞退者数	7人	2人	0人	6人	4人	4人
	入学者数		32人	34人	21人	26人	31人	29人
共通テスト利用入試	募集人数		11人	11人	9人	9人	9人	10人
	延べ人数	志願者数	301人	266人	224人	203人	202人	239人
		受験者数	298人	265人	223人	200人	200人	237人
		合格者数	166人	141人	139人	133人	108人	137人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	3人	3人	1人	3人
	実人数	志願者数	209人	186人	161人	155人	142人	171人
		受験者数	209人	185人	160人	154人	141人	170人
		合格者数	126人	108人	105人	105人	81人	105人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	5人	3人	3人	1人	3人
	入学者数		16人	14人	14人	10人	8人	12人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	15人	5人	1人	2人	1人	5人
		受験者数	13人	3人	1人	1人	0人	4人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	15人	5人	1人	2人	1人	5人
		受験者数	13人	3人	1人	1人	0人	4人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	1人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	1590人	1575人	1493人	1517人	1379人	1511人
		受験者数	1481人	1460人	1427人	1416人	1307人	1418人
		合格者数	405人	459人	490人	495人	450人	460人
		うち追加合格者数	0人	22人	8人	0人	9人	8人
		辞退者数	17人	13人	19人	25人	24人	20人
	実人数	志願者数	638人	597人	561人	535人	512人	569人
		受験者数	625人	574人	548人	517人	499人	553人
		合格者数	267人	269人	273人	279人	237人	265人
		うち追加合格者数	0人	21人	7人	0人	9人	7人
		辞退者数	17人	13人	19人	25人	24人	20人
	入学者数		81人	77人	87人	85人	76人	81人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	1.01	0.96	1.09	1.06	0.95	1.02
歩留率	0.30	0.27	0.31	0.30	0.31	0.30

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３０

大学学部学科等名：近畿大学農学部環境管理学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		39人	39人	39人	39人	39人	39人
	延べ人数	志願者数	706人	616人	674人	647人	685人	666人
		受験者数	697人	612人	666人	644人	668人	657人
		合格者数	151人	219人	333人	347人	288人	268人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	17人	22人	21人	17人	17人
	実人数	志願者数	244人	228人	245人	239人	255人	242人
		受験者数	242人	227人	241人	238人	249人	239人
		合格者数	78人	98人	141人	146人	133人	119人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	9人	17人	22人	21人	17人	17人
	入学者数		34人	39人	55人	70人	61人	52人
一般選抜	募集人数		66人	66人	69人	69人	69人	68人
	延べ人数	志願者数	1743人	1549人	1342人	1362人	1250人	1449人
		受験者数	1599人	1413人	1211人	1219人	1112人	1311人
		合格者数	298人	377人	348人	294人	340人	331人
		うち追加合格者数	1人	89人	0人	0人	0人	18人
		辞退者数	4人	9人	4人	9人	5人	6人
	実人数	志願者数	449人	441人	369人	351人	319人	386人
		受験者数	434人	431人	357人	341人	312人	375人
		合格者数	167人	220人	167人	153人	170人	175人
		うち追加合格者数	1人	82人	0人	0人	0人	17人
		辞退者数	4人	9人	4人	9人	5人	6人
	入学者数		53人	71人	43人	38人	50人	51人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	15人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	480人	417人	375人	431人	314人	403人
		受験者数	477人	411人	369人	427人	310人	399人
		合格者数	276人	278人	295人	281人	202人	266人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	8人	6人	8人	8人	7人
	実人数	志願者数	338人	304人	282人	293人	214人	286人
		受験者数	336人	299人	280人	292人	212人	284人
		合格者数	204人	209人	235人	210人	147人	201人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	8人	6人	8人	8人	7人
	入学者数		34人	15人	33人	19人	17人	24人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	8人	3人	3人	5人	4人	5人
		受験者数	6人	3人	2人	5人	4人	4人
		合格者数	2人	1人	2人	4人	4人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	8人	3人	3人	5人	4人	5人
		受験者数	6人	3人	2人	5人	4人	4人
		合格者数	2人	1人	2人	4人	4人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	1人	1人	2人	2人	2人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	2937人	2585人	2394人	2445人	2253人	2523人
		受験者数	2779人	2439人	2248人	2295人	2094人	2371人
		合格者数	727人	875人	978人	926人	834人	868人
		うち追加合格者数	1人	89人	0人	0人	0人	18人
		辞退者数	17人	34人	32人	38人	30人	30人
	実人数	志願者数	1039人	976人	899人	888人	792人	919人
		受験者数	1018人	960人	880人	876人	777人	902人
		合格者数	451人	528人	545人	513人	454人	498人
		うち追加合格者数	1人	82人	0人	0人	0人	17人
		辞退者数	17人	34人	32人	38人	30人	30人
	入学者数		123人	126人	132人	129人	130人	128人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	1.03	1.05	1.10	1.08	1.08	1.07
歩留率	0.27	0.21	0.24	0.25	0.29	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３１

大学学部学科等名：近畿大学農学部生物機能科学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		39人	39人	39人	39人	39人	39人
	延べ人数	志願者数	524人	495人	549人	620人	533人	544人
		受験者数	516人	485人	530人	618人	512人	532人
		合格者数	117人	191人	301人	319人	270人	240人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	5人	22人	16人	11人	12人
	実人数	志願者数	207人	200人	212人	229人	212人	212人
		受験者数	204人	197人	206人	229人	207人	209人
		合格者数	70人	100人	141人	140人	135人	117人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	5人	22人	16人	11人	12人
	入学者数		30人	44人	54人	58人	64人	50人
一般選抜	募集人数		66人	66人	69人	69人	69人	68人
	延べ人数	志願者数	1226人	1420人	994人	1296人	1026人	1192人
		受験者数	1137人	1249人	897人	1180人	907人	1074人
		合格者数	290人	385人	378人	312人	313人	336人
		うち追加合格者数	55人	0人	20人	0人	11人	17人
		辞退者数	2人	5人	7人	5人	4人	5人
	実人数	志願者数	385人	415人	292人	350人	299人	348人
		受験者数	375人	396人	278人	342人	290人	336人
		合格者数	156人	211人	175人	153人	176人	174人
		うち追加合格者数	53人	0人	18人	0人	11人	16人
		辞退者数	2人	5人	7人	5人	4人	5人
	入学者数		39人	44人	50人	35人	50人	44人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	15人	12人	12人	12人	13人
	延べ人数	志願者数	397人	421人	332人	394人	353人	379人
		受験者数	388人	418人	327人	389人	348人	374人
		合格者数	288人	322人	262人	258人	231人	272人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	9人	9人	6人	5人	8人
	実人数	志願者数	311人	320人	263人	292人	293人	296人
		受験者数	306人	318人	259人	289人	289人	292人
		合格者数	228人	258人	216人	202人	202人	221人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	11人	9人	9人	6人	5人	8人
	入学者数		34人	33人	19人	22人	10人	24人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	3人	3人	1人	1人	1人	2人
		受験者数	3人	3人	1人	1人	0人	2人
		合格者数	0人	2人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	3人	1人	1人	1人	2人
		受験者数	3人	3人	1人	1人	0人	2人
		合格者数	0人	2人	1人	1人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	2人	0人	1人	0人	1人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	2150人	2339人	1876人	2311人	1913人	2118人
		受験者数	2044人	2155人	1755人	2188人	1767人	1982人
		合格者数	695人	900人	942人	890人	814人	848人
		うち追加合格者数	55人	0人	20人	0人	11人	17人
		辞退者数	21人	19人	39人	27人	20人	25人
	実人数	志願者数	906人	938人	768人	872人	805人	858人
		受験者数	888人	914人	744人	861人	786人	839人
		合格者数	454人	571人	533人	496人	513人	513人
		うち追加合格者数	53人	0人	18人	0人	11人	16人
		辞退者数	21人	19人	39人	27人	20人	25人
	入学者数		103人	123人	123人	116人	124人	118人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.86	1.03	1.03	0.97	1.03	0.98
歩留率	0.20	0.22	0.22	0.23	0.24	0.22

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３２

大学学部学科等名：近畿大学医学部医学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		30人	25人	25人	25人	25人	26人
	延べ人数	志願者数	672人	646人	640人	618人	693人	654人
		受験者数	662人	641人	614人	615人	689人	644人
		合格者数	59人	61人	76人	70人	67人	67人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	36人	37人	35人	34人	34人
	実人数	志願者数	672人	646人	583人	618人	693人	642人
		受験者数	662人	641人	578人	615人	689人	637人
		合格者数	59人	61人	76人	70人	67人	67人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	28人	36人	37人	35人	34人	34人
	入学者数		26人	22人	35人	23人	27人	27人
一般選抜	募集人数		70人	72人	72人	77人	77人	74人
	延べ人数	志願者数	1996人	2024人	2489人	2293人	2475人	2255人
		受験者数	1825人	1854人	2226人	2088人	2236人	2046人
		合格者数	148人	154人	139人	151人	141人	147人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	24人	29人	17人	25人	22人	23人
	実人数	志願者数	1652人	1665人	1861人	1672人	1876人	1745人
		受験者数	1537人	1541人	1722人	1553人	1729人	1616人
		合格者数	148人	153人	139人	151人	141人	146人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	24人	29人	17人	25人	22人	23人
	入学者数		74人	75人	59人	73人	69人	70人
共通テスト利用入試	募集人数		15人	10人	10人	10人	10人	11人
	延べ人数	志願者数	864人	929人	685人	747人	914人	828人
		受験者数	853人	918人	682人	735人	905人	819人
		合格者数	42人	29人	55人	59人	56人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	7人	11人	6人	7人	8人
	実人数	志願者数	684人	704人	507人	534人	685人	623人
		受験者数	674人	696人	505人	525人	677人	615人
		合格者数	36人	26人	48人	54人	48人	42人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	7人	11人	6人	7人	8人
	入学者数		13人	9人	18人	16人	15人	14人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		115人	107人	107人	112人	112人	111人
	延べ人数	志願者数	3532人	3599人	3814人	3658人	4082人	3737人
		受験者数	3340人	3413人	3522人	3438人	3830人	3509人
		合格者数	249人	244人	270人	280人	264人	261人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	60人	72人	65人	66人	63人	65人
	実人数	志願者数	3008人	3015人	2951人	2824人	3254人	3010人
		受験者数	2873人	2878人	2805人	2693人	3095人	2869人
		合格者数	243人	240人	263人	275人	256人	255人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	1人	1人	0人
		辞退者数	60人	72人	65人	66人	63人	65人
	入学者数		113人	106人	112人	112人	111人	111人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	115人	107人	107人	112人	112人	111人
入学定員充足率	0.98	0.99	1.05	1.00	0.99	1.00
歩留率	0.47	0.44	0.43	0.41	0.43	0.43

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３３

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部生物工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		28人	28人	28人	28人	28人	28人
	延べ人数	志願者数	344人	396人	370人	426人	573人	422人
		受験者数	344人	396人	370人	426人	565人	420人
		合格者数	158人	189人	303人	338人	311人	260人
		うち追加合格者数	0人	0人	55人	0人	0人	11人
		辞退者数	5人	7人	7人	12人	4人	7人
	実人数	志願者数	143人	163人	152人	183人	186人	165人
		受験者数	143人	163人	152人	183人	184人	165人
		合格者数	84人	101人	134人	167人	137人	125人
		うち追加合格者数	0人	0人	17人	0人	0人	3人
		辞退者数	5人	7人	7人	12人	4人	7人
	入学者数		38人	44人	38人	65人	49人	47人
一般選抜	募集人数		41人	41人	41人	41人	41人	41人
	延べ人数	志願者数	817人	839人	743人	800人	598人	759人
		受験者数	699人	715人	622人	692人	513人	648人
		合格者数	269人	332人	486人	292人	350人	346人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	21人	5人
		辞退者数	4人	2人	4人	3人	2人	3人
	実人数	志願者数	275人	276人	239人	268人	225人	257人
		受験者数	265人	259人	227人	253人	216人	244人
		合格者数	152人	181人	214人	146人	173人	173人
		うち追加合格者数	0人	0人	2人	0人	19人	4人
		辞退者数	4人	2人	4人	3人	2人	3人
	入学者数		32人	45人	38人	24人	35人	35人
共通テスト利用入試	募集人数		21人	21人	21人	21人	21人	21人
	延べ人数	志願者数	226人	199人	210人	226人	195人	211人
		受験者数	226人	199人	208人	224人	195人	210人
		合格者数	148人	145人	184人	146人	159人	156人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	2人	2人	3人	3人	5人	3人
	実人数	志願者数	197人	163人	178人	197人	171人	181人
		受験者数	197人	163人	177人	196人	171人	181人
		合格者数	128人	122人	160人	132人	144人	137人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	2人	2人	3人	3人	5人	3人
	入学者数		17人	7人	15人	9人	9人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	6人	1人	4人	3人	4人
		受験者数	3人	3人	1人	3人	2人	2人
		合格者数	0人	1人	1人	2人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	6人	1人	4人	3人	4人
		受験者数	3人	3人	1人	3人	2人	2人
		合格者数	0人	1人	1人	2人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
	入学者数		0人	1人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	1391人	1440人	1324人	1456人	1369人	1396人
		受験者数	1272人	1313人	1201人	1345人	1275人	1281人
		合格者数	575人	667人	974人	778人	822人	763人
		うち追加合格者数	0人	0人	61人	0人	25人	17人
		辞退者数	11人	11人	14人	20人	11人	13人
	実人数	志願者数	619人	608人	570人	652人	585人	607人
		受験者数	608人	588人	557人	635人	573人	592人
		合格者数	364人	405人	509人	447人	456人	436人
		うち追加合格者数	0人	0人	19人	0人	23人	8人
		辞退者数	11人	11人	14人	20人	11人	13人
	入学者数		87人	97人	91人	98人	93人	93人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
入学定員充足率	0.97	1.08	1.01	1.09	1.03	1.04
歩留率	0.24	0.24	0.17	0.22	0.19	0.21

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３４

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部遺伝子工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		28人	28人	28人	28人	28人	28人
	延べ人数	志願者数	343人	317人	334人	311人	464人	354人
		受験者数	343人	316人	334人	311人	464人	354人
		合格者数	131人	154人	281人	251人	307人	225人
		うち追加合格者数	0人	0人	46人	0人	0人	9人
		辞退者数	6人	8人	7人	8人	11人	8人
	実人数	志願者数	141人	133人	128人	127人	162人	138人
		受験者数	141人	132人	128人	127人	162人	138人
		合格者数	71人	79人	110人	117人	131人	102人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2人
		辞退者数	6人	8人	7人	8人	11人	8人
	入学者数		34人	29人	35人	53人	51人	40人
一般選抜	募集人数		41人	41人	41人	41人	41人	41人
	延べ人数	志願者数	678人	798人	604人	603人	678人	672人
		受験者数	606人	684人	519人	530人	592人	586人
		合格者数	213人	337人	401人	300人	317人	314人
		うち追加合格者数	0人	0人	18人	0人	31人	10人
		辞退者数	2人	8人	3人	9人	4人	5人
	実人数	志願者数	219人	276人	204人	218人	206人	225人
		受験者数	210人	256人	195人	208人	197人	213人
		合格者数	112人	184人	188人	154人	148人	157人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	26人	6人
		辞退者数	2人	8人	3人	9人	4人	5人
	入学者数		34人	39人	41人	33人	35人	36人
共通テスト利用入試	募集人数		21人	21人	21人	21人	21人	21人
	延べ人数	志願者数	172人	219人	172人	173人	196人	186人
		受験者数	171人	219人	170人	172人	196人	186人
		合格者数	121人	152人	146人	136人	142人	139人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	11人	2人
		辞退者数	3人	2人	3人	1人	1人	2人
	実人数	志願者数	145人	180人	148人	153人	175人	160人
		受験者数	144人	180人	147人	152人	175人	160人
		合格者数	106人	134人	131人	122人	130人	125人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	11人	2人
		辞退者数	3人	2人	3人	1人	1人	2人
	入学者数		13人	13人	12人	7人	7人	10人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	7人	3人	8人	4人	5人
		受験者数	4人	4人	2人	6人	4人	4人
		合格者数	4人	0人	2人	4人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	7人	3人	8人	4人	5人
		受験者数	4人	4人	2人	6人	4人	4人
		合格者数	4人	0人	2人	4人	3人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	2人	0人	0人
	入学者数		2人	0人	2人	1人	2人	1人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	1197人	1341人	1113人	1095人	1342人	1218人
		受験者数	1124人	1223人	1025人	1019人	1256人	1129人
		合格者数	469人	643人	830人	691人	769人	680人
		うち追加合格者数	0人	0人	64人	0人	42人	21人
		辞退者数	11人	18人	13人	20人	16人	16人
	実人数	志願者数	509人	596人	483人	506人	547人	528人
		受験者数	499人	572人	472人	493人	538人	515人
		合格者数	293人	397人	431人	397人	412人	386人
		うち追加合格者数	0人	0人	18人	0人	37人	11人
		辞退者数	11人	18人	13人	20人	16人	16人
	入学者数		83人	81人	90人	94人	95人	89人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
入学定員充足率	0.92	0.90	1.00	1.04	1.06	0.98
歩留率	0.28	0.20	0.20	0.24	0.21	0.23

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３５

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部食品安全工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		28人	28人	28人	28人	28人	28人
	延べ人数	志願者数	314人	320人	284人	273人	283人	295人
		受験者数	314人	319人	284人	267人	283人	293人
		合格者数	182人	132人	223人	219人	186人	188人
		うち追加合格者数	0人	0人	12人	0人	0人	2人
		辞退者数	6人	4人	2人	2人	1人	3人
	実人数	志願者数	121人	140人	115人	109人	101人	117人
		受験者数	121人	139人	115人	107人	101人	117人
		合格者数	85人	77人	99人	99人	86人	89人
		うち追加合格者数	0人	0人	5人	0人	0人	1人
		辞退者数	6人	4人	2人	2人	1人	3人
	入学者数		52人	31人	39人	43人	37人	40人
一般選抜	募集人数		41人	41人	41人	41人	41人	41人
	延べ人数	志願者数	720人	540人	550人	527人	583人	584人
		受験者数	638人	455人	479人	439人	473人	497人
		合格者数	183人	282人	366人	319人	335人	297人
		うち追加合格者数	0人	0人	3人	0人	10人	3人
		辞退者数	0人	5人	4人	3人	1人	3人
	実人数	志願者数	215人	185人	174人	181人	179人	187人
		受験者数	206人	172人	169人	172人	168人	177人
		合格者数	92人	135人	152人	150人	147人	135人
		うち追加合格者数	0人	0人	1人	0人	10人	2人
		辞退者数	0人	5人	4人	3人	1人	3人
	入学者数		29人	39人	36人	42人	34人	36人
共通テスト利用入試	募集人数		21人	21人	21人	21人	21人	21人
	延べ人数	志願者数	202人	166人	146人	157人	146人	163人
		受験者数	201人	165人	146人	157人	146人	163人
		合格者数	114人	135人	133人	130人	129人	128人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	1人	1人	1人	4人	0人	1人
	実人数	志願者数	165人	148人	122人	134人	123人	138人
		受験者数	164人	147人	122人	134人	123人	138人
		合格者数	98人	124人	114人	115人	110人	112人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	4人	1人
		辞退者数	1人	1人	1人	4人	0人	1人
	入学者数		10人	9人	8人	9人	6人	8人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	6人	2人	3人	5人	3人
		受験者数	0人	4人	1人	2人	5人	2人
		合格者数	0人	1人	1人	2人	5人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	6人	2人	3人	5人	3人
		受験者数	0人	4人	1人	2人	5人	2人
		合格者数	0人	1人	1人	2人	5人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	1人	2人	3人	1人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	90人	90人
	延べ人数	志願者数	1236人	1032人	982人	960人	1017人	1045人
		受験者数	1153人	943人	910人	865人	907人	956人
		合格者数	479人	550人	723人	670人	655人	615人
		うち追加合格者数	0人	0人	15人	0人	14人	6人
		辞退者数	7人	11人	7人	9人	2人	7人
	実人数	志願者数	501人	479人	413人	427人	408人	446人
		受験者数	491人	462人	407人	415人	397人	434人
		合格者数	275人	337人	366人	366人	348人	338人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	14人	4人
		辞退者数	7人	11人	7人	9人	2人	7人
	入学者数		91人	79人	84人	96人	80人	86人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	90人	90人
入学定員充足率	1.01	0.88	0.93	1.07	0.89	0.96
歩留率	0.33	0.23	0.23	0.26	0.22	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３６

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部生命情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		27人	27人	27人	27人	27人	27人
	延べ人数	志願者数	224人	223人	175人	272人	449人	269人
		受験者数	224人	223人	175人	270人	446人	268人
		合格者数	93人	112人	120人	205人	217人	149人
		うち追加合格者数	0人	0人	4人	0人	0人	1人
		辞退者数	1人	7人	4人	2人	13人	5人
	実人数	志願者数	105人	100人	82人	107人	153人	109人
		受験者数	105人	100人	82人	107人	152人	109人
		合格者数	64人	67人	67人	98人	103人	80人
		うち追加合格者数	0人	0人	1人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	7人	4人	2人	13人	5人
	入学者数		33人	40人	30人	41人	34人	36人
一般選抜	募集人数		36人	36人	36人	36人	36人	36人
	延べ人数	志願者数	587人	679人	517人	517人	514人	563人
		受験者数	524人	593人	406人	451人	411人	477人
		合格者数	214人	239人	309人	233人	204人	240人
		うち追加合格者数	0人	0人	30人	0人	20人	10人
		辞退者数	6人	1人	1人	3人	4人	3人
	実人数	志願者数	196人	228人	150人	176人	149人	180人
		受験者数	191人	219人	138人	165人	139人	170人
		合格者数	113人	140人	131人	111人	112人	121人
		うち追加合格者数	0人	0人	14人	0人	18人	6人
		辞退者数	6人	1人	1人	3人	4人	3人
	入学者数		36人	40人	38人	32人	32人	36人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	17人	17人	17人	17人
	延べ人数	志願者数	151人	150人	152人	176人	154人	157人
		受験者数	149人	147人	151人	176人	154人	155人
		合格者数	89人	81人	128人	133人	120人	110人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	8人	2人
		辞退者数	0人	2人	3人	2人	4人	2人
	実人数	志願者数	135人	122人	129人	152人	136人	135人
		受験者数	134人	120人	128人	152人	136人	134人
		合格者数	80人	72人	112人	119人	110人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	8人	2人
		辞退者数	0人	2人	3人	2人	4人	2人
	入学者数		7人	3人	8人	8人	14人	8人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	6人	5人	6人	5人	1人	5人
		受験者数	6人	2人	5人	5人	1人	4人
		合格者数	5人	2人	5人	5人	1人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	6人	5人	6人	5人	1人	5人
		受験者数	6人	2人	5人	5人	1人	4人
		合格者数	5人	2人	5人	5人	1人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		3人	2人	1人	1人	1人	2人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	968人	1057人	850人	970人	1118人	993人
		受験者数	903人	965人	737人	902人	1012人	904人
		合格者数	401人	434人	562人	576人	542人	503人
		うち追加合格者数	0人	0人	34人	0人	28人	12人
		辞退者数	8人	10人	8人	8人	21人	11人
	実人数	志願者数	442人	455人	367人	440人	439人	429人
		受験者数	436人	441人	353人	429人	428人	417人
		合格者数	262人	281人	315人	333人	326人	303人
		うち追加合格者数	0人	0人	15人	0人	26人	8人
		辞退者数	8人	10人	8人	8人	21人	11人
	入学者数		79人	85人	77人	82人	81人	81人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	0.99	1.06	0.96	1.03	1.01	1.01
歩留率	0.30	0.30	0.23	0.25	0.23	0.26

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３７

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部人間環境デザイン工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		27人	27人	27人	27人	27人	27人
	延べ人数	志願者数	251人	151人	192人	197人	395人	237人
		受験者数	251人	149人	191人	197人	391人	236人
		合格者数	97人	64人	140人	169人	230人	140人
		うち追加合格者数	0人	0人	9人	0人	0人	2人
		辞退者数	4人	2人	5人	10人	7人	6人
	実　人　数	志願者数	116人	79人	86人	89人	153人	105人
		受験者数	116人	78人	85人	89人	151人	104人
		合格者数	63人	48人	69人	84人	111人	75人
		うち追加合格者数	0人	0人	3人	0人	0人	1人
		辞退者数	4人	2人	5人	10人	7人	6人
	入学者数		50人	39人	39人	40人	37人	41人
一般選抜	募集人数		36人	36人	36人	36人	36人	36人
	延べ人数	志願者数	630人	406人	379人	420人	480人	463人
		受験者数	571人	349人	310人	365人	382人	395人
		合格者数	93人	153人	197人	212人	261人	183人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	16人	4人
		辞退者数	0人	3人	3人	3人	3人	2人
	実　人　数	志願者数	193人	135人	110人	141人	121人	140人
		受験者数	186人	127人	104人	136人	118人	134人
		合格者数	55人	84人	87人	107人	107人	88人
		うち追加合格者数	0人	0人	3人	0人	15人	4人
		辞退者数	0人	3人	3人	3人	3人	2人
	入学者数		19人	27人	33人	28人	31人	28人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	17人	17人	17人	17人
	延べ人数	志願者数	146人	106人	109人	157人	157人	135人
		受験者数	145人	105人	108人	157人	157人	134人
		合格者数	53人	68人	100人	132人	142人	99人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	21人	4人
		辞退者数	3人	3人	3人	1人	0人	2人
	実　人　数	志願者数	125人	89人	91人	127人	131人	113人
		受験者数	124人	88人	90人	127人	131人	112人
		合格者数	49人	62人	87人	110人	120人	86人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	21人	4人
		辞退者数	3人	3人	3人	1人	0人	2人
	入学者数		10人	11人	5人	19人	11人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	2人	2人	2人	2人	2人
		受験者数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	2人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	2人	2人	2人	2人	2人
		受験者数	0人	2人	2人	2人	1人	1人
		合格者数	0人	1人	2人	2人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	2人	2人	1人	1人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	80人	80人
	延べ人数	志願者数	1027人	665人	682人	776人	1034人	837人
		受験者数	967人	605人	611人	721人	931人	767人
		合格者数	243人	286人	439人	515人	634人	423人
		うち追加合格者数	0人	0人	15人	0人	37人	10人
		辞退者数	7人	9人	11人	14人	10人	10人
	実　人　数	志願者数	434人	305人	289人	359人	407人	359人
		受験者数	426人	295人	281人	354人	401人	351人
		合格者数	167人	195人	245人	303人	339人	250人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	36人	8人
		辞退者数	7人	9人	11人	14人	10人	10人
	入学者数		79人	77人	79人	89人	80人	81人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	80人	80人	80人	80人	80人	80人
入学定員充足率	0.99	0.96	0.99	1.11	1.00	1.01
歩　留　率	0.47	0.39	0.31	0.29	0.21	0.34

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３８

大学学部学科等名：近畿大学生物理工学部医用工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		受験者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
学校推薦型選抜	募集人数		17人	17人	17人	17人	17人	17人
	延べ人数	志願者数	203人	166人	149人	217人	199人	187人
		受験者数	203人	166人	149人	217人	197人	186人
		合格者数	55人	51人	85人	108人	105人	81人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	3人	6人	2人	4人	3人
	実　人　数	志願者数	85人	77人	67人	83人	78人	78人
		受験者数	85人	77人	67人	83人	78人	78人
		合格者数	37人	37人	50人	53人	61人	48人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	3人	6人	2人	4人	3人
	入学者数		29人	24人	32人	24人	26人	27人
一般選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	26人	26人
	延べ人数	志願者数	367人	427人	356人	307人	397人	371人
		受験者数	310人	387人	314人	275人	334人	324人
		合格者数	110人	144人	132人	154人	155人	139人
		うち追加合格者数	0人	0人	13人	0人	7人	4人
		辞退者数	4人	2人	3人	2人	5人	3人
	実　人　数	志願者数	127人	143人	115人	122人	130人	127人
		受験者数	122人	133人	109人	119人	124人	121人
		合格者数	59人	81人	75人	92人	80人	77人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	7人	3人
		辞退者数	4人	2人	3人	2人	5人	3人
	入学者数		21人	29人	20人	25人	20人	23人
共通テスト利用入試	募集人数		12人	12人	12人	12人	12人	12人
	延べ人数	志願者数	121人	122人	119人	100人	135人	119人
		受験者数	121人	122人	119人	99人	134人	119人
		合格者数	50人	55人	50人	54人	66人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	2人	0人	1人	3人	2人	2人
	実　人　数	志願者数	96人	92人	92人	76人	110人	93人
		受験者数	96人	92人	92人	75人	110人	93人
		合格者数	44人	42人	43人	42人	60人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	2人	0人	1人	3人	2人	2人
	入学者数		2人	2人	2人	1人	5人	2人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	3人	2人	5人	3人	3人
		受験者数	0人	3人	2人	4人	3人	2人
		合格者数	0人	3人	2人	2人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	1人	3人	2人	5人	3人	3人
		受験者数	0人	3人	2人	4人	3人	2人
		合格者数	0人	3人	2人	2人	3人	2人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	1人	1人	3人	1人
合計	募集人数		55人	55人	55人	55人	55人	55人
	延べ人数	志願者数	692人	718人	626人	629人	734人	680人
		受験者数	634人	678人	584人	595人	668人	632人
		合格者数	215人	253人	269人	318人	329人	277人
		うち追加合格者数	0人	0人	13人	0人	10人	5人
		辞退者数	6人	5人	10人	7人	11人	8人
	実　人　数	志願者数	309人	315人	276人	286人	321人	301人
		受験者数	303人	305人	270人	281人	315人	295人
		合格者数	140人	163人	170人	189人	204人	173人
		うち追加合格者数	0人	0人	6人	0人	10人	3人
		辞退者数	6人	5人	10人	7人	11人	8人
	入学者数		52人	55人	55人	51人	54人	53人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入　学　定　員	55人	55人	55人	55人	55人	55人
入学定員充足率	0.95	1.00	1.00	0.93	0.98	0.97
歩　留　率	0.37	0.34	0.31	0.27	0.25	0.31

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－３９

大学学部学科等名：近畿大学工学部化学生命工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	6人	7人	9人	19人	19人	12人
		受験者数	6人	7人	9人	19人	19人	12人
		合格者数	5人	7人	9人	19人	18人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	6人	7人	9人	19人	19人	12人
		受験者数	6人	7人	9人	19人	19人	12人
		合格者数	5人	7人	9人	19人	18人	12人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	1人	0人	1人	0人
	入学者数		4人	3人	3人	13人	9人	6人
学校推薦型選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	26人	26人
	延べ人数	志願者数	116人	207人	152人	121人	159人	151人
		受験者数	116人	205人	150人	121人	157人	150人
		合格者数	70人	111人	115人	94人	109人	100人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	9人	5人	10人	7人
	実人数	志願者数	52人	94人	79人	58人	76人	72人
		受験者数	52人	93人	78人	58人	76人	71人
		合格者数	39人	63人	65人	52人	57人	55人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	6人	9人	5人	10人	7人
	入学者数		19人	21人	25人	19人	25人	22人
一般選抜	募集人数		42人	42人	44人	46人	36人	42人
	延べ人数	志願者数	751人	753人	649人	659人	688人	700人
		受験者数	647人	677人	564人	568人	610人	613人
		合格者数	304人	419人	408人	415人	430人	395人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	17人	3人
		辞退者数	14人	9人	6人	10人	9人	10人
	実人数	志願者数	304人	301人	256人	246人	264人	274人
		受験者数	290人	290人	245人	232人	255人	262人
		合格者数	179人	240人	195人	194人	206人	203人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	15人	3人
		辞退者数	14人	9人	6人	10人	9人	10人
	入学者数		50人	44人	33人	32人	38人	39人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	15人	13人	13人	15人
	延べ人数	志願者数	203人	198人	175人	219人	196人	198人
		受験者数	201人	198人	175人	219人	196人	198人
		合格者数	136人	141人	157人	169人	171人	155人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	13人	3人
		辞退者数	4人	5人	1人	2人	4人	3人
	実人数	志願者数	161人	149人	140人	158人	145人	151人
		受験者数	160人	149人	140人	158人	145人	150人
		合格者数	112人	111人	128人	127人	131人	122人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	13人	3人
		辞退者数	4人	5人	1人	2人	4人	3人
	入学者数		9人	4人	6人	8人	7人	7人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	2人	2人	1人	3人	2人
		受験者数	1人	1人	2人	0人	2人	1人
		合格者数	1人	1人	1人	0人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	2人	2人	1人	3人	2人
		受験者数	1人	1人	2人	0人	2人	1人
		合格者数	1人	1人	1人	0人	2人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	1人	0人	0人	2人	1人
合計	募集人数		85人	85人	85人	85人	75人	83人
	延べ人数	志願者数	1077人	1167人	987人	1019人	1065人	1063人
		受験者数	971人	1088人	900人	927人	984人	974人
		合格者数	516人	679人	690人	697人	730人	662人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	30人	6人
		辞退者数	22人	20人	17人	17人	24人	20人
	実人数	志願者数	524人	553人	486人	482人	507人	510人
		受験者数	509人	540人	474人	467人	497人	497人
		合格者数	336人	422人	398人	392人	414人	392人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	28人	6人
		辞退者数	22人	20人	17人	17人	24人	20人
	入学者数		83人	73人	67人	72人	81人	75人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	85人	85人	85人	85人	75人	83人
入学定員充足率	0.98	0.86	0.79	0.85	1.08	0.91
歩留率	0.25	0.17	0.17	0.18	0.18	0.19

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４０

大学学部学科等名：近畿大学工学部機械工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	3人	8人	2人	4人	9人	5人
		受験者数	3人	7人	2人	4人	8人	5人
		合格者数	2人	5人	1人	4人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	8人	2人	4人	9人	5人
		受験者数	3人	7人	2人	4人	8人	5人
		合格者数	2人	5人	1人	4人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	5人	1人	3人	5人	3人
学校推薦型選抜	募集人数		33人	33人	33人	33人	33人	33人
	延べ人数	志願者数	211人	290人	249人	193人	277人	244人
		受験者数	211人	290人	247人	193人	277人	244人
		合格者数	104人	136人	141人	146人	180人	141人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	8人	11人	13人	11人	11人
	実人数	志願者数	94人	130人	118人	91人	119人	110人
		受験者数	94人	130人	117人	91人	119人	110人
		合格者数	56人	71人	78人	76人	91人	74人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	10人	8人	11人	13人	11人	11人
	入学者数		22人	23人	30人	28人	30人	27人
一般選抜	募集人数		47人	47人	49人	51人	51人	49人
	延べ人数	志願者数	1238人	1208人	1190人	1225人	1023人	1177人
		受験者数	1103人	1088人	1090人	1035人	875人	1038人
		合格者数	400人	554人	648人	611人	561人	555人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	39人	8人
		辞退者数	11人	6人	22人	9人	11人	12人
	実人数	志願者数	514人	516人	459人	424人	407人	464人
		受験者数	491人	497人	444人	404人	385人	444人
		合格者数	252人	337人	322人	297人	304人	302人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	35人	7人
		辞退者数	11人	6人	22人	9人	11人	12人
	入学者数		42人	64人	59人	55人	56人	55人
共通テスト利用入試	募集人数		20人	20人	18人	16人	16人	18人
	延べ人数	志願者数	372人	344人	302人	320人	308人	329人
		受験者数	372人	344人	302人	318人	307人	329人
		合格者数	204人	215人	250人	241人	261人	234人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	9人	2人
		辞退者数	3人	7人	5人	5人	6人	5人
	実人数	志願者数	279人	264人	222人	260人	237人	252人
		受験者数	279人	264人	222人	259人	237人	252人
		合格者数	163人	175人	189人	199人	200人	185人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	9人	2人
		辞退者数	3人	7人	5人	5人	6人	5人
	入学者数		15人	6人	11人	15人	7人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	2人	7人	1人	3人	5人	4人
		受験者数	2人	6人	1人	1人	4人	3人
		合格者数	2人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	2人	7人	1人	3人	5人	4人
		受験者数	2人	6人	1人	1人	4人	3人
		合格者数	2人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	0人	0人	0人	1人	0人
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	1826人	1857人	1744人	1745人	1622人	1759人
		受験者数	1691人	1735人	1642人	1551人	1471人	1618人
		合格者数	712人	912人	1040人	1002人	1008人	935人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	48人	10人
		辞退者数	25人	21人	38人	27人	28人	28人
	実人数	志願者数	892人	925人	802人	782人	777人	836人
		受験者数	869人	904人	786人	759人	753人	814人
		合格者数	475人	590人	590人	576人	601人	566人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	44人	9人
		辞退者数	25人	21人	38人	27人	28人	28人
	入学者数		82人	98人	101人	101人	99人	96人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	0.82	0.98	1.01	1.01	0.99	0.96
歩留率	0.17	0.17	0.17	0.18	0.15	0.17

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４１

大学学部学科等名：近畿大学工学部ロボティクス学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	5人	8人	0人	10人	5人	6人
		受験者数	5人	7人	0人	10人	5人	5人
		合格者数	4人	3人	0人	8人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	8人	0人	10人	5人	6人
		受験者数	5人	7人	0人	10人	5人	5人
		合格者数	4人	3人	0人	8人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	3人	0人	6人	3人	3人
学校推薦型選抜	募集人数		26人	26人	26人	26人	26人	26人
	延べ人数	志願者数	190人	213人	206人	151人	207人	193人
		受験者数	190人	213人	205人	151人	205人	193人
		合格者数	94人	104人	134人	120人	147人	120人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	8人	7人	6人	5人	6人
	実人数	志願者数	88人	92人	95人	70人	95人	88人
		受験者数	88人	92人	94人	70人	94人	88人
		合格者数	58人	56人	72人	59人	75人	64人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	2人	8人	7人	6人	5人	6人
	入学者数		34人	30人	32人	16人	27人	28人
一般選抜	募集人数		37人	37人	39人	41人	36人	38人
	延べ人数	志願者数	941人	912人	721人	741人	696人	802人
		受験者数	824人	797人	622人	647人	602人	698人
		合格者数	247人	332人	384人	399人	373人	347人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	27人	5人
		辞退者数	5人	7人	5人	7人	1人	5人
	実人数	志願者数	320人	336人	237人	248人	242人	277人
		受験者数	300人	322人	223人	232人	231人	262人
		合格者数	141人	195人	163人	176人	181人	171人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	26人	5人
		辞退者数	5人	7人	5人	7人	1人	5人
	入学者数		33人	29人	36人	46人	36人	36人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	15人	13人	13人	15人
	延べ人数	志願者数	199人	255人	183人	236人	235人	222人
		受験者数	199人	254人	183人	235人	234人	221人
		合格者数	116人	145人	153人	194人	200人	162人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	18人	4人
		辞退者数	5人	1人	0人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数	165人	203人	141人	178人	186人	175人
		受験者数	165人	202人	141人	177人	186人	174人
		合格者数	100人	119人	122人	147人	168人	131人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	18人	4人
		辞退者数	5人	1人	0人	1人	3人	2人
	入学者数		8人	5人	11人	19人	13人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	9人	5人	4人	2人	5人
		受験者数	3人	6人	4人	4人	1人	4人
		合格者数	1人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	9人	5人	4人	2人	5人
		受験者数	3人	6人	4人	4人	1人	4人
		合格者数	1人	2人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	0人	0人	0人	1人	0人
合計	募集人数		80人	80人	80人	80人	75人	79人
	延べ人数	志願者数	1339人	1397人	1115人	1142人	1145人	1228人
		受験者数	1221人	1277人	1014人	1047人	1047人	1121人
		合格者数	462人	586人	671人	721人	725人	633人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	45人	9人
		辞退者数	12人	16人	12人	14人	9人	13人
	実人数	志願者数	582人	648人	478人	510人	530人	550人
		受験者数	561人	629人	462人	493人	517人	532人
		合格者数	304人	375人	357人	390人	429人	371人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	44人	9人
		辞退者数	12人	16人	12人	14人	9人	13人
	入学者数		80人	67人	79人	87人	80人	79人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	80人	80人	80人	80人	75人	79人
入学定員充足率	1.00	0.84	0.99	1.09	1.07	1.00
歩留率	0.26	0.18	0.22	0.22	0.17	0.21

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４２

大学学部学科等名：近畿大学工学部電子情報工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	7人	8人	10人	10人	4人	8人
		受験者数	7人	8人	10人	9人	4人	8人
		合格者数	2人	4人	9人	7人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	7人	8人	10人	10人	4人	8人
		受験者数	7人	8人	10人	9人	4人	8人
		合格者数	2人	4人	9人	7人	3人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	2人	6人	7人	1人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		31人	31人	31人	31人	31人	31人
	延べ人数	志願者数	223人	249人	193人	234人	315人	243人
		受験者数	222人	249人	193人	231人	314人	242人
		合格者数	96人	104人	130人	145人	166人	128人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	4人	5人	6人	13人	7人
	実人数	志願者数	107人	116人	93人	121人	144人	116人
		受験者数	106人	116人	93人	119人	143人	115人
		合格者数	53人	58人	66人	88人	95人	72人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	5人	4人	5人	6人	13人	7人
	入学者数		27人	17人	26人	39人	32人	28人
一般選抜	募集人数		42人	42人	44人	46人	49人	45人
	延べ人数	志願者数	1134人	1208人	1048人	1272人	1023人	1137人
		受験者数	987人	1037人	916人	1138人	903人	996人
		合格者数	338人	473人	568人	509人	506人	479人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	64人	13人
		辞退者数	7人	18人	16人	11人	15人	13人
	実人数	志願者数	446人	481人	414人	466人	389人	439人
		受験者数	424人	458人	389人	441人	376人	418人
		合格者数	209人	287人	274人	260人	263人	259人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	59人	12人
		辞退者数	7人	18人	16人	11人	15人	13人
	入学者数		54人	47人	66人	54人	54人	55人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	15人	13人	15人	15人
	延べ人数	志願者数	312人	314人	285人	380人	285人	315人
		受験者数	312人	313人	285人	379人	285人	315人
		合格者数	159人	174人	243人	183人	245人	201人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	30人	6人
		辞退者数	4人	6人	3人	10人	7人	6人
	実人数	志願者数	237人	258人	225人	299人	224人	249人
		受験者数	237人	258人	225人	299人	224人	249人
		合格者数	123人	145人	190人	149人	194人	160人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	30人	6人
		辞退者数	4人	6人	3人	10人	7人	6人
	入学者数		8人	8人	17人	5人	13人	10人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	8人	4人	6人	1人	5人
		受験者数	3人	5人	2人	4人	1人	3人
		合格者数	1人	2人	1人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	4人	8人	4人	6人	1人	5人
		受験者数	3人	5人	2人	4人	1人	3人
		合格者数	1人	2人	1人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	2人	1人	0人	1人	1人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	95人	91人
	延べ人数	志願者数	1680人	1787人	1540人	1902人	1628人	1707人
		受験者数	1531人	1612人	1406人	1761人	1507人	1563人
		合格者数	596人	757人	951人	845人	921人	814人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	94人	19人
		辞退者数	16人	29人	24人	27人	35人	26人
	実人数	志願者数	801人	871人	746人	902人	762人	816人
		受験者数	777人	845人	719人	872人	748人	792人
		合格者数	388人	496人	540人	505人	556人	497人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	89人	18人
		辞退者数	16人	29人	24人	27人	35人	26人
	入学者数		92人	76人	116人	105人	101人	98人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	95人	91人
入学定員充足率	1.02	0.84	1.29	1.17	1.06	1.08
歩留率	0.24	0.15	0.21	0.21	0.16	0.19

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４３

大学学部学科等名：近畿大学工学部情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	8人	10人	14人	15人	11人	12人
		受験者数	8人	10人	13人	15人	9人	11人
		合格者数	3人	3人	9人	9人	5人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	8人	10人	14人	15人	11人	12人
		受験者数	8人	10人	13人	15人	9人	11人
		合格者数	3人	3人	9人	9人	5人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		3人	2人	8人	6人	4人	5人
学校推薦型選抜	募集人数		31人	31人	31人	31人	33人	31人
	延べ人数	志願者数	218人	293人	283人	449人	470人	343人
		受験者数	218人	293人	283人	446人	470人	342人
		合格者数	98人	122人	154人	187人	193人	151人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	9人	6人	12人	9人	9人
	実人数	志願者数	111人	148人	141人	211人	204人	163人
		受験者数	111人	148人	141人	209人	204人	163人
		合格者数	61人	72人	90人	109人	105人	87人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	7人	9人	6人	12人	9人	9人
	入学者数		34人	38人	52人	59人	51人	47人
一般選抜	募集人数		42人	42人	44人	46人	51人	45人
	延べ人数	志願者数	1193人	1328人	1129人	1487人	1115人	1250人
		受験者数	1050人	1198人	1007人	1369人	1002人	1125人
		合格者数	301人	385人	484人	283人	364人	363人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	41人	8人
		辞退者数	12人	14人	17人	6人	11人	12人
	実人数	志願者数	443人	507人	444人	515人	394人	461人
		受験者数	431人	489人	425人	490人	374人	442人
		合格者数	174人	242人	250人	171人	189人	205人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	41人	8人
		辞退者数	12人	14人	17人	6人	11人	12人
	入学者数		39人	45人	57人	25人	43人	42人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	15人	13人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	380人	417人	377人	429人	305人	382人
		受験者数	379人	415人	376人	426人	305人	380人
		合格者数	171人	184人	179人	113人	232人	176人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	38人	8人
		辞退者数	5人	7人	5人	4人	6人	5人
	実人数	志願者数	293人	334人	300人	333人	240人	300人
		受験者数	292人	333人	299人	332人	240人	299人
		合格者数	141人	148人	147人	98人	186人	144人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	38人	8人
		辞退者数	5人	7人	5人	4人	6人	5人
	入学者数		12人	8人	4人	2人	12人	8人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	5人	6人	1人	4人	1人	3人
		受験者数	4人	6人	1人	4人	1人	3人
		合格者数	1人	0人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	5人	6人	1人	4人	1人	3人
		受験者数	4人	6人	1人	4人	1人	3人
		合格者数	1人	0人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	0人	0人	1人	1人	1人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	100人	92人
	延べ人数	志願者数	1804人	2054人	1804人	2384人	1902人	1990人
		受験者数	1659人	1922人	1680人	2260人	1787人	1862人
		合格者数	574人	694人	826人	593人	795人	696人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	79人	16人
		辞退者数	24人	31人	28人	22人	27人	26人
	実人数	志願者数	860人	1005人	900人	1078人	850人	939人
		受験者数	846人	986人	879人	1050人	828人	918人
		合格者数	380人	465人	496人	388人	486人	443人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	79人	16人
		辞退者数	24人	31人	28人	22人	27人	26人
	入学者数		89人	93人	121人	93人	111人	101人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	100人	92人
入学定員充足率	0.99	1.03	1.34	1.03	1.11	1.10
歩留率	0.23	0.20	0.24	0.24	0.20	0.22

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４４

大学学部学科等名：近畿大学工学部建築学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	7人	8人	11人	9人	12人	9人
		受験者数	6人	8人	11人	9人	12人	9人
		合格者数	4人	5人	6人	7人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	7人	8人	11人	9人	12人	9人
		受験者数	6人	8人	11人	9人	12人	9人
		合格者数	4人	5人	6人	7人	9人	6人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		4人	5人	5人	7人	7人	6人
学校推薦型選抜	募集人数		33人	33人	33人	33人	33人	33人
	延べ人数	志願者数	254人	272人	205人	271人	256人	252人
		受験者数	254人	272人	205人	271人	252人	251人
		合格者数	99人	99人	131人	138人	140人	121人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	8人	12人	9人	12人	10人
	実人数	志願者数	125人	141人	112人	138人	124人	128人
		受験者数	125人	141人	112人	138人	122人	128人
		合格者数	63人	64人	82人	80人	81人	74人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	8人	8人	12人	9人	12人	10人
	入学者数		39人	39人	49人	46人	39人	42人
一般選抜	募集人数		47人	47人	49人	51人	51人	49人
	延べ人数	志願者数	1265人	928人	992人	1166人	1008人	1072人
		受験者数	1168人	889人	904人	1075人	927人	993人
		合格者数	314人	305人	429人	339人	358人	349人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	47人	9人
		辞退者数	12人	14人	11人	11人	5人	11人
	実人数	志願者数	460人	372人	366人	371人	332人	380人
		受験者数	450人	364人	356人	364人	320人	371人
		合格者数	184人	181人	216人	173人	189人	189人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	46人	9人
		辞退者数	12人	14人	11人	11人	5人	11人
	入学者数		44人	48人	50人	40人	50人	46人
共通テスト利用入試	募集人数		20人	20人	18人	16人	16人	18人
	延べ人数	志願者数	344人	379人	323人	337人	256人	328人
		受験者数	341人	372人	323人	334人	253人	325人
		合格者数	139人	192人	151人	114人	200人	159人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	33人	7人
		辞退者数	1人	3人	7人	3人	8人	4人
	実人数	志願者数	263人	294人	248人	243人	199人	249人
		受験者数	263人	289人	248人	240人	199人	248人
		合格者数	121人	158人	122人	91人	158人	130人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	33人	7人
		辞退者数	1人	3人	7人	3人	8人	4人
	入学者数		6人	7人	8人	2人	11人	7人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	3人	5人	1人	2人	2人	3人
		受験者数	3人	4人	1人	2人	1人	2人
		合格者数	1人	3人	0人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	3人	5人	1人	2人	2人	3人
		受験者数	3人	4人	1人	2人	1人	2人
		合格者数	1人	3人	0人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	2人	0人	0人	0人	1人
合計	募集人数		100人	100人	100人	100人	100人	100人
	延べ人数	志願者数	1873人	1592人	1532人	1785人	1534人	1663人
		受験者数	1772人	1545人	1444人	1691人	1445人	1579人
		合格者数	557人	604人	717人	598人	707人	637人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	80人	16人
		辞退者数	21人	25人	30人	23人	26人	25人
	実人数	志願者数	858人	820人	738人	763人	669人	770人
		受験者数	847人	806人	728人	753人	654人	758人
		合格者数	373人	411人	426人	351人	437人	400人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	79人	16人
		辞退者数	21人	25人	30人	23人	26人	25人
	入学者数		94人	101人	112人	95人	107人	102人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	100人	100人	100人	100人	100人	100人
入学定員充足率	0.94	1.01	1.12	0.95	1.07	1.02
歩留率	0.25	0.25	0.26	0.27	0.21	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４５

大学学部学科等名：近畿大学産業理工学部生物環境化学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	10人	8人	4人	1人	6人	6人
		受験者数	10人	8人	4人	1人	6人	6人
		合格者数	5人	3人	4人	1人	6人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	10人	8人	4人	1人	6人	6人
		受験者数	10人	8人	4人	1人	6人	6人
		合格者数	5人	3人	4人	1人	6人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		5人	3人	3人	0人	4人	3人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	25人	25人	25人	20人	24人
	延べ人数	志願者数	80人	63人	85人	65人	79人	74人
		受験者数	76人	63人	80人	65人	79人	73人
		合格者数	39人	42人	48人	50人	54人	47人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	5人	2人	3人	4人	3人
	実人数	志願者数	47人	36人	44人	35人	42人	41人
		受験者数	46人	36人	42人	35人	42人	40人
		合格者数	32人	28人	31人	30人	35人	31人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	5人	2人	3人	4人	3人
	入学者数		28人	15人	21人	19人	25人	22人
一般選抜	募集人数		30人	30人	31人	31人	29人	30人
	延べ人数	志願者数	465人	633人	444人	709人	412人	533人
		受験者数	415人	553人	378人	619人	346人	462人
		合格者数	169人	269人	274人	301人	223人	247人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	5人	3人	5人	6人	7人	5人
	実人数	志願者数	198人	231人	178人	241人	145人	199人
		受験者数	194人	220人	168人	230人	137人	190人
		合格者数	99人	149人	140人	142人	108人	128人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
		辞退者数	5人	3人	5人	6人	7人	5人
	入学者数		21人	42人	38人	51人	33人	37人
共通テスト利用入試	募集人数		20人	20人	19人	19人	16人	19人
	延べ人数	志願者数	212人	216人	138人	209人	98人	175人
		受験者数	210人	215人	137人	208人	98人	174人
		合格者数	154人	192人	129人	127人	85人	137人
		うち追加合格者数	0人	0人	24人	0人	0人	5人
		辞退者数	8人	3人	1人	1人	1人	3人
	実人数	志願者数	201人	198人	135人	194人	96人	165人
		受験者数	200人	197人	134人	193人	96人	164人
		合格者数	148人	177人	127人	119人	85人	131人
		うち追加合格者数	0人	0人	8人	0人	0人	2人
		辞退者数	8人	3人	1人	1人	1人	3人
	入学者数		20人	13人	6人	6人	11人	11人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	5人	5人	1人	1人	2人	3人
		受験者数	4人	5人	1人	1人	2人	3人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	5人	5人	1人	1人	2人	3人
		受験者数	4人	5人	1人	1人	2人	3人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		0人	1人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		75人	75人	75人	75人	65人	73人
	延べ人数	志願者数	772人	925人	672人	985人	597人	790人
		受験者数	715人	844人	600人	894人	531人	717人
		合格者数	367人	507人	455人	479人	369人	435人
		うち追加合格者数	0人	0人	24人	0人	1人	5人
		辞退者数	14人	11人	8人	11人	13人	11人
	実人数	志願者数	461人	478人	362人	472人	291人	413人
		受験者数	454人	466人	349人	460人	283人	402人
		合格者数	284人	358人	302人	292人	235人	294人
		うち追加合格者数	0人	0人	8人	0人	1人	2人
		辞退者数	14人	11人	8人	11人	13人	11人
	入学者数		74人	74人	68人	76人	73人	73人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	75人	75人	75人	75人	65人	73人
入学定員充足率	0.99	0.99	0.91	1.01	1.12	1.00
歩留率	0.26	0.21	0.22	0.26	0.31	0.25

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４６

大学学部学科等名：近畿大学産業理工学部電気電子工学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	15人	4人	0人	3人	4人	5人
		受験者数	15人	4人	0人	3人	4人	5人
		合格者数	10人	1人	0人	3人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	15人	4人	0人	3人	4人	5人
		受験者数	15人	4人	0人	3人	4人	5人
		合格者数	10人	1人	0人	3人	4人	4人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	0人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		8人	1人	0人	1人	3人	3人
学校推薦型選抜	募集人数		20人	20人	20人	20人	20人	20人
	延べ人数	志願者数	74人	96人	100人	97人	87人	91人
		受験者数	72人	85人	92人	91人	77人	83人
		合格者数	42人	61人	75人	61人	56人	59人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	5人	0人	1人	1人
	実人数	志願者数	47人	48人	45人	40人	44人	45人
		受験者数	46人	43人	43人	37人	41人	42人
		合格者数	32人	36人	37人	30人	35人	34人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	5人	0人	1人	1人
	入学者数		26人	19人	15人	16人	20人	19人
一般選抜	募集人数		28人	28人	29人	29人	29人	29人
	延べ人数	志願者数	663人	611人	473人	695人	426人	574人
		受験者数	614人	561人	405人	633人	369人	516人
		合格者数	150人	233人	256人	276人	241人	231人
		うち追加合格者数	14人	0人	0人	0人	20人	7人
		辞退者数	2人	2人	2人	3人	2人	2人
	実人数	志願者数	243人	217人	166人	243人	147人	203人
		受験者数	230人	210人	154人	234人	137人	193人
		合格者数	86人	126人	120人	120人	107人	112人
		うち追加合格者数	10人	0人	0人	0人	20人	6人
		辞退者数	2人	2人	2人	3人	2人	2人
	入学者数		21人	18人	34人	29人	33人	27人
共通テスト利用入試	募集人数		17人	17人	16人	16人	16人	16人
	延べ人数	志願者数	194人	231人	147人	249人	144人	193人
		受験者数	194人	231人	147人	249人	144人	193人
		合格者数	148人	195人	143人	164人	117人	153人
		うち追加合格者数	0人	0人	21人	14人	0人	7人
		辞退者数	3人	1人	0人	1人	2人	1人
	実人数	志願者数	181人	208人	139人	231人	134人	179人
		受験者数	181人	208人	139人	231人	134人	179人
		合格者数	140人	175人	136人	156人	113人	144人
		うち追加合格者数	0人	0人	7人	14人	0人	4人
		辞退者数	3人	1人	0人	1人	2人	1人
	入学者数		26人	17人	12人	22人	16人	19人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	12人	4人	3人	0人	1人	4人
		受験者数	10人	4人	3人	0人	1人	4人
		合格者数	3人	1人	0人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	12人	4人	3人	0人	1人	4人
		受験者数	10人	4人	3人	0人	1人	4人
		合格者数	3人	1人	0人	0人	0人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		1人	1人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		65人	65人	65人	65人	65人	65人
	延べ人数	志願者数	958人	946人	723人	1044人	662人	867人
		受験者数	905人	885人	647人	976人	595人	802人
		合格者数	353人	491人	474人	504人	418人	448人
		うち追加合格者数	14人	0人	21人	14人	20人	14人
		辞退者数	6人	4人	7人	4人	6人	5人
	実人数	志願者数	498人	481人	353人	517人	330人	436人
		受験者数	482人	469人	339人	505人	317人	422人
		合格者数	271人	339人	293人	309人	259人	294人
		うち追加合格者数	10人	0人	7人	14人	20人	10人
		辞退者数	6人	4人	7人	4人	6人	5人
	入学者数		82人	56人	61人	68人	72人	68人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	65人	65人	65人	65人	65人	65人
入学定員充足率	1.26	0.86	0.94	1.05	1.11	1.04
歩留率	0.29	0.17	0.20	0.21	0.26	0.23

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４７

大学学部学科等名：近畿大学産業理工学部建築・デザイン学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	24人	7人	4人	12人	9人	11人
		受験者数	22人	7人	4人	12人	9人	11人
		合格者数	6人	2人	4人	6人	6人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	実人数	志願者数	24人	7人	4人	12人	9人	11人
		受験者数	22人	7人	4人	12人	9人	11人
		合格者数	6人	2人	4人	6人	6人	5人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	1人	0人	0人
	入学者数		6人	2人	3人	5人	5人	4人
学校推薦型選抜	募集人数		30人	30人	30人	30人	35人	31人
	延べ人数	志願者数	162人	153人	195人	162人	111人	157人
		受験者数	158人	149人	167人	160人	101人	147人
		合格者数	64人	74人	79人	82人	53人	70人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	2人	1人	3人	2人
	実人数	志願者数	90人	76人	84人	86人	54人	78人
		受験者数	88人	74人	77人	85人	52人	75人
		合格者数	55人	50人	53人	55人	37人	50人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	2人	2人	1人	3人	2人
	入学者数		53人	43人	39人	49人	24人	42人
一般選抜	募集人数		36人	36人	37人	37人	37人	37人
	延べ人数	志願者数	937人	982人	803人	867人	715人	861人
		受験者数	882人	932人	740人	785人	636人	795人
		合格者数	131人	259人	307人	171人	362人	246人
		うち追加合格者数	0人	0人	34人	0人	29人	13人
		辞退者数	3人	1人	2人	6人	4人	3人
	実人数	志願者数	309人	323人	264人	308人	222人	285人
		受験者数	300人	312人	253人	295人	212人	274人
		合格者数	72人	132人	154人	96人	157人	122人
		うち追加合格者数	0人	0人	8人	0人	26人	7人
		辞退者数	3人	1人	2人	6人	4人	3人
	入学者数		17人	35人	45人	19人	47人	33人
共通テスト利用入試	募集人数		24人	24人	23人	23人	23人	23人
	延べ人数	志願者数	195人	228人	191人	219人	139人	194人
		受験者数	195人	227人	191人	219人	139人	194人
		合格者数	73人	162人	122人	122人	117人	119人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	15人	12人	5人
		辞退者数	2人	0人	4人	3人	3人	2人
	実人数	志願者数	174人	208人	173人	197人	125人	175人
		受験者数	174人	207人	173人	197人	125人	175人
		合格者数	69人	151人	112人	117人	111人	112人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	15人	12人	5人
		辞退者数	2人	0人	4人	3人	3人	2人
	入学者数		7人	17人	11人	21人	8人	13人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	1人	7人	0人	0人	0人	2人
		受験者数	1人	7人	0人	0人	0人	2人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	1人	7人	0人	0人	0人	2人
		受験者数	1人	7人	0人	0人	0人	2人
		合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		90人	90人	90人	90人	95人	91人
	延べ人数	志願者数	1319人	1377人	1193人	1260人	974人	1225人
		受験者数	1258人	1322人	1102人	1176人	885人	1149人
		合格者数	274人	497人	512人	381人	538人	440人
		うち追加合格者数	0人	0人	34人	15人	41人	18人
		辞退者数	5人	3人	8人	11人	10人	7人
	実人数	志願者数	598人	621人	525人	603人	410人	551人
		受験者数	585人	607人	507人	589人	398人	537人
		合格者数	202人	335人	323人	274人	311人	289人
		うち追加合格者数	0人	0人	8人	15人	38人	12人
		辞退者数	5人	3人	8人	11人	10人	7人
	入学者数		83人	97人	98人	94人	84人	91人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	90人	90人	90人	90人	95人	91人
入学定員充足率	0.92	1.08	1.09	1.04	0.88	1.00
歩留率	0.41	0.29	0.30	0.33	0.24	0.31

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４８

大学学部学科等名：近畿大学産業理工学部情報学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	4人	4人	1人	4人	4人	3人
		受験者数	4人	4人	0人	4人	4人	3人
		合格者数	2人	0人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	4人	4人	1人	4人	4人	3人
		受験者数	4人	4人	0人	4人	4人	3人
		合格者数	2人	0人	0人	1人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		2人	0人	0人	1人	1人	1人
学校推薦型選抜	募集人数		25人	25人	25人	25人	25人	25人
	延べ人数	志願者数	123人	132人	159人	144人	152人	142人
		受験者数	122人	115人	155人	139人	144人	135人
		合格者数	59人	63人	87人	82人	74人	73人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	4人	3人	3人	3人
	実　人　数	志願者数	71人	66人	76人	64人	81人	72人
		受験者数	70人	59人	75人	61人	78人	69人
		合格者数	48人	39人	52人	43人	50人	46人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	1人	3人	4人	3人	3人	3人
	入学者数		38人	27人	29人	29人	35人	32人
一般選抜	募集人数		27人	27人	28人	28人	30人	28人
	延べ人数	志願者数	834人	656人	671人	805人	650人	723人
		受験者数	764人	614人	616人	708人	552人	651人
		合格者数	96人	176人	228人	183人	128人	162人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	3人	4人	1人	4人	0人	2人
	実　人　数	志願者数	289人	231人	216人	274人	193人	241人
		受験者数	277人	223人	210人	262人	181人	231人
		合格者数	63人	110人	117人	94人	74人	92人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	3人	4人	1人	4人	0人	2人
	入学者数		19人	33人	43人	39人	36人	34人
共通テスト利用入試	募集人数		18人	18人	17人	17人	20人	18人
	延べ人数	志願者数	244人	279人	197人	258人	189人	233人
		受験者数	244人	279人	197人	258人	189人	233人
		合格者数	137人	142人	104人	111人	79人	115人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	3人	3人	2人	0人	2人
	実　人　数	志願者数	225人	259人	179人	233人	172人	214人
		受験者数	225人	259人	179人	233人	172人	214人
		合格者数	128人	140人	97人	105人	77人	109人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	4人	3人	3人	2人	0人	2人
	入学者数		19人	18人	13人	21人	8人	16人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	0人	4人	1人	3人	0人	2人
		受験者数	0人	4人	1人	3人	0人	2人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実　人　数	志願者数	0人	4人	1人	3人	0人	2人
		受験者数	0人	4人	1人	3人	0人	2人
		合格者数	0人	1人	0人	0人	0人	0人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
合計	募集人数		70人	70人	70人	70人	75人	71人
	延べ人数	志願者数	1205人	1075人	1029人	1214人	995人	1104人
		受験者数	1134人	1016人	969人	1112人	889人	1024人
		合格者数	294人	382人	419人	377人	282人	351人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	8人	10人	8人	9人	3人	8人
	実　人　数	志願者数	589人	564人	473人	578人	450人	531人
		受験者数	576人	549人	465人	563人	435人	518人
		合格者数	241人	290人	266人	243人	202人	248人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	3人	1人
		辞退者数	8人	10人	8人	9人	3人	8人
	入学者数		78人	78人	85人	90人	80人	82人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	70人	70人	70人	70人	75人	71人
入学定員充足率	1.11	1.11	1.21	1.29	1.07	1.16
歩留率	0.32	0.27	0.32	0.37	0.39	0.33

（備考）

既設学科等の入学定員の充足状況（直近５年間）　　別紙１－４９

大学学部学科等名：近畿大学産業理工学部経営ビジネス学科

（大学の学科、短大の専攻課程、高専の学科ごとに作成。大学院は作成不要。）

１．各選抜方法の状況

			H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
総合型選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	9人	4人	4人	2人	7人	5人
		受験者数	8人	3人	4人	2人	7人	5人
		合格者数	3人	2人	1人	2人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	実人数	志願者数	9人	4人	4人	2人	7人	5人
		受験者数	8人	3人	4人	2人	7人	5人
		合格者数	3人	2人	1人	2人	5人	3人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	1人	0人	0人	1人	0人
	入学者数		2人	1人	1人	2人	3人	2人
学校推薦型選抜	募集人数		55人	55人	55人	55人	55人	55人
	延べ人数	志願者数	156人	137人	184人	173人	145人	159人
		受験者数	151人	133人	179人	172人	144人	156人
		合格者数	98人	109人	138人	122人	103人	114人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	3人	0人	2人	2人	1人
	実人数	志願者数	111人	85人	107人	106人	99人	102人
		受験者数	107人	83人	104人	105人	98人	99人
		合格者数	89人	75人	97人	92人	81人	87人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	3人	0人	2人	2人	1人
	入学者数		81人	58人	73人	76人	61人	70人
一般選抜	募集人数		37人	37人	38人	38人	38人	38人
	延べ人数	志願者数	657人	804人	745人	743人	621人	714人
		受験者数	626人	739人	674人	641人	544人	645人
		合格者数	130人	315人	300人	246人	339人	266人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	35人	7人
		辞退者数	0人	5人	5人	4人	4人	4人
	実人数	志願者数	228人	280人	260人	251人	203人	244人
		受験者数	223人	267人	254人	241人	193人	236人
		合格者数	66人	157人	163人	121人	154人	132人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	35人	7人
		辞退者数	0人	5人	5人	4人	4人	4人
	入学者数		16人	44人	45人	20人	38人	33人
共通テスト利用入試	募集人数		28人	28人	27人	27人	27人	27人
	延べ人数	志願者数	170人	199人	153人	171人	123人	163人
		受験者数	169人	199人	153人	171人	123人	163人
		合格者数	91人	171人	111人	104人	100人	115人
		うち追加合格者数	0人	0人	9人	0人	0人	2人
		辞退者数	3人	1人	1人	2人	2人	2人
	実人数	志願者数	158人	182人	142人	156人	115人	151人
		受験者数	157人	182人	142人	156人	115人	150人
		合格者数	88人	157人	105人	96人	96人	108人
		うち追加合格者数	0人	0人	5人	0人	0人	1人
		辞退者数	3人	1人	1人	2人	2人	2人
	入学者数		16人	24人	8人	9人	12人	14人
その他の特別選抜	募集人数		0人	0人	0人	0人	0人	0人
	延べ人数	志願者数	15人	6人	2人	0人	4人	5人
		受験者数	11人	6人	2人	0人	4人	5人
		合格者数	5人	0人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	実人数	志願者数	15人	6人	2人	0人	4人	5人
		受験者数	11人	6人	2人	0人	4人	5人
		合格者数	5人	0人	0人	0人	1人	1人
		うち追加合格者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
		辞退者数	0人	0人	0人	0人	0人	0人
	入学者数		4人	0人	0人	0人	0人	1人
合計	募集人数		120人	120人	120人	120人	120人	120人
	延べ人数	志願者数	1007人	1150人	1088人	1089人	900人	1047人
		受験者数	965人	1080人	1012人	986人	822人	973人
		合格者数	327人	597人	550人	474人	548人	499人
		うち追加合格者数	0人	0人	9人	0人	35人	9人
		辞退者数	3人	10人	6人	8人	9人	7人
	実人数	志願者数	521人	557人	515人	515人	428人	507人
		受験者数	506人	541人	506人	504人	417人	495人
		合格者数	251人	391人	366人	311人	337人	331人
		うち追加合格者数	0人	0人	5人	0人	35人	8人
		辞退者数	3人	10人	6人	8人	9人	7人
	入学者数		119人	127人	127人	107人	114人	119人

３．入学定員充足率

	H31年度入試	R２年度入試	R３年度入試	R４年度入試	R５年度入試	平　均
入学定員	120人	120人	120人	120人	120人	120人
入学定員充足率	0.99	1.06	1.06	0.89	0.95	0.99
歩留率	0.47	0.32	0.34	0.34	0.31	0.36

（備考）

別記様式第３号（その１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
—	学長	ﾎｿｲ　ﾖｼﾋｺ 細井　美彦 ＜平成30年4月＞		博士 （農学）		近畿大学　学長 （平成30年4月～令和6年3月）

（注）　高等専門学校にあっては校長について記入すること。